



歴代大管長の教え

ジョセフ・スミス





歴代大管長の教え

ジョセフ・スミス

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

本書に関するご意見，ご提案をお寄せください。あて先は以下のとおりです。
Curriculum Planning, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City,
UT 84150-3220 USA

電子メール—— cur-development@ldschurch.org

お名前，ご住所，所属ステーク名，ワード名を明記してください。また本書の
題名も忘れずにお書きください。本書の良い点，改善できると思われる分野に
ついてのご意見やご提案をお書きください。

© 2007 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語承認：2000年8月

翻訳承認：2000年8月

原題：*Teachings of Presidents of the Church: Joseph Smith*
Japanese



目次

タイトル	ページ
序	vii
経歴のまとめ	xiv
ジョセフ・スミスの生涯と教導の業	1
1 最初の示現—— 御父と御子がジョセフ・スミスに御自身を現される	27
2 永遠の父なる神	37
3 イエス・キリスト、世の聖なる贖い主 ^{あがな}	45
4 モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石	57
5 悔い改め	69
6 バプテスマのヨハネの使命	79
7 バプテスマと聖霊 ^{たまもの} の賜物	89
8 永遠の神権	101
9 御霊 ^{みたま たまもの} の賜物	115
10 祈りと個人の啓示	125
11 まことの生ける教会の組織と行く末	135
12 喜びのおとずれを全世界の人々に宣言する	149
13 従順——「主が命じられるなら、行いなさい」	159
14 死に際して与える希望と慰め ^{なぐさ} の言葉	171
15 シオンの大義を確立する	183
16 啓示と生ける預言者	193
17 偉大な救いの計画	207
18 幕のかなた——永遠の世における生活	217
19 人生の嵐 ^{あらし} の中でしっかりと立つ	227
20 愛と信仰に満ちた心—— 預言者が家族にあてて書いた手紙	239
21 再臨と福千年	249
22 永遠の真理についての知識を得る	261

23 「和合して共におるのは いかに麗しく楽しいことであろう」	271
24 主の方法で導く	281
25 マタイ第13章の救い主のたとえの真理	293
26 エリヤと結び固めの鍵 <small>かぎ</small> の回復	307
27 背教の苦い実に警戒する	315
28 伝道の務め——聖なる召し、栄えある業	327
29 人々と平和に、協調性をもって生活する	339
30 キリストの大義を雄々しく果たす	349
31 「とこしえにいつまでも、神はあなたとともにおられる。」—— リバティーの監獄での預言者	359
32 信仰と勇気をもって迫害に立ち向かう	369
33 癒し <small>いや</small> 、異言、預言、霊の識別の霊的な賜物 <small>たまもの</small>	379
34 救し <small>ゆる</small> の力	391
35 死者 <small>あがな</small> の贖い	401
36 神殿の儀式と祝福を受ける	413
37 慈愛、キリストの純粹な愛	423
38 ウェントワース書簡	435
39 扶助協会——神から与えられた女性の組織	449
40 忠実で正しい真の友を持つことは何と喜ばしいことでしょう	459
41 シオンの山において救う者となる	469
42 家族—— この世と永遠におけるこの上なくすばらしい結びつき	479
43 「彼は神の預言者でした」——ジョセフ・スミスと 同時代を生きた人々による、ジョセフの預言者として の使命 <small>あかし</small> についての証	493
44 万物の回復——時満ちる神権時代	507
45 預言者としての使命に対するジョセフ・スミスの思い	517
46 殉教 <small>じゅんきょう</small> ——預言者、自らの血をもって証 <small>あかし</small> を結び固める	529
47 「たたえよ主の召したまいし」——預言者ジョセフ・スミスに ついで <small>あかし</small> の末日の預言者たちの証	541

付録——本書で引用されている資料	558
絵画・写真リスト	564
索引	567



Joseph Smith, Jr.

「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。……彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。」
(教義と聖約135：3)



序

大管長会ならびに十二使徒定員会は、教会員が末日の大管長たちの教えを通して回復された福音への理解を深め、主にさらに近づけるように、『歴代大管長の教え』シリーズを作成した。本シリーズに新たな書籍が追加されるにつれ、家庭に福音の参考図書のコレクションを増やしていくことができるであろう。本シリーズの書籍は、個人学習と、定員会やクラスでのレッスンの両方における使用を目的として作成されている。

本書では、この末日に時満ちる神権時代を開くように神から召された預言者ジョセフ・スミスの教えを採り上げている。1820年の春に御父と御子の示現を受けてから1844年6月に殉教するまでの間に、ジョセフ・スミスは末日聖徒イエス・キリスト教会を設立し、決して再び地上から取り去られることのない完全な福音をもたらした。

個人学習

預言者ジョセフ・スミスの教えを研究しながら、御^{みなま}霊の導きを求める。ニーファイによる次の約束を覚えておく。「熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖霊の力によって……その人々に明らかにされる。」(1ニーファイ10：19) 祈りによって研究を始め、読んでいる間も絶えず心の中で祈り、深く考え続けるようにする。

各章の最後には、ジョセフ・スミスの教えを理解して応用するうえで助けとなる質問と参照聖句が載っている。章を読む前に目を通しておくとよい。

また、以下の提案に従うとよい。

- 重要な語句を探す。意味の分からない語句が出てきたら、辞書やその他の資料を利用して、その意味について理解を深める。語句について学んだことを覚えておけるように、余白にメモを書き込む。
- ジョセフ・スミスの教えの意味について考える。特定の福音の原則について教えている箇所、あるいは印象に残った語句や文章に印を付けたり、自分の思いや気持ちを余白に書き込んだりするとよい。
- 預言者ジョセフ・スミスの教えに関連した自分の経験について熟考

する。

- ジョセフ・スミスの教えが自分にどのように当てはまるかを深く考える。それらの教えが、自分が持っている懸念や疑問にどのように関連しているかについて考える。学んだことを実践するために何を行うか決める。

本書から教える

本書は家庭または教会で教える際に利用することができる。以下の提案を参考にするとよい。

ジョセフ・スミスの言葉と聖句に焦点を当てる

主は「預言者たちや使徒たちが書き記したことと、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは何も」教えてはならないと命じられた（教義と聖約52：9）。主はまた、「この教会の長老と祭司と教師は、『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない」と宣言された（教義と聖約42：12）。

教師の務めは、預言者ジョセフ・スミスの教えと聖文を人々が理解するのを助けることである。本書をわきに置いて別の資料からレッスンを準備してはならない。レッスンの多くの部分を、本書にあるジョセフ・スミスの教えを読み、その意味と応用について話し合う時間に充てるようにする。

参加者がクラスでの話し合いに参加するためのより良い備えができるように、本書を教会に持って来るように勧める。

聖霊の導きを求める

助けを求めて祈り、熱心に準備するとき、聖霊はあなたの努力に報いて導いてくださる。また聖霊は、各章の中で、福音を理解し応用するよう人々を促す箇所にあなたが焦点を当てられるよう、助けてくださる。

教えるときには、あなたの語る言葉とクラスの話し合いに御霊^{みたま}の力がともにあるように心の中で祈る。ニーファイは、「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える」と語っている（2ニーファイ33：1。教義と聖約50：13-22も参照）。

教える準備をする

本書の各章は、教師が教える準備をしやすいように構成されている。各章にある「ジョセフ・スミスの生涯から」の項には、ジョセフ・スミスの生涯と初期の教会歴史について、レッスンを始める際や教える中で利用できる情報が提供されている。「ジョセフ・スミスの教え」の項は、幾つかの小さな項目に分けられており、それぞれに章の中で要点をまとめた見出しが付いている。これらの見出しは、教える内容の概要として利用することができる。最後の項である「研究とレッスンのための提案」には、預言者の教えに関連のある質問や聖句が載っている。

以下の事柄を行うとき、より効果的に教えることができるであろう。

1. **教える章を研究する。**該当する章を読み、その章で採り上げられているジョセフ・スミスの教えに対してよく理解できているという自信を持てるようにする。あなた自身がジョセフの言葉から影響を受けるとき、あなたはよりいっそう心から、力強く教えることになるであろう（教義と聖約11：21参照）。読むときには、自分が教える人々の必要を心に留める。章の中で彼らに役立つと感じる教義や原則に印を付けるとよい。
2. **採り上げる箇所を決める。**各章には1回のレッスンでは教え切れない量の内容が含まれている。章の内容をすべて採り上げようとせず、自分が教える人々にとって最も役立つと感じる教義や原則を、祈りをもって選ぶ。例えば、一つか二つの項目と、選んだ箇所に含まれている原則について話し合うのに役立つと思われる質問に焦点を当てることができる。
3. **レッスンの導入方法を決める。**レッスンを始めるに当たって参加者の興味を引くために、あなた自身の経験を紹介したり、または、参加者に章の冒頭にある物語を読んでもらったり、章に掲載されている写真や絵を見せたりするとよい。次に「この物語（または写真や絵）はこの章のおもなテーマについてどのようなことを教えているのでしょうか」と尋ねることができる。また、レッスンの始めに聖句や章の中にある言葉を読んだり、賛美歌を歌ったりすることもできる。参加者にレッスンの要点を知らせるのも役立つ。さらに、以前にレッスンで話し合った出来事、人物、原則、あるいは教義を振り返るように言うことで、以前のレッスンで本書から学んだ事柄を思

い起こさせるのもよい。

4. **話し合いを促す方法を決める。** レッスン時間の大半を話し合いに充てるようにする。なぜなら参加者が教義や原則を最もよく学ぶのは、それらについての話し合いに参加するときだからである。本書xi-xiiページにある、人々を教化する話し合いを行うための提案を読む。章の最後の「研究とレッスンのための提案」にある質問を利用するとよい。また、以下の提案を利用しながら自分自身で質問を準備してもよい。

- 参加者が事実や出来事、教義、原則を探すのに役立つ質問をする。これらの質問は、あなたが強調したいと望む特定の真理に参加者の注意を向け、預言者ジョセフ・スミスの教えに含まれている特定の情報に精通できるように参加者を助ける。例として、ある言葉を引用した後で、「この言葉の中で重要な語句として挙げられるものはどれでしょうか」または「この言葉のテーマは何でしょうか」と尋ねることができる。
- ジョセフ・スミスが教えた教義や原則について参加者が考えるのに役立つ質問をする。これらの質問は、ジョセフ・スミスの教えに対する自分の思いや気持ちを顧みて分かち合うように参加者を促す。例——「この教えが重要なのはなぜだと思いますか。」「この言葉についてどのように思いますか、あるいはどのように感じますか。」「この教えはあなたにとってどのような意味があるのでしょうか。」
- 預言者ジョセフ・スミスの教えから学んだことを自分自身の思い、気持ち、および経験と照らし合わせるように促す質問をする。例として、「預言者ジョセフ・スミスが語ったことに関連する経験がありますか。」
- 教えられていることを自分自身の生活に応用するように促す質問をする。これらの質問は、参加者がジョセフ・スミスの教えに従って生活する方法について考えるのを助ける。例として、「ジョセフ・スミスはわたしたちに何を行うように勧めていますか。わたしたちはジョセフが語ったことをどのような方法で応用することができるのでしょうか。」参加者は、レッスン中に教師やほかの参加者の語ることからだけでなく、直接自分たちに与えられる啓示からも学ぶであろう。そのことを参加者に思い起こさせる（教義と聖約121：26参照）。

5. **レッスンを終える方法を決める。**あなたがレッスンを簡単に要約するか、または1, 2名の参加者に要約してもらってもよい。御霊の促しに従って、話し合ってきた教えについて証する。ほかの人に自分の証を述べるように勧めてもよい。聖霊から受けた促しに従うよう参加者に勧める。

教える準備をする際に、『教師、その大いなる召し』（36123 300）の単元B、第14, 16, 28, 29章、または『教師ガイドブック』（34595 300）からアイデアを探してもよい。

人々を教化する話し合いを行う

以下の提案は、人々を教化する話し合いを促し、進めていくうえで役立つであろう。

- 聖霊の導きを求める。聖霊はあなたに、特定の質問を尋ねるように、あるいは特定の人たちを話し合いに参加させるように導きを与えてくださるであろう。
- 参加者がジョセフ・スミスの教えに注意を向けるように助ける。話し合いを行うときや質問に答えるときに、ジョセフの言葉を読ませるようにする。話し合いが話題からそれ始めたときや、推測に基づく話や論争になったときには、章で述べられている出来事や教義、原則に再び言及することによって話の方向を修正する。
- 適切であれば、章で採り上げられている教えに関連した経験を話す。
- 参加者に自分の考えを話し、質問を尋ね、互いに教え合うように勧める（教義と聖約88：122参照）。例として、ほかの人の発言について意見を求めたり、一つの質問を数名の参加者に尋ねたりすることができる。
- 質問を尋ねた後の沈黙を恐れない。参加者は考えや証、経験を話す前に、考えたりテキストを見たりする時間を必要とする場合が多い。
- 皆の意見に心から耳を傾け、理解しようと努める。彼らの参加に対して感謝を述べる。
- 参加者から複数の意見が出るときには、黒板に書き出すか、だれかに依頼して書き出してもらおうとよい。
- 参加者が話し合いに加わるための様々な方法を探す。例として、質問について、小さなグループで、または隣の人と話し合わせる事ができる。
- 事前に1, 2名の参加者に連絡することを検討する。教師が用意した

質問に答える準備をレッスンまでにしておくように依頼する。

- 賛美歌，特に回復の賛美歌を用いて，福音の真理についての話し合いをいっそう活発なものとする。また，賛美歌を歌うことはレッスンの導入または結びの方法としても効果的である。
- 準備してきた内容をすべて教えたいという理由だけで，有意義な話し合いを終わらせることのないようにする。最も重要なのは，参加者が御霊の影響力を感じ，福音に従って生活する決意を強めることである。

わたしたちの時代のための教え

本書では，預言者ジョセフ・スミスの教えの中でわたしたちの時代に当てはまるものを採り上げている。例えば，財産の管理に適用された奉獻の律法に関する預言者の教えといった主題は採り上げていない。この律法は，聖徒に守る備えができていなかったために主によって教会から取り下げられた（教義と聖約119章の前書き参照）。また，本書では多妻結婚についても採り上げていない。多妻結婚に関する教義と原則は，1831年にはすでにジョセフ・スミスに明らかにされていた。預言者ジョセフ・スミスは多妻結婚の教義を教え，生涯の間にそのような結婚が数多く執り行われた。続く数十年間，ジョセフ・スミスの跡を継いだ大管長たちの指示の下で，かなりの人数の教会員が多妻結婚を行っている。しかし1890年，ウィルフォード・ウッドラフ大管長によって宣言が発せられ，教会における多妻結婚は中止された（公式の宣言1参照）。末日聖徒イエス・キリスト教会は，もう多妻結婚を実施してはいない。

本書で引用されている資料に関する情報

本書で紹介されている預言者ジョセフ・スミスの教えは，以下に挙げるような数種類の資料から取ったものである。すなわち，預言者ジョセフ・スミスの説教，預言者ジョセフによって，あるいはその指示の下で出版用に準備された記事，彼の手紙や日記，彼が語るのを聞いた人々が残した記録，および後に聖文に含められた預言者ジョセフ・スミスの教えや書き物の一部。ジョセフ・スミスの教えの多くは『教会歴史』（*History of the Church*）から引用している。これらの資料について，詳しくは付録を参照する。

本書には未刊の資料が数多く引用されている。読みやすさの向上を

図るため、必要なところでは語のつづり、句読点、大文字の使用、および文法が標準的なものに修正されている。また、段落分けも、読みやすさの向上のために挿入や変更が加えられている。既刊の資料から引用している箇所については、特に注記のないかぎり、変更を加えることなく原文を引用している。角括弧内の記述は、特に注記のないかぎり、本書の編集者によって加えられたものである。



経歴のまとめ

以下の年表は、本書で紹介されている預言者ジョセフ・スミスの教えの歴史的な背景を簡単に紹介するものである。

- 1805年12月23日 バーモント州ウィンザー郡シャロンで、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスのもとに、11人きょうだいの5番目として誕生する。
- 1813年ごろ
(7歳) 腸チフスを患う。合併症のため左足の手術が必要となる。当時、スミス家族はニューハンプシャー州ウエストレバノンに住んでいた。そこはスミス家が働く機会を求めて1808年から1816年の間に移り住んだ幾つかの場所のうちの一つであった。
- 1816年
(10歳) 家族とともにニューヨーク州パルマイラの村に移住する。
- 1818年－1819年ごろ
(12または13歳) 家族とともにパルマイラの村からニューヨーク州パルマイラ町（タウンシップ）の丸太造りの家に移る。
- 1820年早春
(14歳) 自宅近くの森で祈る。父なる神とイエス・キリストの訪れを受ける。自分はどの教会に加わるべきか尋ねる。救い主はジョセフに、教会のうちに正しいものはなく、どの教会にも加わってはならないと告げられた。
- 1823年9月21日－22日
(17歳) モロナイの訪れを受け、終わりの時における地上での主の業と、モルモン書について告げられる。すぐ近くの丘に埋められている金版を見るが、その時点では持ち出すことを禁じられる。

- 1825年
(19歳) 家族とともに、丸太造りの家からニューヨーク州マンチェスター町（タウンシップ）の彼らの農場に新たに建てた板張りの家に移る。
- 1827年 1 月18日
(21歳) ペンシルベニア州ハーモニーのエマ・ヘイルと、ニューヨーク州サウスベインブリッジで結婚する。
- 1827年 9 月22日 1823年から毎年9月22日にモロナイと会った後、モロナイから版を受け取る。
- 1827年12月
(22歳) 版を盗もうとするパルマイラおよびマンチェスターの暴徒から逃れるために、ペンシルベニア州ハーモニーに移る。その後間もなく、モルモン書の翻訳を始める。
- 1828年 2 月 マーティン・ハリスが、モルモン書の文字の一部を写し取ったものをニューヨーク市のチャールズ・アンソンやサミュエル・L・ミッチェルといった著名な学者に見せる。
- 1828年 6 月－ 7 月 モルモン書を翻訳した116ページの原稿が、マーティン・ハリスのところから失われる。
- 1829年 4 月 5 日
(23歳) オリバー・カウドリが、モルモン書の筆記者として働くためにハーモニーに到着する。4月7日に翻訳が再開する。
- 1829年 5 月15日 オリバー・カウドリとともに、バプテスマのヨハネからアロン神権を受ける。ジョセフとオリバーはサスケハナ川で互いにバプテスマを施し合った。
- 1829年 5 月－ 6 月 オリバー・カウドリとともに、ペンシルベニア州ハーモニーとニューヨーク州コールズビルの間を流れるサスケハナ川の近くで、昔の使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネからメルキゼデク神権を受ける。

- 1829年 6月 ニューヨーク州フェイエット町（タウンシップ）のピーター・ホイットマー・シニアの農場でモルモン書の翻訳を完成する。フェイエットで三人の証人が版と天使モロナイを見，パルマイラ町で八人の証人が版を見，版に触れる。
- 1830年 3月26日
(24歳) パルマイラのエグバート・B・グランディンの書店で，モルモン書の初版が一般に向けて発売される。
- 1830年 4月 6日 フェイエットのピーター・ホイットマー・シニアの家で，教会を正式に組織する（教義と聖約20：1参照）。当初，教会の正式名称は「キリストの教会」であった。1834年5月3日，名称が「末日聖徒教会」に変更された。そして1838年4月26日，啓示によって名称が「末日聖徒イエス・キリスト教会」に変更された（教義と聖約115：4参照）。
- 1830年 6月 主に命じられて，現在では聖書のジョセフ・スミス訳として知られている聖書の靈感訳に着手する。
- 1830年 6月 9日 フェイエットで教会の最初の大会を開催する。
- 1830年 9月 ペンシルベニア州ハーモニーからニューヨーク州フェイエットに移り住む。1827年12月からこの時期までの間，ジョセフとエマはハーモニーに住んでいた。しかし，ジョセフは定期的に，マンチェスター，フェイエット，パルマイラに向かった。モルモン書の翻訳に関する事柄に取り組み，モルモン書の出版の手配をし，教会を組織し，教会の最初の大会を管理し，教会の他の務めに従事するためである。
- 1830年 9月 福音を宣^のべ伝えるために宣教師は「レーマン

- 人のところへ行」かなければならないという啓示を受ける（教義と聖約28：8。30：5-6；32：1-3も参照）。10月，ミズーリ州の西部の保護区に住む先住民に福音を教えるために，4人の長老が伝道に出発する。
- 1830年12月
(25歳) 聖徒はオハイオ州に集まるようにという啓示を受ける（教義と聖約37章参照）。
- 1831年2月初め ニューヨーク州から250マイル（約400キロ）以上を旅した後，オハイオ州カートランドに到着する。
- 1831年7月20日 ミズーリ州ジャクソン郡インディペンデンスで，インディペンデンスがシオンの「中心の場所」であることを確認する啓示を受ける（教義と聖約57：1-3参照）。
- 1831年8月2日 シドニー・リグドンがミズーリ州ジャクソン郡をシオンの地として奉獻するのを管理する。
- 1831年8月3日 インディペンデンスの神殿用地を奉獻する。
- 1832年1月25日
(26歳) オハイオ州アマーストで，大神権の大管長として支持を受ける。
- 1832年3月8日 カートランドで，シドニー・リグドンとジェシー・ガウスを顧問として大管長会を組織する。1833年3月18日には，ガウス兄弟に代わってフレデリック・G・ウィリアムズが顧問となった。
- 1832年12月27日-28日
(27歳) カートランドに神殿を建てるようにという戒めを受ける（教義と聖約88：119-120参照）。
- 1833年1月 預言者の塾を始める。
- 1833年7月2日 ジョセフ・スミス訳聖書として知られる，聖書の靈感訳のための最初の作業を完了する。

- この一部は、現在高価な真珠に収められているモーセ書、およびジョセフ・スミスーマタイとなっている。
- 1833年7月20日 ミズーリ州インディペンデンスで、『戒めの書』を印刷していた印刷機、および印刷したページの大半が暴徒によって破壊される。1835年9月には、カートランドで、『戒めの書』からの啓示とそのほかの啓示が、教義と聖約の初版として出版されている。
- 1833年7月23日 カートランド神殿の隅石が置かれる。
- 1833年12月18日 ジョセフ・スミス・シニアが教会の祝福師に聖任される。
- 1834年5月－7月
(28歳) ミズーリ州ジャクソン郡で家を追われた聖徒たちを救済するために、オハイオ州カートランドからミズーリ州クレイ郡までシオンの陣営を率いる。その後、聖徒は「しばしの間シオンの贖^{あがな}いを待」たなければならないという啓示を受けて、カートランドに戻る（教義と聖約105：9）。
- 1835年2月14日
(29歳) 十二使徒定員会を組織する。
- 1835年2月28日 七十人定員会を組織する。
- 1835年7月 アブラハムが書き記したものが含まれたエジプトのパピルスを購入する。
- 1836年3月27日
(30歳) カートランド神殿を奉献する（教義と聖約109章参照）。
- 1836年4月3日 カートランド神殿でイエス・キリストがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御自身

- を現し、神殿を受け入れられる。またモーセ、エライアス、エリヤが現れて、ジョセフとオリバーに神権の鍵^{かぎ}をゆだねる（教義と聖約110章参照）。
- 1837年 6 月
(31歳) カートランドおよびアッパーカナダ〔訳注——もと英領カナダの一州。現在のオンタリオ州南部〕の長老たちを、北アメリカ以外で最初の伝道地となるイギリス諸島に宣教師として派遣する。
- 1838年 1 月12日
(32歳) 暴徒の暴力から逃れるために、カートランドを離れてミズーリ州ファーウェストに向かう。
- 1838年 3 月14日 ファーウェストに到着し、同地に教会本部を設立する。
- 1838年 4 月27日 自身の歴史を書き始める。1842年から教会の定期刊行物に「ジョセフ・スミスの歴史」として連載される。また、後に『教会歴史』(*History of the Church*)として再び出版される。
- 1838年10月27日 ミズーリ州知事のリルバーン・W・ボッグズが悪名高い「撲滅令」を発する。この命令と容赦のない迫害のために、聖徒たちは1838年の冬から1839年の春にかけてミズーリ州を離れてイリノイ州に向かった。
- 1838年12月 1 日 ほかの教会指導者とともにミズーリ州リバティーで投獄される。
- 1839年 3 月20日
(33歳) リバティーの監獄から、聖徒たちにあてて手紙を書く。その一部は後に教義と聖約第121章、122章、および123章として聖文に加えられた。
- 1839年 4 月中旬 裁判地の変更のためにミズーリ州ガラティンからコロンビアに移送されていた間に、警備兵たちから逃亡することを許される。

- 1839年 4月22日 イリノイ州クインシーで家族と再会する。
- 1839年 5月10日 家族とともにイリノイ州コマースの小さな丸太造りの家に移る。町を後にノーブーと改称する。
- 1839年11月29日 ミズーリ州における不法行為の補償を求めて、ワシントンD.C.で合衆国大統領マーティン・バン・ビューレンを訪れる。同地に滞在中、合衆国連邦議会にも援助を請願する。
- 1840年 8月15日
(34歳) ノーブーでのある葬儀において、死者のためのバプテスマの教義を公式に発表する。ミシシッピ川および周辺の小川で死者のためのバプテスマが初めて執行される。
- 1840年 9月 大管長会から教会に向けた説教の中で、ノーブーで神殿の建設を開始する時が来たことを発表する。
- 1841年 2月 4日
(35歳) イリノイ州軍の一部隊として新たに組織されたノーブー部隊の中将に選ばれる。
- 1841年 4月 6日 ノーブー神殿の隅石が置かれる。
- 1841年11月21日 ノーブー神殿における最初の死者のためのバプテスマが木製のフォントで執行される。このフォントは神殿の残りの部分が完成する前に作られ、奉献されていた。
- 1842年 2月 - 10月
(36歳) ノーブーにおける教会の新聞『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons)の編集者として働く。
- 1842年 3月 1日 『タイムズ・アンド・シーズンズ』においてウェントワース書簡を発表する。3月と5月には『タイムズ・アンド・シーズンズ』でアブラハム書も発表する。
- 1842年 3月17日 ノーブー女性扶助協会を、エマ・スミスを会長として組織する。
- 1842年 5月 4日 自身の赤れんが造りの店の階上の部屋におい

- 1842年 5月19日
1843年 7月12日
(37歳)
1844年 1月29日
(38歳)
1844年 3月
1844年 6月27日
1844年 6月29日
- て、最初のエンダウメントの儀式を執行する。
ノーブー市長に選出される。
結婚の聖約の永遠性を含む、新しくかつ永遠の聖約に関する啓示を記録する（教義と聖約132章参照）。
アメリカ合衆国大統領への立候補を発表する。
十二使徒およびそのほかの人々との集会において、自分が死亡した場合に教会を治める責任を十二使徒にゆだね、教会を治めるためのあらゆる定め、権能、および鍵を彼らに授けたことを説明する。
イリノイ州カーセージの監獄で、兄ハイラムとともに殉教する。
イリノイ州ノーブーにハイラムとともに埋葬される。



最初の示現を受けたころ、ジョセフ・スミスは家族とともに
ニューヨーク州バルマイラの丸太造りの家に住んでいた。



ジョセフ・スミスの 生涯と教導の業

「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」(教義と聖約135:3) この驚くべき宣言は、14歳で神から召され、わずか38歳で世を去った人物について述べたものである。ジョセフ・スミスが1805年12月にバーモント州で誕生してから1844年6月にイリノイ州で悲劇的な死を遂げるまでの間に、数々の驚くべき事柄が起った。父なる神とその御子イエス・キリストがジョセフに御姿を現し、神の性質について幾世紀もの間知られていた事柄以上に多くのことをジョセフは知った。また昔の預言者たちや使徒たちが聖なる神権の力をジョセフに授け、ジョセフをこの最後の神権時代における神の新しい、権能を持った証人とした。モルモン書、教義と聖約、高価な真珠を含め、かつてないほど豊かな知識と教義が預言者ジョセフによって明らかにされた。そしてジョセフによって、主のまことの教会が再び地上に組織された。

今日、ジョセフ・スミスとともに始まった業は世界中で進み続けている。預言者ジョセフ・スミスについて、ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のように証している。「ジョセフ・スミスは神の預言者であり、これまで地上に確立された中で最もすばらしい業と神権時代の基礎を据えました。」

先祖および幼年時代

ジョセフ・スミスはアメリカ移民の6代目に当たり、先祖は1600年代にイギリスからアメリカに移住している。初期の世代のアメリカ人にだれもが連想する特徴が幾つかあるが、ジョセフの先祖はその典型であった。彼らは神が自分たちを見守ってくださっていると信じ、しっかりとした労働観を持ち、自分たちの家族と国のために熱心に働いた。

ジョセフ・スミスの両親であるジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスは、1796年、バーモント州タンブリッジで結婚した。二人は勤勉で、神を畏れる夫婦であり、結婚当初はゆとりのある

暮らしだった。しかし不運にも、ジョセフ・スミス・シニアは最初の家と農場を失い、その後の歳月を度重なる経済的な苦境の中で過ごしている。生計を立てるためにジョセフ・スミス・シニアがニューイングランドの樹木の茂った丘を耕作したり、雇われてほかの農地で働いたり、商売を営んだり、学校で教えたりする中で、スミス家族は幾度か移住を余儀なくされた。

ジョセフ・スミス・ジュニアは、1805年12月23日、バーモント州シャロンで11人きょうだいの5番目として誕生し、父親の名を取って名付けられた。スミス家族の子供たちを出生の順に挙げると次のとおりである。命名されなかった男子（出生後間もなく死亡）、アルビン、ハイラム、ソフロニア、ジョセフ、サミュエル、エフライム（生後2週間足らずで死亡）、ウィリアム、キャサリン、ドン・カーロス、およびルーシー。²

預言者のたぐいまれな人格を示すしるしは、その生涯の早い段階から現れていた。スミス家族がニューハンプシャー州ウエストレバノンに住んでいたとき、腸チフスが猛烈な勢いでその地域に住む大勢の人々を襲い、スミス家族の子供たちも全員が感染した。ほかのきょうだいたちは合併症もなく快復したが、7歳になるころであったジョセフは、左足に深刻な症状が出た。近くのニューハンプシャー州ハノーバーにあるダートマス医科大学のネイサン・スミス博士が、この少年の足を救うために新しい方法による外科手術を行うことに同意した。スミス博士と同僚たちが手術の準備をしていたとき、ジョセフは母親が自分の苦しむ姿を見なくて済むように、母親に部屋を出るように求めた。痛みを和らげるための酒を拒み、父親が抱擁によって与えてくれる安心感だけを頼りに、ジョセフは医師が足の骨に穴を開けてその一部を削り取る間、勇敢に耐えた。手術は成功したが、ジョセフはそれから数年は松葉杖まつばづえを使って歩き、また生涯にわたってわずかに足を引きずって歩くことになった。

1816年、穀物の不作に繰り返し見舞われた後、より豊かな暮らしを手に入れることを望みながら、ジョセフ・スミス・シニアは家族をバーモント州ノーウィッチからニューヨーク州パルマイラに移した。後年、預言者は次のように回想している。「貧しい暮らしをしていたので、〔わたしたちは〕大家族を支えるために懸命に働かなければなりませんでした。……また、家族を支えるために何らかの手助けができる者は皆、力を尽くして働くように求められたため、わたしたちは教育



ニューヨーク州パルマイラ地域。最初の示現やモロナイのジョセフ・スミスへの訪れなど、教会歴史上の多くの重要な出来事がこの地域で起きた。

の恩恵にあずかることができませんでした。わたしはただ読み書きと計算の基本的な原則を教わった、と言えば十分です。』³

最初の示現

ジョセフ・スミスは、幼いころに受けたしつけについてこう記している。「わたしは善い父母から生まれ、キリスト教を厳格に教えられた。」⁴ しかし、ほかの多くのクリスチャンと同じように、ジョセフの両親はイエスと使徒たちによって教えられた福音の原則の一部が当時



1907年ごろの聖なる森。1820年の春、若きジョセフ・スミスは主に導きを求めて祈るために、自宅近くのこの森に入った。

の教会には存在していないことを認めていた。1820年のパルマイラ地域では、幾つかの異なるキリスト教の教派が改宗者を獲得しようとしていた。ジョセフの母親、兄弟のうちの二人、および姉は、地域の長老派の教会に加わったが、ジョセフは父親や兄アルビンとともに、どの教会にも加わらずにいた。ほんの少年にすぎなかったものの、ジョセフは神の前における自らの立場について、また様々な宗教団体の間の混乱について、深い関心を抱いていた。

聖文を研究していたとき、14歳のジョセフはヤコブの手紙の一節に

胸を打たれた。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5) この主の約束によって靈感を受け、1820年のある春の日、ジョセフは祈るために自宅から近い森に入って行った。ひざまずき、ジョセフは心の願いを神に告げた。するとすぐに闇の力に捕らえられ、その力は完全にジョセフを圧倒し、滅ぼされるのではないかという恐れをジョセフに抱かせた。その後、ジョセフの熱烈な祈りにこたえて天が開かれ、ジョセフは目に見えない敵から救い出された。そして太陽よりも輝く光の柱の中に、二人の御方が自分の上の空中に立っておられるのを見た。御一方が語りかけ、少年の名を呼び、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われた(ジョセフ・スミス一歴史1:17)。

この栄光に満ちた現れにおいて、父なる神とその御子イエス・キリストが、若いジョセフに直接御姿を現された。ジョセフは救い主と語り、主はジョセフに当時のどの教会にも加わらないように、なぜなら「それら〔は〕すべて間違っている」からであり、「彼らの信条はことごとくその目に忌まわしいものであり、……彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している」と告げられた(ジョセフ・スミス一歴史1:19)。また、主はジョセフに「いつか将来〔彼に〕完全な福音が知らされる」ことを約束された。⁵ 幾世紀にも及ぶ霊的な暗闇の後、神の言葉と、父なる神とその御子イエス・キリストの实在が、この若く純粋な器によって世界に明らかにされたのであった。

モロナイの訪れ

3年の歳月が流れた。その間、神を見たというジョセフ・スミスの宣言は地域の人々にあざけられ、嘲笑されていた。17歳になった若き預言者は、今後自分を待ち受けている事柄を知りたいと思っていた。1823年9月21日の晩、ジョセフは指示を求めて、また若者らしい「罪と愚かな行い」に対する赦しを求めて、真剣に祈った(ジョセフ・スミス一歴史1:29)。するとジョセフの祈りにこたえて、屋根裏の寝室が光に満ち、モロナイという名の天の使者が現れた。ジョセフは次のように回想している。「〔その御方〕は、自分は神の天使であると言い、神が古代イスラエルの民に交わされた聖約が間もなく成就されるこ

と、メシヤの再臨に備えて御業が速やかに開始されること、完全な福音が力をもって万国に宣べ伝えられ、民に福千年の備えをさせる時が訪れたことを話されました。そして、これらの喜びに満ちたおとずれを伝えるために自分が遣わされた、とお告げになりました。さらに、この栄えある神権時代に主の目的を成し遂げるために、神の御手に使われる者としてわたしが選ばれたことを知らせてくださいました。』⁶

またモロナイはジョセフに、昔の預言者たちが金版に刻んだ昔の書き物をまとめたものが、近くの高に埋められていることを告げた。この神聖な記録には、イエスがお生まれになる600年前に、神がエルサレムから西半球に導かれた民のことが述べられていた。モロナイはこの人々の中にいた最後の預言者であり、その記録を埋めていたが、神は末日にその記録を世に出すと約束しておられた。ジョセフ・スミスはこの神聖な記録を英語に翻訳することになっていた。

それからの4年間、ジョセフは毎年9月22日に同じ丘でモロナイと会い、さらなる知識と指示を受けた。昔の記録を翻訳するために、ジョセフはこの準備と精練の歳月を必要としていた。「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されること」を確信させるための記録を世に出す、という務めにふさわしくならなければならないのであったのである（モルモン書のタイトルページ）。

地上に神の王国を確立する

モルモン書の翻訳に着手する



エマ・スミス

金版を受け取るのを待ちながら、ジョセフ・スミスは家族の物質的な必要を満たすのを手伝った。1825年、ジョセフはペンシルベニア州ハーモニーに行き、ジョサイア・ストールのもとで働いた。その地でジョセフはアイザック・ヘイルと妻エリザベスのところに下宿し、彼らの娘エマと出会った。エマは背が高く、黒髪で、学校の教師をしていた。1827年1月18日、ジョセフとエマはニューヨーク州サウスバインブリッジで結婚した。子供たちの死、経済的な困難、

そしてジョセフが自らの義務を果たすために度々家を留守にすることで、二人の結婚生活は試しを受けたが、ジョセフとエマはいつも互いに深く愛し合っていた。

最初に版を見てから4年後の1827年9月22日、ジョセフはついに版を託された。しかし版がジョセフに渡されるやいなや、地域の暴徒がそれらを盗み出そうとしてあらんかぎりの策略をめぐらした。この迫害を避けるため、1827年12月、ジョセフとエマはエマの両親が住むハーモニーに戻った。その地に落ち着くとすぐに、ジョセフは版の翻訳に着手した。

1828年の初め、パルマイラの裕福な農場主であるマーティン・ハリスが、主の末日の業について証^{あかし}を受け、ジョセフの翻訳を手伝うためにハーモニーにやって来た。そしてその年の6月までに、ジョセフの翻訳作業は原稿116ページ分になっていた。マーティンは原稿をパルマイラの自宅に持ち帰って家族の一部に見せるため、預言者ジョセフに繰り返し許可を求めた。預言者は主に願ったが、聞き入れられなかった。それでもジョセフはさらに2度主に求め、ついにマーティンは原稿を持って行くことを許された。しかし原稿はパルマイラにある間に紛失し、二度と戻ることはなかった。主は、ウリムとトンミム、そして版をしばらくの間預言者から取り上げ、ジョセフがへりくだり、悔い改めるままにしておかれた。主からの啓示の中で、ジョセフは人を神よりも恐れてはならないことを学んだ（教義と聖約3章参照）。以後、わずか22歳ではあったが、ジョセフの生涯は、全身全霊を傾けて主のすべての命令に従うことの模範となった。

1829年4月5日、ジョセフより1歳年下の学校教師であるオリバー・カウドリが、ハーモニーにあるジョセフの家に来て。祈りの答えとして、オリバーは預言者ジョセフの業が真実であるとの証を受けていた。2日後、翻訳の作業が再開され、ジョセフが口述してオリバーが筆記した。

神の神権の回復

ジョセフとオリバーはモルモン書の翻訳に取り組んでいたとき、救い主が昔のニーファイ人を訪れられたときの記録を読んだ。その結果、二人はバプテスマについて主から導きを求めることにした。1829年5月15日、彼らはハーモニーのジョセフの家に近いサスケハナ川の岸辺に行って祈った。すると驚いたことに、バプテスマのヨハネと名乗

る天の使者が訪れた。ヨハネは二人にアロン神権を授け、互いにバプテスマを施し合い、また聖任し合うように指示を与えた。後に、バプテスマのヨハネが約束したように、昔の使徒であるペテロとヤコブとヨハネもジョセフとオリバーに現れ、二人にメルキゼデク神権を授け、使徒に聖任した。

これらの訪れを受ける前から、ジョセフとオリバーは知識と信仰を持っていた。しかし天の使者が現れた後、彼らは権能、すなわち主の教会を設立し、救いの儀式を執行するのに必要な神の神権の力と権能も持つことになったのであった。

モルモン書の出版と教会の組織

1829年4月から5月にかけて、ハーモニーの自宅における預言者ジョセフ・スミスの翻訳作業は、迫害によりますます妨害されるようになった。その結果、ジョセフとオリバーはピーター・ホイットマー・シニア宅で翻訳を完成させるため、一時的にニューヨーク州フェイエット町（タウンシップ）に移り住んだ。翻訳は6月に完了した。オリバーが預言者の筆記者として働き始めて3か月に満たないときであった。そして8月までには、ジョセフはその書物を出版するためにパルマイラの出版業者エグバート・B・グランディンと契約を結んでいた。印刷費の支払いを保証するため、マーティン・ハリスは自分の農場をグランディン氏に担保として提供し、後に借入金の支払いのために農場の151エーカー（約60.5ヘクタール）を売却した。モルモン書は1830年3月26日、グランディンの書店で一般に向けて発売された。

モルモン書の発売が公表されてからわずか11日後の1830年4月6日、約60名の人々がニューヨーク州フェイエットにあるピーター・ホイットマー・シニアの丸太造りの家に集まった。その場でジョセフ・スミスは教会を正式に組織した。教会は、後に啓示により末日聖徒イエス・キリスト教会と名付けられた（教義と聖約115：4参照）。それは御霊^{みたま}が大いに注がれた、喜びに満ちた出来事であった。聖餐^{せいさん}が執行され、信者はバプテスマを受け、聖霊^{たまもの}の賜物を授かり、男性は神権に聖任された。集会の間に受けた啓示の中で、主はジョセフ・スミス^みを教会の指導者として、すなわち「父なる神の御心^みとあなたがたの主イエス・キリストの恵みによって、……聖見者、翻訳者、預言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老」として指名された（教義と聖約21：1）。イエス・キリストの教会が、再び地上に設立されたのであった。



ニューヨーク州フェイエットにあるピーター・ホイットマー・シニア宅(復元)。
預言者ジョセフ・スミスが1830年4月6日に正式に教会を組織した場所に建てられている。

オハイオ州カートランド——教会の進展

教会員が自分たちの見いだした真理を熱心に人に伝えるにつれて、^{ようらん}揺籃期の教会は急速に成長した。やがてニューヨーク州のフェイエット、マンチェスター、コールズビルで支部が設立された。1830年9月、ジョセフ・スミスとエマがペンシルベニア州ハーモニーからフェイエットに移り住んで間もなく、主は預言者に、ミズーリ州の西の境に住んでいる「レーマン人のところに」宣教師を遣わすべきであることを示された(教義と聖約28:8)。宣教師たちは旅の途中でオハイオ州カートランドを通り、その地で真理を探し求めていたある宗教団体と出会い、そのうちの約130名を改宗に導いた。その中には、後に大管長会の一員となるシドニー・リグドンもいた。会員たちは周りの人に福音を伝え、カートランドの聖徒は数百名にまで増えた。

ニューヨーク州で教会が成長するにつれて、教会に対する反感も激しくなった。1830年12月、預言者は一つの啓示を受け、教会員は250マイル(約400キロ)以上離れた「オハイオに行く」ようにとの指示が与えられた(教義と聖約37:1)。それからの数か月間、ニューヨーク州の聖徒の大部分は、しばしば大きな損失を出しながらも自分たち



初期の教会歴史と預言者ジョセフ・スミスの生涯における重要な地

の財産を売り払い、オハイオ州カートランドに集まるために必要な犠牲を払った。ジョセフ・スミスとエマはオハイオに向けていち早く出発し、1831年2月1日ごろにカートランドに到着した。

聖徒のための二つの集合の地

1831年6月、カートランドで教会が力強く発展していく中で、主は預言者ジョセフとほかの教会指導者にミズーリに旅するように指示された。その地で主は「〔彼らの〕受け継ぎの地」を示すおつもりであった（教義と聖約52：3-5, 42-43参照）。1831年の6月および7月、預言者とそのほかの人々はカートランドから、アメリカ開拓地の最西端にあるミズーリ州ジャクソン郡まで、900マイル（約1,450キロ）近くを旅した。到着後間もなく、預言者は主から次のような啓示を受けた。「ミズーリの地……は、わたしが聖徒の集合のために指定し、聖別した地である。それゆえ、ここは約束の地であり、シオンの町のための場所である。……今インディペンデンスと呼ばれている場所は中心の場所であり、神殿の建てられる地点は西方……にある。」（教義と聖約57：1-3）

聖書に登場する昔の預言者たちの預言の成就として、25歳のジョセフ・スミスは、アメリカにおけるシオンの町の基を据え始めた。1831年8月、ジョセフはこの地が集合の地として奉献されるのを管理し、また神殿用地を奉献した。それからすぐに預言者はオハイオに戻り、忠実な人々の一部にミズーリに集まるように勧めた。数百名の聖徒が19世紀のアメリカ西部辺境地域の過酷な旅を堪え忍び、ミズーリの新しい生活の地に向かって進んだ。

1831年から1838年まで、教会員はオハイオとミズーリの両方に住んだ。預言者、十二使徒定員会の会員たち、および多くの教会員がカートランドに住み、一方でほかの教会員はミズーリに集まり、預言者の指示の下でその地の神権指導者によって導かれた。教会の指導者は手紙で連絡を取り合い、また頻繁にカートランドとミズーリを往復した。

絶えることのない啓示

カートランド地域に住んでいる間に、預言者は末日における福音の回復に関して主から多くの啓示を受けた。1831年11月、教会の指導者は啓示の多くを、『戒めの書』と呼ばれる書物として出版することを

決定した。この書物はミズーリ州インディペンデンスで印刷される予定であった。しかし1833年7月、暴徒が印刷機を破壊し、印刷済みの多くの用紙が破棄された。このため、守られた数部を除いて、『戒めの書』を教会員が手にすることはなかった。しかし、1835年、『戒めの書』に掲載されるはずだった啓示とそのほかの多くの啓示が、『教義と聖約』としてカートランドで出版された。

またカートランド地域に住んでいる間に、預言者はジョセフ・スミス訳聖書の翻訳を続けた。1830年に主から命じられて着手していた作業である。幾世紀にもわたって聖書から多くの分かりやすく貴い事柄が失われており、預言者は御霊^{みたま}の導きを受けて欽定訳聖書の本文に訂正を加え、失われていた内容を回復した。この作業によって、現在教義と聖約に収められている多くの啓示を含め、重要な福音の真理が回復されることになった。ジョセフは自分が翻訳した聖書を出版するつもりであったが、迫害など緊迫した状況の中で、生涯のうちに完全な形で出版することはなかった。

聖書の靈感による改訂の一部として、ジョセフ・スミスは現在モーセ書となっている啓示と、現在ジョセフ・スミス—マタイと呼ばれているマタイによる福音書第24章の靈感訳を記した。また1835年、預言者は教会が購入した古代エジプトのパピルスから、アブラハム書の翻訳を始めた。これらの翻訳はすべて、後に高価な真珠の一部となった。

預言者がカートランドで受けた啓示の中には、教会の中央統治体制を確立するものが含まれていた。主の指示の下に、ジョセフ・スミスは1832年に大管長会を組織した。⁷ そして1835年には十二使徒定員会と七十人定員会を組織した。1834年には、カートランドにステーキが組織された。またこの期間に、ジョセフは地域の教会員の必要に対処するために、アロン神権およびメルキゼデク神権の定員会も設けている。

この神権時代における最初の神殿

回復の最も重要な一部として、主はジョセフ・スミスに聖なる神殿の必要性を明らかにされた。1832年12月、主は聖徒たちにオハイオ州カートランドに神殿を建て始めるように命じられた。多くの教会員が住まいや勤め口に不自由し、食事にも事欠いていたにもかかわらず、主の命令に熱意をもってこたえ、預言者もともに働いた。

1836年3月27日、御霊^{みたま}が五旬節^{ごじゅんせつ}の日のようにあふれるばかりに注がれる中で、ジョセフ・スミスは神殿を奉献した。それから1週間後の



1900年ごろのカートランド神殿。聖徒たちは多大な犠牲を払って神殿を建てたが、迫害によりカートランドを追われた際に、神殿を捨てなければならなかった。

1836年4月3日、宗教史上最も意義深い出来事の幾つかが起こった。神殿の中で主イエス・キリストがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御自身を現し、次のように宣言されたのである。「わたしはこの家を受け入れた。そして、わたしの名はここにあるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。」(教義と聖約110：7) また、旧約聖書の神権時代から3人の使者——モーセ、エライアス、およびエリヤ——が現れ、長い間地上から失われていた神権の鍵かぎと権能を回復した。こうして預言者ジョセフ・スミスは、イスラエルを地の四方から集め、この世においても永遠にわたっ

ても家族を結び固める権能を持つことになった（教義と聖約110：11-16参照）。この神権の鍵の回復は、地上にイエス・キリストの完全な福音が回復されるまで預言者に「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を」与えるという、主の規範に従って行われた（教義と聖約128：21）。

永遠の福音を宣べ伝える^の

預言者の務めの期間を通じて、主はジョセフに「すべての造られたものに福音を宣べ伝え〔る〕」ために宣教師を遣わすように指示された（教義と聖約68：8）。預言者自身、この責任の大きさを感じ、福音を宣言するために幾度も自分の家と家族を離れている。教会の初期には、宣教師は合衆国およびカナダの様々な地域で福音を宣べ伝えるように召された。

その後、1837年の夏に、預言者はイギリスに長老たちを遣わすようにとの靈感を受けた。そこで預言者は十二使徒定員会の会員であったヒーバー・C・キンボールに、この大いなる取り組みにおいて宣教師の小さな一団を導くように指示した。貧窮にあえぐ家族を残したまま、キンボール長老は主が導いてくださるという信仰をもって出発した。1年のうちにイギリスで約2,000名の人々が教会に加わった。続いてジョセフ・スミスは1839年から1841年にかけて十二使徒をイギリスに遣わし、この伝道もまた著しい成功を収めた。1841年までに6,000名以上の人々が福音を受け入れていた。この人々の多くはアメリカに移住し、非常に困難な時期にあって教会に新たな活力を与え、教会を強めた。

カートランドを離れる

カートランドの聖徒たちはその地にやって来て以来迫害を受け続けていたが、1837年および1838年には教会に対する敵対行為がますます激しくなった。預言者は次のように語っている。「神の王国に関しては、悪魔はいつも、神に反対してまさに同じ時期に自分の王国を打ち建てます。」⁸ 預言者は教会の外部の敵対者からも、また自分に背を向けた背教者からも、敵意の矛先が向けられているのを感じた。ジョセフは多くの罪で不当に訴えられ、何十件もの根拠のない刑事訴訟や民事訴訟のために法廷で悩まされ、命をねらう人々から身を隠すことを余儀なくされた。しかしジョセフは絶え間ない苦難と妨害のただ中にあって、忠実であり、勇敢であり続けた。

ついにカートランド地域での迫害は耐えられないほどになった。1838年1月、預言者とその家族はカートランドを離れざるを得なくなり、ミズーリ州ファーウェストに避難した。その年の終わりまでには、カートランドにいた聖徒の大半が、自分たちの家や愛する神殿を残してジョセフの後に続いた。

ミズーリの聖徒たち

ジャクソン郡からの追放とシオンの陣営の行軍

カートランドの聖徒たちがシオンの大義を確立しようと努めていたとき、ほかに多くの教会員がミズーリ州ジャクソン郡で同じ業を進めていた。末日聖徒が同郡に移住し始めたのは1831年の夏のことであった。そして2年後には聖徒の数は約1,200人となり、その地の人口の約3分の1となった。

大勢の聖徒の到着に、この地に以前から入植していた人々は不安を抱いた。ミズーリの人々は、おもに合衆国北部からやって来る、南部での奴隷制度の実施を支持しない新しい移住者たちに対して政治的支配力を失うことを恐れた。また、モルモン書や新たな啓示、シオンへの集合を信じることなど、末日聖徒の独特な教義にもミズーリの人々は不審を抱き、末日聖徒がおもに自分たちの間で商売を行うことにも腹を立てた。間もなく暴徒や地元の民兵が聖徒たちを悩ますようになり、1833年11月、聖徒をジャクソン郡から追い出した。ほとんどの聖徒は、迫害を逃れてミズーリ川を渡って北上し、ミズーリ州クレイ郡に移り住んだ。

ジョセフ・スミスはミズーリの聖徒たちの窮状きゆうじょうを深く憂慮していた。1833年8月、ジョセフはミズーリの教会指導者にあてて、カートランドから次のような手紙を書いている。「兄弟の皆さん、もしわたしが皆さんと一緒にあれば皆さんとともに苦しむでしょう。そして、しりごみしようとする人間の本性を乗り越えて、わたしの霊はたとえわたしが死んでも皆さんを見捨てることはないでしょう。神がわたしを助けてくださっているからです。ああ、元気を出してください。わたしたちの贖あがないが近づいているからです。おお、神よ、シオンにいるわたしの兄弟たちをお救いください。」⁹

1834年2月、ジョセフ・スミスは啓示によって、苦しむ聖徒たちを支援し、ジャクソン郡の自分たちの土地に戻るよう助けるために、カートランドからミズーリへの遠征隊を率いて行くようにとの指示を

受けた（教義と聖約103章参照）。主の命令にこたえて、預言者はミズーリへ行軍するためにシオンの陣営と呼ばれる一団を組織した。1834年の5月および6月、最終的に200名以上となったこの一団は、オハイオ、インディアナ、イリノイ、そしてミズーリと、西に向かって進んだ。コレラが発生するなど、彼らは多くの困難に遭った。1834年6月22日、遠征隊がジャクソン郡に近づいたとき、預言者は陣営を解散するようにとの啓示を受けた。それでも主はシオンが主御自身の時に贖あがなわれることを約束された（教義と聖約105：9-14参照）。デビッド・ホイットマーを会長としてクレイ郡にステーキを組織した後、預言者はオハイオに戻った。

聖徒たちの財産を取り戻すことはなかったが、シオンの陣営は教会の未来の指導者たちにかけてえのない訓練を施した。陣営に参加した人々は、預言者の模範と教えから義にかなった指導の原則を学んでいたのである。1835年2月14日、カートランドで開かれたシオンの陣営の隊員およびそのほかの教会員の集会において、預言者は十二使徒定員会を組織した。その2週間後には、預言者によって七十人定員会が組織されている。十二使徒定員会のうちの9名、および七十人定員会の全員が、シオンの陣営の参加者であった。

ミズーリ北部への入植

非常に多くの聖徒たちがミズーリ州クレイ郡に住み続けた。しかし1836年、同郡の住民は、これ以上避難場所を提供することはできないと言った。そこで聖徒たちはミズーリ北部に移動を始め、大半はコールドウェル郡に移住した。行き場を失った末日聖徒を受け入れるために州議会によって新たに組織された郡であった。1838年、カートランドを離れることを余儀なくされた大勢の聖徒たちもコールドウェル郡に移住した。その年の3月には預言者とその家族が、コールドウェル郡にある末日聖徒の成長著しい入植地であるファーウェストに到着し、その地に教会本部を設けた。そして4月、主はジョセフ・スミスにファーウェストに神殿を建てるように指示された（教義と聖約115：7-16参照）。

残念なことに、ミズーリ北部における聖徒たちの平和はつかの間であった。1838年の秋、暴徒と民兵が再び末日聖徒を悩まし、攻撃した。教会員が報復と自衛の行為に出ると、ジョセフ・スミスと教会指導者たちが反逆罪の容疑で不当に捕らえられた。11月、彼らはミズーリ州

インディペンデンスならびにリッチモンドで監禁された。そして12月1日、ミズーリ州リバティーにある監獄に連れて行かれた。その冬、預言者と同僚たちは過酷な状況の下で苦しんだ。暗く、寒く、非衛生的な監獄の地下牢ちかろうに閉じ込められ、与えられた食事は非常に粗末で食べられたものではなかったが、飢えをしのぐために食べるしかなかった。預言者は自分自身と聖徒たちの状況を「アブラハムの試練に等しい信仰の試練」と表現している。¹⁰

預言者が監禁されていた間、1838年から1839年にかけての冬と春に、預言者自身の家族を含む幾千人もの末日聖徒がミズーリの家を追われた。1839年3月7日、エマはイリノイ州クインシーからジョセフに次のように書いている。「家と幼い子供たちのほか、わたしたちが所有していたほとんどのものを後に残して、そしてあの寂しい牢獄に閉じ込められたあなたを残してミズーリ州を出て行くときに、わたしがどのようなことを考え、どのような気持ちでいたかは、神のほかに知る者はありません。」¹¹ プリガム・ヤングやそのほかの教会指導者の指示の下で、聖徒たちはイリノイ州に向かって東へと導かれて行った。



リバティーの監獄。1838-1839年の冬の期間、
預言者ジョセフ・スミスはここに投獄された。

ノーブーでの日々 民の愛する指導者

1839年4月、預言者と同僚たちは裁判地の変更のためにリバティーの監獄からミズーリ州ガラティンへ移送された。そして再びガラティンからミズーリ州コロンビアに移送されていた間に、警備兵たちは不当な監禁状態から逃亡することを彼らに許した。そこで彼らは、教会の本隊がミズーリから逃れた後に集まっていたイリノイ州クインシーに行った。間もなく預言者の指示の下で、聖徒のほとんどが50マイル（80キロ）北の、ミシシッピ川の湾曲部に位置する村イリノイ州コマースに定住を始めた。ジョセフはその町をノーブーと改名し、その後の数年間に会員や新しい改宗者が合衆国、カナダ、イギリスからノーブーに集合し、ノーブーの町はイリノイ州で最も人口の多い地域の一つとなった。

ジョセフとエマは川の近くの小さな丸太造りの家に住み、そこはノーブー時代の初期に預言者の事務所としての役割を果たした。ジョセフは生活のために農地を耕作し、後には雑貨屋を経営した。しかし、教会および市民の義務に時間の多くを費やさなければならず、預言者は家族の物質的な必要を満たすのにしばしば困難を覚えていた。1841年10月には、ジョセフの個人財産として次のものが挙げられている。「カートランドでもらった老いたチャーリー（馬）、ペットの鹿2頭、年老いた七面鳥2羽と若い七面鳥4羽、ミズーリである兄弟からもらった年老いた乳牛、年寄りのメジャー（犬）、……および少しばかりの家具。」¹²

1843年8月下旬、預言者とその家族は通りの反対側に新たに建てられた、マンションハウスと呼ばれる2階建ての家に移った。当時、ジョセフとエマには生存している子供が4人いた。長い歳月の間にジョセフとエマは6人の愛する子供たちを埋葬している。そしてジョセフの死後もう1人の子供が誕生した。ジョセフ・スミスとエマの家族の11人の子供は以下のとおりである。アルビン——1828年に誕生したが生後間もなく死亡。双子のサディアスとルイーザ——1831年に誕生したが生後間もなく死亡。養子の双子ジョセフとジュリア——1831年にジョン・マードックと妻ジュリアのもとに生まれ、マードック姉妹が出産時に死亡した後、ジョセフとエマが引き取った（このうち、ジョセフは1832年に生後11か月で死亡）¹³。ジョセフ3世——1832年に誕生。



ノーブーのマンションハウス。預言者ジョセフ・スミスは家族とともに、
1843年8月にこの家に移り住んだ。

フレデリック——1836年に誕生。アレクサンダー——1838年に誕生。
ドン・カーロス——1840年に誕生したが1歳2か月で死亡した。息子
——1842年に誕生したが、その日のうちに死亡。デビッド——1844年、
父の殉教からほぼ5か月後に誕生した。

預言者は務めを果たすに当たって、一貫して聖徒たちの中で過ごすことをとても好んだ。ノーブーの町とその住民について、ジョセフは「ここは地上で最も美しい場所で、最もすばらしい人々が住んでいます」と語っている。¹⁴ そしてまた、聖徒たちも預言者を愛し、ジョセフのことを自分たちの友であると感じ、しばしば彼を「ジョセフ兄弟」と呼んだ。ある改宗者は次のように述べている。「彼には、知り合うすべての人を引き付ける魅力がありました。」¹⁵ 「彼は欠点や愚かなところのない人物であるかのように振る舞うことがありません」と、ノーブーのある住民は書いている。「彼は好きにならずにはいられない人物です。……また多くの人が思っているように自分の偉大さを得意がることもなく、それどころか、まともな人であればだれとでも気さくに付き合います。」¹⁶ イギリス人の改宗者であるウィリアム・クレイトンは、ノーブーから故郷に送った手紙の中で預言者についてこう書いている。「自分がそのような人物であったならと心から思います。」¹⁷

預言者はノーブーで多くの説教を行い、明らかにされた福音の真理を力強く教えたため、教会員はジョセフの話聞くのがとても好きだった。アンガス・M・キャノン¹⁸は次のように回想している。「彼の話聞くときにはいつでも全身に感動を覚え、全霊が主をあがめるのでした。」¹⁸ ブリガム・ヤングは次のように宣言している。「わたしはこれまで、預言者ジョセフとともにいる時間や、公にも個人的にも話を聞く機会を一度も逃したことはありません。彼の語るところを理解し、それを心に留めて、必要なときに思い返すことができるようにするためです。……このような一時^{ひととき}は、わたしにとって世のあらゆる富に勝る貴いものでした。」¹⁹

ジョセフ・スミスの指導力は宗教上の責任以外にも及んだ。ノーブーで預言者は行政、法務、商業、教育、および軍務に携わった。ジョセフはノーブーを、文化の発達と都市の発展の双方がもたらすあらゆる恩恵と機会を市民に提供する町にしたいと望んでいた。1844年1月、ミズーリの聖徒たちから奪われた権利と財産に対する賠償を、州政府および連邦政府が行わないことへの失望をおもな理由として、ジョセフ・スミスはアメリカ合衆国の大統領に立候補することを宣言した。ジョセフに当選の見込みがほとんどないことは大半の人が認めていたが、彼の立候補によって、聖徒たちが憲法で保障された権利を著しく侵害されていることに世の中の注目が集まった。預言者はあるとき、すべての人には「わたしたちの国民全体が持つ自由という偉大な木の結ぶ果実を食べる平等な権利があります」と宣言している。²⁰

きよ 聖きを主にささげる——神のためにノーブーに神殿を建てる

カートランドを離れることを余儀なくされたとき、聖徒は自分たちが懸命に働いて建設した神殿を後に残して来ていた。しかし彼らは再び自分たちのただ中に聖なる神殿を持つことになった。主がノーブーに神殿を建て始めるように命じられたのである。作業は1840年の秋に開始され、1841年4月6日、預言者の管理の下で定礎式が行われた。ノーブー神殿の建設は、当時のアメリカ西部における特筆すべき建築事業の一つであった。発展途上にあった町は絶えず移住者を迎え、教会員は全般的に貧しかった。そのため、神殿を建設するということは、聖徒たちに途方もなく大きな犠牲を求めることとなった。

1840年8月15日には、預言者は死者のバプテスマの教義を教え始めている。神殿が建設の初期段階にあったため、初めのうち聖徒たちは



1840年代中ごろのノーブー神殿。

この神殿は、聖徒たちがノーブーを強制的に立ち退かされた後、1848年に火で焼かれた。残っていた幾つかの壁も、後の竜巻によって倒壊した。最後まで残った壁もろくなっていたので、やがて跡形もなく倒壊した。

近くの川や小川で死者のためのバプテスマを執行した。1841年1月、主は、そのように行えるのは神殿でバプテスマを執行できるようになるまでであることを示された（教義と聖約124：29-31参照）。1841年の夏から秋にかけて、聖徒たちは新たに掘られた神殿の地下に、仮の木製バプテスマフォントを作った。そして1841年11月21日、このフォントで死者のためのバプテスマが初めて執行された。

1841年には夫婦の結び固めが初めて執行され、1843年、預言者は結婚の聖約が永遠のものであることを述べた啓示を語っている（教義と

聖約132章参照)。この啓示に含まれる教義は、1831年には預言者に知らされていた。²¹ また神に命じられたとおりに、預言者は多妻結婚の教義についても教えた。

神殿がしばらくは完成しなかったので、ジョセフ・スミスは、神殿のエンダウメントを聖なる神殿の外で執行することを選択した。1842年5月4日、ノーブーにある彼の赤れんが造りの店の階上の部屋で、預言者はブリガム・ヤングを含む少数の兄弟たちに最初のエンダウメントを執行した。預言者が生きてノーブー神殿の完成を目にすることはなかったが、1845年と1846年には幾千人もの聖徒が、ブリガム・ヤングらから、神殿のエンダウメントの儀式を受けた。儀式を執行したこの人々は、預言者ジョセフ・スミスからこれらの祝福をすでに受けていたのである。

ジョセフ・スミスの務めが終わりに近づく

ノーブーで聖徒たちは初めのうちは比較的平和を楽しんでいた。しかし、一方で預言者の周囲には迫害の雲が次第に立ち込めており、ジョセフは自分の地上での使命が終わりに近づいていることを感じていた。1844年3月の記憶すべき集会で、預言者は十二使徒に自分の死後教会を治める責任をゆだね、彼らにそのために必要なすべての鍵^{かぎ}と権能が与えられたことを説明した。当時十二使徒定員会の会員であったウィルフォード・ウッドラフは、後に次のように宣言している。「わたしは^{あかし}証します。1844年の早春、ノーブーで、預言者ジョセフ・スミスは使徒を呼び集めて、神の教会と王国の定めを伝えました。そして神が彼に授けておられたすべての鍵と力をわたしたちの頭上に結び固め、わたしたちは力を合わせてこの王国を担っていかなければならず、そうしなければ罰の定めを受けるだろうと告げました。……彼の顔はこはくのように澄み、彼はかつてわたしが肉体を持つどんな人のうちにも一度も見たことのない力で覆われていました。』²² 預言者の死後、地上における神の教会と王国に対する責任は十二使徒定員会が負うことになった。

1844年6月、預言者に対して不当に騒乱罪の容疑がかけられた。預言者はノーブーで無罪となったが、イリノイ州知事のトーマス・フォードは、ジョセフを同じ容疑でハンコック郡の郡庁所在地であるイリノイ州カーセージに送って裁判にかけるべきであると主張した。預言者と兄のハイラムがカーセージに到着したとき、二人は当初の容疑に

関しては保釈されたが、次にイリノイ州に対する反逆罪の容疑がかけられ、その地区の監獄に入れられた。

1844年6月27日の蒸し暑い午後、顔を黒く塗った暴徒の一団が監獄を襲撃し、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスを殺害した。約3時間後、殉教者たちとともに監獄にいたウィラード・リチャーズとジョン・テラーは、深い悲しみに満ちた言づてをノーブーに送っている。「1844年6月27日午後8時5分、カーセージの監獄。ジョセフ、ハイラム死亡。……事は瞬時に行われた。」²³ 38歳で、預言者ジョセフ・スミス



カーセージの監獄。ジョセフ・スミスと兄のハイラム・スミスは
1844年6月27日にここで殉教した。

は自らの血をもって自分の証を確実なものとした。死すべき世におけるジョセフの業は終わり、神の教会と王国はこれを最後として地上に設けられ、ジョセフ・スミスは暗殺者の銃弾に倒れた。預言者ジョセフ・スミスについて、主御自身が次のように証しておられる。「わたしは、わたしの業をもたすために、ジョセフ・スミスをわたしの天使たち、すなわちわたしの奉仕の僕たち^{しもべ}によって、また天からのわたし自身の声によって呼んだ。彼はわたしの業の基を据え、忠実であった。それで、わたしは彼をわたし自身のもとに引き取った。多くの者は彼の死のゆえに驚いた。しかし、彼に誉れが与えられ、悪人が罪に定められるために、彼が自らの血をもって自分の証を確実なものとすることは必要であった。」(教義と聖約136:37-39)

末日の偉大な聖見者である預言者ジョセフ・スミスは、いと高き御方の雄々しく従順な僕であった。プリガム・ヤング大管長は次のように証言している。「地上に住む者でわたし以上に彼のことをよく知っている人はいないと思います。そしてわたしはあえて申します。イエス・キリストを除いて、この地上に生を受けた者で彼以上に善良な人物は過去におらず、現在もいません。わたしは彼の証人です。」²⁴

注

1. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1873年11月25日付, 1
2. ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの11人の子供のうち、幼少期以降まで生存したのは9人だけであったため、家族は通常、自分たちの家族は9人きょうだいであるとしていた。ジョセフの妹のキャサリンは、自分の名前に 'Katharine' のほかに 'Catherine' など様々なつづりを用いていた
3. Joseph Smith, *History 1832, 1: Letter Book 1, 1829-1835年*, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
4. Joseph Smith, *History 1832年, 1: Letter Book 1, 1829-1835年*, Joseph Smith, Collection. 教会記録保管課
5. *History of the Church*, 第4巻, 536。イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョーバー・バーストウの要請で書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 707に掲載
6. *History of the Church*, 第4巻, 536-537。イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョーバー・バーストウの要請で書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 707に掲載
7. 最初の大管長会はジョセフ・スミスを大管長、シドニー・リグドンとジェシー・ガウスを顧問として構成された。ジェシー・ガウスは大管長会の一員となった数か月後に教会を離れた。1833年3月18日、フレデリック・G・ウィリアムズが大管長会の顧問に任命された
8. *History of the Church*, 第6巻, 364。1844年5月12日、イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
9. 1833年8月10日、オハイオ州カートランドでオリバー・カウドリがミズーリ州ジャクソン郡の教会指導者にあてて書いた手紙にジョセフ・スミスが添えた追伸。教会記録保管課
10. *History of the Church*, 第3巻, 294。1839年3月20日、ミズーリ州リバティー、リバティーの監獄でジョセフ・スミスらがエドワード・パートリッジおよび教会にあてて書いた手紙から
11. 1839年3月7日、イリノイ州クインシーでエマ・スミスがジョセフ・スミスにあてて書いた手紙。Letter Book 2, 1837-1843

- 年, 37, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
12. *History of the Church*, 第4巻, 437-438。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1841年10月12日, イリノイ州ノーブーで十二使徒が「アメリカ大陸に散在している兄弟たち」にあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1841年10月15日付, 569に掲載
 13. 1831年5月, 生まれたばかりの双子を亡くしたジョセフ・スミスとエマは, 教会員のジョン・マードックと妻ジュリアの間に誕生した双子を養子として迎えた。マードック夫妻の双子はジョセフとジュリアと名付けられた。マードック姉妹は出産時に死亡し, 母親を失った5人の子供の父親となったマードック兄弟は, スミス夫妻に双子の世話をしてくれるよう頼んだのである
 14. *History of the Church*, 第6巻, 554。1844年6月24日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが語った言葉。ダン・ジョーンズによる報告
 15. マリー・イザベラ・ホーン "Testimony of Sister M. Isabella Horne," *Woman's Exponent*, 1910年6月号, 6
 16. 1843年9月10日, イリノイ州ノーブーでジョージ・W・タガートがニューハンプシャーの兄弟たちにあてて書いた手紙。アルバート・タガート, *Correspondence*, 1842-1848年と1860年で引用。教会記録保管課
 17. 1840年12月10日, イリノイ州ノーブーでウィリアム・クレイトンがイギリス・マンチェスターの教会員にあてて書いた手紙。教会記録保管課
 18. アンガス・M・キャノン "Joseph, the Prophet," *Salt Lake Herald Church and Farm Supplement*, 1895年1月12日付, 212
 19. プリガム・ヤング, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1868年9月15日付, 2
 20. *History of the Church*, 第3巻, 304。1839年3月20日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄でジョセフ・スミスらがエドワード・パートリッジおよび教会にあてて書いた手紙から引用
 21. 教義と聖約132章, 前書き参照
 22. ウイルフォード・ウッドラフ, 1897年3月12日にユタ州ソルトレーク・シティで語った言葉。Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1897年3月12日, 2
 23. *History of the Church*, 第6巻, 621-622。1844年6月27日, イリノイ州カーセージでウィラード・リチャーズとジョン・テラーが送った指示から
 24. プリガム・ヤング, *Deseret News*, 1862年8月27日付, 65



「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。
そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。」



最初の示現—— 御父と御子がジョセフ・スミスに 御自身を現される

「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方が
わたしの上の空中に立っておられるのを見た。
すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、
わたしの名を呼び、別の御方を指して、
『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」

ジョセフ・スミスの生涯から

イ エス・キリストが亡くなり、復活された後、徐々に背教が広まっていった。救い主の使徒たちは拒まれ、殺され、主の教えは汚され、神の神権は地上から取り去られた。昔の預言者アモスは、背教と霊的な暗黒の時代を次のように予告していた。「主なる神は言われる、『見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。』」（アモス8：11-12）

地上から失われた主の言葉を探し求めていた者たちがいた。1820年、ニューヨーク州パルマイラの田舎町に住んでいた少年ジョセフ・スミスはその一人だった。ジョセフは、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの11人中5番目の子供で、肌が白く、明るい茶色の髪と青い目を持つ、強くて活動的な少年だった。樹木が生い茂った100エーカー（約40.5ヘクタール）の家族の農場で、木を伐採し、作物を栽培する父親や兄たちを手伝う作業に、ジョセフは一日の大半を費やしていた。母親の記録によれば、ジョセフは「非常に物静かで思いやりのある子供」¹ であり、きょうだいのだれよりも「よく考え、深く思い計る」子供だった。² 家族の生活を支えるために働いたジョセフ

は、読み書きと計算の基礎を身に付ける程度の学校教育しか受けていなかった。

この時期、スミス一家が住んでいたニューヨーク州西部地域の至る所で、宗教について異常なまでの興奮が高まっていた。多くの人々と同様、スミス一家も、その地域で信仰を目覚めさせることを目的として開かれていた様々なキリスト教派の野外集会に参加していた。家族の中にはそれらの教会の一つに加わる者もいたが、ジョセフは加わらなかった。この時期について、ジョセフは後に次のように書いている。

「自分の不滅の魂の安らぎはどこにあるのだろうかということに深い関心を持ったわたしは、自然に聖典をひもとくようになった。聖典には神の言葉が書いてあると教えられていたからである。こうして、聖文の言葉を自分に当てはめてみたり、様々な教派の人たちと個人的に接触したりした結果、驚くべきことが分かった。彼らの信仰に基づく歩みと会話が聖書に記されていることと一致していないのだ。これは悲しいことだった。……

わたしは世の中のそうした状態について、すなわち不和と争い、悪意、憎悪、人の心を覆っている闇^{やみ}について様々なことを思い巡らしていた。わたしの心はひどく沈んでいった。自分に罪があることを自覚したからだ。聖文に照らしてみると、人類が主に心を向けておらず、真理とまことの信仰を捨て去っていることが分かったからだ。また新約聖書に記されているような、イエス・キリストの福音を基とした社会や教派は、当時存在しなかった。わたしは自分の罪と世の人々の罪を嘆き悲しんでいた。』³

真理を探し求めた末に、少年ジョセフ・スミスは森に入り、自分が必要としていた知恵を神に求めた。するとその祈りにこたえて、天の御父とイエス・キリストがジョセフに御自身を現され、末日に福音を回復するための道が開かれた。この驚くべき出来事について、ジョセフ・スミスは率直ながらも雄弁な言葉で詳しく述べている。

ジョセフ・スミスの教え

ジョセフ・スミスの真理の探究は、聖文の研究と心からの祈りが
啓示をもたらすことを教えている

ジョセフ・スミス—歴史1：5，7-13「わたしたちが住んでいた地域に宗教に関する異常な騒ぎがあった。それはメソジスト教徒から始

まったが、間もなく広くその地域内のすべての教派に及んだ。実に、その地方全体がそれに影響されたようであった。そして、大勢の群衆が様々な教派に加わり、それが人々の間にただならぬ騒ぎと分裂を引き起こした。『見よ、ここだ』と叫ぶ人がいれば、『見よ、そこだ』と叫ぶ人もいた。ある人はメソジスト派の教えを、ある人は長老派の教えを、またある人はバプテスト派の教えを擁護して論争していた。……

わたしは当時十四歳であった。父の家族は長老派の教えを受け入れ、そのうちの四人、すなわち母のルーシー、兄弟のハイラムとサミュエル・ハリソン、および姉のソフロニアがその教会に加入した。

このひどい騒ぎの間、わたしは心の中で深く考えさせられ、大きな不安を感じないではいられなかった。しかし、わたしの気持ちに深く、またしばしば痛烈に感じるものがあつたにもかかわらず、なおわたしはこれらすべての教派から遠ざかっていた。それでも、機会があるごとに、彼らのいろいろな集まりには出席した。そうするうちに、わたしの心はややメソジスト派に傾き、彼らに加わりたいたかなり望むようになった。しかし、様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、わたしのように若く、世間のことを知らない者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。

わたしの心は時々ひどくかき乱され、叫び声と騒ぎの渦は熾烈なもので絶えることがなかった。長老派の人々は、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々に断固反対し、あらんかぎりの理屈と詭弁の力を用いて彼らの誤りを立証しよう、あるいは少なくとも彼らは誤っていると人々に思わせようとした。他方、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々は、彼らは彼らで、同じくらい熱心に、彼ら自身の教義を確立して他がことごとく誤っていることを立証しようと努めた。

この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

これら宗教家たちの論争によって引き起こされた、極度に難しい事情の下で苦しんでいたある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第一章五節を読んでいた。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、



「この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。」

『願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』

この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。それはわたしの心の隅々に大きな力が入り込んで来るように思われた。もしだれか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟って、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。なぜならば、わたしはどうしてよいかわからず、また自分がそのときに持っていた知恵よりも深い知恵を得られなければ、どのように行くべきかまったくわからなかったからである。それというのも、様々な教派の教師たちは同じ聖句を異なって解釈し、その結果、聖書に訴えて疑問を解決することへの信頼をすべて打ち砕いてしまっていたからである。

とうとうわたしは、^{くらやみ}暗闇と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行くか、すなわち神に願い求めるか、どちらかにしなければならないという結論を出すに至った。わたしはついに『神に願い求め』ようと決意した。もし神が知恵に不足している者に知

恵を与え、しかもとがめもせず惜しみなく与えてくださるならば、思い切って願い求めてみるべきだと結論づけたのである。』⁴

ジョセフ・スミスはあらゆる義の敵の力から救い出された

ジョセフ・スミス—歴史1：14-16「そこで、神に願い求めるといふこの決心に従って、わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入ってしまった。それは千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまっただ中であっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。

わたしは前もって決めておいた場所に人目を避けて行き、辺りを見回し、自分一人であることを確かめると、ひざまずいて、心の願いを神に告げ始めた。わたしがそうし始めるやいなや、すぐにわたしは何かの力に捕らえられた。その力は完全にわたしを圧倒し、わたしの舌をしびれさせるほどの驚くべき力を振るったので、わたしは物を言うこともできなかった。深い闇がわたしの周囲に集まり、一時はあたかも突然の滅びを宣告されたかのように思われた。

しかし、わたしは自分を捕らえたこの敵の力から救い出してくださいと、あらんかぎりの力を尽くして神に呼び求めた。すると、わたしが今にも絶望し、破滅に身を任せようとしたその瞬間、すなわち想像上の破滅ではなく、目に見えない世界から来た実在する何者かの力、わたしがこれまでいかなる者にも一度も感じたことのないほどの驚くべき力を持った者の力に身を任せようとした瞬間、この非常な恐怖の瞬間に、わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。』⁵

ジョセフの謙遜な祈りにこたえて、天の御父とイエス・キリストが ジョセフに御自身を現された

ジョセフ・スミス—歴史1：17-20「それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞き

なさい』と言われた。

わたしが主にお伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るために、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであった。そこで、わたしは我に返って物を言えるようになるやいなや、わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか（当時は、すべての教派が間違っているということなど、わたしの心に思い浮かびもしなかったからである）、また自分はどれに加わるべきかを伺った。

すると、それらのどれにも加わってはならない、すべて間違っているからである、とのお答えであった。また、わたしに話しかけられた御方は、彼らの信条はことごとくその目に忌まわしいものであり、信仰を告白するそれらの者たちはすべて腐敗しており、『彼らは唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している』と言われた。

その御方は再びわたしに、それらのどれにも加わることを禁じられた。また、ほかにも多くのことをわたしに言われたが、今はそれを書くことができない。わたしは再び我に返ると、自分が天を見上げて仰向けに横たわっているのに気づいた。光が去った後、わたしには力がなかった。しかし、間もなくある程度力を取り戻したので、家に帰った。そして、暖炉に寄りかかっていると、母がどうしたのかと尋ねた。そこでわたしは、『何でもありません。大丈夫です。元気です』と答えた。それから、わたしは母に、『長老派の教えは真実でないことが自分で分かりました』と言った。敵対する者が、わたしの生涯のきわめて早い時期に、わたしが彼の王国を妨げ悩ます者になると定められていたことに気づいたかのように思われる。そうでなければ、どうして闇の力がわたしに敵対して連合したのであろうか。どうしてわたしがまだ幼いときに、わたしに対して反対と迫害が起こったのか。』⁶

あかし
証が強まると、迫害を受けても自分が真実であると知っていることを
否定することができない

ジョセフ・スミス—歴史1：21-26。「わたしはこの示現を受けてから数日後、前に述べた宗教上の騒ぎの中で盛んに活動をしていたメソジスト派の説教者の一人とたまたま一緒になった。そして、宗教のことについて彼と語るうちに、わたしは、その機会をとらえて、自分の

受けた示現の話をした。ところが、わたしは彼の振る舞いにひどく驚いた。彼はわたしの話を軽くあしらっただけでなく、ひどく軽蔑した調子で、それはすべて悪魔から出たものであって、この時代に示現や啓示のようなものはなく、そのようなものはすべて使徒たちで終わっており、今後決してそのようなものはない、と言った。

しかし、それから間もなく、わたしがその話をしたことが、信仰を告白する人々の間にわたしに対する大きな偏見を引き起こし、ひどい迫害の原因となったことを、わたしは知った。そして、迫害は増し続けた。わたしはたかが十四、五歳の名もない少年であり、生活の状況からいっても世の人々の中で取るに足りない少年であったにもかかわらず、地位のある人々はわたしに目を留めて、一般の人々の心をわたしに敵対するようにあおり、激しい迫害を引き起こそうとしたのである。これはすべての教派に共通したことで、すべてが連合してわたしを迫害したのであった。

当時、真剣に考えさせられ、またそれ以来しばしば考えさせられてきたことであるが、十四歳を少し超えたばかりの名もない少年、それも日々の労働によってわずかな生活費を得なければならない定めに置かれた少年が、当時最も評判の良い教派に属する偉い方々の注意を引き、最も激しい迫害と悪口雑言あっこうざうごんを浴びせようとする思いを彼らの心中に起こすほどの重要人物と思われようとは、何とも不思議なことである。しかし、不思議であろうとなかろうと、それは事実であり、しばしばわたし自身にとってひどい悲しみの種となった。

しかしながら、それでもわたしが示現を見たことは事実であった。わたしはそれ以来、自分はパウロによく似た心境であると思ってきた。彼はアグリッパ王の前で弁明し、自分が示現を受けて光を見、声を聞いたことを話した。それでもなお、彼を信じた者はほとんどなかった。ある者たちは彼は不正直だと言い、ほかの者たちは彼は気が狂っていると言った。そして、彼はあざけられ、ののしられた。しかし、すべてのことも、彼が示現を受けたという事実を損なうことはなかった。彼は示現を見た。彼はそのことを知っており、天の下のあらゆる迫害も、その事実を変えることはできなかった。たとえ迫害されて死に至ろうとも、それでも彼は、自分が光を見、自分に語りかける声を聞いたことを知っていたのであり、最後の一息まで知っていたことだろう。全世界も、彼にそうでないと考えさせ、信じさせることはできなかった。

わたしについても同じであった。わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。そして、そのように言ったことで、人々がわたしを迫害し、わたしをののしり、わたしに対して不当にあらゆる悪口を浴びせているとき、わたしはこのように心の中で言うようになった。『真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。わたしは実際に示現を見た。どうしてわたしは神に逆らえようか。なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか。』わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知っていた。

教派社会に関するかぎり、わたしは今や心に満足を得ていた。すなわち、それらのどれにも加わる義務はなく、次の指示があるまでそのままであればよかったのである。わたしはヤコブの証が真実であることを知った。すなわち、知恵に不足している者は神に願い求めることができ、そうすればとがめを受けることなく知恵を得られる、と。』⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 27-31ページを読んでください。疑問の答えを探し求めることについて、ジョセフ・スミスはどのような手本を示しているかを考えてください。最初の示現についてのジョセフの話の研究して、あなたは聖文を読むことや、深く考えること、祈ることについて、それぞれどのようなことを学びましたか。
- 31-32ページを読んでください。ジョセフ・スミスが最初の示現を受けたときに父なる神とイエス・キリストについて学んだ真理について考えてください。最初の示現について、わたしたち一人一人が証を持っていなければならないのはなぜでしょうか。
- ジョセフが最初の示現について話したとき、多くの人がジョセフに偏見を持ち、彼を迫害するようになりました(32-34ページ)。

人々がそのような反応を示したのはなぜだと思いますか。迫害を受けたことに対してジョセフはどう反応したかについて深く考えてください（33-34ページ）。迫害や試練に直面するとき、わたしたちはどのようにジョセフの模範に倣うことができるでしょうか。

- 最初の示現について初めて知ったとき、あなたはその話からどのような影響を受けましたか。それ以降、どのような影響を受けてきましたか。本章で再びこの出来事を研究することによって、あなたはどのように強められましたか。

関連聖句——イザヤ29：13-14；ヨエル2：28-29；アモス3：7；モルモン9：7-9

注

1. ルーシー・マック・スミス, "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1845年の原稿, 72, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー。預言者の母親であるルーシー・マック・スミスは, 1844年から1845年にかけて, マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイに自身の半生を口述しており, その中には預言者の生涯に関する内容が多く含まれている。マーサ・コーレイは, この初期の原稿を「歴史の下書き原稿」と呼んだ。1845年の後半, ルーシー・マック・スミス, マーサ・コーレイと夫のハワード・コーレイは, 初期の原稿を手直しし, さらに詳細な情報を加えた。1845年の原稿には『預言者の母, ルーシー・スミスの歴史』(The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet) との表題が付けられている。この本は, 1844年から1845年の原稿の抜粋である。しかし, 例外として1845年の原稿の数箇所の内容は, 1844年から1845年の原稿に含まれていない。
2. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844-1845年の原稿, book 4, 1, 教会記録保管課。
3. Joseph Smith, History 1832年, 1-2。Letter Book 1, 1829-1835年, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課。
4. ジョセフ・スミス—歴史1：5, 7-13。預言者ジョセフ・スミスは最初の示現について幾度か詳細にわたって記録または口述している。本章で引用している最初の示現についての記録は, 1842年に『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons) の「ジョセフ・スミスの歴史」("History of Joseph Smith") で初めて発表され (1842年3月15日付, 726-728。1842年4月1日付, 748-749), 後に高価な真珠に, また『教会歴史』(History of the Church) に収められたものである (第1巻, 1-8)。これは公式の聖文としての記録である。預言者ジョセフ・スミスはこの記録を, 1838年および1839年に, 筆記者たちの協力のもとで作成している。
5. ジョセフ・スミス—歴史1：14-16
6. ジョセフ・スミス—歴史1：17-20
7. ジョセフ・スミス—歴史1：21-26



最初の示現を通して、ジョセフ・スミスは御父と御子が別々の御方であられること、そして人が神の形に造られていること、すなわち、わたしたちと天の御父との実際の関係を理解するうえで不可欠な数々の真理を自ら学んだ。



永遠の父なる神

「わたしたちの神の目的は大いなるものであり、
その愛は果てしなく、その知恵は無限であり、
その力には限界がありません。ですから聖徒たちには、
喜び、うれしく思うべき理由があります。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスの祖先には、生涯のうちにまことの神を知ろうと努めた人々が大勢いた。ジョセフ自身の両親は非常に霊的な人で、周囲にあった教会に神についての完全な真理を見いだすことはできずにいたが、それでも聖書を神の言葉として尊び、祈りを日々の生活の一部としていた。預言者の弟であるウィリアムは次のように回想している。「父が信仰に関して身に付けていた習慣は、非常に敬虔^{けいけん}で、道徳的に立派なものでした。……わたしは朝晩、祈りに耳を傾けるように言いつけられました。……わたしの両親、父と母は、すべての祝福を与えてくださる神に、子供たちを守り、罪とあらゆる悪い行いから守ってくださるようにと、心を注ぎ出して願い求めていました。そのようにして両親は厳格に神を敬っていました。』¹ またウィリアムは次のようにも語っている。「ずっと以前から、わたしたちは常に家族の祈りをしていました。父が眼鏡をベストのポケットに入れて持ち歩いていたのをよく覚えています。……わたしたち息子は、父が眼鏡を手探りしだすと、それが祈りの準備をする合図であると心得ていました。もし見逃すと、母が『ウィリアム（またはその不注意な子がだれであろうと）、お祈りの準備をなさい』と言うのでした。祈った後は皆で歌を歌いました。今でもその詩の一部を覚えています。『また一日が暮れてゆき、我らは衣を傍らに置く。』』²

この幼いころに受けた霊的な修練は、若きジョセフ・スミスの心に深く染み込んでいった。自らの永遠の幸いについて考えるようになり、どの教会に加わるべきか知りたくなったとき、ジョセフは神に答え

を求められることを知っていた。

「わたしは聖文を通して、神は昨日も、今日も、またとこしえに変わらない御方であること、また人を偏り見ない御方であることを学びました。なぜなら神は神であられるからです。目を上げると、地球を照らす荘厳な太陽があり、天を運行する堂々とした月があり、各々の軌道の上で輝く星があるからです。さらにわたしが立っているこの地球があり、野の獣と、空の鳥と、海の魚がいるからです。さらに人間が、偉大で驚嘆すべき事物を治める力と英知を備え、万物を創造した御方の姿形に似せて造られた人間が、堂々と、力強く、悠々と地の面を歩いているからです。

そしてこれらの被造物について考えると、わたしの心は次のように叫びました。『『神はない』とその心の内に言うのは愚かなことである』とは、まさに至言だ。』〔詩篇53：1参照〕わたしの心は次のように叫びました。『すべての被造物が証し、示している、全能であり、すべての場所に存在する一つの力があることを、法則を定め、自ら定めた領域内に万物をとどめ、永遠を満たし、永遠から永遠にわたって存在する御方がおられることを。』そのようなことをいろいろと考えました。そして、その御方が霊とまこととをもって御自分を礼拝する人を探し求めておられることについて深く考えました〔ヨハネ4：23参照〕。それからわたしは、主に憐れみを叫び求めたのです。わたしが行って、憐れんでいただける御方はほかにいなかったからです。』³

憐れみと知恵を求めたジョセフの信仰に満ちた祈りは、最初の示現をもってこたえられた。その示現によって、若き預言者は神について当時のどの教会が所有していたよりもはるかに大いなる知識、幾世紀もの間世界から失われていた知識を得た。最初の示現を通して、ジョセフは御父と御子が別々の御方であられること、御二方の力が悪の力よりも偉大であること、そして人がほんとうに神の形に似せて造られていること、すなわち、わたしたちと天の御父との実際の関係を理解するうえで不可欠な数々の真理を、自ら学んだのである。

その後、神の性質に関するそのほかの様々な啓示が続き、その啓示の多くが現在、末日の聖典の中に収められている。福音の真理を地上に回復するために神に選ばれた道具である預言者ジョセフは、生涯を通じて絶えず神について証した。ジョセフは次のように宣言している。「わたしは神を尋ね求めます。皆さん全員に、神を知り、神と親しくなっていたきたいからです。……皆さんは、わたしが権能を持つ者のように語

るのを見て、わたしが神の僕しもべであることが分かるでしょう。]⁴

ジョセフ・スミスの教え

神は愛にあふれた全人類の御父であり、 あらゆる善の源であられる

「人類が互いに無慈悲に裁き、罪に定めている一方で、宇宙の偉大な親である御方は、全人類を父親としての思いやりと心遣いをもって見ておられます。神は人類を御自分の子供たちとして見ておられるのです。神は、人の子らに悪影響を及ぼす偏狭へんきょうな思いを抱かれず『悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして』くださいます〔マタイ5：45〕。]⁵

「わたしたちは神があらゆる善の大いなる源であられることを理解しています。また、神の英知は完全であり、神の知恵をもってすれば、大いなる創造物や世界を治めることなど造作ないことを知っています。わたしたちの頭上で壮麗に光り輝く創造物や世界は、あたかも、神の指に触れられ、神の全能の言葉に従って動いているようです。……もろもろの天は神の栄光を表し、大空は御手みての業を示しています〔詩篇19：1参照〕。ごく普通の理解力を備えた人ならだれでも、ただ少し思い巡らすだけで、これらはすべて単なる偶然の所産ではなく、全能者の手によらなければ支えられないことが理解できるでしょう。]⁶

「神には人の行動の隠れた動機がお分かりになります。神はすべての生ける者の心を御存じです。]⁷

「わたしたちの神の目的は大いなるものであり、その愛は果てしなく、その知恵は無限であり、その力には限界がありません。ですから聖徒たちには、喜び、うれしく思うべき理由があるのです。『これこそ神であり、世々かぎりなくわれらの神であって、とこしえにわれらを導かれる』ことを知っているのですから〔詩篇48：14〕。]⁸

神の性質を理解するとき、わたしたちは自分自身を理解し、 神に近づく方法を知ることができる

「神の性質を正しく理解している人はこの世にごく少数しかいません。人類の大部分は、過去と未来における神と人との関係について何も理解していません。それがどのような関係であったかを知らず、理解していません。その結果、理性のない獣同様、食べて、飲んで、眠

る以外のことは、ほとんど何も知りません。全能者の靈感によって与えられないかぎり、人は神あるいは神の存在についてほとんど何も分からないのです。

もし人が食べ、飲み、眠ることのほかに何も学ばず、神の計画について何も理解していないならば、それは野獣と同じです。野獣は食べ、飲み、眠ることだけを考えていて、神については何も知りません。しかし、もしわたしたちが全能者の靈感によって理解できなければ、野獣と同等の知識しか持っていないことになるのです。神の性質を理解しなければ、人は自分自身を理解することができません。では、初めに戻りたいと思います。皆さんの思いを、もっと高い領域へと引き上げてください。人が通常望むものよりももっと高い理解へと。

……聖文はわたしたちに次のように告げています。『永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることであります。』〔ヨハネ17:3〕

ある人が神を知らず、神はどのような御方のですかと尋ねるなら、——もし彼がそのことについて熱心に自分の心を探るならば——そしてもしイエスと使徒たちが告げたあの宣言が真実であるならば、彼は自分の中に永遠の命がないことを悟るでしょう。なぜなら、あの宣言以外のどの原則からも、永遠の命は得られないからです。

わたしが第1に目指しているのは、唯一の、知恵あるまことの神の性質と、神がどのような御方であられるかを知ることです。……

神御自身、かつては今のわたしたちのようであられました。そして今は昇栄した御方であって、かなたの天で御座みざに着いておられます！これは大なる奥義です。もし今日幕が裂けて、この世界を軌道上に保ち、あらゆる世界と万物を御自身の力によって支えておられる大なる神が御自身を現されたならば、わたしは申し上げますが、もし今日皆さんが神を目にしたならば、皆さんは神が人に似た形をしておられること、すなわち、体、形、姿がすべて皆さん自身のようであられることを知るでしょう。なぜなら、アダムは神の姿、形に、神にかたどって創造されたのであり、神から教えを受け、人が人と語り、親しく交わるように、神とともに歩き、語り、言葉を交わしたのです。……

……神について知ると、わたしたちは神に近づく方法と、神に尋ねて答えを受ける方法が分かるようになります。神の性質を理解し、神のもとに行く方法を知るとき、神はわたしたちに天の事柄を明らかにし、天についてすべてのことを語りだしてくださいます。わたしたち



「神について知ると、わたしたちは神に近づく方法と、神に尋ねて答えを受ける方法が分かるようになります。」

が神のもとに行く用意ができたとき、神はいつでもわたしたちのもとに来てくださるのです。』⁹

神会を構成する御三方は、それぞれ独立した御方であられる

信仰簡条1：1「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」¹⁰

1843年4月、ジョセフ・スミスは次の事柄を教え、それらは後に教義と聖約130：22に記録された。「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。しかし、聖霊は骨肉の体を持たず、霊の御方であられる。もしそうでなければ、聖霊はわたしたちの内にとどまり得ない。」¹¹

「わたしは常にこう宣言してきました。神は一人の御方であられ、イエス・キリストは父なる神とは別の御方であられ、聖霊も別の御方であって霊の御方であられると。この御三方は3人の異なった方々であり、3人の神々であられます。」¹²

「体や器官のないものは無です。天には肉や骨を持っておられる神

のほかに神はおられません。』¹³

神会は完全に一致し、父なる神が管理しておられる

「神と神会については多くのことが述べられています。……今日こんにちの教師たちは、御父は神であり、御子も神であり、聖霊も神であり、御三方は皆一つの体の中におられ、一つの神であられると言っています。イエスは、御父とイエスが一つであられるように、御父が世から選んでイエスにお与えになった人々も一つとなるように祈られました〔ヨハネ17：11-23参照〕。……

ペテロとステパノは、人の子が神の右に立っておられるのを見たこと証しています。天が開くのを見た人はだれでも、天には力の鍵かぎを持つ3人の御方がいて、そのうちの御一方がすべてを管理しておられることを知っています。』¹⁴

「この地が組織される前に、永遠の聖約が3人の御方の間で交わされました。それは地上の人々に対する御三方の務めに関連するものです。これらの方々は、……第一の神が創造主、第二の神が贖あがない主、そして第三の神が証人すなわち証する御方と呼ばれています。』¹⁵

「御父は最高位にある御方または会長として管理する務めを持ち、イエスは仲保者として、聖霊は証する御方すなわち証人としての務めを持っておられます。御子は幕屋〔を持っておられ〕、御父も同様ですが、聖霊は幕屋を持たない霊の御方です。』¹⁶

「聖文には『わたしと父とは一つである』とあります〔ヨハネ10：30〕。また、御父と御子と聖霊は一つであって、これらの御三方は一致しておられると述べられています〔1ヨハネ5：7-8参照〕。だから救い主は御父に次のように祈られたのです。『わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたが世から選んでわたしに賜った者たちのためであり、わたしたちが一つになるためです。』〔ヨハネ17：9, 11参照〕言い換えれば、思いを一つにして信仰の一致に至るように、ということです。それでもすべての人は異なった別々の人物であり、神とイエス・キリストと聖霊もまた同じように別々の御方ですが、御三方は完全に一致しておられるのです。』¹⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 37-38ページを読んで、若きジョセフ・スミスが周りの世界を見て、「全能であり、すべての場所に存在する一つの力がある」ことについて、どのような証拠を認めたかに注目してください。あなたはこれまで身の周りの世界で、神について証するものとしてどのようなものを目にしてきましたか。
- この章の最初の項(39ページ)を、神の性質を明らかにしている教えを探しながら読んでください。これらの教えはわたしたちが「喜び、うれしく思う」のをどのように助けてくれるのでしょうか。
- ジョセフ・スミスは「宇宙の偉大な親である御方は、全人類を父親としての思いやりと心遣いをもって見ておられます」と教えています(39ページ)。この言葉について深く考えると、あなたは何を思い、どう感じますか。
- 39ページの下から始まる段落とその次の段落を読んでください。神の性質を理解しなければ自分自身を理解することができないのはなぜでしょうか。
- 預言者ジョセフ・スミスは、父なる神とイエス・キリストと聖霊は「3人の異なった方々」であられると証しています。また、御三方は一つであられると教えています(41ページ)。神会の方々はどのような点で一つであられるのでしょうか(例として、42ページ参照)。
- 両親はどのようにして、天の御父に対する子供たちの愛をはぐくむことができるのでしょうか(例として、37ページ参照)。

関連聖句——ヨハネ8：17-19；ヘブル1：1-3；12：9；モーセ1：3-6, 39

注

1. ウィリアム・スミス, *Notes on Chambers' life of Joseph Smith* (1875年ごろ), 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. ウィリアム・スミス, E・C・ブリッグスとJ・W・ピーターソンによるインタビュー (1893年10月または11月)。Zion's

Ensign (復元末日聖徒イエス・キリスト教会、現在の「キリストの共同体」が発行する定期刊行物)に掲載。*Deseret Evening News*, 1894年1月20日付, 2に転載。原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正

3. ジョセフ・スミス, *History* 1832年, 2-3。Letter Book 1, 1829-1835年, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第6巻, 305。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
5. *History of the Church*, 第4巻, 595。 *Times and Seasons*, 1842年4月15日付, 759に掲載された論説“Baptism for the Dead”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
6. *History of the Church*, 第2巻, 12, 14。原文(英語)においては, 段落は変更。“The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” (1834年1月22日付) から。 *Evening and Morning Star*, 1834年2月号, 136; 1834年3月号, 142に掲載
7. *History of the Church*, 第1巻, 317。1833年1月11日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から。 *History of the Church*では, この手紙は誤って1833年1月14日付とされている
8. *History of the Church*, 第4巻, 185。1840年9月, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒にあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1840年10月号, 178に掲載
9. *History of the Church*, 第6巻, 303-305, 308。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正, 段落は変更。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
10. 信仰簡条1:1
11. 教義と聖約130:22。1843年4月2日, イリノイ州レイマスでジョセフ・スミスによって与えられた教え
12. *History of the Church*, 第6巻, 474。1844年6月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
13. ウィリアム・クレイトンによる引用, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教(日付不詳)についての報告。L・ジョン・ナトール, “Extracts from William Clayton’s Private Book,” 7, L・ジョン・ナトールの日記(1857-1904年), L. Tom Perry Special Collections, プリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。複写所有, 教会記録保管課
14. *History of the Church*, 第5巻, 426。1843年6月11日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
15. ウィリアム・クレイトンによる引用, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教(日付不詳)についての報告。L・ジョン・ナトール “Extracts from William Clayton’s Private Book,” 10-11, L・ジョン・ナトールの日記(1857-1904年), L. Tom Perry Special Collections, プリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。複写所有, 教会記録保管課
16. ウィリアム・P・マッキンタイヤーによる引用, 1841年初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告。ウィリアム・バターソン・マッキンタイヤー, Notebook 1840-1845年, 教会, 記録保管課。ウィリアム・マッキンタイヤーは, 1841年初めにノーブーでジョセフ・スミスが行った幾つかの説教について簡単な報告を残している。本書ではこれらの報告のうちの4つが引用されており, すべて日付は不詳である
17. ジョージ・ローブによる引用, ジョセフ・スミスの説教の抜粋集から(1845年ごろ)。ジョージ・ローブ, *Reminiscences and Journal*, 1845年1月-1857年4月, 29-30, 教会記録保管課



イエス・キリスト、 世の聖なる贖い主

「イエス・キリストの執り成しがなければ、
世に救いがもたらされることはありません。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスが生まれるはるか以前に、ジョセフの父方の祖父は自分の家族の中で「世界を変えるような」何かが起こるといふ靈感を受けていた。¹ ジョセフ・スミスの歴史には次のように記録されている。「祖父アサエル・スミスは、ずっと以前に、自分の家族の中から預言者が立てられるだろうと預言していました。そして祖母は、それがわたしによって成就したことに大変満足したのです。祖父アサエルは、モルモン書を手にしてほぼすべてを読み、『ジョセフこそ、家族の中から将来出て来るとわたしがずっと前から知っていた、まさにその預言者である』と宣言した後、ニューヨーク州セントローレンス郡イーストストックホルムで亡くなりました。」²

回復の預言者として、ジョセフ・スミスの果たすべき最も重要な責務の一つは、イエス・キリストについて証^{あかし}することだった。ジョセフはイエス・キリストの神性について直接知り、世の贖い主として主が果たされた任務を理解するという祝福を受けた。この知識は最初の示現を出発点としていた。少年ジョセフはこの示現の中で天の御父とイエス・キリストを見て、御父が「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と宣言されるのを聞いた（ジョセフ・スミス—歴史1：17）。この神聖な経験の中で、ジョセフは世の救い主から教えを受けるという特権に浴したのだった。

それから12年近く後の1832年2月16日、預言者はオハイオ州ハイラムにあるジョン・ジョンソンの家で、シドニー・リグドンを筆記者として聖書を翻訳していた。善人と悪人の復活について述べられているヨハネ5：29を翻訳した後、ジョセフとシドニーに示現が開かれた。二人は救



カートランド神殿で、救い主がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御姿を現された。ジョセフは次のように述べている。「わたしたちの心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた。わたしたちは、主が……教壇の手すりの上に立っておられるのを見た。」

い主を目にして、救い主と言葉を交わした。

「神にかかわる事柄を目にし理解できるように、御^{みたま}霊の力によってわたしたちの目は開かれ、わたしたちの理解に光が注がれた。それらの事柄は、世界が存在する前に初めからあったこと、まことに初めから御父^{ふところ}の懐におられた御父の独り子を通して御父によって定められたことである。わたしたちはその御方について証する。わたしたちが述べる証は、御子であるイエス・キリスト、すなわち、わたしたちが天の示現の中で目にし、言葉を交わしたイエス・キリストの完全な福音である。……

そして、わたしたちは御父の右に御子の栄光を見、その完全を受けた。また、神と小羊を拝しており、またとこしえにいつまでも神と小羊を拝する、聖なる天使たちと聖^{きよ}められている者たちを御父^{みご}の御座の前に見た。

そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。』(教義と聖約76：12-14, 20-24)

1836年4月3日、ジョセフ・スミスは再び救い主にまみえた。そのとき、預言者ジョセフとオリバー・カウドリは、二人だけでカートランド神殿の西の教壇の所にいた。二人が身をかがめて厳肅に祈りをささげた後に、救い主が二人の前に御^{みすがた}姿を現された。預言者は次のように宣言している。

「わたしたちの心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた。わたしたちは、主がわたしたちに面して教壇の手すりの上に立っておられるのを見た。その足の下には、こはくのような色の純金の床があった。その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流^{ほんりゅう}のとどろきのようで、このように言われた。『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』』(教義と聖約110：1-4)

このような経験から直接に知識を得た預言者ジョセフ・スミスは、救い主の神性について特別な証人となったのだった。

ジョセフ・スミスの教え

いつの神権時代にも、神の民は罪の赦しを得るために キリストの贖罪にすがっていた

「イエス・キリストの執り成しがなければ、世に救いもたらされることはありません。」³

「神は……御自身の御子を遣わすことによって一つの犠牲を用意されました。御子は道を備えるために、すなわち人が（不従順のゆえに主のもとから追い出されている人類が）主のもとに行く扉を開くために、定められたときに遣わされることになっていました。この喜びのおとずれは、メシヤの来られるときまで、世の様々な時代の人々に届けられていました。

この贖罪、すなわち贖いの計画を信じる信仰によって、アベルは神に羊の群れの初子を犠牲としてささげ、神はそれを受け入れられました。カインは地の産物をささげましたが、神はそれを受け入れられませんでした。なぜならば、カインは信仰によってささげなかったからです。天の計画に反するささげものをしながら、信仰を持つこと、言い換えれば信仰を働かせることはできなかったのです。人を贖うには、独り子の血が流される必要があります。これが贖いの計画であって、血が流されなければ、赦しはないのです。犠牲とはそもそも、神が備えてくださった大いなる犠牲を人が識別できるように予型として定められたものです。ですから、この定めと相いれない犠牲をささげつつ、同時に信仰を働かせることなど不可能なのです。贖いはそのような方法によって実現されたものではありませんし、贖罪の力もそのような秩序に基づいて効力を及ぼすものではありません。だから、カインは信仰を持てなかったのです。何であろうと信仰によらないものは罪です。一方、アベルは神から受け入れられる犠牲をささげ、義なる者と認められました。神御自身が彼の供え物をよしとされたのです〔ヘブル11：4参照〕。

確かに、動物の血を流すことは人にとって何の益にもなりません。そのような行為に意義があったのは、それが、神御自身の賜物を通してささげられる犠牲の模倣、予型、説き明かしとして行われたからです。罪の赦しのためにささげられる大いなる『犠牲』の力を、信仰の目をもって待ち望みながら行われたからこそ意義があったのです。……

……多くの人はいこう考えています、昔のあらゆる時代の人々は天の制度について無知であったと。でもわたしたちにはそのような考えは

信じられません。なぜなら、キリストの来臨の前でも後でも、かつて救われた人は皆、偉大な贖いの計画の力によって救われたからです。もしそうでなければ、神は人を連れ戻して御自身とともに住ませるために、(言わば)異なる計画を幾つも実施しておられたということになってしまいます。しかし、そのようなことは信じられません。なぜなら、墮落以来人の性質は変わっていませんし、犠牲の血をささげる儀式あるいは規定は、キリストが犠牲となり血を流される時まで、前に述べたように、人が信仰をもってその時を待ち望むことができるようにするという理由だけのために、そのときまで続けられると定められていたからです。……

イエスがユダヤ人に語られた次の注目すべき言葉から、犠牲をささげることが、ただ思いをキリストに向けさせるためだけに行われていたことを、推し量ることができます。『あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいて、そしてそれを見て喜んだ。』〔ヨハネ8：56〕したがって、犠牲をささげていた昔の人々は、そのせいで福音を聞くのを妨げられたことにはならないのです。前に述べたように、犠牲をささげることによって彼らは目を開き、救い主の来られる時を待ち望み、主の贖いを喜びとしたのです。……わたしたちは次のように結論づけることができます。すなわち、主がいにしえの時代の人々に御自身を現し、御自分に犠牲をささげるように命じられたときは常に、主の来られる時を信仰をもって待ち望み、罪の赦しを得させる贖罪の力に頼るように教えることを目的とされていました。そして無数の先人たちがそのように行ってきました。彼らの衣には染みがなく、彼らはヨブのように確信を抱きながら、末日に地上で、肉にあって主にまみえるのを待っているのです〔ヨブ19：25-26参照〕。

わたしたちは次のように結論づけることができます。すなわち、過去に様々な神権時代がありましたが、神が御自分の民に知らされたことはすべて、民の思いを偉大な目的に向けさせ、その律法に示されているように、自分たちの救いの創始者である神にのみ頼るよう教えるためのものでした。』⁴

**イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、
すべての人は復活する**

「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証^{あかし}です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日



「神の小羊が復活をもたらされたことによって、
すべての人は死者の中からよみがえるのです。」

目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。しかしこれらの原則に関連して、わたしたちは聖霊たまものの賜物と、信仰の力、神の御心みこころによる霊的な賜物、イスラエルの家の回復、そして真理の最終的な勝利を信じています。』⁵

『「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである』とあるように、すべての人

は死者の中からよみがえります〔1コリント15：22〕。神の小羊が復活をもたらされたことによって、すべての人は死者の中からよみがえるのです。〕⁶

「神は世に裁きを下す日を定めておられます。そして、神はそれが確かであることを保証するために、御子イエス・キリストを死者の中から復活させられました。御子の復活は、靈感された記録を信じるすべての人にとって希望の礎であり、彼らの未来の幸福と喜びはそれに基礎を置いているのです。神は御子の復活によって彼らに確かな希望をお与えになりました。なぜなら『もしキリストがよみがえらなかったとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになろう。そうだとすると、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのである』とパウロはコリント人に述べています〔1コリント15：17-18〕。……

キリスト御自身が間違いなく死者の中からよみがえられました。主は死者の中からよみがえられたのですから、御自身の力によって、すべての人を御自分の前に立たせられるでしょう。なぜなら、もし主が死者の中からよみがえられたのであれば、肉体の死の縄目は断たれており、墓は勝利を得ないからです。そしてもし墓が勝利を得ないならば、イエスの言葉を守り、その教えに従う人々は、死者の中から復活するという約束だけでなく、主の栄えある王国に入ることができるとい保証も受けることになります。イエス御自身が次のように言っておられるからです。『わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。』〔ヨハネ12：26〕⁷

「イエス・キリストにあって死んだ人々は、出て来るときに、この世で得ていた、あるいは待ち望んでいたすべての喜びに入ると考えることができます。……わたしは皆さんに幾つかの事柄を伝える特権が与えられたことをうれしく思います。よく注意を払って理解しているならば、地震がとどろき、雲が集まり、稲妻が光り、嵐が雷鳴のよう^{あらし}に突如襲ってくる時があっても、これらの事柄は皆さんにとって助けとなるでしょう。これらの事柄をしっかりと心に刻み込んでおくことによって、ひざや関節を震えさせたり、気落ちしたりすることのないようにしてください。そのようにしているなら、地震や戦争や竜巻に何ができるというのでしょうか。何もできません。もし皆さんが忠実であり続けるならば、失ったものは復活のときにすべて元どおりにされるでしょう。全能者の示現によって、わたしはそれを見ました。……

神は天から御自身の御子を現し、また復活の教義を示してください

ました。わたしたちがここに葬る人々を神が再び連れ出して、彼らにまとわせ、偉大な神の御霊みたまによって生かしてくださるということを知っています。もう彼らをここに引き止めておくことはできないのですから、わたしたちが彼らを横たえようと、あるいは彼らとともに横たわろうと、それは大した問題ではありません。後の世でことごとく受けることになるものをこの世で受け始められるように、これらの真理を心に深く刻み込んでください。』⁸

**キリストの贖罪しよくざいにより、福音に従うことによって、
イエス・キリストと共同の相続人となることができる**

「わたしはイエス・キリストが神であること、アダムによって墮落しているすべての人の罪のために死なれたことを信じています。』⁹

信仰箇条1：3「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。』¹⁰

「天地を創造された後、神は降りて来て、6日目にこう言われました。『わたしたち自身の形に人を造ろう。』どなたの形に、でしょうか。神々は彼らを御自身の形に創造され、罪がなく、素直で、染みがなく、神々と同じ性質と同じ形を持った男と女に創造されたのです〔創世1：26－27参照〕。そして彼は墮落してもその形を失いませんでした。彼は、自らの造り主の形をその特色としてとどめました。キリストは、人の形ではありますが、そのキリストもまた御父の生き写しです〔ヘブル1：3参照〕。……キリストの贖罪と復活により、また福音に従うことによって、わたしたちは再び御子イエス・キリストの形に似た者となるのです〔ローマ8：29参照〕。そのときわたしたちは神の形と栄光と特質を得ているはずです。』¹¹

「わたしたちの霊の御父は、御自分がお造りになったもののためにささげものを〔備えられました〕、そして、贖いあがなの計画、贖罪の力、救いの計画を準備されました。それは人々を天の王の前に連れ戻し、日の栄えの栄光の冠を与え、朽ちることも、汚されることも、消滅することもない受け継ぎを御子とともに継がせるという大いなる目的のためでした。』¹²

「聖文には、戒めに従う人々は神の相続人となり、キリストと共同の相続人になると述べられています。……『御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために肉にあって苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人

なのである。』〔ローマ8：16-17参照〕¹³

「夫や妻，父親，母親，子供，愛する親族と死別して嘆き悲しむ者にとって，この知識は何と大きな慰めを与えることでしょうか。すなわち，地上の幕屋は横たえられて朽ちても，彼らは再びよみがえり，不死不滅の栄光をもってとこしえの燃える火の中に住むのです。そこにはもはや悲しみも，苦しみも，死もなく，彼らは神の相続人となり，イエス・キリストと共同の相続人となるのです。」¹⁴

イエス・キリストは完全で，清く，聖なる御方であり，御自分に似た者となるようにわたしたちを招いておられる

「この終わりの時のすべての聖徒の中で，だれが自分を，わたしたちの主と同じくらい善良であると考えられることができるでしょうか。だれが主と同じくらい完全で，同じくらい清く，同じくらい聖なる者だと言えるでしょうか。そのような人を探し出せるでしょうか。主は天の戒めや律法に背いたり，破ったりするようなことは決してなさいませんでした。主の口には欺きがなく，心には偽りが見られませんでした。……キリストのような人がどこにいるでしょうか。そのような人を地上に見いだすことはできません。」¹⁵

「人は虚無に服しましたが，それは自分の意志によるのではなく，キリストが希望のうちに人を服従させられたのです〔ローマ8：20参照〕。——すべての人は，苦難に取り囲まれて曲がりくねった道を旅する間，虚無に服します。むなしいものから解放されている人がどこにいるでしょうか。イエスのほか，完全な人は一人もいませんでした。ではなぜイエスは完全であられたのでしょうか。それはイエスが神の御子であって，御霊を完全みたまに受けておられ，どんな人よりも大きな力を持っておられたからです。」¹⁶

「〔イエス・キリストは〕まだ少年だったころから，ユダヤ人の王国を治め，統治するために必要な英知をすべて備えておられました。また，最も賢く最も見識に富んだ律法学者や神学者たちに道理を説くこと，御自分の持つておられる知恵に比べれば，彼らの論理や行いが愚かなものに見えてくるようにすることがおできになりました。」¹⁷

「皆さんが主の戒めを絶えず心の中で思い巡らしているように願っています。また皆さんが，主の福音を宣言することに関する主の御心こころを学んでいるように願っています。それだけでなく，主が邪悪で不義な時代の人々から容赦のない迫害と虐待をお受けになったときでさえ，すべての人の前を柔和に，そして完全に歩まれたということを選んでほしいのです。兄弟の皆さん，主が皆さんに聖きよくなるよう招いて



「そのような主の聖さと完全さについて深く考えるとき、主が御自身を低くされたことに、わたしたちの心は和んでいきます。」

おられることを覚えていてください。そうすれば純粹さにおいて主と似た者となるようにと、わたしたちが言う必要があるでしょうか。また、皆さんは主の前にどれほど賢く、どれほど聖く、どれほど純潔に、どれほど完全に振る舞うべきでしょうか。そして、主の目がいつも皆さんのうえにあることも覚えておいてください。]¹⁸

「わたしたちの大いなる主は、御自身を犠牲とすることによって、わたしたちが主のもとに行く道を開いてくださいました。そのような主の聖さと完全さについて深く考えるとき、主が御自身を低くされたことにわたしたちの心は和んでいきます。また、主がその栄光をもってすべての聖なる天使とともに来られるとき、わたしたちが心安らかに主とお会いする用意ができてるように、主はあらゆる事柄において完全になるようわたしたちに求めておられます。そのことについて考えるとき、わたしたちは兄弟たちに謙遜^{けんそん}であってよく祈り、実際に光の子また昼の子として歩むよう、声を大にして勧めたいと感じます。

兄弟たちが恵みを受けて、わたしたちの主イエス・キリストの尊い名によってあらゆる誘惑に立ち向かい、あらゆる悪に打ち勝つためです。なぜなら兄弟の皆さん、家の主人が立って戸を閉じ、礼服を着けている者だけが婚宴で席に着くのを許される日がほんとうに近いからです〔マタイ22：1-14参照。〕¹⁹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスが受けた救い主の示現についての話を読んでください（45-47ページ）。これらの経験について深く考えるとき、何を思い、どういう気持ちになりますか。
- 昔、動物の犠牲は主の民が「目を開き、救い主の来られる時を待ち望み、主の贖いを喜び」とするよう教えるために行われていました（49ページ）。今日あなたが救い主に目を向けるよう促してくれるものに、どのようなものがありますか。
- 49ページの下から始まる段落を読んでください。そこにある「付随するもの」という言葉は、木の幹につながっている枝のように、より重要なものにつながっているものという意味です。救い主の贖罪と復活に関する使徒や預言者の証が「わたしたちの宗教の基本原則」となるのはなぜだと思いますか。ほかのすべての事柄がこれらの原則に付随することを心に留めるなら、家庭や教会における奉仕についてあなたはどのような姿勢で取り組むでしょうか。
- 復活についての預言者ジョセフの教えを読んでください（49-52ページ）。「もし皆さんが忠実であり続けるならば、失ったものは復活のときにすべて元どおりにされるでしょう」という教えは、どのような慰めを与えてくれるでしょうか。わたしたちが「後の世でことごとく受けることになるものを……受け始め」るために、復活についての知識はどのように助けとなるでしょうか。
- 52-53ページを読んでいる間、わたしたちが主と共同の相続人になれるように主が行ってくださったことについて深く考えてください。主の贖いの犠牲に対する感謝を主に表す方法を考えてください。
- 53-55ページで、預言者ジョセフ・スミスは救い主の様々な属性に

ついて述べています。救い主の生涯と使命について考えるとき、ほかにどのような属性が思い浮かびますか。いっそう主に似た者となるためにあなたにできることについて考えてください。

関連聖句——イザヤ53：1-12；2ニーファイ9：5-26；教義と聖約20：21-29

注

1. ジョージ・A・スミスによる報告。Deseret News, 1857年8月12日付, 183
2. *History of the Church*, 第2巻, 443. "History of the Church" (原稿), book B-1, 補遺, 5から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
3. *History of the Church*, 第5巻, 555. 1843年8月27日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
4. *History of the Church*, 第2巻, 15-17. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。段落は変更。"The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。Evening and Morning Star, 1834年3月号, 143に掲載
5. *History of the Church*, 第3巻, 30. *Elders' Journal*, 1838年7月号, 44に掲載された論説から。ジョセフ・スミスは同誌の編集者であった
6. *History of the Church*, 第6巻, 366. 1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
7. *History of the Church*, 第2巻, 18-19. 原文(英語)においては, 段落は変更。"The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。Evening and Morning Star, 1834年3月号, 144に掲載
8. *History of the Church*, 第5巻, 361-362. 原文(英語)においては, 段落は変更。1843年4月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
9. *History of the Church*, 第4巻, 78. 1840年2月6日, ワシントンD.C.でマシュー・L・デービスがメアリー・デービスにあてて書いた手紙から, 1840年2月5日にワシントンD.C.でジョセフ・スミスが行った説教についての報告
10. 信仰箇条1:3
11. ジェームズ・バージェスによる, ジョセフ・スミスの説教の抜粋集での引用。ジェームズ・バージェス, *Journals*, 1841-1848年, 第2巻。教会記録保管課
12. *History of the Church*, 第2巻, 5. "The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。Evening and Morning Star, 1834年2月号, 135に掲載
13. ジョージ・ローブによる, ジョセフ・スミスの説教の抜粋集での引用(1845年ごろ)。ジョージ・ローブ, *Reminiscences and Journal*, 1845年1月-1857年4月, 31. 教会記録保管課
14. *History of the Church*, 第6巻, 306. 1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
15. *History of the Church*, 第2巻, 23. "The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。Evening and Morning Star, 1834年4月号, 152に掲載
16. *History of the Church*, 第4巻, 358. 1841年5月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。Times and Seasons, 1841年6月1日付, 429-430に掲載
17. *History of the Church*, 第6巻, 608. 1844年6月27日, イリノイ州カーセージ, カーセージの監獄でジョセフ・スミスによって与えられた教えから。サイラス・H・ウィーロックによる報告
18. *History of the Church*, 第2巻, 13. "The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。Evening and Morning Star, 1834年3月号, 142に掲載
19. 1833年11月23日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスと大祭司たちがニューヨーク州ジェネシオの兄弟たちにあてて書いた手紙, 教会記録保管課



モルモン書—— わたしたちの宗教のかなめ石

「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスがどの教会に加わるべきかを知るために祈った1820年の朝から、3年以上の歳月がたっていた。若き預言者は17歳になっており、神の前における自分の立場を知り、また赦しを受けたいと望んでいた。1823年9月21日の夜、ジョセフはニューヨーク州パルマイラにあった、家族が住む丸太造りの家の屋根裏の寝室で床に就いた。しかし部屋にいたほかの兄弟たちが眠った後も目を覚ましていて、自分に対する神の御心をもっと知ろうとして真剣に祈った。ジョセフは次のように語っている。「わたしはその夜、床に就いた後、全能の神に、わたしのすべての罪と愚かな行いを赦してくださいるように、また神の前における自分の状態と立場を知るために示しを下さるよう、祈って嘆願した。以前に受けたように、神の示しを頂けるという十分な確信があったからである。」（ジョセフ・スミス—歴史1：29）

祈りの答えとして、ジョセフは室内に光が現れるのを見た。その光は明るさを増していき、ついに部屋は「真昼の時よりも明るく」なった。そしてベッドの傍らに「この上なく美しい白さ」の衣を着た一人の天の使者が現れ、空中に立った（ジョセフ・スミス—歴史1：30－31）。この使者は、ニーファイ人の最後の預言者であるモロナイであった。モロナイはモルモン書が書き記された版を幾世紀も前に埋めており、この神聖な記録に関する鍵かぎを持っていた（教義と聖約27：5参照）。モロナイは、神がジョセフの罪を赦し、彼のなすべき業を備えておられることを告げるために遣わされたのであった。この業の一部として、ジョセフは近くの丘に行くように求められた。そこには金版



1827年9月22日、ジョセフ・スミスはモロナイから金版を受け取った。預言者は次のように証^{あかし}している。「わたしは版を……それからウリムとトンミムとともに手に入れ、そのウリムとトンミムによって版を翻訳しました。こうしてモルモン書が出されたのです。」

に書き記された神聖な記録が隠されていた。この記録は、昔アメリカ大陸に住んでいた預言者たちによって書き記されたものであった。そして神の賜物^{たまもの}と力によって、ジョセフはその記録を翻訳して世にもたらすことになっていた。

翌日、ジョセフはモルモン書の版が埋められている丘に行った。その場所でジョセフはモロナイと会い、版を見たが、4年間はそれらを受け取ることはないと告げられた。モルモン書の翻訳という神聖な務めに携わるのにふさわしくなるために、重要な準備の期間が始まることになっていたのである。ジョセフはそれから4年間、毎年9月22日にその丘に行き、モロナイからさらなる指示を受けた（ジョセフ・スミス—歴史1：33-54参照）。この間、ジョセフはまた「神の天使たちの訪れを幾度も受け、終わりの時に起こるべき尊厳と栄光に満ちた出来事を明らかに」された。²

またこの準備の期間に、預言者の人生に結婚という祝福がもたらされた。1827年1月、ジョセフはペンシルベニア州ハーモニーで働いていたときに出会ったエマ・ヘイルと結婚した。エマは預言者の務めの期間を通じて彼の大切な助け手となった。1827年9月22日、エマはジョセフとともに丘に行き、モロナイが版を預言者の手に渡している間、近くで待っていた。

神聖な記録を手に入れたジョセフは、なぜモロナイが版を守るように警告したのかをすぐに理解した（ジョセフ・スミス—歴史1：59-60参照）。地域の暴徒が幾度も版を盗もうとし、預言者を悩まし始めたのだ。1827年12月のある寒い日、穏やかに仕事ができる場所を見いだすために、ジョセフとエマはスミス家の家を離れて、ハーモニーに住むエマの両親のところに避け所を求めた。その地で、預言者は翻訳の仕事に着手した。翌年の2月、パルマイラに住むスミス家の友人であるマーティン・ハリスが、ハーモニーに行って預言者を手伝うようにとの靈感を受けた。マーティンを筆記者として、ジョセフは神聖な記録の翻訳を進めた。

預言者ジョセフが翻訳したものは、後にモルモン書として出版されることになる。完全な福音が載っているこの驚くべき書物は、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であり、ジョセフ・スミスが預言者としての使命を帯びていたことについての^{あかし}証となっている。

ジョセフ・スミスの教え

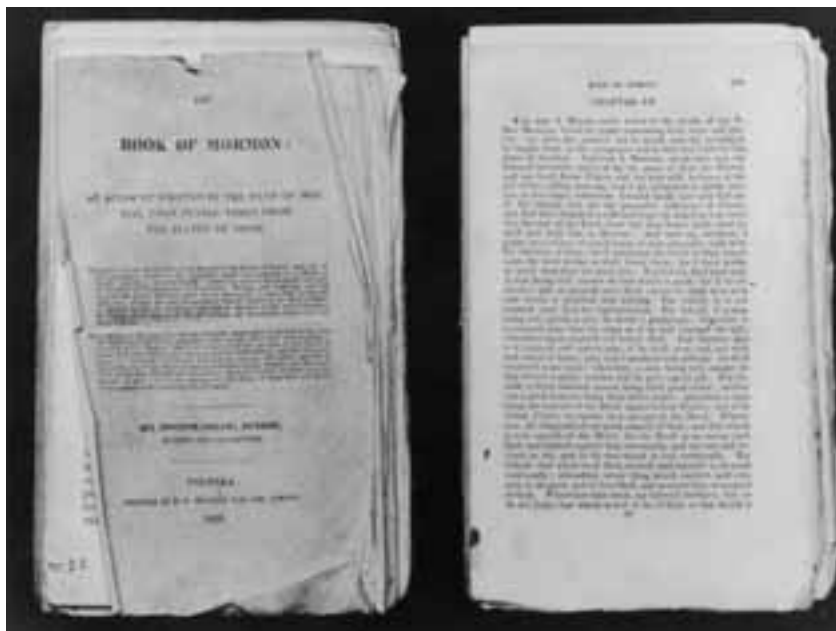
モルモン書は神の賜物たまものと力によって翻訳された

「モルモン書をどのように、また、どこで手に入れたのですか」との質問に、ジョセフ・スミスは次のように答えている。「ニューヨーク州オンタリオ郡マンチェスターのある丘に版を隠したモロナイが、死者の中からよみがえり、わたしに現れ、その版のある場所をわたしに告げ、そしてそれを手に入れる方法についてわたしに指示を与えました。わたしは版を手に入れ、それからウリムとトンミムも手に入れ、そのウリムとトンミムによって版を翻訳しました。こうしてモルモン書が出されたのです。」³

「わたしは、この大陸に住んでいた昔の預言者たちの記録を短くまとめたものが刻まれている幾つかの版が隠されている場所〔をモロナイから告げられ〕ました。……これらの記録は、金のように見える版に刻まれていました。またそれぞれの版は横6インチ（15センチ）、縦8インチ（20センチ）で、普通のブリキほど厚くはありませんでした。版にはエジプトの文字がいっぱい刻んであり、すべてに3つの輪が通されていて、本のページのように1冊にとじられていました。全体で厚さは6インチ（15センチ）近くあり、一部が封じられていました。封じられていない部分の文字は小さく、きれいに刻まれていました。また全体にわたって、その作りの古さを示す多くのしるしが見られ、彫刻の技術は見事でした。また記録とともに、昔の人々が『ウリムとトンミム』と呼んだ珍しい道具も見つけました。それはつるの縁にはめられた二つの透明な石から成っていて、そのつるは胸当てに付けてありました。わたしはウリムとトンミムの仲立ちにより、神の賜物と力によって記録を翻訳しました。」⁴

「神の力によって、わたしは象形文字からモルモン書を翻訳しました。わたしは、世から失われた知識を翻訳していたのです。そのすばらしい出来事の中で、無学な若者であるわたしはたった独りで立ち、この新たな啓示を携えて、この世の知恵と、そして18世紀もの間蓄積された無知と闘ったのです。」⁵

「わたしはここで述べておきたいのですが、モルモン書のタイトルページは、本のようにとじられたあの版の、最後の1枚の左側にあった文章を一語一語そのまま翻訳したものです。その版にはこれまで翻訳されてきたこの記録が載せてあって、版の上の文字は全体を通じて



左、モルモン書の初版のタイトルページ。

ヘブル語で書くときと同じ方向〔つまり、右から左〕に書かれていました。そして、このタイトルページは、現代に書かれたものでは決してなく、わたしが書いたのでも、この時代にこれまでに生きた、あるいは今生きているだれかが書いたものでもありません。……わたしは以下に、モルモン書の英語版のタイトルページのその部分を記します。これはあの版に記録されていたとおりの、モルモン書の原書のタイトルページからそのまま逐語訳したものです。

『モルモン書

モルモンがニーファイの版から取って自分の手で別の版に
書き記した記録

したがってこれは、ニーファイの民とレーマン人についての記録を短くまとめたものである。——イスラエルの家の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人にあてて書き記されたもの——戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの——書き記され、封じられ、主に託して隠され、損なわれることのないようにされたもの——神の賜物と力によりもたらされ、翻訳されるもの——定められたときに異邦人によって伝わるように、モロナイの手により封じ

られ、主に託して隠されたもの——また、神の賜物により翻訳されるものである。

これには、エテル書から取って短くまとめたものも含まれている。エテル書はヤレドの民の記録であり、ヤレドの民は主が民の言語を乱されたとき、すなわち民が天に達しようと一つの塔を建てていたときに散らされた人々である。——これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、また、彼らはとこしえに捨てられないという主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。——また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。——ところで、もし誤りがあるとすれば、それは人の犯した間違いである。したがって、キリストの裁きの座で染みがないと認められるために、神にかかわるものを非難しないようにしなさい。』⁶

主の知恵は悪魔の狡^{こうかつ}猾さに勝っている

1828年6月14日までに、ジョセフ・スミスはモルモン書の版からの翻訳で116ページの原稿を仕上げていた。そのとき、この神聖な記録を世に出すに当たっての神の導きの手について、預言者に大きな教訓を与える一つの事件が起きた。預言者は次のように記している。「ハリス氏は筆者となってしばらくすると、原稿を家に持ち帰って家族に見せるのを許可してほしいとしきりに求めるようになりました。そして持ち帰ってもよいかを、ウリムとトンミムを通して主に尋ねてほしいと頼んできました。そこでわたしが尋ねると、そうしてはならないという答えでした。しかし、ハリス氏はこの答えに満足せず、もう一度尋ねてほしいと願いました。わたしはそのようにしましたが、答えは以前と同じでした。それでもなお彼は満足できず、もう一度尋ねるように強く求めました。

大いに懇願された末、わたしが再び主に尋ねると、特定の条件の下で原稿を持ち出してもよいという許可が与えられました。その条件とは、ハリス氏が原稿を見せてよいのは、彼の兄弟であるプリザーブド・ハリスと、彼自身の妻と、両親と、妻の姉妹であるコブ夫人に限られるというものでした。この最後の答えに従って、わたしはハリス氏に、指示されたことのほかには行わないことを、この上なく厳粛な形で誓約によってわたしに誓うように求めました。彼はそのようにしま

した。ハリス氏はわたしが求めたように誓い、原稿を持って出て行きました。ところが、大きな制限が課せられていたにもかかわらず、またわたしと厳粛な誓約を交わしていたにもかかわらず、ハリス氏はほかの人々にも原稿を見せ、策略によって彼らはハリス氏から原稿を奪い、それらは今日に至るまで取り戻されていないのです。』⁷

モルモン書の初版のはしがきの中で、預言者は116ページが失われたことによって神の目的がくじかれることはないと言っている。「〔モルモン書〕に関して多くの偽りの報告が広められており、また邪悪な腹黒い人々によってわたしを滅ぼし、業を損なおうとする多くの不法な手段が講じられていることから、わたしは次のことをお伝えする。わたしは神の賜物^{たまもの}と力によって、リーハイ書から116ページを翻訳し、書き取らせた。それはモルモンの手によってリーハイの版から短くまとめられた記録であった。この記録は、ある一人または複数の人物によって盗まれ、それを取り戻そうとするわたしの最大限の努力にもかかわらず、なおわたしから隠されている。——そして主はわたしに、同じ記録をもう一度翻訳してはならないと命じられた。サタンがそれらの人々の心に、主なる彼らの神を試みさせようとする思いを入れたからである。言葉を書き換えることによって、それはわたしが翻訳して書き取らせたものとは反対の意味になっていたのである。もしわたしが再び同じ言葉を訳出すれば、言い換えれば、もしわたしが同じものをもう一度翻訳すれば、彼らは自分たちが盗んだものを出版し、サタンはこの時代の人々がこの業を受け入れないように彼らの心をそそのかすであろう。しかし見よ、主はわたしに次のように言われた。『わたしはサタンがこのことについて悪計を遂げるのを許さない。それゆえ、あなたはあなたが翻訳して所持している部分に至るまで、ニーファイの版から翻訳しなければならない。そして見よ、あなたはこれをニーファイの記録として出版しなければならない。このようにして、わたしは、わたしの言葉を書き変えた者たちを辱めよう。わたしは彼らがわたしの業を損なうのを許さない。まことに、わたしの知恵が悪魔^{こうかつ}の狡猾さに勝っていることを彼らに示そう。』〔教義と聖約10：38-43参照〕

したがって、神の命令に従い、わたしは主の恵みと憐れみによって、この件に関して主がわたしに命じられたことを成し遂げたのである。』⁸

モルモン書は神の言葉である

「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」⁹

信仰箇条1：8「わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、聖書は神の言葉であると信じる。また、モルモン書も神の言葉であると信じる。」¹⁰

「〔モルモン書は〕わたしたちに、救い主が復活後にこのアメリカ大陸に御自身を現されたこと、またこの地に完全な福音を、そのあらゆる豊かさや力と祝福とともに確立されたことを告げています。また、この地に使徒、預言者、牧者、教師、祝福師がいて、東の大陸の民が享受していたのと同じ秩序、同じ神権、同じ儀式、賜物、力、祝福をこの地の民が得ていたこと、そして民が自分たちの背きのゆえに絶たれたことを告げています。さらに、民の中にいた預言者たちの最後の一人が、彼らの預言や歴史などを短くまとめたものを書き記して地中に隠すように命じられたこと、そして神の目的を成し遂げるために、それが終わりの時に出て来て聖書と一つになることを告げています。」¹¹

デビッド・オズボーンは、1837年にミズーリ州ファーウェストでジョセフ・スミスが教えを説いたときにその場にいた。デビッドは預言者が次のように語ったのを回想している。「モルモン書は真実であり、まさにそれが主張しているとおりのものです。この証^{あかし}に対して、わたしは裁きの日に報告をすることになると思います。」¹²

聖文はわたしたちを元気づけ、慰め、救いに至る知恵をわたしたちに与えてくれる

「王国を築き上げることに関連しているのが、モルモン書、教義と聖約、……および新たに翻訳された〔聖書〕を出版して広めることです。これらの業に関しては、何も言う必要がありません。それらを読み、そこから流れてくる知識の水を飲む人は、それらの書物の価値をどのように評価すべきかを知ります。愚かな者はそれらをあざけるかもしれませんが。しかしそれらの書物は救いに至る知恵を人に与えるために用意されています。長い間存在してきた迷信による混乱を一掃し、すでに成し遂げられているエホバの行いを明らかにし、未来のあらゆる



末日の聖典が出版されているのは、「心の正直な人々が元気づけられ、慰めを受け、喜びながら自分の道を進めるようにするためです。」

る恐るべき現実と栄えある現実を述べるために用意されています。これらの書物を研究することによって得られる益を味わった人々は、アダムの子らと同じ特権を享受し、同じ真理を喜ぶことができるように、熱意をもって、また互いに競い合って、それらを世界中に届けるに違いのないのです。』¹³

「[末日の聖典が出版されているのは]、心の正直な人々が元気づけられ、慰めを受け、喜びながら自分の道を進めるようにするためです。なぜなら彼らは、かつて先祖が行った神の業と、先祖の言葉を成就するために末日に神が行おうとしておられる事柄についての知識を得、理解に光が注がれるからです。』¹⁴

「わたしたちは神聖な書き物を手にしており、それらが人のために直接の靈感によって与えられたものであることを認めています。わたしたちは神が御自身を低くして、天から語り、人類家族に関する御心^{こころ}を宣言しておられること、また、人々に公正で神聖な律法を授け、

人々の行いを律し、人々をまっすぐな道に導いておられることを信じています。御自分がふさわしいと思われるときに人々を御自分のもとに迎えて、御子と共同の相続人とされるためです。

しかし、聖文には天の直接の御心が記されているという事実を認めるとき、わたしたちは理性のある人間として、そのすべての訓戒に従って生活する義務を負ってはいないでしょうか。これが天の御心であると単に認めるだけで、そのすべての教えに従わないならば、それはわたしたちの役に立つでしょうか。その教えが真実であると認めながらそれに従わないとすれば、天の至高全権の英知である御方に反抗していることにならないでしょうか。そのような行為によって、わたしたちは自分自身の知識から、天から授けられた優れた知識から、転落してはいないでしょうか。そういうわけで、もしわたしたちに天から直接啓示が与えられたのであれば、（確かに、その啓示は、決していいかげんにあしらうために与えられたものではありません）そのような啓示をいいかげんにあしらう者は、間違いなく自らの頭^{こうべ}に怒りと罰を招くことになります。もし天に公正があるなら、必ずそうなります。そして天に公正があることは、神聖な書物に載っている神の教えの真実性と力、神の祝福とのろいを認める人であれば、だれもが当然認めるはずです。……

……天に刻まれている全能者の力に気づく人は、神聖な書物の中に神御自身の筆跡を見ることができます。そしてそれを頻繁に読む人はそれが何よりも好きになり、それに通じる人は、神の手を見ることのできるあらゆる場所でそれに気づくでしょう。そして一度神の手を見いだしたならば、それを認めるだけでなく、神の手になるあらゆる天の訓戒に従うでしょう。]¹⁵

「おお、十二使徒の皆さん、またすべての聖徒の皆さん、この大切な鍵^{かぎ}を役立ててください。皆さんが受けるすべての試練、困難、誘惑、苦難、束縛、投獄、および死に際して、天を裏切ることのないように、イエス・キリストを裏切ることのないように、兄弟たちを裏切ることのないように、そして聖書やモルモン書、教義と聖約に記されている神の啓示や、この世においてかつて人に与えられ、明らかにされた、または来るべき世^{きた}において与えられ、明らかにされる、神の啓示を裏切ることのないようにしてください。]¹⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスが1823年9月21日から1827年9月22日までの間に経験した事柄について読んでください（57-59ページ）。これらの経験によって、ジョセフは金版を翻訳するうえでどのように備えられたと思いますか。これまであなたは主からの召しにどのように備えられてきましたか。
- 62ページの最初の段落を、モルモン書の目的に注目しながら読んでください。これらの目的は、あなたの人生やほかの人々の人生でどのように成就してきたでしょうか。
- 預言者は紛失した116ページ原稿を再度翻訳しないように命じられました（62-63ページ）。この話について深く考えるとき、神についてどのようなことが学べますか。この話を理解することは、わたしたちが下す決断にどのような影響を及ぼすでしょうか。
- 64ページの最初の段落を読んでください。かなめ石は、石でアーチを造る際に頂点に置かれ、ほかのすべての石を固定します。モルモン書はどのような点で「わたしたちの宗教のかなめ石」でしょうか。モルモン書はあなたが「神に近づく」のをどのように助けてきたでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、わたしたちが聖文から「流れてくる知識の水を飲〔み〕」、神の言葉の「益を味わ〔う〕」ときにもたらされる祝福について語っています（64-65ページ）。これらの表現は聖文研究についてどのようなことを示唆しているのでしょうか。聖文研究をより有意義なものとするためにどのようなことができるのでしょうか。
- 64ページの下から始まる段落を読んでください。聖文を研究する人々が、それをほかの人々と分かち合いたいという熱意を抱くようになるのはなぜだと思いますか。モルモン書を分かち合うためにどのようなことができるのでしょうか。これまでモルモン書を分かち合ったとき、あるいはだれかに分かち合ってもらったとき、どのような経験をしましたか。
- 65ページの第1段落を読んでください。モルモン書の中でこれまであなたを「元気づけ」「慰めを〔与えて〕」くれた聖句にどのような

ものがありますか。モルモン書はどのようにしてあなたの理解に光を注いできたでしょうか。

関連聖句——エゼキエル37：15－17；モルモン書の序文；1ニーファイ13：31－42；2ニーファイ27：6－26；教義と聖約20：6－15；ジョセフ・スミス—歴史1：29－54

注

1. ジョセフ・スミス, *History 1832*, 4参照。Letter Book 1, 1829-1835年, Joseph Smith, Collection参照, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第4巻, 537。イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジョン・ウエントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。Times and Seasons, 1842年3月1日付, 707に掲載
3. *History of the Church*, 第3巻, 28。Elders' Journal, 1838年7月, 42-43に掲載された論説から。ジョセフ・スミスは同誌の編集者であった
4. *History of the Church*, 第4巻, 537。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジョン・ウエントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。Times and Seasons, 1842年3月1日付, 707に掲載
5. *History of the Church*, 第6巻, 74。1843年11月13日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがジェームズ・アーリントン・ベネットにあてて書いた手紙から。History of the Churchではジェームズ・ベネットの姓 [Bennet] が "Bennett" と誤ってつづられている
6. *History of the Church*, 第1巻, 71-72。原文(英語)においては, 角括弧の部分は当時の表記のまま。"History of the Church" (原稿), book A-1, 34-35から。教会記録保管課
7. *History of the Church*, 第1巻, 21。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。"History of the Church" (原稿), book A-1, 9-10から。教会記録保管課
8. モルモン書の初版(1830年版)のはしがき。原文(英語)の段落は変更
9. *History of the Church*, 第4巻, 461。1841年11月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスによって与えられた教えから。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
10. 信仰箇条1：8
11. *History of the Church*, 第4巻, 538。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジョン・ウエントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。Times and Seasons, 1842年3月1日付, 707-708に掲載
12. デビッド・オズボーンによる引用。"Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年3月15日付, 173
13. *History of the Church*, 第4巻, 187。1840年9月, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。Times and Seasons, 1840年10月号, 179に掲載
14. 1842年3月ごろ, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがTimes and Seasonsにあてて書いた手紙から。Miscellany, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課。手紙は送付されなかったと思われる
15. *History of the Church*, 第2巻, 11, 14。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。"The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付)から。Evening and Morning Star, 1834年2月号, 136および1834年3月号, 142に掲載
16. *History of the Church*, 第3巻, 385。1839年7月2日, アイオワ州モンテローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。リチャーズ長老によるこの説教の記録は, ほかの人人々による同説教の記録に基づくものであった。リチャーズ長老は預言者が1839年6月27日に行った説教と, 「1839年7月ごろ」という日付で残されているもう二つの説教を記録した際にも, ほかの人の記録を用いている。これらの説教は本書の全体を通じて引用されている



悔い改め

「今日から新たに始めましょう。

そして心からこう言いましょう。

わたしたちは罪を捨てて義にならなかった者になる、と。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1828年6月14日、マーティン・ハリスはニューヨーク州パルマイラにいる自分の家族の何人かに見せるために、金版から翻訳された最初の116ページの原稿を持ってペンシルベニア州ハーモニーを出発した。その翌日、ジョセフとエマに最初の子が生まれた。二人はその息子をアルビンと名付けた。しかしアルビンはその日のうちに亡くなり、エマの体調も悪化の一途をたどり、瀕死の状態となった。預言者ジョセフの母親は後に次のように記している。「しばらくの間、[エマ]は幼子がいる沈黙のふるさとこの世の境をさまよっているようでした。回復の見通しがまったく立たない状態が続いたため、夫のジョセフは1時間たりとも安らかに眠ることのないまま、2週間を過ごしました。このころになると、ジョセフは原稿のことが非常に心配になっていました。妻の病状が幾分回復してきたため、彼女がもう少し体力を回復した時点ですぐにニューヨークに行ってその件を確かめることにしました。」¹

7月に入ると、預言者はエマからの勧めもあったため、エマの世話を彼女の母親に任せて、馭馬車に乗り込むと、ニューヨーク州マンチェスター町（タウンシップ）にある自分の両親の家に向かった。およそ125マイル（200キロ）に及ぶ預言者の旅は2日ないし3日を要した。最初の息子を失ったことにひどく動揺し、妻のことを案じ、原稿のことを深く心配したジョセフは、旅の間、食事ものどを通らず、一睡もできなかった。馭馬車で唯一の同乗者となったある旅人は、預言者の衰弱した様子を見て、停車場からスミス家まで徒歩で20マイル（32キロ）の道のりを同行すると言い張った。預言者の母親は次のように回想している。最後の4マイル（6.5キロ）を「その見知らぬ旅人はジョ



悔い改めは、救い主イエス・キリストの贖いの犠牲によって可能になる。

預言者ジョセフ・スミスは次のように宣言している。

「自分の心を深く探って、自分が神のような人物であるかどうかを確かめてください。
わたしは自分の心を見詰めるときに、すべての罪を悔い改めようという気持ちになります。」

セフの腕を取って連れて来なければなりませんでした。ジョセフは体力があまりに消耗していて、もう体を支えることができず、立ったまま眠りに落ちてしまうからでした。]² 預言者は両親の家に到着すると、直ちにマーティン・ハリスを呼び寄せた。

マーティンは昼過ぎにスミス家に到着した。うなだれて、絶望的な様子だった。マーティンの手もとに原稿はなく、どこにあるか分からないと言った。これを聞いて、ジョセフはこう叫んだ。「おお、わたしの神よ、わたしの神よ。……すべてが失われてしまった、失われてしまった。どうしたらよいのだろうか。わたしは罪を犯した。求める権利のないことを主に求めたために、神の怒りを招いたのだ。……どうして主の御前みまへに行けるだろうか。いと高き御方の天使からどのような叱責しっせきを受けても、わたしはそれに甘んじなければならない。」

その日、刻々と時が流れていく中、預言者は深く悩み、そして「涙を流し、悲嘆に暮れ」ながら、両親の家の中を歩き回っていた。翌日、ジョセフはハーモニーへ戻るために出発した。ハーモニーへ戻ったジョセフはこう語っている。「わたしはへりくだり、熱烈な祈りを主にささげ、……もしできることなら、主が憐れんでくださり、わたしが行った主の御心みこころに反するすべての行いを赦ゆるしてくださいさよう嘆願しました。]³

主は、神よりも人を恐れたことについて預言者を厳しく懲らしめられたが、赦しを受けられることを約束して、次のように語られた。「あなたはジョセフである。あなたは主の業を行うために選ばれた。しかし、背きのゆえに、あなたは用心しなければ落ちるであろう。しかし、神は憐れみ深いということ覚えておきなさい。それゆえ、あなたが行ったことで、わたしがあなたに与えた戒めに反する行いを悔い改めなさい。そうすれば、あなたはまだ選ばれた者であって、再び業に召される。」(教義と聖約3：9-10)

しばらくの間、主はウリムとトンミム、および版をジョセフから取り上げられた。しかしこれらは間もなくジョセフに戻された。預言者は次のように回想している。「天使は喜んでウリムとトンミムを返してくださいました。そして、神がわたしの忠実さと謙遜けんそんさを喜んでおられること、悔い改めて熱心に祈り、それによって自分のなすべきことを果たしたわたしを愛しておられること、……そして翻訳の業を再び始められることを告げられました。]⁴ 前途に待ち受ける大いなる業に取り組むに当たって、ジョセフは主の赦しを受けたという快い思いを持ち、主の御心を行う新たな決意を固めていた。

ジョセフ・スミスの教え

罪を悔い改めることによって、神に近づき、いっそう神のようになる

ウィルフォード・ウッドラフは、十二使徒定員会の会員として働いていたとき、次のように記録している。「聖見者ジョセフは神の力をもって立ち上がり、主なる神の名によって、人々の前で悪事を責め、叱責しつせきした。彼は集まっていた人々の状態にふさわしい言葉を述べることを願って、こう語った。

『わたしは主なる神の御名みなにより、神権の権能によって話します。……ここに集まっている人たちは聖徒であると公言していますが、わたしはあらゆる〔種類の〕人格を持つ、様々な階級の人々を前にしていると言わなければなりません。もし神がおられる所に行きたいと望むなら、神のようにならなければなりません。すなわち、神が持つておられる原則を持たなければなりません。なぜなら、もし原則において神に近づいていなければ、わたしたちは神から遠ざかり、悪魔に近づいていることになるからです。そうです、わたしは今、あらゆる人々を前にして立っています。

自分の心を深く探って、自分が神のような人物であるかどうかを確かめてください。わたしは自分の心を見詰めるときに、すべての罪を悔い改めようという気持ちになります。

わたしたちの中には、盗人、姦淫かんいんを行う者、偽り者、偽善者がいます。もし神が天から語られるとすれば、盗まないように、姦淫を犯さないように、むさぼらないように、欺かないように、そしてわずかなものに忠実であるようにと、皆さんに命じられることでしょう。……神は善の御方ではないでしょうか。それなら皆さんも善良でなければなりません。もし神が誠実な御方であるならば、皆さんも誠実でなければなりません。皆さんの信仰に徳を、徳に知識を加え、あらゆる善いものを求めてください。教会は清められなければなりません。そしてわたしは、あらゆる罪悪を避けるようにと説き勧めます。』⁵

「皆さんは罪のない者でなければならず、そうでなければ神の前に行くことはできません。もし神の前に行くつもりであれば、神が清くあられるように、皆さんも清くなければなりません。悪魔は人を欺く大きな力を持っています。悪魔は物事をすっかりねじまげてしまうので、神の御心みこころを行っている人々を見る人は、ぼかんと口を開けてしまうのです。……聖徒たちの中から罪悪は一掃されなければなりません

ん。すると幕が裂けて、天の祝福が注がれるでしょう。天の祝福はミシシッピ川のように流れ下るでしょう。』⁶

「自分の義を周囲の人に知らせてはなりません。そうしなくても、人には分かるからです。むしろ、自分の罪を告白するようにしてください。そうすれば、その人は赦されて、より豊かな実を結ぶことでしょう。』⁷

「すべての人は悔い改めて心を清めなければなりません。そうすれば神はその人を認めてくださり、ほかのどんな方法によっても受けられないような祝福を、授けてくださるでしょう。』⁸

神はわたしたちが罪を捨て、わたしたちの間から悪を取り除くことを望んでおられる

「聞きなさい、地の果てに至るすべての人よ。すべての祭司、すべての罪人、すべての人々よ。悔い改めなさい、悔い改めなさい。福音に従い、神に立ち返りなさい。』⁹

「今日から新たに始めましょう。そして心からこう言いましょう。わたしたちは罪を捨てて義にかなった者になる、と。』¹⁰

「不信仰な人は死が目前に迫ると、助けを求めてわらをもつかもうとするでしょう。そして、死を迎えた途端に、その不信仰はかき消されてしまいます。永遠の世界が現実となって強大な力をもって彼にのしかかってくるからです。この世の支えとなるものからことごとく見捨てられるとき、霊が不滅であるという永遠の真理を痛いほど感じるのです。わたしたちは警告を受け入れるべきであり、臨終のときまで悔い改めを待ってはなりません。わたしたちは幼児が死によって取り去られるのを目にしています。若人や中年の人も、幼児と同じように突然、永遠の世界に召されるかもしれません。ですからこの現実を、悔い改めを引き延ばしてはならない、臨終のときまで待ってはならないという、すべての人への警告としましょう。神は人が悔い改めて、健全で力ある心身をもって神に仕え、神の祝福を確かなものとすることを望んでおられ、死の召しが来るまで待つことのないように望んでおられるからです。』¹¹

「〔1835年3月1日〕教会員のために聖餐^{せいさん}が執り行われた。執行に先立って、わたしは教会におけるこの規定の正しい手順について話し、それを主の前に受け入れられるように行うことの大切さを説いてから、次のように尋ねた。『人がふさわしくないままにこの儀式を受けているとしたら、主はいつまでその人から御壺^{みたま}を取り去らずにおかれるで



放蕩ほうとう 息子を父親が家に迎えたように、わたしたちの天の御父は、
「進んで御父の前にへりくだ……るすべての人に対して、
喜んで罪を赦し、再び恵みを授けてくださいます。」

しょうか。人がこのようにして神聖な事柄を軽んじていながら、^{あがな}贖いの日までサタンに引き渡されて打たれるのを主がとどめておかれるのはいつまででしょうか。……ですから、わたしたちはへりくだって、罪を悔い改め、わたしたちの間から悪を取り除かなければなりません。』¹²

「悔い改めは、日々もてあそぶようなものではありません。毎日戒めに背いて毎日悔い改めるのは、神の目にかなうことではありません。』¹³

預言者ジョセフ・スミスは、弟のウィリアム・スミスがジョセフに腹を立て、^{けいべつ}軽蔑的な態度を執ったとき、ウィリアムに次のような手紙を書いている。「[わたしが話したのは]あなたが困難と悲しみに陥ら

ないように警告し、勧め、諭し、救い出そうとしたためであって、ほかに理由はありません。あなたは自分の燃える情熱だと言っていますが、その悪い霊に従っているために、あなたが困難と悲しみに陥るのをわたしは予見したからです。あなたはそのような感情を抑え、従わせ、克服しなければなりません。そうしなければ、決して神の王国に救われないとわたしは思います。神は御自分の造った者たちのその思いが神の御心^{みこころ}に飲み込まれるよう求めておられます。』¹⁴

天の御父は、悔い改め、十分に固い決意をもって御父に 立ち返る者を喜んで救^{ゆる}してください

1835年、ジョセフ・スミスはハービー・ホイットロックから1通の手紙を受け取った。教会から背教していたハービーは、完全な会員資格の回復を願っていた。預言者は次のような返事を書いた。「1835年9月28日付けの手紙を受け取り、2度読みました。その感動は説明するよりも想像していただいた方がよいでしょう。わたしの心の水門が決壊してしまっただけで、と言えは十分です。わたしは涙を流さずにはいませんでした。もし主が憐れんでくださるならば、主に立ち返り、この民のところに帰りたいたいという思いをあなたが抱いていることを、わたしは神に感謝します。あなたの件に関して主に尋ねたところ、次の御言葉を受けました。

ハービー・ホイットロックへの啓示

『まことに、主はあなたにこのように言う。わたしの僕^{しもべ}であったハービーに、わたしに、そしてわたしの教会の懐^{みこころ}に立ち返り、彼がわたしに対して犯したすべての罪を捨て、今から後、徳高く正直な生活を送り、わたしの教会の柱としてまた長としてわたしが任命した者たちの指示に従わせなさい。また見よ、主なるあなたの神は言う。彼の罪は天の下から消され、人々の中から忘れ去られ、わたしの耳に達することも、彼を責める記録として覚えられることもないであろう。わたしは彼を深いぬかるみの中から引き上げるかのように高く上げよう。彼は高い所に上げられて、もろもろの王子の中に立つにふさわしい者と見なされるであろう。また、終わりの時にわたしとわたしの油注がれた者たちに対して謀議を図り高ぶる者たちの中にある邪悪のとりでを崩すために、わたしの矢筒の中の研ぎ澄ました矢とされるであろう。それゆえ、彼にあなたのもとに、すなわちカートランドに来る用意を速やかにさせなさい。彼が今から後、あなたのすべての勧告に聞き従

うならば、主なるあなたの神が生きているように確かに、彼は以前の状態に回復され、最大限の救いを受けるであろう。アーメン。』

愛する兄弟、このことから分かるように、天の御父は、進んで御父の前にへりくだり、自分の罪を告白し、罪を捨て、十分に固い決意をもって御父に立ち返り、決して偽善を行うことなく、最後まで御父に仕えるすべての人に対して、喜んで罪を赦し、再び恵みを授けてくださいます〔2ニーファイ31：13参照〕。

主が御自身を低くして天から語り、あなたがなすべきことを学べるように指示を与えてくださっていることを驚くには及びません。主はあなたの祈りを聞き、あなたがへりくだっているのを見て、あなたが戻れるように父親の愛情をもって手を差し出しておられるのです。天使たちはあなたのことを喜んでおり、聖徒たちは喜んであなたを再び仲間に迎え入れます。』¹⁵

「霊が年を取りすぎて、神に近づけないということはありません。赦されない罪を犯していないかぎり、人は皆、赦しをもたらす憐れみの届く範囲にいます。』¹⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 116ページの原稿を紛失したときに見せた預言者の反応（69-71ページ）について読むとき、ジョセフ・スミスについてどのようなことが分かりますか。ジョセフの模範から、悔い改めについてどのようなことが学べますか。
- 72ページから始まる段落を読んでください。本章にある教えについて深く考えながら、預言者ジョセフ・スミスが勧告しているように、内省する時間を取ってください。もっと神に近づぐためになすべきこと、また、やめるべきことについて考えてください。
- 悔い改めを引き延ばすことに対するジョセフ・スミスの警告について深く考えてください（73-75ページ）。悔い改めを引き延ばすと、どのような結果を招く恐れがあるでしょうか。
- 神に立ち返り、神の前にへりくだることについての預言者ジョセフの勧告を研究してください（73-76ページ）。謙遜けんそんにならなければ悔

い改めはなぜ不十分なのでしょう。「十分に固い決意をもって〔神〕に立ち返〔る〕」(76ページ)とはどういう意味だと思いますか。

- ジョセフ・スミスがハービー・ホイットロックのために受けた啓示を読みながら、ホイットロック兄弟が心から悔い改めたときに主がくださった約束に注目してください(75-76ページ)。「天の御父は……喜んで罪を赦し、〔わたしたちに〕再び恵みを授けてくださ〔る〕」ことについて深く考えるとき、何を思い、どのように感じますか。

関連聖句——2コリント7：9-10；モーサヤ4：10-12；アルマ34：31-38；教義と聖約1：31-33；58：42-43

注

1. ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 7, 1-2, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 7, 5. 教会記録保管課
3. ルーシー・マック・スミスによる引用 “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 7, 6-9. 教会記録保管課
4. ルーシー・マック・スミスによる引用 “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 7, 11. 教会記録保管課
5. *History of the Church*, 第4巻, 588. 原文(英語)においては、角括弧の部分は当時の表記のまま、その他の句読点および大文字は現代の用法に修正、段落は変更。1842年4月10日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
6. *History of the Church*, 第4巻, 605. 原文(英語)においては、段落は変更。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
7. *History of the Church*, 第4巻, 479. 1841年12月19日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
8. 1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。エライザ・R・スノーによる報告, Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 34. 教会記録保管課
9. *History of the Church*, 第6巻, 317. 1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
10. *History of the Church*, 第6巻, 363. 1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
11. *History of the Church*, 第4巻, 553-554. 原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正。1842年3月20日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
12. *History of the Church*, 第2巻, 204. 1835年3月1日, オハイオ州カートランドで開かれた教会評議会集会の議事録から
13. *History of the Church*, 第3巻, 379. 1839年6月27日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
14. *History of the Church*, 第2巻, 342. 1835年12月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・スミスにあてて書いた手紙から
15. *History of the Church*, 第2巻, 314-315. 原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正。1835年11月16日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがハービー・ホイットロックにあてて書いた手紙から
16. *History of the Church*, 第4巻, 425. 1841年10月3日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会の議事録から。Times and Seasons, 1841年10月15日付, 577に掲載



1829年5月15日、バプテスマのヨハネはジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を回復し、次のように言った。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。」



バプテスマのヨハネの使命

「〔バプテスマの〕ヨハネはアロン神権を持ち、律法に基づく管理者であり、キリストに先駆ける者であって、キリストの前に道を備えるために来ました。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1828年から1829年にかけての冬の間、ジョセフ・スミスはペンシルベニア州ハーモニーでモルモン書の翻訳を続けたが、作業の進み方はゆっくりとしたものであった。家族を養うために農場で働かなければならなかったことに加えて、ジョセフには専任の筆記者として手伝ってくれる人がいなかったのである。この助けの必要な時期のことを、ジョセフは次のように回想している。「わたしは主がわたしに命じられた業を成し遂げるために、わたしのために備えをしてくださるよう主に叫び求めました。」¹ 主は、ジョセフ・スミスが翻訳の仕事をするために必要としていた助けを与えることを約束された（教義と聖約 5：34参照）。1829年4月5日、オリバー・カウドリという若い学校教師が、預言者の弟であるサミュエルに同行して、ジョセフに会うためにハーモニーにやって来た。オリバーは預言者の両親の家に滞在していた間に版について聞き、そのことについて祈った後、自分は預言者のために筆記をしなければならないという個人的な啓示を受けていた。4月7日、オリバーを筆記者として、二人は翻訳の仕事 시작했다。

版から翻訳しながら、ジョセフとオリバーは救い主がニーフアイ人に与えられた、罪の赦し^{ゆる}のためのバプテスマに関する教えを読んだ。² 5月15日、二人はこの重要な儀式についてより深い理解を主に求めるために、預言者の家の近くの森に行った。オリバー・カウドリは次のように回想している。「神の位に従ってバプテスマと聖なる御霊^{みたま}の祝福にあずかる方法を知るために、わたしたちは心を込めて力強い祈りをささげました。また先祖たちの権利と聖なる神権の権能、およびその神権によって管理する力を熱心に求めました。」³

ジョセフ・スミスは、二人の祈りの答えとして起こったことを次のように記録している。「わたしたちがこのようにして祈って、主に呼び求めていたとき、天からの使者が光の雲の中を降^{くだ}って来られた。そして、その使者はわたしたちの上に手を置き、次のように言ってわたしたちを聖任された。『わたしと同じ僕^{しもべ}であるあなたがたに、メシヤの御名^{みな}によって、わたしはアロンの神権^{かぎ}を受ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦^{ゆる}しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。』

その方は、このアロン神権には聖霊^{たまもの}の賜物^{あんしゆ}を受けるための按手をする力はないが、これは将来わたしたちに授けられると言われた。……

このときわたしたちを訪れて、わたしたちにこの神権を授けてくださった使者は、自分の名はヨハネといい、『新約聖書』の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている者で、自分はメルキゼデクの神権の鍵を持つペテロとヤコブとヨハネの指示の下に働いていると言われた。また、ふさわしいときにメルキゼデクの神権もわたしたちに授けられ〔る〕と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史1：68-70, 72)

バプテスマのヨハネの訪れは、預言者ジョセフ・スミスの生涯において、また地上における神の王国の発展において、大きな意義のある出来事であった。ジョセフ・スミスはそれまで父なる神とイエス・キリストにまみえ、天の使者たちの訪れを受け、金版とそれらを翻訳する能力を授かっていたが、神権の権能と力はまだ授かっていなかった。しかし今や、アロン神権の力が地上に回復され、メルキゼデク神権の力も間もなく回復されようとしていた。ジョセフ・スミスは神の王国における、律法に基づく管理者となったのであった。

ジョセフ・スミスの教え

バプテスマのヨハネは、救い主の前に道を備え、 救い主にバプテスマを施すという重要な使命を果たした

「わたしは〔1843年1月29日に〕神殿で開かれた集会に出席しました。……そして、自分は前の安息日に話した主題に関して二つの質問を受けており、公の場で答えることを約束したが、この機会を利用してそれらに答えたいと述べました。

その質問は、イエスの次の言葉から生じたものでした。『女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。』〔ルカ7：28〕ヨハネが最も偉大な預言者の一人であると見なされたのはなぜでしょうか。ヨハネの奇跡が彼を偉大な者としたとは考えられません〔ヨハネ10：41参照〕。

第1に、ヨハネは主の前に道を備えるという神聖な使命を託されました。そのような使命を託された人が彼以前に、あるいは彼以降にいたのでしょうか。だれもいません。

第2に、ヨハネは重要な使命を託され、その手で人の子にバプテスマを施すように求められました。そのような栄誉を受けた人がいたのでしょうか。そのような大いなる特権と栄光を受けた人がいたのでしょうか。神の御子をバプテスマの水の中に導き、また、それが執行されたことの証として、聖霊が鳩の形を取って、というよりむしろ、鳩のしるしをもって降られるのを見る特権を受けた人がいたのでしょうか。鳩のしるしは、世の創造の前から定められていた、聖霊のための証であり、悪魔は鳩のしるしをもって来ることができません。聖霊は一人の御方であり、人の形をしておられます。鳩の形に限定されているのではなく、鳩のしるしをもって示されるのです。聖霊は鳩に御姿みすがたを変えることはおできになりませんが、鳩は真理と罪のない状態の象徴またはしるしであることから、その行いが真実であることを示すために、鳩のしるしがヨハネに与えられたのです。

第3に、当時ヨハネは地上に存在していた王国の諸事において、律法に基づく唯一の管理者であり、力の鍵かぎを持つ人物でした。ユダヤ人は、彼ら自身の律法によって、ヨハネの指示に従わなければならない、そうでなければ罰の定めを受けなければならないませんでした。そしてキリスト御自身、自らが山でモーセにお授けになった律法に従うことによってあらゆる義を満たされ、それによって、律法を廃するのではなく尊んで大いなるものとし、尊いものとされました。このザカリヤの息子は、聖なる油注ぎと天の定めによって、鍵と王国と力と栄光をユダヤ人から奪い取ったのであり、以上の3つの理由が、ヨハネを女の産んだ者の中で最も偉大な預言者としているのです。

第2の質問は、天の王国で最も小さい者が彼よりも大きいとはどういうことか、というものです〔ルカ7：28参照〕。

それに答えて、わたしは次のように尋ねました。イエスが最も小さい者と言っておられるのは、だれのことでしょうか。イエスは神の王

国においてだれよりも権利を持たない者、また預言者としてだれよりも信じるに値しない者〔のように〕見なされていました。ですから、主は次のように言っておられたのです。『あなたがたの中で最も小さい者と見なされている者は、ヨハネよりも大いなる者である。——それはわたし自身のことである。』⁴

神の王国には律法に基づく管理者がいなければならない

「神の王国は五旬節の日まで地上に建てられることがなかった、また、〔バプテスマの〕ヨハネは罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを説かなかった、と言う人々がいます。しかしわたしは、主の御名によって申し上げますが、神の王国はアダムの時代から今日に至るまで地上に建てられてきました。地上に義人がいて、神が彼らに御自分の言葉を明らかにし、御自分の名によって管理する力と権能を与えられたときには、また、福音の儀式を執行し、神の神権によって職務を行う力と権能を神から与えられている教導者である、神の祭司がいる所には、いつでも神の王国があるのです。そしてまた、イエス・キリストの福音と神が遣わされた預言者たちを拒んだために、世の様々な時代に、人々や都市、国民に神の裁きが下されてきました。預言者たちを拒んだために滅ぼされたソドムとゴモラの町がそうでした。……

ヨハネが宣べ伝えた福音とバプテスマに関しては、わたしは次のように申し上げます。ヨハネはやって来て、罪の赦しのための福音を宣べ伝えました。ヨハネは神から権能を受けており、神託が彼とともにありました。そしてある時期、神の王国はヨハネただ一人とともにあったように思われます。主はザカリヤに、アロンの子孫である一人の息子を授かるであろうと約束されました。そして神権はアロンとその子孫とともに代々続くと、主は約束しておられました。だれもこの誉れを自分で得てはならず、アロンの場合のように、神の召しによって受けなければなりません〔ヘブル5：4参照〕。アロンはその召しを啓示によって受けました。……

しかし、ヨハネは王国が近づいた（訳注——英文では“at hand”）と言ったのだから、神の王国がヨハネの時代に建てられていたはずがない、と言う人がいます。わたしは尋ねますが、ヨハネの手の中にあるよりも王国が人々の近くにあるということがあり得たでしょうか。人々は神の王国を見いだすのを、五旬節の日まで待つ必要はありませんでした。王国はヨハネとともにあったからです。そしてヨハネは荒

れ野から出て来て、「悔い改めよ、天国は近づいた」〔マタイ3：2〕と叫びました。これは次のように言っているのと同じです。「ここにわたしは神の王国を得ており、わたしはあなたがたの後に来ている。わたしは神の王国を得ており、あなたがたはそれを得ることができ、わたしはあなたがたの後に来ている。もしあなたがたがそれを受け入れなければ、あなたがたは罰の定めを受けるであろう。」そして聖文には、エルサレムの人々が皆出て来てヨハネからバプテスマを受けたと記されています〔マタイ3：5-6参照〕。律法に基づく管理者がいて、バプテスマを受けた人々は王に従う民となり、そこには神の律法と神託もありました。したがって、そこには神の王国がありました。だれもヨハネよりも優れた管理の権能を持っていなかったからです。わたしたちの救い主も、ヨハネからバプテスマを受けることによって、その権能に従われました。ですからまさにヨハネの時代に、神の王国は地上に建てられていたのです。……

……ヨハネの言葉のとおり、キリストが来られました〔マルコ1：7参照〕。キリストはヨハネよりも偉大な御方でした。なぜなら主はメルキゼデク神権と神の王国の鍵^{かぎ}を持っておられたからです。また、主は以前にモーセの神権を明らかにしておられました。それでもキリストはあらゆる義を満たすためにヨハネからバプテスマを受けられました〔マタイ3：15参照〕。……

……〔イエス〕は次のように言っておられます。「だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない。」「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。」「ヨハネ3：5；マタイ24：35〕もし人が水と霊とから生まれるならば、その人は神の王国に入ることができます。神の王国が地上にあったことは明らかであり、ヨハネは人々に福音を宣べ伝え、バプテスマを施すことによって、民を王国に備えさせたのです。また、ヨハネは救い主の前に道を備えました。すなわち、先駆ける者としてやって来て、民をキリストの宣教に備えさせたのです。そしてキリストはエルサレムの至る所で、ヨハネが教えを説いたのと同じ地で教えを説かれました。……ヨハネは、……イスエと使徒たちが彼の後に説いたのと同じ福音とバプテスマを説きました。

人々が神の御心^{みこころ}を見いだすことができ、神から律法上の権能を与えられた管理者がいるときには、いつでも神の王国があります。しかしこれらのものがない所には、神の王国はありません。地上におけるす



ヨハネは「アロン神権を持ち、律法に基づく管理者であつた」ため、救い主はバプテスマのヨハネのところに行ってバプテスマを受けられた。

すべての儀式と制度と働きは、彼らが神から聖任され、権能を受けていないかぎり、人の子らにとって何の役にも立ちません。律法に基づく管理者のほか、人を救うものはないからです。ほかのだれも、神や天使たちから認められることはないからです。』⁵

「〔バプテスマの〕ヨハネはアロン神権を持ち、律法に基づく管理者であり、キリストに先駆ける者であつて、キリストの前に道を備えるために来ました。……ヨハネはキリストに先立つ、アロンの位に従う祭司でした。……

アロン神権の鍵がヨハネにゆだねられ、彼は荒れ野で叫ぶ者の声のように、こう言いました。『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。』〔マタイ3：3〕……

救い主はヨハネに言われました。わたしはあなたからバプテスマを受けなければならない。なぜか。わたしの定めにくたえるためである〔マタイ3：15参照〕。……イエスにはヨハネ〔のほか〕に律法に基づく管理者がいなかったのです。

律法に基づく管理者がいなければ、聖書の中のどこにも救いはありません。]」⁶

エライアスの霊を持つ者には、主から割り当てられた準備の業がある

「まず、エライアスの霊についてお話ししたいと思います。その主題を採り上げるに当たって、聖文から幾つかの証^{あかし}を引用し、わたし自身の証を述べましょう。

最初に、次のことを申し上げれば十分ですが、わたしは自分に関する主の御心^{みこころ}を祈りによって主に伺うために、森の中に入って行きました。すると一人の天使〔バプテスマのヨハネ〕に会いました。その天使はわたしの頭に手を置いて、わたしをアロンの位に従う祭司に聖任し、この神権^{かま}の鍵を持つ者とされました。その職の務めは、悔い改めと罪の赦^{ゆる}しのためのバプテスマを説き、またバプテスマを施すことでした。しかしわたしは、この職には聖霊^{たまもの}の賜物を授けるための按手^{あんじゆ}は含まれないことを知らされました。また、その職はより大いなるものであって、後に与えられることになっており、わたしの聖任は準備の業、すなわち先立つものであって、エライアスの霊であることを知らされました。エライアスの霊とは、より大いなるもののために先立って行って道を備えることだからです。バプテスマのヨハネがそうでした。ヨハネは荒れ野で、「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」〔マタイ3：3〕と叫びました。そして人々は、もしその言葉を受け入れることができるならば、それこそがエライアスの霊であると知らされました〔マタイ11：14参照〕。またヨハネは、自分は光ではなく、その光を証する者として遣わされたことを、とても入念に人々に告げました〔ヨハネ1：8参照〕。

ヨハネは人々に、自分の使命は悔い改めと水によるバプテスマを説くことであり、火と聖霊によるバプテスマは自分の後に来る方が行われると告げました〔マタイ3：11参照〕。

もしヨハネが詐欺師であったならば、彼は自分の権限の範囲を越えて業を行い、エライアスの霊の下での職と召しに属さない儀式を執行しようとしていたでしょう。

エライアスの霊とは、神のより大いなる啓示への道を備えることであり、〔エライアスの霊〕とはエライアスの神権、またはアロンが聖任された神権です。そして神がエライアスの力の鍵を持つ人を世に遣わして、より大いなる業に備えさせられるとき、それはまさに世の初

めの時代から、エライアスの教義と呼ばれました。

ヨハネの使命は教えを説くこととバプテスマを施すことに限られていました。しかし彼が行ったことは律法に基づいていました。そしてイエス・キリストがヨハネの弟子のところに来られたとき、主は彼らに火と聖霊によってバプテスマを施されました。……ヨハネは自分の権限の範囲を越えることなく、自分の職に属する部分を忠実に果たしました。大いなる建物のそれぞれの部分は、正しく準備され、ふさわしい位置に割り当てられなければなりません。そして、だれが力の鍵を持っており、だれが持っていないかを知ることが必要です。そうでなければ、わたしたちは欺かれてしまう恐れがあります。

エライアスの鍵を持つ者には、準備の業があります。……エライアスの霊はわたしに明らかにされており、わたしはそれが真実であることを知っています。ですからわたしは大胆に語ります。まことに自分の教義が真実であることを知っているからです。』⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けた話を読んでください (79-80, 85ページ)。この出来事はジョセフとオリバーにどのような影響を与えましたか。この出来事はあなたの人生にどのような影響を与えてきたでしょうか。
- 80ページの最初の段落を、バプテスマのヨハネがジョセフとオリバーを「わたしと同じ僕」と呼んだことに注目しながら読んでください。この言葉は神権者にとってどのような助けとなるでしょうか。この言葉はわたしたちがアロン神権を持つ若い男性と交わるときにどのような影響を及ぼすでしょうか。
- 80ページの最後の段落から始まる項を読んでください。バプテスマのヨハネと、ヨハネが現世での生涯の間に果たした使命について、どのように思い、感じますか。
- バプテスマのヨハネは「律法に基づく管理者」であった、と預言者ジョセフは教えています (82-85ページ)。神権に関して、「律法に基づく管理者」とはどのような意味だと思えますか。「律法に基づ

く管理者がいなければ……救いは〔ない〕」のはなぜでしょうか(85ページ)。

- この章の最後の項(85-86ページ)を読むとき、『聖句ガイド』にある「エライアス」という言葉の定義も読んでください(『聖句ガイド』53-54ページ参照)。エライアスの霊とは何ですか。バプテスマのヨハネは救い主の来臨に対してどのように道を備えたでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、アロン神権の授与はより大なるもののために道を備えるものであり、「準備の業」と言っています(85ページ)。アロン神権者は、メルキゼデク神権を受ける準備をするためにどのようなことができるでしょうか。両親、祖父母、教師、指導者は、彼らの準備を助けるためにどのようなことができるでしょうか。

関連聖句——マタイ3：1-17；1ニーファイ10：7-10；ジョセフ・スミス訳マタイ3：43-46

注

1. ジョセフ・スミス, *History* 1832年, 6; *Letter Book 1*, 1829-1835年, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. オリバー・カウドリ, ジョセフ・スミス—歴史1：71, 脚注で引用。1834年9月7日, オハイオ州ノートンでオリバー・カウドリがウィリアム・W・フェルブスにあてて書いた手紙から。 *Messenger and Advocate*, 1834年10月号, 15に掲載
3. オリバー・カウドリ, 1835年9月 “The Book of Patriarchal Blessings, 1834,” 8-9 に記録された言葉。 *Patriarchal Blessings*, 1833-2005年。教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第5巻, 260-261。原文(英語)においては, 最後の段落の角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の大文字は現代の用法に修正。1843年1月29日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラー・リチャーズ, および *Boston Bee* の記者(氏名不詳)による報告。 *Boston Bee* の手紙は1843年3月24日, イリノイ州ノーブーで書かれており, *Times and Seasons*, 1843年5月15日付, 200ページに掲載された。本書561ページにある付録, 第3項も参照
5. *History of the Church*, 第5巻, 256-259。原文(英語)においては, つづりおよび句読点は現代の用法に修正。1843年1月22日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
6. 1843年7月23日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。Joseph Smith, Collection, *Addresses*, 1843年7月23日, 教会記録保管課
7. *History of the Church*, 第6巻, 249-251。原文(英語)においては, 段落は変更。1844年3月10日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告



1830年4月6日、預言者の父親であるジョセフ・スミス・シニアがバプテスマを受けた。
父親が水から上がったとき、預言者は「父親の胸に顔をうずめ、
……声を上げて喜びの涙を流し〔た〕。』



バプテスマと聖霊の賜物^{たまもの}

「水のバプテスマは、火と聖霊のバプテスマが伴わなければ、
何の役にも立ちません。

それらは必然かつ不可分のものとして結びついています。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスの時代、サスケハナ川は、広葉樹や松の森の中を大きく曲がりくねりながら流れていて、その周辺を緩やかに起伏する丘や穀物畑が囲んでいた。サスケハナ川はペンシルベニア州最大の川であり、ハーモニー地域の代表的な風景であった。この川はジョセフの家から近く、また静かで人目につかない場所であったことから、預言者は時々そこに行って、考えたり、祈ったりした。

1829年5月15日、預言者とオリバー・カウドリがバプテスマの重要性について祈るために行ったのは、この川の岸辺であった。二人の祈りにこたえて、バプテスマのヨハネが現れた。ヨハネは彼らにアロン神権を授け、互いにバプテスマを施し合うように命じた。彼らが求めている祝福が、ふさわしい方法で、神の力と権能をもって執り行えるようになったのである。二人は川の中に入って行き、互いにバプテスマを施し合った（ヨハネに指示されたとおり、まずジョセフがオリバーにバプテスマを施した）。次にジョセフはオリバーの頭に手を置いてオリバーをアロン神権に聖任し、オリバーもジョセフに同様に行った。預言者は次のように回想している。

「わたしたちは……天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた。わたしがオリバー・カウドリにバプテスマを施すやいなや、聖霊が彼に降られ、彼は立ち上がって、間もなく起こるはずの多くのことについて預言した。さらにまた、わたしも彼によってバプテスマを受けるとすぐに、預言の霊を受けて立ち上がり、この教会の起こりと、教会に関連のあるその他の多くのことと、この時代の人の子らについて預言した。わたしたちは聖霊に満たされ、わたしたちの救いの神を喜び

たたえた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:73)

バプテスマの祝福は間もなくほかの信者たちにも授けられた。5月の下旬、預言者の弟のサミュエルが、ハーモニーにいたジョセフとオリバーを訪ねてやって来た。「わたしたちは……今まさに完全な状態で明らかにされようとしているイエス・キリストの福音について、彼に説き勧めました」と、預言者は述べている。サミュエルは御業についての証を受け入れ、オリバー・カウドリからバプテスマを受け、その後、「聖なる御霊に満たされ、神を大いにあがめ、ほめたたえながら、父の家に帰って行〔った〕。』¹ 6月には、預言者は兄のハイラムにバプテスマを施している。ハイラムはずっと以前から預言者の話を確固として信じ続けていた。「このとき以来、多くの人が信者となり、ある人々はバプテスマを受け、わたしたちは引き続き教え、また説き勧めました」² と、ジョセフは記録している。

預言者は特に、自分の父親であるジョセフ・スミス・シニアがバプテスマを受けるのを見て感謝した。預言者は父親を深く愛していた。預言者の父親は、ジョセフが初めてモロナイの訪れを受けたときに、その話を最初に信じた人物であった。ジョセフ・スミス・シニアは1830年4月6日、教会が組織された日にバプテスマを受けた。預言者の母親であるルーシー・マック・スミスは、次のように回想している。「父親が水から上がったとき、ジョセフは岸に立ち、父親の手を取って次のように叫びました。『……わたしは生きている間に父がバプテスマを受けてイエス・キリストのまことの教会に入るのを見た。』そしてジョセフは父親の胸に顔をうずめ、昔ヨセフがエジプトの地で父親がやって来るのを見たときのように、声を上げて喜びの涙を流しました。』³

教会が組織された日、すでにバプテスマを受けていた多くの聖徒が、メルキゼデク神権の力によって聖霊の賜物を受けた。預言者ジョセフ・スミスは、バプテスマと聖霊の賜物を授けるための接手が両方必要であることを強調して教えた。ジョセフは次のように宣言している。「水のバプテスマは、火と聖霊のバプテスマが伴わなければ、何の役にも立ちません。それらは必然かつ不可分のものとして結びついています。神の王国に入るために、人は水と霊とから生まれなければならないのです。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

バプテスマの儀式は昇栄に不可欠である

「神は天だけでなく地にもたくさんのしるしを設けておられます。例えば、森のカシの木、木の実、野の草などはすべて、種がそこにまかれたということを表すしるしです。種を生じるすべての木や植物や草は、その種類のもを生じ、ほかのどんな法則や原則に従っても出て来ることができないというのが主の定めだからです。

それと同じ原則に基づいて、わたしは次のように強く主張します。バプテスマは神により定められたしるしであり、キリストを信じる者が神の王国に入るために自分自身に受けるしるしです。『水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできないからである』と、救い主は言っておられます〔ヨハネ3：5参照〕。バプテスマは、人が神の王国に入るために神が設けられたしるしであり、戒めです。ほかの方法で入ろうとする人は、入ることができないでしょう。神はそのような人々をお受け入れにならず、天使たちも彼らの働きを認めて受け入れることはないからです。それは彼らが儀式に従わず、人の救いのために神が定められたしるしに注意を向けなかったからです。それらのしるしは人を日の栄えの栄光に備え、人にその権利を与えるためのものなのです。また神は、御自分の声に従わない者は皆地獄の罰の定めから逃れられないと定めておられます。地獄の罰の定めとは何でしょうか。神の戒めに従わなかった者たちと行動を共にすることです。

バプテスマは、わたしたちが神の御心みこころを行うということを示す、神と天使と天へのしるしです。人が神のもとに来て救いを得、神の王国に入れるように、神が人のために定められた方法は、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、罪の赦しゆるのためのバプテスマ以外には天の下になく、ほかのどんな道もむなししいものです。そして次に、皆さんには聖霊たまものの賜物の約束があります。』⁵

「聖書の神聖なページに目を通し、預言者や使徒たちの言葉を調べると、バプテスマほど救いに密接に結びついているものは見当たりません。……英語で『バプテスマを施す』という意味のバプタイズ (baptise) という言葉は、ギリシャ語で『沈める』という意味の動詞バプティソ (baptiso) から来ていることを理解しておきましょう。……

……このことについて、イエス御自身がお与えになった指示と戒めを紹介しても不適切ではないでしょう。主は十二使徒に、というより

も、当時は11人の使徒に、次のように言われました。『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの^のことを守るように教えよ。』そのようにマタイは記録しています〔マタイ28：19-20〕。また、マルコによる福音書には次の重要な言葉が記されています。『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を^の宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。』〔マルコ16：15-16〕……

……『ニコデモというユダヤ人の指導者が……夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるよう^のなするしは、だれにもできはしません。」イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいって生れることができますでしょうか。」イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。』〔ヨハネ3：1-5〕

水のバプテスマに関するイエスのこの力強く明確な答えが、疑問を解決してくれます。もし神が昨日も、今日も、またとこしえに変わることのない御方であるならば、主が『信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる』という大いなる宣言を非常に明確に述べておられるのも不思議ではありません〔マルコ16：16〕。ほかに人に救いを与えることのできる名は天下に与えられておらず、ほかに認められている儀式もなかったのです。また、使徒が、あなたがたは『バプテスマを受けて彼と共に葬られ』、死人の中からよみがえるであろう、と言ったのも不思議ではありません〔コロサイ2：12〕。パウロが立ってバプテスマを受け、罪を洗い清められなければならない^のならなかったのも不思議ではないのです〔使徒9：17-18参照〕。⁶

すべての神権時代において、聖徒はイエス・キリストの名によって バプテスマを受けてきた

「地上で教会が栄えた様々な時代において、実際に教会の先人であった昔の人々は……バプテスマによって王国の一員となりました。な



モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ。ジョセフ・スミスは次のように教えている。

「救い主が肉体を取って来られる〔前に〕、

『聖徒たち』は来るべきイエス・キリストの名によってバプテスマを受けていました。
人に救いを与えることのできる名はほかに一切なかったからです。」

ぜなら、聖文から明らかに分かるように、神は変わることはない御方だからです。使徒は、福音は信じる者に救いを得させる神の力であると言っており、命と不死不滅は福音によって明らかに示されたと告げています〔ローマ1：16；2テモテ1：10参照〕。……

さて、聖文がその意味するとおりを語っており、またその語っているとおりの意味であるとする、わたしたちには福音が常に同じであったということを聖書から立証できるだけの十分な根拠があることになります。また、福音の要求を満たすための儀式も同じであり、儀式を行う執行者たちも同じであり、約束からもたらされるしるしや実も同じだということになります。だとすると、ノアは義を説く者でしたから、バプテスマを受け、^{あんしゅ}按手によって神権に聖任されていたことになります。だれもこの誉れを自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるからです〔ヘブル5：4参照〕。……

……もし人々の中に罪があれば、世のいかなる時代においても悔い改めが必要であったことが分かります。また、すでに据えられているイエス・キリスト以外の基を、だれも据えられないことも分かります。

このように、もしアベルが義人であったとすれば、それは、アベルが戒めを守ったからそうなったのです。もしエノクが義人で、神のもとに行き、また神とともに歩くほどであったとすれば、そのようになったのはエノクが神の戒めを守ったからです。義を説く者であったノア、忠実な者の先祖であったアブラハム、神を説得したヤコブ、キリストについて書き記し、人々をキリストに導く養育掛^{かかり}として、戒めにより律法をもたらしたモーセなど、すべての義人がそうでした。また、罪を犯すことなく、悔い改める必要のなかったイエス・キリスト御自身もそうでした。主はヨハネに次のように厳粛に宣言しておられます。『今はバプテスマを受けさせてもらいたい。この儀式に従わなければ、だれも王国に入ることができないからである。このように、あらゆる義を満たすのは、わたしたちにふさわしいことである。』〔ジョセフ・スミス訳マタイ3：43参照〕もしバプテスマを受けてあらゆる義を満たすのがヨハネと救い主イエス・キリストにふさわしいことであったならば、行って同じように行るのが、天の王国を求めるほかのすべての人にとってふさわしいことでしょう。主は門であられ、もしだれかがほかの所から上るならば、その人は盗人であり、強盗だからです〔ヨハネ10：1-2参照〕。

救い主が肉体を取って来られるよりも前の時代に、『聖徒たち』は来るべきイエス・キリストの名によってバプテスマを受けていました。人に救いを与えることのできる名はほかに一切なかったからです。また、主が肉体を取って来られ、十字架におかかりになった後、聖徒たちはイエス・キリストの名によって（十字架につけられ、死者の中からよみがえり、天に昇られたイエス・キリストの名によって）バプテスマを受けました。バプテスマによって主のように葬られ、主のように栄光のうちによみがえることができるようにするためです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つであり、すべての者の父なる神は一つであられるように〔エペソ4：5-6参照〕、喜びの住まいに至る門もまた一つしかないのです。』⁷

**責任を負う年齢になる前に死ぬ子供はバプテスマを受ける必要がない。
彼らはイエス・キリストの贖罪^{しよくざい}によって贖^{あがな}われている**

「バプテスマは罪の赦しのためのものです。子供たちには罪がありません。イエスは子供たちを祝福し、『わたしがするのを見たその行いをあなたがたもしなさい』と言われました。子供たちは皆、キリス

トによって生かされており、より年を経た者たちは信仰と悔い改めによって生かされるのです。』⁸

『子供たちにバプテスマを施しなさい、あるいは水を注ぎなさい。さもなければ、子供たちは地獄で苦しみを受ける』という教義は、真実の教義ではありませんし、聖文で裏づけられていませんし、神の性質に一致していません。すべての子供たちはイエス・キリストの血によって贖われており、この世を去ると直ちに、アブラハムの懐に迎えられるのです。』⁹

預言者ジョセフ・スミスは、1836年1月21日に受けた示現の一部として以下を述べており、これは後に教義と聖約137：1、10に記録された。「天がわたしたちに開かれ、わたしは神の日の栄えの王国とその栄光を見た。……わたしはまた、責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちが皆、天の日の栄えの王国に救われるのを見た。』¹⁰

水によるバプテスマの後、^{あんしゅ} 接手によって聖霊を受ける

「福音は、罪の^{ゆる}赦しのために水に沈めるバプテスマを要求しています。それこそが、この単語の原語の意味——すなわち、葬る、あるいは沈める、という意味なのです。……さらにわたしは、使徒行伝第2章38節にある、^{ごじゅんせつ} 五旬節の日にペテロが行った説教でも〔示されているように〕、^{たまもの} 接手による聖霊の賜物も信じています。もし罪の赦しと聖霊を受けることを考慮せずにバプテスマを施すのであれば、人に施すのも砂の袋に施すのも同じです。水によるバプテスマはバプテスマの半分にすぎず、残りの半分、すなわち、聖霊のバプテスマがなければ、何の役にも立たないのです。救い主は次のように言うておられます。『だれでも、水と霊とから^{うま} 生れなければ、神の国にはいることはできない。』〔ヨハネ3：5〕¹¹

預言者が1833年にペンシルベニア州スプリングフィールドで行った説教について、ダニエル・タイラーは次のように回想している。「短い滞在の間に、ジョセフはわたしの父が住んでいた粗末な丸太小屋で説教を行いました。ジョセフはヨハネの第3章を読み、……5節を説明して、『水と霊とから生れる』とは、罪の赦しのために水中に沈められ、その後、聖霊の賜物を授かることを意味し、これは神から権能を受けた者による接手によって授けられると言いました。』¹²

「再び生まれることは、儀式を通じて神の^{みたま} 御霊によってもたらされます。』¹³



聖霊の賜物は「神から権能を受けた者による按手によって授けられる。」

「バプテスマは、聖霊を受けるのに備える神聖な儀式です。聖霊を授かるための経路であり、鍵です。按手による聖霊の賜物は、義の原則以外のどのような原則によっても受けることはできません。」¹⁴

「もし神が定めておられるしるしまたは方法以外の手段によって聖霊の賜物を得ようと試みたならどうでしょうか。聖霊の賜物を得ることができるでしょうか。決してできません。ほかのどのような手段でも失敗するでしょう。主は、わたしの言うことを行いなさい、そうすればわたしはあなたを祝福しよう、と言っておられます。

神権に属する特定の鍵の言葉とするしがあり、それを受けなければ、それに結びついている祝福を得ることはできません。ペテロ〔が教えた〕しるしは、悔い改めて罪の赦しのためにバプテスマを受けることであり、聖霊の賜物の約束が伴っていました。ほかのどんな方法によ

っても聖霊の賜物を受けることはできません〔使徒2：38参照〕。

聖霊と聖霊の賜物には違いがあります。コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けました。それは福音が真実であることを確信するために与えられた神の力でした。しかし、コルネリオはバプテスマを受けるまで聖霊の賜物を授かることはできませんでした。もしコルネリオがこのしるしすなわち儀式を受けなかったならば、神の真理を確信させた聖霊は、彼を離れていたことでしょう〔使徒10：1-48参照〕。これらの儀式に従い、神の位に従って按手により聖霊の賜物を授かるまで、コルネリオは病人を癒すことも、悪霊に人から出て行くように命じて自分に従わせることもできなかったことでしょう。悪霊たちは、スケワの息子たちに言ったように、『イエスなら自分は知っている。パウロもわかっている。だが、おまえ……は、いったい何者だ』と、コルネリオにも言っていたことでしょう〔使徒19：13-15参照〕。¹⁵

1839年12月、ミズーリの聖徒たちが受けた不当な扱いに対し、補償を求めてワシントンD.C.を訪れていたジョセフ・スミスとエライアス・ヒグビーは、ハイラム・スミスにあてて次のように書いている。〔合衆国〕大統領との会見の中で、わたしたちの宗教は現代のほかの宗教とどのように異なっているのか尋ねられました。そこでジョセフ兄弟は『わたしたちが異なっているのはバプテスマの方法と、按手による聖霊の賜物であり、そのほかの考慮すべき事柄はすべてこの聖霊の賜物の中に含まれると考えている』と述べました。¹⁶

聖霊の賜物は、生活に平安、喜び、神聖な導きなどの賜物をもたらす

「わたしたちは、使徒の時代と同じように、今も聖霊の賜物があると信じています。そしてそれ〔聖霊の賜物〕が神権者たちを整え、組織するために必要なものであり、それがなければだれも神権の務めにおけるどのような職にも召されることはないと信じています。わたしたちはまた、預言、異言、示現、啓示、賜物、癒しを信じており、聖霊の賜物がなければこれらもないと信じています。昔の聖なる人々が聖霊に感じるままに語ったこと、そして現代の聖なる人々も同じ原則によって語ることを信じています。また、聖霊が慰め主であり、証する御方であり、過去の事柄を思い起こさせ、あらゆる真理に導き、来るべき事柄を示してくださることを信じています。わたしたちは、『聖霊によらなければ、だれも「イエスはキリストである」と知ることができない』と信じています〔1コリント12：3参照〕。わたしたち

は、それ〔この聖霊の賜物〕を信じています。その完全さと力と偉大さと栄光を信じています。』¹⁷

預言者ジョセフ・スミスが殉教して3年近くがたった1847年2月、ジョセフはブリガム・ヤング会長に現れ、次のメッセージを与えた。「この民に謙遜^{けんそん}で忠実であるように、主の御霊を必ず保つ^{みたま}ように、そうすれば御霊は正しい道へと導いてくれると伝えてください。注意深くあって、細い静かな声を退けないように、そうすれば細い静かな声は何をなすべきか、またどこに行くべきかを教えてくれ、王国の実をもたらしってくれると伝えてください。兄弟たちに、確信を与えるものに対して常に心を開いているように、そうすることによって聖霊の訪れを受けたときにはいつでも受け入れることができるようにと告げてください。彼らは主の御霊とほかのあらゆる霊を区別することができます。御霊は彼らの霊に平安と喜びをささやき、悪意や憎しみ、ねたみ、争い、そしてあらゆる悪を彼らの心から取り除いてくれるでしょう。そして彼らは善を行い、義をもたらし、神の王国を築き上げることだけを望むようになるでしょう。兄弟たちに告げてください。もし主の御霊に従うなら、正しい道を進むことでしょう、と。』¹⁸

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 89-90ページを読んでください。ここで預言者ジョセフ・スミスは、自分とオリバー・カウドリがバプテスマを受けたとき、また自分の父親がバプテスマを受けたときの気持ちを述べています。あなた自身や家族、友人のバプテスマについて、どのような思い出がありますか。それらの思い出を日記や生活史に記録することを検討してください。
- 91-94ページの言葉は、ジョセフ・スミスがすでにバプテスマを受けていた人々に向けて語ったメッセージから取ったものです。バプテスマを受けた教会員がこれらの真理について思い起こす必要があるのはなぜだと思いますか。これらの教えを研究して、新たにどのような理解を得ましたか。
- バプテスマは必要でないと信じている友人に、あなたなら何と言いますか。幼児にもバプテスマが必要であると信じている友人には、

何と言いますか。(例として94-95ページ参照)

- 95ページの第2段落を読んでください。聖霊の賜物^{たまもの}がなければバプテスマが「何の役にも立たない」のはなぜでしょうか。ジョセフ・スミスは、「聖霊と聖霊の賜物には違いがあります」と言っています(97ページ)。あなたの経験から、聖霊の賜物を得ていることで生活にもたらされる祝福にはどのようなものがあるのでしょうか。
- 97ページの第2段落を読んでください。バプテスマの方法はなぜ回復された教会とほかの教会との重大な違いになっているのでしょうか。聖霊の賜物はなぜ重大な違いになっているのでしょうか。どのような点で、「そのほかの考慮すべき事柄はすべてこの聖霊の賜物の中に含まれる」のでしょうか。
- 本章の最後の段落を研究してください(98ページ)。どのように生活すれば聖霊の導きを受けて認識するのにふさわしくあることができるかについて考えてください。

関連聖句——ヨハネ15：26；ローマ6：3-6；2ニーファイ31：13；3ニーファイ11：18-41；モロナイ8：1-23

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 44. "History of the Church" (原稿), book A-1, 19から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第1巻, 51. "History of the Church" (原稿), book A-1, 23から. 教会記録保管課
3. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844-1845年の原稿, book 9, 12, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第6巻, 316. 1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
5. *History of the Church*, 第4巻, 554-555. 原文(英語)においては, 段落は変更。1842年3月20日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
6. *Times and Seasons*, 1842年9月1日付, 903-905に掲載された論説 "Baptism" から。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更, 斜体は削除。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. *Times and Seasons*, 1842年9月1日付, 904-905に掲載された論説 "Baptism" から。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 斜体は削除。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
8. *History of the Church*, 第5巻, 499. 1843年7月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
9. *History of the Church*, 第4巻, 554. 1842年3月20日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
10. 教義と聖約137：1, 10. 1836年1月21日にオハイオ州カートランドの神殿でジョセフ・スミスに与えられた示現
11. *History of the Church*, 第5巻, 499. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年7月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照

12. ダニエル・タイラー “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年2月1日付, 93-94。原文（英語）においては、つづりおよび句読点は現代の用法に修正，段落は変更
13. *History of the Church*, 第3巻, 392。1839年7月ごろ，イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
14. *History of the Church*, 第3巻, 379。原文（英語）においては，段落は変更。1839年6月27日にイリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
15. *History of the Church*, 第4巻, 555。1842年3月20日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
16. *History of the Church*, 第4巻, 42。1839年12月5日，ワシントンD.C.でジョセフ・スミスとエライアス・ヒグビーがハイラム・スミスとほかの教会指導者たちにあてて書いた手紙から。当時の合衆国大統領はマーティン・バン・ビューレンであった
17. *History of the Church*, 第5巻, 27。原文（英語）においては，第1および第3の角括弧の部分は当時の表記のまま。*Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 823に掲載された論説 “Gift of the Holy Ghost” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
18. ブリガム・ヤングによる引用, Brigham Young, Office Files, Brigham Young, Vision, 1847年2月17日, 教会記録保管課



永遠の神権

「メルキゼデク神権という経路を通じて、
すべての知識、教義、救いの計画、
およびあらゆる重要な事項が天から示されます。」

ジョセフ・スミスの生涯から

アロン神権とバプテスマの儀式を受けた後、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはそれまでまったく知らなかった数々の祝福を経験した。預言者は次のように記録している。「今やわたしたちの心に光が注がれ、わたしたちは聖文をはっきりと理解できるようになってきた。不明瞭な聖句の正確な意味と意図が、以前に一度も経験することのできなかつた方法で、あるいは以前に考えもしなかつた方法でわたしたちに明らかにされたのである。」（ジョセフ・スミス—歴史1：74）この新たな理解力をもって、二人はモルモン書の翻訳の仕事を進めていった。しかし預言者は一つの重要な祝福、すなわち、教会を組織し、神権の職と定員会を確立し、聖霊の賜物たまものを授けるのに先立って必要であった祝福を、まだ受けていなかった。メルキゼデク神権を受けなければならなかつたのである。

バプテスマのヨハネが約束したように、この祝福はジョセフとオリバーがアロン神権を受けた後、間もなく二人に与えられた。昔の使徒であるペテロとヤコブとヨハネが、サスケハナ川の近くの人目につかない場所で二人に現れて、彼らにメルキゼデク神権を授けた。後にジョセフは、「王国の鍵かぎと時満ちる神権時代の鍵を持っていると自ら宣言した、サスケハナ川沿いのサスケハナ郡ハーモニーとブルーム郡コーズビルの間の荒れ野におけるペテロとヤコブとヨハネの声」を聞いたと宣言している（教義と聖約128：20）。

その後、ジョセフ・スミスはほかにも多くの昔の神権者たちから訪れを受けた。神から遣わされたこれらの使者たちは、神の子供たちが福音のすべての祝福を得るために必要な、もろもろの神権の鍵を回復



昔の使徒であるベテロとヤコブとヨハネが、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けた。預言者は次のように宣言している。
「福音が送られるときはいつでも、天から〔神権の〕鍵かぎがもたらされなければなりません。」

するために来たのであった。また、使者たちは時満ちる神権時代の長となる預言者を教えるためにもやって来た。

第3代大管長であるジョン・テラー大管長は、次のように説明している。「モーセ、エリヤ、エライアス、および聖文に登場する様々な神権時代に働いた大勢の主要な人物が訪れて、各々の時代に享受していた種々の鍵や力、権利、特権および〔許可〕をジョセフに授けました。……様々な時代にそれらの人々に授けられていた知識、英知、神権、力、啓示のすべてが、それぞれの神権時代に神の聖なる神権を持っていた人々の働きと仲立ちによって、再び地上に回復されたのです。」¹

テラー大管長はまた次のように宣言している。「もし皆さんがジョセフに、アダムがどのような外見の人物であったかを尋ねるならば、ジョセフは即座に答えてくれるでしょう。アダムの体格や容姿など、アダムについて何でも教えてくれるでしょう。ペテロとヤコブとヨハネがどのような人物であったかを尋ねたならば、答えてくれたでしょう。なぜでしょうか。ジョセフは彼らに会っていたからです。」²

1842年9月、預言者は教会にあてた手紙の中で、今や地上に回復された知識と神権の鍵に思いをはせたときの喜びをつづっている。「さらにまた、わたしたちは何を聞くでしょうか。クモラからの喜びのおとずれです。預言者たちの預言の成就と、明らかにされる書について宣言する、天からの天使モロナイ。……また、それぞれの神権時代と権利、鍵、誉れ、尊厳と栄光、神権の力について宣言し、またここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を与え、また来るべき事柄を宣言することによってわたしたちに慰めを与え、わたしたちの希望を確かなものとした、天使長ミカエルの声、ガブリエルと、ラファエルと、ミカエルすなわちアダムから現在に至るまでの様々な天使たちの声。」(教義と聖約128：20-21)

ジョセフ・スミスの教え

神権は永遠であり、すべての神権時代に預言者は神権を持っていた

「アダムから現在に至るまで、権能と力の鎖が存在してきました。」³

「神権は最初アダムに与えられました。アダムは大管長の職を得、代々その鍵かぎを持ちました。創世記第1章26節、27節、28節にあるように、アダムはそれを、世界が造られる前、創造の時に得ました。アダ

ムは生けるものすべてを治める力を授けられました。アダムは聖文の中で語られている天使長ミカエルです。次に、神権はノアに授けられました。ノアはガブリエルです。ノアは神権においてアダムの次に権能を持っています。ノアは神からこの職に召され、その時代におけるすべての生けるものの父であり、治める力を授けられました。これらの人々は、まず地上において鍵を持ち、次に天において持ちました。

神権は永遠の原則であり、日の初めもなく年の終わりもなく、これまでもこれからも神とともに永遠から永遠にわたって存在するものです〔ジョセフ・スミス訳ヘブル7:3参照〕。福音が送られるときはいつでも、天からもろもろの鍵がもたらされなければなりません。それらが天から現される時、それはアダムの権能によります。

ダニエルは、その書の第7章の中で、日の老いたる者について語っています。日の老いたる者とは、最年長者、わたしたちの父祖アダム、またはミカエルのことです。アダムはその子孫を呼び集めて、人の子の来臨に備えさせるため、彼らとともに会議を開くでしょう〔ダニエル7:9-14参照〕。アダムは人類家族の父であり、すべての人の霊を管理します。そして、鍵を持っていた人は皆、この大会議においてアダムの前に立たなければなりません。……人の子がアダムの前に立ち、栄光と主権がアダムに与えられます。アダムは、宇宙の鍵を持つ者として渡された自分の管理の職をキリストに引き渡しますが、人類家族の長としての自分の立場は保ちます。

……御父は人の創造に当たってすべての霊を御自分の前に呼び、彼らを組織されました。彼（アダム）はその長であり、増えるように言われました。もろもろの鍵は最初アダムに与えられ、アダムによってほかの人々に与えられました。アダムは自分の管理の職について報告しなければならず、またほかの人々はアダムに報告しなければなりません。

神権は永遠です。救い主とモーセとエライアス〔エリヤ〕は、山で、ペテロとヤコブとヨハネが救い主の前で変貌したとき、彼らに鍵を授けました。神権は永遠であり、日の初めもなく年の終わりもなく、父や母といったものもありません。もし儀式の変更がないならば、神権の変更もありません。福音の儀式が執行される時はいつでも、そこには神権があります。

終わりの時に、わたしたちはどのようにして神権を得るようになったのでしょうか。神権は代々、正規の方法で受け継がれてきました。

ペテロとヤコブとヨハネは神権を授けられ、そしてそれをほかの人々に授けました。キリストは偉大な大祭司であられ、アダムがその次にいます。パウロは、教会が無数の天使の集まりと、万民の審判者である神と、完全な者とされた正しい人々の霊と、新しい聖約の仲保者イエスのもとに行くことについて語っています〔ヘブル12：22-24参照〕。〕⁴

昔の時代に神権の鍵^{かぎ}を持っていた預言者たちは、最後の神権時代の業を成し遂げるためにともに働いている

「わたしはアダム・オンダイ・アーマンの谷でアダムを見ました。アダムはその子孫を呼び集め、彼らに族長の祝福を授けました。主が彼らのただ中に御姿^{みすがた}を現され、彼（アダム）は彼ら全員を祝福し、最後の世代に至るまで彼らに起こる事柄を予告しました。

アダムがその子孫に祝福を授けたのは、彼らを神のもとに導きたいと思ったからです。彼らは一つの都を待ち望みました。〔『その都をもくろみ、また建てたのは、神である。』——ヘブル11：10〕モーセは神権の力によってイスラエルの子らを神のもとに導こうとしましたが、できませんでした。世の初期の時代に、彼らは同じ業を確立しようとしてしました。幾人ものエライアスが立てられ、これらの栄光を回復しようとしてしましたが、それらを得ることはありませんでした。しかし彼らは、この栄光が現される日について預言しました。パウロは、神がすべてのものを一つに集められる、時満ちる神権時代について語っています〔エペソ1：10参照〕。そしてそのとき、これらの鍵を授けられてきた人々は、その場にいる必要があるでしょう。そしてわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはありません。

これらの人々は天にいますが、彼らの子孫は地上にいます。彼らの心はわたしたちを切望しています。神が人々を遣わされるのはこのためです。『人の子はその使たち^{つかい}をつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国^{みくに}からとり集め〔るであろう。』〕〔マタイ13：41〕権能を持つこれらの人々が皆降^{くだ}って来て、ともに力を合わせてこの業を起こすことでしよう。

天の王国は一粒のからし種のようなものです。からし種は小さいですが、大きな木に生長し、その枝に鳥が宿るほどになります〔マルコ4：30-32参照〕。鳥は天使です。このように天使たちが降って来て、彼らの子供たちを集めるためにともに力を合わせ、子供たちを集めま



「わたしはアダム・オンダイ・アーマンの谷でアダムを見ました。アダムはその子孫を呼び集め、彼らに族長の祝福を授けました。主が彼らのただ中に御姿を現され……ました。」

す。彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、彼らもわたしたちなしには完全な者とされることはありません。これらのことが行われるとき、人の子が降りて来られ、日の老いたる者が座に着くでしょう。そしてわたしたちは無数の天使たちの集まりのもとに行き、彼らと親しく交わり、彼らから教えを受けるでしょう。』⁵

神権の儀式は世の初めから確立されており、神の定められた方法のままに保たなければならない

「アダム……は最初の人であり、ダニエル書では『日の老いたる者』〔ダニエル7：9〕として語られています。言い換えれば、アダムはすべての人の最初の者であり、最年長者であって、ほかの箇所ではミカエルと言われている、偉大な始祖でした。それはアダムが子孫との関係においてすべての人の最初の者および父であったからだけでなく、最初にもろもろの霊的な祝福を受けた者であったからでもあります。時の終わりに至るまでの子孫の救いのために用意されたもろもろの儀式の計画がアダムに知らされ、キリストについても最初にアダムに明らかにされました。キリストについてはアダムを通じてこれまでに天

から明らかにされ、これからも引き続き明らかにされるでしょう。アダムは時満ちる神権時代の鍵を持っています。すなわち、世の初めからキリストまで、またキリストから今後明らかにされるすべての神権時代の終わりに至るまで、すべての神権時代がアダムを通じてこれまでに明らかにされ、今後も明らかにされるでしょう。……

……〔神〕は儀式を永遠に同じものであるように定められました。そしてそれらを見守り、天から人に明らかにするために、また天使たちを遣わしてそれらを明らかにするために、アダムを任命されました。『御使^{みつかい}たちはすべて仕える^{すくい}霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたものではないか。』〔ヘブル1：14〕

これらの天使たちは、ミカエルすなわちアダムの指示の下にあり、アダムは主の指示の下で働きます。上の引用聖句から、神と人との結びつきに関する神の目的と、神が力と啓示と栄光を送るために御自身のうちに定めておられる、栄光に満ちた完全な秩序について、パウロが完全に理解していたことが分かります。

神は御自分が召しておらず、聖任しておらず、選んでいない者をお認めにはならないでしょう。初めに神は御自分の声によってアダムを呼ばれました。『主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか。」彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです。』」〔創世3：9-10〕アダムは神から数々の戒めと指示を受けました。これが時の初めからの秩序でした。

アダムが初めに啓示と戒めと儀式を与えられていたことは、論じるまでもありません。そうでなければ、彼らはどのようにして受け入れられる方法で神に犠牲をささげるようになったのでしょうか。また、もし犠牲をささげたのであれば、彼らは聖任によって権能を受けていなければなりません。創世記〔4：4〕には、アベルが羊の群れの初子の中から肥えたものを持って来て、主がアベルとそのささげ物に目を留められたと記されています。……

したがって、神権の性質は次のとおりです。すなわち、それぞれの神権時代に長の職を持つ者がいますが、それらすべての神権時代の長の職を持つ者が一人いて、それがアダムです。アダムはその長の職と権能を主から受けています。しかし、キリストが御父に王国をささげられるまで、アダムがすべてを受けることはありません。そしてそのことは最後の神権時代の終わりに行われます。

聖任を受けた人々が義にかなった状態であり続けないうちが、神権の力と栄光と祝福が引き続きそれらの人々とどまることはありませんでした。カインもまた犠牲をささげる権能を受けていましたが、義のうちにささげなかったためにのろわれました。そのことは、儀式は神の定められた方法のままに保たなければならない、そうでなければ彼らの神権は祝福の代わりにのろいとなるということを示しています。』⁶

メルキゼデク神権という経路を通じて、神は御自身を現し、 御自分の目的を明らかにされる

「聖文には二つの神権、すなわちメルキゼデク神権と、アロン神権またはレビ神権のことが述べられています。神権は二つですが、メルキゼデク神権はアロン神権またはレビ神権を含んでおり、大いなる部類であって、神権にかかわる最も高い権能と、地上における最後の子孫に至るまでの世のすべての時代における神の王国の鍵かぎを持ちます。また、メルキゼデク神権という経路を通じて、すべての知識、教義、救いの計画、およびあらゆる重要な事項が天から明らかにされます。

それは『この地の基が据えられたとき、夜明けの星がともに歌ったとき、神の子らが喜び呼ばわったとき』〔ヨブ38：4-7参照〕の前から備えられていたもので、最も高く最も聖なる神権であり、神の御子の位に従うものです。ほかの神権はすべて、この神権に属する部分、小区分、力および祝福にすぎず、この神権によって保たれ、制御され、導かれます。この経路を通じて、全能者はこの世の創造の初めに御自分の栄光を現し始められました。またこれを通じて、神は現在に至るまで人の子らに御自身を現してこられ、これを通じて、神は時の終わりに至るまで御自分の目的をお知らせになるでしょう。』⁷

メルキゼデク神権の力は、『無窮の命』の力を持つことでしょう。永遠の聖約は破ることができないからです。……メルキゼデク神権の力とはどのようなものだったのでしょうか。それはアロンの神権ではありませんでした。アロン神権は外形上の儀式しつこうを執行し、犠牲をささげるための神権です。完全なメルキゼデク神権を持つ人々は、いと高き神の王であり祭司であって、力と祝福の鍵を持っています。事実、その神権は神権政体の完全な律法であり、神として立ち、人々に律法を授け、アダムの息子や娘に無窮の命を与えるものなのです。……

『彼には父がなく、母がなく、系図がなく、生涯の初めもなく、生

命の終りもなく、神の子のようであって、いつまでも祭司なのである。』
〔ヘブル7：3〕メルキゼデク神権は、父親や母親から世襲によって受ける権利ではなく、永遠の神から授かる権利を保持しています。そしてその神権は神御自身と同じように永遠であって、日の初めもなく命の終わりもありません。……

……外形上の儀式を執行する祭司たちから成るレビ〔アロン〕神権には、誓詞は伴いません。しかしメルキゼデクの神権は、誓詞と聖約によって受けます。』⁸

「メルキゼデク大神権は、神の御子の神権以外の何ものでもありません。……神権に属する特定の儀式があつて、それらから特定の結果がもたらされます。……神権の大いなる特権の一つは、神の思いと御心こころについての啓示を受けることです。また、啓示を受けることだけでなく、責め、しかり、諭すことも、メルキゼデク神権の特権です。』⁹

「すべての神権はメルキゼデク神権です。しかしそれには様々な部分または階級があります。……すべての預言者はメルキゼデク神権を持っていました。』¹⁰

「わたしはすべての人に、完成に向かって進み、神性の奥義をさらに深く調べるよう忠告します。神から正しい道に導かれないかぎり、人は自分自身では何もすることができません。そして神権はそのためにあるのです。』¹¹

救いの儀式しつこうを執行するためには、人は神から権能を与えられ、 神権に聖任されなければならない

信仰箇条1：5「わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者によるあんしゅ接手によって、神から召されなければならないと信じる。』¹²

「わたしたちは、啓示によって、あるいは啓示によって神が遣わされた人から聖任を受けることによって、神から権能を与えられないかぎり、だれもイエス・キリストの名によって人の魂に福音による救いをもたらすことはできないと信じています。パウロもローマ人への手紙第10章14節で次のように書いています。『聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。』そしてわたしは次のように尋ねます。啓示がなければ、またはそのほかの神の現れが目に見える形で示されなければ、ど

うして遣わされることができるでしょうか。また、ヘブル人への手紙第5章4節には次のようにあります。『かつ、だれもこの榮譽ある務^{つとめ}を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。』そしてわたしは尋ねますが、啓示によらなければ、アロンはどのようにして召されたのでしょうか。』¹³

「天使は善良なコルネリオに、ペテロを呼び寄せて、救いを得る方法を学ばなければならないと告げました〔使徒10：21-22参照〕。ペテロはバプテスマを施すことができましたが、天使は（神の王国の鍵、すなわち神権の権能を持つ律法上の役員が、肉体を持つ者として存在しているかぎり）バプテスマを施すことはできませんでした。このことに関して、さらにもう一つの証拠があります。それは、イエス御自身、ダマスコに向かう途中のパウロに御姿^{みすがた}を現されたときに、どうすれば救われるかをパウロにお告げにならなかった、ということです。主は奉仕の業と聖徒たちの完成などのために、教会の中にまず使徒を、次に預言者を立てられました〔エペソ4：11-12参照〕。アモス書第3章7節に従って、その僕である預言者^{しもべ}にその隠れたことが示されなければ地上で何もなされないというのが、天の大いなる規則でした。ですからパウロは人の救いにおける自分の務めに関して、主からよりも、キリストの使者たちからもっと多くを学んだのです。これらの使者たちは主から同じ天の召しを受け、高い所から同じ力を授けられており、彼らが地上で解くことは天でも解かれ、地上でつなぐことは天でもつながれました〔マタイ16：19参照〕。』¹⁴

神権の職を尊んで大いなるものとすることは偉大なる特権である

「人間の体には様々な部分があるので、神権……は、体にたとえて説明することができます。体の様々な部分には異なる務めがあり、すべてがその場所に必要であり、すべての部分がなければ体は完全ではありません。……もし祭司が自分の義務と召しと務めを理解し、聖霊によって教えを説くならば、その人の喜びは、あたかもその人が大管長会の一員であるかのように大いなるものとなります。その人の務めは体において必要なものであり、教師と執事の務めもまた同様です。』¹⁵

エライザ・R・スノーは次のように報告している。「〔ジョセフ・ミスは〕様々な職について教え、また、各自が与えられた領域において行動し、それぞれが任命されている職を果たすことの必要性について教えました。ジョセフは、多くの人々が教会における低い職を不名



「わたしたちは、福音を^の宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による^{あかし}接手によって、神から召されなければならないと信じる。」

誉なものと考え、自分を管理するように召されている人々の立場をねたみの目で見ると、性癖を持っていることについて語りました。また、自分が就くように神から任命されている職以外の職を望むのは、人の心の愚かさであり、無意味な思いであること、人は各自の召しを尊んで大いなるものとする方がよいこと、……すべての人は自分自身の職と召しを尊んで大いなるものとするだけ^{だけ}を望むべきであることを語りました。』¹⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ペテロとヤコブとヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けた話を読んでください（101ページ）。メルキゼデク神権が回復されたことによって、あなたとあなたの家族はどのような祝福を受けてきたのでしょうか。
- 本章の全体にわたって、ジョセフ・スミスは一連の預言者たちによる神権の権能の鎖について証^{あかし}しています。ジョセフにとって当時この教義を教えることが大切だったのはなぜだと思いますか。わたしたちが今日この教義を理解する必要があるのはなぜでしょうか。ジョセフ・スミスが述べている権能の鎖は、個人の神権の系譜とどのように関連しているのでしょうか。
- 預言者ジョセフ・スミスが「永遠」という言葉を用いていることに注目しながら、本章を読んでください。この言葉は神権の性質や大切さについてどのようなことを教えているのでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、神が「儀式を永遠に同じものであるように定められ」ており、「儀式は神の定められた方法のままに保たれなければなら〔ない〕」と教えています（107–108ページ）。これらの教えは福音の儀式に対する理解をどのように増してくれるのでしょうか。
- メルキゼデク神権についての預言者ジョセフ・スミスの教えを読み返してください（108–109ページ）。福音のあらゆる面においてメルキゼデク神権がどのように必要とされているかについて考えてください。メルキゼデク神権についてこのように考えるとき、どのような思いや気持ちを抱きますか。
- 本章の最後の2段落を読んでください（110–111ページ）。あなたはこれまで、どのようにそれぞれの教会員が主の業において大切な役割を果たすのを見てきましたか。もしわたしたちが教会において指導者として働くように召されている人々を「ねたみの目で見ると」ならば、どのような結果を招くのでしょうか。あなた自身の召しを尊んで大いなるものとするために自分にできることを考えてください。

関連聖句——アルマ13：1–12；教義と聖約27：5–14；84：33–44，109–110；107：6–20；121：34–46

注

1. ジョン・テラー, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1882年4月18日付, 1。原文(英語)においては, 段落は変更
2. ジョン・テラー, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1877年3月20日付, 1
3. *History of the Church*, 第4巻, 425。1841年10月3日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会の議事録から。*Times and Seasons*, 1841年10月15日付, 577に掲載
4. *History of the Church*, 第3巻, 385-388。句読点は現代の用法に修正。1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
5. *History of the Church*, 第3巻, 388-389。原文(英語)においては, 第2段落にある最初の角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の句読点は現代の用法に修正。1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
6. *History of the Church*, 第4巻, 207-209。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1840年10月5日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会で読まれた, ジョセフ・スミスによって用意された説教から
7. *History of the Church*, 第4巻, 207。原文(英語)においては, つづりおよび句読点は現代の用法に修正。1840年10月5日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会で読まれた, ジョセフ・スミスによって用意された説教から
8. *History of the Church*, 第5巻, 554-555。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年8月27日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
9. *History of the Church*, 第2巻, 477。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。*Messenger and Advocate*, 1837年4月号, 487に掲載
10. ウィリアム・クレイトンによる, 1841年1月5日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告の中での引用。L・ジョン・ナトル, "Extracts from William Clayton's Private Book," 5, L・ジョン・ナトルの日記(1857-1904年), L. Tom Perry Special Collections, ブリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。複写所有, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
11. *History of the Church*, 第6巻, 363。1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
12. 信仰箇条1:5
13. 1839年3月22日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄でジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙。*Times and Seasons*, 1840年2月号, 54に掲載。原文(英語)においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
14. *Times and Seasons*, 1842年9月1日付, 905に掲載された論説"Baptism"から。原文(英語)においては, 文法は現代の用法に修正。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
15. *History of the Church*, 第2巻, 478。原文(英語)の段落は変更。1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。*Messenger and Advocate*, 1837年4月号, 487に掲載
16. *History of the Church*, 第4巻, 603, 606。原文(英語)においては, 段落は変更。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照

to the eye and beheld that the fruit thereon was white
to exceed all the whiter ones that i had ever seen and as
i looked at the fruit thereof it fell my eyes with re-
ding great joy wherefore i began to be desirous that my friends
should partake of it also for i knew that it was desirable
above all other fruit and as i cast my eyes around
me that perhaps i might discover my friends also
and i beheld a river of water and it ran along and it was
near the tree of which i was pursuing the fruit and
looked to behold from whence it came and i saw the
head thereof a little way off and at the head thereof i
beheld your Mother Sarah and your nephews and they
stood as if they knew not whether they should go and
it came to pass that i beckoned unto them and i also
did say unto them with a loud voice that they should
come unto me and partake of the fruit which was
desirable above all other fruit and it came to pass
that they did come unto me and partake of the fruit
also and it came to pass that i was a river that issued
from the tree and should come and partake of the fruit
thereof therefore i cast mine eyes toward the head of the river
that perhaps i might see them and it came to pass
that i saw them but they would not come unto
me and partake of the fruit and i beheld a road
which extended along the bank of the river
and led to the tree in which i stood and i also be-
held a straight and narrow path which came along
by the side of the river even to the tree in which i stood
and it also led by the head of the river unto a
large and spacious field as if it had been a world
and i saw numberless companies of people many of
whom are precious persons that they may obtain
the path which led unto the tree in which i stand
and it came to pass that they did come forth and com-
menced in the path which led to the tree and it came
to pass that there were many that did

モルモン書のオリジナル原稿の一部。見えているのは、1ニーファイ8:11-23にある、
リーハイが命の木の示現について話している箇所の一部。



御^み霊^{たま}の賜^{たま}物^{もの}

「もし皆さんが真心から福音に従うならば、
わたしは主の御^み名^なによって皆さんに約束します。
救い主が約束しておられるように数々の賜物が皆さんに
もたらされ……るでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

モルモン書のタイトルページには、この驚くべき聖典がどのようにして世にもたらされることになったかが説明されている。昔、その金版は「書き記され、封じられ、主に託して隠され、損なわれることのないようにされた……。」そして末日に、それらは「神の賜物と力によりもたらされ、……神の賜物により」翻訳されることになっていた。これらの預言の成就として、神はジョセフ・スミスを選んで神聖な記録を翻訳させられた。明らかに、古代の文字を翻訳するジョセフの能力は教育によって得たものではなかった。ジョセフには小学校程度の読み書きと計算の知識しかなかったからである。まったく知らない言語で幾世紀も前に書き記された記録を翻訳するジョセフの能力は、神御自身から賜物として与えられたものだった。

ジョセフが翻訳を始めたころに筆記者を務めた妻のエマ・スミスは、この神聖な賜物について次のように証^{あかし}している。「靈感を受けていたのでなければ、だれもあのような原稿を口述することはできませんでした。〔わたしが〕筆記者を務めて〔いた〕とき、〔ジョセフ〕はわたしに何時間も口述しました。そして食事やほかの用のために中断しても、戻って来ると中断したその箇所からすぐに始めるのでした。それまでの原稿に目を通したり、一部を読んでほしいとわたしに言ったりしたことは一度もありませんでした。」¹

主は預言者が翻訳の仕事に専念できるよう、生活していくための基本的な支援を与えられた。預言者の友人だったジョセフ・ナイト・シニアは、幾度かジョセフに金銭と食物を提供している。極度に困窮し

ていたあるとき、ナイト兄弟は預言者の家を訪れて、ジョセフとオリバーに「サバを1たると筆記用の罫線の引かれた紙」、および「穀物を9ないし10ブッシェル、ジャガイモを5、6ブッシェル」提供した。ナイト兄弟は次のように回想している。「ジョセフとオリバーは……家に帰って来ると、わたしが食糧を携えて来たのを見て喜びました。食糧が底を突いていたからです。」²

1829年の4月から5月にかけて、預言者がペンシルベニア州ハーモニーの自宅で行っていた翻訳の仕事は、迫害によって妨げられることが多くなった。オリバー・カウドリはニューヨーク州フェイエットに住む友人のデビッド・ホイットマーに手紙を書き、神聖な業について説明し、ホイットマー家で仕事を続けさせてくれるように頼んだ。1829年5月の終わりか6月の初め、預言者とオリバーはデビッド・ホイットマーとともに、デビッドの1頭立ての荷馬車で、デビッドの父親であるピーター・ホイットマー・シニアの農場の家に行った。そして6月中に、ホイットマー家の2階の部屋で、翻訳は神の賜物と力によって完成した。

オリバー・カウドリは、預言者の筆記者として働くという驚くべき経験について、次のように述べている。「これらの日々は、決して忘れられないものであった。天の靈感によって語られた声、この胸にこの上ない感謝の念を呼び起こした声の下に座していたのである。彼が『モルモン書』と呼ばれる歴史すなわち記録を、ウリムとトンミム……を用いて翻訳するまに、わたしは、来る日も来る日も、彼の口から出る言葉を絶え間なく書き続けた。」³

この期間にジョセフ・スミスは、御霊みたまの導きを受けるにふさわしい状態にないと、神の賜物が自分から離れてしまうことを学んだ。デビッド・ホイットマーは次のように語っている。「ある朝、〔ジョセフ・スミス〕が翻訳を続ける準備をしていたときのことです。家で何かうまくいかないことがあり、ジョセフはそれに腹を立てていました。妻のエマがしたことについてでした。オリバーとわたしは2階に上がり、間もなくジョセフも上がって来て、翻訳を続けようとしたのですが、何一つできませんでした。ただの一言も翻訳できなかったのです。ジョセフは下に降りて行き、果樹園の中で、主に嘆願しました。1時間ほどしてからでしょうか、ジョセフは家に戻って来て、エマに赦しゆるを求め、その後、わたしたちのいる2階に上がって来たのですが、翻訳は順調に進んでいきました。ジョセフは謙遜けんそんで忠実でないかぎり何一

つ行うことができませんでした。』⁴

神から与えられた賜物を謙遜に、また忠実に用いて、若き預言者は1829年4月の初旬から始めて6月の終わりまでに、モルモン書のほぼすべてを翻訳するという、不可能とも思われる仕事を成し遂げたのだった。

ジョセフ・スミスの教え

人はそれぞれに御霊の賜物を与えられている。各人の賜物が教会において必要とされている

信仰箇条1：7「わたしたちは、異言、預言、啓示、示現、癒し、異言の解釈などの賜物があることを信じる。』⁵

「わたしたちは……預言、異言、示現、啓示、賜物、癒しを信じており、聖霊の賜物を持っていなければこれらのものを受けられないと信じています。』⁶

アマサ・ポッターは次のように回想している。「わたしは預言者がノーブーの神殿の西にある森の中で、立ち上がって大勢の会衆に教えを説いたのを覚えています。ジョセフは、これから霊的な賜物について話をすると言いました。……すべての末日聖徒は一つの賜物を持っており、義にかなった生活を送り、またそれを求めることによって、聖なる御霊がそれを現してくださるであろう、と語りました。』⁷

「パウロは、『ある人には異言の賜物、ほかの人には預言の賜物、またほかの人にはいやしの賜物を与えられている』と語っています。また、『みんなが預言するのだろうか。みんなが異言を語るのだろうか。みんなが異言を解くのだろうか』とも言っています。つまり、すべての人がこの様々な賜物を持っていたのではなく、ある人はある賜物を受け、別の人には別の賜物を受けていた、ということが明らかにされています。皆が預言したのでも、皆が異言を語ったのでも、皆が奇跡を行ったのでもありませんでした。しかし、すべての人は聖霊の賜物を受けていました。使徒の時代に、時には人々は異言で語ったり、預言したりしました。時には彼らはそのようなことをしませんでした。……

教会は様々な会員から成る一団であって、人間の体に非常によく似ています。パウロは様々な賜物について語った後、次のように述べています。『あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいや

しの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた。みんなが教師だろうか。みんなが力あるわざを行う者だろうか。みんなが異言を語るのだろうか。みんなが異言を解くのだろうか。』そうでないことは明らかです。それでも、彼らは皆、一つの体を構成する肢体なのです。肉体の肢体はすべてが目ではなく、あるいは耳や頭や手ではありません。それでも目は耳に向かって『おまえはいらない』と言うことはできませんし、頭が足に向かって『おまえはいらない』と言うこともできません。それらはすべて完全な組織、すなわち一つの体における、非常に多くの構成要素なのです。そしてもし一つの肢体が苦しめば、すべての肢体がともに苦しみ、一つの肢体が喜べば、残りのすべてが尊ばれるのです〔1コリント12：9-10、18-21、26-30参照〕。

したがって、これらのすべてが賜物であって、神から出ているものであり、神のものであり、すべてが聖霊の賜物なのです。』⁸

従順と信仰によって御霊^{みたま たまもの}の賜物を受ける

「信仰が不足しているために、その実がないのです。世の初めから、信仰がある人は必ずそれに伴うものを得てきました。昔の人々は燃え盛る火を消し、剣の刃^{つるぎ}から逃れ、女たちは死者をよみがえらせてもらいました。信仰によってもろもろの世界は造られました。〔ヘブル11：3、34-35参照〕賜物を何も持たない人は、信仰のない人です。もし信仰があると思っ^はているならば、その人は自分を欺いています。信仰は異教徒の間だけでなく、クリスチャンであると公言する人々の間でも不足しています。その結果、異言、癒し、預言、預言者や使徒、およびすべての賜物と祝福がないのです。』⁹

「この冬〔1832-1833年〕は、聖文を翻訳し、預言者の塾を開き、大会に出席して過ごしました。心を活気づけてくれるすばらしい機会が数多くありました。福音を信じてそれに従う人々にもたらされる数々の賜物が、昔のように、わたしたちの間に注がれ始めました。これは真理を愛し、真理に従う謙遜^{けんそん}な者たちに対する主の計らいが常に同じであることのしるしです。』¹⁰

エドワード・スティーブンソンは、ジョセフ・スミスが1834年にミシガン州ポンティアックで説教を行ったときにその場にいた。エドワードは預言者が次のように語ったことを回想している。「もし皆さんが真心から福音に従うならば、わたしは主の御名^{みな}によって皆さんに約

束します。救い主が約束しておられるように数々の賜物が皆さんにもたらされるでしょう。そして、それによって皆さんはわたしが神のまことの僕しもべであることを知るでしょう。』¹¹

**通常、御みたま霊たまものの賜物は目に見える現れを伴うことなく、静かに、
ひそかに与えられる**

「聖霊の賜物に関して、人々は相反する様々な考えを持っています。ある人々はすべての超自然的な現れを神の御霊の影響と呼ぶ習慣があります。一方で、御霊との関連を持つ現れなどはまったく存在しないと考える人々もいます。後者の人々は、それは単に、こうあってほしいという思い込み、または心の中だけの感覚や印象、または本人以外に知らない証あかしあるいは証拠にすぎず、それらは人が心に抱くものであって、目に見える現れといったようなものは存在しないと考えています。

人々が救いの原則についてほとんど知らず、とりわけ聖霊の賜物の性質、役目、力、影響力、賜物、および祝福について知らないとしても、不思議ではありません。なぜなら、神にかかわる事柄を知るには神の御霊によらなければならないにもかかわらず、人類家族はこれまで幾世紀にもわたって、啓示も、神にかかわる事柄やみについての知識に到達するための適切なよりどころもないまま、深い闇と無知に包まれてきたからです。そのため、次のようなことがしばしば起こります。すなわち、この教会の長老たちが世の人々に教えを説くとき、もし彼らが福音に従うならば、彼らは聖霊の賜物を受けます。しかし、人々はそこで驚くべき現れ、大いなる力の示し、あるいは何か尋常でない奇跡を目にすることを期待するのです。……

特に宗教上の事柄となると、人は極端な方向に走る傾向を強く持っています。ですから、一般に人々は、何か奇跡的な示しを求めるか、あるいは聖霊の賜物をまったく信じないかのどちらかです。もし長老がある人に手を置いたならば、その人は直ちに立ち上がって異言を語り、預言するに違いないと、多くの人々が思っています。この考えは、以前にバプテスマのヨハネからバプテスマを受けた（と述べている）人々にパウロが手を置いたときの状況から来ています。パウロが手を置いたとき、彼らは『異言を語ったり、預言をしたり』しました〔使徒19：1-6参照〕。……

わたしたちは、権能を持つ者のあんしゅ按手によって聖霊が授けられること、

また、異言の賜物や預言の賜物が御霊の賜物であって、聖霊を通じて与えられることを信じています。とはいえ、人々が按手を受けたときにはいつも預言し、異言を語ったと考えるのは、正しくありません。使徒たちはそのように行っていなかったし、聖文とも一致しません。

……

……御霊の賜物がすべて肉眼で、あるいは人の理解力で確認できるとは限りません。実際、そのようなことは非常にまれです。……だれの目にも明らかな御霊の賜物に気づくことはほとんどありません。ペテロとヨハネは使徒でしたが、ユダヤ人の法廷は二人を詐欺師として鞭打ちました。パウロは使徒であり預言者でしたが、人々はパウロに石を投げつけ、パウロを牢ろうに入れました。パウロは聖霊の賜物を持っていましたが、そのことについて人々は何も知りませんでした。救い主は、『喜びの油を、その友よりも多く注がれ』ておられました〔ヘブル1：9参照〕。それでも人々は主がどなたであるかまったく分からず、主のことをベルゼブルであると言い、詐欺師として主を十字架につけました。牧者や教師、祝福師を、だれが外見から指摘できたでしょうか。それでも彼らは聖霊の賜物を持っていました。

一方、ほかの教会員について言うと、そしてパウロの述べた賜物を調べてみると、世の人々は通常、賜物について何も分からないということ、また、もしそれらの賜物がすべて按手の際に直ちに注がれたとしても、すぐにそれと分かるものは一つか二つしかないことに気づきます。パウロは〔1コリント12：4-11〕の中で、次のように語っています。『霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務つとめは種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである。各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識のことば言、またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物、またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている。すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである。』

ここでは様々な賜物について述べられていますが、それらすべての中で、按手の際に見ていた人に分かったものはどれでしょうか。知恵

の言葉や知識の言葉は、他に引けを取らない大いなる賜物ですが、もしある人がこれらの賜物を両方とも持っていたとしても、あるいは按手によって受けたとしても、だれにそのことが分かったでしょうか。またある人は信仰の賜物を受けたかもしれませんが、人々はそのことについても知らなかったでしょう。あるいは、ある人が癒しの賜物や奇跡を行う力を受けたとしても、そのことは按手のときには分からなかったでしょう。これらの賜物が用いられる時と状況が必要なのです。ある人が霊を識別する賜物を受けたとしても、だれにそのことが分かったでしょうか。あるいは、もしその人が異言を解釈する賜物を受けたとしても、だれかが未知の言語で話さないかぎり、当然その人は黙っていなければなりません。目に見える形で現されることのあった賜物が二つだけあります。異言の賜物と預言の賜物です。これらは最も頻繁に話題に上るものですが、それでももしある人が未知の言葉で話したならば、パウロの証あかしによれば、その人はその場にいる人々にとって異国人となりました〔1コリント14：11参照〕。人々はそれを訳の分からない話だと言いました。もしその人が預言をすれば、人々はそれを無意味な言葉だと言いました。異言の賜物は、恐らくすべての賜物の中で最も小さな賜物ですが、それでも最も願い求められているものです。

したがって、聖文の証と古代における御霊の現れによれば、五旬節ごじゅんせつの日のような非常に特別な場合を除いて、周りにいた大勢の人々は聖霊の賜物についてほとんど何も気づきませんでした。最も偉大で、最も優れた、そして最も有益な数々の賜物が現されたにもかかわらず、その場で見ていた人には何も分からなかったのです。……

聖霊の賜物の現れ、天使の働き、または神の力や尊厳や栄光が大衆の面前で現されることは非常にまれです。それは普通、イスラエルの民に現されたように、神の民に現されます。しかしほとんどの場合、天使が来たとき、あるいは神が御自身を現されたとき、それは個人に対して、部屋の中や荒れ野や野原において、たいいてい物音や混乱を遠ざけて、ひそかに行われてきました。天使は真夜中にペテロを牢から救い出し、同船した残りの者たちに気づかれないようにパウロを訪れ、ほかの人々に知られずにマリヤとエリサベツに現れ、周りの人々が知らない間にバプテスマのヨハネに語りました。

エリシャがイスラエルの戦車とその騎兵を見たとき、ほかの人々にはそのことが分かりませんでした。主がアブラハムに御姿みすがたを現された



「神の力や尊厳や栄光が大衆の面前で現されることは非常にまれで〔す〕。
……主がアブラハムに御姿を現されたのは、アブラハムの天幕の入り口でのことでした
〔創世18：1参照。〕」

のは、アブラハムの天幕の入り口でのことでした。天使たちがロトを訪れたとき、ロト自身のほかはだれも彼らは何者であるか分かりませんでした。恐らくアブラハムとその妻の場合もそうだったでしょう。主がモーセに御姿を現されたのは、燃えるしばの中、幕屋の中、または山の頂でした。エリヤが火の車で連れて行かれたとき、世の人々はそれを見ませんでした。また、エリヤが岩の割れ目にいたとき、大きな音の雷がありましたが、主は雷の中にはおられませんでした。地震がありましたが、主は地震の中にもおられませんでした。その後、静かな細い声があり、それが主の声であって、声は次ようにお告げになりました。『エリヤよ、あなたはここで何をしているのか。』〔列王上19：11-13参照〕

主を知るとき、それは必ずしも雷のような主の声、主の栄光の示し、または主の力の現れによるものではありません。これらの事柄を見たい

とだれよりも望んでいる人々は、その場に居合わせる用意の最もできていない人々であって、もし主がイスラエルの子らに対してなされたように御自分の力を現されたならば、そのような人々は真っ先にこう言うでしょう。『主がこれ以上語られないようにしてください。そうでなければ、わたしたち主の民は死ぬでしょう。』〔出エジプト20：19 参照〕¹²

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 主は預言者ジョセフ・スミスに、金版を翻訳するための賜物^{たまもの}を与えられました（115-117ページ）。主の業に携わるあなたを助けるために、主はいつあなたに賜物を与えてくださったでしょうか。
- デビッド・ホイットマーが116-117ページで語っている物語から、どのようなことが学べるでしょうか。あなたは自分の人生のどのような経験から「霊的な賜物を用いるためにはふさわしい状態でなければならない」ことを学びましたか。
- 117ページから始まる項を読んでください。会員たちが様々な御霊の賜物を持っていることは、教会にどのような益をもたらすでしょうか。あなたはほかの人々の霊的な賜物によってどのような恵みを得てきたでしょうか。様々な賜物を持つ人々が互いに助け合うために力を尽くしている様子を見たことがありますか。それはどのようなときでしたか。
- 118ページの項を研究してください。あなた個人を強めてくれる、あるいはあなたが主と人々に仕えるのを助けてくれると思われる霊的な賜物をいくつか考えてください。『熱心に最善の賜物を求め〔る〕』ために何を実行するか決めてください（教義と聖約46：8）。
- 119ページから始まる項を読んでください。霊的な賜物がどのように現されるかについて、あなたが気づいた具体的な勧告について考えるか、話し合ってください。霊的な賜物が「大衆の面前で現されることは非常にまれであ〔る〕」ことを覚えておくのは、なぜ大切なのでしょうか（121ページ）。多くの霊的な賜物が静かに、ひそかに与えられるのはなぜだと思いますか。多くの賜物が「用いられる

時と状況〔を〕必要〔とする〕ことを覚えておくのは、なぜ大切なのでしょう(121ページ)。

- 本章を読み終えて、霊的な賜物にはどのような目的があるとあなたは思いますか。

関連聖句——1コリント12：1-31；3ニーファイ29：6；モロナイ10：6-23；教義と聖約46：8-33

注

1. エマ・スミス, 1879年2月, ジョセフ・スミス3世によるインタビュー。 *Saints' Herald* (復元末日聖徒イエス・キリスト教会, 現在のCommunity of Christが発行する定期刊行物), 1879年10月1日付, 290
2. ジョセフ・ナイト, *Reminiscences*, 6, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
3. オリバー・カウドリ, ジョセフ・スミス一歴史1：71, 脚注で引用。1834年9月7日, オハイオ州ノートンでオリバー・カウドリがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から。 *Messenger and Advocate*, 1834年10月号, 14に掲載
4. デビッド・ホイットマー, 1881年9月15日, ウィリアム・H・ケリーとジョージ・A・ブレイクスリーによるインタビュー。 *Saints' Herald*, 1882年3月1日付, 68
5. 信仰箇条1：7
6. *History of the Church*, 第5巻, 27。 *Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 823に掲載された論説“Gift of the Holy Ghost”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. アマサ・ポッター “A Reminiscence of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1894年2月15日付, 132
8. *History of the Church*, 第5巻, 28-29。 *Times and Seasons* 1842年6月15日付, 823-824に掲載された論説“Gift of the Holy Ghost”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
9. *History of the Church*, 第5巻, 218。1843年1月2日, イリノイ州スプリングフィールドでジョセフ・スミスによって与えられた教えから。ウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第1巻, 322。原文(英語)においては, 角括弧の年は当時の表記のまま。“History of the Church”(原稿), book A-1, 270から, 教会記録保管課
11. エドワード・スティープンソンによる引用。 *Reminiscences of Joseph, the Prophet, and the Coming Forth of the Book of Mormon* (1893年), 4
12. *History of the Church*, 第5巻, 26-31。原文(英語)においては, 第2段落にある角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の句読点および文法は現代の用法に修正, 段落は変更。 *Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 823-825に掲載された論説“Gift of the Holy Ghost”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった



祈りと個人の啓示

「神のもとへ行って啓示を受けることは、
神の子供たちの特権です。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1829年6月までに、福音の回復が進められていく中で多くの重要な出来事がすでに起こっていた。最初の示現では天が開かれ、神が再び地上の人々に語られた。預言者ジョセフ・スミスはモルモン書の版を受け取り、その神聖なメッセージの翻訳を進めていた。また、聖なる神権が回復され、神の子供たちはバプテスマの儀式を受けられるようになった。これらの出来事は、どれも預言者が主からの導きを求めたときに、祈りの答えとして実現したものであった。

翻訳の仕事が終わりに近づいたとき、預言者は再び主の導きを求めた。命じられないかぎり金版をだれにも見せてはならないとモロナイから指示されていたため、ジョセフは版を翻訳している間孤独感を覚え、また自分の責任が重くのしかかってくるのを強く感じていた。しかし、ジョセフは記録の中から、モルモン書が真実であることを世の人々に証する3人の特別な証人を主が備えられることを知っていた（2ニーファイ11：3；エテル5：2-4参照）。

ジョセフ・スミスは次のように回想している。「このことについて知った直後、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、そして……マーティン・ハリス（マーティンは翻訳の進み具合を尋ねるために来ていました）は、自分たちがこれら3人の特別な証人となる特権を主から頂けるかどうかを、主に伺ってほしいと言いました。」¹ 預言者は指示を求めて祈った結果、3人が版とラバンの剣、ウリムとトンミム、およびリアホナを見るのを許されるであろうとの啓示を受けた（教義と聖約17章参照）。

数日後、預言者と3人はニューヨーク州フェイエットにあるホイットマー家の近くの森の中に入って行き、この大いなる特権を授かるた



1829年6月、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、および
ジョセフ・スミスは、モロナイに会い、金版を見る特権を与えられた。
同日、その少し後でマーティン・ハリスもまた天使に会い、版を見た。

めに祈り始めた。しかしマーティンは、自分はふさわしくないと感じて立ち去った。その後起こったことを、預言者は次のように記録している。「わたしたちが祈り始めて何分もたたないうちに、突然、上空に大きな輝きを放つ光を見ました。そして見よ、一人の天使〔モロナイ〕がわたしたちの前に立たれました。天使は、これらの人々が見られるようにとわたしたちが祈っていた版を手を持っておられました。天使は版を一枚一枚めぐり、わたしたちがそれらを見て、そこに刻まれている文字をはっきりと確認できるようにしてくださいました。』² 彼らはまた、翻訳が真実であることを証し、見聞きしたことについて証するように命じる神の声を聞いた。その後、ジョセフがマーティンを探しに行くと、マーティンは森の中の別の場所で祈っていた。そこで彼らはともに祈り、同じ示現を見、同じ声を聞いた。

そのとき、フェイエットの預言者を訪ねていたジョセフ・スミスの母親は、この現れの後息子が感じていた喜びと安堵の気持ちを次のように回想している。「ジョセフは〔ホイットマー家に〕入って来ると、わたしの傍らにどっかと座り、大声で言いました。『お父さん、お母さん、わたしがどんなにうれしいか分かりますか。主がああ版を、わたしのほかに3人の人にお見せになったのです。彼らも天使を見たのですから、わたしが話してきたことが真実であると証しなければなりません。わたしが人々を欺こうとしているのではないことを、彼らは身をもって知ったのです。自分にはとても堪えられない、大きな重荷を取り除かれたような気分です。これからは彼らがその一部を負うことになるのです。もう自分がこの世でまったくの一人きりではないことが、心からうれしいのです。』³

生涯を通じて、ジョセフ・スミスは自分が必要とする助けと導きを神に祈り求めた。オハイオ州カートランドで、ジョセフが個人的に大きな困難に直面していたときにささげた祈りを聞いたある教会員は、次のように回想している。「人が造り主に対してあのように祈るのを聞いたことはありませんでした。従順な子供が、すぐそばで耳を傾けてくれる優しい父親に悲しい気持ちを訴えているかのようにでした。…わざとらしいところがなく、熱意を込めているかのようにことさら声を張り上げることもなく、普通の会話の調子で、目の前にいる友に語りかけるようでした。それはあたかも、もし幕が取り除かれるとしたら、主がわたしの知るかぎり最も謙遜な僕と向き合って立っておられるのが見えるのではないかと思うほどでした。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

神は古代の聖徒たちに語られたように、今日わたしたちの祈り^{こんにち}を聞き、わたしたちに語ってくださる

「主は『適切な方法で求める者にさえ、もうとこしえに語られない』と解釈できるような言葉をこれまで世の人々に告げられたことは一度もありませんし、そのようなことを示されたこともありません。だとすれば、主がこの終わりの時に人々の救いのために喜んで再び語られることについて、なぜその信憑^{しんぴょう}性を疑われなければならないのでしょうか。

わたしがそう断言することにはあなたは驚くかもしれません。(しかしわたしはこの終わりの時における主が造られた者たちの救いのために口を開かなければならないのです。) あなたは『わたしたちには主が以前に与えてくださった言葉をすでにたくさんあるではないか』と思うことでしょう。しかし、ノアに語られた言葉が、アブラハムにとっては十分ではなかったことはあなたも認めるでしょう。ノアに語られた言葉をいくら読んでも、アブラハムは自分の生まれ故郷を離れて見知らぬ国へ行き、そこで受け継ぎを得るようにと求められることはなかったでしょう。しかし、アブラハムは主から直接自分に対する約束を受け、その約束に忠実に歩んだために神の友と呼ばれたのです。また、約束の子であったイサクは、父親であるアブラハムに与えられた約束に自分の望みを託すよう命じられたわけではありません。イサクも直接自分に語られた主の声によって、天の目にかなう者であることを確信するという特権にあずかりました。

もしある人が別の人に与えられた啓示に頼って生きることができるのであれば、創世記の第26章に記録されているように、なぜ主はイサクに語られる必要があったのでしょうか。ここで、主は御自分が以前にアブラハムに誓った約束を果たすと繰り返しておられます。というよりむしろ、再び約束しておられます。このことがイサクに繰り返されたのはなぜでしょうか。アブラハムに対してなされた約束は、アブラハムにとっては確かなものでした。しかし、なぜイサクにとってはそれほど確かなものではなかったのでしょうか。イサクはアブラハムの息子だったではありませんか。神の人である父親の言葉に絶対的な信頼を寄せることができなかったのでしょうか。恐らくあなたは、イサクは非常に特別な人で、この終わりの時代の人々とは違うのだ、と言

うかもしれません。イサクはこの時代の人々とは違っていたため、主は特別な、異なった祝福をイサクに授けられたのだ、と。確かにイサクが特別な人であり、特別な祝福を受け、大いなる祝福も受けました。しかしわたしがこの人物に見いだせる特異性、この時代の人々との相違点はただ一つ、イサクが今日の人々よりも神の前に聖く、完全であり、清い心と大きな信仰をもって神のもとに行った、ということだけです。

ヤコブの生涯についても同じことが言えるでしょう。かつてアブラハムに与え、イサクに更新した同じ約束について、後に主がヤコブに語られたのはなぜでしょうか。なぜヤコブは父祖に与えられた言葉に安んじていることができなかつたのでしょうか。

イスラエルの子らがエジプトの地から救い出される約束の時が近づいたとき、なぜ主は彼らに語り始められる必要があつたのでしょうか。アブラハムの子孫は400年間奴隷の状態で仕え、苦しむが、その後多くの財産を携えて出て行くという約束すなわち言葉が、アブラハムに与えられていました。なぜ子孫たちはこの約束に頼らなかつたのでしょうか。400年間奴隷の状態でエジプトにとどまった後、さらに啓示が与えられないまま出て行かなかつたのはなぜでしょう。なぜ自分たちの解放についてアブラハムに与えられていた約束だけに従って行動しなかつたのでしょうか。……

……わたしはエノクが神とともに歩んだと信じています。アブラハムが神と親しく交わり、天使たちと語つたと信じています。イサクが主の直接の声によって、アブラハムに与えられた聖約の更新を受けたと信じています。ヤコブが聖なる天使たちと語り、造り主の言葉を聞き、また、天使と組み打ちして勝ち、祝福を得たと信じています。エリヤが火の馬の引く火の車で天に取り上げられたと信じています。主の復活後、聖徒たちが主にまみえ、顔と顔を合わせて主と言葉を交わしたと信じています。ヘブル人の教会の人々がシオンの山と生ける神の都、天のエルサレム、および無数の天使の集まりに参加したと信じています。彼らが永遠を見て、万民の審判者と、新しい聖約の仲保者イエスにまみえたと信じています。

しかし、たとえそうであるとしても、これらすべてによってわたしは確信を得られるのでしょうか。染みのない、清くて白い衣を着て永遠の世界へとわたしを運んでくれるのでしょうか。そうではなく、自ら信仰を持ち、主の戒めを熱心に守ることによって、自分の救いを確かなものにしなければならないのではないのでしょうか。わたしは、昔

の聖徒たちと同等の特権を持っていないのでしょうか。もし彼らと同じ方法で主のもとに行くならば、主は彼らになされたと同じように、速やかにわたしの祈りを聞き、わたしの叫びに耳を傾けてくださるのではないのでしょうか。』⁵

わたしたちは自分が行うあらゆることについて祈ることができる

サラ・グレインジャー・キンボールは次のように報告している。「預言者の塾で……、ジョセフ・スミスは兄弟たちに教えていたとき、自分たちが行うあらゆることについて祈るようにと告げました。』⁶

「自分の部屋にあって神を知るように努め、畑にあって神を呼び求めてください。モルモン書の指示に従い、皆さんの家族、家畜、大小の家畜の群れ、穀物、そして所有するすべてのもののために祈ってください〔アルマ34：18-27参照〕。すべての働きについて、また携わるすべての事柄について、神の祝福を求めてください。』⁷

「家族における皆さんの義務を怠ることなく、自分と自分の家族、大小の家畜の群れ、そして皆さんにかかわるすべてのもののうえに神の祝福があるように、平安と繁栄があるように、神にお願いしてくだ



「家族における皆さんの義務を怠ることなく、自分と自分の家族……のうえに神の祝福があるよう、……神にお願いしてください。』

さい。これらとともに、『シオンの平安のために祈ってください。シオンを愛する者は栄えるからです。』〔詩篇122：6参照〕⁸

1842年8月に預言者が記録した祈りには、神からの知恵を求める預言者の願いが表されている。「おお、すべての人の心を御存じである主よ、……今、あなたの僕ジョセフを御覧ください。あなたの御子イエス・キリストの御名を信じる信仰を、あなたの僕にこれまで受けてきた以上に授けてください。エリヤに匹敵する信仰を授けてください。そして永遠の命のランプを心の中にともし、決して取り去られることのないようにしてください。また永遠の命の言葉をこの僕の心に注ぎ、あなたの御心と掟と戒めと裁決を知り、行うことができますようにしてください。ヘルモン山の露のように、あなたの聖なる恵みと栄光と誉れが、豊かな憐れみと力と慈しみのうちに滴って、僕の頭に注がれますように。」⁹

信仰をもって簡潔に祈るとき、わたしたちは神の御心になつた祝福を受ける

「主の御霊が常に皆さんのうえにとどまるよう、恵みの御座に請ひ願ってください。求めなければ何も与えられないことを忘れてはなりません。ですから、信仰をもって求めてください。そうすれば神の御心になつた祝福が与えられるでしょう。自分の欲のために、むさぼる心で祈り求めるのではなく、最善の賜物を求めて熱心に祈ってください〔教義と聖約46：8-9参照〕。」¹⁰

「御父の手の中にある知恵を求めるために天の御父のもとへ行くときに、わたしたちに自信を与えてくれる最も重要な原則の一つは、徳高くあることです。ですから、もしこの原則を心の中で大切にしているならば、あなたは御父の前に完全な自信をもって求めることができるでしょう。そして、あなたの頭に知恵が注がれるでしょう〔教義と聖約121：45-46参照〕。」¹¹

「聖徒たちの祈りが天にささげられて、サバオスの主の耳に達しますように。義人の有効な祈りは大いに力があるからです〔ヤコブの手紙5：16参照〕。」¹²

ヘンリー・W・ビグラーは次のように回想している。「天の御父に祈ることについて、以前ジョセフ・スミスがこのように述べるのを聞きました。『隣人のところに行って「水車小屋に行くのに馬を借りたいのですが」と言うのと同じように、はっきりと簡潔に、自分が望む

ものを求めてください。』¹³

わたしたちは聖霊を通して個人の啓示を受けることができる

「神のもとへ行って啓示を受けることは、神の子供たちの特権です。……神は人を偏り見る御方ではありません。わたしたちは皆同じ特権を持っています。』¹⁴

「わたしたちは次のように信じています。わたしたちには、天の御父である神から、啓示、示現、夢を受ける権利があります。もし神の戒めを守り、神の目から見てふさわしい者であるならば、わたしたちは霊の幸福を得るために必要なすべてについて、イエス・キリストの御名により、聖霊の賜物を通して、光と英知を受けることができます。』¹⁵

「啓示の霊が最初に何かを勧めたときにそれと気づくなら、人は益を得ることでしょう。例えば、純粋な英知が流れ込んできたと感じるとき、突然様々な考えがわいてくることがあります。そのような促しに気づくならば、その日のうちに、あるいはそう遠くない将来に、それが成就するのを確認できる、（言い換えれば、）神の御霊によって心に示された事柄が、実際に起こるのです。このように、神の御霊を経験し、理解することによって、啓示の原則が身に付いていき、ついにはキリスト・イエスにあって完全な者となるでしょう。』¹⁶

「わたしはラテン語、ヘブライ語、ドイツ語、ギリシャ語で書かれた新約聖書の古い版を持っています。……この古い書物を手に入れたことを神に感謝します。しかしそれ以上に、聖霊の賜物を神に感謝します。わたしは世界で最も古い書物を持っています。しかし、その最も古い書物はわたしの心の中にあります。それは聖霊の賜物です。……聖霊が……わたしの内におられます。そして聖霊は世のすべての人よりも多くのことを理解しておられます。わたしは聖霊と交わっています。』¹⁷

「だれも啓示を受けずに聖霊を授かることはできません。聖霊は啓示者であられます。』¹⁸

ジョン・テラーは、十二使徒定員会会長として働いていたとき、次のように報告している。「わたしは40年以上前にジョセフ・スミスから受けた勧告をよく覚えています。ジョセフは言いました。『テラー長老、あなたはすでにバプテスマを受けて、頭に手を置かれ、聖霊を授けられています。そして聖なる神権に聖任されました。今やあなたは、その御霊の促しに従って歩み続けるかぎり、義の道へと導か

れるのです。時にはあなたの判断と違う導きを受けても、決して心配しないで御霊の指示に従ってください。御霊のささやきに忠実であるなら、ふさわしいときに啓示の原則にかなって、すべてのことを理解するでしょう。』¹⁹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスとモルモン書の3人の証人の経験において祈りが大切な役割を果たしたことに注目してください（125-127ページ）。あなたがモルモン書に関して得てきた経験の中で、祈りはどのような役割を果たしたのでしょうか。あなたの人生において、ほかにどのようなときに祈りの影響を受けているのでしょうか。
- 127ページの最後の段落を読んで、どのように思いますか。この教えについて深く考えながら、「造り主に……祈る」方法を改善するために自分にできることを考えてください。
- なぜ過去の啓示だけに頼ることができないのでしょうか（例として、128-130ページ参照）。なぜ個人の啓示を受け続ける必要があるのでしょうか。
- 130ページから始まる項を読んでください。「いつ」「何」について祈るべきかについて預言者が教えていることを見つけてください。これらの教えは、あなたの個人の祈りにどのように役立つでしょうか。家族の祈りにとってはどのように役立つでしょうか。
- 「どのように」祈るべきかについて、131-132ページから預言者の教えを研究してください。「はっきりと簡潔に」祈ることには、どのような価値があるのでしょうか。祈りによって天の御父に近づくと、義にかなった生活を送ることを通して、わたしたちはどのように自信が得られるのでしょうか。神が祈りを聞き、こたえてくださるといふ証^{あかし}を得るうえで、どのようなことが助けになってきましたか。
- 132ページの第3段落を読んでください。御霊から「最初に何かを勧められたとき」に気づくことによって、これまでどのような祝福を得てきましたか。御霊のささやきを受けたとき、すぐにそれに気づくようになるにはどうすればよいのでしょうか。

関連聖句——列王上19：11-12；ヤコブの手紙1：5-6；ヒラマン5：30；3ニーファイ18：18-21；教義と聖約6：22-23；8：2-3；88：63-65

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 52-53. "History of the Church" (原稿), book A-1, 23から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
2. *History of the Church*, 第1巻, 54. "History of the Church" (原稿), book A-1, 24-25から, 教会記録保管課
3. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844年-1845年の原稿, book 8, 11, 教会記録保管課
4. ダニエル・タイラー "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年2月15日付, 127
5. 1833年9月26日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがおじのサイラス・スミスにあてて書いた手紙。ルーシー・マック・スミス, "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1845年の原稿, 229-232で引用, 教会記録保管課
6. サラ・グレインジャー・キンボール "R. S. Report." *Woman's Exponent*, 1892年8月15日付, 30
7. *History of the Church*, 第5巻, 31. *Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 825に掲載された論説 "Gift of the Holy Ghost" から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
8. *Times and Seasons*, 1842年10月15日付, 952に掲載された論説 "To the Saints of God" から。原文 (英語) においては, 句読点は現代の用法に修正。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
9. *History of the Church*, 第5巻, 127-128. 原文 (英語) においては, 段落は変更。1842年8月23日, イリノイ州ノーブー近郊で書かれたジョセフ・スミスの日記から。 *History of the Church* では, この記録は誤って1842年8月22日付けとされている。
10. 1830年8月20日, ペンシルベニア州ハーモニーでジョセフ・スミスとジョン・ホイットマーがニューヨーク州コルズビルの聖徒たちにあてて書いた手紙。ニューエル・ナイト, *Autobiography and Journal* (約1846年-1847年), 129, 教会記録保管課
11. 1840年2月, ペンシルベニア州フィラデルフィアでジョセフ・スミスが書き下ろした声明。原物は個人の所有
12. *History of the Church*, 第6巻, 303. 1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
13. ヘンリー・W・ビグラー "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年3月1日付, 151-152
14. 1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教。ウィラード・リチャーズによる報告。ウィラード・リチャーズ, *Pocket Companion*, 75, 78-79, 教会記録保管課
15. 1839年3月22日, ミズーリ州リパティエ, リパティエの監獄でジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙。 *Times and Seasons*, 1840年2月号, 54に掲載
16. *History of the Church*, 第3巻, 381. 1839年6月27日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
17. *History of the Church*, 第6巻, 307-308. 原文 (英語) においては, 段落は変更。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
18. *History of the Church*, 第6巻, 58. 1843年10月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
19. ジョン・テラー, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1878年1月15日付, 1



まことの生ける教会の組織と行く末

「皆さんはこの教会と王国の行く末について、
母親のひざおきなこにいる幼子おきなこほどしか知っていません。

皆さんはまだ理解していません。

……この教会は南北アメリカを満たし、世界を満たすでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1829年6月、預言者ジョセフ・スミスはモルモン書の翻訳を完了した。預言者は次のように述べている。「翻訳が終わりに近づいたとき、わたしたちはニューヨーク州ウェイン郡パルマイラに行き、著作権を取得し、エグバート・B・グランディン氏と5,000部を3,000ドルで印刷することに合意しました。」¹ エグバート・B・グランディンはジョセフ・スミスより1歳年下の青年で、パルマイラで印刷店を開いていた。印刷工程に要する時間を相当に短縮する技術を取り入れた新しい印刷機を少し前に購入したところであった。パルマイラという田舎町で、モルモン書のような長編の書物をこれほど多く印刷できる印刷業者を預言者が見つけられたのは、驚くべきことであった。モルモン書の印刷は費用のかかる大きな事業であったため、マーティン・ハリスは印刷費の支払いを保証するために、自分の農場をグランディン氏への担保とした。

1829年の夏の終わりに、ジョセフ・スミス、マーティン・ハリス、そのほか数名が印刷店に集まり、最初に印刷されるページとなるモルモン書のタイトルページの校正刷りを点検した。預言者がページの体裁に満足であることを宣言すると、印刷が可能なかぎり速やかに進められた。作業は約7か月を経て完了し、1830年3月26日、モルモン書が一般に発売された。

モルモン書の翻訳と出版の仕事を終えたジョセフ・スミスは、教会を組織する仕事に取りかかった。現在では教義と聖約の第20章に収められている啓示の中で、主は預言者に「主の御心みこころと命令に従って、こ



1829年の夏の終わりに、ジョセフ・スミス、マーティン・ハリス、そのほか数名が、モルモン書の印刷業者であるエグバート・B・グランディンとともに、最初に印刷されるページとなるモルモン書のタイトルページの校正刷りを点検するために集まった。

の地上にもう一度主の教会を組織し始めるべき具体的な日取り」を明らかにされた。² 指定された日は、1830年4月6日であった。

預言者は次のように語っている。「わたしたちは……兄弟たちに、教会を組織するやうにとの命令を受けたことを知らせました。そしてそれに従って、わたしたちはその目的のために、紀元1830年4月の第6日、火曜日に、(合計6人で、) ピーター・ホイットマー・シニア氏の家に集まりました。』³ 約60名がニューヨーク州フェイエットのホイットマー家に集まり、二つの部屋が人であふれた。ニューヨーク州の法律に従うために、出席していた男性のうちの6名(預言者ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、サミュエル・スミス、およびデビッド・ホイットマー)が、新しい教会の創設会員とされた。⁴

当初、教会は非常に小規模であったが、預言者ジョセフ・スミスはその大いなる行く末を認識していた。1834年4月、オハイオ州カートランドで開かれた神権会において、預言者は地上における神の王国の未来の状態を兄弟たちに理解させようとした。そのときのことを、ウィルフォード・ウッドラフは次のように回想している。

「預言者は神権を持つすべての者を、当時教会がその地に所有していた丸太造りの小さな塾に呼び集めました。それは小さな家で、恐らく14フィート〔約4メートル〕四方だったでしょう。それでもその建物には、当時カートランドの町にいた末日聖徒イエス・キリスト教会の神権者が全員集まっていました。……わたしたちが集まると、預言者はイスラエルの長老たちに、この業について証を述べるように言いました。……証が終わると、預言者は言いました。『兄弟の皆さん、今夜わたしは皆さんの証に大変教化され、教えられました。しかし主の御前で皆さんに申し上げたい。皆さんはこの教会と王国の行く末について、母親のひざにいる幼子ほどしか知りません。皆さんはまだ理解していません。』わたしはとても驚きました。ジョセフはこう言ったのです。『今夜ここで皆さんが見ているのは、わずか一握りの神権者だけですが、この教会は南北アメリカを満たし、世界を満たすでしょう。』⁵

ジョセフ・スミスの教え

時満ちる神権時代に、ジョセフ・スミスによってイエス・キリストの まことの教会が組織された

ジョセフ・スミスは、教会を組織するために1830年4月6日に開かれた集会での出来事を、次のように報告している。「天の御父への厳粛な祈りによって開会した後、わたしたちはすでに受けていた命令に従い、わたしたちを神の王国にかかわる事柄における教師として受け入れるかどうか、また、すでに受けていた前述の命令に従って自分たちを教会として組織することに異議がないかどうかを知るために、兄弟たちに意見を求めました。これらの幾つかの提議に対して、彼らは全会一致で同意しました。

その後、わたしはオリバー・カウドリに手を置き、彼を『末日聖徒イエス・キリスト教会』の長老に聖任しました。その後、オリバーがわたしを前述の教会の長老の職に聖任しました。次にわたしたちはパンを取って祝福し、裂いて会衆とともに食べ、またぶどう酒を祝福し、会衆とともに飲みました。その後、わたしたちは聖霊の賜物を授けてキリストの教会の会員に確認するために、出席していた教会員一人一人に手を置きました。聖霊がわたしたちのうえに大いに注がれました。ある者たちは預言し、皆が主を賛美し、非常に喜びました。……

それからわたしたちは御霊の示しに従って、そのほかに数名の兄弟たちを神権の様々な職に聖任しました。そしてわたしたちに授けられた神の恵みによって、聖霊の力と祝福を自ら見、また感じて、幸せなひとときを過ごした後、わたしたちは今や自分たちがそれぞれ神に認められた『イエス・キリストの教会』の会員であることを喜びながら解散しました。わたしたちは、この終わりの時に主がわたしたちに与えられた命令と啓示に従って、また新約聖書に記録されている教会の秩序に従って組織された、イエス・キリストの教会の会員となったのです。』⁶

1830年6月9日、ニューヨーク州フェイエットで教会の最初の総大会が開かれた。大会では聖餐が執行され、数名が教会の会員に確認され、ほかの人々が神権の職に聖任され、聖徒たちに聖霊が注がれた。預言者ジョセフ・スミスは次のように記録している。「これら一つ一つの光景は、わたしたちの心に言い表すことのできない喜びをもたらすも

のであり、全能者に対する畏敬^{いけい}と崇敬^{すうけい}の念で満たしてくれるものでした。その全能者の恵みによってわたしたちは、今この瞬間に自分に注がれているこのような栄えある祝福の喜びを人の子らにもたらず者となるように召されているのです。これらの光景は、わたしたちが昔の聖なる使徒たちが守っていたのとまったく同じ方式でこれらのことに携わっていることに気づかせ、そのように行うことの重要さと厳粛さを悟らせるものでした。その光景は、神権の力と聖霊の賜物と祝福が栄光のうちに現れるのを、自らの肉体をもって見、感じる経験となりました。また、憐れみ深い神が、主イエス・キリストの永遠の福音に従う人々を慈しんで御自身を低くされるのを、同様に見て、感じる事ができました。これらすべてが、わたしたちの内に熱烈な感謝を起こさせ、真理の大義における新たな熱意と精力を吹き込むのでした。』⁷

キリストの教会は神の位に従って組織される

「キリストは教会の長、隅のかしら石、霊の岩であられました。教会はその上に建てられたのであり、地獄の門もそれに打ち勝つことはありません〔マタイ16：18；エペソ2：20参照〕。主は王国を築き上げ、使徒たちを選んでメルキゼデク神権に聖任し、彼らに福音の儀式を執行する力をお与えになりました。』⁸

『「キリストは……ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。』〔エペソ4：11〕それでは、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師はどのようにして選ばれたのでしょうか。預言（啓示）によって、また^{あんしゅ}按手によってです。神の指示と、神が定められた儀式によってです。神の定めによって、神の位に従って組織された神権の仲立ちによってです。』⁹

「〔モルモン書は〕わたしたちに、救い主が復活後にこの〔アメリカ〕大陸に御自身を現されたこと、またこの地に完全な福音を、その豊かさと力と祝福とともに確立されたことを告げています。また、この地に使徒、預言者、牧者、教師、祝福師がいて、東の大陸の民が享受していたのと同じ秩序、同じ神権、同じ儀式、^{たまもの}賜物、力、祝福をこの地の民が得ていたことを告げています。』¹⁰

「伝道者とは祝福師です。……地上にキリストの教会が設立される所にはどこでも、自分の息子たちに祝福師の祝福を授けたヤコブのように、聖徒たちの子孫のために祝福師がいなければなりません。』¹¹

信仰箇条1：6「わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、

すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。」¹²

教会は大管長会と十二使徒定員会、および七十人定員会によって導かれる

「わたしは預言者と使徒がいて、イエス・キリストが隅のかしら石であられて、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように彼らの中で語られることを固く信じています。」¹³

「大管長と管長たち、すなわち大管長会は、教会を管理します。そして教会に対する神の思いと望みについての啓示は、大管長会を通じ



末日聖徒イエス・キリスト教会は、1830年4月6日、ニューヨーク州フェイエットにあるピーター・ホイットマー・シニアの家で、預言者ジョセフ・スミスによって組織された。

末日の教会は、救い主の時代の教会と同じ方法で組織されており、そこには「使徒、預言者、牧者、教師、祝福師など」がいる。

でもたらされます。これが天の秩序であり、〔メルキゼデク〕神権の力と特権です。』¹⁴

「これらの十二使徒たちの召しには、教会のほかの召しや職と異なる、どのような大切な務めが伴っているのでしょうか。……彼らは十二使徒であり、巡回高等評議会の職に召されており、聖徒たちの諸教会を管理します。……彼らはこの務めの鍵を持ち、すべての国民に対して天の王国の門の錠を開け、すべての造られたものに福音を宣べ伝えます。これが彼らの使徒職に伴う権威と権能と力です。』¹⁵

十二使徒定員会で働いたオーソン・プラットは次のように報告している。「主は、……十二使徒定員会が組織されなければならず、その務めは福音をもろもろの国民に、すなわち、まず異邦人に、次いでユダヤ人に宣べ伝えることであると指示されました。カートランド神殿の建設の後に神権者が呼び集められ、預言者ジョセフは十二使徒について語り、彼らは昔の使徒と同じように、使徒の職をそれにかかわるすべての力とともに受けていると述べました。』¹⁶

第4代大管長であるウィルフォード・ウッドラフは次のように報告している。「ジョセフは十二使徒を召しました。彼らはどのような人々だったのでしょうか。主はジョセフに次のように言われました。『この十二人は、十分に固い決意をもってわたしの名を受けたいと願う人々である。そして、彼らが十分に固い決意をもってわたしの名を受けたいと願うならば、彼らは全世界に出て行って、すべての造られたものにわたしの福音を宣べ伝えるために召される。』〔教義と聖約18：27-28〕……十二使徒定員会を組織したとき、預言者ジョセフは彼らに和合一致の原則を教えました。ジョセフは彼らに、心を一つにし、思いを一つにしなければならず、キリストの名を完全に受けなければならず、もし神から何かを命じられるならば、行ってそれを行わなければならないことを理解させました。』¹⁷

「七十人は巡回定員会を構成し、十二使徒会から求められる所ならばどこへでも、全地に出て行きます。』¹⁸

「七十人は食卓のことに携わるために召されてはおらず〔使徒6：1-2参照〕、……福音を宣べ伝え、〔教会を〕築き上げ、これらの定員会に属していないほかの大祭司を任命して〔教会を〕管理させます。十二使徒もまた……すべての国民に王国の鍵を携えて行き、福音の門の錠を開け、また七十人を呼んで、彼らの後について来て、彼らを助けるように求めます。』¹⁹

たとえ悪の力が教会を滅ぼそうとしても、「いかなる汚れた者の手も、
この御業みわざの発展を止めることはできません」

「1830年4月6日にキリストの教会……が組織されて以来、敵が教会の道を阻み、その発展を妨げようと絶えず熱心に努力してきたにもかかわらず、わたしたちは真理がわたしたちの国の様々な地域に広まるのを見て満足を感じてきました。邪悪で腹黒い人々が罪のない人々を滅ぼすために連合してきましたが、……それでも栄えある完全な福音は広がり続け、日々改宗者を得ています。そしてわたしたちは神に祈ります。日々改宗者が加わり続け、永遠の救いを得る者の数が増しますように、と。」²⁰

「真理の旗が掲げられています。いかなる汚れた者の手も、この御業けがの発展を止めることはできません。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれません。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるでしょう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることでしょう。」²¹

「さらにまた、〔救い主〕は彼らにもう一つのたとえを語られました。それは、収穫の直前に、あるいは収穫のときに立てられるはずの王国について暗示するものでした。それは次のとおりです。『天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる。』〔マタイ 13：31-32〕さて、この象徴が終わりの時に出て来る教会を表すために与えられていることを、わたしたちははっきりと理解することができます。見てください、天の王国はからし種にたとえられます。では、何が似ているのでしょうか。

モルモン書を例に取ってみましょう。ある人がそれを取って野に隠し、終わりの時、すなわち定められたときに出て来るように、信仰によってそれを安全に保管しました。それが地の中から出て来るのを見てみましょう。それは実際にあらゆる種の中で最も小さいものと見なされますが、それが枝を出す様子を見てください。まさに空に向かって枝を広げ、神々しい尊厳をもって高くそびえる様子を見てください。そしてからし種のように、あらゆる草の中で最も大いなるものとなる

のです。それは真理であり、すでに芽を出して地の中から現れています。そして、義が天から見下ろし始め〔詩篇85：11；モーセ7：62参照〕、神は御自分の力と賜物と天使を送り、その枝に宿らせてくださっています。

天の王国は一粒のからし種のようなものです。見てください、ですから、大いなる深みの中にあり、サタンの嵐と暴風雨にさらされながらも、確固として動じない岩のように立ち、終わりの時に神の尊厳のうちに頭を上げている末日聖徒の教会は、天の王国ではないでしょうか。破壊的な偽りの暴風雨が吹き荒れる中、義の敵によって怒りを倍増された大波がすさまじい泡を立てながら、勝利の岩壁を絶えず打ちつけても、これまでずっと、そして今なお堅固に、勇敢に立ち続けているこの教会は、天の王国ではないでしょうか。〕²²

カートランド神殿の奉獻に当たってささげた祈りの一部として、預言者ジョセフ・スミスは次のように述べ、それは後に教義と聖約109：72-76に記録された。「おお、主よ、あなたのすべての教会員を、そのすべての家族、ならびにそのすべての近親者とともに、そのすべての病気の人、ならびに苦しんでいる人とともに、また地のすべての貧しい人、ならびに柔和な人とともに思い起こしてください。それによって、あなたが人手によらずに設けられた王国が、大きな山となって全地に満ちますように。また、あなたの教会が暗黒の荒れ野から出て来て、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり、あなたがもろもろの天の覆いを取り去り、山々をあなたの御前に崩し、もろもろの谷を高くし、起伏の激しい所を平らにされるその日のために、教会が花嫁のように美しく飾られて、あなたの栄光が地に満ちますように。死者のためにラッパが鳴り響くとき、わたしたちが雲の中に引き上げられ、あなたにまみえて、いつも主とともにいられるようになりますように。わたしたちの衣が清くなりますように。わたしたちが手になつめやしを持ち、頭に栄光の冠をかぶって、義の衣を身にまとい、わたしたちのあらゆる苦難に代わって永遠の喜びを刈り入れることができますように。〕²³

わたしたちはそれぞれが教会を強め、神の王国を築き上げるために 自分の役割を果たす責任を持っている

「神の大義は一つの共通の大義であり、すべての聖徒たちが等しく関心を抱いているものです。わたしたちは皆一つの共通の体の肢体で

あり、皆同じ霊を受け、一つのバプテスマを受け、同じ栄えある望みを等しく持っています。神の大義を推し進め、シオンを築き上げる業は、だれにとっても同じように大切な関心事です。唯一の違いは、ある人はある義務を、また別の人は別の義務を果たすように召されているということです。『しかし、もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。目は耳にむかって「おまえはいらない」とは言えず、また頭は足にむかって「おまえはいらない」とも言えない』のです。党派心、個々の利益、排他的な目的は、一つの共通の大義にあって、全体の利益の中にある取り除かれるべきものです〔1コリント12：21、26参照〕。]²⁴

「兄弟姉妹の皆さん、忠実であり、勤勉であって、ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰のために真剣に戦ってください〔ユダ1：3参照〕。すべての男性と女性と子供が、業の重要性をはっきり理解し、その成功がすべて自分の努力にかかっているかのように行動してください。すべての人が業に関心を抱き、自分たちの生きている時代が、幾千年も昔の王たちや預言者たちや義人たちが思いをはせて胸を熱くした時代であることをよく考えてください。その時代に対する期待が、彼らの最も快い調べと最も喜びに満ちた歌を生み、聖文に記録されているような歓喜の言葉を彼らに叫ばせたのです。やがてわたしたちは靈感の言葉によって、次のように叫ぶことになるでしょう。

『主はシオンを回復された。

主はその民イスラエルを贖われた。』〔教義と聖約84：99〕]²⁵

ウィルフォード・ウッドラフは、ジョセフ・スミスが1839年に、伝道のためにイギリスに向かって出発しようとしている十二使徒たちに次のように告げたことを回想している。「皆さんにどのようなことが起ころうとも、力を合わせて耐え、常に神の教会と王国の利益を支え、守ってください。』²⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。



「神の大義を推し進め、シオンを築き上げる業は、だれにとっても同じように大切な関心事です。唯一の違いは、ある人はある義務を、また別の人は別の義務を果たすように召されているということです。」

- 137ページで述べられている神権会に出席するのがどのような経験であったかを想像してください。教会はいつの日か世界を満たすだろうとジョセフ・スミスが預言するのを、もしあなたが聞いていたら、どのように感じたと思いますか。今、その預言を振り返って、どのような思いや感情がわいてきますか。
- 教会が組織されたときと最初の総大会のときに行われた事柄に注目しながら、138-139ページを読み直してください。ジョセフ・スミスは、「これら一つ一つの光景は、わたしたちの心に言い表すことのできない喜びをもたらすものであり、全能者に対する畏敬と崇敬の念で満たしてくれるものでした」と言っています（138-139ページ）。あなたはこれまでどのようなときに、ジョセフ・スミスが述べているような感情がわきましたか。
- イエスの時代の教会とモルモン書の時代の教会についてのジョセフ・スミスの教えを読み直してください（139-140ページ）。今日、教会はどのように当時と同じ規範や様式に倣っているでしょうか。
- 世界中の教会を管理する指導者が必要なのはなぜだと思いますか

(例として、140-141ページ参照)。あなたはこれまで、大管長会、十二使徒定員会、七十人定員会、管理ビショップリックの働きを通じてどのような祝福を受けてきましたか。

- 教会の行く末についてのジョセフ・スミスの預言を読むとき、どのような思いや感情がわきますか (142-143ページ参照)。わたしたちはどのような方法でこの業に参加することができるでしょうか (例として、143-144ページ参照)。
- ジョセフ・スミスは、「すべての男性と女性と子供が、業の重要性をはっきり理解し、その成功がすべて自分の努力にかかっているかのように行動してください」と教えています (144ページ)。この勧告を自分の生活の中で応用する具体的な方法について考えてください。
- もしだれかに、あなたが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である理由を尋ねられたなら、何と答えますか。

関連聖句——ダニエル2：31-45；モーサヤ18：17-29；教義と聖約20：1-4；65：1-6；115：4-5

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 71. “History of the Church” (原稿), book A-1, 34から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
2. *History of the Church*, 第1巻, 64. “History of the Church” (原稿), book A-1, 29から, 教会記録保管課
3. *History of the Church*, 第1巻, 75-77. “History of the Church” (原稿), book A-1, 37から, 教会記録保管課
4. ニューヨーク州の法律では, 教会の組織または業務の処理は3名から9名で行うように義務づけられていた。預言者は6名で行うことを選んだ。
5. ウィルフォード・ウッドラフ, Conference Report, 1898年4月, 57. 原文 (英語) においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
6. *History of the Church*, 第1巻, 77-79. 原文 (英語) においては, 段落は変更。 “History of the Church” (原稿), book A-1, 37-38から, 教会記録保管課
7. *History of the Church*, 第1巻, 85-86. “History of the Church” (原稿), book A-1, 42から, 教会記録保管課
8. 1843年7月23日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。Joseph Smith, Collection, Addresses, July 23, 1843年7月23日, 教会記録保管課
9. *History of the Church*, 第4巻, 574. *Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 744-745に掲載された論説 “Try the Spirits” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
10. *History of the Church*, 第4巻, 538. イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 707-708に掲載
11. *History of the Church*, 第3巻, 381. 1839年6月27日にイリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
12. 信仰簡条1：6
13. 1839年3月22日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄でジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1840年2月号, 53に掲載。原文 (英語) においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
14. *History of the Church*, 第2巻, 477. 1837年4月6日にオハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。

- Messenger and Advocateによる報告, 1837年4月号, 487
15. *History of the Church*, 第2巻, 200。原文(英語)においては, 段落は変更。1835年2月27日にオハイオ州カートランドで開かれた教会評議会集会の議事録から。オリバー・カウドリによる報告
 16. オーソン・ブラット, *Millennial Star*, 1869年11月10日付, 732
 17. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret Weekly*, 1890年8月30日付, 306。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正
 18. *History of the Church*, 第2巻, 202。“History of the Church”(原稿), book B-1, 577から, 教会記録保管課
 19. *History of the Church*, 第2巻, 431-432。1836年3月30日にオハイオ州カートランドでジョセフ・スミスによって与えられた教えから
 20. *History of the Church*, 第2巻, 22。“The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” 1834年1月22日, *Evening and Morning Star*, 1834年4月号, 152に掲載
 21. *History of the Church*, 第4巻, 540。イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 709に掲載
 22. *History of the Church*, 第2巻, 268。原文(英語)においては, 最後の角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の句読点, 大文字, および文法は現代の用法に修正。1835年12月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 227に掲載
 23. 教義と聖約109:72-76。1836年3月27日にオハイオ州カートランドの神殿の奉獻に当たってジョセフ・スミスがささげた祈り
 24. *History of the Church*, 第4巻, 609。*Times and Seasons*, 1842年5月2日付, 776に掲載された論説“The Temple”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 25. *History of the Church*, 第4巻, 214。1840年10月4日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが行った報告から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 188に掲載
 26. ウィルフォード・ウッドラフによる引用, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1883年3月20日付, 1



預言者ジョセフ・スミスは自ら周囲の人々に教えを説くのであれ、あるいは宣教師を世に遣わすのであれ、伝道の業を愛した。



喜びのおとずれを 全世界の人々に宣言する

「神の目から見て、人は昔と同じように今も貴い存在です。

長老たち〔は〕……人々が悔い改めて救いを

受け継ぐ者となれるように、どこにいる人でも

すべての人を説き勧め、促〔さなければなりません〕。』

ジョセフ・スミスの生涯から

1830年4月6日に教会が組織された後も、ジョセフ・スミスは引き続き福音の喜びのおとずれを宣言した。4月のうちに、ジョセフは友人のジョセフ・ナイト・シニアを訪ねるためニューヨーク州コールズビルに向かった。ジョセフ・ナイトと家族は、すでに福音に関心を持っていた。預言者は同地の近くで数々の集会を開いた。そして、「大勢の人々が真理を理解するための知恵を授けてくださるよう、全能の神に熱烈に祈り始め〔た〕。』¹ 約2か月後、再びコールズビルを訪れた預言者は、福音を聞いた多くの人々がバプテスマを受けたいと望んでいることを知った。これらの新しい改宗者たちが、福音を受け入れるには信仰と勇気を必要とした。預言者は次のように記録している。

「わたしたちは安息日に集会を予定し、土曜日の午後、近くの川の流れをせき止めて、バプテスマの儀式を行えるようにダムを造りました。しかし夜の間に暴徒が集結してそのダムを壊したため、安息日にバプテスマを行うことができませんでした。……月曜日の早朝、わたしたちは敵に気づかれないように警戒しながら、ダムを修復しました。そしてオリバー・カウドリによって、次の13人がバプテスマを受け〔ました〕。エマ・スミス、ヘゼカイア・ベックと妻、ジョセフ・ナイト・シニアと妻、ウィリアム・ストリングムと妻、ジョセフ・ナイト・ジュニア、アロン・カルバーと妻、リーバイ〔ホール〕、ポリー・ナイト、およびジュリア・ストリングム。』²

同年の秋、主はジョセフ・スミスに、オリバー・カウドリ、ピーター・ホイットマー・ジュニア、パーリー・P・ブラット、およびザイバ・ピーターソンが「レマン人のところへ行き、わたしの福音を宣べ伝え」なければならないことを示された（教義と聖約28：8；30：5-6；32：1-3）。これらの宣教師たちが旅した行程は約1,500マイル〔約2,400キロ〕に達し、ニューヨーク州のセネカ族、オハイオ州のワイアンドット族、インディアン保護区のデラウェア族やショーニー族を含む、様々なインディアンの部族の中で少しの間教えを説いた。しかし宣教師たちが最も成功を収めたのは、オハイオ州カートランドに立ち寄ったときだった。ここで彼らは、シドニー・リグドン率いる改革バプテスト会の人々を中心とする約130人の改宗者にバプテスマを施し、翌年何百人もの教会員が集合することになる地を開いた。また宣教師たちは、後にシオンの町が築かれることになるミズーリ州ジャクソン郡においても、入植者たちの間で幾らかの改宗者を得た。

預言者ジョセフ・スミスは自ら周囲の人々に教えを説くのであれ、あるいは宣教師を世に遣わすのであれ、伝道の業を愛した。パーリー・P・ブラット長老は、1839年に経験した次のような出来事を記録している。「ジョセフ兄弟とともに〔ペンシルベニア州〕フィラデルフィアを訪れていたとき、ある非常に大きな教会がジョセフ兄弟に説教の機会を与えてくれました。話を聞くために集まった人は約3,000人に達していました。最初にリグドン兄弟が立ち上がると、福音について語り、聖書から自分の理解している教義を説明しました。リグドン兄弟が話を終えると、ジョセフ兄弟はまさに咆哮するライオンのように立ち上がりました。聖霊に満たされて、大いなる力をもって語り、自分が見た示現、自分が受けた天使の働き、モルモン書の版を見つけ、神の賜物と力によって翻訳したいきさつについて証しました。ジョセフ兄弟は次のように言って語り始めました。『これほど栄光に満ちた天からのメッセージについて、これほど輝かしい記録の発見について、もし証する勇気のある人がほかにいないのであれば、人々に対して公平を期するために証を述べ、その結果は神にゆだねようと、わたしは感じています。』

会衆全体が非常な驚きに包まれ、いわば稲妻に打たれたような状態になりました。ジョセフ兄弟が語るときに示した真理と力と、彼が話した不思議な出来事に圧倒されました。その感動はいつまでも消えることがありませんでした。こうして、多くの人々が群れに加わりました。わたしはジョセフ兄弟が、真に迫った力強い証によって、その衣から彼らの血を取り除いたことを証します。フィラデルフィアとその

近郊で大勢の人々がバプテスマを受けました。』³

ジョセフ・スミスの教え

この世は靈的な暗黒の状態にあるため、わたしたちは熱心に福音を宣べ伝えなければならない

1834年、ジョセフ・スミスとカートランドの教会の長老たちは、ほかの地域の兄弟たちに以下の手紙を送った。「皆さんに度々連絡を差し上げることになるかもしれませんが、皆さんが兄弟としての思いやりをもってそれらを受け取ってくださるものと信じています。また、暗黒の君の力と支配が広範囲に及ぼされており、主イエス・キリストの福音の喜びの知らせを心に留めることなく死に至る道に群がっている人々がいかに多いかを実感している現在、取るに足りない兄弟であるわたしたちが勧告することを、お許しくださるものと信じています。

兄弟の皆さん、しばらくの間、預言者が語った言葉の成就について深く考えてみてください。暗黒が地を覆い、深い闇がそこに住む人々の心を覆っているのをわたしたちは見ているからです〔イザヤ60：2参照〕。人々の中であらゆる種類の罪悪が増えており、極悪な犯罪が行われています。次代を担う人々は高ぶりと尊大さのあふれる環境で成長し、年老いた人々は罪の自覚をまったく失い、神の審判の下る日への思いをことごとく振り払っているように見えます。不節制、不道徳、放縦、高慢、心の暗さ、偶像礼拝、愛情の喪失、この世への愛着、そして永遠にかかわることへの無関心が、天の教えを信じていると公言する人々の間で増えており、その結果として不信仰が広まっています。人々は最も忌まわしい行いや最も邪悪な行いにふけり、不敬な言葉を口にし、詐欺を働き、隣人からの信望を失い、盗み、強盗、殺人を行い、過ちを弁護して真理に敵対し、天の聖約を捨て、イエスを信じる信仰を否定しています。これらすべてが進行する中で、主の日は速やかに近づいており、その日には、礼服を身に着けている人のほか、だれも平和の君である花婿の前で食べ、飲むことが許されないので。

これらがまぎれもない事実であることを痛感するとき、すでに天の賜物を受け、神の善い言葉と来るべき世の力を味わっている人々ほどのような気持ちを抱くでしょうか〔ヘブル6：4-5参照〕。今日の世の人々が危機に瀕していることを知っている人々以外に、だれがこの世の嘆かわしい状態に影響されることなく主の果樹園で働くことができ

るでしょうか。わたしたちの霊の御父は御自身を低くし、自らの創造物のために犠牲を備えてくださいました。すなわち、人を天の王の御前に連れ戻し、彼らに日の栄えの栄光を冠として与え、彼らを御子とともに、朽ちることも、汚れることも、消えてなくなることもない受け継ぎを得る相続人とするのをその大いなる目的として〔1ペテロ1:4参照〕、贖いの計画、贖罪の力、救いの計画を備えてくださいました。このようにして御父が御自身を低くされたことを十分に知っている人のほか、すべての人の前を完全に歩むことの大切さ、これらの祝福を受けるようすべての人に熱心に勧めることの大切さを、だれがはっきり自覚できるでしょうか。これらは人類にとって、言葉に表せないほどすばらしいことです。まことに、それはすべての人に与えられる大きな喜びのおとずれであり、地を満たし、耳にするすべての人の心を喜ばせるおとずれとなるものです。』⁴

「神の僕たちが異邦人の全国民のもとに警告の声を携えて行く業を終える前に、滅ぼす天使は地に住む者を破壊し始めるでしょう。そして預言者が語っているように、『この知らせを聞くことは、苦しみの種となる』でしょう〔イザヤ28:19参照〕。わたしがこのように述べるのは、同胞のことを思うからです。わたしは聖なる御霊に感じて、主の御名によって自ら飛び込んでいる不幸の渦から救い出すことができればよいものを。彼らが災いの日に耐えるだけの信仰を持てるように、警告の声によって、彼らを心からの悔い改めに導く者となることができますように。』⁵

「願わくは、神がわたしたちに力を与えてくださって、わたしたちが互いに対する誓いと聖約を、主の前にはあらゆる忠実さと義をもって果たすことができますように。それによって、わたしたちの影響力が地の国民の間で大いなる力をもって受け止められ、闇の王国を引き裂き、偽善売教と高い所における霊的な悪事に打ち勝ち、キリストの王国に敵対するすべての王国を打ち砕き、永遠の福音の光と真理を川から地の果てまで広めることができますように。』⁶

第4代大管長であるウィルフォード・ウッドラフは、預言者ジョセフ・スミスが次のように語ったことを回想している。「この世は暗闇に閉ざされています。水が大いなる深みを覆っているように、罪と悪事がこの世を制圧しています。悪魔がこの世を大いに支配しています。この世は皆さんに戦いを挑んでくるでしょう。悪魔が、地が、そして地獄が戦いを挑むでしょう。しかし……皆さんは福音を宣べ伝え、自分の義務



預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちに、すべての人々に福音の祝福を受けるように呼びかけることを求めた。「これらは人類にとって、言葉に表せないほどすばらしいことです。」

を果たさなければなりません。そうするならば、主が皆さんの傍らに立ってくださるでしょう。地と地獄も皆さんに打ち勝つことはないでしょう。』^{かたわ}7

**わたしたちの義務は、全人類に対して、悔い改めて、
バプテスマを受け、聖霊を受け、
救いを受け継ぐ者となるよう招くことである**

「わたしたちは、全人類に悔い改めの教義を教えることが自分たちの義務であると信じており、そのことを以下の聖句から示してみようと思います。

『そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。』〔ルカ24：45-47〕

この聖句から、悔い改めと罪の赦しがすべての国民に宣べ伝えられるようにするという明確な目的のために、キリストは苦しみを受け、十字架につけられ、3日目に復活される必要があったことが分かります。

『すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によ

って、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊^{たま}の賜物^{もの}を受けるであろう。この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである。』〔使徒2：38-39〕

この聖句から、悔い改めの福音が宣べ伝えられることになるすべての人々、すべての国民は、聖霊を受けるという約束が与えられていることが分かります。……ですからわたしたちは、悔い改めの教義を世界中の、老いた人にも若い人にも、富んでいる人にも貧しい人にも、束縛された人にも自由な人にも宣べ伝えるべきであると信じているのです。』⁸

「神の目から見て、人は昔と同じように今も貴い存在です。長老たちが召されたのは、だれかを地獄に追いやるためでは決してなく、人々が悔い改めて救いを受け継ぐ者となれるように、どこにいる人でもすべての人を説き勧め、促すためでした。今こそ主の恵みの年であり、囚^{とら}われている人を解放し、彼らがホサナと歌えるようにするのです〔イザヤ61：1-2参照〕。』⁹

「長老には、キリストの大義のために大胆に立ち上がり、悔い改めて、罪の赦しのため、また聖霊を授かるためにバプテスマを受けるように、声をそろえて人々に警告する義務があります。』¹⁰

「これから皆さんに、人々が神の聖なる御霊^{みたま}を満ちあふれるほどに受けて、まさに地のもろもろの国民のうえに下されようとしている神の裁きから逃れることができるように、地位の高い人と低い人、富んでいる人と貧しい人、男性と女性、教え導く者と教え導かれる者、宗教上の信仰を公言する人と公言しない人、すべての人々に主が求めておられることをお話しするつもりです。すべての罪を悔い改め、罪の赦^{ゆる}しのために水の中で、御父と御子と聖霊の御名によってバプテスマを受けてください。そして神の聖なる御霊を受けられるように、この力を持つように聖任され結び固められている者から按手^{あんしゅ}の儀式を受けてください。これは聖書やモルモン書と一致しており、人が日の栄えの王国に入ることのできる唯一の方法です。これらが新しい聖約、すなわちキリストの福音の第一の原則で求められていることです。』¹¹

「すべての人は、主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、すべての罪を悔い改め、罪の赦しのためにイエス・キリストの御名によって（権能を持つ者から）バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けるための按手を受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となるように求められています。』¹²

主の僕しもべは全世界に出て行って、イエス・キリストの福音を進んで
受け入れる人を見いだす

「だれかを中央アメリカに、そして南北アメリカ大陸のあらゆるスペイン語圏の国々に遣わしてください。地上のどこにも伝道の展開されない地域があってはなりません。」¹³

「わたしたちはだれにも、すでに得ている善いものを捨てるように求めているわけではありません。ここへ来て、さらに多くを得るように願っているだけです。もし全世界の人々がこの福音を受け入れたらどうなるでしょう。人々は気持ちを通い合うようになるでしょう。そして神の祝福が人々のうえに注がれるでしょう。これこそ、わたしが心の底から願っていることです。」¹⁴

「福音を聞いた大勢の人々が福音に従うようになり、その賜物たまものと祝福によって喜びを味わっています。偏見とそれに伴う悪事は真理の力の前に道を譲っており、真理の優しい光は遠く離れたもろもろの国民を貫いています。……以前は、わたしたちは詐欺師と見なされ、『モルモニズム』はすぐに滅びて、消滅し、忘れ去られるだろうと思われていました。しかし一時的なもの、あるいは波間に漂う泡のようなものだと見なされる時期は過ぎ去り、今では、流布されてきた偏見を捨て、高潔な精神を持つすべての人々の心と感情に、深く浸透しつつあるのです。彼らは『モルモニズム』について率直にまた正直に調べようとする気持ちに駆り立てられています。」¹⁵

「〔1839年9月〕には、十二使徒の数人とほかの人々がすでにヨーロッパへ出発しており、伝道に召された残りの人々も数日のうちに出かけるだろうと思います。……この国においても祖国においても、主の業は非常に喜ばしい形で展開されています。イギリスでは最近何百人もの人々がわたしたちに加わりました。しかしながら、そうでなければなりません。なぜなら、『エフライムはもろもろの民の中に入り混じ〔っている〕』からです〔ホセア7：8〕。また救い主は次のように語っておられます。『わたしの羊はわたしの声に聞き従う。』〔ヨハネ10：27〕『あなたがたに聞き従う者は、わたしに聞き従うのであ〔る〕。』〔ルカ10：16〕『見よ、わたしは彼らを北の国から連れ帰り、彼らを地の果はてから集める。』〔エレミヤ31：8〕そしてヨハネが『わたしの民よ。彼女から離れ去〔りなさい〕』〔黙示18：4〕と告げる声を聞いたように、すべてのことが成就しなければならないのです。『大いなるバビロン〔が〕倒れ〔る〕』とき〔黙示18：2〕、主の民は生き延びるでしょう。』¹⁶

1839年3月にリバティーの監獄で書かれた手紙の中で、預言者ジョセフ・スミスは次のように述べ、それらは後に教義と聖約123：12に記録された。「地上のすべての教派や宗派、門派の中には、欺こうと待ち伏せる人々の狡猾な悪巧みによって目をくらまされ、見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる多くの人がいる。」¹⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 150ページの第2段落と第3段落を読んでください。回復とモルモン書についての証を分かち合うために勇気を必要とするときがあるのはなぜでしょうか。どうすればそのような勇気をはぐくむことができるでしょうか。
- ジョセフ・スミスはこの世の霊的な暗闇^{くらやみ}について述べた後に、回復された福音による「大きな喜びのおとずれ」について証しています(151-153ページ)。これら二つのことは、わたしたちが口を開いて福音を分かち合うためにどのような励ましとなるでしょうか。
- 152ページの最後の段落を読んでください。伝道活動^{かたわ}において、主はこれまでどのようなときにあなたの傍らに立ってくださったでしょうか。
- 全人類に福音を教えるというわたしたちの義務を思い起こさせるために、ジョセフ・スミスが引用した聖句について深く考えてください(153-154ページ)。福音を人々に分かち合うためにあなたと家族にできることについて考えるか、話し合ってください。
- 154ページの第2段落を読んでください。ここで預言者は伝道の業を、囚われている人を解放するための働きであると述べています。ある人々はどのような意味で囚われの状態にあると考えることができるでしょうか(例として、151-153ページ参照)。福音の第一の原則と儀式は彼らをどのように解放できるでしょうか。
- 155ページの第2段落にある、預言者の勧告を読んでください。この勧告は回復された福音について学ぶことに関して、どのような励ましを与えているでしょうか。155ページの第3段落と、本章の最後の段落を読んでください。教会に対して人々が抱いている「偏見を捨

て」させるために、わたしたちはどのようなことができるでしょうか。どこで真理を見いだすべきかを人々に知らせるために、わたしたちの行いはどのような助けとなるでしょうか。

- 福音を^の宣べ伝えるために努力した結果として、これまであなたの人生にどのような祝福がもたらされてきたでしょうか。

関連聖句——マルコ16：15-20；2ニーファイ2：8；アルマ26：1-9，26-37；教義と聖約42：6-9，11-14；88：77-83

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 81. "History of the Church" (原稿), book A-1, 39-40から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第1巻, 86-88. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更. "History of the Church" (原稿), book A-1, 42-43から, 教会記録保管課
3. パーリー・P・ブラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・ブラット・ジュニア編 (1938年), 298-299. 原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正
4. *History of the Church*, 第2巻, 5-6. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正. "The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から. *Evening and Morning Star*, 1834年2月号, 135に掲載
5. *History of the Church*, 第2巻, 263. 1835年11月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から. *Messenger and Advocate*, 1835年11月号, 211に掲載
6. *History of the Church*, 第2巻, 375. 1836年1月16日, オハイオ州カートランドで開かれた大管長会と十二使徒会の評議会集会の議事録から. ウォーレン・パリッシュによる報告
7. ウィルフォード・ウッドラフによる引用, *Deseret News*, 1884年7月30日付, 434
8. *History of the Church*, 第2巻, 255-256. 原文(英語)においては, 段落変更. 1835年9月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から. *Messenger and Advocate*, 1835年9月号, 180-181に掲載
9. *History of the Church*, 第2巻, 229, 脚注. "To the Saints Scattered Abroad," *Messenger and Advocate*, 1835年6月号, 138から
10. *History of the Church*, 第2巻, 263. 1835年11月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から. *Messenger and Advocate*, 1835年11月号, 211に掲載
11. *History of the Church*, 第1巻, 314-315. 1833年1月4日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがN・C・サクストンにあてて書いた手紙から. *History of the Church*ではサクストン氏の名前が誤って "N. E. Seaton" と記載されている
12. リチャード・サバリーからの手紙に対する編集者の返答. *Times and Seasons*, 1842年3月15日付, 732. 原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正. ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
13. *History of the Church*, 第5巻, 368. 1843年4月19日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスによって与えられた教えから. ウィラード・リチャーズによる報告
14. *History of the Church*, 第5巻, 259. 1843年1月22日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィルフォード・ウッドラフによる報告
15. *History of the Church*, 第4巻, 336-337. 原文(英語)においては, つづりは現代の方法に修正, 段落は変更. 1841年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが行った報告から. *Times and Seasons*, 1841年4月15日付, 384に掲載
16. *History of the Church*, 第4巻, 8-9. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正. 1839年9月11日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙から
17. 教義と聖約123:12. 1839年3月20日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄でジョセフ・スミスとそのほかの人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙



1831年2月、オハイオ州カートランドに到着したジョセフ・スミスは、
ニューエル・K・ホイットニーの店に入ると、次のように言った。
「わたしは預言者ジョセフです。……あなたの祈りによって、わたしはここにきました。
わたしに何をお望みですか。」



従順—— 「主が命じられるなら、行いなさい」

「神の戒めに厳密に従って生活し、
神の前をへりくだって歩んでください。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスとエマ・スミスは、1827年12月から1830年8月までペンシルベニア州ハーモニーに住んでいた。預言者は教会の務めのため定期的にニューヨーク州を訪れていた。1830年9月、ジョセフとエマはニューヨーク州西部に住む聖徒たちに加わるため同州フェイエットに移り住んだ。同じ年の12月、ジョセフ・スミスはニューヨーク州の教会員に大きな犠牲を求めることになる一つの啓示を受けた。彼らは自分たちの家や農場、仕事を離れてオハイオ州カートランドに集まるように求められたのである（教義と聖約37章参照）。その地で彼らは、同地域に住む改宗者たちに加わって教会を築き上げ、主から約束されたように「高い所から力を授けられる」ことになっていた（教義と聖約38：32）。ジョセフとエマは、主の命令にいち早く従った人々とともに、1831年1月の終わりにニューヨーク州を離れた。特に厳しかった冬のただ中を、彼らはカートランドまでそりで250マイル〔400キロ〕以上を旅した。しかも、当時エマは双子を宿していた。

カートランドの住民であったニューエル・K・ホイットニーは、最初に預言者を歓迎した人物の一人であった。ニューエルの孫であるオーソン・F・ホイットニーは次のように述べている。「1831年2月1日ごろ、4人の人物を乗せたそりがカートランドの通りを走り抜け、ギルバート・アンド・ホイットニーの店の玄関で止まりました。……その中の一人、若くてがっしりした体つきの人物が、そりを降り、踏み段を駆け上って店に入ると、店の共同経営者が立っている所に歩いて行きました。

『ニューエル・K・ホイットニー。あなたですね。』その人物はそう呼びながら、まるで旧知の友に会ったかのように、心を込めて手を差し出しました。

『どなたでしたでしょうか。』〔店主〕は差し出された手を無意識に取り、愉快なような、当惑したような表情を浮かべながら答えました。『あなたがしてくださったように、名前でお呼びすることができないのですが。』

『わたしは預言者ジョセフです。』見知らぬ人物はほほえみながら言いました。『あなたはここでわたしのために祈ってくださいましたね。わたしに何をお望みですか。』

ホイットニー氏は驚きましたが、また同じくらいに喜び、驚きが収まるとすぐに、一行を……通りの反対側の角にある自分の家に案内し、妻〔エリザベス・アン〕を紹介しました。エリザベスもまったく同じように驚き、また我を忘れるほどに喜びました。ジョセフはこの出来事について次のように述べています。『わたしたちはN・K・ホイットニー兄弟の家に優しく受け入れられ、歓迎を受けました。わたしと妻は数週間にわたってホイットニー兄弟の家族のところに滞在し、これ以上ないほどのあらゆる親切と心遣いを受けました。』〔*History of the Church*, 第1巻, 145-146参照]¹

オーソン・F・ホイットニーは次のように宣言している。「この驚くべき人物、ジョセフ・スミスは、肉にあって一度も会ったことのない人をどのような力によって見分けたのでしょうか。なぜニューエル・K・ホイットニーにはジョセフが分からなかったのでしょうか。それはジョセフ・スミスが聖見者、しかもえり抜きの聖見者であったからです。ジョセフは、何百マイルも離れた所でニューエル・K・ホイットニーがひざまずき、預言者がカートランドに来るように祈るのを、実際に見ていたのです。驚くべきことですが、真実です。』²

「5月までに、さらに200名ほどの聖徒たちがニューヨーク州を離れてカートランドに向かった。そりや荷車を利用した人もいたが、ほとんどの人はエリー運河の船を利用し、その後、蒸気船や帆船でエリー湖を横断した。生涯で直面したほかの数多くの困難な状況においてもそうであったように、ジョセフ・スミスはこのカートランドへの移動の間、どんなに難しい務めであろうとも神の戒めに従うよう聖徒たちを導いた。

その4年後、カートランドで成長を続ける教会を導くことに伴う

様々な重圧のただ中であって、預言者はその生涯を特徴づける次のような信念を表明している。「11月はかつてなかったほどに多忙な月でした。しかしわたしは、活力と絶え間ない努力から成る自分の人生で、次の規則に従うようにしています。『主が命じられるなら、行いなさい。』」³

ジョセフ・スミスの教え

天の祝福は、神の御心^{みこころ}を知り、神が命じられるすべてを行うよう努めるときに与えられる

「救いを得るには、神が命じておられることの幾つかを行うだけでなく、すべてを行わなければなりません。神が命じられること以外のすべてを説き教え、行ったとしても、最後には罰の定めを受けるでしょう。はっか、うん香、あらゆる野菜を什分の一として納めていても、まだ神の戒めに従っていないということがあるかもしれません〔ルカ11：42参照〕。わたしが目指すのは、神から行うように告げられる事柄に従うことであり、また従うように人々に教えることです。その原則がどれほど人々に受け入れられているかにかかわらず、たとえ自分独りであっても、わたしは常にまことの原則を擁護するつもりです。』⁴

「教会として、また民として、わたしたちは賢くあり、神の御心を知るように努め、次に進んでそれを行う必要があります。『めぐまれているのは、主の言^{ことば}を聞いてそれを守る人である。』と聖文に書かれているからです。救い主は、『これらの起ころうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。』と言っておられます〔ルカ11：28；21：36参照〕。もしエノク、アブラハム、モーセ、イスラエルの子ら、そして神のすべての民が、神の戒めを守ることによって救われたのであれば、わたしたちも、もし救われるとすれば、同じ原則に基づいて救われることになるでしょう。神はアブラハム、イサク、ヤコブを家族として、またイスラエルの子らを一つの国民として治められました。同じように、わたしたちも教会として、もし繁栄と守りと支えを得ているのであれば、それは神の導きの下にあるに違いないのです。信頼を寄せることのできる御方は神だけであり、知恵を授けてくださる御方は神だけです。霊的にも物質的にも、守り手となり保護者となられ



ジョセフ・スミスは「主が命じられるなら、行いなさい」と宣言している。^{じゅうぶん}十分の一の律法は、主から与えられるすべての戒めと同様、それに従う人々に大いなる祝福をもたらす。

る御方は神だけであり、そうでなければわたしたちは倒れるでしょう。

これまでわたしたちは、人間の法律を犯したことや、人間の訓戒に背いたことは一度もありませんでしたが、神の戒めに従わなかったために、神の手から懲らしめを受けてきました。神の戒めを軽々しく扱い、神の定めから離れてきたため、主はわたしたちを厳しく懲らしめられ、わたしたちは主の腕を感じ、素直に懲らしめを受け入れてきました。これからは賢くあって、『従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる』ことを常に覚えておきましょう〔サムエル上 15：22〕。⁵

「教えを受けたときには、その声に従い、神の王国の律法を守らなければなりません。天の祝福がわたしたちのうえにとどまるようにするためです。すべての人が心を合わせて行動しなければならず、そうでなければ何も行うことはできません。また昔の神権に従って動かなければなりません。ですから、聖徒たちは選ばれた民、この世のあらゆる悪から離れた、えり抜き、徳高い、聖なる民でなければなりません。エノクの時代のように、主はこのイエス・キリストの教会を祭司の王国、聖なる民、選ばれた世代にしようとしておられます。そし

て、この教会にはパウロが当時の諸教会に送った手紙や教えの中で説明したすべての賜物たまものが与えられます。〔出エジプト19：6；1ペテロ2：9参照〕。〕⁶

「もしイエス・キリストが神の御子であられると信じ、それによって幸いを得ているとしても、主の戒めに従わないならば、主の義にかなった要求に対する不従順のために最後には切り倒されるでしょう。』⁷

「徳高く、清くあってください。高潔で、誠実な人であってください。神の戒めを守ってください。そうすれば、正しいことと誤ったことの違い、すなわち神にかかわる事柄と人から出ているものの違いを、より完全に理解できるようになるでしょう。そして皆さんの道は正しい者の道ようになり、ますます輝きを増してついには真昼となるでしょう〔箴言4：18参照〕。』⁸

ウィルフォード・ウッドラフは、十二使徒定員会の会員として働いていたとき、次のように報告している。「ジョセフ大管長は……ぶどうの木とその枝のたとえを読み〔ヨハネ15：1-8参照〕、それについて説明し、次のように言いました。『もし神の戒めを守るならば、わたしたちは実を結び、神の友となり、主がなされたことを知るでしょう。』⁹

神が与えてくださる律法は、もしわたしたちが従うならば、 日の栄えの安息に備えさせてくれる

「神は、あらゆる状況下にあるすべての人の状態を改善するため、その時々に適した形に変えることなく戒めを与えられることはありません。その人がどの王国や国にいるかは大事ではありません。』¹⁰

「天の律法が人に明らかにされています。それは天の律法であるため、従うすべての人にはこの世のどんな報酬をもはるかにしのぐ報いが約束されています。ただしこの律法では、あらゆる時代の信者が、地上の悪人たちの行いの結果として様々な事柄から生じる苦難や災難を免れるとは約束されていません。それでも、このすべての苦難や災難のただ中であって、それが天の律法であるという事実に基づく約束が存在しています。永遠の命が現世の生涯に勝るのと同じように、また、神がお与えになれる祝福が、人が与えられる祝福よりも大いなるものであるように、天の律法は人の法律をしのぐものです。ですから確かに、もし人の法律が、執行しゅこうされたときに人に対して拘束力を持つのであれば、天の律法にはどれほど強い拘束力があるのでしょうか。ま

た、天の律法は人の法律よりも完全なものであるため、従ったときの報いも、はるかに大いなるものであるに違いありません。……神の律法は永遠の命、すなわち神御自身の右で得る受け継ぎ、邪悪な者のあらゆる力からの守りを約束しています。……

……神は御自分の声に従い、その戒めを守ったすべての人を、いつ御自分の日の栄えの安息に招き入れるかについて、御自身の胸の内に定められた時または時期を用意しておられます。この安息は完全かつ栄光に満ちたものであるため、人はその王国の律法に従ってその安息に入り祝福を受ける前に、準備をする必要があります。この事実から、神は人類家族に特定の律法を授けてくださっているものであり、それらの律法は、もし従うならば、神の安息を受け継ぐ十分な備えを人にさせるのです。すなわち、これこそ神がわたしたちに律法をお与えになった目的なのです。……主の律法に含まれているすべての戒めには、従うすべての者に報いが与えられるという確かな約束が伴っています。そしてそれは、偽りを言うことのできない御方、御自分の言葉をことごとく果たす力を豊かに備えた御方の確かな約束であるという事実に基づいているのです。』¹¹

1843年4月にジョセフ・スミスは次のように教え、それは後に教義と聖約130：20-21に記録された。「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。』¹²

「天上の会議で人のために定められたすべての祝福は、その律法に従うことを条件としていました。』¹³

最後まで忠実な人々は義の冠を受ける

「神の戒めに厳密に従って生活し、神の前をへりくだって歩んでください。そうすれば、神は御自分がふさわしいと思うときに、あなたを高く上げてくださるでしょう。』¹⁴

「主の戒めを守らないために、望んだものを得られなかったり、立っているつもりでいながら倒れたりすることのないように、人は終わりの時に自分が行うことに対して何と注意深くなければならないことでしょう。その一方で、主の御心みこころを行い、主の戒めを守る皆さんは、言い表すことのできない歓喜をもって喜ぶ必要があります。そのような人は非常に高く上げられ、勝利のうちにこの世のあらゆる王国より

も高く上げられるからです。』¹⁵

「〔マタイ〕22章にあるメシヤについての記述の中で、天の王国が、息子のために婚宴を催した王にたとえられています〔マタイ22：2-14参照〕。この王子がメシヤであることに反論する人はいないでしょう。このたとえで述べられているのは天の王国だからです。そして聖徒たち、すなわち主に忠実であるとされる者たちが、婚宴で席を得るにふさわしいとされる人々であることは、黙示録にあるヨハネの言葉から明らかです。ヨハネは自分が天で聞いた音は『大群衆』のようであったと述べており、次のように語っています。『また激しい雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、「全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の 때가きて、花嫁はその用意をしたからである。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布あさぬのの衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである。』〔黙示19：6-8〕

主の戒めを守り、最後まで主の掟おきてのうちに歩む人々が、この栄えある婚宴で席に着くのを許される唯一の人々です。このことは、自らの死の直前にパウロがテモテにあてた最後の手紙にある次の言葉から明らかです。パウロは次のように述べています。『わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。』〔2テモテ4：7-8〕この話を信じる人なら、パウロがまさにこの世を去ろうとしていたときに強い確信をもって語ったこの言葉を、一瞬でも疑うことはないでしょう。パウロ自身の言葉によれば、彼はかつて神の教会を迫害し、荒らし回りましたが、信仰を受け入れてからは、栄えある知らせを広めるために絶えず働きました。そして自分が支持してきた大義にあって命をささげるように求められたとき、パウロは自身の言葉のとおり、忠実な兵士のように、永遠の冠を確信しながら命を捨てたのでした。

この使徒の改宗から死に至るまでの働きをたどってみるなら、勤勉に忍耐強くキリストの福音を広めることのできる確かな手本を見いだすことでしょう。あざげられ、鞭打たれ、石を投げつけられながらも、パウロは迫害者たちの手から逃れるとすぐに、それまでと同じように熱心に救い主の教義を宣言しました。そして、パウロが信仰を受け入れた

のはこの世における誉れのためでも、この世の品々を得るためでもなかったことをすべての人が知るでしょう。それでは、何がパウロにこのすべての労苦を耐えるよう促したのでしょうか。それは、パウロが語っているように、神の手から義の冠を受けることでした。パウロが最後まで忠実であったことを疑う人はいないでしょう。パウロが信仰を守り通し、戦いを立派に戦い、最後まで教えを説き、説き勧めたということを否定する人はいないでしょう。ではパウロが受けることになっていったものは何でしょうか。義の冠です。……

兄弟の皆さん、少しの間、深く考え、自問してみてください。もし自分が忠実でなかったならば、皆さんは自分自身のことを、婚宴でパウロやパウロのような人々とともに席に着くにふさわしいと思うでしょうか。もし戦いを立派に戦い抜き、信仰を守り通さなかったならば、パウロに約束されたものと同じ祝福を期待できるでしょうか。皆さんは、長子の教会とともに、主の手から義の冠を受けるという約束を得ているでしょうか。わたしたちには、パウロがキリストに望みを置いていたことが分かります。なぜならパウロは信仰を守り通し、主の現れを心から待ち望み、そして主の手から義の冠を受けるという約束を受けていたからです。……

……昔の人々は、迫害され苦しめられましたが、神から約束を受けていました。それは非常に重みのある、栄光に満ちた約束であり、その人々について知ることを許されていることにさえ、わたしたちの心は度々感謝の念で満たされるほどです。この感謝の念は、神が人を偏り見ない御方であって、神を畏れ、義を行う者はどの国民であっても受け入れてくださるということを思い起こさせてくれます〔使徒10：34-35参照〕。……

わたしたちは次のように結論づけることができます。すなわち、すべての人が自分の行いによって裁かれ、自分の行いに応じて報いを受ける日が来ます。信仰を守り通した人は義の冠を受け、白い衣を身にまとい、婚宴の席に着くのを認められ、あらゆる苦難から解放され、キリストとともに地上において治めるでしょう。昔の約束によれば、彼らはそこで、キリストとともに栄えある王国において新しいぶどうの実から造ったものを飲むでしょう。少なくとも、わたしたちはそのような約束が昔の聖徒たちに与えられていたことを知っています。昔の人々に与えられたこれらの約束について、わたしたちは権利を主張することはできません。それは昔の聖徒たちに与えられたものであつ



アグリッパ王の前で証^{あかし}を述べるパウロ。ジョセフ・スミスは次のように語っている。
 「パウロが最後まで忠実であったことを疑う人はいないでしょう。……ではパウロが
 受けることになっていたものは何でしょうか。義の冠です。」

て、わたしたちが所有するものではないからです。それでも、もしわたしたちがいと高き御方の子供であって、彼らが受けたのと同じ召しを受け、彼らが受け入れたのと同じ聖約を受け入れ、彼らと同じように主の証^{あかし}に忠実であるならば、わたしたちは彼らが御父に近づいたのと同じように、キリストの名によって御父に近づき、同じ約束を自ら得ることができるのです。

もしわたしたちがこれらの約束を得ることがあるとすれば、それはペテロやヨハネ、そのほかの使徒たちが……神を畏^{おそ}れて歩んだため、そして勝利を得てそれらの約束を得る力と信仰を持っていたためではありません。わたしたち自身が、彼らと同じように信仰を持ち、御子イエス・キリストの名によって神に近づいたからです。そしてこれらの約束が与えられるとき、それは直接わたしたちに与えられるのであ

って、そうでなければ、わたしたちにとって何の役にも立たないでしょう。それはわたしたちの益のために知らされ、(神の賜物^{たまもの}によって)わたしたち自身が所有するものであって、わたしたち自身が熱心に神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むことによって得られるものなのです。』¹⁶

「兄弟の皆さん。もし必要であるならば、あるいはそうすることがさらに熱心に主のおどろ園で働くように皆さんを何らかの形で促すことになるのであれば、次のことを心にとどめてほしいと思います。昔の聖徒たちは、キリストを信じることのすばらしさと正しさを人々に説き勧めるというただ一つの目的のために、様々な労苦、試練、窮乏、迫害を堪え忍びました。しかし(もし皆さんが聖文を十分に研究しているならば)、彼らの忍耐強さについては、皆さんのだれもが知っているでしょう。また、主の手から命の冠を受けるという確信を得るために、目の前にあるこの世の誉れや喜びを進んで犠牲にしたことも知っているでしょう。そして受け入れた大義に対する彼らの熱意を示す、勤勉という彼らの卓越した模範を、皆さんは日々手本とするように努めているでしょう。そして皆さんが、聖徒たちのこれらの模範だけでなく、主の戒めを絶えず心の中で思い巡らしているように願っています。また皆さんが、主の福音を宣言することに関する主の御心だけでなく、邪悪で不義な時代の人々から容赦のない迫害と虐待をお受けになったときでさえも、主がすべての人の前を柔和に、そして完全に歩まれたということを学んでいるように願っています。

兄弟の皆さん、主が皆さんに聖^{きよ}くなるよう招いておられることを覚えてください。そうすれば純粹さにおいて主に似た者となるようにと、わたしたちが言う必要があるでしょうか。また、皆さんは主の前にどれほど賢く、どれほど聖く、どれほど純潔に、どれほど完全に振る舞うべきでしょうか。そして、主の目がいつも皆さんのうえにあることも覚えてください。これらの事実を然るべき光の中で見るなら、主の神聖な要求のすべてを厳密に守らなければ、ついには自分が義において欠けたところのある者とされるということを自覚せずにはいられないでしょう。そしてもしそうならば、皆さんの行く末はふつつかな僕^{しもべ}たちの行く末と似たものになるでしょう。ですから兄弟の皆さん、自分の報いを失うことのないように、自分の責任にゆだねられているすべての事柄をより良いものとするよう、わたしたちは皆さんにお勧めします。』¹⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 160ページの最後の段落を、ジョセフ・スミスが人生に取り入れた規則に注目しながら読んでください。最近あなたが生ける預言者の言葉や聖霊の導きによって受けた具体的な指示について考えてください。これらの指示に躊躇せずに従ったとき、どのような祝福を受けてきたでしょうか。
- 161ページの最初の段落を読んでください。「自分独りで……まことの原則を擁護」しなければならないことがあるのはなぜでしょうか。そのようなとき、わたしたちはどのような点で独りではないでしょうか（例として、161-163ページ参照）。周りの人の多くが福音の原則に忠実でないときでも、子供たちや青少年が忠実でいられるように、わたしたちにどのような助けができるでしょうか。
- 163ページから始まる項目を研究してください。神はどのような理由で戒めを与えられるでしょうか。なぜわたしたちは神の戒めに従うべきなのでしょう。
- マタイ22：2-14と2テモテ4：7-8についてのジョセフ・スミスの教えを読んでください（164-168ページ）。自分が婚宴の席に着くのを認められたらどのように感じるか深く考えてください。婚宴の席を得るにふさわしくなるためには、どのような人物でなければならないでしょうか。戦いを立派に戦い、信仰を守り通すとはどのような意味だと思えますか。戦いを立派に戦い、信仰を守り通してきた人物を思い浮かべてください。その人からどのようなことが学べますか。
- 預言者ジョセフは、主がわたしたちを「聖くなるよう招いておられる」ことを覚えておくように勧めています（168ページ）。聖くなるように招かれることは、あなたにとって何を意味するでしょうか。主が「招いておられる」ことを覚えておくと、わたしたちの生活、または家族や友人の生活はどのように変わるでしょうか。

関連聖句——出エジプト20：1-17；ヨハネ7：17；1ニーファイ3：7；教義と聖約58：26-29；アブラハム3：25

注

1. オーソン・F・ホイットニー “Newel K. Whitney,” *Contributor*, 1885年1月号, 125. 原文(英語)においては, 句読点と文法は現代の用法に修正
2. オーソン・F・ホイットニー, *Conference Report*, 1912年4月, 50
3. *History of the Church*, 第2巻, 170. “*History of the Church*” (原稿), book B-1, 558から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
4. *History of the Church*, 第6巻, 223. 1844年2月21日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
5. *History of the Church*, 第5巻, 65. *Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 857に掲載された論説 “The Government of God” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
6. *History of the Church*, 第4巻, 570. 1842年3月30日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
7. *History of the Church*, 第5巻, 426. 1843年6月11日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
8. *History of the Church*, 第5巻, 31. *Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 825に掲載された論説 “Gift of the Holy Ghost” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
9. *History of the Church*, 第4巻, 478. 原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正。1841年12月19日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
10. 1839年3月22日, ミズーリ州リバティ, リバティの監獄でジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1840年2月号, 54に掲載
11. *History of the Church*, 第2巻, 7-8, 12. “The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” (1834年1月22日付) から。 *Evening and Morning Star*, 1834年2月号, 135-136に掲載
12. 教義と聖約130:20-21. 1843年4月2日にイリノイ州レイマスでジョセフ・スミスによって与えられた教え
13. 1843年7月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。フランクリン・D・リチャーズによる報告。Franklin Dewey Richards, *Scriptural Items*, 約1841-1844年, 教会記録保管課
14. *History of the Church*, 第1巻, 408. 1833年9月4日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがビエナ・ジャックスにあてて書いた手紙から。 *History of the Church*では, ジャックス (Jacques) 姉妹の姓は時々 “Jaques” ともつづられている
15. *History of the Church*, 第1巻, 299. 1832年11月27日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から
16. *History of the Church*, 第2巻, 19-22. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。段落変更。“The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” (1834年1月22日付) から。 *Evening and Morning Star*, 1834年3月号, 144に掲載
17. *History of the Church*, 第2巻, 13. 原文(英語)においては, 段落は変更。“The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” (1834年1月22日付) から。 *Evening and Morning Star*, 1834年3月号, 142に掲載



死に際して与える希望と慰めの言葉^{なぐさ}

「死者に関して、わたしたちにはどのような慰めが与えられているのでしょうか。わたしたちの死者に対しては、地上のどんな民にも増して大いなる希望と慰めを得るだけの理由があります。」

ジョセフ・スミスの生涯から

預言者ジョセフ・スミスは生涯のうちに幾度も愛する人々との死別を経験している。1828年6月15日、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、ジョセフとエマの最初の息子であるアルビンが、生後間もなく死亡した。1831年2月、ジョセフとエマがニューヨーク州からオハイオ州カートランドへ移動していたとき、エマは再び子供を宿しており、この度は双子だった。カートランドに到着して間もなく、ジョセフとエマは教会員のアイザック・モーリーが所有する農場に建てられた小屋に移った。4月30日、サダウスとルイーザがその小屋で生まれたが、二人は生き長らえることなく、誕生から数時間で世を去った。

同じころ、カートランドに近いオハイオ州ウォレンズビルでは、ジョン・マードック兄弟が妻ジュリアを亡くした。ジュリアは元気な双子を出産したばかりだった。今や5人の子供を持つマードック兄弟は、新生児たちの世話をすることができなと感じて、ジョセフとエマに自分の双子を養子にしてほしいと頼んだ。ジョセフとエマは、二人を喜んで自分たちの家族に迎え、ジョセフとジュリアと名付けた。しかし悲しいことに、幼いジョセフは11か月後の1832年3月、はしかを患っているときに夜の冷気にさらされたことが原因となって死亡した。それは預言者が暴徒にタールを塗られて羽根を付けられたときだった。この死によって、最初の5人の子供のうち4人を埋葬することになった両親は悲しみに暮れていた。生存している子供はジュリアただ一人となった。

ジョセフとエマには11人の子供（二人の間に生まれた子供が9人と



ジョセフ・スミスとエマ・スミス，および彼らが自分たちの幼い双子を亡くした後
間もなく養子にした双子。ジョセフとエマは喜んでジョセフとジュリアを家族に迎えたが、
幼いジョセフは1832年3月に世を去った。

養子が2人)がいたが、そのうち成人まで生きながらえたのは、以下の5人だけであった。1831年に誕生のジュリア、1832年に誕生のジョセフ3世、1836年に誕生のフレデリック、1838年に誕生のアレクサンダー、そして父親の死から5か月後の1844年11月に誕生のデビッド。1841年にはジョセフとエマに生まれた息子ドン・カーロスが生後14か月で死亡、1842年には誕生した息子がその日のうちに死亡している。

ジョセフ・スミスはまた、生涯のうちに3人の兄弟を失っている。1810年にはエフライムが、生後間もなく死亡した。1823年にはジョセフの兄アルビンが25歳で死亡し、1841年には弟のドン・カーロスが、やはり25歳で死亡している。いずれも早すぎる死だった。

さらに預言者はもう一人の大切な人を亡くしている。預言者が助言を受け、精神的なよりどころとしてきた父親が、1840年、イリノイ州ノーブーで死亡した。父スミスは自分の死期が迫っていることを悟ると、家族を枕もとに呼んだ。そして妻にこう言った。「子供たちを眺めていると、主の業を行うように彼らを育てられたことを実感するよ。でも、地上に生きているかぎり災難や苦難を経験しなければならないのだと思うと、心が痛む。また君をこのように敵に囲まれた中に残していくのがひどく心配だ。」¹

次に、子供たち一人一人に順番に語り、最後の祝福を与えた。預言者の母親の記録によると、父スミスは預言者ジョセフに次のような励ましの言葉をかけている。

『わたしの息子ジョセフよ、あなたは気高くかつ聖なる召しを受けている。まさしく主の業を行うように召されているのだ。いつまでも忠実でありなさい。そうすればあなたは祝福を受け、あなたの後の子孫も祝福を受けるだろう。あなたは自分の業を終えるまで生き長らえるだろう。』

ジョセフはこの言葉を聞いて、涙を流しながら叫びました。『おお、お父さん、そうなのですか。』『そうだ』と父親は言いました。『あなたは生き長らえて、あなたのなすべき業として神から与えられているすべての業の計画を整えるだろう。これがこの世を去ろうとしているわたしが、イエスの御名^{みな}によって、あなたの頭^{こうべ}に授ける祝福だ。』²

自らの生涯におけるこれらのつらい経験と、救い主の贖罪^{しよくざい}について靈感によって得た理解を基に、預言者ジョセフ・スミスは大勢の悲しむ聖徒たちが心から求めていた慰めを与えることができた。

ジョセフ・スミスの教え

愛する家族や友人が世を去るとき、わたしたちは来るべき世で 彼らと再会することを知り大きな慰めを得る

1844年4月7日、預言者はノーブーで開かれた教会の大会で話をした。預言者は先ごろ世を去った友人のキング・フォレットについて語っている。「愛する聖徒の皆さん、これから死者というテーマに基づいてお話ししたいと思いますので、どうか注意してお聞きください。わたしたちの愛する兄弟、キング・フォレット長老が、井戸の中で落ちてきた石の桶おけに当たって亡くなり、そのことが直接のきっかけとなって、このテーマを選びました。フォレット長老の友人や親戚しんせきから話をしよう求められましたが、この町に住むこの会衆の中にも、ほかの町に住む人々の中にも、友人を亡くした人が大勢いますので、このテーマ全般にわたってお話ししたいと思います。わたしの能力の及ぶかぎり、そしてこのテーマについて聖なる御霊みたまから導かれる範囲において、わたしの考えを申し上げたいと思います。わたしは皆さんの祈りと信仰を必要としています。それは、わたしが全能の神の指示と聖霊の賜物たまものを受けて、真実のことを、また皆さんが容易に理解できる事柄を述べるためであり、また、証によって、わたしの話すことが真実であるという確信が皆さんの心と思いおもひに授けられるためです。……

……わたしは自分の証が真実であることを知っています。ですから、これらの悲しんでいる人々に向けて話をしているわけですが、彼らは一体何を失ったのでしょうか。彼らの親戚や友人は、少しの間肉体から離れているにすぎないのです。神とともにいた彼らの霊は、言ってみれば、ほんのわずかの間だけ土の幕屋を離れたのです。そして今はある場所において、地上のわたしたちと同じように、ともに語り合っているのです。……

……死者に関して、わたしたちにはどのような慰めが与えられているのでしょうか。わたしたちの死者に対しては、地上のどんな民にも増して大いなる希望と慰めを抱くだけの理由があります。なぜならわたしたちは、彼らがわたしたちの中であってふさわしく歩み、イエスの御腕みうでの中で眠りに就くのを見ていたからです。……

キング・フォレット長老の死について言えば、悲しんでいる皆さんには喜ぶ理由があります。皆さんの夫であり父親である人は、死者の復活まで、すなわち完全な者となるまで待つために、世を去って行っ

たからです。皆さんの友は、復活のときに至福のうちによみがえり、日の栄えの栄光に行くからです。……

わたしは聖霊の権能により、このように言うことができます。皆さんには心配する理由はありません。フォレット長老は正しい者の家に行ったからです。悲しんではなりません。涙を流してはなりません。わたしはそのことを、わたしの内にある聖霊の証^{あかし}によって知っています。日の栄えの世界の朝に友人たちが皆さんに会うため出て来るときを待ってください。……

わたしには霊の世界に行った父や兄弟たち、子供たち、友人たちがいます。彼らがいなのは少しの間にすぎません。彼らは霊の状態であり、わたしたちはすぐに再会するでしょう。ラッパが鳴る時が、すぐに来るでしょう。わたしたちは世を去るときに、イエスにあって眠りに就いた母親、父親、友人、そしてすべての愛する人々と喜びの言葉を交わすでしょう。そこには暴徒や迫害を恐れることも、悪意のある訴訟や拘束を心配することもなく、永遠の幸いがあるでしょう。』³

ロレンゾ・D・バーンズ長老は、イギリスで宣教師として働いていたときに死亡した。建築中のノーブー神殿で開かれた集会において、預言者はバーンズ長老の死について語っている。「わたしが望んでいることをお話ししましょう。もし明日、あそこの墓にわが身を横たえるように召されるならば、復活の朝を迎えるときには父と手を取り合って、『お父さん』と叫ぶでしょう。すると父は、岩が裂けるやいなや、わたしたちが墓から出て来る前に、『息子よ、息子よ』と言うでしょう。

これらの事柄を、そのように考えても差し支えないでしょうか。もしそれによってどのように生き、どのように死ぬかを理解するならば、差し支えないでしょう。わたしたちは身を横たえるとき、自分たちが朝どのように起きるかを考えます。友人たちが愛の腕に抱かれながらともに身を横たえ、眠り、目を覚まして互いに抱擁^{ほうよう}し、再び言葉を交わすのは、喜ばしいことです。

もしこの興味深いテーマに関してわたしが示現で見たことを述べるとしたら、皆さんは不思議に思うでしょうか。イエス・キリストにあって死んだ人々は、出て来るとき、彼らがこの世で得ていた、あるいは待ち望んでいたあらゆる喜びが現実のものとなると考えることができます。

その示現は非常にはっきりとしたもので、わたしは実際に、墓から出てくる前の人々を見ました。彼らはゆっくりと起き上がっているかのようにでした。互いに手を取り合って、『お父さん、息子よ、お母さ

ん、娘よ、兄さん、姉さん』と書いていました。死者に起きるように命じる声があるとき、かりにわたしが父の傍らに横たえられているとしたら、わたしが心に覚える最初の喜びは何でしょうか。わたしの父と、母と、そして兄弟や姉妹との再会です。そして彼らがわたしの傍らにいるならば、わたしは彼らを抱き締め、彼らもわたしを抱き締めるのです。……

わたしにとっては、死よりも、消滅すると考えることの方がつらいです。もし父や母、兄弟や姉妹や友人たちに再会できる望みがないとしたら、わたしは今にも心が張り裂けそうになりながら、墓に入ることになるでしょう。復活の朝に友人たちに会えるという望みがあるので、心が励まされ、人生の諸悪に堪える力が得られます。彼らは長い旅に出ているようなものであり、彼らが戻るとき、わたしたちはいっそうの喜びをもって彼らと会うのです。……

マーセラス・ベイツ〔妻を亡くした教会員〕に、慰めを与えます。あなたは間もなく栄光の世界において、あなたの伴侶^{ほんりよ}とともにいるでしょう。またバーンズ兄弟の友人たちや、悲しんでいるすべての聖徒たちもそうです。このことはわたしたち全員にとって、まじめであり、勤勉であって、浮かれ騒ぐことやむなしく愚かなことを捨て、明日死を迎えるとしてもその準備をしておくようにとの警告の声となっているのです。』⁴

子供が復活するとき、両親は墓に横たえたときとまったく同じ有様の子供を迎える

2歳で亡くなったマリアン・ライアの葬儀において、預言者は次のように語っている。「わたしたちの中であって再び警告の声が響いており、その声は人の命が確かでないことを告げています。わたしは時間のあるときにこのテーマについて思い巡らし、幼児たち、罪のない子供たち、とりわけ最も英知に優れ、皆の関心を集める子供たちがわたしたちから取り去られるのはなぜかを問うてきました。わたしの思いに浮かぶ最も有力な理由は次のようなものです。すなわち、この世は非常に邪悪であり、……さらに邪悪で腐敗したものとなっています。……主は多くの人々を、幼児さえも取り去られますが、それは彼らが人のねたみやこの世の悲しみや悪事から逃れられるようにするためなのです。彼らは地上に住むにはあまりに純粹で、あまりに愛らしいのです。ですから、もし正しい考えを取るならば、わたしたちは悲



『母親は永遠に自分の子供たちの母親なのではないですか。』そうです。そのとおりです。
母親の皆さん、皆さんの子供たちは皆さんのものになります。
彼らの負債は支払われており、彼らは永遠の命を得るからです。』

しむよりも、喜ぶべきです。彼らは悪から救い出されているのであり、わたしたちはすぐに彼らと再会することになるからです。……

……年老いて死ぬことと若くして死ぬことの唯一の違いは、一方が他方よりも天と永遠の光と栄光のうちに長く住み、この惨めで邪悪な世から少しばかり早く解放されることです。しかしこのすべての栄光にもかかわらず、わたしたちは少しの間そのことを見失い、死を悲しみます。それでもわたしたちは希望のない人々のように嘆き悲しんだりはしません。』⁵

「次のような疑問が心に浮かぶかもしれません。『母親は永遠に自分の子供たちの母親なのではないですか。』そうです。そのとおりです。母親の皆さん、皆さんの子供たちは皆さんのものになります。彼らの負債は支払われており、彼らは永遠の命を得るからです。』⁶

「子供たちは……死んだときと同じ有様で確かによみがえります。わたしたちはそこで、同じ栄光を持つ愛らしい幼児たち——日の栄えの栄光のうちに同じ愛らしさを持つ幼児たちを歓呼して迎えることができるのです。』⁷

第6代大管長であるジョセフ・F・スミス大管長は、次のように報告

している。「ジョセフ・スミスは、幼くして死んだ子供は復活のときに子供として出て来るという教義を教え、子供を亡くした母親に向かって、こう語りました。『あなたは子供が復活した後、その子がその霊の完全な背丈に達するまで、その子を育てる喜びと楽しみ、満足を得るでしょう。』……

1854年、わたしはおじのドン・カーロス・スミスの妻である〔アグネス・スミス〕に会いました。彼女は、預言者ジョセフ・スミスが語ったあの幼い少女〔ソフロニア〕の母親です。預言者はわたしのおばにこう言いました。『あなたは、その子が復活した後その子の霊が完全な背丈に達するまで、その子を育てる喜びと楽しみ、満足を得るでしょう。そこには死すべき世の悲しみも恐れも、能力的な障害もなく、またこの世で知り得ることよりも多くの事柄を知ることになるため、それはあなたにとって、死すべき世で得るよりもはるかに大きな喜びとなるでしょう。』わたしは、未亡人でありその子供の母親であるおばに会いました。おばはこの出来事について語り、これが自分の幼い娘の葬儀で預言者ジョセフ・スミスが語ったことであると証^{あかし}してくれました。』⁸

メアリー・イザベラ・ホーンとレオノラ・キャノン・テーラーは、それぞれ幼い子供を亡くした。預言者ジョセフ・スミスが二人の姉妹たちに与えた慰めの言葉について、ホーン姉妹は次のように回想している。「ジョセフはわたしたちが復活の朝に、これらの子供たちを横たえたときとまったく同じように、純粹で罪のない状態のままで迎え、母親として彼らを育て、世話することになると告げました。また、復活のときに、子供たちは横たえられたときとまったく同じ有様でよみがえり、王位と公国と力を得るのに必要なすべての英知を得るだろうと語りました。』⁹

愛する人の死を悲しむ一方で、わたしたちは「全地の神は正しいことを行われる」と確信することができる

24歳で世を去ったエフライム・マークスの葬儀において、預言者は次のように宣言している。「今はとても厳粛で莊嚴な時です。これほど厳粛な思いを抱いたことはありません。ニューヨーク州で死んだわたしの長兄アルビンと、ノーブーで死んだ末の弟ドン・カーロス・スミスの死が思い出されます。地上に生き長らえて、このような若い人々が、若い盛りに取り去られるのを目にするのは、わたしにとって

つらいことです。彼らは、わたしたちが支えとし慰めとしてきた若者たちです。ほんとうに、これらの事柄を甘んじて受けるのは難しいことです。わたしは時々、もしそれが神の御心であるなら、自分自身が召されていた方がもっとあきらめられたらと思うことがあります。それでもわたしは、わたしたちが穏やかにしているべきことを知っています。それが神の御心であることを知り、神の御心に従わなければならないことを知っています。すべてが正しいことなのです。すぐにわたしたちも皆同じように召されます。皆さんもそうですし、わたしも同じです。』¹⁰

1832年6月6日、ジョセフ・スミスはエマ・スミスに次のように書いている。「ハイラムが幼い子供を亡くしたと聞き、悲しく思いました。わたしたちは幾らかハイラムに同情してよいと思いますが、皆が自分の境遇を甘んじて受け入れ、主の御心が行われますようにと言わなければなりません。』¹¹

1840年1月20日、ジョセフ・スミスはエマ・スミスに次のように書いている。「ハイラムから手紙をもらい、家族が皆元気であることを知って勇気づけられました。しかしわたしたちの中から取り去られた人々のために、心に悲しみを覚えます。それでも希望がないのではありません。わたしは再び彼らと会い、ともにいることになるからです。ですから、わたしたちは神の計らいをもっとよく受け入れることができるのです。』¹²

「シオンにあって死を迎えた人々に関して、わたしたちは悲しむ者とともに悲しみを覚えています。全地の神は正しいことを行われるということを忘れてはなりません。』¹³

「これまで多くの人々が世を去ってきました。死は物悲しい気持ちを残しますが、わたしたちにはどうすることもできません。神が天から声を発してわたしたちを地上から召されるとき、わたしたちは神の命令に従わなければなりません。』¹⁴

ジェームズ・アダムズの葬儀において、預言者は次のように語っている。「アダムズ兄弟に初めて会ったのは〔イリノイ州〕スプリングフィールドでのことで、わたしはミズーリからワシントンに向かっている途中でした。アダムズ兄弟は見知らぬわたしを探し出し、自分の家に連れて行き、励まし、元気づけ、金銭を与えてくれました。とても親しい友でした。……アダムズ兄弟は自分の死の旅立ちについて啓示を受けていました。そして、より重要な業を行うために去って行き

ました。人は用意ができたときには地上を去った方がよいのです。アダムズ兄弟は、死者のためにより効果的な門を開くために去って行きました。正しい人々の霊は高く上げられて、より大いなる、より栄えある業を行います。ですから、彼らは霊の世界に旅立つことにおいて祝福を受けているのです。]¹⁵

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 171-173ページの話を読むとき、どのような思いがわいてきますか。これらの経験は、預言者ジョセフが死と復活について教えるときにどのような影響を与えていたと思いますか。
- 本章には、愛する人の死を悲しむ人々にジョセフ・スミスが語ったメッセージが載っています（174-180ページ）。これらのメッセージの中で、預言者は福音の教義を教え、それらの教義が聞いている人々の人生にどう当てはまるかを示すことによって、「希望と慰め」を与えています。すでに世を去った、または死を目前にしている愛する人々について思いをはせるとき、慰めをもたらしてくれるのはどんな福音の真理ですか。それらの真理があなたにとって大きな意義を持つのはなぜですか。
- 「どのように生き、どのように死ぬか」についての助言を含めて、ジョセフ・スミスがバーンズ長老の死に際して語った助言を読んでください（175-176ページ）。この助言はあなたにとってどのような意味があるでしょうか。ジョセフの助言を心に留めることによって、あなたの人生はどのように変わると思いますか。
- 幼い子供を亡くした両親に対して預言者が語った言葉を読んでください（176-178ページ）。これらの教義は悲しむ両親にどのような形で希望をもたらすでしょうか。
- 愛する人を亡くしたときに神の御心^{みこころ}を甘んじて受け入れることについての、ジョセフ・スミスの勧告を研究してください（178-180ページ）。神の御心を受け入れると心に決めることは、わたしたちの感情にどのような影響を及ぼすでしょうか。わたしたちの言葉や行動に対してはどうでしょうか。その決意は、どのような形でほか

の人々の助けになるでしょうか。

関連聖句——ヨハネ20：1－29；モーサヤ16：7－8；アルマ40：11－12；モロナイ8：11－20；教義と聖約42：45－46

注

1. ジョセフ・スミス・シニア。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844年－1845年の原稿, book 18 . 5で引用, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. ジョセフ・スミス・シニア。1840年9月14日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミス・シニアが死の直前にジョセフ・スミスに与えた祝福。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1845年の原稿, 298で引用, 教会記録保管課
3. *History of the Church*, 第6巻, 302－303, 310－311, 315－316。原文（英語）においては, 角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の段落は変更。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
4. *History of the Church*, 第5巻, 361－363。原文（英語）においては, 段落は変更。1843年4月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
5. *History of the Church*, 第4巻, 553－554。1842年3月20日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
6. *History of the Church*, 第6巻, 316。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
7. *History of the Church*, 第6巻, 366。1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
8. ジョセフ・F・スミス “Status of Children in the Resurrection,” *Improvement Era*, 1918年5月号, 571
9. メアリー・イザベラ・ホーン, *History of the Church*, 第4巻, 556, 脚注で引用。1896年11月19日, ユタ州ソルトレーク・シティーで彼女が語った言葉から
10. *History of the Church*, 第4巻, 587。1842年4月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
11. 1832年6月6日, インディアナ州グリーンビルでジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙, Chicago Historical Society, イリノイ州シカゴ
12. 1840年1月20日, ペンシルベニア州チェスター郡でジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙, Chicago Historical Society, イリノイ州シカゴ
13. *History of the Church*, 第1巻, 341。1833年4月21日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがミズーリ州の兄弟たちにあてて書いた手紙から
14. *History of the Church*, 第4巻, 432。1841年10月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがスミス・タトルにあてて書いた手紙から
15. *History of the Church*, 第6巻, 51－52。1843年10月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告, *Times and Seasons*, 1843年9月15日付, 331に掲載。同日付の *Times and Seasons* は遅れて発行された



1833年、ジョセフ・スミスとフレデリック・G・ウィリアムズは、ミズーリ州ジャクソン郡に建設される予定であったシオンの町のためにこの図面を作成した。中心部の公共区域の周りを、0.5エーカー〔0.2ヘクタール〕の住宅区画を持つ10エーカー〔4ヘクタール〕の街区が囲んでいる。町が建設されることはなかったが、計画の基本的な概念の多くが後に末日聖徒の定住地で用いられた。



シオンの大義を確立する

「シオンを築き上げることは、あらゆる時代の神の民が
関心を寄せてきた大義であり、預言者たち、祭司たち、
王たちが、特別な喜びをもって語ってきたテーマです。」

ジョセフ・スミスの生涯から

二 ユーヨーク州からオハイオ州への集合が完了してわずか数週間後の1831年6月の初め、聖徒たちは教会の大会のためカートランドに集まった。大会が終わった翌日の6月7日、ジョセフ・スミスは教会員の思いをシオンに向ける一つの啓示を受けた。「次の大会はミズーリ、すなわち、……わたしの民のためにわたしが聖別する地において開かれる。」（教義と聖約52：2）

聖徒たちはシオンを確立することに強い関心を抱いていた。シオン、すなわち、聖なる都、この世の悪事から逃れる義人のための穏やかな避け所である。聖徒たちを備えるために、主は「シオンの大義を起こして確立するように努め〔る〕」よう、繰り返し勧告しておられた（教義と聖約6：6；11：6；12：6。14：6も参照）。そして今や、教会の指導者たちがシオンの場所を決定するために直ちに出発することになった。6月19日、ジョセフ・スミス、シドニー・リグドン、またその他の人々が、ミズーリ州ジャクソン郡への900マイル〔約1,500キロ〕に及ぶ旅に出発し、船や馬車で、また長い道のりを徒歩で進んだ。つらく厳しい旅であったが、預言者は主の守りを感じていた。「多くの場所や様々な人々の中で、時の腐敗や忌まわしい行いが見られ、またわたしたちがモルモン書を信じているために悪霊がわたしたちに現れたにもかかわらず、主は愛にあふれた優しさをもって日々わたしたちを見守り続けてくださいました。わたしたちはどこにしようとも機会があるごとに聖書から一つの章を読み、祈るようにしました。これらの礼拝の時が、わたしたちに大いなる慰めを与えてくれるのでした。」¹

7月中旬、預言者はミズーリ州西部に到着した。緩やかに起伏する

肥沃な草原地帯の、花であふれた美しい地域であった。この地で、シオンの明確な場所を知りたいという預言者の懇願にこたえて、主は「今インディペンデンスと呼ばれている場所〔が〕中心の場所であり、神殿の建てられる地点は西方の、郡庁舎から遠くない地所にある」こと（教義と聖約57：3）、そしてそれらの土地を購入しなければならないことを明らかにされた。8月2日、ジョセフ・スミスとそのほかの人々が、シオンの建設を始めるために集まった。預言者は次のように記録している。「わたしはインディペンデンスの西12マイル〔19キロ〕の所にあるコー町（タウンシップ）において、教会のコールズビル支部の会員が、シオンの基として建てられた家の最初の丸太を据えるのを手伝いました。その丸太は、イスラエルの十二部族を記念して、12人の男性によって運ばれて据えられました。同時に、祈りを通して、シドニー・リグドンにより、シオンの土地が聖徒の集合のために聖別され、奉獻されました。それはその場にいた人々にとって喜びの時となりました。彼らはやがて忠実な者たちの満足のいくように明らかにされるであろう未来をかいま見ることができました。」² 翌日、預言者は神殿用地を奉獻した。

最初にミズーリ州に定住した教会員の中に、ニューヨーク州コールズビルから来た聖徒たちがいた。すでにニューヨーク州からオハイオ州カートランドまで困難な旅をしていたが、わずかな期間をオハイオ州で暮らしただけで、ミズーリ州に行くように命じられたのであった。コールズビル支部の会員であったポリー・ナイトは、シオンの地まで旅をし、到着からわずか1週間後に世を去った。ポリーは体調が良くなかったが、何とかしてシオンまでたどり着こうと決意していた。ポリーの息子は次のように書いている。「母は福音の新しくかつ永遠の聖約を喜びながら、また生きてシオンの地を見られたことに神をほめたたえながら、静かに、そして眠るように亡くなりました。……ジョセフ・スミス兄弟が母の葬儀に出席し、とてもすばらしい、また慰められる話をしてくれました。」³ 預言者はすぐにカートランドに戻り、1838年まで引き続きその地を拠点として教会を導いたが、多くの聖徒たちはミズーリ州に移って行った。

聖徒たちはシオンを築き上げるために熱心に働いた。しかし容赦のない迫害のために、1833年の末には、その地にシオンを確立し神殿を建てるという夢を後に残したまま、ジャクソン郡の家を追い出された。主は預言者ジョセフ・スミスを通して、その地におけるシオンの贖い^{あがな}のための条件がまだ満たされていないこと、そしてシオンの確立は

「しばしの間……待」たなければならないことを明らかにされた（教義と聖約105：9）。

ジョセフ・スミスの教え

主はミズーリ州ジャクソン郡をシオンの地、すなわち
ジョセフ・スミスの時代の聖徒たちが集まり、
ついにシオンの聖なる都が建てられる場所として示された

「[1831年] 6月、わたしは天の示現により、ミズーリ州の西の境に旅をして、その地において、完全な永遠の福音を受け入れる人々が集合を始めるための中心の場所となる正確な地点を示すようにとの命令を受けました。そこで、わたしは幾人かの兄弟たちとともに出発し、多くの困難や窮乏に苦しみながら、長くうんざりするような旅の末に、ミズーリ州ジャクソン郡に到着しました。そして熱心に神の手に求めながらその地方を調べた後、主はわたしたちに御姿を現し、わたしとほかの人々に、ほかでもないその場所を示してくださいました。集合の業を始め、『聖なる都』を築き上げる場所として、御自分が予定しておられるシオンと呼ばれるべき場所です。なぜそこがシオンかと言えば、そこは義の地であって、その上に建てる人は皆まことの生ける神を礼拝し、皆一つの教義、すなわちわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの教義を信じるからです。『聞けよ、あなたの見張りとは声をあげて、共に喜び歌っている。彼らは目と目と相合わせて、主がシオンに帰られるのを見るからだ。』[イザヤ52：8]」⁴

1830年代の初め、聖徒たちは主から命じられたようにミズーリ州ジャクソン郡にシオンの基を据えようとしたが、霊的に備えていなかったためにそうすることができなかった。預言者ジョセフ・スミスは、シオンが確立される時期について、次のように述べている。「主はシオンをこのように苦しませてくれましたが、わたしは御霊によるどのような知らせからも、シオンが日の栄えの冠を受ける権利を失ったとは告げられていません。ただし、不従順に歩み、新しい聖約を捨ててきた一部の人々は例外となるでしょう。そのような人々は皆、定められたときに、その行いが明らかにされるでしょう。これまでに与えられてきた戒めから考えて、わたしはシオンが幾らかの苦難を受けるであろうと常に思ってきました。しかし、次の一節を思い起こしてもらいたいと思います。すなわち、多くの艱難かんなんの後に祝福は来るのです

〔教義と聖約58：4参照〕。この言葉やそのほかの言葉、また最近与えられた言葉から、わたしは主がふさわしいと思われるときにシオンが^{あがな}贖われることを知っています。しかしシオンの清め、艱難、苦難がどのくらいの期間に及ぶかは、主はわたしの目から隠しておられます。そしてわたしがこの件に関して尋ねるとき、主の声は次のように告げられます。『安らかにしていて、わたしが神であることを知りなさい。わたしの名のために苦しむ者は皆、わたしとともに統治し、わたしのために自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだすであろう。』……どうか神が、〔わたしたちの〕ひどい苦難や苦しみにもかかわらず、わたしたちをキリストの愛から引き離すものが何もないようにしてくださいように〔ローマ8：35-39参照〕。』⁵

心の清い民となり、心と意思を一つにして熱心に働くことによって、 シオンの大義を築き上げる

「シオンを築き上げることは、あらゆる時代の神の民が関心を寄せてきた大義であり、預言者たち、祭司たち、王たちが、特別な喜びをもって語ってきたテーマです。彼らはわたしたちが生きている時代を、喜びに満ちた期待をもって待ち望み、すばらしい喜びに満ちた期待に胸を高鳴らせながら、このわたしたちの時代について歌い、書き記し、預言しました。しかし彼らはわたしたちの時代の出来事を見ることなく世を去って行きました。わたしたちは、末日の栄光をもたらすために神に選ばれている恵まれた民です。末日の栄光を見て、それに加わり、その前進に貢献するという務めを任されているのです。』⁶

「聖徒たちが集まる場所はどこもシオンです。すべての義にかなった人が、その子供たちのための安全の地としてシオンを築き上げるでしょう。』⁷

「将来、聖徒たちが集まるための〔シオンの〕ステーキが、あちらこちらにあるでしょう。……その場所で皆さんの子孫は祝福を受け、皆さんは友人たちのただ中であって祝福を受けるでしょう。福音の網はあらゆる種類の人を集めるのです。

……わたしたちはシオンを築き上げることを最大の目標としなければなりません。……だれもシオンとそのステーキ以外では平安を得られない時が、すぐに来ようとしています。』⁸

「シオンを築き上げることに関しては、エホバの勧告によって、また天の啓示によって行われなければなりません。』⁹



「聖徒たちが集まる場所はどこもシオンです。すべての義にかなった人が、その子供たちのための安全の地としてシオンを築き上げるでしょう。」

「もしシオンが、すべての事柄について主の目に認められるように自らを清めないならば、主は別の民をお求めになるでしょう。なぜなら、主の業はイスラエルが集められるまで続き、主の声を聞こうとしない者は主が怒っておられるのを感じるようになるからです。皆さんに申し上げます。主の怒りが激しく燃えることのないように、自らを清め、またシオンに住むすべての人々を清めるように努めてください。悔い改めよ、悔い改めよ、というのがシオンに対する神の声です。不思議に思えるかもしれませんが、真実のこととして、人類は自分たちの罪悪がすべて暴かれ、^{あがな}贖われないほどにその性質が邪悪となり、心の中に蓄えてきたものが人類の目にさらされるまで、あくまで自己を正当化するでしょう。わたしは皆さんに言います（そして皆さんに言うことを、すべての人に言います）。シオンが倒れることのないように、また主が怒って、シオンに住む者を主の安息に入れないと誓われることのないように、神の警告の声を聞いてください。」¹⁰

「教会の中で不義な行いが許されているかぎり、教会が^{きよ}聖められることはなく、シオンが贖われることもありません。」¹¹

「すべての人が自らをぶどう園に備えるように努め、少しの時間を割いて悲しむ者を慰め、打ち砕かれた心を持つ者を世話し、墮落した

者を救い出し、さまよう者を連れ戻し、絶たれた者を再び王国に招き入れるようにしてください。日のあるうちに全力で取り組み、義を行い、心をつにし、思いをつにして、シオンの贖いを助ける備えをするよう人々を励ましてください。そこは約束の良い土地であり、進んで行く従順な者が祝福を受ける地です。……

〔わたしたちは〕天の御父に祈ります。皆さんがよく祈り、大いに謙遜けんそんであって、大いに愛を示すことができますように。また、シオンの贖いのために、霊的にも物質的にも熱心に働くことができますように。それによって心の清い者が、シオンの荒れた所を築き上げるために、永遠の喜びの歌を歌いながら戻って来て、主がその栄光のうちに来られるときに主にまみえることができますように〔教義と聖約101：18参照〕。]¹²

シオン、すなわち新エルサレムは、アメリカ大陸に築かれる

信仰箇条1：10「わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを信じる。また、シオン（新エルサレム）がアメリカ大陸に築かれること……を信じる。」¹³

「詩篇の第102篇でダビデが語っているシオンの町は、アメリカの地に築かれるでしょう。そして『主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る』でしょう〔イザヤ35：10〕。そして、彼らは地を通り過ぎるあふれる災いから救い出されるでしょう。しかしユダはエルサレムにおいて解放されるでしょう〔ヨエル2：32；イザヤ26：20-21；エレミヤ31：12；詩篇1：5；エゼキエル34：11-13参照〕。これらは、良い羊飼いが御自分の羊を連れ出して、曇った暗い日に散らされていたあらゆる国々から、シオンに、そしてエルサレムに導かれるという証あかしです。』¹⁴

「まず、終わりの時について語っているエノクの預言を引用しましょう。『わたしは天から義を下そう。また、地から真理を出して、わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活と〔この復活は物質的な肉体のことであると、わたしは理解しています〕、またすべての人の復活について証しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし、わたしが備える場所、すなわち聖なる都に地の四方からわたしの選民を集めよう。それは、わたしの民がその腰に帯を締め、わたしの来臨の時を待ち望めるようにするためである。わたしの幕屋はそこにあり、そこはシオン、すなわち新エルサレムと呼

ばれるであろう。』〔モーセ7：62〕

さて、この引用文から、わたしは……義と真理が洪水のごとくに地を満たすことになると理解しています。それでは尋ねますが、義と真理はどのようにして洪水のごとく地を満たすのでしょうか。答えましょう。人々と天使たちが力を合わせて、この大なる業を成し遂げることによってです。そしてシオン、すなわち新しいエルサレムが、地の四方から集められる選民のために備えられ、聖なる都が建てられます。主の幕屋は彼らとともにあるでしょう。……

……『見よ、わたしはこの民をこの地に立てて、わたしがかつてあなたがたの先祖ヤコブと交わした聖約を果たそう。この地は新エルサレムとなるであろう。』〔3ニーファイ20：22〕さて、モルモン書から、わたしたちは新エルサレムが設けられるまさにその大陸と場所を知ることができます。そしてその都は、パトモス島におけるヨハネの示現にあるとおり、引き上げられるに違いないのです。

さて、多くの人が次のように言いたくなるでしょう。新エルサレムについて述べられているが、これはユダヤ人によって東大陸に建てられたエルサレムのことである、と。しかし、黙示録第21章2節から、夫のために花嫁のように飾られて、天の神のもとから降って来る新エルサレムがあったことが分かります。また、この後、黙示者は御霊に捕らえられて、大きな高い山に連れて行かれ、大きな聖なる都が天の神のもとから降って来るのを見ました。さて、ここでは二つの都のことが述べられています。1通の手紙の中ですべてを書き記すことはできないので、簡潔に言いますが、この大陸に設けられる新エルサレムがあり、そしてまた、エルサレムが東大陸に再建されるでしょう〔エテル13：1-12参照〕。『見よ、エテルはキリストの時代を目にし、イスラエルの家と、リーハイが出て来るエルサレムについても述べた。エルサレムは破壊された後、主のために聖なる都として再び築かれる。したがって、それは昔存在していたので、新しいエルサレムではあり得ない……。』〔エテル13：4-5〕¹⁵

「預言者たちは終わりの時におけるシオンに関して述べてきました。レバノンの栄えがシオンに来て、糸杉、スズカケ、松が、ともに主の聖所を美しくし、主が御自分の足を置く所を栄光で満たされる様子を述べてきました〔イザヤ60：13参照〕。主は真鍮しんちゅうの代わりに金を携え、鉄の代わりに銀を携え、木の代わりに真鍮を、石の代わりに鉄を携えて来られるでしょう〔イザヤ60：17参照〕。また、肥えたものの祝宴

が正しい者のために催されるでしょう〔イザヤ25：6参照〕。まことに、主の民の益を思うわたしたちの思いに主の輝きもたらされるとき、人の打算やこの世のむなしい誉れは消え去り、わたしたちは次のように叫ぶのです。『神は麗しさのきわみであるシオンから光を放たれる』と〔詩篇50：2〕。』¹⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 本章の中で、預言者ジョセフ・スミスが特定の場所や主の民について述べるために、「シオン」という言葉をどのように用いているかに注目してください。そうした言葉によって、シオンを築き上げることへのあなたの理解はどのように深まるでしょうか（この質問について考える際、または話し合う際に、教義と聖約97：21を読むとよいでしょう）。
- 185ページの下から始まる段落の中で、ジョセフ・スミスは、いつシオンの町がミズーリ州ジャクソン郡に築かれるのかを知りたいという自らの望みについて語っています。ジョセフ・スミスの祈りに対する主の答えから、どのようなことが学べるでしょうか。
- 186ページの第2段落を読み、聖徒たちが集まる場所を幾つか挙げてください。わたしたちはどのようにしてこれらの場所にシオンを築き上げることができるでしょうか。
- 186ページの第3、第4段落を読み、教会のステークがどのようにして安全と平安を与えてくれるかを考えてください。ステークのほかの会員たちとともに集まることで、あなたはこれまでどのような祝福を受けてきましたか。
- シオンを築くことについての預言者ジョセフ・スミスの勧告は、わたしたちの家庭にどのように当てはまるでしょうか。
- 預言者ジョセフは、シオンを築き上げる取り組みの一部として、各個人が自らを清めなければならないと教えています。どのようにすれば、この勧告に従うことができるでしょうか（例として、186-188ページ参照）。シオンが贖^{あがな}われる前に、個人が清くならないとできないのはなぜだと思いますか。

- 二つの聖なる町についての、ジョセフ・スミスの預言を読んでください（188-190ページ）。これらの預言の成就において、わたしたちはどのような役割を担っているのでしょうか。

関連聖句——黙示21：1-27；教義と聖約45：65-71；97：18-25；103：1-7；モーセ7：16-21，62-69

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 188-189. "History of the Church" (原稿), book A-1, 126-127から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第1巻, 196. "History of the Church" (原稿), book A-1, 137から, 教会記録保管課
3. ニューエル・ナイト, *Autobiography and Journal* (約1846年), 32, 34, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第2巻, 254. 1835年9月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から. *Messenger and Advocate*, 1835年9月号, 179-180に掲載
5. *History of the Church*, 第1巻, 453-454. 原文 (英語) においては, 段落は変更. 1833年12月10日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとそのほかの人々にあてて書いた手紙から
6. *History of the Church*, 第4巻, 609-610. *Times and Seasons*, 1842年5月2日付, 776に掲載された論説 "The Temple" から. ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイによる, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告の中での引用. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイ, *Notebook*, 教会記録保管課. この説教の日付は, コーレイ姉妹の記録では1840年7月19日とされているが, 説教が行われたのは後のことであったと思われる
8. *History of the Church*, 第3巻, 390-391. 原文 (英語) においては, 角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の段落は変更. 1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズによる報告
9. *History of the Church*, 第5巻, 65. *Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 858に掲載された論説 "The Government of God" から. ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
10. *History of the Church*, 第1巻, 316. 原文 (英語) においては, つづりは現代の用法に修正. 1833年1月11日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から. *History of the Church* では, この手紙は誤って1833年1月14日付とされている
11. *History of the Church*, 第2巻, 146. 1834年8月16日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがライマン・ワイトとそのほかの人々にあてて書いた手紙から
12. *History of the Church*, 第2巻, 229-230, 脚注. 原文 (英語) においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更. "To the Saints Scattered Abroad," *Messenger and Advocate*, 1835年6月号, 138から
13. 信仰箇条1：10
14. *History of the Church*, 第1巻, 315. 1833年1月4日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがN・C・サクストンにあてて書いた手紙から. *History of the Church* ではサクストン氏の名前が誤って "N. E. Seaton" と記載されている
15. *History of the Church*, 第2巻, 260-262. 原文 (英語) においては, 句読点は現代の用法に修正, 第1段落にある最初の角括弧の部分は当時の表記のまま. 1835年11月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から. *Messenger and Advocate*, 1835年11月号, 209-210に掲載
16. *History of the Church*, 第1巻, 198. 原文 (英語) においては, 句読点は現代の用法に修正. "History of the Church" (原稿), book A-1, 139から. 教会, 記録保管課



預言者ジョセフ・スミスは、しばしばほかの教会指導者たちの目の前で啓示を受けた。
ジョセフが主から言葉を受けると、だれかがそれを記録した。



啓示と生ける預言者

「主なる神はその僕である^{しもべ}預言者にその隠れたことを示さないでは地上で何も行われません。これは天の大原則です。」

ジョセフ・スミスの生涯から

オハイオ州カートランドにおいて、預言者ジョセフ・スミスは数多くの啓示を受けたため、この期間は教会の教義と管理体制を確立するうえで非常に重要な時期となった。これらの啓示は、ほかの教会指導者たちの目の前で与えられたことがしばしばあった。そのような場合、ジョセフが主から受けた言葉をだれかが記録した。啓示は祈りの答えとして与えられることがよくあった。後に十二使徒となったパーリー・P・プラットは、預言者が現在教義と聖約の第50章となっている啓示を受けたときにその場にいた。プラット長老は次のように回想している。

「ジョセフの翻訳部屋でともに祈った後、ジョセフはわたしたちの前で、次の啓示を書き取らせました。それぞれの文はゆっくりと、そして非常にはっきりと、一文ごとに普通の筆記者が通常の手書きで記録するのに十分な間を置きながら述べられました。……主題の流れから外れていないことを確かめるために考えたり、見直したり、読み返したりすることは一度もありませんでした。」¹

啓示の中には、個人的に使うために筆写されたものもあったが、一般に教会員がそれらを手にすることはなかった。ジョセフ・スミスは、神の啓示が非常に重要なものであり、細心の注意を払って保存し、世の人々に届けなければならないことを理解していた。1831年11月、オハイオ州ハイラムで開かれた特別な大会において、預言者をはじめとする教会指導者は、そのときまでに預言者が受けていた啓示を選んで、1冊の書物として出版することを決定した。この決定が下された後、預言者は主が「わたしの戒めの書へのはしがき」と呼ばれた一つの啓示を受けた（教義と聖約1：6）。現在教義と聖約の第1章となっている

この啓示では、主がこれらの啓示の出版を承認されたことが示されており、主が啓示をお与えになる目的が説明されている。主はこう宣言しておられる。「これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。」（教義と聖約1：37）大会2日目に啓示が読み上げられるのを聞いた後、預言者は主がこのように承認しておられることに対して、「立ち上がって自分の気持ちと感謝の意を表し〔た〕。』²

この大会の後、預言者は次のように回想している。「ほぼ2週間にわたって、わたしはひたすら戒めを見直し、また大会に出席することに専念しました。11月1日から12日までに、4回の特別大会を開いたからです。最後の大会において、……それらの啓示を全地の富に値するものとして尊ぶことについて、出席者が賛成の意を表明しました。」また大会では、それらの啓示が「この終わりの時における教会の基であり、世に益をもたらすものであって、わたしたちの救い主の王国の奥義の鍵が再び人に託されたことを示している」こと、また「神の口から出る一つ一つの言葉に喜んで従って生きる人は、永遠の富を手にすることができる」ことも宣言された。³

『戒めの書』として出版するため、啓示の手書きの写しがミズーリ州のウィリアム・W・フェルプスのもとへ届けられた。ミズーリ州に行って教会のために印刷の仕事をするよう主から命じられていたフェルプス兄弟は（教義と聖約57：11参照）、すぐに書物の活字を組み始めた。ところが、1833年7月20日、暴徒によって印刷機と印刷されたページの大半が破壊されてしまった。とじられていなかったページの一部を教会員が回収して、個別に製本したが、『戒めの書』が正式に出版されることはなかった。『戒めの書』に掲載されるはずだった啓示と、さらにそのほかの多くの啓示が加えられて、1835年にカートランドにおいて『教義と聖約』として出版された。『教義と聖約』は、1835年以降に追加されたほかの啓示とともに、神が御自身の教会を祝福し、導くために、今日教会の大管長である御自分の生ける預言者を通して語られることの証となっている。

ジョセフ・スミスの教え

神はいつでも啓示によって御自分の民と教会を導いてこられた

信仰簡条1：9。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべて

のこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。』⁴

「神や天にかかわる事柄は啓示によらなければ、決して理解することができません。霊的な趣を添えながら、果てしなく意見を述べることはできます。しかし、そこに権威はありません。』⁵

「啓示によって明らかにされた教義は、啓示に基づいていない教義をはるかに超越します。なぜなら、天から示される真理の一つは、現存する諸教派の持つすべての信条に匹敵する価値があるからです。』⁶

「啓示なしに救いはもたらされません。啓示なしに教え導くのはむなしいことです。……イエスについての証がなければ、だれもイエス・キリストの教導者となることはできません。そしてこの証は、すなわち預言の霊です〔黙示19：10参照〕。救いが施されるときにはいつでも、この証があります。現在、多くの人々は天と地獄について証しますが、そのどちらも見たことはありません。わたしは申し上げますが、啓示がなければ、だれにもこれらの事柄は分かりません。』⁷

「イエスはその教えの中で次のように言っておられます。『わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。』〔マタイ16：18〕何の岩でしょうか。それは啓示です。』⁸

「聖文によると、神のまことの教会が常にそうであったように、末日聖徒イエス・キリスト教会は、直接の啓示を土台として築かれました（アモス3：7；使徒1：2）。そして神の御心と祝福により、わたしはこれまで神の御手に使われる者として、シオンの大義を推し進めてきました。』⁹

1834年4月、預言者は教会の大会において話をしている。「ジョセフ・スミス・ジュニア大管長は、ヨエルの預言の第2章を読み、祈り、集まっていた人々にこう語りました。……『わたしたちは、かつてこの地上にいたほかのどんな人々とも異なった状態にあります。したがって、それら昔の啓示はわたしたちの状況には当てはまりません。それらはわたしたちよりも前にいた、ほかの人々に与えられたものなのです。しかし終わりの時に、神は残りの者を集められて、エルサレムとシオンにおけると同様、彼らの間にも救いを与えられます〔ヨエル2：32参照〕。さて、もし神が今後、啓示を与えてくださらないとすれば、わたしたちはシオンやこの残りの者をどこに見いだすのでしょうか。』

か。……』

次に大管長は、モルモン書を手に入れて翻訳した経緯、アロンの神権に関する啓示、1830年の教会の組織、大神権に関する啓示、そして教会に注がれた聖霊の賜物^{たまもの}について語り、次のように述べました。『モルモン書とそれらの啓示を取り去ったならば、わたしたちの宗教はどこにあるでしょうか。どこにもありません。』¹⁰

大管長は、教会のために神から啓示を受けるように任命されている。

個人は自分自身の責任について啓示を受けることができる

「イエスは……教え導く業と聖徒たちの完成などのために、教会の中にまず使徒を、次に預言者を立てられました……。アモス書第3章7節にあるように、主なる神はその僕^{しもべ}である預言者にその隠れたことを示さないでは地上で何も行われません。これは天の大原則です。」¹¹

1830年9月、ジョセフ・スミスとその妻エマは、ペンシルベニア州ハーモニーからニューヨーク州フェイエットに移った。到着した彼らは、一部の聖徒たちが偽りの啓示に基づいた主張によって欺かれているのを知った。「とても悲しいことに、……わたしたちはすぐに、サタンが欺こうと待ち伏せ、えじきとなる人々を求めていることを知りました。ハイラム・ページ兄弟はある石を所有しており、それによってシオンの建設や教会の秩序などに関する『啓示』を受けていました。それらはすべて、新約聖書およびわたしたちの最近の啓示によって定められている、神の家の秩序とまったく矛盾したものでした。9月26日に大会が予定されていたので、この件については兄弟たちと意見を交わすだけにとどめ、大会が開かれるまではそれ以上何もしない方がよいと判断しました。しかし、多くの人々、特にホイットマー家族とオリバー・カウドリがこの石によって宣言された事柄を大いに信じていることを知り、わたしたちはそのような重要な件に関して主に尋ねるのが最善であると考えました。そして大会が開かれる前に、次の啓示を受けました。

「1830年9月、ニューヨーク州フェイエットにおいて、オリバー・カウドリに与えられた啓示。

『……見よ、まことに、まことに、わたしはあなたに言う。わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアのほかに、だれもこの教会で戒めと啓示を受けるために任命される者はいない。彼はモーセのように戒め

と啓示を受けるからである。あなたは、わたしが彼に与えることに……従順で……なければならない。……

また、あなたはあなたの長であり、教会の長である者に命じてはならない。わたしは彼に代わる別の者を彼らのために任命するまでは、奥義の鍵かぎと封じられている啓示とを彼に授けたからである。……

さらにまた、あなたはあなたの兄弟ハイラム・ページを、彼と二人だけの所へ連れて行き、彼がその石によって記録した事柄はわたしから出たものではないこと、そしてサタンが彼を欺いていることを彼に告げなさい。見よ、これらのことは彼に命じられておらず、また教会の聖約に反することは、この教会のだれにも命じられないからである。

すべてのことを秩序正しく、信仰の祈りによって、教会員の同意を得て行わなければならない。』〔教義と聖約28：2-3, 6-7, 11-13〕……

ついに大会が召集されました。前述の石の件が話し合われ、かなりの質疑を重ねた後、ページ兄弟を含め出席していた全教会員が、その石と、石に関連するすべての事柄を放棄したため、わたしたちは大いに喜び、そして満足しました。』¹²

「大管長と管長たち、すなわち大管長会は、教会を管理します。そして教会に対する神の思いと望みについての啓示は、大管長会を通じてもたらされます。これが天の秩序であり、〔メルキゼデク〕神権の力と特権です。またこの教会では、どの役員にも、教会における自分の召しと義務の範囲内で啓示を受ける特権があります。』¹³

「わたしたちは次のように考えます。すなわち、いかなる男女であれ、もしその人が律法に基づいて選ばれ、正しい権能に聖任され、それが事実であることを十分に証明できないならば、その人から与えられる啓示を受け入れる義務はありません。

……教会のいかなる会員であっても、あるいはいかなる人であっても、自分よりも高い権能を持つ人々のために指示を受けることは、神の摂理に反します。ですから、それらに心を向けるのは不適切であることが分かるはずで。しかし、もしある人が示現や天の使者の訪れを受けるとすれば、それはその人自身に益と指示を与えるためのものであるに違いありません。なぜなら、教会の基本的な原則と統治と教義は、王国の鍵の管理下に置かれているからです。』¹⁴

大管長は、わたしたちの時代のために、神の言葉を伝える



ヒーバー・C・キンボール

ヒーバー・C・キンボールは、ブリガム・ヤング大管長の顧問として働いていたとき、次のように報告している。「ジョセフ・スミス兄弟は、ブリガム兄弟やわたしやほかの人々に、自分はわたしたちを教え、導き、悪事を行う人々を責めるために遣わされた神の代理人であると、何度も言っていました。」¹⁵

第4代大管長ウィルフォード・ウッドラフは、次のように報告している。

「わたしが若いころにカートランドの町で出席した、ある集会について話しましょう。その集会で、生ける神託と、書き記された神の言葉に関して、幾つかの所見が述べられました。……教会の指導的立場にあったある人が立ち上がり、その主題に基づいて、次のように述べました。『皆さんの前には聖書とモルモン書と教義と聖約があり、その中に神の言葉が示されています。神の言葉を書き記した書物を手にし、啓示を伝えている皆さんは、それらの書物に従って啓示を伝えるべきです。それらの書物に書かれている事柄こそが神の言葉だからです。わたしたちが目を向けるのはそれらにだけ限定すべきです。』

その人が話を終えると、ジョセフ兄弟がブリガム・ヤング兄弟の方を向いて言いました。『ブリガム兄弟、説教壇に立ち、生ける神託と神の言葉が書き記された書物についてあなたの考えを聞かせてください。』ブリガム兄弟は説教壇に立つと、聖書を手に取って、説教台に置きました。次にモルモン書を手に取り、説教台に置きました。そして教義と聖約の書を取り、自分の前に置くと、次のように述べました。『わたしたちには、世の初めからおおよそ今日に至るまでの神の業に関して、神の言葉を書き記した書物があります。さて、〔生ける〕神託に比べれば、これらの書物はわたしにとって何の価値もありません。わたしたちの時代の預言者や聖なる神権を持つ者の言葉は、今、神の言葉をわたしたちに直接伝えてくれますが、これらの書物はそうではないからです。わたしはこれらの書物に記されているすべての言葉よりも、生ける神託を得たいと思います。』それがブリガム兄弟の取った道でした。ブリガム兄弟が話し終えると、ジョセフ兄弟が会衆に言

いました。『ブリガム兄弟は皆さんに主の言葉を告げ、真理を語りました。』』¹⁶

第2代大管長ブリガム・ヤングは、次のように回想している。「何年も前のことですが、預言者ジョセフは次のように述べていました。すなわち、もし自分が受けた啓示を民が受け入れ、主が命じられるように、それらを思慮深く実行してきたならば、彼らを行う力と理解する力において、その当時の状態よりも何年も先を行っていたことだろう、と。』¹⁷

**わたしたちは、大管長と教会のほかの指導者のために祈り、
その勧告を心に留めることによって、彼らを支持する**

ジョセフ・スミスは、1836年3月27日、カートランド神殿の奉獻の際に行われたことについて、次のように記録している。「次にわたしは短い話をしてから、幾つかの定員会と聖徒の会衆全体に対して、大管長会を預言者および聖見者として認め、祈りによって彼らを支持するよう求めました。彼らは皆、起立によって、そのように行うことを聖約しました。

その後、それらの定員会と聖徒の会衆に、十二使徒たち（使徒の兄弟たちはその場にいました）を、預言者、聖見者、啓示者、地のすべての国民に対する特別な証人として、また王国の鍵かぎを持つ者として認め（その鍵は王国の錠じょうを開き、彼らの中で王国の業が行われるようにするためのものです）、そして十二使徒たちを祈りによって支持するよう求めました。彼らは起立によってそれに同意しました。

次に、それらの定員会と聖徒の会衆に、七十人の会長たちを認め、……祈りによって彼らを支持するよう求め、彼らは起立によってそのように行いました。……

すべての事項において全会一致で賛意が表明されました。そこでわたしはすべての人に、彼らがこれらの人々をそれぞれの職において支持するかぎり、……主が彼らを祝福してくださり、まことに天の祝福が彼らのものとなることを、キリストの名によって預言しました。』¹⁸

「モーセの手を支えた者たちのように〔出エジプト17：8-13参照〕、王国の諸事を指導するように任命されている人々の手を支えましょう。そうすれば彼らは強くされて、大いなる計画を推し進めることができるようになり、終わりの時における大いなる業を成し遂げる道具となるでしょう。』¹⁹

「さて、人が物事を行うとき、それを行うように忠告されたからという理由だけで行い、また絶えずつぶやきながら行うならば、それは何の役にも立ちません。行わないのと同じです。聖徒であると公言しながら、自分の気持ちに反する助言が与えられると、たとえ自分から勧告を求めたのであっても、つぶやき、非難する傾向が非常に強い人がいます。求めているのに勧告が与えられ、それが自分の考えと一致しない場合はなおさらです。しかし兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんの大半がもっと良い態度を執ることを願っています。皆さんが時々勧告を求め、それが正しいところから与えられたときにはいつでも喜んで従うとわたしたちは確信しています。』²⁰

エライザ・R・スノーは、次のように記録している。「〔ジョセフ・スミス〕はこう語りました。『もし神がわたしを任命し、教会を導くために使われる者として選ばれたのであれば、わたしが最後まで導き通すのが気に入らない人がいるのはなぜでしょう。わたしになすべきことが与えられているときに、妨害する人がいるのはなぜでしょうか。だれが神の思いを知っているでしょう。神はわたしたちの思い描くのと異なる方法で物事を明らかにされるのではないのでしょうか。』〔預言者〕はこう言いました。『わたしはあらゆる圧力と妨害と反対を受けているが、絶えず乗り越えています。あらゆる反対を受けても、最終的には必ず好ましい結果を得ています。』……

ジョセフは自分が教会を導くように神から召されており、正しい方法で導くと明言したうえで、教会にかかわる事柄の管理についてあら探しをする傾向のある人々を強く非難しました。そして妨害しようとする人は、自分の愚かさが明るみに出されるときに恥を受けるだろうと述べました。』²¹

生ける預言者を拒む人は、進歩することがなく、神の裁きを自分に招く

「文字どおり、すべての知識は神からもたらされます。にもかかわらず、これまでに知識が明らかにされると、そのときはだれも啓示として信じませんでした。……

ノアは完全な人でした。地上に起ころうとしていたことについて得た知識すなわち啓示によって、ノアは洪水による滅亡に備え、自分と家族を救う力を得ました。しかし地に住む人々は、この知識、すなわち啓示……を信じませんでした。彼らは、アダムが神の形に造られた



「ノアは完全な人でした。〔しかし〕地上に起ころうとしていたことについて〔ノア〕が得た知識すなわち啓示〔を〕……地に住む人々は……信じませんでした。」

最初の人であったこと、また善良な人であったことを知っていました。エノクが365年間神とともに歩み、身を変えられて死を味わうことなく天に上げられたことも知っていました。しかし新しい啓示には堪えることができなかったのです。人は、昔の啓示であれば、先祖が信じていたという理由で信じますが、新しい啓示は信じようとしません。そして洪水が来て、彼らを一掃してしまいました。……

同じことが、……救い主が肉体を取って来られたときのユダヤ人の間にも顕著に現れました。〔彼らは〕昔の啓示を誇り、死者の墓を飾り、はっかやいのんどの什分の一じゅうぶんを納め、虚栄を張るため長い祈りをささげ、改宗者を作るために海と陸を渡りました。しかしそれでも、わたしは有るという大いなる御方御自身の口から新しい啓示がもたらされたとき、彼らはそれに堪えることができませんでした。受け入れる限度を超えていたからでした。それは先の時代と同じように、当時の人々が腐敗していたためでした。そして彼らは、『イエスを追い払え、十字架につけろ』と叫びました。……

そして再び、モルモン書がこの時代に現れたとき、同じ道をたどり、

同じ言葉を発しました。『昔の啓示、昔の族長たち、巡礼者たち、使徒たちは祝福を受けていました。わたしたちは彼らを信じますが、新しい者には従えません』と。』²²

「この世は常に偽預言者をまことの預言者と取り違え、神から遣わされた預言者を偽預言者と見なしました。人々はまことの預言者を殺し、石で打ち、罰し、投獄したため、預言者たちは『荒野と岩の穴と土の穴』〔ヘブル11：38参照〕に身を隠さなければなりませんでした。世の人々は、地上で最も高潔な人々である彼らを、いかがわしい者として社会から追放し、反対に、ならず者や放浪者、偽善者、詐欺師、最も卑劣な者たちを大切にし、尊び、支援しました。』²³

「わたしに分かるのは、もしキリストが地上に来て、ユダヤ人に説いたような厳しい事柄を説かれたとしたら、この時代の人々はあまりの厳しさのゆえに主を拒むだろうということだけです。……多くの^{かたわ}人々が、『わたしは決してあなたを見捨てません。いつもあなたの傍らに立っています』と言うでしょう。しかし皆さんが神の王国の奥義の幾つかを、すなわち、今は天にとどめられており、人の子らの用意ができたときに明らかにされることになっている奥義の幾つかを教えるやいなや、彼らは真っ先に石を投げつけて、皆さんを殺すでしょう。主イエス・キリストを十字架につけるように駆り立てたのはまさにこの行動規範であり、これと同じ考えによって、この時代に人々は預言者たちを殺すでしょう。

終わりの時に、人の子らに〔説明がつかない〕ことはたくさんあります。例えば、神が死者をよみがえらせられることです。創世の前から隠されてきた事柄があって、終わりの時に乳飲み子に明らかにされるということ〔彼らは忘れていたのです。〕

わたしたちの中には、あまりに賢いために教えることのできない男女が非常に大勢います。そのため彼らは無知のままで死ななければならず、復活のときに自分が間違っていたことに気づくでしょう。多くの人が、『神がそこまでしか明らかにされないのであれば、わたしは信じることができない』と言って、天の扉を封印してしまいます。……

これまで、人が神権を受けて神から遣わされ、完全な福音を^の宣べ伝え始めると、必ず友人たちから追い払われてきました。偽りだと思いついでいる事柄を教えられると、友人たちはすぐにその人を虐殺しようとするのです。こうした考えによって、イエスは十字架につけられました。』²⁴

「災いです。この終わりの時に神とその証人に対して手を振り上げる人は災いです。彼らは特別に選ばれた人々さえも惑わそうとしているからです。

……ある人が地を巡って預言し、自分の教えに従うよう人々に命じるとき、その人はまことの預言者か偽預言者のどちらかに違いありません。偽預言者はいつもまことの預言者に異論を唱えるために出てきます。そして真理に非常に近いことを預言して、特別に選ばれた人々さえも惑わそうとします。』²⁵

「イエス・キリストの福音と神が遣わされた預言者たちを拒んだために、世の様々な時代に、人々や都市、国家に神の裁きが下されてきました。預言者たちを拒んだために滅ぼされたソドムとゴモラの町がそうでした。』²⁶

ウィリアム・P・マッキンタイヤーは次のように報告している。「〔ジョセフ・スミス〕は預言しました。『与えられた啓示と、わたしと、わたしの言葉を軽々しく扱うすべての人は、やがて泣き叫び、後悔して、……次のように言うことになるでしょう。「おお、わたしたちは神の言葉と与えられた啓示に聞き従っておけばよかったものを。』』²⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示について初期の教会員がどのように感じていたかに注意しながら、193-194ページの話を読んでください。教義と聖約について、あなたはどのような気持ちを抱いていますか。
- 195ページの第3段落を読んでください。「啓示なしに救いはもたらされ〔ない〕」のはなぜだと思いますか。
- 196-197ページを読んでください。ハイラム・ページに関連した出来事に見られるように、人々が欺かれてしまうことがあるのはなぜだと思いますか。偽預言者や偽りの教えに欺かれないようにするために、どのようなことができるでしょうか。
- 197ページの最後の二つの段落を読んでください。教会全体のため

に啓示を受けることのできる人が一人だけ存在することは、わたしたちにどのような益をもたらすでしょうか。これまで自分に与えられた責任について主から導きを受けた経験として、どのようなことがありますか。

- ある人がわたしたちは聖文に書き記されている啓示にだけ目を向けるべきだと言ったときに、ジョセフ・スミスとブリガム・ヤングがどのように答えたかを、198-199ページから読んでください。もし標準聖典にだけ目を向け、生ける預言者の言葉を聞かなかったとしたら、あなたの人生から何が失われるでしょうか。ブリガム・ヤングの勧告が示している精神に従うために、どのようなことができるでしょうか。
- 大管長とはかの教会指導者を支持するために、どのようなことができるでしょうか（例として、199-200ページ参照）。前回の総大会で、大管長はどのような勧告を与えたでしょうか。預言者とはかの教会指導者に従うことによって、あなたはこれまでどのような祝福を受けてきましたか。
- 人々はどのように神の預言者を拒んでいるでしょうか（例として、200-203ページ参照）。教会を導くよう主から選ばれた人々の勧告に従わないとき、どのような結果を招く可能性があるでしょうか。

関連聖句——箴言29：18；モルモン書ヤコブ4：8；3ニーファイ28：34；モルモン9：7-9；教義と聖約21：1-6

注

1. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 62. 原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正、段落は変更
2. "The Conference Minutes and Record Book of Christ's Church of Latter Day Saints 1838-39; 1844." 1831年11月2日付けの記録, 16. ジョン・ホイットマーによる報告, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー。この記録書には、1830年から1844年までの記録が記載されている。
3. *History of the Church*, 第1巻, 235. "History of the Church" (原稿), book A-1, 172-173から。教会記録保管課
4. 信仰箇条1：9
5. *History of the Church*, 第5巻, 344. 1843年4月8日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
6. *History of the Church*, 第6巻, 252. 1844年3月10日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
7. *History of the Church*, 第3巻, 389-390. 1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
8. *History of the Church*, 第5巻, 258. 1843年1月22日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
9. *History of the Church*, 第6巻, 9. ジョ

- セフ・スミス, "Latter Day Saints," I・ダニエル・ラップ編, *He Pasa Ekklesia [The Whole Church]: An Original History of the Religious Denominations at Present Existing in the United States* (1844年), 404から
10. *History of the Church*, 第2巻, 52。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1834年4月21日, オハイオ州ノートンで開かれた教会の大会の議事録から。オリバー・カウドリによる報告
 11. *Times and Seasons*, 1842年9月1日付, 905に掲載された論説"Baptism"から。原文(英語)においては, 文法は現代の用法に修正。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 12. *History of the Church*, 第1巻, 109-111, 115。原文(英語)においては, 段落は変更。"History of the Church" (原稿), book A-1, 53-55, 58から, 教会記録保管課。*History of the Church*では, ジョセフとエマがフェイエットに到着した日付が誤って1830年8月と記されている
 13. *History of the Church*, 第2巻, 477。1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。*Messenger and Advocate*, 1837年4月号, 487に掲載
 14. *History of the Church*, 第1巻, 338。1833年4月13日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスとフレデリック・G・ウィリアムズがジョン・S・カーターにあてて書いた手紙から
 15. ヒーパー・C・キンボール, *Deseret News*, 1856年11月5日付, p. 274
 16. ウィルフォード・ウッドラフ, *Conference Report*, 1897年10月, 22-23。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更
 17. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1857年12月9日付, 316
 18. *History of the Church*, 第2巻, 417-418。1836年3月27日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から。*Messenger and Advocate*, 1836年3月号, 277も参照
 19. *History of the Church*, 第4巻, 186。1840年9月, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 178に掲載
 20. *History of the Church*, 第4巻, 45, 脚注。1839年12月8日, イリノイ州コマースで大管長会と高等評議会がオハイオ州カートランドの西方に住む聖徒たちあてに書き送った手紙から。*Times and Seasons*, 1839年12月号, 29に掲載
 21. *History of the Church*, 第4巻, 603-604。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 22. *Times and Seasons*, 1842年8月15日付, 889-890に掲載された論説"Knowledge Is Power"から。原文(英語)においては, つづり, 句読点, 文法は現代の用法に修正, 斜体は削除。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 23. *History of the Church*, 第4巻, 574。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。*Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 744に掲載された論説"Try the Spirit"から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 24. *History of the Church*, 第5巻, 423-425。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年6月11日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 25. *History of the Church*, 第6巻, 364。1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
 26. *History of the Church*, 第5巻, 256-257。1843年1月22日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
 27. ウィリアム・P・マッキンタイヤー, 1841年の初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教の報告。ウィリアム・パターソン・マッキンタイヤー, *Notebook 1840-45*, 教会記録保管課



「そこで、主なる神はモーセに言われた。……『見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。』」



偉大な救いの計画

「偉大な救いの計画は、わたしたちが細心の注意を払うべき
 テーマであり、人類に与えられている天の最善の賜物たまもの
 の一つであると考えなければなりません。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1831年9月、預言者ジョセフ・スミスとその家族はカートランドの南東30マイル〔48キロ〕に位置するオハイオ州ハイラムに移り、ジョン・ジョンソンと妻アリス（エリサとも呼ばれた）の家で約1年を過ごした。この家で、預言者は聖書のジョセフ・スミス訳の作業の多くを行った。

預言者が「わたしの召しの一つの枝」¹ と呼んだこの重要な業は、わたしたちが救いの計画を理解するうえで大きな助けとなっている。預言者は1830年6月に欽定訳聖書を靈感によって改訂する作業を始めるよう主から命じられ、この業に着手した。預言者は以前から、聖書が幾つかの重要な事柄に関して必ずしも明瞭めいりょうでないことを知っていた。また、モロナイが幾つかの聖句を「わたしたちの『聖書』に言われているのとは少し異な〔って〕」引用したことにも気づいていた〔ジョセフ・スミス—歴史1：36〕。ジョセフはさらに、1ニーファイ13：23-29を翻訳していたとき、聖書から「分かりやすく大変貴い多くの部分」が、「主の多くの聖約」も含めて取り去られてしまっていることを知った（1ニーファイ13：26）。

預言者は後に次のように述べている。「わたしは原著者の筆によって書き記されたままの聖書を信じています。無知な翻訳者や不注意な転写者、あるいは腹黒く腐敗した聖職者たちが多くの間違いを犯してきました。……〔ヘブル6：1〕にある矛盾を見てください。『そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教おしえの初歩をあとにして、完成を目ざして進もうではないか。』〔訳注——「教の初歩をあとにして」は、英語の欽定訳では“leaving the principles of the doctrine”（「教義

の原則をなおざりにして)」となっている。] キリストの教義の原則をなおざりにしたら、どうして原則によって救いを得ることができるでしょうか。これは矛盾しています。わたしはそのように信じていません。本来の訳を伝えましょう。『そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教義の原則をなおざりにすることなく、完成を旨として進もうではないか。』²

御^{みたま}霊に導かれながら、ジョセフは約3年の歳月を費やして聖書をくまなく調べ、本文に数千にも及ぶ訂正を加え、失われていた知識を回復した。この回復された知識は、今日^{こんにち}の聖書では明瞭でない多くの教義に驚くべき光を注いでいる。この靈感によって改訂された聖書は、聖書のジョセフ・スミス訳として知られている。現在、英語の欽定訳聖書の末日聖徒版には、ジョセフ・スミス訳から何百もの聖句が載っている。

聖書の翻訳は、預言者自身の霊的な教育において、また福音の真理の回復が展開されていく中で重要な役割を果たした。旧約および新約聖書を改訂しながら、ジョセフは聖句の意味を明らかにする啓示や、聖句についてさらに詳しく解説する啓示をしばしば受けた。こうして預言者は主から多くの教義を授けられた。その中には現在教義と聖約第74章、第76章、第77章、第86章、第91章に載っている教えや、教義と聖約のほかの多くの章の一部となっている教義が含まれる。

1830年6月に預言者が初めて聖書の翻訳に着手したとき、主は預言者にモーセが書いたものの中から大変長い文章を明らかにされた。この文章は、高価な真珠のモーセ書の第1章となっている。そこには一つの示現が記録されており、その中でモーセは神にまみえ、神と語っている。非常に驚くべき示現であって、ジョセフ・スミスはその示現を「貴いひとかけら」また「力の源」と呼んだ。³ この示現の中で、神はモーセに偉大な救いの計画の根本的な目的を教えておられる。

「そこで、主なる神はモーセに言われた。『……見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。』（モーセ1：37、39）

救いの計画を構成する教義と儀式と約束が、この末日に預言者ジョセフ・スミスを通じて地上に明らかにされた。この計画の重要性をはっきり理解している者として、預言者は次のように宣言している。「偉大な救いの計画は、わたしたちが細心の注意を払うべきテーマであり、人類に与えられている天の最善の賜物^{たまもの}の一つであると考えなければなりません。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

前世において、イエス・キリストは救い主として選ばれ、 わたしたちは救いの計画を受け入れることを選んだ

「天の組織が初めて構成されたとき、わたしたちは皆そこにおいて、救い主が選ばれて任命され、救いの計画が立てられるのを見ました。そしてわたしたちはそれを承認しました。」⁵

「創世の前から、主はメルキゼデクの位に従う、とこしえの祭司であり、油注がれた神の御子です〔詩篇110：4参照〕。」⁶

「悪魔に対して勝利を取めるために、イエス・キリストの救いがすべての人に用意されました。……キリスト御自身に従うまで、すべての人は苦しみを受けるでしょう。

天で争いがありました。——イエスは、救われない人もいるだろうと言われました。他方、悪魔はすべての人を救おうと言って、自分の計画を大会議に提示しましたが、大会議ではイエス・キリストを支持する採決を下しました。そこで悪魔は神に対して謀反を起こし、彼に従うすべての者たちとともに投げ落とされました。』⁷

わたしたちは永遠の存在であり、神の律法に従うとき、 昇栄に向かって前進することができる

1833年5月、預言者ジョセフ・スミスは主から次の啓示を受け、それは後に教義と聖約93：29に記録された。「人もまた初めに神とともにいた。英知すなわち真理の光は、創造されることも、作られることもなく、実にそうすることのできないものである。」1844年4月、預言者は次のように教えている。「採り上げたいテーマがもう一つあります。人を高めると思われるものです。……それは死者、すなわち魂、人の精神の復活に関する事柄、不滅の霊に関連する事柄です。霊はどこからやって来たのでしょうか。学者や神学博士たちは皆、神が初めに霊を創造されたと言っていますが、そうではありません。わたしの見るところでは、そのような考えは人を軽んじています。わたしはそのような教義を信じるほど愚かではありません。世界の果てに至るすべての人々よ、聞いてください。神がわたしにこのことを告げられたのです。たとえ皆さんがわたしを信じないとしても、その真理が無効となることはないでしょう。……

わたしが申し上げているのは、人の霊は不滅であるということです。

霊の英知が不滅であると言いながら、それに初めがあると言うのは、道理にかなっているのでしょうか。霊の英知には初めがなく、終わりもありません。それは道理にかなっています。初めがあるものには、終わりがあっても不思議ではありません。かつて霊が存在していなかった時はありませんでした。……

……わたしの指から指輪を外し、これを人の心、すなわち不滅の部分にたとえましょう。それには初めがないからです。指輪を二つに切ったとします。そうすると、初めと終わりがあります。しかしそれを再びつなぐと、一つの永遠の環になります。人の霊も同様です。主が生きておられるように確かに、もし霊に初めがあったのであれば、終わりがあるでしょう。創造の初めから、人の霊に初めがあったと言う愚かな人々、学者たち、知者たちは皆、霊には終わりがあるに違いないということを証明します。もしその教義が真実であるならば、霊が消滅するという教義も真実でしょう。しかし、もしわたしが正しければ、神がほんのわずかでも人の霊を創造する力を持たれたことはなかったと、屋根の上から大胆に宣言してもよいでしょう。神は御自身を創造することはおできにならなかったのです。

英知は永遠であり、自立自存の原則に基づいて存在しています。英知は代々、一つの霊であり、創造されたものではありません。神がかつて世に送られたすべての精神と霊は、成長することができます。

人にとって第一の原則は、神と同様、独自に存在していることです。神は御自身もろもろの霊たちと栄光の中にいることを御覧になり、英知においてはるかに優れておられたので、ほかの者たちも御自分のように進歩する特権にあずかるように律法を定めることがふさわしいとお考えになりました。神とわたしたちとの関係において、わたしたちは知識を増さなければならない立場にあります。神は弱い英知たちに教えを授けるための律法を定める力をお持ちです。彼らが御自分のように昇栄し、栄光に栄光を加えられ、霊の世界で救いを得るために必要なあらゆる知識と力と栄光と英知を得られるようにするためです。]⁸

「わたしたちは次のように考えています。すなわち、神は人を、教えを受けることのできる心を持ち、天からの光に向ける注意と熱意の度合いに応じて増大する知力を持つ者として創造されたのです。人は完成に近づくほどに視野が開け、喜びが大きくなっていきます。そしてついには人生の様々な悪に打ち勝ち、罪に対する望みを一切持たなくなり、そしてその信仰は、古代の聖徒たちのように、造り主の

力と栄光に包まれて、主とともに住むために引き上げられるほどの状態に到達します。しかしこれは、だれ一人として瞬時に到達したことの無い状態であるとわたしたちは考えています。』⁹

**わたしたちが地上に来たのは、肉体を得、知識を得、
信仰によって勝利を得るためである**

「人は皆、自分が死ななければならないことを知っています。そこで、自分が生と死という変化を経験する理由、この世にやって来て、苦しみを受け、やがてこの世を去ることについての神の計画と目的を理解することが大切です。わたしたちが生まれ、死に、朽ちて、もはやここに存在しなくなる目的は何でしょうか。この件に関して神が何かを明らかにしてくださると考えるのは道理にかなっています。これはほかの何にも増して研究しなければならない事柄です。わたしたちはこのことを日夜研究しなければなりません。世の人々は自分たちのほんとうの状態と〔神との〕関係について知らないからです。』¹⁰

「創世の前に神が計画されたのは、わたしたちが幕屋〔肉体〕を受け、忠実であることによって勝利を得、死者の中からの復活を得、栄光と誉れと力と主権を得ることでした。』¹¹

「わたしたちがこの地上に来たのは、肉体を得て、日の栄えの王国において神の前にその肉体を清い状態で差し出すためです。偉大な幸福の原則は、肉体を得ることの中にあります。悪魔は肉体を持っておらず、これが悪魔にとっての罰となっています。悪魔は人の幕屋を得ることができれば喜びます。救い主によって追い出されたときには、豚の群れの中に行くことを願い求めました。これは、悪魔は何も持たないよりはむしろ豚の体でも持つことを願うことを示しています。肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです。』¹²

「救いとは、人がそのすべての敵から救われることです。このため、人は死に打ち勝つまで、救われません。……

永遠の世界の霊たちは、この世の霊たちに似ています。霊たちがこの世に来て幕屋を受け、それから死んで再びよみがえり、栄光を受けた肉体を得ると、彼らは悪魔のように肉体を得ていない霊たち、すなわち第一の位を守らなかった霊たちを支配する力を持つでしょう。悪魔の受けた罰は、人のように霊の住まいを持たないということでした。』¹³

「知識の原則は、すなわち救いの原則です。忠実で勤勉な人はこの原則を理解することができます。しかし、救いに必要とされるだけの



「創世の前に神が計画されたのは、わたしたちが幕屋〔肉体〕を受け、忠実であることによって勝利を……得ることでした。」

知識を得ていない人は皆、罪に定められるでしょう。救いの原則は、イエス・キリストについての知識を通して与えられます。

救いとは、すべての敵に打ち勝ち、それらを自分の足もとに置くことにほかなりません。この世にあってすべての敵を足もとに置く力を持ち、また来るべき世にあってすべての邪悪な霊に勝利するための知識を得るならば、そのときに、わたしたちは救われるのです。それはイエスの場合と同じであり、主はすべての敵を御自分の足もとに置くまでは支配をお続けになることになっており、最後の敵は死でした〔1コリント15：25-26参照〕。

恐らく、ここにほとんどの人にとって考えたことのない原則があります。だれも幕屋によらなければ、この救いを得ることはできないのです。

さて、この世において、人類は生まれながらに利己的で、野望を抱き、互いに相手の上に立とうとします。しかし、自分自身だけでなくほかの人も高めようとする人々もいます。同じように、かなたの世界にも様々な霊がいます。ある者たちはほかの霊の上に立とうとします。ルシフェルが落ちたときがそうでした。ルシフェルは求めてはならないものを求めました。そのために落とされたのです。また多くの者を

引き連れて行ったと言われています。そして幕屋を持たないという大きな罰が下されました。これがルシフェルの受けた罰なのです。』¹⁴

神はわたしたちに道徳的な選択の自由と、悪よりも善を選ぶ力を 与えてくださった

「もし救いを得ようとするなら、人はこの世を去る前に、特定の規則と原則に従わなければなりません。すなわち世界が存在する前に神によって定められ変わる事のない規則と原則に従わなければならないのです。……霊の世界と天の世界、霊の者たちと天の者たちの組織は、最も完全な秩序にかない、完全に調和したものでした。それらの世界やそれらの者たちには変更される事のない制限と領域が定められていて、彼ら自身が天の位において自分の意志に基づいてそれを受け入れました。また地上においては、わたしたちの最初の先祖がそれを受け入れました。ですから、永遠の命を得たいと願う地上のすべての人にとって、永遠の真理の原則を受け入れて認めることは重要なことなのです。』¹⁵

「すべての人は選択の自由を認められています。神がそのように定めておられるからです。神は人類を道徳的な判断のできる存在として、善悪を選ぶ力を授けられました。この世にある間、^{きよ}聖い道を歩んで善を追求するならば、この世においては心の安らぎと聖霊による喜びを、後の世においては神の右において満ちみちる喜びと幸福を得ることができます。これに対して、罪を犯し神に背く邪悪な道を歩むならば、この世においては自身に罪の宣告を招き、来るべき世においては永遠に失われた有様^{ありさま}に置かれます。』¹⁶

「わたしたちが心の中で同意し、屈しないかぎり、サタンはわたしたちをそそのかして惑わすことはできません。わたしたちは悪魔に抵抗できる性質を持っているのです。もしそのように造られていなかったとしたら、わたしたちは自由に選択し行動する者とは言えないでしょう。』¹⁷

「わたしたちが許さないかぎり、悪魔はわたしたちを支配する力を持ちません。わたしたちが神から来るものに背いた瞬間に、悪魔は力を得るのです。』¹⁸

1841年5月16日、預言者は聖徒たちに向けて話をしている。「ジョセフ・スミス大管長は、……サタンはわたしたちが行った悪について一般的に責めを受けているが、もしサタンがわたしたちのあらゆる悪の

根源であるとするならば、人が罪に定められることはあり得ないと述べました。悪魔は人類に悪を行うように強いることはできません。すべては自分の意志によるのです。神の御霊に逆らう人々は、誘惑に引き込まれやすいのです。するとそのような大いなる栄光にあずかるのを拒む人々は、天の交わりを失うでしょう。神が強制的な手段を用いられることは一切なく、悪魔も何かを強制することはできません。[この件について] 多くの人々が抱いている考えは、道理に合っていません。]」¹⁹

エライザ・R・スノーは次のように記録している。「[ジョセフ・スミスは] こう述べました。『わたしたちが徳の道をどれほど速く歩んで行くかについて、わたしは関心がありません。大切なのは悪を退けることです。そうすれば、危ない目に遭うことはないのです。神も人も天使も、すべての悪に抵抗する人々を罪に定めることはありません。悪霊たちもそのようにすることはできません。悪魔はエホバを引きずり落とすことができません。それと同様に、すべての悪に抵抗する罪のない人を滅ぼすこともできないのです。』」²⁰

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示を通して、わたしたちは救いの計画と人生の目的についてどのような真理を知らされているでしょうか。これらの真理によってあなたはどのように助けられてきましたか。
- ジョセフ・スミスは、救いの計画は「ほかの何にも増して研究しなければならぬ事柄」(211ページ)であり、「細心の注意を払うべきテーマ」(208ページ)であると教えています。わたしたちは救いの計画をどのような方法で研究することができるでしょうか。日々生活する中で、救いの計画に細心の注意を払うためにどのようなことができるでしょうか。救いの計画を人に教えるために、どのような方法を採用することができるでしょうか。
- 天上の会議と、わたしたちの持つ永遠の性質について、ジョセフ・スミスの教えを読んでください(209-211ページ)。これらの教義

を知っていることは、地上での生活においてどのような祝福となるでしょうか。

- 預言者ジョセフは「神がかつて世に送られたすべての精神と霊は、成長することができます」と証しています（210ページ）。これはどのような意味だと思えますか。この真理は、困難に向き合うあなたの姿勢にどのような影響を及ぼすでしょうか。自分自身の価値と能力についての感じ方や、人との接し方にどのような影響を及ぼすでしょうか。
- 210ページの下から始まる段落を読んでください。わたしたちが「天からの光に……注意と熱意」を向けるときに受ける祝福について考えてください。
- 肉体を持つことの意義について、ジョセフ・スミスの教えを読んでください（211–213ページ）。この知識は肉体を大切にすることについてわたしたちにどのような影響を与えているでしょうか。
- 213ページの第3、第4段落を読んでください。選択の自由を働かせるとき、これらの教えはあなたにとってどのような意味を持つでしょうか。サタンの影響力に抵抗するために、具体的にどのようなことができるでしょうか。

関連聖句——2ニーファイ2：25；9：6–12；アルマ34：31–33；教義と聖約76：25–32；101：78；アブラハム3：22–25

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 238. “History of the Church” (原稿), book A-1, 175から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
2. *History of the Church*, 第6巻, 57–58. 原文 (英語) においては, 段落は変更. 1843年10月15日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズによる報告. 本書561ページにある付録, 第3項も参照
3. *History of the Church*, 第1巻, 98. “History of the Church” (原稿), book A-1, miscellaneous papers, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第2巻, 23. “The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” 1834年1月22日付から. *Evening and Morning Star*, 1834年4月号, 152に掲載
5. ウィリアム・クレイトンによる, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教 (日付不詳) についての報告の中での引用. L・ジョン・ナトール, “Extracts from William Clayton’s Private Book,” 7, L・ジョン・ナトールの日記 (1857–1904年), L. Tom Perry Special Collections, ブリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ. 複写所有, 教会記録保管課
6. *Times and Seasons*, 1842年9月1日付, 905に掲載された論説 “Baptism” から. 原文 (英語) においては, つづりおよび大文字は現代の用法に修正. ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. *History of the Church*, 第6巻, 314. 1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告

8. *History of the Church*, 第6巻, 310-312。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正。1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
9. *History of the Church*, 第2巻, 8。"The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" 1834年1月22日付から。Evening and Morning Star, 1834年2月号, 135に掲載
10. *History of the Church*, 第6巻, 50。1843年10月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。Times and Seasons, 1843年9月15日付, 331に掲載。同日付のTimes and Seasonsは遅れて発行された
11. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイによる, 1843年5月21日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告の中での引用。マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイ, Notebook, 教会記録保管課
12. ウィリアム・クレイトンによる, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教(日付不詳)についての報告の中での引用。L・ジョン・ナトール, "Extracts from William Clayton's Private Book," 7-8, L・ジョン・ナトールの日記(1857-1904年), L. Tom Perry Special Collections, プリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。複写所有, 教会記録保管課
13. *History of the Church*, 第5巻, 403。1843年5月21日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
14. *History of the Church*, 第5巻, 387-388。1843年5月14日にイリノイ州エルロームでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
15. *History of the Church*, 第6巻, 50-51。原文(英語)においては, 段落は変更。1843年10月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告, Times and Seasons, 1843年9月15日付, 331に掲載。同日付のTimes and Seasonsは遅れて発行された。本書561ページにある付録, 第3項も参照
16. *History of the Church*, 第4巻, 45, 脚注。1839年12月8日, イリノイ州コマースで大管長会と高等評議会がオハイオ州カートランドの西方に住む聖徒たちにあてて書いた手紙から。Times and Seasons, 1839年12月号, 29に掲載
17. ウィリアム・P・マッキンタイヤーによる, 1841年の初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教の報告の中での引用。ウィリアム・バターソン・マッキンタイヤー, Notebook 1840-1845年。教会記録保管課
18. ウィリアム・クレイトンによる, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教(日付不詳)についての報告の中での引用。L・ジョン・ナトール, "Extracts from William Clayton's Private Book," 8, L・ジョン・ナトールの日記(1857-1904年), L. Tom Perry Special Collections, プリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。複写所有, 教会記録保管課
19. *History of the Church*, 第4巻, 358。原文(英語)においては, 角括弧の部分は当時の表記のまま, その他の段落は変更。1841年5月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。Times and Seasons, 1841年6月1日付, 429に掲載
20. *History of the Church*, 第4巻, 605。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告



幕のかなた—— 永遠の世における生活

「〔すでにこの世を去った義人たちは〕再びよみがえり、
不死不滅の栄光をもって永遠の燃える火の中に住むでしょう。

もう悲しむことも、苦しむことも、死ぬこともなく、
神の相続人となり、イエス・キリストと共同の相続人となるでしょう。』

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスによる聖書の翻訳がきっかけとなり、永遠の世における生活について驚嘆すべき示現が与えられた。1832年2月16日、預言者ジョセフはオハイオ州ハイラムのジョン・ジョンソンの家で翻訳を行っていた。筆記者はシドニー・リグドンであった。その日はヨハネによる福音書を翻訳していた。後に預言者ジョセフはこう述べている。「これまでに受けたいろいろな啓示からはっきり言えるのは、人の救いに関する多くの重要な事柄が、聖書から抜き取られた、あるいは聖書が編さんされる前に失われたということです。しかし残された真理は次のことをはっきり示しています。すなわち、すべての人がその肉体にあってなした行いに応じて神から報いを受けるとすれば、聖徒たちの永遠の住まいという意味での『天』という言葉には、複数の王国が含まれていなければならない。』¹

預言者ジョセフは、ヨハネ第5章29節を翻訳した。復活のときにどのようにすべての人が「出てくる」かが述べられた聖句である。——「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえ……るであろう。」ジョセフとシドニーがこの聖句について深く考えていると、驚くべき示現が開かれた。預言者ジョセフは次のように記録している。「神にかかわる事柄を目にし理解できるように、御霊^{みたま}の力によってわたしたちの目は開かれ、わたしたちの理解に光が注がれた。それらの事柄は、



復元されたオハイオ州ハイラムのジョン・ジョンソンの家。
1832年2月、ジョンソン家において、預言者ジョセフ・スミスは神がその子供たちに
用意しておられる3つの栄光の階級について示現を見た。

世界が存在する前に初めからあったこと、まことに初めから御父の懐ふところにおられた御父の独り子を通して御父によって定められたことである。」(教義と聖約76：12-13)

この荘厳な示現の中で、預言者とシドニー・リグドンは御父の右に神の御子を見、「その完全を受けた。」(教義と聖約76：20)そして、神がその子供たちに用意しておられる3つの栄光の王国を見て、さらに、だれがその王国を受け継ぐかについて学んだ。また、サタンが神の前から追い出されたときの様子と、サタンに屈した人々がどのような苦しみを受けるのかを見た。

この示現は後に教義と聖約第76章となった。預言者ジョセフは次のように説明している。「主の王国の秩序に関して、聖徒にこれ以上の喜びをもたらすものはありません。この示現を通して、あふれるばかりの光が世に注がれたのです。すべての律法、すべての戒め、すべての約束、すべての真理、人の行く末に関するすべての要点、創世記から黙示録までの聖句のうち人間の愚行によって汚されず純粹に保たれた聖句はすべて、……この文書は永遠の世の記録からの写本であると証あかししているのです。その崇高な概念、その清らかな言葉、行動の自由、完成に至るまでの期間(すなわち救いを受け継ぐ者がひざをかがめ主への信仰を告白するようになるための期間)、忠実に対する報い、罪に対する罰、それらの概念がどれも人間の狭量きょうりょうな考えをはるかに超えています。正直な人ならだれでも『これは神から出たものだ』と声を上げずにはられません。』²

ジョセフ・スミスの教え

神はその子供たちに3つの栄光の階級を用意しておられる

「死者の復活について話しましょう。ヨハネの第14章には次のように記されています。『わたしの父の家には、すまいがたくさんある。』〔ヨハネ14：2〕しかしこの聖句は、こうであるべきです。『わたしの父の王国には、王国がたくさんある。』あなたがたは神の相続人となり、わたしと共同の相続人になるためである。……日の栄えの律法に従う人々のために住まいがあります。その律法に従わない人々のために別の住まいがあります。すべての人が自分の位に入るのです。』³

「次のように言う人がいます。『でも、わたしは万人のための一つの天と地獄があると信じています。すべての人がそこに行き、そこでは

皆が同じであって、等しく惨めな状態か、あるいは等しく幸福な状態を受けるのです。』

何ということでしょう。人は肉体にあってなした行いに応じて裁かれると記されているにもかかわらず、高貴な者も、徳高い者も、殺人者も、みだらな行いをする者も、すべての人がそこに寄せ集められるというのでしょうか。聖パウロはわたしたちに、3つの栄光と3つの天について告げています。パウロは第3の天に引き上げられた人を知っていました〔1コリント15：40-41；2コリント12：2-4参照〕。……イエスは弟子たちに次のように語っておられます。『わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そしてやって来て、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所^{ところ}にあなたがたもおらせるためである。』〔ヨハネ14：2-3参照〕⁴

〔教義と聖約第76章〕にある示現を読んでください。栄光に階級があることがはっきり説明されています。太陽の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光があります。そしてある星と別の星との間に栄光の違いがあるように、星の栄えの世界の者たちの間に栄光の違いがあります。また、日の栄えの栄光において統治するすべての人は、自分の領域に対する神となります。……

パウロは次のように述べています。『日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。死人の復活も、また同様である。』〔1コリント15：41-42〕⁵

イエスの証^{あかし}を受け入れ、福音の儀式を受け、信仰によって勝利を得る人々は、日の栄えの王国を受け継ぐ

預言者ジョセフ・スミスは示現によって次のことを見、それらは後に教義と聖約76：50-59, 62, 68-70に記録された。「さらにまた、わたしたちは証する。わたしたちは見聞きしたからである。正しい者の復活の時に出て来る人々に関するキリストの福音の証はこれである。すなわち、彼らはイエスの証を受け入れ、その名を信じ、そしてイエスの名によって水の中に沈められ、イエスから与えられた戒めとおりにその埋葬に倣ってバプテスマを受けた者である。それは戒めを守ることによって、彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ、この力を持つように聖任され結び固められている者の^{あんじゆ}按手^{あて}によって聖なる御壺^{みたま}を受けるためである。また、彼らは信仰によって勝利を得、

御父が正しくかつ真実な者すべてに注がれる約束の聖なる御霊により結び固められている者である。

彼らは長子の教会である。彼らは御父からすべてのものをその手に与えられた者である。彼らは祭司であり、王であり、御父の完全と御父の栄光を受けた者であり、また、メルキゼデクの位に従ういと高き方の祭司である。このメルキゼデクの位は、エノクの位に従い、かつ独り子の位に従うものであった。

それゆえ、書き記されているように、彼らは神々、すなわち神の子である。それゆえ、生も死も、現在のものも将来のものも、すべてのものは彼らのものである。すべては彼らのものであり、彼らはキリストのものであり、キリストは神のものである。……

これらの者は、とこしえにいつまでも神とそのキリストの前に住む。……これらは、神とキリストが万民の審判者として住まわれる、天にその名が記されている者である。これらは、自らの血を流すことによってこの完全な贖罪しよくざいを成し遂げられた、新しい聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である。これらは、その体が日の栄えの状態にある者である。その栄光は太陽の栄光、すなわちすべての者の至高者なる神の栄光であり、その栄光は大空の太陽によって象徴されると記されている。]⁶

1843年5月、預言者ジョセフ・スミスは次のように教え、それは後に教義と聖約131：1-4に記録された。「日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位（すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約）に入らなければならない。そうしなければ、その人はそれを得ることができない。その人は他の階級に入ることはできるが、それは彼の王国の終わりであって、その人は増し加えることができないのである。]⁷

「ですから、これが永遠の命です。すなわち、唯一の、知恵あるまことの神を知ることです。そして皆さんはどのようにして自ら神々となり、王となり、神に仕える祭司となるかを学ばなければなりません。……低い階級から別の階級へ、小さな能力から大きな能力へ、恵みから恵みへ、高みから高みへと進んで行き、ついには死者の復活に達し、永遠の燃える火の中に住み、永遠の力をもって座に着いている人々のように、栄光のうちに座に着くことができるようになるのです。……

……〔すでにこの世を去った義人たちは〕再びよみがえり、不死不滅の栄光をもって永遠の燃える火の中に住むでしょう。もう悲しむこ



日の栄えの王国を受け継ぐ人々は「その体が日の栄えの状態にある者である。その栄光は太陽の栄光，すなわちすべての者の至高者なる神の栄光であ[る]」。

とも、苦しむことも、死ぬこともなく、神の相続人となり、イエス・キリストと共同の相続人となるでしょう。それはどういうことでしょうか。同じ力と、同じ栄光と、同じ昇栄を受け継ぎ、ついには神の地位に達し、前に歩んだ人々と同じように、永遠の力の座に上るということです。]⁸

「死者の中からの栄光ある復活を得る人々は、公国、力、王位、主権、および天使よりもはるかに高く上げられます。そして、そのような人々は神の相続人でありイエス・キリストと共同の相続人であって、皆が永遠の力を持つと、はっきり宣言されます〔ローマ8：17参照〕。]⁹

「世の高潔な人々」でありながら、イエスの証に^{あかし}雄々しくない人々は、
月の栄えの王国を受け継ぐ

預言者ジョセフ・スミスは示現によって次のことを見、それらは後に教義と聖約76：71-79に記録された。「さらにまた、わたしたちは月の栄えの世界を見た。見よ、見よ、これらの者は月の栄えの世界に属する者であり、その栄光は、月の栄光が大空の太陽と違っているように、御父の完全を受けた長子の教会の栄光とは違っている。

見よ、これらは、律法なしに死んだ者である。また、獄にとどめら

れた人々の霊であって、肉において人間として裁きを受けるために、御子が訪れて、福音を宣べ伝えられた者である。また、これらは、肉においてはイエスの証を受け入れなかったが、後にそれを受け入れた者である。

これらは、世の高潔な人々でありながら、人間の悪巧みによって目をくらまされた者である。これらは、イエスの栄光を受けるが、その完全は受けない者である。これらは、御子の臨在は受けるが、御父の完全は受けない者である。

それゆえ、彼らは日の栄えの体ではなく、月の栄えの体であって、月が太陽と違ってのように栄光において違っている。これらは、イエスの証に雄々しくない者である。それゆえ、彼らはわたしたちの神の王国の冠を得ない。』¹⁰

福音やイエスの証を受け入れない悪人たちは、星の栄えの王国を受け継ぐ

預言者ジョセフ・スミスは示現によって次のことを見、それらは後に教義と聖約76：81-85, 100-106, 110-112に記録された。「さらにまた、わたしたちは星の栄えの世界の栄光を見た。その栄光は、星の栄光が大空の月の栄光と違っているように、さらに劣った世界の栄光である。

これらは、キリストの福音を受け入れず、イエスの証も受け入れなかった者である。これらは、聖なる御霊を否定しない者である。これらは、地獄に落とされる者である。これらは、最後の復活まで、主すなわち小羊なるキリストがその業を終えられるまで、悪魔から贖われない者である。……

これらは、自分たちはある者につく、また自分たちは別の者につくと言う者である。すなわち、ある者はキリストに、ある者はヨハネに、ある者はモーセに、ある者はエライアスに、ある者はイザヤスに、ある者はイザヤに、またある者はエノクにつく。しかし福音も、イエスの証も、預言者たちも、永遠の聖約も受け入れなかった。

最後に、これらすべての者は、聖徒たちとともに集められず、長子の教会のもとに引き上げられて雲の中に迎えられない者である。

これらは、偽りを言う者、魔術を使う者、姦淫を行う者、みだらな行いをする者、また偽りを好んで行う者である。これらは、地上で神の激しい怒りを受ける者である。これらは、永遠の火の刑罰を受ける

者である。これらは、キリストがすべての敵をその足の下に従わせて、その業を完成される時の満ちるまで、地獄に投げ落とされて、全能の神の激しい怒りを受ける者である。……

また〔わたしたちは〕主の声が告げられるのを聞いた。『これらすべての者はひざをかがめ、すべての舌が、とこしえにいつまでも御座に着いている者に告白するであろう。彼らはその行いに応じて裁かれ、すべての人は自分の行いに応じて、用意されている住まいにおいて自分の領域を受けるであろう。彼らはいと高き方の僕である。しかし、神とキリストの住む所には、世々限りなく、来ることができない。』¹¹

悪人たちが受ける苦痛とは、享受できたかもしれない栄光を 自分は受けられないと知ることである

「神は、御自分の声に従わない者は皆地獄の罰を免れないと定められました。地獄の罰とは何でしょうか。神の戒めに従わなかった者たちとともにいることです。……わたしは次のことを知っています。すなわち、もし主が開かれた道によって入らなければ、すべての人は罰の定めを受けることになるでしょう。そしてこれが、主の言葉によって定められた道なのです。』¹²

「死後に行く霊の世界において死者の霊が受けるひどく惨めな状態とは、ほかの人々が享受し、自らも享受できたかもしれない栄光を自分は受けられないと知ることです。彼らは自分で自分を訴えるのです。』¹³

「どうなるか分からないという不安ほどひどい苦痛はありません。これが悪人の受ける罰です。彼らは疑いと心配と不安のために、涙を流し、泣きわめき、歯ざしりをします。』¹⁴

「人は自分で自分を苦しめ、自分に罪の宣告をします。このことから、彼らは火と硫黄の燃える池の中に行くであろう、と言われているのです〔黙示21：8参照〕。人の思いに生じる失望という苦痛は、火と硫黄の燃える池と同じくらいに激しいものです。人の苦痛とはそのようなものであると、わたしは申し上げます。……

……ある人々は神の永遠の燃える火によみがえるでしょう。神は永遠の燃える火の中に住まわれるからです。また、ある人々は自分自身の汚れという罰の定めによみがえり、その苦痛は火と硫黄の池と同じくらい激しいものです。』¹⁵

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが教義と聖約第76章に記録されている啓示を受けたのは、彼らがある聖句について思いを巡らせていたときのことでした（217-219ページ。教義と聖約76：15-19も参照）。思いを巡らせることでさらに理解が深まるということ、あなたはどのような経験から学びましたか。本章について、またほかの章についても、学んだり話し合ったりするとき、時間を取って、読んだ真理について思いを巡らせてください。
- ヨハネ14：2-3と1コリント15：40-41を読んでください。本章の教えはこれらの節を理解するうえでどのように役立ちますか。
- 日の栄え、月の栄え、星の栄えの栄光を受け継ぐ人々についての記述の中で、「イエスの証^{あかし}」という言葉が5回使われています（220-224ページ）。「イエスの証に雄々しい」人にはどのような特徴があるのでしょうか。イエスの証に雄々しい人々にはどのような約束が与えられているのでしょうか。
- 220ページの最後の段落を、「信仰によって勝利を得る」という言葉に特に注意しながら読んでください。わたしたちが打ち勝つ必要のある事柄にはどのようなものがあるのでしょうか。イエス・キリストを信じる信仰を持つことにより、わたしたちはどのようにこの世の問題に打ち勝つことができるのでしょうか。
- 221ページの最後から2番目の段落を全部読んでください。永遠の進歩において、「低い階級から別の階級へ」と向上する必要があるのはなぜだと思いますか。あなたはどのような経験を通して、このようにして学び成長する必要があることに気づきましたか。
- 223ページの第2段落を読んでください。ここでは月の栄えの王国を受け継ぐ人々について述べられています。「人間の悪巧みによって目をくらまされ」ないようにするには、どうすればよいのでしょうか。ほかの人が目をくらまされないように、どのように助けることができるのでしょうか。
- 224ページから、ジョセフ・スミスが次の世における悪人の状態を述べるために用いている語句を探してください。これらの語句から

どのようなことを知ることができますか。人はどのようにして「自分で自分を苦しめ、自分に罪の宣告を〔する〕」のでしょうか。

関連聖句——アルマ41：2-8；教義と聖約14：7；76：20-49；88：15-39

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 245. 原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。“History of the Church”（原稿）、book A-1, 183から、教会記録保管課、末日聖徒イエス・キリスト教会、ユタ州ソルトレーク・シティ
2. *History of the Church*, 第1巻, 252-253. “History of the Church”（原稿）、book A-1, 192から、教会記録保管課
3. *History of the Church*, 第6巻, 365. 原文（英語）においては、段落は変更。1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から、トーマス・ブロックによる報告
4. *History of the Church*, 第5巻, 425-426. 原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。1843年6月11日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録、第3項も参照
5. *History of the Church*, 第6巻, 477-478. 1844年6月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告。本書561ページにある付録、第3項も参照
6. 教義と聖約76：50-59, 62, 68-70. 1832年2月16日にオハイオ州ハイラムでジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた示現
7. 教義と聖約131：1-4. 原文（英語）においては、括弧の部分は当時の表記のまま。1843年5月16日および17日にイリノイ州レイマスでジョセフ・スミスによって与えられた教え
8. *History of the Church*, 第6巻, 306. 1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ、ウィラード・リチャーズ、トーマス・ブロック、ウィリアム・クレイトンによる報告
9. *History of the Church*, 第6巻, 478. 1844年6月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告。本書561ページにある付録、第3項も参照
10. 教義と聖約76：71-79. 1832年2月16日にオハイオ州ハイラムでジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた示現
11. 教義と聖約76：81-85, 100-106, 110-112. 1832年2月16日にオハイオ州ハイラムでジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた示現
12. *History of the Church*, 第4巻, 554-555. 原文（英語）においては、段落は変更。1842年3月20日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録、第3項も参照
13. *History of the Church*, 第5巻, 425. 1843年6月11日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録、第3項も参照
14. *History of the Church*, 第5巻, 340. 1843年4月8日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
15. *History of the Church*, 第6巻, 314, 317. 原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ、ウィラード・リチャーズ、トーマス・ブロック、ウィリアム・クレイトンによる報告



人生の嵐あらしの中でしっかりと立つ

「神の聖徒である皆さん、引き続き忠実であって、
 いましばらくの間堪え忍んでください。
 そうすれば人生の嵐は過ぎ去り、
 皆さんは自分が仕える御方である神から報いを受けるでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1832年3月24日の夜、ジョセフ・スミスは、はしかを患っていた生後11か月の息子ジョセフを看病するため、夜更けまで起きていた。当時、スミス家族はオハイオ州ハイラムにあるジョン・ジョンソンの家に住んでいた。ようやく預言者が簡易ベッドで眠りに就いたとき、酒をあおった十数名の暴徒が家に押し入って来た。後に預言者は、その恐ろしい夜の出来事を次のように述べている。

「暴徒は力任せにドアを開けると、一瞬のうちにベッドを取り囲んでいました。……われに返ると、わたしは怒り狂った暴徒の手でドアの外に連れ出されようとしていました。強引に引きずられていく間、わたしは逃れようと必死にもがきましたが、自由になったのは片足だけでした。その足で一人の男をけると、その男は戸口の踏み段に倒れました。しかし、わたしはすぐにまた完全に自由を奪われてしまいました。そして、おとなしくしていなければ殺すと言われたため、抵抗をやめました。……」

それから暴徒はわたしの喉のどをつかみ、わたしが意識を失うまで押さえ続けました。意識を取り戻してから、暴徒に連れられて歩いて行くと、家から30ロッド〔150メートル〕ほどの所で、リグドン長老が手足を広げたまま地面に倒れているのが目に入りました。暴徒にかかるとつかまれ、そこまで引きずって行かれたのです。生きていたようには見えませんでした。わたしは彼らに懇願して言いました。『わたしを憐れみ、命を助けてください。』すると彼らは言いました。『……自分の神に助けを求めたらいいだろう。おれたちはおまえを憐れんでやるつもりはない。』」



1832年3月24日の夜、オハイオ州ハイラムで、ジョセフ・スミスは怒り狂った暴徒に
家から引きずり出され、全身にタールを塗って羽根を付けられた。

預言者はさらに次のように述べている。しばらく話し合った後、暴徒は「わたしを殺さないことにしました。しかし容赦なく打ち据え、全身を傷だらけにすると、シャツとズボンをはぎ取って裸にしました。……そして彼らは走って行くと、タールの入ったバケツを持って戻って来ました。一人が口汚くののしりながら言いました。『やつの口にタールを流し込んでやろう。』そして彼らはタールのへらをわたしの口の中に押し込もうとしましたが、わたしがもがいて顔をそらすので、できませんでした。暴徒は叫んで言いました。『……頭を上げて、タールを頂きな。』それからガラス瓶を口に押し込もうとしたため、歯に当たって瓶は砕けました。衣服はすべてはぎ取られ、シャツの襟だけが残りました。一人の男が襲いかかってきて、狂った猫のようにつめでわたしの体をひっかきました。……

そして暴徒は去って行きました。わたしは起き上がろうとしましたが、また倒れてしまいました。呼吸を楽にするため唇からタールをぬぐい取って、しばらくすると体力が戻り始めたので、立ち上がると、二つの明かりが見えました。そのうちの一つに向かって進んで行くと、それは父ジョンソンの家でした。玄関に着くと、……タールで血だるまのような姿になっていたため、それを見た妻は、全身を八つ裂きにされたと思い、気を失ってしまいました。……

友人たちが一晩かけてタールをこすり落とし、体を洗い清めてくれました。おかげで朝には再び衣服を身に着けられる状態になりました。」

このように過酷な体験をしたにもかかわらず、預言者はくじけることなく、主から命じられた務めを果たした。翌日は安息日だった。預言者は次のように記録している。「通常の礼拝の時刻に、人々が集まりました。そしてその中に、あの暴徒も来ていました。……わたしは全身傷だらけのひどい有様ありさまでしたが、いつものように会衆に向かって説教をし、その日の午後には3人にバプテスマを施しました。』¹ ジョセフとエマの息子ジョセフは、はしかを患っているときに夜の冷氣にさらされたことが原因で、暴徒の襲撃から5日後に死亡した。

第4代大管長のウィルフォード・ウッドラフは次のように述べている。「主はジョセフに、死に至るまで主の聖約に忠実であるかどうかを試そうと言われました。主は実際にジョセフを試されました。たとえ全世界から戦いを挑まれ、偽りの友の裏切りに耐えなければならなくても、また生涯が苦難と心労の連続であっても、ジョセフは自らが経験したあらゆる苦難や投獄、襲撃、虐待の中で、常に神に忠実でした。』²

ジョセフ・スミスの教え

イエス・キリストに従う人々は試しを受け、
神に忠実であることを身をもって示さなければならない

「エホバの腕の中以外に、安全はありません。ほかに救い出すことのできる者はなく、最も過酷な苦難の中で主に忠実であることをわたしたちが身をもって示さないかぎり、主は救い出してはくださらないでしょう。小羊の血によって衣を洗われる人は、大きな艱難かんなんを経験しなければならないからです〔黙示7：13-14参照〕。すなわちあらゆる苦難の中で最も過酷な苦しみを通らなければなりません。』³

「すべての人の行く末は公正な神の手の中にあり、神はだれに対しても不公平なことをなさいません。そして一つ確かなことは、キリスト・イエスにあって信仰深く生きようとする人は、迫害を受けるということです〔2テモテ3：12参照〕。黙示者ヨハネが述べているとおり、彼らは小羊の血によって衣を白くされる前に、大きな艱難を経験するでしょう〔黙示7：13-14参照〕。』⁴

「シオンの山にやって来て、天に上げられるために、人は苦しみを受けなければなりません。』⁵

1838年から1839年にかけての冬、リバティーで投獄され、激しい苦しみを受けていたとき、ジョセフ・スミスは教会員に次のような手紙を書いた。「愛する兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんに申し上げます。神は御自分の民を試み、金のようにふき分けると言っておられます〔マラキ3：3参照〕。ですからわたしたちはこう考えます。この度、神は御自身の厳しい試練をお選びになり、わたしたちはその中で試されているのです。もしわたしたちが何とか無事に切り抜けて、また信仰を貫くならば、それはこの時代の人々にとって、言い訳の余地を残さない、まったく十分なしるしとなるでしょう。また、それはわたしたちにとってアブラハムが受けた試練に等しい信仰の試練となり、また、裁きの日に、昔の人々がわたしたちに向かって、自分たちはもっとひどい苦難を経験したと自慢することはないでしょう。わたしたちは彼らと等しくふさわしい者とされるでしょう。』⁶

「試練は、昔の人々の思いを理解するのに必要な知識を与えてくれることでしょう。わたしに関して言えば、もしこれまでの不当な扱いを受けてこなかったとしたら、今感じているように感じることは決してなかったと思います。神を愛する者たちにとって益となるように、

万事がともに働くのです〔ローマ8：28参照〕。』⁷



ジョン・テラー

第3代大管長のジョン・テラーは次のように述べている。「わたしはあるとき、預言者ジョセフが十二使徒に対してこのように語るのを聞きました。『皆さんはあらゆる種類の試練を経験するでしょう。アブラハムや神の人であったほかの人々とまったく同じように、皆さんも試練を受ける必要があります。神は皆さんを探り、皆さんを支配し、皆さんの心の奥の深い感情を苦しめるでしょう。そしてもしそれに耐えら

れないなら、神の日の栄えの王国で受け継ぎを得ることはできないでしょう。』……真理を知らされてから、ジョセフ・スミスが平穩に過ごした時期はほんのわずかしがなく、ついにはカーセージの監獄で殺害されたのです。』⁸

神は試練のときに御自分に頼る人々を支え、祝福してくださる

「福音の力は、四方から降りかかってくる大きな苦難に立ち向かい、耐えられるようにしてくれるでしょう。……迫害が激しければ激しいほど、大いなる神の賜物たまものが神の教会のうえに注がれます。まことに、キリストのために進んで自分の命を捨てる者たちにとって益となるように、万事がともに働くでしょう。』⁹

「わたしが望みを抱き、信頼を寄せるのは、神をおいてほかにありません。神はわたしを存在させてくださった御方であり、御自分の内にあらゆる力を持っておられます。今わたしの前におられて、その目の前でわたしの心はいつも裸の状態です。神はわたしの慰なぐさめ主であり、わたしをお見捨てになることはありません。』¹⁰

「わたしは自分がだれに頼っているかを知っています。わたしは岩の上に立っており、洪水もわたしを倒すことはできません。いや、倒すことはありません。』¹¹

リバティーの監獄での勾留こうりゅうを解かれた後、預言者は自分の経験について次のように述べている。「神に感謝すべきことに、わたしたちは救い出されました。愛する兄弟たちの中に、自らの血をもって証を確かなものとしなければならず、真理の大義のために殉教した人々があります——

彼らの苦痛は激しいものの、つかの間であり、
彼らの喜びは永遠です。

『望みを持たない……人々』のように悲しまないようにしましょう [1テサロニケ4：13参照]。邪悪な者たちを恐れることなく、殉教した彼らと再会し、ともに喜ぶ時が、速やかに近づいているからです。そうです、主が来られてその聖徒たちの中であがめられるとき、すべての信じる者たちの間で敬われるとき、御自分の敵と福音に従わないすべての者たちに報復をなさるときが来れば、キリストにあって眠っている彼らは、主に伴われてやって来るのです。

そのときには、やもめや父のいない子供は心に慰めを受け、その顔から涙がことごとくぬぐわれるでしょう。彼らが経験しなければならなかった試練は、ともに働いて彼らの益となるでしょう。それらの試練により、彼らは大きな苦難を忠実に堪え忍んできた人々との交わりに備えられ、彼らの衣は小羊の血によって洗われ、白くなるでしょう [ローマ8：28；黙示7：13-14, 17参照]。]¹²

1842年9月1日、預言者は聖徒たちにあてて書いた手紙の中で次のように語り、それは後に教義と聖約127：2に記録された。「わたしが経験するように定められている数々の危難については、人のねたみと憤りが生涯を通じてわたしの日常のことであったので、それらはわたしにとってほんのささいなことに思われます。……わたしがいつも泳いでいる水は深いのです。それはすべてわたしにとって第二の天性となっています。そして、わたしはパウロのように艱難を誇りと感じています。わたしの先祖の神は、今日までそれらのすべてからわたしを救い出してくださり、またこれから後もわたしを救い出してくださるからです。まことに、まことに、わたしはわたしのすべての敵に打ち勝つでしょう。主なる神がそう告げられたからです。」]¹³

忠実な人々は苦難の中でつぶやかず、神の慈しみに感謝する

1833年12月5日、預言者はミズーリ州で迫害を受けている聖徒たちを管理する教会指導者たちに、こう書き送っている。「御自身の造られたものに対する神の計らいについてつぶやくことは忘れてください。皆さんはまだ、昔の預言者たちや使徒たちが直面したほどにつらい状況は経験していません。ダニエルと3人のヘブル人の子供たち [シャデラク、メシャク、アベデネゴ]、エレミヤ、パウロ、ステパノ、そのほか名前を挙げられないほど多くの人々を思い出してください。

彼らは石を投げつけられ、のこぎりで引かれ、試みられ、剣で殺され、羊の皮ややぎの皮を着てさまよい、きわめて貧しく、悩まされ、苦しめられました。彼らにとってこの世はふさわしくありませんでした。彼らは荒れ野や山の中をさまよい、地の穴や洞穴に身を隠しました。それでも彼らは皆、信仰によって誉れを得ました〔ヘブル11：37-39参照〕。そしてあらゆる苦難のただ中であって、自分がキリストのために迫害を受けるにふさわしい者とされていることを喜びました。

わたしたちは、シオンが救い出されて確立される前に、どのような経験をするように求められるのかを知りません。ですから、神の近くで生活し、いつも主のすべての戒めを厳密に守る必要が大いにあります。神と人に対して良心が責められることのないようにするためです。……

……わたしたちは神を信頼しています。そして日の栄えの冠を与えられて、神の子らに用意されている安息に入ることができるように、神の恵みによる助けを受けながら、最後まで大義を守り忠実であり続けることを決意しています。』¹⁴

その5日後、預言者はミズーリ州の教会指導者と聖徒たちに、こう書き送っている。「わたしたちが経験しているこの現状を感謝しましょう。わたしたちはまだ生きていて、神はこの時代に大いなる祝福を用意しておられ、わたしたちがなおもその御名をあがめられるようにしてくださいましょう。信仰を否定する人がもはやいないことに、感謝の気持ちを覚えます。皆さんが全員最後まで信仰を保ち続けることができるよう、イエスの名によって神に祈ります。』¹⁵

1836年1月1日付けの預言者の日記には、次のように書かれている。「新年の初めに当たり、わたしの心は神への感謝で満ちあふれています。また1年が過ぎ去りましたが、神がわたしの命と、家族の者たちの命を守ってくださったからです。わたしたちは人生に付き物のあらゆる苦難と誘惑と災いにさらされていますが、それでも邪悪でよこしまな時代の人々のただ中であって、力づけられ、支えられてきました。このことに対して、わたしは主の前に、いわばちりと灰の中でへりくだる思いです。』¹⁶

1837年6月に健康を回復したことについて、預言者は次のように述べている。「わたしはこれまでに、健康な状態から突然生死の境をさまよい、そして突然回復するという経験を幾度もしてきました。これもその一つであり、そのためにわたしの心は天の御父への感謝でいっぱいになり、自分自身と自分の力のすべてを神の務めにささげようと



「わたしたちは神を信頼しています。そして……神の恵みによる助けを受けながら、最後まで大義を守り忠実であり続けることを決意しています。」

改めて決意します。』¹⁷

神の力と知恵と愛に頼ることは、試練のときに落胆を避ける 助けとなる

「わたしたちの行く手に立ちはだかる可能性のある、また立ちはだかるであろう、すべての困難を乗り越えなければなりません。霊が試され、心が弱り、手が垂れるとしても、後戻りしてはなりません。決意を揺るがせてはなりません。」¹⁸

「聖徒たちは神の力と知恵と愛に頼ることによって、この上なく過酷な逆境の中をも前進する力を得てきました。そして幾度も、どう見ても死ぬほかはなく、滅亡が避けられない〔と思われた〕ときに、神の力が示され、神の栄光が現され、救い出されてきました。そして聖徒たちは、エジプトの地を出て紅海を渡ったイスラエルの子らのように、神の聖なる名をほめたたえる歌を高らかに歌い上げてきました。』¹⁹

「雲が消え去り、サタンの王国がそのあらゆる邪悪な企てとともに崩れ去ることをわたしは知っています。そして聖徒たちは、火の中で7度精錬された金のように、苦しみと誘惑を耐えて完全な者とされる

でしょう。また、天と地の祝福が彼らの頭上に増し加えられるでしょう。神がキリストのゆえにそのようにしてくださいますように。』²⁰

「神の聖徒である皆さん、引き続き忠実であって、いましばらくの間堪え忍んでください。そうすれば人生の嵐は過ぎ去り、皆さんは自分が仕える御方である神から報いを受けるでしょう。また、神はキリストと福音のために皆さんが受けた苦労と悲嘆をすべて正当に評価してくださるでしょう。皆さんの名前は、神の聖徒として子孫に語り継がれるでしょう。』²¹

ブリガム・ヤング大管長の顧問として働いたジョージ・A・スミスは、きわめて困難な状況にあったときに預言者ジョセフ・スミスから次のような勧告を受けている。「ジョセフはわたしに、どのような困難に取り囲まれようとも、決して落胆してはいけないと言いました。ノバスコシアの炭鉱の底に沈められ、ロッキー山脈全体が頭上にのしかかってきたとしても、落胆せずに踏ん張り、信仰を働かせ、勇気を持ち続けるならば、ついには山の頂に出ることができるのです。』²²

預言者が殉教するわずか数日前、ジョセフと聖徒たちはジョセフの命が危ういことを知っていた。ジョセフはエイブラハム・C・ホッジの手を取り、次のように言った。「さて、ホッジ兄弟、やって来るものには来させましょう。信仰を否定してはいけません。そうすればすべてが良い結果となるでしょう。』²³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 227-229ページの話を読んでください。預言者ジョセフ・スミスがそれらの試練を堪え忍ぶことができたのはなぜだと思いますか。ジョセフが「全身傷だらけのひどい有様」で会衆に教えている様子を想像するとき、どのような思いや気持ちを抱きますか。
- 230ページの第3段落を読んでください。苦しみはどのようにしてわたしたちを昇栄に備えてくれると思いますか（例として、230-331ページ参照）。あなたは自分が受けた試練からどのようなことを学んできましたか。
- ジョセフ・スミスは、わたしたちが「経験しなければならなかった

試練は、ともに働いて〔わたしたち〕の益とな〔る〕と、本章の中で3度断言しています（232ページ。231ページも参照）。この言葉が真実であることを、あなたはこれまでどのような形で目にしてきましたか。

- 231ページの第3、第4段落を読んでください。あなたは試練のときにどのように主から慰めを受けてきましたか。あなたにとって、「岩の上に立〔つ〕」とは、どのようなことでしょうか。
- ジョセフ・スミスは聖徒たちに、自分たちに対する神の計らいについてつぶやいたり不平を言ったりしないように勧告しています（232-233ページ）。つぶやきはわたしたちにどのような影響を及ぼすでしょうか。試練に対してどのような態度で立ち向かうべきでしょうか（例として、232-235ページ参照）。
- 困難に直面したときに「決意を揺るがせない」とは、どのような意味でしょうか（234ページ）。
- 預言者がジョージ・A・スミスに与えた勧告を読んでください（235ページ）。あなたが試練に直面したとき、この勧告はどのような助けとなるでしょうか。

関連聖句——詩篇55：22；ヨハネ16：33；アルマ36：3；ヒラマン5：12；教義と聖約58：2-4；90：24；122：5-9

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 261-264。原文（英語）においては、斜体は削除。“History of the Church”（原稿）, book A-1, 205-208から、教会記録保管課、末日聖徒イエス・キリスト教会、ユタ州ソルトレーク・シティ
2. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1881年10月18日付, 1。原文（英語）においては、句読点および大文字は現代の用法に修正
3. 1833年8月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスとほかの人々にあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第1巻, 449。1833年12月5日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとほかの人々にあてて書いた手紙から
5. *History of the Church*, 第5巻, 556。1843年8月27日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
6. *History of the Church*, 第3巻, 294。1839年3月20日, ミズーリ州リバティ、リバティの監獄で、ジョセフ・スミスとほかの人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から
7. *History of the Church*, 第3巻, 286。1839年3月15日, ミズーリ州リバティ、リバティの監獄で、ジョセフ・スミスがプレゼンディア・ハンティントン・ビューエルにあてて書いた手紙から。*History of the Church*ではビューエル姉妹の姓〔Buell〕が“Bull”と誤ってつぶられている
8. ジョン・テラー, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1883年8月21日付, 1
9. 1833年8月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスとほかの人々にあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection, 教

- 会記録保管課
10. 1832年7月31日, オハイオ州ハイラムでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
 11. *History of the Church*, 第2巻, 343。1835年12月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・スミスにあてて書いた手紙から
 12. *History of the Church*, 第3巻, 330-331。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。“Extract, from the Private Journal of Joseph Smith Jr.,” *Times and Seasons*, 1839年11月号, 8から
 13. 教義と聖約127:2。1842年9月1日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが聖徒にあてて書いた手紙
 14. *History of the Church*, 第1巻, 450。1833年12月5日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとほかの人々にあてて書いた手紙から
 15. *History of the Church*, 第1巻, 455。原文(英語)においては, 段落は変更。1833年12月10日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとほかの人々にあてて書いた手紙から
 16. *History of the Church*, 第2巻, 352。1836年1月1日, オハイオ州カートランドで書かれたジョセフ・スミスの日記から
 17. *History of the Church*, 第2巻, 493。“History of the Church”(原稿), book B-1, 762-763から, 教会記録保管課
 18. *History of the Church*, 第4巻, 570。1842年3月30日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 19. *History of the Church*, 第4巻, 185。1840年9月, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒にあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 178に掲載
 20. *History of the Church*, 第2巻, 353。1836年1月1日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
 21. *History of the Church*, 第4巻, 337。1841年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが行った報告から。*Times and Seasons*, 1841年4月15日付, 385に掲載
 22. ジョージ・A・スミス “History of George Albert Smith by Himself,” 49。George Albert Smith, Papers, 1834-75, 教会記録保管課
 23. *History of the Church*, 第6巻, 546。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。“History of the Church”(原稿), book F-1, 147から, 教会記録保管課



預言者は数多くの責任のために、また迫害のために、頻繁に家族と離れなければならなかった。預言者と兄ハイラムがリバティーの監獄に監禁されていたとき、預言者の妻エマと息子ジョセフが預言者と面会するために訪れた。



愛と信仰に満ちた心—— 預言者が家族にあてて書いた手紙

「わたしがとこしえにあなたと子供たちの真実の忠実な
友であることを覚えていてください。

わたしの心はとこしえにいつまでもあなたたちに結ばれています。
おお、神があなたたち全員を祝福してくださいますように。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスは預言者として、急速に広がっていく組織の必要を満たすために、広い範囲を旅する必要に迫られていた。1831年の夏にジョセフはミズーリ州インディペンデンスがシオンを築く場所であることを明らかにした。その後、教会は同地で急速に成長し、またオハイオ州カートランドにおいても成長を続けていた。1831年から1838年まで、教会員の人口はおもにミズーリ州と、預言者が住んでいたカートランドの2か所に集中していた。この期間に、預言者はミズーリ州における教会の発展を監督するために、同地までの900マイル〔約1,500キロ〕に及ぶ困難な旅を5度にわたって行った。

1833年と1837年には、ジョセフ・スミスは福音を教え支部を強めるために、アッパーカナダ〔訳注——現在のオンタリオ州南部〕を訪れた。また1834年と1835年には、教会員を訪ねるためにミシガン州まで旅をしている。数年にわたり、ジョセフはイリノイ州スプリングフィールド、マサチューセッツ州ボストンおよびセーレム、ニュージャージー州モンマウス郡、ニューヨーク州ニューヨーク市およびオールバニー、オハイオ州シンシナティー、ペンシルベニア州フィラデルフィア、ワシントンD.C.、およびそのほかの様々な場所を訪れて、福音を説き、教会の業務を行った。

預言者は旅のために、また繰り返す迫害のために、しばしば家を空け家族と離れなければならなかった。ジョセフは不当に逮捕、投獄され、何十件にも及ぶ根拠のない訴訟の犠牲となることが度々あった。例えば、1837年7月27日、預言者をはじめ数名の教会指導者は、カナダの聖徒た

ちを訪ねるためにカートランドを出発した。ところがオハイオ州ペンズビルに着くと、「悪意に基づく嫌がらせの訴訟によって終日勾留された。」カートランドからそれほど離れていなかったため、彼らはいったん休息を取って翌日また旅を始めようと、家に向かって出発した。預言者は次のように書いている。「日没近くになって、カートランドの家に戻すため自分の馬車に乗りました。するとそのとき、保安官が馬車に飛び込んで来て、手綱を奪い、別の令状を突きつけたのです。』¹

頻繁に家を留守にすることは、預言者にとっても家族にとってもつらい試練となっていた。ジョセフがエマに送った手紙には、ジョセフが味わった孤独感と、エマと子供たちに会いたいという切なる思いが表れている。預言者は家族に対する大きな愛と、神を信じる信仰について書き続けた。また、家族が数々の逆境に直面していたにもかかわらず、将来に対する楽観的な考えを述べて、家族を励ました。

1832年4月1日、預言者はミズーリ州に向かって2度目の旅に出発した。暴徒にタールを塗られ羽根を付けられてからわずか1週間後、また養子の息子を亡くしてからわずか2日後のことだった。ジョセフは悲しみに暮れ、妻のエマと生存している唯一の子供ジュリアを心配する思いで沈んでいたに違いない。翌月、家族との再会を心待ちにしながら帰途に就いたジョセフは、インディアナ州グリーンビルで数週間待たされることになった。ともに旅をしていた同僚の一人ニューエル・K・ホイットニービショップが、駆馬車の事故で足に大けがをして、旅ができるようになるまで回復を待たなければならなかった。この間、預言者は何らかの方法で毒を盛られ、あまりに激しい嘔吐のために、あごを脱臼してしまった。ジョセフはホイットニービショップのところに行き、依然寝たきりであったビショップから神権の祝福を受けた。すると預言者はすぐに癒された。

このことがあって間もなく、預言者は妻に次のように書いている。「マーティン〔ハリス〕兄弟がこちらに到着しました。出発したときわたしたちの家族は元気だったとのうれしい知らせに、わたしたちは大いに喜び、活力を取り戻しました。わたしたちとあなたたち全員に対する天の御父の慈しみに感謝します。……わたしは非常に不愉快な状況にありますが、主の助けを受けながら甘んじようと努めるつもりです。……幼いジュリアに会い、もう一度あの子をひざに乗せて、あなたと話したい。……わたしは夫として、あなたに忠誠を誓います。主があなたを祝福してくださり、平安があなたにあるように。それでは、わたしが戻るまで、さようなら。』²

ジョセフ・スミスの教え

家族は互いのために祈り、慰め^{なぐさ}合い、強め合う

1832年10月13日に、ニューヨーク州ニューヨーク市で、エマ・スミスあてに書いた手紙。「今日、ニューヨークで最も華やかな地区を歩いてきました。建物は実に大きくてすばらしく、見る者すべてを驚かせます。……見たいと思うものをすべて見た後、自分の部屋に戻って、思いにふけり、心を静めました。すると、家のこと、エマとジュリアのことが洪水のように心に押し寄せてきます。少しの間、家族とともにいられたらと願います。親として夫としての情と優しさが胸に込み上げてきます。あなたとともにいられたら、たくさんのお話を話すが……。……」

特別な試練と現在の苦難の中にあるあなたを慰めるために、幾らか言葉を書きたいと思います〔当時エマは妊娠していた〕。あなたが気を落とさないよう、神が力を授けてくださいますように。神が周りにいる人たちの心を和らげてくださり、彼らがあなたに親切で、できるかぎりあなたの肩から重荷を取り除いて、あなたを苦しめることがないように祈ります。わたしはあなたに同情しています。あなたの状態が分かっており、ほかの人がそれに気づいていないということを知っているからです。それでも神があなたの天の友であられて、また地上に一人、まことの生ける友、すなわちあなたの夫がいることをはっきりと知って、慰め^{なぐさ}を得てください。』³

1838年11月12日、ミズーリ州リッチモンドで囚われの身となっていたときに、エマ・スミスあてに書いた手紙。「あなたからの手紙が届きました。何度も読み返しました。わたしにとって貴い宝物となりました。おお、神よ、自由を得て、人々と交わる生活の中で、もう一度いとしい家族と会う特権をわたしにお与えください。彼らを胸に強く抱き寄せ、そのいとしい頬^{ほお}に口づけするなら、わたしの心は言い尽くせない感謝に満たされることでしょう。子供たちに、わたしが生きていて、必ず近いうちに戻って、会えると伝えてください。できるかぎり彼らの心を慰め、あなた自身もできるかぎり慰めを得るように努めてください。……」

追伸。できるだけ頻繁に手紙を書いてください。できれば会いに来て、またできれば子供たちを連れて来てください。自分の気持ちと最良の判断に従って行動し、できれば慰めを得るよう努めてください。そうすればすべてが最善の結果となると確信しています。』⁴

1839年4月4日に、ミズーリ州リバティーの監獄で、エマ・スミスあてに書いた手紙。「愛するエマ、わたしはいつもあなたと子供たちのこと

を考えています。……幼いフレデリック、ジョセフ、ジュリア、アレクサンダー、ジョアンナ〔スミス家族とともに住んでいた孤児〕、またメジャー〔飼い犬〕に会いたいです。そしてあなたに関しては、もしわたしがどれほど会いたいと思っているかを知りたければ、あなたがどれほどわたしに会いたいと思っているか、あなたの気持ちを吟味して、自分で判断してください。あなたに会うためなら、ここからあなたのところまで、靴も帽子も満足な衣服もなしで喜んで歩いて行きます。それを大きな喜びと思い、決してつらいとは思わないでしょう。……わたしはあらゆる虐げを毅然として耐えており、ここにいるほかの人たちも同じです。ひるんでいる人はまだだれもいません。』⁵

1840年1月20日に、ペンシルベニア州チェスター郡で、エマ・スミスあてに書いた手紙。「この世でもう一度あなたに会いたいと切に願っています。もう長い間あなたから引き離されているように感じます。それでも主の助けによって、別離は長くは続かないでしょう。……わたしは心配でたまりません。それは帰宅するまで続くでしょう。家に戻るまで、神があなたたち全員の命を助けてくださるよう祈ります。愛するエマ、わたしの心はあなたと幼い子供たちにしっかりと結ばれています。わたしのことを覚えていてください。子供たち全員に、わたしが彼らを愛していて、できるかぎり早く帰るつもりだと伝えてください。愛のきずなのうちに、あなたの夫より。』⁶

わたしたちには常に子供を教える責任がある

1838年11月12日に、ミズーリ州リッチモンドで囚われの身となっていたときに、エマ・スミスあてに書いた手紙。「幼いジョセフに、良い子でいるように告げ、お父さんが完全な愛をもって愛していることを伝えてください。あの子は最年長ですから、弟や妹を傷つけるのではなく、励まさなければなりません。幼いフレデリックに、心から愛していると伝えてください。あの子はいとしい少年です。ジュリアはかわいらしい少女です。あの子も愛しています。ジュリアは有望な子です。お父さんを覚えているように、また良い子でいるように伝えてください。ほかの子たちに、わたしが彼らのことを思い、皆のために祈っていることを伝えてください。……幼いアレクサンダーのことをいつも考えています。おお、親愛なるエマ、わたしがとこしえにあなたと子供たちの真実の忠実な友であることを覚えていてください。わたしの心はとこしえにいつまでもあなたたちに結ばれています。おお、神があなたたち全員を祝福してくださいますように、アーメン。わたしはあなたの夫であり、今は束縛と艱難を受けています。』⁷

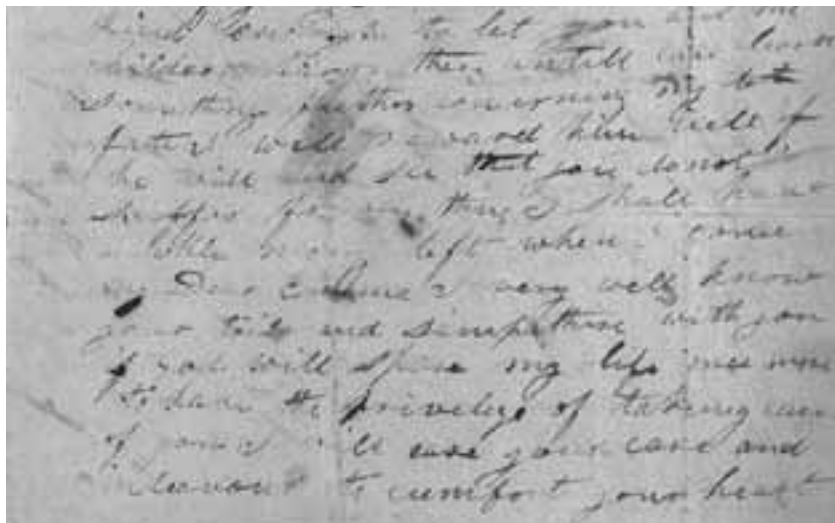
1839年4月4日に、ミズーリ州リパティーの監獄で、エマ・スミスあてに書いた手紙。「幼い子供たちがわたしのことを忘れないようにしてください。お父さんが完全な愛をもって愛していること、暴徒から逃れて子供たちのもとに帰るために最善を尽くしていることを伝えてください。善良な心を持てるように、〔子供たちに〕できる限りのことを教えてください。優しく親切にし、容易に怒らず、子供たちの求めていることに耳を傾けてください。良い子であって、お母さんに従うようにお父さんが言っていると子供たちに伝えてください。愛するエマ、あなたは子供たちから信望を得、節度を守り、正しいことを教える大きな責任を受けています。幼く感じやすい心を養い育て、子供たちが正しい道を歩み始めて、幼いうちから不敬な手本を見て悪い影響を受けることのないようにしてください。』⁸

1839年11月9日に、イリノイ州スプリングフィールドで、エマ・スミスあてに書いた手紙。「あなたから便りが届くまで、あなたと子供たち、特に幼いフレデリックへの心配が片時も離れません。病気のフレデリックを残して行くのはとてもつらいことでした。感じやすい子供たちを、母親として、また聖徒としてふさわしい方法で見守ってください。彼らの心を養い、読書を教え、心穏やかであるように教えるよう努めてください。彼らが風雨にさらされて風邪を引くことのないようにし、あなたもできるかぎり休息を取るよう努めてください。わたしがあなたから離れている時間は、長く孤独なものとなるでしょう。……わたしが戻るまで忍耐強くあって、最善を尽くしてください。書きたいことを書くことができませんが、わたしが皆に対してこの上ない思いを抱いていることを信じてください。』⁹

神はわたしたちの友であられ、わたしたちは逆境にあるとき神に頼ることができる

1832年6月6日に、インディアナ州グリーンビルで、エマ・スミスあてに書いた手紙。「ほとんど毎日、町のすぐ裏にある森を訪れています。そこでは人目を避けて、思いにふけり、祈り、心に感じるすべてを吐露することができます。わたしは人生における過去のあらゆる瞬間を思い浮かべ、心の敵が自分を支配する大きな力を持つのをこれまで許してきた自分の愚かさを嘆き、悲しみの涙を流すのです。しかし神は憐れみ深く、わたしの罪を赦して下さっており、神が御自分を信じ御前にへりくだるすべての人に慰め主を送ってくださることにわたしは喜びを感じます。……

わたしは神がわたしの友であられることを知っているのです、自分の置かれる境遇を甘んじて受けるようにするつもりです。そして神の内に慰め



1839年3月21日に、リバティーの監獄で、預言者ジョセフ・スミスがエマ・スミスに書いた手紙の一部。

を見いだすでしょう。わたしは自分の命を神の手に託しています。神の召しに従って進む用意ができています。キリストとともにいることがわたしの望みです。神の御心みこころを行うこと〔以上に〕自分の命が大事だとは思いません。]¹⁰

1834年6月4日に、イリノイ州西部のミシシッピ川の岸辺で、エマ・スミスあてに書いた手紙。預言者ジョセフはシオンの陣営とともに旅をしていた。「時々、わたしたちが後に残してきた妻や子供たち、わたしたちの心に結ばれている親族たち、また兄弟や友人たちについて、言いようのない心配がいつまでも消えないことがあります。……父スミスと家族の皆とオリバー〔カウドリ〕兄弟に、心穏やかにして、この世の試練と艱難かんなんが終わる日を待ち望むように伝えてください。もし最後まで忠実であり続けるなら、わたしたちは皆自分たちの労苦の結ぶ実を受ける〔でしょう〕。それがわたしたち全員の幸福な行く末となるように祈ります。』¹¹

1838年11月4日に、ミズーリ州インディペンデンスで囚われの身となっていたときに、エマ・スミスあてに書いた手紙。「艱難と苦難とらの中にあつて、わたしの親愛なる伴侶はんりよであり、愛するあなたに、わたしが元気であり、皆自分の境遇に関して晴れやかな気分であることを伝えたいと思います。……わたしはあなたといとしい子供たちのことをとても心配しています。兄弟姉妹たちと、神の民の中で殺された人たちのために、心が悲しみ、痛みます。……神がわたしたちのためにどんなことをしてくださるかは分か

りませんが、どのような状況にあっても常に最善の結果となることを望んでいます。わたしは死に向かって行きますが、神を信頼します。暴徒がどんな残忍な行為をするかは分かりませんが、妨げとなることはほとんど、あるいはまったくないでしょう。おお、神がわたしたちを憐れんでくださいますように。……神はこれまでわたしたちの命を助けてくださっており、この後も恐らくわたしたちに幾らかの憐れみをかけてくださるでしょう。……

わたしが置かれている現在の状況についてはあまり確かなことが分からず、ただ救い出されるまで祈り、忍耐強く、毅然^{きぜん}として、すべてをあるがままに受け入れるだけです。すべての信任に対して忠実かつ誠実であってください。この状態では、多くを書くことができません。すべての事柄をあなたの状況と必要に応じて行ってください。神があなたに知恵と思慮と節度を授けてくださいますように。あなたは必ずそれらを得るに違いありません。

絶えず幼い子供たちに思いをはせています。お父さんがまだ生きていることを伝えてください。再び彼らに会うのを神が許してくださいますように。おお、エマ、……わたしも真理も捨てることなく、わたしを覚えていてください。もしこの世であなたに再会することがなければ、天で会うことを神が許してくださいますように。自分の気持ちを言い表すことができません。胸がいっぱいです。さようなら、おお、わたしの優しい親愛なるエマ。わたしはとこしえにあなたのものであり、あなたの夫であり真の友です。』¹²

1839年3月21日に、ミズーリ州リバティーの監獄で、エマ・スミスあてに書いた手紙。「親愛なるエマ、わたしはあなたの苦労を十分承知しており、同情しています。もし神がもう一度わたしの命を助けてくださって、あなたをいたわる特権を得るならば、あなたの苦労を軽くし、あなたの心を慰めようとするでしょう。最善を尽くして家族を世話してください。あなたができる限りのことを行ってくれると信じています。フレデリックが病気だったと知り心配していましたが、もう回復していて、また皆が元気であると確信しています。時間を作って長い手紙を書き、老犬メジャーがまだ生きているか、あなたの首にしがみついた幼い子供たちが何を言っているか、何でも教えてください。……子供たちに、わたしが監獄にいるのは彼らの命が救われるようにするためであることを伝えてください。……

神は御自分の思いのままにすべてのものを治められます。わたしは神を信頼しています。わたしにとって最も大切なのは、わたしの霊の救いです。永遠の事柄を確かに知っているからです。もし天がわたしをここにとどめるとしても、問題ではありません。わたしは自分の〔船〕を安全に進めなければならず、そのようにするつもりです。あなたも同様に行ってください。永遠の友より。』¹³

1842年8月16日に、イリノイ州ノーブーの近くで、エマ・スミスあてに書いた手紙。預言者ジョセフは敵から身を隠していた。「亡命中のような状況のわたしを2度にわたって訪れてくれたことに、心からの感謝を述べさせてもらいます。楽しくも慰めとなる訪問でした。その中であなたが示してくれた温かい誠実な友情に対して、感謝の思いを言葉に言い表すことができません。あなたが去ってから、これまで大変心地よく時が過ぎています。わたしの思いは自分の境遇と完全に一致しており、何が来ようとするがままに任せましょう。……

子供たちに、お父さんは元気であること、自分自身とあなたと子供たちの安全を全能の神に熱烈に祈り続けていると伝えてください。母スミスに、息子は生きるも死ぬも幸いを得るだろうと伝えてください。主なる神がそのように言われるからです。母に、わたしがいつも母やルーシー〔ジョセフの妹〕や残りのすべての人のことを心に思い浮かべていると伝えてください。彼らは皆、元気を出さなければいけません。……死に至るまで、また永遠にわたって、とこしえにあなたの親愛なる夫より、心を込めて。』¹⁴

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- エマと子供たちに対するジョセフ・スミスの気持ちに注目しながら、本章に目を通してください。ジョセフの模範は、家族の中で語り、振る舞うべき方法について、どのようなことを教えているのでしょうか。互いに手紙をやり取りし、会おうと努力するジョセフとエマから、どのようなことが学べるのでしょうか。あなたは家族に愛を伝えるために、どのようなことを行ってきましたか。
- 預言者ジョセフはエマに、自分は「とこしえに〔エマ〕と子供たちの真実の忠実な友」であることを伝え、またエマの「温かい誠実な友情」に感謝を述べています（242, 246ページ）。夫婦は友情をはぐくむためにどのようなことができるのでしょうか。
- 手紙の中で、ジョセフ・スミスはエマが適切な判断を下し、最善を尽くして家族を世話しているものと確信していると述べ、エマへの信頼を示しています（245ページ）。このように信頼を表現することは、夫婦関係にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

- 246ページの第2段落にある、子供たちに向けた預言者ジョセフのメッセージを読んでください。ジョセフの子供たちにとって、この手紙を受けることはどのような助けとなったのでしょうか。試練のときに、両親は自分たちが神を信じる信仰を持っていることを子供に示すために、どのようなことができるのでしょうか。
- 243-246ページにある、神への信頼について述べているジョセフ・スミスの言葉を読んでください。特に心を動かされる言葉をいくつか選んでください。これらの真理をあなたの生活の中でどのように応用することができるのでしょうか。

関連聖句——創世2：24；1コリント11：11；エペソ5：25；モーサヤ4：14-15；教義と聖約25：5，9，14；68：25-28

注

1. *History of the Church*, 第2巻, 502. 原文(英語)においては、つづりは現代の用法に修正。“History of the Church”(原稿), book B-1, 767, および補遺, 6から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. 1832年6月6日, インディアナ州グリーンビルで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Chicago Historical Society, イリノイ州シカゴ
3. 1832年10月13日, ニューヨーク州ニューヨーク市で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス
4. 1838年11月12日, ミズーリ州リッチモンドで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス
5. 1839年4月4日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。エール大学ベインニッケ図書館, コネチカット州ニューヘーブ。複写所有, 教会記録保管課。ジョアンナの姓名はジョアンナ・カーターであり, ジョン・S・カーターとエリザベス・ケニオン・カーターの遺児であった
6. 1840年1月20日, ペンシルベニア州チェスター郡で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Chicago Historical Society, イリノイ州シカゴ
7. 1838年11月12日, ミズーリ州リッチモンドで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス
8. 1839年4月4日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。エール大学ベインニッケ図書館, コネチカット州ニューヘーブ。複写所有, 教会記録保管課
9. 1839年11月9日, イリノイ州スプリングフィールドで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。複写所有, 教会記録保管課
10. 1832年6月6日, インディアナ州グリーンビルで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Chicago Historical Society, イリノイ州シカゴ
11. 1834年6月4日, イリノイ州西部のミシシッピ川の岸辺で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Letter Book 2, 1837-1843年, p. 58, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
12. 1838年11月4日, ミズーリ州インディペンデンスで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。複写所有, 教会記録保管課
13. 1839年3月21日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection。教会記録保管課
14. *History of the Church*, 第5巻, 103, 105. 原文(英語)においては、段落は変更。1842年8月16日, イリノイ州ノーブーの近くで, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙から



復元されたニューエル・K・ホイットニーの店の2階の部屋。ジョセフとエマ・スミスは1年以上にわたってこの店に住み、預言者はここで主の来臨についての啓示を含む多くの啓示を受けた。



再臨と福千年

「主の日は『夜の盗人ぬすびとのように不意にわたしたちを襲う』
ことのないように、生活の中で時のしるしを
賢く見分けなければなりません。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1832年9月、ジョセフ・スミスと妻のエマ、そして1歳半になる娘のジュリアは、オハイオ州ハイラムのジョンソン家の農場を離れ、カートランドに戻った。彼らは同地でニューエル・K・ホイットニーが所有する雑貨店に住み、そこで1年以上を過ごした。スミス家族は店の2階と、1階の商売で使用されていない部分に住んだ。ジョセフとエマの息子ジョセフ・スミス3世は、一家がこの店に住んでいた間に誕生している。また、預言者はこの場所で多くの啓示を受けた。

1832年のクリスマスの日に与えられた啓示がその一つである。預言者はこの日数時間を家で過ごし、当時世界の国々が直面していた数々の深刻な問題について深く考えていた。「この時期、教会が荒れ野への旅を始めて以来、かつてなかったほど多くの問題が諸国の間に表れてきました」と、預言者は述べている。¹ 合衆国における様々な出来事は内戦に発展しようとしており、また世界各地で命にかかわる病が流行していた。「この件について熱心に祈っていた」² とき、預言者は現在教義と聖約の第87章となっている啓示を受けた。主はジョセフに、再臨の前に戦争がすべての国に押し寄せ、自然災害によって民が懲らしめられることを明らかにされた。

「剣と流血により、地に住む者は嘆き悲しむであろう。また、地に住む者は、飢饉ききんと、悪疫と、地震と、天の雷と、猛烈なまぶしい稲妻によっても、全能の神の激しい怒りと憤りと懲らしめの手を感じるであろう。そしてついに、定められた滅びが、すべての国をことごとく終わらせるであろう。……それゆえ、主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。見よ、その日は

すぐに来る、と主は言う。」(教義と聖約87：6，8)

その2日後の12月27日、預言者は再臨に関して多くの内容を含んだもう一つの啓示を受けた。その日は、預言者の「翻訳部屋」で、大祭司の集会が開かれていた。聖書のジョセフ・スミス訳の作業の多くを行っていたその部屋はホイットニーの店にあった。集会の議事録には次のように記録されている。「ジョセフ兄弟が立ち上がり、啓示と天の祝福を受けるためには、わたしたちの思いを神に向け、信仰を働かせ、心をついにし、思いをついにすることが必要であると述べました。そこでジョセフは出席していたすべての人に、〔主〕がシオンの建設に関して御心みこころをわたしたちに示してくださるように、また聖徒たちへの祝福を求めて、それぞれ声に出して主に祈るよう勧めました。」

大祭司は個々に「主の前にひれ伏し」て、自分の気持ちと、神の戒めを守る決意について語りかけた。³ その後間もなく、預言者は後に教義と聖約の第88章となる啓示を受け始めた。この啓示には、主の来臨と1,000年にわたる平和な期間の確立について、聖文の中で最も詳しく述べられた預言の幾つかが含まれている(教義と聖約88：86-116参照)。

主は預言者ジョセフ・スミスを通じて、再臨と福千年、およびこれらの出来事に先立つ騒然とした時代に関して、数多くの預言をお与えになった。このように啓示があふれるばかりに注がれたことは、ジョセフ・スミスがまことに神によって立てられた聖見者であったことの証あかしである。モルモン書は次のように証している。「聖見者は過去のことも将来のことも知ることができます。〔彼〕によってすべてのことが示されるのです。というよりむしろ、秘密のことが明らかにされ、隠れたことが明るみに出るのである。知られていないことが……知られるようになります。」(モーサヤ8：17)

ジョセフ・スミスの教え

救い主の来臨のしるしは成就しつつある。忠実な人々はこれらのしるしを認め、苦難の時代にあって平安を得るであろう

「主の日は『夜の盗人ぬすびとのように不意にわたしたちを襲う』ことのないように、生活の中で時のしるしを賢く見分けなければなりません〔教義と聖約106：4-5参照〕。』⁴

「わたしは預言します。人の子の来臨のしるしはすでに始まっています。疫病が次々に荒廃をもたらすでしょう。もうすぐ戦争と流血が

あるでしょう。月は血に変わるでしょう。わたしはこれらのことと、人の子の来臨が近く、まさに皆さんの戸口まで近づいていることを証^{あかし}します。もしわたしたちの霊と肉体が今人の子の来臨を待ち望んでいないなら、また死んだ後に、もしわたしたちが待ち望んでいないなら、わたしたちは岩に向かって自分の上に落ちて来るように叫ぶ人々の中にいることになるでしょう〔黙示6：15-17参照〕。〕⁵

「心から愛する兄弟の皆さん、証されていたように苦難の時代が来ていることをわたしたちは知っています〔2テモテ3：1参照〕。ですから、わたしたちはこの上なく揺るぎない確信をもって、書き記されてきたすべてのことが成就するのを待ち望むことができ、かつてないほどの自信をもって、輝く太陽に向かって目を上げ、心の中で次のように言うことができます。『もうすぐあなたはその赤い顔を覆い隠すでしょう。「光あれ」と言って光があるようにされた御方がそう言われたからです〔創世1：3参照〕。そしてまた、月よ、暗い光よ、夜の輝きよ、あなたは血に変わるでしょう。』

わたしたちはすべてのことが成就しつつあり、人の子が天の雲の中を降^{くだ}って来られる時がもうすぐやって来ることを知っています。〕⁶

「地は間もなく刈り入れの時を迎えるでしょう。すなわち、悪人は間もなく地の面から滅ぼし去られるに違いありません。主がそう言っておられるからです。だれに主の手を止めることができるでしょうか。また、だれに全能者と争うことができるでしょうか。主が命じられれば天地は過ぎ去らなければならないのです。すべての聖なる預言者によって預言されてきた、イスラエルの家の集合を含むすべてのことが回復される日が速やかに近づいています。そして、ライオンは子羊とともに伏すでしょう。

しかし兄弟の皆さん、わたしたちが苦難の時代について語っても失望しないでください。それは間もなくやって来るに違いなく、剣^きと飢饉^{きん}と疫病は近づいています。この地の面に大きな滅亡があるでしょう。すべての聖なる預言者たちの預言がことごとく成就することはないなどと考えるはなりません。それにまだ成就していない預言がたくさんあるのです。主は速やかに業を行うと言っておられ、また、たとえ火の中でも、義人は救われると言っておられます〔ローマ9：28；1ニーファイ22：17参照〕。〕⁷

「大きな戦争、飢饉、疫病、大きな苦悩、裁きなどが地に住む人々のうえに注がれる用意が整うとき、聖文はすぐにも成就します。〕⁸

「わたしたちは、苦難の時代が確かにやって来ており、ずっと待ち望んできた事柄がついに訪れ始めていることを知っています。しかしいちじくの木が葉を出し始めるのを見るとき、皆さんには夏の近いことが分かるでしょう〔マタイ24：32-33参照〕。地上で一つの業が速やかに行われることでしょう。今、その業が始まっています。もうすぐ地の至る所で混乱が起きるでしょう。これらのことが自分たちにやって来たとき、おじけづいてはなりません。それらはやって来なければならず、そうでなければ御言葉が成就しないからです。』⁹

「わたしは主の来臨に関して主にお尋ねしたことがあります。そして伺っていたとき、主は一つのしるしを与えて、次のように言われました。『ノアの時代に、わたしは天に虹を置いてしるしとした。すなわち、虹が見られる年には主が来ることはなく、その年には種をまく時期と刈り入れがあるであろう。しかし虹が取り去られるのを見るなら、それはもろもろの国民の中に飢饉と疫病と大きな苦悩が生じること、そしてメシヤの来臨が遠くないことを示すしるしとなるであろう。』¹⁰

「ユダは戻り、エルサレムは再建されなければなりません。また神殿も再建され、神殿の下から水が出て来て、死海の水が癒されます〔エゼキエル47：1-9参照〕。町の城壁や神殿の再建などを行うために、幾らかの時間を要するでしょう。これらのすべては、人の子がその御姿を現される前に行われなければなりません。戦争と戦争のうわさがあり、上は天に、下は地にしるしが現れ、太陽は暗闇に、月は血に変わり、方々に地震があり、海はその境を越えて打ち上げるでしょう。それから天に人の子についての一つの大きいしるしが現れます。しかし世の人々はどうするのでしょうか。あれは惑星だ、彗星だ、などと言うでしょう。しかし、人の子の来臨のしるしとして示されたように、人の子は来られるでしょう。それはちょうど東から出て来る朝の光にたとえられるでしょう〔ジョセフ・スミス—マタイ1：26参照〕。』¹¹

「〔わたしは〕人の子の来臨に関して説明しました。また、悪人は苦しみ、聖徒はすべての裁きを免れる、という考えが誤りであることも説明しました。すべての肉なるものは苦しみを受けるのであり、『義人もほとんど逃れられない』からです〔教義と聖約63：34参照〕。それでも聖徒たちの多くは逃れるでしょう。正しい者は信仰によって生きるからです〔ハバクク2：4参照〕。義人の多くは、肉の弱さのゆえに病気や疫病などの犠牲となりますが、それでも神の王国に救われるでしょう。ですから、あの人たちは病気や死の犠牲となったのだから

背いていたのだ、と言うのは、不信心なことです。すべての肉なるものは死を受けるのであり、救い主は『裁いてはならない。自分が裁かれないためである』と言っておられるからです〔マタイ7：1参照〕。]¹²

主の来臨の備えとなるすべてのことが成就するまで、 主が来られることはない

「この時代について語られてきた裁きがすでに始まっていますが、すべての裁きが下されるまで、人の子の来臨は決してないでしょう。そのようなことはあり得ません。パウロはこう語っています。『あなたがたは光の子であり、暗闇の子ではないのだから、その日が夜の盗び人のように不意にあなたがたを襲うことはないであろう。』〔1テサロニケ5：4-5参照〕全能者は、地上にやって来て、地を粉々に砕いてしまうようなことを計画しておられません。来臨については、御自分の僕である預言者に示されるでしょう〔アモス3：7参照〕。]¹³

「イエス・キリストは、御自身がおいでになる正確な時を決してだれにも示されませんでした〔マタイ24：36；教義と聖約49：7参照〕。聖文を読んでください。主が来られる正確な時をはっきりと述べた箇所を見つけることはできないでしょう。それを告げる者は皆、偽りの教師です。]¹⁴

人の子のしるしを見たとき主張するある人物に関して、預言者ジョセフ・スミスは次のように述べている。「その人はイエスによって予告された人の子のしるしを見てはいません。まだだれも見えておらず、太陽が暗くなり、月が血まみれになるまで、だれも見ることはいけません。主はわたしにそのようなしるしを何も示しておられないからです。預言者は次のように語っており、その言葉のようになるはずです。『まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ。』（アモス3：7参照）ですから、おお、地よ、このことを聞いてください。主が1843年に、義人を統治するためにこの世に来られることはなく、また花婿のためにすべての用意が整うまで、来られることはないでしょう。]¹⁵

賢く忠実な人々は、主が再び来られるときに 用意ができているであろう

「わたしは人の子がおいでになる大いなる栄えある日がどれだけ速やかに来るかについて熟考します。主が御自分の聖徒たちを御自分の

もとに受け入れるために来られ、聖徒たちが主の前に住み、栄光と不死不滅を冠として与えられる時のことです。わたしはまた、もうすぐ天が震え、地が揺れ動いてあちらこちらとよろめき、巻き物が巻かれるように天が開かれ、すべての山と島が逃げ去ることを深く考えます。そしてそれらについて考えるとき、わたしは心の中でこう叫ぶのです。すべての聖なる交わりと信心において、わたしたちはどのような人物であるべきでしょうか、と〔欽定訳2ペテロ3：11参照〕。]¹⁶

「地は腐敗と^{しいた}虐げと圧制と流血の下でうめいています。そして神は御自分で言われたとおり、その隠れ場から出て来て、地のもろもろの国民を悩まそうとしておられます。ダニエルは示現の中で、動乱に動乱が続くのを見ました。『もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座して』いるのを見ました。そして人の子のような御方がその前に導かれ、すべての国民、部族、国語の民、民族がその御方に仕え、従いました〔ダニエル7：9-14参照〕。賢くあって理解することができるよう、わたしたちは義にかなっていなければなりません。悪人はだれも理解することがないからです。しかし賢い人々は理解し、多くの人を義に立ち返らせる人々は、星のようにいつまでもとこしえに輝くでしょう〔ダニエル12：3参照〕。]¹⁷

「富者も学者も、知者も貴人も、貧しい者も乏しい者も、束縛された者も自由な者も、黒人も白人も、自分の歩む道に注意し、神の知識を固く守り、地上において義のうちに公平と裁きを行い、生者と死者の裁き主にお会いする用意をしてください。主の来臨の時は近いからです。]¹⁸

「わたしたちの救いが確かなものとなるように、すべてのことにおいて賢くあり、神のすべての戒めを守りましょう。定められた時のために武具を用意しておき、そして義の武具を身に着けるならば、あの試しの日に耐えることができるでしょう〔エペソ6：13参照〕。]¹⁹

1830年12月に、預言者ジョセフ・スミスはニューヨーク州コールズビルの教会員にあてた手紙の中で次のように述べている。「皆さんが皆忠実であって、わたしたちの主の時を待ち望むことができますように。主が御^{みすがた}姿を現される時は近づいているからです。

『兄弟たちよ。その時期と場合とについては、書きおくる必要はない。あなたが自身がよく知っているとおおり、主の日は盗人^{ぬすびと}が夜くるように来る。人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって

来る。そして、それからのがれることは決してできない。

しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にい〔るのではない〕。……だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのである。

しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救^{すくい}の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。』〔1テサロニケ5：1-4, 6-9〕

ですから、今行っているように、互いに慰^{なぐさ}め合ってください。苦難の時代が近づいているからです。……平和が部分的に地から取り去られており、やがて完全に取り去られるでしょう。まことに、滅亡はわたしたちの戸口にあり、すぐにも悪人たちと神を知らない者たちの家に入り込むでしょう。

まことに、頭を上げて喜んでください。皆さんの贖^{あがな}いが近づいているからです。もし神の戒めを忠実に守り続けるならば、わたしたちは世の初めからこれまでで最も恵みを受けている民でいられるのです。まことに、アダムから7代目に当たるエノクもわたしたちの時代を見て喜び〔モーセ7：65-67参照〕、それ以降の預言者たちも、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの再臨について預言し、聖徒たちの安息の日を喜びました。まことに、救い主の使徒もまた、主が1,000年間地上の人とともに住むために、天の衆群とともに雲の中で御姿^{みすがた}を現されることを喜びました〔黙示1：7参照〕。このように、わたしたちには喜んでよい理由があるのです。

見よ、モルモン書の預言は、短い期間で成就しつつあります。生ける神の御霊^{みたま}がわたしのうえにあります。ですから、わたしには預言することはできないと、だれが言えるでしょうか。安全のために、どこであろうと主の望まれる場所に逃げなければならなくなる時がすでに近づいています。皆さんの言葉によって皆さんを罪に定める者たちを恐れることなく〔イザヤ29：20-21参照〕、曲がったよこしまな時代の人々に対して、わたしたちの主である救い主の来臨^{あかし}の日が近いことを忠実に証してください。まことに、主の道を備え、その道筋をまっすぐにしてください〔マタイ3：3参照〕。

妨害を受けたためにしりごみする者はだれでしょうか。妨害は必ず加えられます。しかし妨害を仕掛ける人は災いです。必ず岩がその人

に落ちて来て、その人を粉みじんにするからです〔マタイ18：7；21：43-44参照〕。異邦人が満ちみちる恵みにあずかる時代が来るからであり、もし人々が悔い改めることもせず、自分たちの罪の赦しのために、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの名によってバプテスマを受けることもせず、狭い門から入ることなく、イスラエルの家に数えられないなら、彼らは災いです。神がいつまでも侮られることはなく、その聖なる御名を汚す者のうえに怒りを注がずにおかれることはないからです。剣と飢饉と滅亡が、罪深い生活を送る彼らを不意に襲うでしょう。神は報復し、その激しい怒りを注ぎ、御自分の選民を救われるでしょう〔黙示16：1参照〕。

そして神の戒めに従う人は皆神の選民であり、神はもうすぐ彼らを、天の果てから果てまで、地の四方から〔マタイ24：31参照〕、御自分の望む場所に集められるでしょう。このように、皆さんは堪え忍ぶことによって自分の霊を勝ち取るでしょう〔ルカ21：19参照〕。²⁰

福千年は、救い主が地上を統治される平和な時となるであろう

信仰箇条1：10「わたしたちは、……キリストが自ら地上を統治されること、そして地球は更新されて楽園の栄光を受けることを信じる。」²¹

「神が計画してこられたのは、……人々の間に平和と善意を確立すること、永遠の真理の原則を推し進めること、人がその同胞と一つとなる状態を実現し、世界が『そのつぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまと』し〔イザヤ2：4〕、地のもろもろの国民が平和に暮らすようにすること、そして福千年の栄光をもたらすことです。そのときには、『地は産物を出し、その〔楽園の〕栄光を取り戻し、主の園となる』でしょう。……

世の初めからエホバが計画してこられ、そして今目的としておられるのは、主御自身の時にこの世の諸事を統治すること、宇宙の長として立ち、統治権を御自身の手の中に収めることです。それが果たされるとき、義のうちに裁きが下され、秩序のない有様と混乱は消え去り、『国民はもはや戦いのことを学ばない』でしょう〔イザヤ2：4参照〕。……

……モーセは神御自身から主の言葉を授かりました。モーセは神の口となってアロンに語り、アロンは民に、民事と宗務両面について様々なことを教えました。両者は一つであり、違いはありませんでした。神の目的が成し遂げられるときも同じです。すなわち『主が全地



「すべてのことが回復される日が速やかに近づいています。
そして、ライオンは子羊とともに伏すでしょう。」

の王となられ』、『エルサレムが主の御座』となる時も同様に、『律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出る』でしょう〔ゼカリヤ14：9；エレミヤ3：17；ミカ4：2参照〕。

……『権利を持つ御方が王国を所有し、万物を御自分の足の下に置くまで統治される』でしょう〔エゼキエル21：27；1コリント15：27参照〕。罪悪はその白髪のを隠し、サタンは縛られ、闇の業は滅ぼされるでしょう。義が測り縄となり、裁きが下げ振りとなり、『その日には、主を畏れる者だけが高く上げられる』でしょう〔イザヤ2：11；28：17参照〕。²²

「イエスは1,000〔年〕にわたって聖徒たちとともに地上の住民となられるのではなく、聖徒たちを統治し、500人の兄弟たちにされたように、降って来て指示をお授けになるでしょう〔1コリント15：6参照〕。そして第一の復活にあずかる人々もまた、主とともに聖徒たちを治めるでしょう。」²³

**福千年の後、地球は聖められた日の栄えの状態に
変えられるであろう**

「夕食のとき、わたしはその場にいた家族と友人たちに次のように

話しました。地球が聖められ、ガラスの海のようにになるとき、それは一つの雄大なウリムとトンミムとなり、聖徒たちはその中をのぞき込んで、自分たちが見られているように見ることができるでしょう。]²⁴

「この地球は神の前に戻されて、日の栄えの栄光を冠として受けるでしょう。]²⁵

「[サタンが最後の謀反を起こす]しばしの期間が終わり、地球がその最後の変化を経て、栄光を得た後、すべての柔和な人々は地を受け継ぐでしょう。そこは義人の住む所です。]²⁶

1843年4月2日、預言者は次の事柄を教え、それらは後に教義と聖約130：9に記録された。「この地球は、聖められて不滅の状態になると、水晶のようになり、そこに住む者たちにとって一つの『ウリムとトンミム』になる。そして、これによって下位の王国、すなわち低位のすべての王国に関するすべてのことが、そこに住む者たちに明らかにされる。また、この地球はキリストのものとなる。]²⁷

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 250ページの最初の2段落を読み、現在教義と聖約の第88章となっている啓示を授かるために大祭司たちが行った準備に注目してください。この出来事は、あなたが再臨についての預言を理解しようとするときに、どのように応用できるでしょうか。
- 主の来臨に先立つ苦難の時代について、預言者ジョセフ・スミスの預言を読んでください（250-253ページ）。そのような試練の中にあって心安らかでいるにはどうすればよいでしょうか。再臨のしるしを知り、理解する必要があるのはなぜだと思いますか。すでに成就している、またはまさに成就しつつある再臨のしるしに、どのようなものがあるでしょうか。
- 253ページの第1段落と、254ページの最後の段落を読んでください。「夜の盗人のように」という言葉は、主の来臨についてどのようなことを示唆しているのでしょうか。光の子らにとって、主の日は夜の盗人のように不意に襲うことがないのはなぜだと思いますか。
- わたしたちは救い主の再臨にどのように備えることができるでしょう。

うか（例として、253-256ページ参照）。もしあなたに主の来臨に対する用意ができていたら、救い主にお会いすることをどのように感じると思いますか。再臨に備えるとき、わたしたちはどのようにして恐れや不安を退けることができるでしょうか。

- 福千年について、ジョセフ・スミスの預言を読んでください（256-258ページ）。この期間について考えるとき、あなたはどのような思いや気持ちを抱きますか。

関連聖句——ミカ4：1-7；教義と聖約29：9-25；45：36-71；88：95-98，110-115；ジョセフ・スミス—マタイ1：21-55

注

1. *History of the Church*, 第1巻, 301. "History of the Church" (原稿), book A-1, 244から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. 教義と聖約130：13. 1843年4月2日, イリノイ州レイマスで, ジョセフ・スミスによって与えられた教え
3. Kirtland High Council, Minutes Dec. 1832-Nov. 1837, 1832年12月27日付の記録, 3-4. フレデリック・G・ウィリアムズによる報告. 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第3巻, 331. "Extract, from the Private Journal of Joseph Smith, Jr." *Times and Seasons*, 1839年11月号, 9から
5. *History of the Church*, 第3巻, 390. 1839年7月ごろ, イリノイ州コマースで, ジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズによる報告
6. *History of the Church*, 第3巻, 291. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正. 1839年3月20日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスとほかの人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から
7. 1830年8月20日, ペンシルベニア州ハーモニーで, ジョセフ・スミスとジョン・ホイットマーがニューヨーク州コルズビルの聖徒たちにあてて書いた手紙. Newel Knight, *Autobiography and Journal* (約1846年-1847年), 133-136, 教会記録保管課
8. *History of the Church*, 第6巻, 364. 1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. トーマス・ブロックによる報告
9. *History of the Church*, 第3巻, 286. 1839年3月15日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスがプレゼンディア・ハンティントン・ビュエルにあてて書いた手紙から. *History of the Church*ではビュエル姉妹の姓 [Buell] が "Bull" と誤ってつけられている
10. *History of the Church*, 第6巻, 254. 1844年3月10日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィルフォード・ウッドラフによる報告. 本書561ページにある付録, 第3項も参照
11. *History of the Church*, 第5巻, 337. 1843年4月6日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズによる報告
12. *History of the Church*, 第4巻, 11. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正. 1839年9月29日にイリノイ州コマースでジョセフ・スミスによって与えられた教えから. ジェームズ・マルホランドによる報告
13. *History of the Church*, 第5巻, 336-337. 1843年4月6日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズによる報告
14. *History of the Church*, 第6巻, 254. 1844年3月10日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィルフォード・ウッドラフによる報告
15. *History of the Church*, 第5巻, 291. 1843年2月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが*Times and Seasons*の編集者にあてて書いた手紙. *Times and Seasons*, 1843年3月1日付, 113に掲載
16. *History of the Church*, 第1巻, 442. 1833年11月19日, オハイオ州カートラン

- ドでジョセフ・スミスがモーゼス・ニックカーソンにあてて書いた手紙から
17. *History of the Church*, 第5巻, 65。 *Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 857に掲載された論説“The Government of God”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 18. *History of the Church*, 第6巻, 93。 1843年11月29日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがバーモント州にあてて書いた嘆願書。 *General Joseph Smith’s Appeal to the Green Mountain Boys* (1843年), 7
 19. 1835年8月31日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスとほかの人々がヘゼカイア・ベックにあてて書いた手紙。“The Book of John Whitmer,” 80。 Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。“The Book of John Whitmer”の複写所有, 教会記録保管課
 20. 1830年12月2日, ニューヨーク州フェイエットでジョセフ・スミスとジョン・ホイットマーがニューヨーク州コールズビルの聖徒たちにあてて書いた手紙。 *Newel Knight, Autobiography and Journal* (約1846年–1847年), 198–206, 教会記録保管課
 21. 信仰箇条1:10
 22. *History of the Church*, 第5巻, 61, 63–65。 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。 *Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 855–857に掲載された論説“The Government of God”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 23. ウィリアム・P・マッキンタイヤーによる, 1841年の初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教の報告の中での引用。 *William Patterson McIntire, Notebook 1840–1845年*。 教会記録保管課
 24. *History of the Church*, 第5巻, 279。 1843年2月18日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが書いた日記から
 25. ウィリアム・クレイトンによる, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教(日付不詳)の報告の中での引用。 L・ジョン・ナトール, “Extracts from William Clayton’s Private Book,” 8, L・ジョン・ナトールの日記(1857–1904年), L. Tom Perry Special Collections, プリガム・ヤング大学, ユタ州プロボ。 複写所有, 教会記録保管課
 26. ウィリアム・P・マッキンタイヤーによる, 1841年の初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教の報告の中での引用。 *William Patterson McIntire, Notebook 1840–1845年*。 教会記録保管課
 27. 教義と聖約130:9。 1843年4月2日にイリノイ州レイマスでジョセフ・スミスによって与えられた教え



永遠の真理についての 知識を得る

「人が救われるには、まず知識を得なければなりません。」

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョージ・Q・キャノン^シは預言者ジョセフ・スミスについて、「彼は学ぶことが大好きでした」と書いている。「知識には義の力があるので、ジョセフは知識を愛しました。自らの天との交わりを初めて人々に知らせた日以来、懐疑的な目を向ける世にあってジョセフは数々の艱難^{かんなん}に取り囲まれてきましたが、彼は絶えず英知を増し加えていきました。主はジョセフに学ぶよう命じられ、ジョセフは従っていたのです……。ジョセフの思いは聖なる御霊^{みたま}によって活気づけられ、あらゆる真実の原則をすぐに理解しました。そしてジョセフは一つずつ知識を習得して、それを教える者となったのでした。』

1833年、預言者とカートランドにいたある聖徒たちのグループが、福音を研究する類まれな機会を得た。その年の1月、預言者は主の命令に従って預言者の塾を組織した（教義と聖約88：127-141参照）。それは、神権者たちが教え導く務めに備えて訓練を受けるため、また福音を宣べ伝える備えをするためであった。塾は、預言者が住んでいたニューエル・K・ホイットニーの店の2階の部屋で開かれた。約25人の兄弟たちが出席した部屋は縦11フィート（約3.4メートル）、横14フィート（約4.3メートル）ほどの広さしかなかったが、福音を研究する特権にあずかるために、何百マイルも旅して来る者もいた。参加者の多くが、後に使徒や七十人、またそのほかの教会指導者となっている。時々言語を研究することもあったが、預言者とその他の兄弟たちはおもに福音の教義を学ぶことに重点を置き、早朝から夕方まで熱心に研究を続けた。この塾は約4か月間続き、後にカートランドやミズーリにおいても同じような塾が開かれ、何百人もの人々が出席した。



1833年2月27日に開かれた預言者の塾の集会で、預言者は数人の兄弟たちの前で知恵の言葉として知られる啓示を受けた。それから預言者は皆のいる部屋に入って行き、集まっていた兄弟たちにその啓示を読んで聞かせた。

1833年2月27日に開かれた塾の集会で、預言者はある重要な啓示を受けた。教会の初期の時代において、アルコール、たばこ、コーヒー、茶は、社会においても教会員の間でも一般に用いられていた。預言者は、兄弟たちが塾でたばこを口にするのを見て、懸念を抱くようになった。ブリガム・ヤングは次のように回想している。「朝食後に集まるこの部屋で、彼らが最初にするのはパイプに火をつけることでした。そしてたばこを吸いながら、王国の偉大な事柄について話すのです。……預言者が塾で教えるために部屋に入ると、たばこの煙が部屋中に立ち込めていることがしばしばありました。このことと、〔かみたばこのために〕ひどく汚れた床を掃除しなければならないと妻から苦情を受けたことから、預言者はこの件について思い巡らすようになり、長老たちがたばこを口にするに関して主に尋ねました。その結果与えられたのが知恵の言葉として知られている啓示です。』²

これまでに何百万もの人々がこの啓示にある勧告に従い、物質的にも靈的にも数々の祝福を受けてきた。その祝福の中には、神の戒めに従って生きる人々に約束されている「知恵と、知識の大いなる宝」も含まれている（教義と聖約89：19）。

預言者の塾に出席していた兄弟たちのうえに靈的な知識の宝が注がれ、彼らの福音の理解は飛躍的に向上した。1833年3月18日に開かれた塾の集会において、シドニー・リグドンとフレデリック・G・ウィリアムズが、大管長会における預言者の顧問として任命された。その後、預言者は「忠実かつ熱心に神の戒めを守るよう兄弟たちに勧め、聖徒たちのためになる多くの指示を与え、心の清い者は天の示現を見るだろうと約束しました。そして少しの間ひそかに祈りをささげていると、その約束が実証されました。その場にいた多くの人々が、神の御霊みたまによってその理解の目を開かれ、多くの事柄を見たのです。……兄弟の多くが、救い主と、群れ集まる天使たちと、そのほかの様々な事柄について、天の示現を見たのでした。』³

預言者は次のように説明している。「預言者の塾で学ぶ人々と聖徒たちは、様々な事柄が明らかにされ、神についての知識が増していくことに対して、大きな喜びと満足感を得て、絶えず顔を輝かせていました。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

イエス・キリストの福音はすべての真理を包含する。
忠実な人々は、神が明らかにされた真理を受け入れ、
偽りの言い伝えを捨てる

「モルモンの教義は真理であり、それを受け入れるすべての人は、すべての真理を自由に受け入れることができると感じています。その結果、迷信や偏狭な考え、無知、偽善売教の鎖がその首から瞬時に外れ、目が開かれて真理を見、真理が偽善売教に対して大いに勝利を得ます。……

……モルモンの教義は真理です。言い換えれば、末日聖徒の教義は真理です。……わたしたちの聖なる宗教における第一の、そして根本的な原則は次のとおりです。すなわち、真理がわたしたちの頭にはっきりと示され、その真理についてこの上なく十分な証拠があるとき、わたしたちには何の制限もなくそれらすべての真理を余すところなく受け入れる権利があると、わたしたちは信じています。人の信条や迷信的な考え、あるいは互いの支配によって制限を受けることも、禁じられることもありません。』⁵

1843年1月、ジョセフ・スミスは教会員でない数人の人々と会話をした。「わたしは、末日聖徒と諸教派の最も顕著な違いは、後者は皆、何らかの特有の信条によって制限を受けており、そのために会員はその中に含まれていない事柄を信じる特権を奪われていることであると述べました。一方、末日聖徒は、……存在するすべての真実の原則を、それが明らかにされる度に、いつでも信じる用意ができています。』⁶

「わたしには別の宗派のどのような信条も信じることはできません。どれも幾らかの真理が含まれていますが、同時にそれらすべての信条の中にわたしは受け入れられないものが含まれているからです。わたしは神の御前に行ってすべてのことを学びたいと思います。ところがそれらの信条は、杭を立てて〔制限を設けて〕、『ここまで来てもよい、越えてはならぬ』と言うのです〔ヨブ38：11〕。わたしにはそれを受け入れることはできません。』⁷

「全能者に対して杭を立てる性癖があるすべての人々に申し上げます。皆さんは神の栄光を得ることができないでしょう。御子の受け継ぎの共同の相続人となるためには、あらゆる偽りの言い伝えを捨てな

ければなりません。』⁸

「わたしたちが知るべき偉大なことは、創世の前に神が定められたことを理解することです。それが分かるのはだれでしょうか。人類には生まれながらに、全能者の業と道に杭を立て、制限を設ける性癖があります。……創世の前から隠されてきたことが、終わりの時には、みどりごや乳飲み子に示されます〔教義と聖約128：18参照〕。』⁹

「人々が〔真理に〕反対して口を開くとき、彼らはわたしではなく、自分自身を傷つけることになります。……理解力の弱い人々が最も重要な事柄を一考すらせずは無視する一方で、わたしはあらゆる角度から真理を見、胸のうちにしっかりしまっておきたいと思います。わたしは神がこれまでに明らかにされたすべてのことを信じています。信じすぎたために罰の定めを受けた人について聞いたことがありません。人は不信仰のゆえに罰の定めを受けるのです。』¹⁰

「神が人に祝福または知識を与えようとされて、人がそれを受け入れるのを拒むなら、その人は罰の定めを受けるでしょう。イスラエルの民は、神が自分たちにではなくモーセに語ってくださるように祈りました。その結果、神は彼らをのろい、肉の律法くらやみを授けられました。』¹¹

「わたしは真理が誤りに打ち勝ち、暗闇が光に道を譲るのを見て、常に満足を覚えてきました。』¹²

永遠の真理についての知識を得ることは、救いを得るうえで 不可欠である

「知識は命と信心になくてはならないものです。命と救いに知識は必要でないと言ったあなたがた聖職者や牧師は災いです。使徒やその他の者たちを取り去り、知識を取り去るなら、あなたがたは自分自身が地獄の罰を受けるにふさわしいことを知るでしょう。知識は啓示です。すべての兄弟の皆さん、この大いなる鍵かぎに耳を傾けてください。すなわち、知識こそ救いを得させる神の力なのです。』¹³

「知識は暗闇や不安や疑いを取り除きます。それらは知識があるところには存在できないからです。……知識には力があります。神がほかのいかなる者よりも力を持っておられるのは、より大いなる知識を持っておられるからです。したがって、ほかのあらゆる者を御自身に従わせる方法を知っておられるのです。神はすべてを支配する力を持っておられます。』¹⁴

「神から遠ざかるかぎり、わたしたちは悪魔のもとへ落ちて行き、

知識を失うこととなります。そして知識がなければ救われません。心が悪で満たされ、悪を学んでいる間は、心に善の入る余地、あるいは善を学ぶ余地はありません。神は善の御方ではないでしょうか。それなら皆さんも善であってください。もし神が誠実な御方であられるなら、皆さんも誠実であってください。皆さんの信仰に徳を、徳に知識を加え、すべての善いものを求めてください〔2ペテロ1：5参照〕。

……人が救われるには、まず知識を得なければなりません。知識を得なければ、ある悪の力によって別の世において囚われの身に陥ってしまうでしょう。なぜなら、悪霊の方が地上の多くの人よりも多くの知識を持ち、その結果、より大きな力を持つことになるからです。ですからわたしたちを助け、神にかかわる事柄についての知識を与えてくれる啓示が必要なのです。』¹⁵

1843年4月、ジョセフ・スミスは次の事柄を教え、それは後に教義と聖約130：18-19に記録された。「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。そこで、もしある人が精励と従順によって、この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るならば、来るべき世でそれだけ有利になる。』¹⁶

1843年5月、ジョセフ・スミスは次の事柄を教え、それは後に教義と聖約131：6に記録された。「人が無知で救われることは不可能である。』¹⁷

わたしたちは熱心な研究と祈りによって永遠の真理についての 知識を得る

ジョージ・A・スミスは、大管長会で奉仕していたときに次のように報告している。「ジョセフ・スミスはこのように教えました。すべての男女は主に知恵を求めなければなりません。知識の源である主から知識を得るためです。この道を進むことによって、わたしたちは追求する目的を達することになるでしょう。明らかにされている福音の約束から、そのように信じることができます。』¹⁸

預言者ジョセフ・スミスは、教会に入って間もない一人の男性にあてて次のように書いている。「主が終わりの時にもたらされた大いなる業に関して、わたしが主イエスの名によって述べた証をあなたは覚えています。わたしがどのように語ったか、すなわち、主がこの時代のために聖なる天使たちの働きによってわたしにもたらしてくださったものについて、無力で無知なわたしがどのようにして告げ知らせたかを、あなたは知っています。主があなたにこれらの事柄を心に留め



「主から与えられる知識を熱心に求めるすべての人に、主の御^み霊^{たま}が証^{あかし}を述べることを、わたしは知っています。」

る力を授けてくださるよう祈ります。主から与えられる知識を熱心に求めるすべての人に、主の御^み霊^{たま}が証^{あかし}を述べることを、わたしは知っているからです。』¹⁹

預言者ジョセフ・スミスは、教会について詳しく知ることを望んだ一人の男性にあてて、次のように書いている。「聖書と、わたしたちの書物の中で手に入るものをできるだけ多く研究してください。イエス・キリストの名によって御父に祈り、先祖に与えられた約束を信じる信仰を持ってください。そうすれば思いが真理に導かれるでしょう。』²⁰

「神にかかわる事柄は非常に重要であり、時間と、経験と、それから注意深くひたむきで厳粛な思いを持つことのみがそれを見いだすのです。おお、人よ、もし魂を救いに導きたいならば、思いをいと高き天ほどに高く広げ、最も暗く深い淵^{ふち}と、永遠の大いなる広がりをお細かく調べ、つくづくと考えなければなりません。言い換えれば、神と親しく交わらなければならないのです。人の心のうぬぼれた空想と比べて、神の思いはどれほど威厳があり、高潔でしょうか。……

……どこにしようとも、正直、節度、公平、厳肅、徳、清さ、柔和、実直の冠をかぶり、ついには、悪意や偽りや偽善かんなんのない幼い子供たちのようになりましょう。さて、兄弟の皆さん、艱難の後に、もし皆さんがこれらのことを行い、常に神の前に熱烈に祈り、信仰を働かせるならば、神は聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物たまものによって、知識を与えてくださるでしょう〔教義と聖約121：26参照〕。²¹

**永遠の真理についての知識は一時いちじに少しずつしか得られない。
何であれ、自分が堪えられる以上の速さで学ぶことはできない**

「すべての知識を一度に示されて得るのではなく、一時に少しずつ得るところに知恵があります。そうすれば理解することができます。」²²

「はしごを登るときは、いちばん下から始めて、一段ずつ登って行かなければなりません。そしてついには、いちばん上の段にたどり着くのです。福音の原則も同じです。第一のものから始めなければならず、昇栄に関するすべての原則を学ぶまで続けていくのです。しかしそれらを学び終えるには、墓のかなたへ行ってからもかなりの時間を要するでしょう。すべてがこの世で理解されるものではありません。救いと昇栄について学ぶことは、墓の向こうにおいても大きな仕事となるでしょう。」²³

ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちは、ノーブーに集まろうとしていた聖徒たちに次の指示を与えた。「この大なる業を助けることのできる方々に申し上げます。この場所に来てください。そうすれば、王国が進むのを助けるだけでなく、大管長会やそのほかの教会の幹部から教えるを受けるという有利な状況に身を置くことができ、英知をますます高めて、ついには『すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知〔る〕』ことができるでしょう〔エペソ3：18-19〕。²⁴

「神はジョセフに明らかにしてこられたすべてのことを、十二使徒にもお知らせになるでしょう。聖徒のうちの最も小さい者でさえも、堪えることのできる程度に応じてすべてのことを知るでしょう。だれも隣人に、主を知ってくださいと言う必要のない日が来るに違いないからであり、最も小さい者から最も大なる者に至るまで、すべての人が主を知るようになるからです〔エレミヤ31：34参照〕。²⁵

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 265ページの第1段落を読み、生活の中にある「全能者の業と道に……制限を設ける」習慣や考え方について考えてください。主が与えてくださるすべての真理を受け入れるために、わたしたちは何をする必要があると思いますか。
- 265ページの最後から2番目の段落を読んでください。どのようなときに知識はあなたの人生から暗闇^{くらやみ}や疑いを押しつけてくれたのでしょうか。真理についての知識を得ることが救いを受けるうえで不可欠なのはなぜだと思いますか（例として、265-266ページ参照）。
- 預言者ジョセフの教えから、サタンはわたしたちが知識を失うことを望んでおり（265-266ページ）、主はわたしたちに知識を与えたいと思っておられる（266-268ページ）ことが分かります。この違いからどのようなことが学べるのでしょうか。
- 真理についてのわたしたちの知識を増すために、何ができるでしょうか（例として、261-263、266-268ページ参照）。267ページの下から始まる段落を読み、ここで挙げられている性質を幾つか選んでください。これらの性質は、知識を得るうえでどのような備えとなるのでしょうか。
- 268ページの第3段落を読んでください。福音の原則を学ぶことについての、はしごを登るたとえから、どのようなことが学べるのでしょうか。福音の知識を絶えず増やすために、あなたはどのようなことを行ってきましたか。
- 本章の最後の段落について深く考えると、どのような思いや気持ちになりますか。

関連聖句——箴言1：7；1テモテ2：3-4；2ニーファイ28：29-31；アルマ5：45-47；教義と聖約88：118

注

1. ジョージ・Q・キャノン、*The Life of Joseph Smith, the Prophet* (1888年)、189
2. ブリガム・ヤング、*Deseret News: Semi-Weekly*, 1868年2月25日付、2。原文（英語）においては、大文字は現代の用法に修正
3. *History of the Church*, 第1巻、334-335。1833年3月18日、オハイオ州カートランドで開かれた預言者の塾での集会議事録から。フレデリック・G・ウィリアムズによる報告

4. *History of the Church*, 第1巻, 334。“History of the Church” (原稿, book A-1, 281から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ)
5. 1839年3月22日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙。*Times and Seasons*, 1840年2月号, 53-54に掲載。原文 (英語) においては, つづりおよび文法は現代の用法に修正
6. *History of the Church*, 第5巻, 215。“History of the Church” (原稿, book D-1, 1433から, 教会記録保管課)
7. *History of the Church*, 第6巻, 57。原文 (英語) においては, 句読点は現代の用法に修正。1843年10月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
8. *History of the Church*, 第5巻, 554。原文 (英語) においては, 段落は変更。1843年8月27日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
9. *History of the Church*, 第5巻, 529-530。原文 (英語) においては, 段落は変更。1843年8月13日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第6巻, 477。1844年6月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
11. *History of the Church*, 第5巻, 555。1843年8月27日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
12. 1834年9月24日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがオリバー・カウドリにあてて書いた手紙。*Evening and Morning Star*, 1834年9月号, 192に掲載
13. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイによる引用, 1843年5月21日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告から。Martha Jane Knowlton Coray, Notebook, 教会記録保管課
14. *History of the Church*, 第5巻, 340。原文 (英語) においては, 大文字は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年4月8日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
15. *History of the Church*, 第4巻, 588。1842年4月10日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
16. 教義と聖約130:18-19。1843年4月2日, イリノイ州レイマスで, ジョセフ・スミスによって与えられた教え
17. 教義と聖約131:6。1843年5月16日および17日, イリノイ州レイマスで, ジョセフ・スミスによって与えられた教え
18. ジョージ・A・スミス, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1870年11月29日付, 2
19. *History of the Church*, 第1巻, 442。1833年11月19日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがモーゼス・ニックカーソンにあてて書いた手紙から
20. *History of the Church*, 第6巻, 459。1844年6月12日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがワシントン・タッカーにあてて書いた手紙から
21. *History of the Church*, 第3巻, 295-296。原文 (英語) においては, 段落は変更。1839年3月20日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で, ジョセフ・スミスとそのほかの人々がエドワード・バートリッジと教会にあてて書いた手紙から。この手紙の一部は後に教義と聖約の中に第121章, 第122章, 第123章として含められた。
22. *History of the Church*, 第5巻, 387。1843年5月14日, イリノイ州エルロームでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
23. *History of the Church*, 第6巻, 306-307。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
24. *History of the Church*, 第4巻, 186。1840年9月, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 179に掲載
25. *History of the Church*, 第3巻, 380。1839年6月27日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告



「和合して共におるのは いかに麗しく楽しいことであろう」

「長期にわたって、力強く、皆で協力して働きましょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1832年12月27日、主は預言者ジョセフ・スミスを通して、カートランドに神殿を建て始めるよう聖徒に命じられた（教義と聖約88：119参照）。1833年6月1日、主はさらに次のような指示を預言者に与えられた。「さて、ここに知恵があり、主の思いがある。……世の方法によらずにその家を建てなさい。わたしがあなたがたの中の三人に示す方法に従って、それを建てなさい。」（教義と聖約95：13-14）

数日後、主はその約束を果たされた。ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちに驚くべき示現が与えられ、彼らはその中で神殿の設計の詳細を見たのである。大管長会の第二顧問であったフレデリック・G・ウィリアムズは、後に次のように回想している。「ジョセフ〔・スミス〕は、二人の顧問すなわち〔フレデリック・G・〕ウィリアムズと〔シドニー・〕リグドン連れて主の前に行くようにとの言葉を受けました。そうすれば建てるべき家の設計すなわち型を主が示してくださいとのことでした。そこでわたしたちがひざまずき、主に呼び求めると、目に見える距離に建物が現れ、わたしが最初にそれを見つけました。それから全員で見ました。外観を十分に観察し終えると、わたしたちは建物にすっかり覆われて、内部にいるように感じました。』¹

大管長会に示された見事な設計をジョセフ・スミスが大祭司の評議会に説明すると、兄弟たちは喜び、直ちに用地を選定するために出て行った。そしてスミス家の兄弟たちが前年の秋に種をまいていた小麦畑の中の区画が選ばれた。ハイラム・スミスはすぐに、「主のために家を建てる準備に取りかかりましょう。それをわたしがだれよりも先にします」²と叫びながら、その区画を更地にするために草刈り鎌を取



ジョセフ・スミスがカートランド神殿の設計を主から示されたとおりに説明すると、
ハイラム・スミスは「主のために家を建てる準備に取りかかりましょう。
それをわたしがだれよりも先にします」と叫びながら、草刈り鎌を取りに走った。

りに走った。

このような熱意の高まりは、この神権時代において最初となる神殿を建てるために力を尽くし、犠牲を払う聖徒たちの気持ちの一つにする原動力となった。女性たちは神殿の建設に携わる人々のために、エマ・スミスの指示の下で、靴下やズボン、上着を作った。また神殿用のカーテンやじゅうたんも作り、ブリガム・ヤングの指示の下で、神殿内部の装飾に関連する作業も行った。ジョン・タナー兄弟は、ニューヨーク州にあった2,200エーカー〔約890ヘクタール〕の農場を売却して、カートランドに到着すると、預言者に2,000ドルを貸すことにした。まさに抵当流れになる寸前で、神殿用地を買い戻したのだった。また、暴徒の脅威から神殿を守るために、夜間、男性たちは神殿の警備を行い、日中の建設作業衣を着たまま眠った。

預言者は次のように宣言している。「主の家の建設に着手するためが大がかりな準備が進められていました。教会は貧困にあえいでいましたが、わたしたちには一致と調和と慈愛があふれ、それが神の命令を行う強さを与えてくれました。」³

神殿が奉献される1年前に十二使徒定員会の会員となったヒーバー・C・キンボールは、聖徒たちが払った大変な努力について次のように述べている。「教会は一丸となってこの事業に取り組み、すべての人が貢献しました。荷を引く家畜を持っていない人々は石切り場に行き、神殿まで運ぶための石を準備しました。」⁴キンボール長老はまた次のように回想している。「ジョセフは言いました。『さあ、兄弟たち、一緒に石切り場に行き、主のために働きましょう。』そして預言者自ら、麻の上着と麻のズボン〔リネンの作業着〕といういでたちで出かけて行き、わたしたちと同じように石を切り出す作業に従事しました。そして毎週土曜日に、わたしたちはすべての家畜を率いて石を神殿まで運び、神殿が完成するまでその作業を続けました。妻たちはその間ずっと、編み、糸を紡ぎ、縫い、……あらゆる仕事をしていました。」⁵

カートランドの聖徒たちの努力は、一致と犠牲と献身の典型であった。この努力があったからこそ、その後の歳月に主の目的が果たされていくのが可能となった。このときやほかの数多くの機会に、聖徒たちは「長期にわたって、力強く、皆で協力して働きましょう」⁶という預言者ジョセフ・スミスの勧告を心に留め、力を合わせて働いた。

ジョセフ・スミスの教え

わたしたちは一つになってともに働くときに、神の目的を
よりよく成し遂げることができる

「[わたしたちは、1840年10月の]総大会において聖徒たちと会うことができ喜んでいます。……聖徒たちは、相変わらず熱心で、ひたむきで、精力的に終わりの時の大なる業に携わっています。[このこと]はわたしたちに喜びと慰めを与え、行く手に立ちほだかり、避けられない困難と闘うわたしたちにとって大きな励ましとなっています。

兄弟たちがいつもそのような精神を示し、わたしたちの手を支えてくれるならば、わたしたちは前進を続けるに違いなく、また前進するでしょう。主の業は転がり行き、主の神殿は築かれ、イスラエルの長老たちは励まされ、シオンは築き上げられて、全地に賛美と喜びと栄光がもたらされるでしょう。また、御座みざに着いておられる御方と小羊に賛美と栄光と誉れと尊厳がとこしえにあるようにと歌う歌が、丘から丘へ、山から山へ、島から島へ、大陸から大陸へと響き渡り、この世のもろもろの王国はわたしたちの神とキリストの王国となるでしょう〔黙示11：15参照〕。

そのような和合一致の精神が、この国でも外国でも、この大陸でも海の島々でも、教会全体にあるのを知って、わたしたちは心から喜んでいきます。なぜならこの原則により、そして力を合わせることによって、わたしたちは神の目的を達成できるようになるからです。』⁷

「[ノーブー神殿]の建設は非常な速さで進められています。建設を支援するために、至る所で多大な努力が払われており、あらゆる種類の資材がことのほか順調に調達されています。次の秋までには外壁が完成するだろうと思います。……冬の間、石を切り出すために50人が集められたことがしばしばあり、同じ時期にほかの大勢の人々が、運搬作業や、そのほかの様々な労働に携わってきました。……

こうして、多忙にもかかわらず大勢の人々がそれぞれ生活を維持するための仕事に従事し、日常の仕事を行いながら、自分の時間の10分の1を労働に充ててきました。ほかにも、この偉大な目的のために什分じゅうぶんの一とささげ物をささげることによって、彼らに劣らないほどの熱意を示している人々がいます。この教会の基が据えられて以来、主が『わたしの民の納める什分の一によって神殿を建てなさい』〔教義と聖約97：10-11参照〕と言われてから今日ほどに、エホバの〔求め〕に

進んで従いたいという強い思い、神の御心^{みこころ}を行いたいという熱烈な望み、多大の努力、あるいは大きな犠牲を見たことはありません。それはあたかも、事業の推進と博愛と従順の精神が、老いた人にも若い人にも宿り、兄弟たちも姉妹たちも、少年たちも少女たちも、教会に属していない見知らぬ人々さえも、この大いなる業を成し遂げるために、かつてなく寛大な心をもって結束しているかのようでした。また、やもめがそのわずかな収入からレプタ2枚を投げ入れるのを思い留まらせることができないことも度々ありました。

わたしたちは今、老いた人も若い人も、教会の内外のすべての人に対して、彼らがこの機会にまさしく時宜^{じぎ}にかなって示している、かつてない寛大さと、優しさと、熱意と、従順さに、心からの感謝を表したいと思います。わたしたちは個人的に、あるいは個々に金銭的な利益を得るわけではありません。しかしこの度のように、兄弟たちが目的と計画において一致し、肩の力をもって車を押すとき、わたしたちの心配や労苦、骨折り、不安は大幅に軽減されて、くびきは負いやすくなり、荷は軽くなるのです〔マタイ11：30参照〕。』⁸

「さて、昔の詩篇の作者のようにはっきりと言わせてください。『兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しい〔ことでしょう〕。』そのような一致は、『こうべに注がれた尊い油が……アロンのひげに流れ、その衣のえりにまで流れくだるよう』であり、『ヘルモンの露がシオンの山に下るよう』です。『主がかしこに祝福を命じ、とこしえに命を与えられたから』です。一致は力です〔詩篇133：1-3参照〕。』⁹

神の律法に従い、利己的な思いや偏見を克服するように努めるとき、 一致が深まる

1840年12月、預言者はイギリスで伝道していた十二使徒定員会の会員とそのほかの神権指導者にあてた手紙の中で、次のように書いている。「皆さんが互いに十分理解し合い、また聖徒たちが大きな喜びをもって勧告に聞き従っており、この愛の働きにおいて、また真理と義を推し進めることにおいて、互いに〔力を尽くして〕いることに、わたしは心に大きな満足を覚えています。これはイエス・キリストの教会において本来あるべき状態であり、一致は力です。『兄弟が和合して共におるのはいかに……楽しいことであろう。』〔詩篇133：1〕いと高き御方の聖徒たちはこの原則を常に大切にするようにしてください。そうすれば最も栄光に満ちた祝福が、聖徒個人にだけでなく、教

会全体にももたらされるに違いないのです。王国の秩序は維持され、その役員は敬われ、王国で求められる事柄は快く、喜んで実行されるでしょう。……

偉大な出来事は聖徒たちの個々の努力に懸かっており、聖徒たちは終わりの時の大いなる業を成し遂げるために、わたしたちや聖なる御^み霊^{たま}とともに働く者として召されています。聖徒たちはそのことを忘れてはなりません。この業の範囲と祝福と栄光を十分に考慮して、あらゆる利己的な思いをただ覆い隠すだけでなく、完全に追い払ってください。神と人への愛がすべての思いを支配し、治め、勝利を得るようにしてください。そうすれば彼らの心はいにしえの^{ノク}の心のようになり、現在、過去、未来のすべてを理解し、あらゆる^{たまもの}賜物を受けるにふさわしくなり、主イエス・キリストの来臨を待ち望むことができるでしょう〔1コリント1：7参照〕。

わたしたちが一つとなって携わっている業は、尋常の業ではありません。戦わなければならない敵は狡猾^{こうかつ}で、非常に策略に長けています。力を結集させることに注意を払い、最善の思いを心に抱く必要があります。そうすれば、全能者の助けによって、わたしたちは勝利に勝利を重ね、征服に征服を重ねていくことでしょう。邪悪な思いは抑えられ、偏見は消え去るでしょう。胸に憎しみを宿す余地はなくなり、悪徳はその醜い顔を隠すでしょう。そしてわたしたちは天の承認を受け、神の息子たちと認められるでしょう。

わたしたちは自分自身のためではなく、神のために生きなければならないことを理解しましょう。そうすることによって最も大いなる祝福が、この世においても永遠にわたっても、わたしたちにとどまるでしょう。〕¹⁰

「ここ〔ノーブー〕に来る聖徒たちに申し上げます。わたしたちはこの場所に神の民が集まるための基を据えました。彼らはここへ来ると、神が定められた勧告の下に置かれることになるでしょう。……わたしたちはここで腰に帯を締め、この中から罪悪を行う人々を一掃しようと努めています。そして外国から到着する兄弟たちにも、この良き業を推し進め、この偉大な目的を成し遂げるのを助けてくれるように願っています。『シオンが義のうちに築き上げられ、すべての国民がその旗の下に群れを成して集まる』ようにするためであり、わたしたちが神の民として、神の指示の下で、神の律法に従って、義と真理^{まこと}のうちに成長するためであり、神の目的が成し遂げられるときに、聖



「一致は力です。『兄弟が和合して共におるのはいかに……楽しいことであろう。』
いと高き御方の聖徒たちがこの原則を常に大切にするようにしてください。』

められた人に数えられ、受け継ぎを得るためです。』¹¹

「わたしたちには皆、友人や近親者、家族、仲間がいます。また、友情……と兄弟愛のきずなは、愛にあふれる無数の交わりによって固く結ばれることを知っています。わたしたちは一つの共通の信仰、すなわち『ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰』を受け入れています〔ユダ1：3参照〕。わたしたちには永遠の福音を聞く特権が与えられています。それは預言の霊によって、天が開かれることによって、聖霊の賜物によって、天使の働きによって、そして神の力によって、伝えられてきました。……家族のような思いやりが全体に、すなわちパウロの言葉によれば、キリストの教会である、キリストの体全身に流れています。体の一部が傷つくなら、ほかの部分も必ず痛みを感じます。パウロが語っているように、もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体も皆ともに悩み、一つの肢体が喜べば、ほかのすべての肢体もともに誉れを受けるからです〔1コリント12：12-27参照〕。』¹²

物質的、靈的に最も大いなる祝福は、常に努力を結集させることによってもたらされる

1841年1月、預言者ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちは、世界各地からノーブーに集結しようとしていた聖徒たちに、次のような指示を与えた。「力を合わせて働き、努力を結集させなければ、終わりの時の大いなる業を成し遂げることができません。……そうするときにはわたしたちは物質的にも靈的にも大いなる恵みを受け、天の祝福が途絶えることなく注がれるに違いないでしょう。このことについて、疑問の余地はないと思います。

物質的、靈的に最も大いなる祝福は、忠実に協力する人々に常に注がれますが、そのような祝福はいくら一人で奮闘して冒険的事業に挑んでも与えられません。過去のあらゆる時代の歴史が、この事実を十分に証明しています。……

わたしたちは聖徒に次のことを理解してほしいと思います。すなわち、聖徒たちはここへ来るときに、完璧^{かんぺき}を期待してはなりません。あらゆることに一致し、平和と愛に満たされているなどと期待してはなりません。もしそのような考えでいるなら、間違いなく裏切られることになるでしょう。ここには様々な州からだけでなく、異国から来た人々もいて、彼らは真理の大義に強い愛着を感じてはいるものの、自分の受けた教育による偏見を持っています。したがって、これらを克服するには少しの時間を必要とします。また、ひそかに忍び込んでいる人々が大勢いて、不和、争い、敵意をわたしたちの中に引き起こし、それによって聖徒たちを悪に染めようとしています。……ですから、この地にやって来る人々は、神の戒めを守ることを決意し、ここに挙げたような事柄のために失望してはなりません。そうすればうまくいくでしょう。そして天の英知が授けられ、ついには目と目を合わせて互いを見て、義人に約束されている栄光をすべて受けて喜びを得るでしょう。

主の神殿を建てるには、聖徒たちに過酷な働きが求められることでしょう。全能者に受け入れられて、主の力と栄光が現れる家を立てようとしているからです。したがって、王国の繁栄のために、そして真理の大義に対する愛のゆえに、時間と才能と財産を惜しみなく犠牲にできる人々は、……わたしたちに加わって終わりの時の大いなる業に携わり、艱難^{かんなん}を共にしてください。そうすれば最後には、栄光と勝利を手にするでしょう。]¹³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 預言者ジョセフ・スミスの「長期にわたって、力強く、皆で協力して働きましょう」という言葉について考えてください(273ページ)。努力する期間や勢いが不十分であるとうなるでしょうか。人々が様々な方向に向かって努力したらどうなるでしょうか。この預言者の言葉を、家庭においてどのように応用できるでしょうか。教会の召しにおいてははどうでしょうか。
- 275ページの第1段落を読んでください。力を合わせて働くときに重荷が軽くなるのはなぜでしょうか(例として、271-275ページ参照)。これまでにほかの人々と一致して働いたときに役立った原則として、どのような原則を挙げることができますか。
- 276ページの第1段落を読んでください。利己的であることにはどのような危険が潜んでいるでしょうか。自分の中から利己的な感情を完全になくすために、どのようなことができるでしょうか。「神と人への愛」が心を「支配」すると、どのように感じるでしょうか。
- 277ページの最初の段落を読んでください。あなたはこれまでワードや支部で経験した「友情……のきずな」や「愛にあふれる……交わり」からどのような恵みを得てきましたか。「家族のような思いやりが全体に……流れてい〔る〕」ことは、ワードや支部にどのような恵みをもたらすでしょうか。
- 278ページの第3段落を研究してください。ワードや支部の会員に対して完璧^{かんぺき}を期待することが賢明でないのはなぜだと思いますか。不完全な人々が共通の目的のために様々な才能や能力を用いるのを、どのようなときに目にしてきましたか。そのような一致した努力は、どのような結果をもたらしましたか。

関連聖句——マタイ18：19-20；ヨハネ17：6-26；モーサヤ18：21；3ニーファイ11：29-30；教義と聖約38：24-27；モーセ7：18

注

1. フレデリック・G・ウィリアムズ。トルーマン・O・エンジェルによる引用。Truman Osborn Angell, *Autobiography* 1884年, 14-15, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. ハイラム・スミス。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844年-1845年の原稿, book 14, 1-2における引用, 教会記録保管課
3. *History of the Church*, 第1巻, 349. “History of the Church” (原稿), book A-1, 296-297から, 教会記録保管課
4. ヒーパー・C・キンボール “Extracts from H. C. Kimball’s Journal.” *Times and Seasons*, 1845年4月15日付, 867-868
5. ヒーパー・C・キンボール, *Deseret News*, 1863年5月27日付, 377. 原文(英語)においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
6. プリガム・ヤングによる引用, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1867年4月20日付, 2. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正
7. *History of the Church*, 第4巻, 212-213. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1840年10月4日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが行った報告から, *Times and Seasons*, 1840年10月号, 187に掲載
8. *History of the Church*, 第4巻, 608-609. 原文(英語)においては, 句読点および文法は現代の用法に修正。 *Times and Seasons*, 1842年5月2日付, 775-776に掲載された論説 “The Temple” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
9. *History of the Church*, 第6巻, 70. 1843年11月1日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが聖徒たちにあてて書いた手紙から, *Times and Seasons*, 1843年11月1日付, 376-377に掲載。 *History of the Church*では, この手紙は誤って1843年11月8日付けとされている
10. *History of the Church*, 第4巻, 227, 230-231. 原文(英語)においては, つづりは現代の用法に修正。1840年12月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが十二使徒にあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1841年1月1日付, 258, 260-261に掲載。 *History of the Church*では, この手紙は誤って1840年10月19日付けとされている
11. *History of the Church*, 第5巻, 65-66. *Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 858に掲載された論説 “The Government of God” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
12. “To the Saints of God” *Times and Seasons*, 1842年10月15日付, 951に掲載された論説, 原文(英語)においては, つづり, 句読点, 大文字は現代の用法に修正。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
13. *History of the Church*, 第4巻, 272-273. 1841年1月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から, *Times and Seasons*, 1841年1月15日付, 276-277に掲載



主の方法で導く

「わたしは人々に正しい原則を教えて、自らを治めさせます。」

ジョセフ・スミスの生涯から

カートランドの聖徒たちがそこに神殿を建てるために働き始め、犠牲を払っていた時期に、ミズーリ州ジャクソン郡の聖徒たちは容赦のない迫害に直面していた。ミズーリ州に移って来る教会員が増えるにつれて、以前からの入植者たちとの間に緊張が高まっていった。ミズーリ州の人々は政治的な支配力を奪われることを恐れ、よく知らない教会の宗教上の信条に不審の念を抱き、聖徒たちが仲間うちで交易を行う傾向があることに反感を持った。暴徒による迫害は次第に激しくなり、1833年11月、聖徒たちは家を放棄せざるを得なくなった。家畜や家財道具のほとんどを残したまま、聖徒たちは北に逃れ、おもにミズーリ州クレイ郡に行き、そこに当面の避け所を見いだした。

カートランドに住んでいた預言者ジョセフ・スミスは、ミズーリ州の聖徒たちの苦しみを深く憂慮し、彼らに支援の手を差し伸べることを願っていた。1834年2月、主の指示により、ジョセフはジャクソン郡に行軍する聖徒の一团を組織することになった。シオンの陣営と呼ばれるこの一团の目的は、搾取された土地と財産を取り戻すため、教会員を支援することであった（教義と聖約103：21-40参照）。陣営は1834年5月6日に正式に組織され、最終的に200人以上が加わった。参加した人々は武装し、軍隊として組織され、900マイル〔1,450キロ〕以上を旅した後、6月中旬にジャクソン郡近郊に到着した。

陣営の隊員たちは毎日長い距離を歩いた。不十分な食糧と、質の悪い飲み水しかない状況で、過酷な暑さの中を進むことも多かった。疲労や飢えを経験しつつ、顔をつき合わせながら何週間も旅をしていくうちに、争い合う者や、預言者を非難する者が出てきた。

このように危険を伴い、困難な旅を続ける間、あらゆる問題に見舞われたが、ジョセフ・スミスは日々陣営の隊員たちを導きながら、彼



主の王国の指導者は、「神の民を教え導くために、
知恵と知識と理解力を授からなければなりません。」

らに数々の重要な指導の原則を教えた。シオンの陣営の隊員を務め、後に第4代大管長となったウィルフォード・ウッドラフは、次のように述べている。「それは、ほかのどのような方法によっても決して得ることのできない経験でした。預言者の顔を見、ともに1,000マイル（1万6,000キロ）を旅し、神の御霊が預言者に働きかけるのを目の当たりにする特権を得ました。さらにイエス・キリストの啓示がジョセフに与えられて、成就するのを目にするという特権も得ました。」¹

ミズーリ州に到着した陣営は、州の役人と交渉を始めたが、平和的な解決の試みは失敗に終わった。武力衝突が避けられないと思われたとき、預言者は導きを求めて祈った。そして1834年6月22日、陣営を解散するようにとの啓示を受け、シオンは現時点では贖^{あがな}られないと知らされた（教義と聖約105章参照）。陣営の隊員たちに関して、主は次のように言われた。「わたしは彼らの祈りを聞いた。そして、彼らのささげ物を受け入れる。信仰の試練として、彼らがここまで連れて来られることは、わたしにとって必要であった。」（教義と聖約105：19）

政治上の目的は達成されなかったが、シオンの陣営は霊的な面において後々まで影響を及ぼす成果を上げた。1835年2月、預言者が十二使徒定員会と七十人定員会を組織したとき、十二使徒のうちの9人と、七十人の全員が、シオンの陣営に参加した人々だった。最初の七十人の一人であったジョセフ・ヤングによれば、預言者はこれらの兄弟たちに次のように説明した。「神は皆さんが戦うことを望んではおられませんでした。地のもろもろの国民に福音の扉を開く12人と、その指示の下で同じ道を歩む70人を、自分の命をささげ、アブラハムと同じように大きな犠牲を払ってきた人々の中から選ばなければ、神は王国を組織することがおできにならなかったのです。」²

シオンの陣営は、ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、ウィルフォード・ウッドラフ、そのほかの人々にとって、聖徒たちを1839年にミズーリ州からイリノイ州へ、そして後にソルトレーク盆地へと導くための実地訓練となった。預言者と過ごした経験から、兄弟たちは主の方法で導くことを学んでいたのである。

ジョセフ・スミスの教え

指導者は正しい原則を教え、人々が自らを治めるように助ける

第3代大管長のジョン・テラーは、次のように報告している。「何

年か前にノーブーで、ジョセフ・スミスはある議員から、これほど大勢の人々を治め、このような完全な秩序を保つことができるのはどうしてだ、ほかの地域ではそのようなことは不可能だと尋ねられました。スミス氏は、それはとても簡単なことだと述べました。議員は尋ねました。『どうするのですか。わたしたちには非常に難しいことです。』スミス氏はこう答えました。『わたしは人々に正しい原則を教えて、自らを治めさせます。』³

第2代大管長のブリガム・ヤングは、次のように報告している。「ジョセフ・スミスは、自分や教会員を訪ねて来た立派な人々から、頻繁にこのような質問を受けました。『どうしてそう苦もなく教会の人々を動かすことができるのですか。人々はあなたの言うことを厳密に実行しているようですが。人々をそれほど容易に治めることができるのはなぜですか。』ジョセフは次のように答えました。『わたしは少しも彼らを治めてはいません。主はこの末日にわたしたちが従うべきもろもろの原則を、天から明らかにしてこられました。主が悪人の中から御自分の民を集められる時が近づいており、主は御自分の業を義にかなって簡潔に行おうとしておられます。わたしは主が明らかにしてこられた原則を民に教えており、彼らはそれに従って生活するよう努力し、自分を管理しているのです。』⁴

権力を手にしようとしていると非難されたとき、ジョセフ・スミスはこう答えている。「わたしが持つ、人類の思いを支配する力に関して説明しておきます。それはわたしが神の御手みてに使われる者として人々に明らかにしてきた教義の内にある真理の力から出ているのであって、わたしが何かを強制しているわけではありません。……お尋ねしますが、わたしがかつてだれかに何かを強制したことがあったでしょうか。わたしの説いた教義について、信じない方がよいと考える人には自由にそうしてもらわなかったでしょうか。敵が教義を攻撃しないのはなぜでしょうか。できないのです。それは真理だからです。わたしは教義を覆そうとするあらゆる人の企てを、受けて立ちます。』⁵

『セントルイスガゼット』紙に勤務する兄弟から、……わたしがどのような原則によってそれほど大きな力を得ているのかを知りたいと尋ねられました。……それに対して、真理と徳の原則に基づいて力を得ているのであって、それは死後も持ち続けるだろうと答えました。』⁶

指導者は必要とする知恵を御霊^{みたま}から得、主から祝福を
受けていることを認める

「神の人は、神の民を教え導くために、知恵と知識と理解力を授けられなければなりません。」⁷

ジョセフ・スミスは、イギリスで伝道していた十二使徒定員会の会員とそのほかの神権指導者あてに、こう書き送っている。「わたしは皆さんが知恵を用いて働いていることを聞き及んでおり、完全に満足しています。主の御霊が皆さんを導いてこられたことを確信しており、まったく疑っていません。そしてこのことから、皆さんがこれまで謙遜^{けんそん}であったこと、さらに、自己の栄誉や利益ではなく、同胞^{ほらから}の救いを願ってきたことが分かります。聖徒たちがこのような心構えでいるかぎり、彼らの勧告は受け入れられ、その努力に対して成功という冠が与えられるでしょう。

皆さんはたくさんの非常に重要な事柄について助言を求めてきますが、それぞれの状況についてわたしよりもよく知っているので、十分に判断を下すことができると思います。皆さんの結集した知恵を、わたしは大いに信頼しています。……

愛する兄弟の皆さん、現在進められている大いなる業と、自分との業との関係について考えるときにわたしが感じる気持ちは、皆さんもある程度お分かりだと思えます。この業は遠くの地にまで及んでおり、大勢の人々に受け入れられています。わたしは自分の責任を幾らか理解しており、天よりの支えと高い所からの知恵を必要としています。今では巨大化しているこの民に義の原則を教え、天の御心^{みこころ}にかなって彼らを導くためです。それによって彼らが完全になり、主イエス・キリストが大いなる栄光のうちに御自身を現されるときに、お会いする準備を整えているようにするためです。わたしがサタンのあらゆる策略から逃れ、あらゆる困難を乗り越えて、義人のために用意されている祝福にあずかるようこの民を導くために、皆さんがわたしのために天の御父にささげてくれる祈りと、(会ったことはありませんが、わたしの愛する)イギリスのすべての兄弟姉妹の祈りに頼ってもよいでしょうか。主イエス・キリストの御名^{みな}により皆さんに願います。』⁸

1833年、預言者とほかの教会指導者はオハイオ州トンブソンの会員あてに手紙を書き、サーモン・ジー兄弟が彼らの管理者として任命さ

れたことを伝えた。「わたしたちは、……皆さんを導き、信心にかなった事柄を教えるために……愛するサーモン・ジー兄弟を聖任しました。わたしたちはジー兄弟を大いに信頼しています。皆さんもそれは同じだと思えます。そこでわたしたちは申し上げます。まことに、わたしたちだけでなく、主も仰せになります。ジー兄弟を管理者として受け入れ、主が彼をこの職に任じられたのは皆さんの益となるためであることを知り、祈りによって彼を支持してください。ジー兄弟が主を知る知識において知恵と理解力を授かるように、絶えず祈ってください。皆さんがジー兄弟を通じて邪悪な霊とあらゆる争いと不和から守られ、豊かな恵みを受け、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの知識において成長するために祈ってください。

……最後に、兄弟の皆さん、わたしたちのために祈ってください。わたしたちが召されている務めを果たすことができ、皆さんが神の奥義を、そのすべてをも受けられるようにするために祈ってください。』⁹

預言者は、話し合いを進めることに関して神権指導者に次の勧告を与えた。「それぞれが自分の順番が来たときに、自分の場所で、時宜にかなって語り、すべてのことに完全な秩序があるようにしなければなりません。……各人が、……暗闇くらやみを広げるのではなく、自分の意見がそのテーマを明確にするものであると確信していなければなりません。……主の思いと望みを熱心に研究する人々は、そのようにできるでしょう。主の御霊はいつも、御霊を受けているすべての人が理解できるように、真理を明らかにし、また示してくれます。』¹⁰

「十二使徒やそのほかの証人たちは地のもろもろの会衆の前に立ち、神の御霊の力と証明の下で教えを説いて、人々がその教義に驚き、まごついて、『あの人は力強い話、偉大な説教をした』と言うとき、自分自身に栄光を帰すことのないように気をつけなければなりません。謙遜であって、神と小羊に誉れと栄光を帰すように注意しなければなりません。彼らのそのように語る力は、聖なる神権の力と聖霊によるものだからです。おお、人よ、あなたは何者なのですか。ちりではないのですか。あなたは力と祝福をどなたから受けているのですか。神からではないのですか。』¹¹

主の王国の指導者は自分が仕える人々を愛する

「年齢を重ねるにつれ、皆さんへの愛情が深まっていきます。あらゆる間違ったことをいつでも進んで捨てたいと思っています。この民

が徳高い指導者とともになれるよう願っているからです。わたしはキリスト・イエスにかかわる事柄を知らせることによって、皆さんの思いに自由をもたらしてきました。……わたしの心には、ただ温かい気持ちがあるばかりです。』¹²

「諸教派の聖職者たちはわたしに対して声を上げ、尋ねます。『このおしゃべりにこれほど多くの人々が従い、そして離れていかないのはなぜだろうか。』お答えしましょう。わたしに愛の原則があるからです。わたしが世の人々に与えられるのは、善良な心と善良な手だけです。』¹³

カーセージの監獄に行く数日前、預言者は聖徒たちへの愛を次のように述べている。「神は皆さんを試みてられました。皆さんは善良な民であり、わたしは心から皆さんを愛しています。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はありません〔ヨハネ15：13参照〕。皆さんは苦難のときにわたしと一緒に耐えてくれました。わたしは皆さんを守るために喜んで自分の命をささげます。』¹⁴

主の王国の指導者は奉仕と模範によって教える

シオンの陣営の隊員たちは、オハイオ州カートランドからミズーリ州へ行軍する間に、ジョセフ・スミスと接して様々な指導の原則を学んだ。シオンの陣営に参加したジョージ・A・スミスは次のように回想している。——「預言者ジョセフは、旅の間中ひどく疲れていました。必要物資の調達や陣営の管理に加え、行程の大半を徒歩に頼らざるを得なかったため、足には水ぶくれ、出血、靴ずれが絶えませんでした。それは暑い季節の中を一日に25マイルから40マイル〔40キロから65キロ〕歩いた当然の結果でした。しかし旅の間、ジョセフは決して不平を漏らすこともつぶやくこともありませんでした。一方で、陣営のほとんどの人々は、つま先の靴ずれや足の水ぶくれ、長い行軍、食糧の不足、粗末なパン、味の悪いとうもろこしの堅焼きパン、腐ったバター、悪臭を放つはちみつ、うじのわいたベーコンやチーズなどについて、ジョセフに不平を言いました。犬にほえられたことについてさえ、彼らはジョセフにつぶやきました。野営地の水質が悪ければ、暴動が起きそうな状態でした。シオンの陣営に属しているにもかかわらず、多くの人が祈らず、思慮に欠け、軽率で、不注意で、愚かで、悪魔に従い、それでもなおそのことに気づいていませんでした。ジョセフはわたしたちに忍耐強く接し、子供に教えるように教えなければなりませんでした。



「預言者はだれよりも先に素足になるとロープを手にしました」と、シオンの陣営のある隊員は回想している。「困難に直面するといつも見られる、いかにもジョセフらしい振る舞いでした。」

しかし陣営の中には、決してつぶやかず、いつでも進んで指導者の望むとおりに行動する用意ができていた人も大勢いました。]¹⁵

以下は、1834年5月の預言者の記録からの抜粋である。——「毎晩就寝前に、ラッパの音とともに、わたしたちはそれぞれのテントの中で主の前に頭を垂れ、祈りと嘆願をもって感謝のささげ物をささげました。そして4時ごろ、朝のラッパの音とともに、すべての人が再び主の前にひざまずき、一日の祝福を請い願うのでした。」¹⁶

1834年5月27日。——「敵は暴力に訴えるという脅しの言葉を絶えず吐いていましたが、わたしたちは恐れることも、旅を続けるのを躊躇ちゅうすることもありませんでした。神がともにおられ、天使たちが前を行ってくれたからです。小さな隊の信仰が揺らぐことはありませんでした。わたしたちは天使たちが同行してくれていたことを知っています。なぜならわたしたちは天使たちを見たからです。」¹⁷

1834年5月29日。——「わたしはおいしくて香ばしいパンを受け取りましたが、隊の中に同じ料理担当者から酸っぱくなったパンを受け

取った人がいたことを知りました。この不公平な扱いについて、わたしはゼベディー・コルトリン兄弟を注意しました。兄弟たちにわたしと同じものを食べてほしかったからです。』¹⁸

シオンの陣営の隊員であったジョン・M・チデスターは、次のように回想している。——「インディアナ州を通過していたとき、シオンの陣営はひどくぬかるんだ湿地を渡らなければなりませんでしたが、荷車を通過させるにはロープを結び付けなければならなかったのですが、預言者はだれよりも先に素足になると、ロープを手にしました。困難に直面するといつも見られる、いかにもジョセフらしい振る舞いでした。

わたしたちは旅を続け、休息も食事も取らずに25マイル〔40キロ〕を踏破して、〔ワケンダ〕川に到着しました。やむを得ず船でこの流れを渡ると、対岸に、野营地として理想的な場所を見つけました。空腹で疲れ切った隊員たちはこれを見て、報われた思いを抱いていました。ところがそこに到着すると、預言者は旅を続けなければならないと感じていることを陣営の人々に告げ、先頭を切って進んで行き、兄弟たちについて来るように促しました。

これによって陣営に分裂が生まれました。ライマン・ホワイトとほかの者たちは最初預言者に従うのを拒みましたが、最終的にはついて来ました。その後の出来事から、預言者が靈感を受けて約7マイル〔11キロ〕の距離まで進んでいたことが分かりました。その晩、川を渡った地点から約8マイル〔13キロ〕下流で、わたしたちを襲うためにある一団が組織されていたことを、後に知らされたのです。』¹⁹

シオンの陣営の行軍中、参加者の中につぶやき、不平を言う人々がいた。預言者はかかわった者たちを懲らしめ、もし悔い改めなければ災いを受けるだろうと警告した。勧告に耳を傾ける者もいたが、そうしない者もいた。間もなくコレラが発生し、数人の隊員が死亡した。後に十二使徒定員会で働いたオーソン・ハイドは、次のように回想している。「預言者は隊員たちの幸せについて心配するのをやめたでしょうか。友人たちが懲らしめと艱難を受けているときに、彼らから気持ち離れていったのでしょうか。厳しい言葉をかけましたが、そのとき彼らの敵となったのでしょうか。いいえ。ジョセフの心は思いやりに満ち、胸は愛と哀れみと優しさで燃えていました。危機に瀕したときに愛を注ぐ真の友の熱意と忠誠をもって、ジョセフは病気の人々や瀕死の人々に仕え、また死者の埋葬を手伝いました。厳しい試練の間、

ジョセフのすべての行いは、陣営の人々の心に次のような確信を強めていきました。すなわち、自分たちのあらゆる過ちにもかかわらず、ジョセフはなおも愛してくれている、と。』²⁰

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 284ページの第1段落を読んでください。預言者ジョセフ・スミスの指導方法にはどのような長所が見られるでしょうか。ほとんどの人はそのような指導者に対してどのような行動を取ると思いますか。
- 指導者が御霊を通して知恵を得る必要があることについて、預言者の教えを読んでください（285-287ページ）。指導者が必要な知恵を得るためには、何が助けになるでしょうか。
- 285ページの第2段落を読んでください。謙遜さと無私の精神が指導者の特質として不可欠なのはなぜでしょうか。指導者はほかにどのような特質を備えているべきだと思いますか。
- ジョセフ・スミスは聖徒たちに対する愛と優しさに満ちた思いを率直に語っています（287ページ）。指導者が心から愛してくれているとき、どのようにそれが分かりますか。これまでどのようなときに、指導者の愛を通じて祝福を受けてきましたか。
- 281-283ページと287-290ページにある、シオンの陣営についての報告を研究してください。預言者は指導者としてどのような特質を示していますか。
- 家族、教会、職場、学校、地域社会などにおける自分の指導的責任について考えてください。ジョセフ・スミスの模範に従うために自分にできることについて考えてください。

関連聖句——出エジプト18：13-26；箴言29：2；マタイ20：25-28；アルマ1：26；教義と聖約107：99-100

注

1. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1869年12月21日付, 1. 原文(英語)においては, つづりおよび大文字は現代の用法に修正
2. ジョセフ・ヤング・シニアによる引用, *History of the Church*, 第2巻, 182, 脚注。ジョセフ・ヤング・シニア, *History of the Organization of the Seventies* (1878年), 14から
3. ジョン・テラー “The Organization of the Church,” *Millennial Star*, 1851年11月15日付, 339
4. プリガム・ヤング, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1870年6月7日付, 3
5. *History of the Church*, 第6巻, 273. 1844年3月24日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
6. *History of the Church*, 第6巻, 343. 1844年4月25日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが書いた日記から
7. *History of the Church*, 第5巻, 426. 1843年6月11日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
8. *History of the Church*, 第4巻, 228-230. 原文(英語)においては, つづりおよび文法は現代の用法に修正。1840年12月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが十二使徒にあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1841年1月1日付, 259-260に掲載。 *History of the Church*では, この手紙は誤って1840年10月19日付けとされている
9. 1833年2月6日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスとそのほかの人々がオハイオ州トンプソンの教会員にあてて書いた手紙。 Letter Book 1, 1829-35, 25-26. Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
10. *History of the Church*, 第2巻, 370. 1836年1月15日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
11. *History of the Church*, 第3巻, 384. 1839年7月2日, アイオワ州モンローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
12. *History of the Church*, 第6巻, 412. 1844年5月26日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
13. *History of the Church*, 第5巻, 498. 1843年7月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
14. *History of the Church*, 第6巻, 500. 1844年6月18日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。 *History of the Church*の編さん者によって教人の目撃者の口頭による報告が一つの説教にまとめられた
15. ジョージ・A・スミス “History of George Albert Smith by Himself,” 30. George Albert Smith, Papers, 1834-1875年。教会記録保管課
16. *History of the Church*, 第2巻, 64-65. ヒーバー・C・キンボール “Elder Kimball’s Journal,” *Times and Seasons*, 1845年1月15日付, 771から
17. *History of the Church*, 第2巻, 73. ヒーバー・C・キンボール “Elder Kimball’s Journal,” *Times and Seasons*, 1845年1月15日付, 772から
18. *History of the Church*, 第2巻, 75. ジョージ・A・スミス “History of George Albert Smith by Himself,” 17から。 George Albert Smith, Papers, 1834-1875年。教会記録保管課
19. ジョン・M・チデスター “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年3月1日付, 151. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正
20. オーソン・ハイド, *Deseret News*, 1853年7月30日付, 66



ブリガム・ヤング（左）を含む兄弟たちを教える預言者ジョセフ・スミス。
ブリガム・ヤングは、預言者は「聖典を手にして、だれもが理解できるように
分かりやすく簡潔に教える」ことができたと言っている。



マタイ第13章の 救い主のたとえの真理

「エホバの強い腕に押されて、王国の戦車の車輪は
なおも転がり続けています。そしてどのような妨害を受けても、
主の言葉がすべて成就するまで転がり続けるでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

カートランド神殿の建設が完成に近づくと、ジョセフ・スミスと聖徒たちはそこで授かる大いなる祝福に備え始めた。兄弟たちを神殿の奉獻に備えるために、1835年11月に、ノーブーの長老の塾で新たな授業が始まった。この塾は1834年に設けられ、以前に設けられた預言者の塾を継承するものだった。

ほかの数々のテーマに加えて、ジョセフ・スミスと兄弟たちはヘブライ語を研究した。ヘブライ語は旧約聖書の原文のほとんどが記された言語である。この時期の自身の日記から、預言者はほぼ毎日、そして度々1日に何時間もヘブライ語を研究していたことが分かる。日記には、「ヘブライ語を読んで一日を過ごしました」あるいは「塾に出席し、ヘブライ語を読みました」といった記述が見られる。¹ 1836年1月19日、預言者は次のように記している。「一日を塾で過ごしました。主はわたしたちの研究を祝福してくださいました。今日はヘブライ語の聖書を読み始めましたが、とてもうまくいきました。主の言葉を原語のまま理解できるように、主が驚くべき方法でわたしたちの思いを開いてくださっているように思えます。」² その1か月後には次のように記している。「塾に出席し、いつものように塾生とともに聖書を読み、翻訳しました。主の言葉を原語のまま読むことに喜びを感じます。」³

ジョセフ・スミスが長老の塾で経験したことは、彼が聖文を愛していたことを裏付けている。聖文を熱心に研究したジョセフは、生涯を

通じてその中に慰めと知識と靈感を見いだしていた。特筆すべきは、ジョセフがわずか14歳のときに神からの知恵を求めて最初の示現を受けるきっかけとなったのは、聖書の一節であったということである（ヤコブの手紙1：5参照）。

預言者の書き物や説教には、聖句の引用や解き明かしが随所に見られる。ジョセフは聖文を幅広く研究していたため、片時も聖文が頭から離れることがなかったのである。教えの中で、ジョセフは聖句を直接引用し、それとなく言及し、言い換えて説明し、説教の基として用いた。「わたしは聖文を知っており、理解しています。」1844年4月、ジョセフはそう宣言している。⁴

その並外れた聖文の知識のゆえに、預言者は大きな力をもって明瞭に聖文を教え、解き明かすことができた。ジョセフが語るのを聞いた多くの人が、この能力を指摘している。ブリガム・ヤング大管長は、預言者ジョセフは「聖典を手にして、だれもが理解できるように分かりやすく簡潔に教える」ことができたと言っている。⁵

ワンドル・メースは次のように回想している。「多くの人が教壇から教えるジョセフに耳を傾けていますが、わたしの場合は公の場や個人的な機会を得て、また日差しの中や雨の中で、預言者ジョセフ・スミスの言葉に耳を傾けてきました。さらに、わたしの家やジョセフの家でも、ジョセフと親しく接してきました。……そして、だれ一人として誤解する者がいないほど、分かりやすく、容易に理解できるように聖文を説明することは、神から教えを受けていないかぎりできないということをはっきりと知りました。

わたしは時々自分を恥ずかしく思うことがありました。幼いころから聖文をかなり研究してきたにもかかわらず、ジョセフが説明するときほどははっきりと理解できたことはなかったからです。たとえて言うなら、ジョセフが鍵を回すと知識の扉が瞬時に大きく開き、数々の貴い原則が、新しいものも古いものも明らかにされるのでした。⁶

マタイ第13章に記された救い主のたとえを預言として解き明かした以下の手紙には、ジョセフ・スミスが聖文について豊かな知識を持っていたことがはっきりと示されている。預言者は、これらのたとえが救い主の時代における教会の設立と、末日における教会の驚くべき成長と行く末を述べたものだと教えている。

ジョセフ・スミスの教え

救い主はたとえて語られた。これによって主の教えを信じる人は
 いっそう大いなる光を得ることができるが、
 主の教えを拒む人は持っていた光を失うことになる

『それから、弟子たちが〔救い主〕に近寄ってきて言った、「なぜ、彼らに譬たとえでお話しになるのですか。」「ここで述べておくと、この問かけの中で用いられている「彼ら」は……群衆を指しています。〕そこでイエスは答えて〔すなわち、弟子たちに〕言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼ら〔すなわち、不信仰な者たち〕には許されていない。おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。』〔マタイ13：10-12〕

この言葉から、次のことが分かります。すなわち、預言者たちが証したとおりにメシヤが来られるのを以前から待ち望み、そのときもメシヤを待ち望んでいながら、人々は不信仰のために、主が自分たちの救い主であられること、また主がまことのメシヤであられることを見分けるだけの光を持っていませんでした。結果として人々は失望を味わい、すべての知識を失いました。つまりこのテーマについて持っていたすべての光と理解と信仰を奪われてしまったに違いありません。したがって、いっそう大いなる光を受け入れない人は、持っているすべての光を奪われてしまうに違いありません。もし皆さんの内にある光が暗闇くらやみと化すならば、その暗さはどんなに深いことでしょう。救い主は次のように語っておられます。『だから、彼らには譬で語るのである。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからである。こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。「あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。』〔マタイ13：13-14〕

さて、なぜ彼らがメシヤを受け入れようとしなかったかについて、この預言者〔イザヤ〕が説明した理由は、彼らが理解せず、あるいは理解しようとしせず、見ても認めなかったためであることが分かります。『この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである。』〔マタイ13：15〕その一方で主は弟子たちに何と言われたのでしょうか。『あなたがたの目は見ており、耳は

聞いているから、さいわいである。あなたがたによく言うておく。多くの預言者や義人は、あなたがたの見ていることを見ようと熱心に願ったが、見ることができず、またあなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである。』〔マタイ13：16-17〕

ここで再び説明したいと思います。弟子たちが幸いであると言われたのは、彼らが自分の目で見、自分の耳で聞くのを許されたからであることが分かります。また、主の言葉を受け入れなかった群衆に罪の宣告が下されたのは、彼らが進んで自分の目で見、自分の耳で聞こうとしなかったためでした。見たり聞いたりすることができなかったためでも、そうする特権が与えられなかったためでもなく、彼らの心が罪悪と忌まわしい行いに満ちていたためであり、『それは、あなたがたの先祖たちと同じ』でした〔使徒7：51〕。預言者〔イザヤ〕は、彼らがそのように心をかたくなにするのを予見し、そのことをはっきりと宣言したのです。そしてここにこの世が受ける罪の宣告があります。すなわち、光がこの世に来たにもかかわらず、人々はその行いが悪いために、光よりも暗闇を選ぶのです。気にも留めずに通り過ぎて行く人がこれを誤解することのないように、救い主は非常にはっきりと教えておられます。

……神の僕たちが真理を明らかにすると、人々は決まってこう言います。『あらゆることがなぞめいています。彼らはたとえで語っており、そのために理解できません。』なるほど彼らは見る目がありながら見ないのですが、見ようとしぬ人ほど見えない人はいません。救い主はそのような人々に向かって語られたわけですが、しかし弟子たちにははっきりと説き明かされました。そしてわたしたちは、先祖の神の前に心からへりくだらずにはいられません。神がこれらのことを分かりやすく記録に残してくださったからです。もしわたしたちが目を開き、少しの間偏見を持たずに読みさえすれば、バアルの祭司たちが結束して力を及ぼそうとしても、わたしたちの目をくらまし、理解を暗くすることはできません。』⁷

種まきのたとえは、福音を宣べ伝えた結果を示している。また、救い主が時の中間に御自分の王国を設立されたことも示している

「救い主が〔マタイ第13章〕に記されているこれらの美しい言葉やたとえを語られたとき、群衆がその言葉を聞こうとして押し寄せて来たために、主は舟に座られたと記されています。そして彼らに教え始めて、次のように言われました。

『見よ、種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまった。ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞くがよい。』〔マタイ13：3-9〕……

ここで種まきのたとえの説明に耳を傾けてください。『だれでも御^み國^{くに}の言^{ことば}を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪い行って行く。』ここで、『その人の心にまかれたもの』という表現に注目してください。『道ばたにまかれたもの』というのは、そういう人のことである。』〔マタイ13：19〕義の原則に従わず、心が罪悪に満ちていて、真理の原則を望んでいない人々は、真理の言葉を聞いても理解しません。義への望みがないので、悪魔がその心から真理の言葉を取り去ってしまいます。

『石地にまかれたものというのは、御^み言^{ことば}を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことである。その中に根がないので、しばらく続くだけであって、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう。また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであって、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである。』〔マタイ13：20-23〕

このように、救い主は御自分が語ったたとえを自ら弟子たちに説明され、主の言葉を固く信じる人々の思いになぞやあいまいな部分をいっさい残されませんでした。

そこで、次のように結論づけることができます。群集、すなわち救い主に世の人々と呼ばれた者たちが主のたとえについて説明を受けなかったのは、不信仰のゆえにほかなりませんでした。あなたがたには神の王国の奥義を知ることが許されていると、主は（弟子たちに語って）言うておられます〔マタイ13：11参照〕。なぜでしょうか。彼らが主に信仰と信頼を寄せていたからです。このたとえは、御言葉を宣べ伝えることによって生じる結果を示すために語られました。またその時代における王国の始まり、すなわち王国の設立について直接言及



「見よ、種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。
……ほかの種は良い地に落ちて実を結〔んだ〕。」

したものであると、わたしたちは信じています。ですから、その時代からまさに世の終わりに至るまで、この王国について語られた主の言葉を、さらに調べていきましょう。』⁸

**小麦と毒麦のたとえは、義人が集められて悪人が焼かれる
世の終わりまで、義人と悪人が一緒に育つことを教えている**

『また、ほかの譬^{たとえ}を彼らに示して言われた〔このたとえも、その時

代における王国の設立について述べています)、「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。芽がはえ出て実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか。』主人は言った、『それは敵のしわざだ。』すると僕たちが言った『では行って、それを抜き集めましょうか。』彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう。』〔マタイ13：24-30〕

さて、このたとえから、実を結んだ良い種が象徴する救い主の時代における王国の設立についてだけでなく、毒麦が象徴する教会の腐敗についても学ぶことができます。毒麦は敵によってまかれたもので、もし救い主の承認があったとしたら、弟子たちは進んで毒麦を抜いていた、すなわち教会を清めるためにそれらを取り除いていたでしょう。しかしすべてのことを御存じである主は、そうしてはならないと言われました。それはあたかも次のように言っておられたかのようです。すなわち、あなたがたの考えは正しくない。教会は幼年期にあり、もしそのような性急な措置を講じるなら、小麦すなわち教会を、毒麦と一緒に滅ぼすことになるだろう。だから収穫のときすなわち世の終わりまで、それらが一緒に育つままにしておく方がよい。世の終わりとは悪人の滅亡を意味し、それはまだ成就していない。……

『……弟子たちは、みもとにきて言った、「畑の毒麦の譬を説明してください。」イエスは答えて言われた、「良い種をまく者は、人の子である。畑は世界である。良い種と言うのは御国の子たちで、毒麦は悪い者の子たちである。』」〔マタイ13：36-38〕

読者は次の表現に注目してください。『畑は世界である。……毒麦は悪い者の子たちである。それをまいた敵は悪魔である。収穫とは世の終りのことで〔この表現にしっかり注目してください。世の終わりです〕、刈る者は御使たちである。』〔マタイ13：38-39〕

さて、これは比喩であって、語られているまを意味するのではない、と言う人がいても、その根拠となり得るものは存在しません。主はここで、御自分が以前に語られたたとえを説明しておられるからです。その説明によれば、世の終わりとは悪人の滅亡であり、収穫と世

の終わりは、多くの人が考えてきたように地球について述べたものではなく、終わりの時における人類家族について直接言及したものであって、それは人の子の来臨と、世の初めからすべての聖なる預言者の口を通して語られている万物の更新に先立つ出来事です。そしてこの大いなる業には天使たちがかかわることになります。彼らは刈る者だからです。

『だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終りにもそのとおりになるであろう。』〔マタイ13：40〕つまり、神の僕たちが出て行ってもろもろの国民に、祭司たちにも民にも警告しているにもかかわらず、彼らが心をかたくなにして真理の光を拒むとき、これらの人々はまずサタンに引き渡されて打たれ、律法と証あかしは閉ざされ、……彼らは暗闇くらやみの中に置かれて、焼き払いの日に引き渡されます。こうして彼らはその信条によって束ねられ、その縄は彼らの祭司たちにより強く縛られて、救い主の言葉が成就する用意が整うのです。『人の子はその使つかいたちをつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国みくにからとり集めて、炉の火に投げ入れさせるであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。』〔マタイ13：41-42〕

わたしたちは次のように理解しています。すなわち、小麦を集めて倉に納める業は、焼き払いの日に備えて毒麦が束ねられている間に行われます。そして焼き払いの日の後、『義人たちは彼らの父の御国で、太陽のように輝きわたるであろう。耳のある者は聞くがよい。』〔マタイ13：43〕⁹

からし種のたとえは、この終わりの時に設立される教会と 神の王国が全地に広がることを教えている

「さらにまた、主は彼らにもう一つのたとえを語り、収穫の直前または収穫のときに建てられるはずの王国について述べられました。それは次のとおりです。『天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる。』〔マタイ13：31-32〕さて、終わりの時に出て来る教会を表すためにこのたとえが用いられていることが明らかです。天の王国はからし種にたとえられます。では、何が似ているのでしょうか。

モルモン書を例に考えてみましょう。ある人がそれを取って丘に隠し、終わりの時に、すなわち定められたときに出て来るように、信仰によってそれを安全に保管しました。それが地の中から出て来るのを見てください。実際にあらゆる種の中で最も小さいと考えられていますが、それが枝を伸ばし、さらに空に向かって高く枝を広げ、神のような尊厳をもって高くそびえ立つことに注目してください。そしてからし種のように、あらゆる草木の中で最も大いなるものとなります。それは真理であり、すでに芽を出して地表に出ています。そして、義は天から見下ろし始め〔詩篇85：11；モーセ7：62参照〕、神は御自分の力と賜物^{たまもの}と天使を遣わして、その枝に宿らせておられます。

天の王国は一粒のからし種のようなものです。では、終わりの時に神の権威を着て頭を上げようとしているこの天の王国、すなわち末日聖徒の教会は、強固で不動の岩^{いわ}のようではないでしょうか。巨大な深みの中にあるこの岩は、サタンの嵐^{あらし}と暴風雨にさらされています。悪巧みの激しい嵐によって引き起こされる山のような迫害の波が、義の敵によって増幅された怒りをもって押し寄せ、これまで〔激しく打ちつけ〕、今もなおさまざまの泡を立てながら激しく打ちつけています。それでもその岩はこれまで確固として立ち、今もなおそのような波に勇敢に立ち向かっているのです。……

暗闇の雲^{くも}が、巨大な波のように末日聖徒の教会という不動の岩をずっと打ち続けてきました。それにもかかわらず、からし種はなおも空に向かってますます高く枝を伸ばし、ますます広がっています。エホバの強い腕に押されて、王国の戦車の車輪はなおも転がり続けています。そしてどのような妨害を受けても、主の言葉がすべて成就^{じょうじゆ}するまでさらに転がり続けるでしょう。』¹⁰

三人の証人^{あかし}の証と末日の聖典は、粉に混ぜたパン種のようなものである。また網のたとえは、全世界における集合について教えている

「『またほかの譬^{たとえ}を彼らに語られた、「天国は、パン種のようなものである。女がそれを取って三斗^との粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる。』』〔マタイ13：33〕末日聖徒の教会は、三人の証人^{あかし}に与えられた少しばかりのパン種から興^{おこ}ったと理解することができます。これがどれほどたとえと一致するかを考えてください。見てください。パン種は急速に塊の一部を膨らませており、やがて全体を膨らませるでしょう。……



教会は「強固で不動の岩のようではないでしょうか。巨大な深みの中にあるこの岩は、サタンの嵐と暴風雨にさらされています〔が〕……これまで確固として立〔っています〕。」

『また天国は、海におろして、あらゆる種類の魚を囲みいれる網のようなものである。それがいっぱいになると岸に引き上げ、そしてすわって、良いのを器に入れ、悪いのを外へ捨てるのである。』〔マタイ13：47-48〕このたとえで述べられている業については、ヨセフの子孫が地の面に福音の網を広げ、あらゆる種類の人を集めていることに目を向けてください。良いものを救って用意された器の中に入れるためであり、悪いものについては天使たちが対処するでしょう。『「世の終りにも、そのとおりになるであろう。すなわち、御使たちがきて、義人のうちから悪人をえり分け、そして炉の火に投げこむであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。あなたがたは、これらのことが皆わかったか。」彼らは「わかりました」と答えた。』〔マタイ13：49-51〕そしてわたしたちも答えます。『主よ、わかりました』と。彼らが『わかりました』と言ったのはもっともなことです。

これらは非常に分かりやすく、また非常に輝かしい出来事であり、終わりの時のすべての末日聖徒は、彼らに心から『アーメン』と言うに違いありません。

『そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである。』」〔マタイ13：52〕

このたとえで述べられている業については、モルモン書が心の倉から出て来たことに目を向けてください。また末日聖徒に与えられた聖約〔教義と聖約〕や、聖書の翻訳も同様です。このように新しいものと古いものとを心の倉から取り出しています。またイエス・キリストの啓示と、終わりの時にすでにこの業を始めている天使たちの働きに触れて聖め^{きよ}められている3斗の粉にたとえられるように、それは塊全体を膨らませるパン種のようになるでしょう。アーメン。』¹¹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 293-294ページを読んでください。ジョセフ・スミスの模範から、わたしたち自身の聖文研究に役立つどのようなことが学べますか。
- 救い主が時々たとえで教えられた理由について、ジョセフ・スミスの説明を読んでください (295-296ページ)。福音の真理を学ぶときに、自分の目で見、自分の耳で聞くとはどういう意味だと思えますか。いっそう大いなる光を進んで受け入れないと光が取り去られてしまうのはなぜだと思いますか。さらに福音の光を受けるには、どのようなことをする必要があるのでしょうか。
- 種まきのたとえを研究してください (296-298ページ)。救い主はこのたとえの中で、同じ福音のメッセージでも、どのように受け入れられるかによって結果が異なることを示しておられます。神の言葉が「心が罪悪に満ちてい〔る〕」人々の中で育つことができないのはなぜでしょうか。なぜある人たちは艱難^{かんなん}や迫害のために神の言葉から離れてしまうのでしょうか。「世の心づかい」や「富の惑わし」はどのようにして御言葉^{みことば}をふさぐのでしょうか。

- 御言葉がまかれるときにわたしたちの「地」が良い土壤であるようにするには、どうすればよいでしょうか。子供たちに御言葉を受け入れる心の備えをさせるために、両親はどのような助けができるでしょうか。
- 小麦と毒麦のたとえの中で（298-300ページ）、小麦は義人すなわち「御国の子たち」を表し、毒麦は「悪い者の子たち」を表しています。「毒麦」が「小麦」の間で育つのを許されている中で、わたしたちはどうすれば忠実であり続けることができるでしょうか。教義と聖約86：1-7は、このたとえを理解するうえでどのような助けとなるでしょうか。
- 今日の教会は、どのような点でからし種のたとえの成長していく木に似ているでしょうか（例として、300-301ページ参照）。
- 301-303ページを読んでください。パン種はパン生地を膨らませるものであることに注目してください。末日の聖典は、教会にとってどのような点でパン種のようなものでしょうか。あなた個人にとってどのような点でパン種のような働きをしているのでしょうか。末日の聖典は、どのような点で倉の「新しいものと古いもの」にたとえられるでしょうか。
- 福音の網のたとえの中で（302-303ページ）、網があらゆる種類の魚を集めることに大きな意味があるのはなぜだと思いますか。このたとえは今日どのように成就しているでしょうか。

関連聖句——ルカ8：4-18；アルマ12：9-11；教義と聖約86：1-11；101：63-68

注

1. *History of the Church*, 第2巻, 326, 387。1835年12月7日および1836年1月29日、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
2. *History of the Church*, 第2巻, 376。1836年1月19日、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
3. *History of the Church*, 第2巻, 396。1836年2月17日、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
4. *History of the Church*, 第6巻, 314。1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ、ウィラード・リチャーズ、トーマス・ブロック、ウィリアム・クレイトンによる報告
5. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1857年12月30日付, 340。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正
6. ワンドル・メース, 自伝（1890年ごろ）, 45, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
7. *History of the Church*, 第2巻, 265-266。原文（英語）においては、第1段落の第2, 第3, および第4の角括弧の部分は当時の表記のまま。その他の句読点および文法は現代の用法に修正。1835年12月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙か

- ら。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 225-226に掲載
8. *History of the Church*, 第2巻, 264-267。原文（英語）においては、句読点および文法は現代の用法に修正、段落は変更。1835年12月、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 225-226に掲載
 9. *History of the Church*, 第2巻, 267, 271。原文（英語）においては、第1段落の最初の角括弧の部分、および第4段落の最初の角括弧の部分は当時の表記のまま、その他の句読点および大文字は現代の用法に修正、段落は変更。1835年12月、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 226-229に掲載
 10. *History of the Church*, 第2巻, 268, 270。原文（英語）においては、第3段落の角括弧の部分は当時の表記のまま、その他の句読点、大文字、および文法は現代の用法に修正。1835年12月、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 227-228に掲載。教会の正式名称の変更については、xviページを参照
 11. *History of the Church*, 第2巻, 270, 272。原文（英語）においては、句読点および大文字は現代の用法に修正、段落は変更。1835年12月、オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが教会の長老たちにあてて書いた手紙から。*Messenger and Advocate*, 1835年12月号, 228-229に掲載



「もう一つの大いなる栄えある示現が突如わたしたちに開かれた。死を味わうことなく天に取り去られた預言者エリヤが、わたしたちの前に立っ [た]。」



エリヤと結び固めの鍵^{かぎ}の回復

「神はどのようにしてこの時代の人々を救い出されるのでしょうか。
神は預言者エリヤを遣わされるでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1836年の春、3年にわたる労働と犠牲の末、カートランドの聖徒たちはついに美しい神殿の完成を見た。この神権時代における最初の神殿であった。3月27日曜日、900人以上の人が奉献式のために神殿の礼拝堂と玄関のホールに集まった。ほかにも大勢の人が、入り切れなかった人のために隣接する学校の教室で開かれた集まりに出席し、さらに神殿の外で、開いた窓から聞こえる声に耳を傾ける者たちもいた。預言者自ら、会員たちが着席できるよう案内した。

大管長会の顧問であるシドニー・リグドンの説教に続いて、会衆は、ウィリアム・W・フェルプスの作詞になる「いざ救いの日を楽しまん」と「アダム・オンダイ・アーマン」を歌った。次にジョセフ・スミスが立ち上がり、すでに啓示によって与えられていた奉献の祈りをささげた。祈りの中で、ジョセフはふさわしい状態で神の神殿に来る人々に授けられる数々の驚くべき祝福について述べた（教義と聖約109章参照）。聖歌隊が「主のみたまは火のごと燃え」を歌った後、会衆は立ち上がって、「屋根を建物から持ち上げるほどの力を込めて」¹ホサナの叫びをささげた。

奉献の祈りの中で、預言者は「激しい大風のごとく、あなたの宮があなたの栄光で満たされますように」と述べた（教義と聖約109：37）。これは文字どおりに成就^{じょうじゆ}し、奉献式の間に天上の人々がいたことを、多くの聖徒が証^{あかし}している。エライザ・R・スノーは次のように回想している。「あの奉献式について語ることはできるかもしれませんが、人間の言葉では、あの忘れられない日に起きた天の現れを描写することはできません。ある人々に天使たちが現れ、出席していたすべての人が神の臨在を実感し、それぞれの心が『言いようのない、栄光に満

ちた喜び』で満たされました〔1ペテロ1：8参照〕。²

その晩、預言者は約400人の神権者とともに神殿に集まっていた。すると「激しい大風の音のようなどろきが起きて、神殿を満たし、すべての会衆が目に見えない力に促されて一斉に立ち上が〔った〕。」預言者は次のよう述べている。「多くの人々が異言で語り、預言し始めました。栄えある示現を見た人々もいました。わたしは神殿内に大勢の天使がいるのを見て、そのことを会衆に知らせました。』³

その1週間後、4月3日曜日に神殿で開かれた集会において、きわめて重要な現れが起こった。預言者はほかの教会指導者が聖餐^{せいさん}を執行するのを手伝った後、オリバー・カウドリとともに教壇に退いて、幕の後ろでひざまずき、厳粛に祈りをささげた。二人が祈りを終えて立ち上がると、救い主御自身が彼らに御姿^{みすがた}を現し、神殿を承認することを宣言されたのである。「見よ、わたしはこの家を受け入れた。そして、わたしの名はここにあるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。」（教義と聖約110：7）

この示現が閉じた後、ジョセフとオリバーは3つの異なる示現を見た。その示現の中で、主の末日の業に必要な神権の鍵^{かぎ}を回復するために、昔の預言者たちが二人に現れたのである。預言者モーセが現れて、彼らに「地の四方からのイスラエルの集合の鍵」をゆだねた。またエライアスが現れて、彼らに「アブラハムの福音の神権時代」をゆだねた（教義と聖約110：11-12参照）。

その後、もう一つの栄えある示現の中で、ジョセフとオリバーは預言者エリヤを見た（教義と聖約110：13-16参照）。エリヤの訪れは非常に重要なものだったため、昔の預言者マラキはそのことを幾世紀も前に預言しており、さらに救い主はその預言をニューファイ人に繰り返された（マラキ4：5-6；3ニューファイ25：5-6；26：1-2参照）。エリヤは訪れて、ジョセフとオリバーに結び固めの鍵、すなわち地上で執り行われるすべての儀式を天でつなぎ、有効とする力をゆだねた。結び固めの力の回復は、この世を救い主の再臨に備えるうえで必要であった。それがなければ「主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃する」からである（ジョセフ・スミス—歴史1：39）。

ジョセフ・スミスの教え

昔の預言者マラキはエリヤが来ることを予告した

預言者ジョセフ・スミスは、1823年9月21日の晩にモロナイの訪れを受けたときのことを次のように述べており、それらはジョセフ・スミス—歴史1：36-39に記録されている。「〔モロナイは〕最初にマラキ書の第三章の一部を引用し、またわたしたちの『聖書』に言われているのとは少し異なるが、同じ預言の第四章、すなわち最後の章も引用された。わたしたちの『聖書』にあるとおりに第一節を引用する代わりに、次のように引用された。

『見よ、炉のように燃える日が来る。すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのように燃える。やがて来る者たちが彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない、と万軍の主は言う。』

さらにまた、その方は第五節を次のように引用された。『見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。』

また、その次の節を言葉を違えて引用された。『彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。』⁴

エリヤはカートランド神殿でジョセフ・スミスと オリバー・カウドリに現れた

ジョセフ・スミスは、昔の預言者エリヤが1836年4月3日にカートランド神殿で自分とオリバー・カウドリに現れたことについて述べ、それらは後に教義と聖約110：13-16に記録された。「もう一つの大きな栄えある示現が突如わたしたちに開かれた。死を味わうことなく天に取り去られた預言者エリヤが、わたしたちの前に立って言った。

『見よ、マラキの口を通して語られた時がまさに来た。』マラキとは、主の大いなる恐るべき日が来る前に彼〔エリヤ〕が遣わされ、先祖の心の子孫に、子孫の心を先祖に向^{あかし}けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする、と証した人である。『それゆえ、この神権時代の鍵^{かぎ}はあなたがたの手にゆだねられている。これによってあなたがたは、主の大いなる恐るべき日が近く、まさに戸口にあるのを知ることができる。』⁵

エリヤは結び固めの鍵^{かぎ}、すなわち地上で執り行われるすべての儀式を天でつなぐ力と権能を回復した

「『主の大なる恐るべき日の前に、わたしは預言者エリヤを遣わす。』〔マラキ4：5参照〕なぜエリヤが遣わされるのでしょうか。エリヤが神権のすべての儀式を執行する権能の鍵を持っているからです。その権能が与えられ〔なければ〕、儀式を義にかなって執行することはできません。』⁶

預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちにあてた手紙の中で次のように述べ、それらは後に教義と聖約128：8-11に記録された。「この儀式〔死者のためのバプテスマ〕の本質は、イエス・キリストの啓示による神権の力にあります。これによって、あなたがたが地上でつなぐことは何でも天でつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは何でも天で解かれるということが認められるのです。……

わたしたちが語っていること、すなわち地上で記録し、すなわちつなぎ、かつ天でもつなぐ力があるということは、ある人々には、非常に大胆な教義であると思われるかもしれません。しかしながら、世のあらゆる時代において、主がある人に、あるいはある人々の集団に、実際の啓示によって神権の施しを授けられたときはいつでも、この力が常に授けられてきたのです。したがって、何事であろうと、それらの人が権能によって、主の御名^{みな}によってなし、正しくかつ忠実に行い、それについての適切かつ正確な記録を記したことは、大なるエホバの定めによって地上でも天でも一つの律法となり、取り消せないものとなったのです。これは確かな言葉です。だれがそれを聞くことができるでしょうか。

さらにまた、その先例として、マタイによる福音書第16章18、19節があります。『そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。地獄の門もそれに打ち勝つことはない。わたしは、あなたに天の王国の鍵を授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは何でも天でつなぐれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるであろう。』

さて、この事柄全体の偉大かつ重要な奥義と、わたしたちの前にある事項全体の最高善は、聖なる神権の力を得ることにあるのです。これらの鍵を授けられる者にとって、人の子らの救い、すなわち死者と生者の両方の救いに関して、数々の事実を知ることは少しも難しいことではありません。』⁷

**結び固めの力によって、家族をこの世においても永遠にわたっても
結び固めることができ、また死者のために神聖な儀式を
執行することができる**

「エリヤの霊と力と召しとは、すなわち皆さんには啓示、儀式、神託、力、エンダウメントの鍵かぎを持つ力があるということです。それは、メルキゼデク神権と地上における神の王国のすべてに関わるものです。それは、神の王国に属するすべての儀式を受け、得、執行するためのものであり、先祖の心を子孫に、先祖すなわち天にいる人々に子孫の心に向けるためのものです。

マラキは次のように述べています。『主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。』〔マラキ4：5-6〕

さて、わたしが求めているのは神についての知識であり、それを得るためにわたしは自分の道を進みます。終わりの時にあってわたしたちはこの聖句から何を理解するべきでしょうか。

ノアの時代に、神は洪水によって世の人々を滅ぼされました。そして終わりの時には火によって滅ぼすと断言しておられます。しかしその前に、まずエリヤが来て、先祖の心を子孫に向けさせなければなりません。

ここからが要点です。このエリヤの務めと業とは何でしょうか。それは神がこれまでに明らかにされた最も偉大で重要な事柄の一つです。神は、子孫を先祖に、先祖を子孫に結び固めるためにエリヤを遣わされます。

さて、これは地上における家族の問題を解決するための、生者だけのものだったのでしょうか。決してそうではありません。それよりもはるかに大いなる業でした。エリヤよ、もしここにいるとしたら何をしますか。あなたは生者だけのために働きますか。いいえ。この件を明らかにしている聖句を参照しましょう。すなわち、わたしたちなしには、彼らが完全な者とされることはなく、彼らなしにわたしたちが完全な者とされることもありません。子孫なしに先祖が、先祖なしに子孫が完全な者とされることはないのです〔ヘブル11：40参照〕。

このことを皆さんが理解するように願っています。なぜならこれは



「わたしたちは思慮深くなければなりません。皆さんが最初に行くことは、行って、地上で自分の息子や娘を自分自身に結び固め、自分自身を永遠の栄光の中にいる自分の先祖に結び固めることです。」

重要なことだからです。もし皆さんがそれを受け入れるなら、これがエリヤの霊です。すなわち、わたしたちは死者を贖い、自分たちを天あがなにいる先祖とつなぎ、第一の復活に出て来るように死者を結び固めます。そして、地上に住む人々を天に住む人々に結び固めるエリヤの力がこの地上で必要なのです。これがエリヤの力であり、エホバの王国の鍵です。……

繰り返します。エリヤの教義すなわち結び固めの力とは次のとおりです。もし皆さんが地上と天で結び固める力を持っているのであれば、わたしたちは思慮深くなければなりません。最初に行くことは、行って、地上で自分の息子や娘を自分自身に結び固め、そして自分自身を永遠の栄光の中あがなにいる自分の先祖に結び固めることです。』⁸

エリヤの訪れは救い主の再臨に向けて必要とされる備えだった

「人の子の来臨に備えさせるために、生者も死者も、子孫の心は先祖に、先祖の心は子孫に向けられなければなりません。もしエリヤが来なかったならば、全地は打たれていたことでしょう。」⁹

「エライアスは道を備えるための先駆ける者であり、エリヤの霊と力は後から来て、力の鍵かぎを持ち、神殿を笠石かさいしに至るまで建て、イスラエルの家にメルキゼデク神権の承認のしるしを施し、すべてのことについて用意を整えます。そして最後に、メシヤが神殿に来られるのです。……エリヤは、主の大いなる日が来る前に、訪れて道を備え、王国を築き上げることになっていました。」¹⁰

「世界は終わりの時まで焼き払われることはありません。主は預言者エリヤを遣わされます。そしてエリヤは子孫との関連における先祖の聖約と、先祖との関連における子孫の聖約を明らかにします。」¹¹

「神はどのようにしてこの時代の人々を救い出されるのでしょうか。神は預言者エリヤを遣わされるでしょう。……エリヤは先祖の心の子孫に、子孫の心を先祖に結び固めるための聖約を明らかにするでしょう。」¹²

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 救い主はカートランド神殿で御自身を現されたとき、ジョセフ・ミスとオリバー・カウドリに「わたしは憐れみあわをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう」と告げられました（308ページ）。結び固めの鍵かぎの回復は、どのような意味で主の憐れみの現れとなるのでしょうか。主はほかにどのような方法で神殿において御自身を現されるのでしょうか。
- 309ページの第3および第4段落を研究してください。エリヤの使命について、これらの段落はマラキ4：5-6からは知ることのできないどのようなことを教えていますか。これらの違いの大切な点は何でしょうか。

- 310ページにある、結び固めの力についての説明を研究してください。結び固めの力とは何ですか。この力はあなたとあなたの家族にとってなぜ大切でしょうか。
- エリヤの業について、ジョセフ・スミスの説明を読んでください(311-312ページ)。エリヤの霊とは何ですか。この末日にエリヤが来てその業を果たすことは、なぜそれほど大切だったのでしょうか。
- すでに亡くなった家族の人たちにあなたが心を向けた経験として、どのようなものがありますか。子供たちが先祖に心を向けるように、両親にはどのような助けができるのでしょうか。
- 309ページの最後の段落と、313ページの最初の段落を読んでください。結び固めの力がなければ地が「のろいをもって打たれ」ていたのはなぜだと思いますか。

関連聖句——ヒラマン10：4-10；教義と聖約132：45-46；138：47-48；『聖句ガイド』「エリヤ」57-58

注

1. エライザ・R・スノー。エドワード・W・トゥーリッジ, *The Women of Mormondom* (1877年), 94で引用
2. エライザ・R・スノー, *The Women of Mormondom*, 95で引用
3. *History of the Church*, 第2巻, 428。“History of the Church” (原稿), book B-1, 補遺, 3-4から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
4. ジョセフ・スミス—歴史1：36-39
5. 教義と聖約110：13-16。原文（英語）においては、角括弧の部分は当時の表記のまま。1836年4月3日にオハイオ州カートランドの神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた示現
6. *History of the Church*, 第4巻, 211。1840年10月5日にジョセフ・スミスが用意し1840年10月5日にイリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会で読んだ説教から
7. 教義と聖約128：8-11。1842年9月6日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが聖徒たちにあてて書いた手紙
8. *History of the Church*, 第6巻, 251-253。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正。1844年3月10日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
9. *History of the Church*, 第3巻, 390。1839年7月ごろイリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第6巻, 254。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正, 段落は変更。1844年3月10日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
11. *History of the Church*, 第5巻, 530。1843年8月13日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
12. *History of the Church*, 第5巻, 555。原文（英語）においては、段落は変更。1843年8月27日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告



背教の苦い実に警戒する

「試練や^{かんなん}艱難や病のとき、苦しんでいるとき、
 そのような場合に必ず注意してください。たとえ死に迫られても、
 神を裏切ることのないように、……背教することのないように
 気をつけてください。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1836年の春、カートランド神殿完成の前後数週間にわたって、聖徒たちは互いに和合一致した時期を過ごし、^{みたま}御霊の賜物^{たまもの}が豊かに注がれるのを経験した。しかし預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちに、義にかなった生活を続けなければ、喜びと一致が続くことはないだろうと警告した。この時期について、ダニエル・タイラーは次のように述べている。「すべての人が天国とはどのような所かを感じることができました。実際、わたしたちは数週間にわたって悪魔の誘惑を受けることがなく、福千年が始まったのだらうかと思いました。〔神権者の集会〕で、預言者ジョセフ・スミスが説教をしました。預言者は中でも特にこう語りました。『兄弟の皆さん、しばらくの間サタンは皆さんを誘惑する力を持ちませんでした。もう誘惑はないと思っている人がいます。しかし反対のことが起こるでしょう。主の近くにいないと、皆さんは打ち負かされて背教することになるでしょう。』¹

その年、時が過ぎていくにつれて、カートランドの一部の聖徒たちの間に背教の気運が高まっていった。ある会員たちは高慢になり、^{どんよく}貪欲になり、戒めに従わなくなった。教会員が設立したカートランドの金融機関が^{はたん}破綻し、それに起因する経済的な問題のために、教会の指導者を非難する者もいた。破綻が生じたのは1837年のことで、同じ年には銀行恐慌が合衆国全土を襲い、聖徒たちの経済問題に拍車をかけた。カートランドでは200人ないし300人もの会員が教会を離れ、教会に反対する人々と手を組んで聖徒たちを苦しめ、暴力による脅しをかけることさえあった。背教者の中には、預言者は墮落していると公



ジョセフ・スミスは教会指導者を支持することの大切さについて次のように教えている。「立ち上がって人を非難し、教会員の欠点を探し、自分は義にかなっているが彼らは道を外れていると言う人がいれば、その人は背教に至る道をまっしぐらに進んでい〔ます〕。」

然と主張し、代わって別の人物をその地位に就かせようとする者もいた。エライザ・R・スノー姉妹は次のように回想している。「あらゆる義務を謙遜かつ忠実に果たし、神権のすべての召しにいつでもこたえる用意のあった多くの人が尊大な態度を示すようになり、高慢になっていきました。聖徒たちがこの世への愛着と思いに身を任せていくに従って、主の御霊は彼らの心から退いて行きました。』²

1837年5月の教会の状態について、預言者は次のように嘆いている。「それはあたかもこの世と地獄のあらゆる力がある特別な方法でその影響力を結集させて、一挙に教会を滅ぼそうとしているかのようでした。……外部の敵と内部の背教者が手を組んで陰謀を巡らし、……まるでわたしが懸命に立ち向かっていた悪事の原因がすべてわたし一人にあるかのように、多くの人がわたしに不満を抱くようになりました。』³

こうした問題に囲まれていたにもかかわらず、教会の指導者と会員の大部分は引き続き忠実だった。この先行き不安な時期に十二使徒定員会の会員だったブリガム・ヤングは、ある集まりで一部の教員が預言者ジョセフをその職から追放する方法について話し合っていたときのことを、次のように思い起こしている。「わたしは立ち上がり、はっきりと力を込めて、ジョセフは預言者であって、わたしはそれを知っていると告げました。彼らは気の済むまでジョセフをそしり、中傷することはできても、神の預言者として任じられているのを無効とすることはできず、ただ自分自身の権能を破壊し、自分と預言者ならびに神とのつながりを絶ち、自分を地獄に沈めるだけであると言いました。わたしが彼らの行動に断固として反対したことに、多くの人が激怒しました。……

背教者たちは具体的な反対行動について結束することができないまま、散会しました。これはこの世と地獄が連合して預言者と神の教会を力づくで覆そうとした重大な局面でした。教会において最も力ある人の多くがつかずきました。この暗闇に囲まれていた間、わたしはジョセフの傍らに立ち、神から授かった知恵と力を尽くして、神の僕を支持し、教会のもろもろの定員会を結束させることに全精力を傾けました。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

教会指導者への信頼をなくし、批判すること、 そして神から求められる義務を怠ることは背教につながる

「王国の奥義の鍵^{かぎ}の一つ皆さんに授けましょう。それは永遠の原則であり、神とともに永遠に存在してきたものです。すなわち、立ち上がって人を非難し、教会員の欠点を探し、自分は義にかなっているが彼らは道を外れていると言う人がいれば、その人は背教に至る道をまっしぐらに進んでいると言って間違いありません。そして神が生きておられるように確かに、その人は悔い改めないかぎり背教するでしょう。』⁵

ヒーバー・C・キンボールは、ブリガム・ヤング大管長の顧問として働いていたときに次のように報告している。「かつてジョセフ・スミス兄弟がノーブーで授けてくれた鍵を皆さんに授けましょう。すなわち、背教への第一歩はこの教会と王国の指導者への信頼を失うことから始まり、そのような気持ちを抱いていることが認められる人は必ず背教への道を進んで行くことが分かるでしょう。』⁶

ウィルフォード・ウッドラフは、十二使徒定員会で働いていたときに次のように語っている。「ジョセフ兄弟は以前このように勧告してくれました。『自分の欲望を満たすために神から求められている義務を顧みなくなった瞬間に、また、無頓着^{むとんちやく}になっている自分を放置した瞬間に、あなたは背教の基を据えることになります。注意してください。自分が業に召されていることを理解し、その業を行うように神から求められるときには、行ってください。』また次のように語りました。『試練や艱難^{かんなん}や病のとき、苦しんでいるとき、そのような場合に必ず注意してください。たとえ死に迫られても、神を裏切ることのないように、神権を裏切ることのないように、背教することのないように気をつけてください。』⁷

ウィルフォード・ウッドラフはまた次のように述べている。「イギリスでの伝道に出発しようとしていたとき、ジョセフ・スミス兄弟がわたしや〔ジョン〕テラー兄弟、ブリガム・ヤング兄弟、そのほか数名の宣教師を訪れてくれたのを覚えています。病気の者や苦しんでいる者が大勢いましたが、それでもわたしたちは行こうと考えていました。預言者はわたしたちと、妻や家族も祝福してくれました。……ジョセフ兄弟は幾つかの非常に重要な原則を教えてくださいました。その一部を紹介しましょう。テラー兄弟、わたし、ジョージ・A・スミ

ス、ジョン・E・ページ、その他の人々が、道を外れた〔使徒〕たちの職を満たすために召されていました。ジョセフ兄弟は、彼らが神の戒めに背を向けた理由を話してくれました。やむを得ず悲しむべき経験によって学ぶのではなく、わたしたちが目で見、耳で聞くことによって知恵を学び、ほかの人々の心を見抜くことを願っていると仰いました。

それから、この教会と王国の長老でありながら、知らされている律法や戒めや義務を無視する、言い換えればそれらに従おうとしない人、つまり集会に出席し、使命を果たし、勧告に従うことについて、神から求められている義務を怠る人はだれでも、背教に向かう基を据えているのであり、彼らが墮落した理由はまさしくこれだったと預言者は仰いました。彼らは自分の頭こうべに結び固められた神権を誤用しました。使徒として、長老としての召しを尊んで大いなるものとしませんでした。神権を用いて自分自身を高くし、神の王国を築き上げること以外の業を行おうとしたのです。』⁸

1840年、聖徒の大半はイリノイ州ノーブーに集合していたが、教会員が組織した小さな一団が引き続きオハイオ州カートランドに住んでいた。カートランドのある教会員が大管長会と教会のほかの管理役員に対する聖徒たちの信頼を損なおうとしているとの知らせを受けて、預言者はカートランドの教会指導者に次のように書き送っている。「王国の諸事を義にかなって行うためには、この上なく完全な協調と優しさと、十分な理解と信頼がすべての兄弟たちの心を占めていることがきわめて大切です。真の慈愛と互いに対する愛が、彼らのすべての行動に強く反映していなければなりません。もし慈愛や信頼に少しでも欠けるところがあるなら、高慢と尊大とねたみがすぐに現れるでしょう。必然的に混乱が広がり、教会の管理役員は軽視されるに違いありません。……

もしカートランドの聖徒たちが、ともに集まるときにわたしのことを祈るに値しないと考え、わたしが天の恵みみさの御座ござに昇ることを拒むなら、それはわたしにとって、彼らが神の御霊みたまを受けていないことの力強く確かな証拠となります。もしわたしたちが受けてきた啓示かきが真実であるなら、民を導くのはだれでしょうか。もし王国の鍵がわたしの手にゆだねられているとすれば、その奥義を開くのはだれでしょうか。

兄弟たちがわたしの傍らに立ち、励ましてくれるかぎり、わたしは世の偏見と戦い、屈辱的な扱いや虐待に喜びをもって耐えることがで

きます。しかし兄弟たちが遠ざかって行き、彼らが弱気になり始め、わたしの前進と働きを遅らせようとするとき、わたしは悲しみを覚えます。それでも自分の務めを行う決意は変わりません。地上の友は去り、敵対さえするかもしれませんが、それでも天の御父が勝利を得させてくださると確信しています。

しかし、カートランドにも、たった一言のために人を悪く見ることがなく〔イザヤ29：21参照〕、義と真理を守るために立ち、自分たちにゆだねられているすべての義務を果たそうとする人々がいることを願っています。またイスラエルの陣営に混乱と不和をもたらそうとする動きや影響力に対抗するよう人々を導き、真理の霊と誤りの霊を見分ける知恵を持つ人々がいるように願っています。

カートランドの聖徒たちが栄えるのを見られるとしたらうれしいのですが、その時はまだ来ていないと思います。現在とは異なる秩序が確立し感情が示されるまで、その時は決して来ないでしょう。信頼が回復し、高慢が消え去り、すべての功名心が謙遜けんそんを衣のようにまとい、慈善と慈愛が利己心みことに取って代わり、主の口から出る一つ一つの御言葉によって生きる決意において一致しているのが見られるときまで、平和と秩序と愛が勝利を得ることはありません。

カートランドが見放されているのは、人々が野心を持っているためです。至らない皆さんの僕は、その職しよべにあって彼らからねたまれたことが幾度もありました。彼らはその僕を踏み台にして権力を得ようとし、それが不可能だと分かると、卑劣な中傷や虐待、そのほかの手段を用いて僕を引きずり下ろそうとしました。このような人たちはいつも先頭を切って大管長会に反対する声を上げ、その誤りや小さな欠点を至る所に広めてきました。』⁹

背教する者たちは神の御霊みたまを失い、聖約を破り、 しばしば教会員を迫害する

「最初は不思議に思われるかもしれませんが。しかしそれは不思議なことではあっても、事実なのです。すなわち、神の律法に従って生活する決意を公言したにもかかわらず、キリストの信仰から離れた背教者たちは、速やかに悔い改めないかぎり、遅かれ早かれ邪悪な者のわなにかかってきました。そして神の御霊を失ったままにされて、その悪事を大勢の人の目に明らかにしてきました。背教者たちは、忠実な人々をだれよりも容赦なく迫害してきました。ユダは叱責しっせきされると直

ちに主を裏切り、主を敵の手に渡しました。サタンがユダに入ったからでした。

十分に固い決意をもって福音に従う者には、優れた英知が授けられます。もしそれに対して罪を犯すなら、背教者は神の御霊をはぎ取られ、見捨てられたままにされ、やがては実際にのろわれることとなり、最後には焼かれます。持っていた光が取り去られると、以前に照らされていた程度に応じてそれと同じだけ暗くなります。したがって、持てる力のすべてを尽くして真理に逆らうようになり、ユダのように最大の恩人を滅ぼそうとしても、何ら不思議ではありません。

ユダにとって救い主以上に親しい友が地上に、あるいは天にいたでしょうか。そのユダが、主を滅ぼすことを第一の目的としたのです。この終わりの時の聖徒の中で、だれが自分を主と同じくらい善良であると考えることができるでしょうか。完全さ、純粋さ、^{きよ}聖さにおいて、だれが主に匹敵すると言えるでしょうか。そのような人がいるでしょうか。主は決して天の戒めや律法に背いたり、それらを破ったりされませんでした。主の口には欺き^{あざむ}がなく、主の心には偽りがありませんでした。それでも主とともに食事をし、度々同じ杯から飲んでいた者が、主に向かって最初にかかとを上げたのです。キリストのような人がどこにいますでしょうか。そのような人を地上に見いだすことはできません。それなら主に従う者たちは、かつて兄弟と呼び、永遠の聖約のもとで最も近い関係にあると思っていた人々から迫害を受けるとしても、どうして不平を言ってよいでしょうか。

まことの教会から背教した者たちは、かつて愛を公言し、親しく交わり、神の安息を得るため義にかなってあらゆる力を尽くして努力するとともに聖約した人々を、2倍の熱意をもって迫害し、2倍の根気強さをもって滅ぼそうとしています。彼らが身をもって示しているそのような原則は、どこから出てきたのでしょうか。恐らく兄弟たちは、神の王国を滅ぼそうとしているサタンと同じように答えるでしょう。サタン自身は邪悪な者であり、神の王国は聖なるものだからです。』¹⁰

「教会のあらゆる時代に、徳の諸原則に反対する人々、この世の利益を愛し、不義の諸原則に従い、真理の敵となる人々が常に存在しました。……わたしたちと交わり、だれよりも友情を公言してきた人々が、しばしばわたしたちの最大の敵となり、ほかのだれよりも決意の固い敵となってきました。彼らは自分たちの評判が悪くなったり、自分たちの利益や威厳が損なわれたり、自分たちの罪悪が暴かれたりす



「ユダにとって救い主以上に親しい友が地上に、あるいは天にいたでしょうか。
そのユダが、主を滅ぼすことを第一の目的としたのです。」

ると、いつも真っ先に迫害の手を上げ、兄弟たちを中傷し、非難し、友人たちの失脚や滅亡を求めるのでした。』¹¹

「背教した『モルモン』の離反者たちは、世界中を駆け巡り、わたしたちに反対して様々な汚れた中傷的なうわさを広めています。それによってこの世の友情を得ようと思っているのです。彼らはわたしたちがこの世のものでなく、この世がわたしたちを憎んでいることを知っているからです。ですから彼ら〔この世〕はこれらの者〔離反者たち〕を利用し、彼らによってあらん限りの危害を加えようとします。その後、彼ら〔この世〕はわたしたちを憎む以上に彼ら〔離反者たち〕をひどく憎みます。彼らが卑しい裏切り者であり、へつらう者であることに気づくからです。』¹²

ウィルフォード・ウッドラフは次のように報告している。「〔1837年2月19日にカートランド〕神殿で開かれた集会に出席しました。それまで預言者ジョセフ・スミスは教会の用向きで留守だったのですが、それはモーセがイスラエルを離れて山にいた期間の半分にも満たない長さでした〔出エジプト32：1-8参照〕。それでもカートランドの人々の多くは、イスラエルの民のように礼拝するための子牛を造りは

しなかったにしても、主とその僕^{しもべ}ジョセフから心を背け、憶測に終始し、偽りの霊に身を任せ、ついには思いが暗くなってしまうました。多くの人がジョセフ・スミスに反対しました。代わりにデビッド・ホイットマーを教会を導く者として任じることを願う人もいました。この暗黒の霊の雲が立ち込める中、ジョセフがカートランドに戻り、この日の朝、教壇に立^たったのです。とても落ち込んでいるようでした。しかしすぐに神の御霊^{みたま}がジョセフにとどまり、ジョセフは集まった人々に向かうと約3時間にわたって分かりやすく語り、敵を沈黙させました。

ジョセフは立ってこう語りました。『わたしは今もなおイエス・キリストの教会の大管長であり、預言者、聖見者、啓示者、そして指導者です。わたしをこの職に任じ、お就^つけになったのは、人ではなく神です。いかなる個人や集団にもわたしを退けたり、代わりに別の人を任命したりする力はなく、そうしようとする人は、速やかに悔い改めなければその指にやけどを負い、地獄に行くことになるでしょう。』ジョセフは彼ら^らをその罪と邪悪と不信仰のゆえに厳しく責めました。神の力がジョセフに宿り、ジョセフの言葉が真実であること^{あかし}を証しました。』¹³

ウィルフォード・ウッドラフは次のように報告している。「[1837年4月9日の]午後、スミス大管長は主の名によって次のように語りました。シオンのステークであるカートランドを築き上げることに、大管長の支持者であり、また人類の友であると公言していながら、大管長と神の王国の益に背く者となり、敵の手に力を貸してきた人々に、神の裁きが下されるでしょう。彼らは貧しい聖徒たちを虐げ、悩ませ、そして聖約を破りました。彼らはそのために神の激しい怒りを受けるでしょう。』¹⁴

ダニエル・タイラーは次のように回想している。「預言者がミズーリの監獄からコマース（後のノーブー）に到着して間もなく、わたしはアイザック・ベフニン兄弟と連れ立って預言者の家を訪ねました。預言者が受けた迫害の話になりました。預言者は、背教者やおびえた教会員や外部の人々が述べた、一貫性に欠ける幾つもの矛盾した偽りの主張を繰り返し語りました。また、拘束されていたとき、喜び勇んで預言者の命を奪っていたであろう役人たちのほとんどが、面識を得ると預言者に好意を持つようになったと話してくれました。預言者は偽りの兄弟たちを非難しました。……

預言者が自分の受けた扱いについて語り終えると、ベフニン兄弟が

言いました。『もしわたしがこの教会を離れることがあるとしても、それらの人々のような行動は取りません。モルモンの教えについて聞いたことのある人がいない、どこか遠い所に行って住みます。そうすれば、わたしがモルモンの教えについて知っていることはだれにも知られることはないでしょう。』

すると偉大な聖見者は即座にこう述べました。『ペフニン兄弟、あなたがどのような行動を取るのか、自分では分からないのですよ。恐らくこれらの人々も、かつてはあなたと同じように思っていたでしょう。この教会に加わる前、あなたは中立の立場にいました。福音が知らされたことにより、あなたの前に善と悪が置かれました。あなたはどちらを選ぶこともでき、どちらも選ばずにおくこともできました。二人の相反する主人が自分に仕えるように誘っていました。そしてこの教会に加わったとき、あなたは神に仕える者となりました。そのときあなたは中立の立場を離れたのであり、もう決してそこに戻ることはできません。仕えると決めた主人を捨てるなら、それは悪魔にそそのかされたのであり、あなたは悪魔の命令に従い、その僕となるのです。』¹⁵

預言者と使徒と教会の啓示に従っていれば、惑わされることがない

十二使徒定員会の会員オーソン・ハイドは、次のように報告している。「預言者ジョセフは……言いました。『兄弟の皆さん、この民の大部分が道を踏み外すことは決してないということを覚えていてください。多数派に従っているかぎり、皆さんは日の栄えの王国に入るに違いありません。』¹⁶

ウィリアム・G・ネルソンは次のように報告している。「わたしは預言者が公に語るのを何度も聞いたことがあります。ある集会で、預言者が次のように言うのを聞きました。『決してさびることのない鍵^{かぎ}を受けましょう。もし教会の啓示された記録と十二使徒の大多数に従っているなら、皆さんは決して惑わされることがないでしょう。』これが真実であることは教会の歴史が証明しています。』¹⁷

エズラ・T・クラークは次のように回顧している。「預言者ジョセフが聖徒たちに、惑わされたり欺かれたりするものが決してないように一つの鍵を授けようと言うのを聞きました。それは次のとおりです。すなわち、この民の大部分が詐欺師に惑わされたり欺かれたりするとか、この教会の記録が敵の手に落ちることを、主は決して許されないでしょう。』¹⁸

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 315-317ページの話を読んでください。そのような短い間に人が義から背教へと変わり得るのはなぜだと思いますか。今日、人を背教させる影響力にどのようなものがあるでしょうか。そのような影響力から身を守るためにわたしたちはどのようなことができるでしょうか。
- 教会指導者を信頼しなくなり、批判することには、どのような危険が潜んでいるでしょうか（例として、318-320ページ参照）。指導者に敬意と感謝を持ち続けるために、どのようなことができるでしょうか。子供が教会指導者を敬うように、両親はどのようなことができるでしょうか。
- 「自分の欲望を満たすために神から求められている義務を顧みなくなった瞬間に、……あなたは背教の基を据えることとなります」と預言者は教えています（318ページ）。この言葉はあなたにとってどのような意味を持つでしょうか。
- ダニエル・タイラーによる話を読んでください（323-324ページ）。教会から背教した人々がしばしば教会に対して非常に激しい戦いを挑むのはなぜだと思いますか（例として、320-324ページ参照）。そのような人々の言葉や行いに、わたしたちはどのように対応すべきだと思いますか。
- 本章の最後の3段落（324ページ）を読んでください。わたしたちにとって、ジョセフ・スミスが授けているこの「鍵」を理解し、用いることが大切なのはなぜでしょうか。

関連聖句——1ニーファイ8：10-33；ヒラマン3：33-35；教義と聖約82：3，21；121：11-22

注

1. ダニエル・タイラー “Incidents of Experience,” *Scraps of Biography* (1883年), 32-33に掲載
2. エライザ・R・スノー, *Biography and Family Record of Lorenzo Snow* (1884年), 20. 原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正
3. *History of the Church*, 第2巻, 487-488. “History of the Church” (原稿), book B-1, 761から, 教会記録保管課, 末日聖

- 徒イエス・キリスト教会，ユタ州ソルト
レーク・シティー
4. プリガム・ヤング，歴史家事務局，*Manuscript History of Brigham Young* (1844-1846年)，第1巻，16，教会記録
保管課
 5. *History of the Church*，第3巻，385。
1839年7月2日にアイオワ州モントローズ
でジョセフ・スミスが行った説教から。
ウィルフォード・ウッドラフとウィラー
ド・リチャーズによる報告
 6. ヒーパー・C・キンボール，*Deseret*
News，1856年4月2日付，26。原文（英
語）においては，つづりと大文字は現代
の用法に修正
 7. ウィルフォード・ウッドラフ，*Deseret*
News，1880年12月22日付，738
 8. ウィルフォード・ウッドラフ，*Deseret*
News: Semi-Weekly，1880年9月7日付，1。
原文（英語）においては，句読点は現代
の用法に修正，段落は変更
 9. *History of the Church*，第4巻，165-166。
1840年7月，イリノイ州ノーブーでジョ
セフ・スミスがオリバー・グレインジャ
ーにあてて書いた手紙から
 10. *History of the Church*，第2巻，23。原文
（英語）においては，つづり，句読点，
文法は現代の用法に修正，段落は変更。
“The Elders of the Church in Kirtland, to
Their Brethren Abroad” (1834年1月22
日付) から。*Evening and Morning Star*，
1834年4月号，152に掲載
 11. “John C. Bennett,” *Times and Seasons*，
1842年8月1日付，868に掲載された論説。
原文（英語）においては，句読点および
文法は現代の用法に修正。ジョセフ・ス
ミスは同紙の編集者であった
 12. *History of the Church*，第3巻，230。原
文（英語）においては，第1および第2の
角括弧の部分は当時の表記のまま。1838
年12月16日，ミズーリ州リパティエー，リ
パティエーの監獄でジョセフ・スミスがミ
ズーリ州コールドウェル郡の教会員にあ
てて書いた手紙から
 13. ウィルフォード・ウッドラフ，1837年2
月19日にオハイオ州カートランドでジョ
セフ・スミスが行った説教の報告。
“History of Wilford Woodruff,” *Deseret*
News，1858年7月14日付，85。原文（英
語）においては，大文字および文法は現
代の用法に修正，段落は変更
 14. ウィルフォード・ウッドラフ，1837年4
月9日にオハイオ州カートランドでジョ
セフ・スミスが行った説教の報告。
“History of Wilford Woodruff,” *Deseret*
News，1858年7月14日付，86
 15. ダニエル・タイラー “Recollections of
the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile*
Instructor，1892年8月15日付，491-492。
原文（英語）においては，句読点および
文法は現代の用法に修正
 16. オーソン・ハイド，*Deseret News: Semi-
Weekly*，1870年6月21日付，3
 17. ウィリアム・G・ネルソン “Joseph
Smith, the Prophet,” *Young Woman’s*
Journal，1906年12月号，543。原文（英
語）においては，段落は変更
 18. エズラ・T・クラーク “The Testimony
of Ezra T. Clark.” 1901年7月24日。ユタ
州ファーミンントン。Heber Don Carlos
Clark, Papers (約1901-1974年)，タイ
プ原稿，教会記録保管課



伝道の務め—— 聖なる召し、栄えある業

「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです。」

ジョセフ・スミスの生涯から

聖徒たちがカートランドに住んだ最後の数年間に、多くの教会員に加えて一部の指導者さえもが背教した。教会は危機的な時期にあるように思われた。預言者は次のように書いている。「この状況の中で、神はわたしに主の教会の救いのために新しいことを実行しなければならないことを示されました。」¹ この「新しいこと」とは、福音を宣べ伝えるためにイギリスに宣教師を遣わすようにという啓示であった。

十二使徒定員会の会員だったヒーバー・C・キンボールは、次のように回想している。「1837年6月1日ごろ、カートランドの神殿で……座っていると、預言者ジョセフがやって来て、こうささやきました。『ヒーバー兄弟、主の御霊がわたしにささやきました。「わたしの僕ヒーバーをイギリスに遣わして、わたしの福音を宣言させ、その国に対して救いの門を開かせなさい。』」² そのような業について考えると、キンボール長老は圧倒される思いだった。「自分は神の僕の中で最も弱い者の一人であると感じていました。わたしは現地へ着いたら何を言えばよいのかジョセフに尋ねました。するとジョセフは、主のもとに行くように言いました。そうすれば主はジョセフ〔を導いた〕のと同じ御霊によってわたしを導き、わたしを通して語られるだろうということでした。」³

預言者はまた、カートランドにいたオーソン・ハイド、ウィラード・リチャーズ、ジョセフ・フィールディング、カナダのトロントにいたアイザック・ラッセル、ジョン・スナイダー、ジョン・グッドソンにも召しを与えた。これらの兄弟たちはキンボール長老とともにイギリスで伝道することになった。彼らはニューヨーク市で合流すると、



イギリスにおける伝道の結果、教会に加わった人々に迎えられる
ヒーバー・C・キンボールとジョセフ・フィールディング。キンボール長老は預言者に
次のように書き送っている。「神に栄光があるように、ジョセフ。
もろもろの国民の中であって、主がわたしたちとともにおられます。

1837年7月1日、ギャリック号という船でイギリスに向かった。この北米以外における最初の伝道では、宣教師がイギリスで働いた最初の年に、約2,000人の改宗者が教会に加わった。キンボール長老は喜びながら預言者に次のように書いている。「神に栄光があるように、ジョセフ。もろもろの国民の中であって、主がわたしたちとともにおられます。」⁴

また、使徒によるイギリスでの2度目の伝道が、ノーブーの預言者から指示された。ブリガム・ヤングの指揮の下で、この伝道にはほとんどの十二使徒が参加した。使徒たちは1839年の秋に出発し、1840年にイギリスに到着した。そして伝道を開始し、1841年までに6,000人以上の改宗者を教会にもたらした。こうして、御自身の教会の救いのために「新しいこと」を行うという主の約束が成就した。

ノーブーから、ジョセフ・スミスは世界中に宣教師を派遣し続けた。オーソン・ハイド長老は、1841年にイギリスに上陸し、その後、引き続き与えられた使命を果たすためにエルサレムに向かった。ハイド長老はジョセフ・スミスからの推薦状を携えており、そこには「イエス・キリストの忠実でふさわしい教導者であるこの証書を持つ者が、……ユダヤ人の聖職者、統治者、長老と語るための、……外国におけるわたしたちの代理人であり代表者である」⁵ ことが確認されていた。1841年10月24日、ハイド長老はエルサレムのオリブ山でひざまずき、その地を「聖なる預言者たちの預言のとおり、ユダの散らされた残りの者の集合のために」⁶ 奉獻し、聖別してくださるよう天の御父に嘆願した。それからハイド長老はドイツに行き、その地で教会が発展するための最初の基を据えた。

1843年5月11日、預言者はアディソン・プラット、ノア・ロジャーズ、ベンジャミン・F・グローアード、ノールトン・F・ハンクスの各長老を、南太平洋の島々における伝道に召した。この広大な地域における、教会の最初の伝道となった。ハンクス長老は海で死亡したが、プラット長老はオーストラル諸島に行き、トゥブアイ島で福音を教えた。ロジャーズ長老とグローアード長老は続いてタヒチへ行き、彼らの働きの結果として何百人もの人々がその地でバプテスマを受けた。

ジョセフ・スミスの指示の下で、聖徒たちは主から受けた次の命令を果たすために前進を続けていた。「あなたがたは全世界に出て行きなさい。また、あなたがたはどこでも自分の行けない所^{あかし}に証を送り、それがあなたがたから全世界のすべての造られたものに伝わるようにしなさい。」(教義と聖約84：62)

ジョセフ・スミスの教え

**伝道の務めは聖なる業であり、信仰、徳、勤勉、愛はわたしたちに
この業を行う力を与えてくれる**

「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです。」⁷

1840年12月、預言者はイギリスで伝道していた十二使徒定員会の会員とほかの神権指導者あてに、次のように書き送っている。「愛する兄弟の皆さん、安心してください。わたしは全地の面で起こっている事柄を決して無関心に眺めているものではありません。そして現在進められている活動全般の中で、皆さんが携わっている栄えある業ほど重要なものはありません。このため、わたしは皆さんについて多少心配していることがあります。互いに対して、キリストの教会に対して、そして天におられる御父に対して、皆さんが自らの徳と、信仰と、勤勉と、慈愛によって、信頼を勝ち得ることができるようにと願っています。天の御父の恵みによって、皆さんはきわめて聖なる召しを受けているのであり、また、与えられている偉大で責任の伴う義務を果たすことができるのです。また断言しますが、わたしはこれまでに届いている知らせに満足を感じています。皆さんが義務をおこた^{おこた}えておらず、その大なる勤勉さと忠実さは、皆さんが仕える御方である神のほほえみと、世界中の聖徒たちの善意を皆さんにもたらずに違いありません。

福音がイギリス全土に広まるのはまったく喜ばしいことです。それについて考えると、日中の暑さや重荷に耐えてきた者たち、またきわめて不利な状況に囲まれ、あらゆる方面から命の危機にさらされながらも、揺籃期^{ようらん}にあって福音をしっかりと支え、擁護することに奮闘してきた者たちの胸に、特別な感慨が込み上げてくるのを止めることはできません。それはちょうど、嵐^{あらし}に雄々しく立ち向かって無傷で乗り越えた勇敢な帆船が、船材の強さと、船長と舵手^{だしゅ}と船員の経験と能力に改めて気づきながら、今や、そよ風に帆を広げ、素直な波を切って気高く進んで行くかのようです。……

愛は神の大なる特質の一つであり、神の息子となることを望む人々が示さなければならぬものです。神の愛に満たされた人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、全世界を巡ります。皆さんはこのように感じ、家庭の楽しみを後回しにして、不死不滅にあずかる可能性を持ちながら真理を知ら

ない人々を祝福する者になろうとしています。そのような皆さんに、天のえり抜きの祝福が授けられるよう祈ります。』⁸

**謙遜けんそんかつ柔和に福音の簡潔な真理を教え、人々とその信条について
論争するのを避ける**

「おお、イスラエルの長老たちよ、わたしの声を聞いてください。教えを説くために世界に遣わされるとき、語るべき事柄を教えてください。次のように説き、声高らかに叫んでください。『悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである。悔い改めて福音を信じなさい。』第一の原則を説明し、奥義には触れないでください。打ち負かされないためです。……主がの宣べ伝えるように言われた事柄、すなわち悔い改めと罪の赦しゆるのためのバプテスマを宣べ伝えてください。』⁹

「わたしは次のように語り、説明しました。世の人々に大いなる裁きについて説くのは無益なことです。そうではなく、簡潔な福音を宣べ伝えなければなりません。』¹⁰

「長老たちは……まったく柔和に、まじめな心で出て行き、イエス・キリストと、主が十字架におかかりになったことを宣べ伝える〔べきです〕。ほかの人の信仰や宗教について論争せず、確かな道を歩んでください。わたしはこれを戒めとして与えます。これに従わない人は自らに迫害を招き、従う人は常に聖霊に満たされるでしょう。わたしはこれを預言として宣言します。』¹¹

「もし福音の第一の原則を教えるための扉が開かれているなら、長老たちは黙ってはいなりません。教派をののしったり、彼らの教義に反対したりしてはなりません。キリストと、主が十字架におかかりになったことと、神を愛すること、人を愛することを宣べ伝えてください。……それによって、可能であれば、人々の偏見を和らげることができるでしょう。柔和で心のへりくだった者であってください。そうすれば先祖の神である主はいつまでも皆さんとともにいてくださるでしょう。』¹²

「このかぎ鍵を心に留め、キリストのため、また自分自身の霊のために賢くあってください。皆さんは教えを受けるためではなく、教えを授けるために遣わされています。すべての言葉に恵みを添えてください。注意を怠おこたらず、まじめであってください。今は警告の時であり、多くの言葉を費やす時ではありません。神と人の前で正直に行動してください。……人とのあらゆる〔交際〕において、正直で隠し立てなく率



「キリストと、主が十字架におかかりになったことと、神を愛すること、人を愛することを宣べ伝えてください。……柔和で心のへりくだった者であってください。そうすれば先祖の神である主はいつまでも皆さんとともにいてくださるでしょう。」

直であってください〔教義と聖約43：15；63：58参照〕。¹³

1835年、ジョージ・A・スミスは伝道に出発する前に、いどこである預言者ジョセフ・スミスを訪れた。ジョージ・A・スミスは次のように記録している。「いとこのジョセフに会いに行きました。ジョセフはモルモン書を手渡し、握手をして、こう言いました。『短く説教し、短く祈り、心に祈りを込めて説教してください。』¹⁴

御^み霊^{たま}に導かれるままに福音を教える

「すべての人は聖霊の力と影響力によって福音を宣べ伝えなければなりません。だれも聖霊を受けないまま福音を宣べ伝えることはできません。』¹⁵

「パウロは、幾人かを救うために、すべての人に対して自分がすべての人のようにならなければならなかったと言っています〔1コリント9：22参照〕。終わりの時の長老たちもそのようにしなければなりません。そして福音を宣べ伝え、来るべき裁き^{きた}について世の人々に警告するために遣わされている者として、イエス・キリストの啓示に従い、御霊に導かれるままに教えるとき、長老たちは不平を言わずに真理を

宣べ伝え、そして成功するに違いありません。ですから新たに与えるべき戒めはなく、ただ神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きるよう、長老たちと会員たちに勧告します〔マタイ4:4参照〕。忠実な者のために取っておかれている栄光を失うことのないようにするためです。〕¹⁶

預言者は1839年10月に開かれた大会において話をしている。〔〔ジョセフ・スミス〕大管長は、福音を宣べ伝えることについて長老たちに指示を与え、天から遣わされる聖霊とともに宣べ伝えられるように、御霊を得ることの必要性を強調しました。また、憶測や争いの原因となる、神の言葉によって明らかにされていない事柄について語ることに慎重を期すようにと指示しました。〕¹⁷

1840年5月14日、ジョセフ・スミスはノーブーから、聖地における伝道に向かっていたオーソン・ハイド長老とジョン・E・ページ長老あてにこう書き送っている。「御業^{みわざ}の壮大さのゆえに希望を失ってはなりません。謙遜で忠実でさえあれば、こう言うことができるのです。『大いなる山よ、おまえは何者か。おまえはゼルバベルの前に平地となる。』〔ゼカリヤ4:7参照〕イスラエルを散らした御方が、彼らを集めると約束しておられます。ですからこの大いなる業においてあなたがたが使われる者となるかぎり、主は力と、知恵と、勢力と、英知と、必要なすべての資質を授けてくださるでしょう。あなたがたの思いは広がり続け、ついには天地を理解し、永遠にたどりついて、あらゆる種類と栄光を持つ、エホバの力ある業について深く考えることができるようになるでしょう。〕¹⁸

福音を教え、それが真実であることを証^{あかし}する機会を求める

1832年の秋、ジョセフ・スミスはニューエル・K・ホイットニービショップとともに、オハイオ州カートランドをたち、合衆国東部へ向かって旅をした。10月13日、預言者はニューヨーク市からエマ・スミスあてに次のように書いている。「このニネベのような大都会で、20万人以上の人々が左も右も分からずにいることについて深く考えるとき、彼らに対する哀れみが込み上げてきます。そしてこの都市において声を上げ、結果は神に、すなわちすべてのものを御手^{みて}の中に保っておられ、髪の毛一筋も知られずに落ちるのを許されない御方にゆだねようと決意しています。……

これまでに何人かと話をしてきました。どれも満足のいくものでし

た。一人はジャージー出身の非常にすばらしい青年で、とてもまじめな表情が読み取れました。彼はやって来てわたしの横に座り、コレラについて話し始めました。その青年はコレラにかかり、危うく命を落とすところだったそうです。そして、主が何か賢明な目的のために自分を救ってくださったのだと言いました。わたしはこの機会を生かして、長い時間語りました。青年はわたしの教えを間違いなく大きな喜びをもって受け入れ、わたしに強い親近感を抱いていました。わたしたちは夜更けまで語り、翌日また話すことにしました。しかし所用のため、彼が再びやって来たのは、船の用意が整い出発しなければならないときでした。青年はわたしのところにやって来て別れを告げ、わたしたちは大いに名残を惜しみながら別れました。』¹⁹

ニューエル・K・ホイットニーの妻エリザベス・アンは、夫が1832年にジョセフ・スミスとともに合衆国東部に旅したときのことを次のように回想している。「夫は預言者ジョセフとともに東部の多くの町を旅して、証を述べ、またカートランドに神殿を建て、ミズーリに土地を購入するための資金を募りました。……預言者は夫に言いました。『人々がわたしたちを拒んでも、彼らはわたしたちの証を得るでしょう。わたしたちは証を書いて戸口の階段や窓の枠に残していくからです。』」²⁰

1834年、ジョセフ・スミスはミシガン州ポンティアックの校舎で教えを説いた。その場にいたエドワード・ステーブソンは、その経験を次のように回想している。「1833年にその学校の校庭で二人のモルモンの長老たちが回復された福音を紹介していました。そして1834年、預言者ジョセフ・スミスは、この19世紀においてだれも目にすることがないような力をもって教えを説きました。……わたしは年若い預言者の語った言葉の多くを鮮明に覚えています。それは分かりやすく、それでいてその場にいたすべての人を圧倒する力がありました。……

預言者は片手を挙げて、こう言いました。『わたしは神がましますことの証人です。1820年の春、静かな森の中で祈ったとき、真昼の光の中で神にまみえたからです。』預言者はさらに、永遠の父なる神が、御自身に似た別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われたことを証しました。おお、これらの言葉にわたしの全身はどれほど震えたことでしょうか。昔の使徒パウロのように、自分がイエス・キリストの御前にいたことを大胆に証できる人物を見



各教会員には福音を分かち合う責任がある。預言者ジョセフ・スミスは「すべての人は聖霊の力と影響力によって福音を宣べ伝えなければなりません」と宣言している。

て、どれほど言い尽くせない喜びに満たされたことでしょう。……

……集会が次々と開かれ、預言者と、また大変興味深いことに、モルモン書の3人の証人も出席しました。この支部を訪れていたとき、預言者は、自分はイエスが組織された教会の規範に倣って教会を組織するように指示を受けていると証しました。そこには十二使徒、七十人、長老がいて、賜物と祝福があり、またマルコによる福音書第16章に記されているように、しるしが伴います。……ジョセフはこう語りました。『神の僕として、わたしは皆さんに約束します。悔い改めて、自分の罪の赦しのためにバプテスマを受けるならば、皆さんは聖霊を受けるでしょう。』²¹

1838年11月、ミズーリ州のファーウェストからリッチモンドの監獄へ連行されたときにも、預言者は福音を教えている。「数人の男女がわたしたちのところに来て来ました。女性の一人が近づいて来て、まったく無遠慮に、どの囚人が『モルモンたち』の拜んでいる『主』なのかを騎兵中隊の兵士たちに尋ねました。見張りの兵士が大きな笑みを浮かべながらわたしを指し、『この男だ』と言いました。女性はわたしの方を向き、自分を主であり救い主であると公言しているのかと尋ねました。わたしは、自分はただの人にすぎず、救いの教導者で

あり、福音を^の宣べ伝えるためにイエス・キリストによって遣わされていると答えました。

女性はこの返事にたいそう驚き、わたしたちの教義について尋ね始めました。そこでわたしは彼女とその連れ、そして驚いている兵士たちに教えを説きました。わたしは使徒行伝の第2章に記されている、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、罪の赦し^{ゆる}のためのバプテスマの教義、そして聖霊の約束について説明すると、その間彼らはかたずをのんで耳を傾けていました〔使徒2：38－39参照〕。

女性は満足し、兵士たちを前にして神をほめたたえ、神がわたしたちを守り、解放してくださるように祈りながら去って行きました。]²²

ダン・ジョーンズは、預言者がカーセージの監獄^{じゅんきょ}で^う殉教する前日の晩の出来事を、次のように回想している。「ジョセフは看守たちに、モルモン書が神から与えられた確かなものであることや、福音の回復、天使の働きについて、そして神の王国が地上に再び確立されたことについて力強く証しました。その王国のためにジョセフは監獄に入れられていたのであり、神の律法や人の法律を犯したからではないことを証しました。]²³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii－xiiページを参照する。

- 預言者ジョセフ・スミスの指示の下で伝道活動が組織されたことに注目しながら、327－329ページを読んでください。初期の宣教師たちの働きによって、あなたは何らかの影響を受けてきましたか。そうであるなら、あなたはその影響をどのように受けているでしょうか。
- 330ページの下から始まる段落を読み、預言者が述べているように愛はなぜ影響を及ぼすのかを考えてください。優れた宣教師となるために必要な特質として、ほかにどのようなものがあるでしょうか（例として、330－331ページ参照）。
- 宣教師は何をどのように教えるべきかについて語った預言者ジョセフ・スミスの言葉を読んでください（331－333ページ）。なぜ福音の「第一の原則」を^の宣べ伝えるべきでしょうか。宗教について人と

論争することは、どのような結果を招くでしょうか。福音を宣べ伝えるときに「すべての言葉に恵みを添え〔る〕」とはどういう意味だと思えますか。

- 332ページの第2段落を読んでください。福音を分かち合うに当たって、聖霊はこれまであなたがたをどのように導いてくださったでしょうか。聖霊を受けずに福音を宣べ伝えることができないのはなぜでしょうか。
- 333-336ページで述べられているジョセフ・スミスの経験を読んでください。これらの経験から、福音を分かち合うことについてどのようなことが学べるでしょうか。
- 福音を分かち合う機会を積極的に求めるために、どのようなことができるでしょうか。自分をそのような機会に備えるために、どのようなことができるでしょうか。どうすれば家族を伝道の業に参加させることができるでしょうか。

関連聖句——マタイ28：19-20；2ニーファイ2：8；アルマ26：26-37；教義と聖約4：1-7；31：3-5

注

1. *History of the Church*, 第2巻, 489. "History of the Church" (原稿), book B-1, 761から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
2. ヒーパー・C・キンボール "Synopsis of the History of Heber Chase Kimball." *Deseret News*, 1858年4月14日付, 33. 原文 (英語) においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
3. ヒーパー・C・キンボール, *Deseret News*, 1862年5月21日付, 370. 原文 (英語) においては, 大文字は現代の用法に修正
4. オーソン・F・ホイットニーによる引用, *Conference Report*, 1920年10月, 33
5. 1840年4月6日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスとその他の人々がオーソン・ハイドに交付した推薦状. *Times and Seasons*, 1840年4月号, 86に掲載
6. オーソン・ハイド, *A Voice from Jerusalem, or a Sketch of the Travels and Ministry of Elder Orson Hyde* (1842年), 29
7. *History of the Church*, 第2巻, 478. 1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から
8. *History of the Church*, 第4巻, 226-227. 原文 (英語) においては, 句読点および文法は現代の用法に修正. 1840年12月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが十二使徒にあてて書いた手紙から. *Times and Seasons*, 1841年1月1日付, 258に掲載. *History of the Church*では, この手紙は誤って1840年10月19日付とされている
9. *History of the Church*, 第5巻, 344. 原文 (英語) においては, つづりは現代の用法に修正. 1843年4月8日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
10. *History of the Church*, 第4巻, 11. 1839年9月29日, イリノイ州コマースで, ジョセフ・スミスが行った説教から. ジェームズ・マルホランドによる報告
11. *History of the Church*, 第2巻, 431. 1836年3月30日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から
12. 1835年8月31日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスとその他の人々がヘゼカイア・バックにあてて書いた手

- 紙。“The Book of John Whitmer.” 80。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。“The Book of John Whitmer”の複写所有, 教会記録保管課
13. *History of the Church*, 第3巻, 384。1839年7月2日, アイオワ州モントローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラー・リチャーズによる報告
 14. ジョージ・A・スミス “History of George Albert Smith by Himself,” 36, George Albert Smith, Papers, (1834-1875年), 教会記録保管課
 15. *History of the Church*, 第2巻, 477。1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。*Messenger and Advocate*, 1837年4月号, 487に報告
 16. *History of the Church*, 第5巻, 404。1843年5月22日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが *Times and Seasons* の編集者にあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1843年5月15日付, 199に掲載。同日付の *Times and Seasons* は遅れて発行された
 17. *History of the Church*, 第4巻, 13。1839年10月6日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。*Times and Seasons*, 1839年12月号, 31に報告
 18. *History of the Church*, 第4巻, 128-129。1840年5月14日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがオーソン・ハイドとジョン・E・ページにあてて書いた手紙から。ハイド長老は聖地への伝道を完遂したが, ページ長老は合衆国にとどまった
 19. 1832年10月13日, ニューヨーク州ニューヨーク市で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス
 20. エリザベス・アン・ホイットニー “A Leaf from an Autobiography,” *Woman’s Exponent*, 1878年10月1日付, 71。原文(英語)においては, つづり, 句読点, 大文字は現代の用法に修正
 21. エドワード・ステイーブンソン “The Home of My Boyhood,” *Juvenile Instructor*, 1894年7月15日付, 443-445。原文(英語)においては, 句読点および文法は現代の用法に修正, 段落は変更
 22. *History of the Church*, 第3巻, 200-201。1838年11月4日, 囚人としてミズーリ州ファーウェストからインディペンデンスに連行されているときに, ミズーリ川の近くでジョセフ・スミスが行った説教の記録。パーリー・P・プラットによる報告
 23. *History of the Church*, 第6巻, 600。1844年6月26日, イリノイ州カーセージ, カーセージの監獄で, ジョセフ・スミスによって与えられた教えの記録。ダン・ジョーンズによる報告



人々と平和に、 協調性をもって生活する

「わたしたちはすべての人と平和に暮らすことを望んでいます。」

ジョセフ・スミスの生涯から

初期の末日聖徒は、ただ平和のうちに自分たちの宗教を実践するのを許されることを望んでいた。しかしどこに移っても、平和は彼らから逃げて行った。ミズーリ州の集合の場所が奉獻されてからわずか2年後の1833年、聖徒たちは暴徒によってミズーリ州ジャクソン郡を追い出された（281ページ参照）。そしてミズーリ州クレイ郡に一時的な避け所を見だし、その後、1836年にはミズーリ州北部に移動を始めた。聖徒たちの大半は、彼らを受け入れるために州議会によって新たに設けられたコールドウェル郡に移住した。郡の主都となったファーウェストは、すぐに発展著しい末日聖徒の入植地となった。

預言者ジョセフ・スミスは引き続きオハイオ州カートランドに住んでいたが、1838年1月、命の危険を感じてそこを脱出せざるを得なくなった。ジョセフは家族とともに、900マイル〔約1,450キロ〕を旅してファーウェストへ行き、同地に住む聖徒たちに加わった。1838年のうちに、カートランドの聖徒のほとんどが、家を売却または放棄して、預言者の後を追ってミズーリ州に移った。続々とやって来る教会員を受け入れるために、預言者は聖徒たちが入植できる場所としてファーウェストの近くの地域を指定した。1838年7月、ファーウェストで神殿の隅石が奉獻されたことにより、聖徒たちは繁栄と平和を享受する永住の地を築くことができるという希望を抱いた。しかし不幸にも、ジャクソン郡で経験したのと同様の緊張がすぐに彼らと地域の入植者たちを分断することとなり、1838年の秋、暴徒や民兵がまたもや末日聖徒を苦しめ、攻撃し始めた。

ある日、預言者がファーウェストにある両親の家を訪れていたとき、



ミズーリ州ファウエレストで、武装した民兵の団がジョセフ・スミスを捕らえに来たとき、ジョセフは「とてものにごやかにほほえみながら彼らを見上げ、前に進み出て一人一人と握手をし〔た〕。」

武装した民兵の一団が入って来て、ジョセフは犯罪人とのうわさを聞いたからジョセフを殺しに来たと宣言した。預言者の母親ルーシー・マック・スミスは、預言者の持っていた平和をつくり出す賜物^{たまもの}について次のように述べている。

「〔ジョセフ〕はとてもにこやかにほほえみながら彼らを見上げ、前に進み出て一人一人と握手をしました。その様子に、彼らはジョセフが犯罪者でも気の小さい偽善者でもないことを確信しました。まるで幽霊が自分たちの前を横切ったかのように、彼らは立ち止まってじっと見詰めていました。

ジョセフは腰を下ろして彼らと話し始め、モルモンと呼ばれる民の考え方や気持ち、民がそれまでに歩んできた道、また教会の設立以来、敵から受けてきた扱いについて説明しました。ジョセフは彼らに、聖徒たちはミズーリ州に入って以来ずっと悪意と中傷を受け続けてきたが、自分の知るかぎり一度も法律を破ったことはないと告げました。また、もし破っているならば、聖徒たちはいつでも法律による裁判を受ける用意ができていると言いました。……

その後、ジョセフは立ち上がって言いました。『お母さん、もう家に帰ります。エマが待っていますから。』すると男たちのうちの二人が跳ね上がるように立って言いました。『一人で行ってはいけません。危険です。わたしたちが一緒に行って護衛しましょう。』ジョセフは彼らに感謝を述べ、ともに出て行きました。

彼らが出て行くと、残った士官たちはドアの所に立っていました。次のような会話が聞こえてきました。

第1に語った士官。『スミスが握手したとき、不思議な感じがしなかったか。あんな感じは生まれて初めてだ。』

第2に語った士官。『まるで動けなくなったような感じがしたよ。おれは絶対に、あの人の髪の毛一筋さえも傷つけたりはしない。』

第3に語った士官。『これを最後に、もう二度とジョー（訳注——ジョセフのこと）・スミスもモルモンも殺しに来るつもりはない。』……

息子と一緒にいった男たちは、指揮下の民兵を解散して家に帰ると約束し、もし自分たちが必要なら、戻って来てどこにでもジョセフについて行くと言いました。』¹

真理を優しく、率直に語りながら、ジョセフ・スミスは偏見と敵意に打ち勝ち、以前は敵であった多くの人との間に平和をつくり出した。

ジョセフ・スミスの教え

平和をつくり出す人となるように努めることによって、いっそう大きな協調と愛の中で人々と暮らすことができる

「イエスは言われました。『平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。』〔マタイ5：9〕したがって、もし国や州、地域社会、あるいは家族が何か感謝すべきであるとするなら、それは平和です。

平和、天のいとしい子！平和は、同じ偉大な親から発せられる光のように、正しい者と正しくない者とともに喜ばせ、活気づけ、幸福にするものであり、まさに地上の幸福と天の喜びの本質です。

自分自身の便益のために、また自分の州や国、地方の名誉のために、心身の力を尽くし、国内外における自らの影響力を尽くして、平和を求め、維持するように努めず、ほかの人々もそうするように促さない人には、憐れみ^{あわ}を人に求める権利はありません。また、女性と交際する資格や政府から保護を受ける資格もありません。

そのような人は自分の内臓を食い荒らす毛虫の幼虫であり、自分の肉を食うハゲタカです。そして、その人自身の将来性や、人生における繁栄について言えば、自分の喜びを〔滅ぼす者〕です。

そのような人々の社会は地上の地獄に近いものであり、自由な者のほほえみや勇者の誉れにふさわしくないものとして、近づかないようにすべきです。

しかし平和をつくり出す人については、おお、その人に耳を傾けてください。その口から出る言葉や教義は雨のように降り注ぎ、露のように滴^{したた}るからです。それらは青草の上に降る霧のようであり、草に降り注ぐ穏やかなにわか雨のようです。

活気、徳、愛、満足、博愛、慈善、思いやり、人間愛、友情は、人生を無上の喜びに向かわせます。そして人々は、少しだけ天使よりも低い者ですが、イエス・キリストから与えられる啓示の秩序と規則と規定に従って、自分たちの力と特権と知識を働かせながら、一つとなって生活するのです。義になかった交わりがもたらす喜びと満足の息から漂う甘い香りは、アロンの頭に注がれた聖別された油の豊かな香りのようであり、アラビアの香辛料畑から立ち上る甘美な芳香のようです。まことに、平和をつくり出す人の声は、次のようなものです。

それは妙なる調べ^{たえ}のようであり、



山上の垂訓の中で、救い主は「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう」と教えられた。

わたしたちの心を魅了し、恐れを静めます。

この世を楽園に変え、

人をいっそう高価な真珠へと向かわせます。]²

「愛する兄弟の皆さん、兄弟愛を持ち続けてください。滅ぼされることのないように、注意して祈りながら、柔和に歩んでください。愛する兄弟パウロが言っているように、天の御父の子らとなるために、平和を追い求めてください〔ローマ14：19参照〕。]³

「万人に対する人間愛、徳を実践するための理性と優美さ、悪事に対して善で報いる行いは、……武力の行使よりも、あるいは友情に欠けた荒々しい議論よりも、社会の多くの混乱を正す非常に優れた手段です。……ですから、『すべての人と平和に』というのがわたしたちのモットーです。もし神の愛によって喜びを得ているのであれば、その喜びの正当な根拠を構築するよう努めましょう。それはこの世のこれにも反抗や抵抗のできないものです。]⁴

「わたしたちはすべての人と平和に暮らすことを望んでいます。]⁵

互いに敬い合い、あら探しをやめることによって、平和をはぐくむことができる

「主が求めておられるように、兄弟たちが互いを自分以上に敬いながら、互いの気持ちに注意を払い、愛のうちに歩むように〔願っています〕。』⁶

「正しいことをしようと望んでいる人に対しては、その徳をたたえるべきであり、背後でその人の欠点について語ってはいけません。』⁷

「さて、この世において、人は生まれながらに利己的で、野望を抱き、互いに相手よりも秀でようとしています。しかし、自分自身だけでなくほかの人も高めようとする人々もいます。』⁸

「十二使徒とすべての聖徒は、自分のすべての罪を進んで告白し、少しも隠すことのないようにしてください。謙遜^{けんそん}であって、高ぶらず、高慢に注意し、互いに相手より秀でようとすることなく、互いの益のために行動してください。また互いのために祈り、兄弟を敬い、兄弟の名を尊ぶようにし、陰口を言ったり、兄弟を滅ぼしたりすることのないようにしてください。』⁹

「もし自分たちの中からすべての悪口と陰口、偏狭な思いや気持ちを捨て、へりくだり、徳と愛のすべての原則をはぐくむなら、エホバの祝福がとどまり、やがてすばらしい栄えある時代を目にするでしょう。平和が門の内にあり、繁栄が境の内側にあるでしょう。』¹⁰

すべての人には自分の良心に従って信じる自由があり、その自由を尊ぶことによって、地域社会の中に協調を築くことができる

信仰箇条1：11。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。』¹¹

「すべての人は平等に造られており、良心に関するすべての事柄について自分自身で考える特権を与えられています。わたしたちはこれを正しい原則であると考えており、すべての人がそのことがもたらす力について正当に評価すべきであると信じています。したがってわたしたちは、人が個人として自由に考えるのを妨げるようなことは、たとえそうする力があつたとしても、しません。それは、最もすばらしい賜物^{たまもの}の一つとして天が恵み深く人類家族に授けてくださったものなのです。』¹²

「わたしはすべての教派や宗派、門派に対して、この上なく寛大な気持ちを抱き、慈愛を感じています。そして良心の権利と自由を何よりも神聖に、また大切にしており、自分と意見が異なるためにだれかをさげすんだりはしません。」¹³

「聖徒たちはわたしが兄弟たちのために進んで自分の命を捨てるかどうかについて証^{あかし}することができます。もしこれまで『モルモン』のために進んで命を差し出すことが証明されてきたとするなら、わたしは自分が長老派、バプテスト、あるいはほかの宗派の善良な人の権利を守るためにも同じように命を差し出す用意ができていることを、天の前にあえて宣言します。末日聖徒の権利を踏みにじる考え方は、ローマカトリックや、あるいは信者が少なく、自分たちを守る力を持たない宗派の権利をも踏みにじるものです。

わたしの心を鼓舞するのは、自由を愛する思いです。すなわち全人類が民事上と宗教上の自由を得ることです。自由を愛する思いは、祖父たちのひざの上で遊んでいた時代から、わたしの心に浸透していました。……

もし人類が間違いを犯していると思ったら、わたしは彼らを責めるでしょうか。いいえ。彼らを高めようとするでしょう。もしわたしの道の方が良いことを納得してもらえなければ、彼らの道に従って高めようとするでしょう。強制的に自分と同じように信じさせようとはせず、ただ理を説くだけです。いずれにしても真理は自らの道を切り開いて進むからです。」¹⁴

「わたしたちは自分たちと異なる意見や信仰を選ぶ友人、隣人、世の同胞^{ほらから}に対して抱く偏見にいつも気をつけなければなりません。それらはとても奇妙な形で現れることがあり、また、人の性分にうまくかみ合っています。わたしたちの宗教はわたしたちとわたしたちの神との間のものです。彼らの宗教は彼らと彼らの神との間のものです。」¹⁵

「人々の中に徳高い特質を目にしたら、いつでもそれらを認めるべきであり、信条や教義に関する彼らの理解はそのままにしておいてください。すべての人は自由であり、あるいは自由であるべきだからです。人は固有の権利を持ち、自然の法則と自己保存の法則に関する高貴な資格を持っていて、それゆえに自分の望むままに考え、行動し、語るができるのです。と同時に、他人の権利と特権を侵すことなく、絶えずそれらに^{しか}然るべき敬意を払うのです。わたしはこの教義を心から受け入れ、実践しています。」¹⁶

「すべての人には選択の自由を持つ権利があります。神がそのように定めておられるからです。神は人類を道徳的な選択を行う者とし、善悪を選ぶ力を授けておられます。この世で聖い道を進むことによって善を求め、この世においては心の安らぎと聖霊による喜びを、後の世においては神の右に立って満ちみちる喜びと幸福を得ることができます。あるいは、邪悪な道を進むことによって罪を犯し、神に背き、この世においては魂に罪の宣告を、来るべき世においては永遠の損失をもたらすこともできます。天の神はすべての個人にこれらの事柄を自由に選ぶように任せておられ、わたしたちは彼らからその権利を奪いたいとは思いません。ただ主が預言者エゼキエルに語られた言葉に従って、忠実な見張り人の役割を果たし（エゼキエル33章2, 3, 4, 5節）、自分のよいと思うままに行うよう人々に任せたいと思います。」¹⁷

「すべての人に良心の自由を認めることは、わたしの人生における最も大切な原則の一つであり、父から教えられて、幼年時代からはぐくんできた原則です。……わたしは正当な権利に関して弱い立場にある者や虐げられている者を守るためにいつでも命を差し出す覚悟ができています。」¹⁸

「宗教について他人に干渉してはいけません。すべての政府は、あらゆる人が妨害されずに自分の宗教を持つことを認めるべきです。宗教の違いのゆえに命を奪う権限はだれにもなく、すべての法律や政府は、正しかろうと間違っていようと、宗教の違いを容認し、保護すべきです。」¹⁹

「わたしたちは……すべての人との平和と友情をはぐくみ、他人の私事に干渉しません。そうすることにより、大きな成功を収め、尊敬を受けるでしょう。なぜなら、わたしたちは他人を尊ぶことによって、自らを尊ぶからです。」²⁰

「わたしは自分の教義をだれかに押しつけようとすることは決してありません。しかし偏見が真理に道を譲り、人の因習がイエス・キリストの福音の純粋な原則によって追い散らされるのを見ることに喜びを感じます。」²¹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを

参照する。

- ジョセフ・スミスが民兵たちと話をしたときの話を読んでください(339-341ページ)。預言者がこの状況において穏やかでいられたのはなぜだと思いますか。ほかに困難な状況に置かれていながら、平静を保った人々の例について考えてください。それらの人の行動はどのような結果をもたらしましたか。
- 342-343ページを読み、預言者が平和や平和をつくり出す人について説明する際に用いた語句を見つけてください。わたしたちが家庭や社会の中で平和をつくり出す人となるうえで、どのような特質が役立つでしょうか。
- 344ページの第2段落を読んでください。人の欠点や過ちを探すとき、どのように感じますか。人の徳高い資質を探すときはどうですか。あなたが時間を取って人々の徳高い資質を認めるとき、相手はどのように感じると思いますか。
- 344ページの第3段落を読んでください。わたしたちはどのようにして互いに高め合うことができるでしょうか。あなたを高めるために、人々はどのようなことをしてくれたでしょうか。そのような行動は、平和をもたらすことにどのようにつながるでしょうか。
- 344-346ページを読み、わたしたちと異なる宗教上の信条を持つ人々との接し方について、預言者の教えを見つけてください。人には「どのように、どこで、何を礼拝」してもよい権利があります。わたしたちはどのようにして人々のそのような権利を尊ぶことができるでしょうか。
- 346ページの最後の段落を読んでください。どうすれば相手の信条に敬意を示しながら、回復された福音を分かち合うことができるでしょうか。

関連聖句——エペソ4：31-32；モーサヤ4：9-16；4ニーファイ1：15-16；教義と聖約134：2-4, 7

注

1. ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 15, 8-10, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第6巻, 245-246.

原文(英語)においては、句読点および文法は現代の用法に修正。1844年3月8日、イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスの指示の下に書かれた記事 “A Friendly Hint to Missouri” から。 *Times and Seasons*, 1844年3月15日付, 473に掲載

3. 1833年2月6日、オハイオ州カートランドで、ジョセフ・スミスとその他の人々がオハイオ州トンプソンの教会員にあてて書いた手紙。Letter Book 1, 1829-1835年, 26, Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第6巻, 219-220。原文(英語)においては、段落は変更。1844年2月17日, イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスの指示の下に書かれた記事“Pacific Innuendo”から。*Times and Seasons*, 1844年2月15日付, 443に掲載。同日付の*Times and Seasons*は遅れて発行された
5. *History of the Church*, 第2巻, 122。1834年6月21日, ミズーリ州クレイ郡で、ジョセフ・スミスとその他の人々がジョン・リンカーンとその他の人々にあてて書いた手紙から。*Evening and Morning Star*, 1834年7月号, 176に掲載
6. *History of the Church*, 第1巻, 368。1833年6月25日, オハイオ州カートランドで、ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちがウィリアム・W・フェルプスとミズーリ州の兄弟たちにあてて書いた手紙から
7. *History of the Church*, 第1巻, 444。1833年11月19日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
8. *History of the Church*, 第5巻, 388。1843年5月14日, イリノイ州エルロームでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
9. *History of the Church*, 第3巻, 383-384。1839年7月2日, アイオワ州モントローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第4巻, 226。1840年10月19日, イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスがオハイオ州カートランドの聖徒たちにあてて書いた手紙から
11. 信仰簡条1:11
12. *History of the Church*, 第2巻, 6-7。“The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad” 1834年1月22日付から。*Evening and Morning Star*, 1834年2月号, 135に掲載
13. 1839年3月22日, ミズーリ州リバティアー, リバティアーの監獄で、ジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙。*Times and Seasons*, 1840年2月号, 55-56に掲載
14. *History of the Church*, 第5巻, 498-499。1843年7月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
15. *History of the Church*, 第3巻, 303-304。1839年3月20日, ミズーリ州リバティアー, リバティアーの監獄で、ジョセフ・スミスとその他の人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から
16. *History of the Church*, 第5巻, 156。原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1842年9月8日, イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスがジェームズ・アーリントン・ベネットにあてて書いた手紙から。*History of the Church*では、ジェームズ・ベネットの姓が“Bennett”と誤ってつづられている
17. *History of the Church*, 第4巻, 45, 脚注。原文(英語)においては、句読点および文法は現代の用法に修正。1839年12月8日, イリノイ州コマースで、大管長会と高等評議会がオハイオ州カートランドの西方に住む聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1839年12月号, 29に掲載
18. *History of the Church*, 第6巻, 56-57。1843年10月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
19. *History of the Church*, 第6巻, 304。1844年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
20. *History of the Church*, 第6巻, 221。1844年2月10日, イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスが *Nauvoo Neighbor* の編集者にあてて書いた手紙から。*Nauvoo Neighbor*, 1844年2月21日付。*History of the Church*では、この手紙は誤って1844年2月19日付とされている
21. *History of the Church*, 第6巻, 213。原文(英語)においては、句読点は現代の用法に修正。1844年2月13日, イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスがジョセフ・L・ヘイウッドにあてて書いた手紙から



キリストの大義を雄々しく果たす

「わたしはキリストの大義……を愛する者です。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1838年10月、ミズーリ州北部に住む聖徒たちと同地の暴徒や民兵との対立が危機的な状況となった。同月27日、ミズーリ州知事のリバーン・W・ボッグズから、州軍の指揮官に対して次のような忌まわしい命令が発せられた。「モルモンは敵として扱わなければならない、公益のために必要であれば、州外に追放するか、撲滅しなければならない。彼らの不法行為は筆舌に尽くし難いものである。」¹ その3日後、武装した民兵の大部隊が、教会の本部が置かれていたミズーリ州ファーウェストの近くに駐屯地を構え、町を攻撃する準備に入った。

末日聖徒の安全をひどく心配したジョセフ・スミスとそのほかの教会指導者は、和平交渉のために10月31日に軍の将校たちと会談することに合意した。ところが、州軍の駐屯地に近づいて行くと、預言者と同行者たちは突然拘束されてしまった。それから駐屯地に連行され、凍えるような暴風雨の中で、番兵たちにどなられ、ののしられながら、冷たい地面に一晩中横たわっていることを強いられた。将校たちが捕虜をミズーリ州インディペンデンスに移送することを決めると、ジョセフと同行者たちは家族に会うのを許してくれるようお願いが出た。

預言者は次のように書いている。「妻と子供たちは、涙を流していました。命を奪うと誓っていた者たちにわたしたちがすでに撃たれていて、もうわたしに会えないと考えていたからでした。……そのときのわたしの気持ちを、だれが理解できるでしょうか。伴侶はんりよから引き離され、妻と子供たちを人の姿をした残忍な化け物に囲まれたまま残して、彼らの欲求が今後どのようにして満たされるのかも分からず、一方でわたしは敵が望むときに殺されるために、家族から遠く離れた場所へ連行されて行くのです。妻は涙を流し、子供たちはわたしにしがみついていたましたが、ついには衛兵の剣によって引き離されてしまいました。」²



ミズーリ州リッチモンドで、監禁されていた教会指導者たちは何時間にもわたって、見張りに立った兵士たちが聖徒を襲ったときのことについて自慢するのを聞いた。ジョセフ・スミスは突然立ち上がり、次のように言った。「イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。」

インディペンデンスで少しの間拘束された後、預言者と数名の教会指導者はミズーリ州リッチモンドへ連行され、鎖で数珠つなぎにされたまま、厳重な監視の下で、古い丸太造りの家に監禁された。ミズーリ州リバティーの監獄に移されるまで、預言者は約3週間にわたってリッチモンドで囚われの身として過ごした。その環境は過酷なものであったが、預言者はリッチモンドに到着して間もなく、エマに次のように書いている。「わたしたちは囚人として鎖につながれ、厳しく監視されていますが、それはキリストのためであり、ほかのどんな理由によるのでもありません。……わたしの隣には〔ジョージ・W・〕ロビンソン兄弟がつながれています。誠実でしっかりとした意思の持ち主です。その隣は〔ライマン・〕ワイト兄弟、それから〔シドニー・〕リグドン兄弟、ハイラム〔・スミス〕、パーリー〔・P・プラット〕、アマサ〔・ライマン〕と続き、こうして、永遠の愛のきずなだけでなく、鎖でもつながれています。わたしたちは元気であり、キリストのために迫害を受けるにふさわしい者と見なされていることを喜んでいます。』³

こうした寒く、長い幾晩かを過ごしたうちのある日の夜、彼らは夜半過ぎまで床の上で横になったまま、眠ることができずにいた。見張りに立った兵士たちが少し前に聖徒たちを襲ったときのことを、略奪や強姦や殺人などの行為を含めて自慢げに話していたためだった。パーリー・P・プラット長老は次のように述べている。「わたしは聞いているうちに、強い不快感と、憤りと、嫌悪感を覚えました。義憤が込み上げてきて、立ち上がって番兵どもを叱責せずにはいられなくなりました。すぐ隣にはジョセフがいて、目を覚ましているのを知っていましたが、わたしはジョセフにも、ほかのだれにも、何も言いませんでした。突然、ジョセフが立ち上がり、雷鳴のように、あるいはほえるライオンのように、わたしの覚えているかぎり次のように言いました。

『黙れ。……イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。もう一刻たりともそのような言葉を聞いてはられない。そのような話をやめよ。さもなければおまえたちかわたしのどちらかが、今すぐ死ぬことになるぞ。』

ジョセフは語るのをやめました。恐ろしいほどの威厳をもって、背筋を伸ばして立っていました。鎖につながれ、武器も持たず、静かに、落ち着いて、天使のように堂々と、おじけづいた番兵たちを見据えていました。番兵たちは武器をだらりと下げ、地に落とす者もいました。ひざを震わせ、隅で縮こまり、ジョセフの足もとにかがんで赦しを請う者も

いました。そして見張りを交代するときまで静かにしていました。]⁴

ジョセフ・スミスの教え

雄々しい人は、苦難のときでさえも喜んで全力を尽くす

1839年9月、聖徒たちがイリノイ州ノーブーの町を築くという困難な仕事に着手していたとき、預言者はオハイオ州カートランドにとどまっていたある教会員あてに次のように書き送っている。「この地における教会の状況について言えば、物事は順調に、期待していたように進んでいます。……すでに相当な数の家族が集まっており、今後も増え続けるでしょう。特に、調べてみたところ、これまでに受けてきた試練や、さらされてきた苦境にもかかわらず、この地における病気の発生率は〔通常〕程度であることが明らかになっています。現在も進めているように、わたしたちは神の憐れみと力に頼りながら、あらゆる有益で善い働きを、最後まで続けたいと思います。はかりにかけられるとき、足りないところが明らかになることのないようにするためです。]⁵

1842年9月、預言者は教会にあてた手紙の中で次のように書き、それらは後に教義と聖約128：19、22に記録された。「さて、わたしたちの受けた福音について、何を聞くでしょうか。喜びの声です。天からの憐れみの声、地からの真理の声、死者のための喜びのおとずれ、生者と死者のための喜びの声、胸躍る大いなる喜びのおとずれ〔です〕。……兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。]⁶

1831年、預言者は教会の発展について次のように述べている。「主がわたしたちに、なすべき業に応じた力と、参加するべき競争に応じた強さと、そして必要とするだけの恵みと助けを与えてくださることは、まったく明らかでした。]⁷

雄々しい人はキリストの大義を愛し、キリストのような特質を伸ばすように努める

「わたしはキリストの大義と、徳と、純潔と、正しく揺るぎない振る舞いと、聖なる歩みを愛する者です。]⁸

「わたしは神の前に徳高く、正直で、聖い生活を送るべきことを信じ、

わたしの力の及ぼせるすべての人がそうするように説き勧めるのが自分の義務だと感じています。彼らが悪事を行うのをやめ、正しいことをするようになり、義によってその罪を取り除けるようになるためです。]⁹

「わたしたちは、聖なるイエスの子らを際立たせるすべての良い特質を身に付けていくことによって、信仰を強めながら、祈るべきときに祈ることができます。自分自身を愛するように隣人を愛することができ、天の王国においてより大きな報いを得ることを理解することによって、^{かんなん}艱難の間も忠実であることができます。何という慰め^{なぐさ}でしょう。何という喜びでしょう。わたしは義人の生活を送り、義人の報いを得たいと思います。

……聖徒はあらゆることにおいて、義を目指さなければなりません。〔教義と聖約が〕出版されたら、彼らは自分たちに大いなる事柄が期待されていることが分かるでしょう。神の栄光にひたすら目を向けて、善を行い、義を行ってください。そうすれば主がすべての人にその行いに応じて報いられるときに、自分の報いを刈り取るでしょう。……イエス・キリストの名によってお願いします。多くの艱難の後に来る祝福を受けるにふさわしい生活をしてください。それは最後まで忠実であり続ける人々に十分な満足をもたらす祝福です。]¹⁰

「今から後、皆さんの中に真理と義を豊かに満たしてください。すべてのことにおいて自制し、酒に酔うこと、ののしること、すべての不敬な言葉、すべての不義や聖くないものを断ってください。また敵意、憎しみ、^{どんよく}貪欲、およびすべての聖くない欲望を断ってください。互いに正直であってください。これらを実践できていない人や、慈愛を示していない人、むさぼっている人がいるように思われるからです。……そのような人々は神から嫌われます。大いなる車輪が転がっていく中で、悲しみの時が彼らに訪れるでしょう。その車輪は転がり、だれもとどめることはできないからです。シオンは、たとえ死んでいるように見えるとしても、なお生きているのです。]¹¹

「人々の救いを強く望む者として、わたしは皆さんに思い起こしてもらうためにこれを話します。信仰に基づく熱意をもって徳と聖さを得るように努め、主の戒めを守る努力をしてください。善良で、賢く、公正で、自由を尊び、そして何より、慈愛を示し、いつもあらゆる善い行いをしてください。健康と平安と、わたしたちの父なる神の愛と、主なるイエス・キリストの恵みが皆さんとともにありますように。永遠の福音における皆さんの忠実な兄弟として、友として、心から祈ります。]¹²

「柔和でへりくだり、高潔で清くあり、悪に対して善を報い、……

人生のあらゆる局面において謙遜^{けんそん}で忍耐強くあってください。そうすればいっそう輝かしい勝利を得るでしょう。』¹³

「わたしたちは兄弟たちに大胆に勧告します。謙遜であってよく祈り、光の子、昼の子として歩んでください。わたしたちの主イエス・キリストの尊い名によって恵みを受け、あらゆる誘惑に立ち向かい、あらゆる悪に打ち勝てるようにするためです。』¹⁴

雄々しい人は、この世で自分を高めるために努力する

「すべての人は、ぶどう園における自分の熱意と根気強さに応じて報いを受けます。そのことについて考えるとき、この喜びのおとずれの教導者として召されているすべての人は、自分のタラントを増やしたいと考えるに違いありません。それによってほかのタラントを得て、主人が座に着いて僕たちの働きの報告を受けるとき、次のように言われるためです。『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』〔マタイ25：21〕……

……どんなことがあろうとも、わたしたちは神の聖なる要求に基づいて、自分が神の目にかなう者であることを示さなければなりません。人は、許されているすべての祝福について天に依存していることや、与えられているすべての機会について後に報告を求められることを忘れてしまうことがよくあります。兄弟の皆さん、御存じのように、管理人について話された救い主のたとえの中で、主人は僕たちを自分の前に呼び、自分がしばらく不在にする間に増やしておくよう、彼らに幾つかのタラントを預けました。そして戻って来たときに、主人は報告を求めました〔マタイ25：14-30参照〕。今も同じです。わたしたちの主人はほんのしばらくの間不在にしていますが、その後、一人一人に報告をお求めになるでしょう。そして5タラントを与えられていた者は、10タラントを求められるでしょう。増やさなかった者は、役に立たない僕として追い出されますが、忠実な僕は永遠の誉れを受けるでしょう。ですからわたしたちは、御子イエス・キリストを通じて御父の恵みが皆さんのうえにとどまって、皆さんが誘惑にくじけず、迫害に屈服することのないように心から祈ります。』¹⁵

「この教えを受けた後、皆さんは自分自身の罪に対して責任を負うことになります。天の御父の前をふさわしく歩み、その結果自分自身を救うのは、好ましく誉れあることです。わたしたちは皆、自分自身



「増やさなかった者は、役に立たない僕しもべとして追い出され、忠実な者は永遠の誉れを受けるでしょう。」

を救えるように主から与えられている光と知恵をどのように増やすかについて、神に責任を負っています。』¹⁶

雄々しい人は最後まで忠実に堪え忍び、日の栄えの冠を受ける

「わたしたちは神を信頼しています。そして日の栄えの冠を与えられて、神の子供たちのために用意されている安息に入ることができるように、神の恵みにより助けられて、最後まで大義を守り忠実であり続けようと決意しています。』¹⁷

「試しの世を最後まで忠実に堪え忍ぶ人々に用意されている冠を得ることができるように、信仰の戦いを立派に戦ってください〔2テモ

テ4：7-8参照]。ですから、神の手から惜しみなく与えられているものに忠実であってください。そうすれば慰めの時が来るときに、その働きがむなしくなることはなく、皆さんはすべての働きを離れて休み、神の王国において満ちみちる喜びを受けるでしょう。』¹⁸

「善良でありすぎることなどあり得ません。忍耐は天にふさわしく、従順は高貴であり、赦しは憐れみ深く、あがめることは信仰深い行いです。最後まで忠実を貫く人は、決してその報いを失うことはありません。善良な人はキリストをあがめるためにすべてのことを堪え忍び、自らの魂を救うために、全世界と、そこにあるすべてさえも捨てるのです。』¹⁹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 351ページにある、ジョセフ・スミスが見張りの兵士たちを叱責した話を読んでください。この話は、ジョセフ・スミスに対するあなたの気持ちにどのような影響を与えるでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、福音は「喜びの声」であり、「心を喜び楽しませ、大いに喜んでください」と告げています（352ページ）。苦難のときにあっても大いなる喜びを得るために、福音の知識はどのように助けてくれるでしょうか。
- 352ページの第3段落を読んでください。「なすべき業に応じた力」が与えられるとはどういう意味だと思いますか。この真理を明らかにしている例として、どのようなことが思い浮かびますか。
- 352ページの第4段落を読んでください。「キリストの大義を愛している人は、どのような特質を持っていると思いますか（例として、352-354参照）。
- 354-355ページにある預言者ジョセフの勧告を研究しながら、自分の生活の中で改善する必要がある面について考えてください。責任を持って自己を改善するために、あなたが実行する事柄を決意してください。
- 本章の最後の2段落を読んでください（355-356ページ）。「信仰の戦いを立派に戦[う]」人は、どのような報いを受けるでしょうか。「善良でありすぎ」ないようにわたしたちを説得しようとする人々

がいます。彼らはどのような方法で働きかけてくるのでしょうか。そのような圧力にどのように対処できるのでしょうか。

関連聖句——申命31：6；2テモテ1：7-8；2ニーファイ31：19-20；
モーサヤ5：15；教義と聖約59：23

注

1. リルバーン・W・ボッグズ, *History of the Church*, 第3巻, 175で引用。1838年10月27日, ミズーリ州ジェファーソン市で, ジョン・B・クラークに与えられた命令から
2. *History of the Church*, 第3巻, 193。"Extract, from the Private Journal of Joseph Smith Jr.," *Times and Seasons*, 1839年11月号, 6から
3. 1838年11月12日, ミズーリ州リッチモンドでジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス
4. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 210-211。原文 (英語) においては, 斜体は削除
5. *History of the Church*, 第4巻, 8-9。原文 (英語) においては, 角括弧の部分は当時の表記のまま, 文法は現代の用法に修正, 段落は変更。1839年9月11日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙から
6. 教義と聖約128：19, 22。1842年9月6日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが聖徒たちにあてて書いた手紙
7. *History of the Church*, 第1巻, 176。"History of the Church" (原稿), book A-1, 118から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
8. 1832年7月31日, オハイオ州ハイラムでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課
9. 1840年1月22日, ベンシルベニア州ブランドイーワインでジョセフ・スミスが *Chester County Register and Examiner* の編集者にあてて書いた手紙。原本は個人の所有。手紙は1840年2月11日付の新聞に掲載された
10. *History of the Church*, 第2巻, 229-230, 脚注。"To the Saints Scattered Abroad," *Messenger and Advocate*, 1835年6月号, 137-138から
11. *History of the Church*, 第3巻, 233。1838年12月16日, ミズーリ州リパティエー, リパティエーの監獄でジョセフ・スミスがミズーリ州コールドウェル郡の教会員にあてて書いた手紙から
12. *History of the Church*, 第5巻, 417。1843年6月1日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがブリガム・ヤングに発行した推薦状から
13. *History of the Church*, 第6巻, 411。1844年5月26日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
14. 1833年11月23日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスと大祭司たちがニューヨーク州ジュネシオの兄弟たちにあてて書いた手紙, 教会記録保管課
15. *History of the Church*, 第2巻, 6, 23-24。"The Elders of the Church in Kirtland, to Their Brethren Abroad" (1834年1月22日付) から。 *Evening and Morning Star*, 1834年2月号, 135および1834年4月号, 152に掲載
16. *History of the Church*, 第4巻, 606。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
17. *History of the Church*, 第1巻, 450。1833年12月5日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとそのほかの人々にあてて書いた手紙から
18. 1830年8月20日, ベンシルベニア州ハーモニーでジョセフ・スミスとジョン・ホイットマーがニューヨーク州コールドズビルの聖徒たちにあてて書いた手紙。Newel Knight, *Autobiography and journal* (約1846-1847年), 129-130, 教会記録保管課
19. *History of the Church*, 第6巻, 427。1844年6月4日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスとハイラム・スミスがアビジャ・テュークスベリーにあてて書いた手紙から。 *History of the Church* では, アビジャ・テュークスベリーの姓が "Tewkesbury" と誤ってつづられている



リバティーの監獄に収監されていた間、預言者ジョセフ・スミスは家族や聖徒たちあてに多くの手紙を書いた。その中で預言者は、神の力は悪に打ち勝ち、「とこしえにいつまでも」聖徒たちとともにあることを証した。



「とこしえにいつまでも、 神はあなたとともにおられる。」—— リバティーの監獄での預言者

「全能者なる神の名によって、わたしたちは名誉ある兵士として最後まで^{かんなん}艱難を堪え忍ぶ決意です。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1838年12月1日、預言者ジョセフ・スミスと兄のハイラム、そのほかの兄弟たちは、それまで監禁されていたミズーリ州リッチモンドの丸太造りの家から、ミズーリ州リバティーの監獄に移送された。そしてミズーリ州の聖徒たちへの迫害に端を發した偽りの告発に対する裁判を待つため、そこに4か月以上にわたって拘束されることになった。この間、教会員は迫害者によってミズーリ州の家を追われ、ひどい苦しみを味わっていた。聖徒たちが受けていた試練は、長期にわたって監禁されていた預言者とその同僚たちにとって大きな心配の種となっていた。

リバティーの監獄は、階上の部屋と、囚人たちが収容されていた広さ14平方フィート〔4.2メートル四方〕の1階部分とに分かれていた。預言者は自分たちの状況について次のように述べている。「壁も扉も二重の監獄の中で、昼夜を問わず嚴重な監視の下に置かれており、良心に従って行動する自由も制限されています。食物はわずかで、いつも同じであり、粗末です。自分たちで料理をすることは認められません。わらを敷いた床の上で寝るしかなく、体を温めてくれる毛布も満足にありません。火をおこせば、絶えず煙に耐えなければなりません。時折訪れる判事たちは、わたしたちが無実であり解放されるはずだと、嚴肅な面持ちで言うてくれるのですが、暴徒を恐れてわたしたちに法律を執行しようとしません。」¹

部屋はまっすぐに立てるほどの高さもなかった。囚人の一人であっ

たアレクサンダー・マクレーは、食物は「非常にまずく、また不潔だったので、飢えをしのぐためにどうしても食べざるを得なくなるまでは口に入りませんでした」と述べている。²

収監された兄弟たちを訪れた教会員の一人、マーシー・フィールディング・トンプソンは、後に次のように書いている。「看守から監獄に入るのを許され、背後で扉に錠がかけられたときに感じた気持ちは、とても言葉で表すことはできません。極悪な犯罪者しか収監されないような、暗くて陰うつな小部屋に閉じ込められたことに気づいたとき、恐怖を覚えずにはいられませんでした。しかしその場所に、わたしたちは預言者ジョセフを見ました。時満ちる神権時代に地上における神の王国の鍵と、神の命じられるままにつなぎ、また解く力を持つ者として神の選ばれた人物が、人々の中に神の教会を設立するよう神から靈感を受けたと主張していること以外に何の原因や理由もなく、おぞましい監獄に閉じ込められていたのです。」³

預言者が監禁されていた間、妻のエマが預言者のもとを訪れることができたのはわずか3度だった。ほかは手紙が唯一の連絡手段だった。1839年4月4日付けで預言者は次のように書いている。「愛する妻へ。木曜日の晩、日が沈んで行くのをこの孤独な監獄の格子越しにのぞきながら、状況を知らせるために手紙を書こうと腰を下ろしました。孤独で、暗くて、汚い監獄の壁と、格子と、きしる鉄の扉の中で、昼夜を問わず監視され続けて、もう5か月と6日になると思います。神だけが御存じの感情を胸に、この手紙を書いています。このような状況にある者の思いを、わたしたちが経験している事柄を一度も経験したことのない人に対して描写したり、表現したりすることは、筆をもって、舌をもって、あるいは天使でさえもできません。……わたしたちは自分たちの解放について、ただエホバの腕に頼っています。」⁴

リバティーの監獄から、預言者は聖徒たちにも手紙を書き、彼らへの愛と、神は御自分を信頼する者をいつも支えてくださるという信仰を表している。以下は、その大半が1839年3月20日付けの教会員にあてた手紙からであり、預言者が聖徒たちに与えた勧告、神への懇願、預言者の祈りに対する神の答えが含まれている。この手紙の一部は、後に教義と聖約の第121章、第122章、第123章となった。

ジョセフ・スミスの教え

いかなる苦難も、神の愛と互いの友情からわたしたちを引き離すことはできない

「皆さんの至らない僕^{しもべ}であり、主イエス・キリストのため、また聖徒たちのために囚われの身^{とら}となっているジョセフ・スミス・ジュニアから、皆さん全員にあいさつを送ります。わたしは知事であるリバーン・W・ボッグズ閣下の皆殺し統治の下で、同じ囚われの身となっている愛する兄弟たち、カレブ・ボールドウィン、ライマン・ホワイト、ハイラム・スミス、アレクサンダー・マクレーとともに、暴民によって力づくで捕らえられ、拘束されています。⁵ 父なる神と、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みが皆さん全員のうえにとどまり、とこしえに皆さんとともにありますように。神の憐れみ^{あわれみ}によって、皆さんの知識が増し加えられますように。そして信仰と徳と、知識と節制と、忍耐と信心と、兄弟愛と慈愛が豊かにあって、皆さんが何事においても不毛で実を結ばない者となることはありませんように〔2ペテロ1：5-8参照〕。

皆さんのほとんどは、わたしたちに対する不当な扱いや、横暴で不法な行為やむごい仕打ちについてよく知っていると思います。わたしたちはあらゆる種類の悪事について偽りの告発を受けて捕らえられ、監獄に入れられ、堅固な壁に囲まれ、屈強な看守に取り囲まれています。そして悪魔が疲れも知らずに神の民を誘惑し、わなを仕掛け続けるように、看守は昼夜を問わず厳重な監視を続けています。

ですから、親愛なる兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんの友情と愛を求める思いがっそう強くなっています。このような状況にあるとき、わたしたちの霊はすべての神聖なことを思い起こすからです。皆さんの霊も同じだと思います。ですから、神の愛と互いの友情からわたしたちを引き離すことのできるものは何もなく〔ローマ8：39参照〕、わたしたちに対するあらゆる種類の悪事やむごい仕打ちは、ただわたしたちの心をつなぎ、愛によって結びつけるだけでしょう。

わたしたちが理由もなく拘束されているのは言うまでもないことであり、また皆さんも、自分たちは理由もなく家を追われ、打たれていると、わたしたちに告げる必要はありません。わたしたちはともに次のことを理解しています。すなわち、もしミズーリ州の住民が聖徒たちに干渉せず、聖徒たちと同じように平和を望んでいたなら、今日に

至るまで州内にはただ平和と静けさだけがあり、わたしたちがこの地獄にいることもなかったでしょう。……ここでは神聖を汚すののしりの言葉ばかりを聞かされ、^{ほうとく}冒瀆、泥酔、偽善、そしてあらゆるたぐいの背徳が繰り上げられる有様^{ありさま}を見せられています。さらに付け加えるならば、孤児とやもめの叫びが神のもとに上って彼らを訴えることもなく、罪のない者の血がミズーリの土を染めることもなかったでしょう。……それは災いの物語であり、嘆きの物語、痛ましい物語であり、語るにも、考えるにも、人間にとってあまりにつらい物語です。……

〔迫害者たちは〕これらのことを、彼らに何ら悪事を働いたことのない、罪のない徳高い聖徒たちに対して行っています。聖徒たちは主なる自分たちの神を愛し、キリストのために進んですべてのものを捨てました。これらのことを語るのはきわめて不快なことです、しかし紛れもない事実なのです。つまりきは必ず来ますが、それをもたらす人は災いです〔マタイ18：7参照〕。⁶

逆境はつかの間である。もしよく堪え忍ぶならば、神の前に高く 上げられる

「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。あなたの御手^{みて}はいつまでとどめられ、あなたの目、まことにあなたの清い目^{しみもべ}はいつまで永遠の天からあなたの民とあなたの僕たちへの不当な扱いを眺め、またあなたの耳はいつまで彼らの叫び声で貫かれるのですか。

まことに、おお、主よ、彼らがどれほど長くこれらの不当な扱いと不法な虐待を受ければ、あなたの心は彼らに和らぎ、あなたの胸は彼らに対する哀れみの情に動かされるのですか。

おお、全能の主なる神よ、天と地と海とその中にある万物の造り主よ、悪魔とシェオルなる暗い闇^{やみ}の領域を支配し従えておられる御方よ、あなたの御手^{みて}を伸べてください。あなたの目が貫きますように。あなたの大幕が取り去られますように。あなたの隠れ場がもはや覆われませんように。あなたの耳が傾けられますように。あなたの心が和らぎ、あなたの胸がわたしたちに対する哀れみの情に動かされますように。あなたの怒りがわたしたちの敵に向かって燃えますように。そして、あなたの心の憤りをもって、あなたの剣でわたしたちへの不当な扱いに報復してください。おお、わたしたちの神よ、あなたの苦しんでいる聖徒たちを思い起こしてください。そうすれば、あなたの僕たちは、

とこしえにあなたの御名^{みな}を喜び歌います。……

……息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。』⁷ [この項の段落は教義と聖約121：1-8にも掲載されている。]

神の力はいかなる悪にも勝り、福音の真理は最終的に勝利を得る

「兄弟の皆さん、このことを言わせてください。無知や盲信や偏狭な考えが、あってはならないところにあるとき、それらはこの教会の繁栄を妨げることがあります。それらは山から下る雨水^{ほんりゅう}のようであり、この上なく清らかな澄んだ流れを泥や土や汚れであふれさせ、以前は澄んでいたすべてのものを濁らせ、すべてが集められて一つの洪水となり、激しい勢いで流れて行きます。しかし、時とともに急流は取まります。わたしたちは一時的に泥水に巻き込まれるとしても、時がたてば、次にやって来る流れは、恐らく水晶のように澄み、雪のように清らかな水源となるでしょう。一方で、汚れたものや流木、廃物は後に残され、取り除かれていくでしょう。

流水はいつまで濁ったままでいられるでしょうか。いかなる力が天をとどめるでしょうか。全能者が末日聖徒の頭に天から知識^{こくべ}を注ぐのを人が妨げようとするのは、人がそのか弱い腕を伸べて、定められた水路を流れるミズーリ川をとどめようとするようなもの、あるいは逆流させようとするようなものです。[この段落は教義と聖約121：33にも掲載されている。]

[知事のリルバーン・W・] ボッグズやその残忍な仲間、水中に根を伸ばして流木を捕らえる河岸の柳でなければ何でしょうか。裏切り者や偽り者、聖職者、盗人、殺人者たちは、皆自分たちの悪賢い行いや信条に固執しており、天上にいる悪い霊から、また悪魔の拠点から、土と泥と汚れたものを……わたしたちの頭上に洪水のように浴びせかけています。しかし、そのためにわたしたちの大義は崩壊した、と言うのは間違いです。それはあたかも、山からの激流によって泥が運ばれ、澄んだ流れを濁らせているという理由から、後になれば流れは以前よりもさらに澄んだものとなるにもかかわらず、水を水でないと言うようなものです。あるいは、大量の水を注ぐことによって消すことができるという理由で、火を火でないと言うようなものです。

しかし、断じてそうではありません。地獄はベスビオ山やエトナ山、あるいは激しく燃える火山の溶岩のように、その怒りを噴き上げるかもしれません。それでも『モルモンの教え』は倒れません。水も、火も、真理も、神も、すべて現実に存在するのです。『モルモンの教え』は真理です。その創始者は神です。神はわたしたちの盾です。神によって、わたしたちは生を受けました。神の声によって、わたしたちは時満ちる時代の初めに神の福音の神権時代に召されました。神によって、わたしたちはモルモン書を受けました。神によって、わたしたちは今日まで生き長らえており、もしそれがわたしたちの栄光となるなら、神によってわたしたちは今後も生き長らえるでしょう。そして全能なる神の名によって、わたしたちは名誉ある兵士として最後まで艱難かんなんを堪え忍ぶ決意です。

……これを読み終えるころには、皆さんは次のことを学ぶでしょう。もし学んでいなければ、学んでください。すなわち、壁も足かせも、扉もきしむちょうつがいも、おびえた番人も看守も、……正直な人が自分は地獄の力よりも強いと実感するために存在するのです。……

……わたしたちは皆さんの兄弟であり、苦難を共にする者であり、福音のため、またわたしたちの内にある栄光の希望のために、イエス・キリストの囚人となっています。』⁸

救い主はわたしたちのすべての苦しみを理解し、とこしえに いつまでもともにいてくださる

主は次の言葉で預言者を慰められた。「地の果ての人々があなたの名を尋ね、愚かな者はあなたをあざ笑い、地獄はあなたに激怒するであろう。一方、心の清い者と、知恵のある者と、高潔な者と、徳高い者は、絶えずあなたの手から助言と権能と祝福を求めるであろう。あなたの民が、裏切り者の証あかしによってあなたに背くことは決してない。あなたは裏切り者の影響により苦難の中に、また格子と壁の中に投げ込まれるが、それでもあなたは尊敬されるであろう。そして、つかの間にして、あなたの声は、あなたの義のゆえに、あなたの敵の中でどう猛なライオンよりも恐ろしいものとなる。そして、あなたの神は、とこしえにいつまでも、あなたの傍らに立つであろう。

たとえあなたは艱難かんなんを経験するように定められても、たとえ偽兄弟の難に遭っても、たとえ強盗の難に遭っても、たとえ陸上や海上の難に遭っても、たとえあらゆる偽りの罪状で告訴されても、たとえあな



ピラトの前に立たれる救い主。「人の子はこれらすべての下に身を落とした。
あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。」

たの敵があなたを襲っても、たとえ彼らがあなたの父と母と兄弟と姉妹の交わりからあなたを引き離しても、また、たとえあなたの敵が抜き身の剣をもってあなたを妻と子供たちから引き離し、六歳にすぎないあなたの年長の息子があなたの服にすがりついて、『お父さん、お父さん、なぜ一緒にいられないの。お父さん、お父さん、この人たちは何をしようとしているの』と叫んでも、そしてその後たとえ彼が剣をもってあなたから引き離され、あなたが獄に引きずり込まれ、あなたの敵が子羊の血を求めるおおかみのようにあなたの周りをうろついても、また、たとえあなたが穴の中に投げ込まれたり、殺人者の手に渡されたりして、死刑の宣告が下されても、たとえあなたが深みに投げ込まれても、たとえ寄せて来る大波があなたを巻き込もうとしても、たとえ暴風があなたの敵となっても、たとえ天が暗黒を集め、すべての元素が結束して道をふさいでも、また何にも増して、たとえ地獄の入り口が大口を開けてあなたをのみ込もうとしても、息子よ、あなた

はこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。

人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。

それゆえ、あなたの道に踏みとどまりなさい。そうすれば、神権はあなたとともにある。彼らの限界は定められており、彼らはそれを越えることはできない。あなたの命数は知られており、あなたの寿命が短くされることはない。それゆえ、人のなし得ることを恐れてはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。]¹⁹
〔この項の段落は教義と聖約122：1-9にも掲載されている。〕

静かな細い声は、深い悲しみと苦悩の中にあるわたしたちの心に 慰^{なぐさ}めをささやく

ミズーリ州において自分を捕らえた者たちから逃れるのを許されて間もなく、預言者は監禁されていた間の気持ちを次のように回想している。「敵の手の中にいた間、非常に残忍な扱いや虐待を受けていた家族や友人のことがひどく心配でした。……しかし自分のことに関しては、まったく心穏やかで、天の御父の御心^{みこころ}にゆだねていました。わたしは自分も聖徒たちも無実であり、虐げる者たちの手からそのような扱いを受けるようなことは何一つ行っていないことを知っていました。ですから、すべての人の命をその御手^{みて}の中に置き、しばしばわたしを死の門から救ってくださった神が救ってくださるのを待ち望むことができました。人間の考えからすれば、逃れる道がすべて完全に閉ざされ、死が目前に迫っていて、滅亡は避けられないと思われました。にもかかわらず、収容所に入った瞬間から、わたしには自分が兄弟たちや家族たちとともに救い出されるという確信がありました。

そうです。深い悲しみや苦悩の中にあって幾度もわたしの心に慰めをささやいてきた、あの静かな細い声が、わたしに元気を出すように告げ、救い出されることを約束してくれたのであり、それによってわたしは大きな慰めを得ました。異教徒たちは激怒し、民はむなしいことを心に描きましたが、それでも万軍の主であるヤコブの神はわたしの避け所であられて、苦難の日^みにわたしが主に叫び求めると、主はわたしを救い出してくださいました〔詩篇46：7；50：15参照〕。ですからわたしは自分の魂と、自分の内にあるすべてをもって、主の聖なる御名^みをほめたたえ、賛美します。わたしは『四方から患難^{かんなん}を受けても

窮せず、途方に暮れても行き詰らず、迫害に遭っても見捨てられず、倒されても滅び』なかったからです〔2コリント4：8-9参照〕。』¹⁰

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ミズーリ州リバティーの監獄についての説明を読んでください (359-360ページ)。本章を研究し、その内容について話し合う際、預言者が本章に記されている言葉を書いたときに置かれていた状況について考えてください。363ページの第3段落を読んでください。リバティーの監獄における預言者についての記録は、どのような点でこれが真理であることを表しているのでしょうか。
- 361ページの第3段落を読んでください。困難な状況に置かれることによって、わたしたちはどのように「神聖なことを思い起こす」ようになるのでしょうか。試練や迫害はどのように「わたしたちの心を」家族や友人に「つな〔ぐ〕」のでしょうか。これらの真理に関連して、あなたはどのような経験をしていますか。
- ジョセフ・スミスは、神の愛からジョセフや兄弟たちを引き離すことのできるものは何もないと宣言しています (361ページ)。この言葉について深く考えるとき、どのような思いが心に浮かんできますか。わたしたちが神の愛から離れてしまうことがあるのはどのようなときでしょうか。神の愛に包まれているためには、どのようなことをしていなければならないのでしょうか。
- 363ページの第1段落を読んでください。主が与えてくださる平安を得るために、どのようなことができるのでしょうか。ジョセフ・スミスの逆境と苦難は「つかの間にすぎない」と言われた主の言葉から、あなたは何を得ますか。
- 教会の敵には神の力を妨げることは何一つできないと、ジョセフ・スミスが聖徒たちに断言している箇所を読んでください (363-364ページ)。わたしたちがこの真理を忘れてしまうことがあるのはなぜでしょうか。この真理を忘れないために、どのようなことができるのでしょうか。

- 364-366ページにある、主が預言者に与えられた言葉を研究してください。試練はわたしたちに経験を与え、わたしたちの益となることを覚えるなら、人生はどのように変わるでしょうか。救い主がすべてのものの下に身を落とされたことと知ることは、あなたにとってどのような意味を持つでしょうか。「あなたの道に踏みとどまりなさい」とはどういう意味だと思いますか。
- 本章の最後の段落を読んでください（366-367ページ）。困難な状況の中で聖霊から慰めを受けたときのことについて考えてください。分かち合うことのできる経験がありますか。

関連聖句——ピリピ3：8-9；モーサヤ23：21-24；アルマ7：11；36：3

注

- 1839年3月22日、ミズーリ州リバティー、リバティーの監獄でジョセフ・スミスがアイザック・ギャランドにあてて書いた手紙。*Times and Seasons*, 1840年2月号, 52に掲載。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正
- アレクサンダー・マクレー, *History of the Church*, 第3巻, 257で引用。1854年10月9日、ユタ州ソルトレーク・シティーでアレクサンダー・マクレーが *Deseret News* の編集者にあてて書いた手紙から。*Deseret News*, 1854年11月2日付, 1に掲載
- マーシー・フィールドینگ・トンプソン "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年7月1日付, 398。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正
- 1839年4月4日、ミズーリ州リバティー、リバティーの監獄でジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。エール大学ベイニッケ図書館、コネチカット州ニューヘーブン。複写所有、教会記録保管課、末日聖徒イエス・キリスト教会、ユタ州ソルトレーク・シティー。この手紙の中で、預言者は5か月以上にわたって監禁されていると述べているが、これにはリバティーのほかにも、ミズーリ州インディペンデンスおよびリッチモンドにおいて監禁されていた期間も含まれる
- 1838年12月1日に兄弟たちがリバティーの監獄に拘束されたとき、シドニー・リグドンも一緒だった。しかし預言者がこの手紙を書く約2か月前の1839年1月25日、シドニーは重い病気のために保釈の許可を受けた。それでも脅威にさらされ続けたために安全な監獄を出るのを恐れ、シドニーは2月5日まで監獄にとどまった
- History of the Church*, 第3巻, 289-291。原文（英語）においては、句読点および文法は現代の用法に修正、段落は変更。1839年3月20日、ミズーリ州リバティー、リバティーの監獄でジョセフ・スミスとそのほかの人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から。この手紙の一部は後に教義と聖約の中に第121章、第122章、第123章として収められた
- History of the Church*, 第3巻, 291, 293。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正、段落は変更。この預言者の手紙の一部を教義と聖約に載せて出版するのに備えて、句読点、大文字、文法に多くの小さな変更が加えられた。そのため、教義と聖約第121章、第122章、第123章と本章に掲載されている手紙との間には、わずかな相違が数多く存在する
- History of the Church*, 第3巻, 296-298。原文（英語）においては、つづりおよび句読点は現代の用法に修正
- History of the Church*, 第3巻, 300-301。原文（英語）においては、段落は変更
- History of the Church*, 第3巻, 328-329。原文（英語）においては、段落は変更。"Extract, from the Private Journal of Joseph Smith Jr.," *Times and Seasons*, 1839年11月号, 7-8から



信仰と勇気をもって迫害に立ち向かう

「恐れずに、主にあって、その偉大な力によって強くなりなさい。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1838年から1839年にかけての冬、ミズーリ州軍には末日聖徒を州外に追放するようにとの命令が知事から下されており、預言者ジョセフ・スミスはリパティエーの監獄に拘束されていた。その冬から春にかけて、数千人もの聖徒たちがミズーリ州の家を逃れることを余儀なくされ、悲惨な光景が繰り広げられた。聖徒たちは財産の多くを放棄して、ブリガム・ヤングとそのほかの教会指導者たちの指示の下、イリノイ州西部に向かって東に200マイル〔約320キロ〕の旅を始めた。十分な荷車や馬を持っている者はほとんどおらず、多くの者が雨や雪をしのぐ覆いもないままで眠った。靴を持たず、足を布の切れ端で包んで雪の中を歩いて渡った者たちもいた。

1839年2月、親切な隣人に助けられて、エマ・スミスは4人の子供とわずかな所持品をわら敷きの荷車に載せた。一行が凍ったミシシッピ川まで来ると、エマは預言者の聖書の翻訳原稿が入った二つの布袋をスカートの下で腰に巻きつけて、子供たちとともに氷の上を歩いて渡った。エマや極貧状態にあったほかの多くの聖徒たちは、イリノイ州クインシーに避け所を見いだした。その地でも彼らは引き続き飢えや寒さ、病気に苦しんだが、それでも地域の思いやりある人々の数々の優しい行為によって、そうした苦しみは和らいだ。

預言者ジョセフは聖徒たちを助けたいと切に願っていたが、できるのは祈ることと、預言者が不在の間聖徒たちを導いていたブリガム・ヤングやそのほかの兄弟たちに手紙で指示を与えることぐらいだった。この絶望的な状況の中で、ジョセフは教会員に励ましと安らぎを与える言葉を書いている。「親愛なる兄弟たちよ、わたしたちの力のかぎりすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の救いを目にし、ま



1839年2月、ジョセフ・スミスがリバティの監獄に拘束されていたとき、エマ・スミスと子供たちはミズーリ州の迫害者から逃れて、凍ったミシシッピ川を歩いて渡った。

た神の腕が現されるのを見ることができるよう。」（教義と聖約123：17）

1839年4月6日、預言者と同僚の囚人たちは、裁判の開かれる場所が変更されたためにリバティーの監獄からミズーリ州デイビーズ郡ガラティンに移送された。ガラティンで1度出廷した後、再びミズーリ州ブーン郡コロンビアへと裁判の場所が変更された。ところが4月中旬、コロンビアに連行されていたときに、見張りの者たちが預言者とそのほかの囚人たちに逃亡を許可した。それから1週間もたたないうちに、兄弟たちはイリノイ州クインシーにいた聖徒たちに加わった。ウィルフォード・ウッドラフ長老は、預言者との再会について日記に次のように書いている。「わたしたちは……再びジョセフ兄弟と握手を交わすうれしい特権を得ました。……ジョセフは大きな喜びをもってわたしたちに挨拶しました。監獄と敵の手から解放されて、家族と友人たちの胸に戻ったばかりでした。……ジョセフはいつもどおり率直で、隠しだてなく、打ち解けた態度でした。エマ姉妹はほんとうに幸せそうでした。」¹

預言者は後に、回復されたイエス・キリストの福音を信じる信仰のために、自分とともに非常に多くのことを雄々しく堪え忍んだ同胞である聖徒たちに対して敬意を表している。「度重なる不当な扱いや苦しみの下で聖徒たちがとった行為は称賛に値するものです。暴徒の破壊的な活動から兄弟たちを守るために示した勇氣。人間に耐え得る最も悲惨で痛ましい状況において、真理の大義に注いだ愛情。互いに対する愛。牢ろうに閉じ込められていたわたしや兄弟たちを喜んで助けようという思い。ミズーリ州を離れる際に払った犠牲。そして貧しいやもめや孤児を助け、より住みやすい地で彼らに家を確保したこと。これらのすべてが、あらゆる善良で徳高い人に与えられる評価を彼らにもたらし、エホバの支持と称賛と、永遠に消えることのない名前を、彼らに約束しています。」²

ジョセフ・スミスの教え

真理の敵は主しもべの僕たちに反対し、彼らが主に近づくときは特に妨害する

「わたしたちの宗教のゆえに、雷のとどろきのように、……迫害がわたしたちの頭上に幾度も押し寄せてきました。」³

「わたしたちの宗教の諸原則は世の人々の前にあり、だれもがいつでも調べることができます。にもかかわらず、わたしたちの友に向けられているすべての迫害が、真理と義に反した偽りの告発と誤解に基づいていることを、わたしたちは知っています。ほかのすべての宗教組織がその初期にそうであったように、わたしたちはこれを堪え忍んでいます。」⁴

「ですから、もし皆さんが迫害を受けるとしても、驚くことはありません。救い主の言葉を思い起こしてください。『僕はその主人以上の者ではない。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。』〔ヨハネ15：20参照〕そして聖徒たちが経験するすべての苦難は、世の初めから預言者が語ってきた言葉の成就なのです。」⁵

「わたしが最善を尽くすとき、最も大いなる善を成し遂げようとするとき、きわめて大きな悪事と邪悪な憶測がわたしの行く手に立ちほだかります。……この民の敵は、自分たちが負けるまで、教会に対する迫害をやめようとはしないでしょう。彼らは自分たちの支配下にあるすべてを結集してわたしを攻撃してくるでしょう。そして、わたしたちは長期にわたってすさまじい戦いを繰り返すことになるでしょう。この終わりの時の腐敗に挑むまことのクリスチャンの戦いに従事する人には、悪人や悪魔の使いが、そしてすべての地獄の闇の力が、波状攻撃を仕掛けてくるでしょう。人がクリスチャンの戦いに従事しているかどうかを判断するには、邪悪で腐敗した人々が敵対しているかどうかを基準となります。あらゆる人から根拠のない悪口を浴びせられているとしたら、皆さんは幸いです〔マタイ5：11参照〕。人々から悪口を言われるだけで、その人は悪人と見なされるのでしょうか。いいえ、そうではありません。もし人が罪の世に立ち向かうとしたら、すべての邪悪で腐敗した霊たちが群れを成してその人を攻めて来るでしょう。

しかしそれはつかの間にはすぎず、わたしたちが忠実であって、それらの悪に負けないかぎり、すべての苦難は離れ去って行くでしょう。そしてわたしたちは、エンダウメントの祝福を絶えず受け、王国が榮えて海から海へと広がるのを見て、自分たちがこれらの愚かな事柄に負けなかったことを喜ぶでしょう。」⁶

「わたしを滅ぼせば敵は満足するだろうと思っている人々がいます。しかし皆さんに申し上げますが、彼らはわたしの血を流すとすぐに、

完全な福音の霊をわずかでも心に宿しているすべての人の血を求めてやってくるでしょう。これらの人々が反対するのは、あらゆる義に敵対する者の霊によって扇動されているからです。わたしだけでなく、神がこの時代の人々に教えるようにと靈感によってわたしに与えられた教義を勇気をもって信じる、すべての男女を滅ぼそうとします。』⁷

「わたしは経験によって次のことを学びました。すなわち、真理の敵はまどろむことがなく、すべての重要な事柄について人々の憤りをかき立て、それによって、主の僕たちに対する偏見を人々に抱かせようと絶えず努力しています。』⁸

神を愛する人は、勇気と信仰をもって迫害に耐える

「すべての聖徒の皆さん、この大切な『鍵』^{かぎ}によって益を得てください。あらゆる試練、困難、誘惑、苦難、束縛、投獄、そして死に直面するとき、天を裏切ることのないように、イエス・キリストを裏切ることのないように、兄弟たちを裏切ることのないように、そして聖書やモルモン書、教義と聖約に記されている神の啓示や、この世においてかつて人に与えられ明らかにされた、または将来与えられ明らかにされる、神の啓示を裏切ることのないようにしてください。まことに、どのような抵抗に遭っても、どれほどものがき苦しむとしても、そうすることのないようにしてください。皆さんの衣のすそに罪のない者の血が見つかり、地獄に落ちることのないようにするためです。』⁹

1830年の春、聖徒たちはモルモン書が出版されたことが原因となって迫害を受けていた。「モルモン書（エフライムの手にあるヨセフの木）が出版されてしばらくたちましたが、昔の預言者が預言したように、『それは怪しい物のように思われ』ていました〔ホセア8：12参照〕。その出現は、ただならぬ騒ぎを引き起こしました。それが真実であることを信じた人々は、厳しい反対と大きな迫害を受けました。しかし、真理が地から生じ、義が天から見下ろしていたので〔詩篇85：11；モーセ7：62参照〕、わたしたちは反対する者たちを恐れませんでした。わたしたちは真理と義をいずれも手にしており、御父と御子がいずれもともにいてくださることを知っていたのです。キリストの教義を受けており、それにつながっていたからです。このため、わたしたちは引き続き教えを説き、進んで聞こうとするすべての人に知識を与えました。』¹⁰

1839年7月、ウィルフォード・ウッドラフは次のように記録している。「ジョセフはわたしたちに言葉少なく、次のように語りました。『兄弟の皆さん、もし皆さんが投獄されるとしたら、皆さんより以前にジョセフ兄弟も投獄されていたことを思い出してください。もしイエス・キリストの福音のゆえに足かせをはめられ、窓の格子越しにしかならぬ兄弟たちと会えない場所に置かれるとしたら、ジョセフ兄弟も同じ目に遭ったことを思い出してください。』」¹¹

1841年、ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちは次のように記している。「真理は、敵対勢力に囲まれ、さまざまの力^{かし}でたたかれましたが、傷つくことなく、たくましい檜の木のように立っています。洪水が起きて、次々と波が押し寄せて来ましたが、のみ込まれることはありませんでした。『主よ、それらは声をあげました。大水はその声をあげました。しかし万軍の主は海の大波にも増して力ある御方です。』〔詩篇93：3-4参照〕また、暴徒が力の限りを尽くした迫害の炎にも、焼き尽くされることはありませんでした。モーセのしぼのように、なくならずに立っており、今この瞬間に、人と天使にとって大切な意味を持つ光景を示しています。

どこに目を向ければ、ほかにそのようなものを見ることができるでしょうか。わたしたちが見詰めているのは、評判の良くない宗教の一つの体系を信奉し、それを厳格に守ったために繰り返し迫害を受けてきた民です。神を愛し、神の大義を愛するがゆえに、飢えと、裸と、危難と、ほとんどあらゆる窮乏に耐えてきた民です。自分たちの宗教のために、親や夫や妻、子供の早すぎる死を嘆き悲しまなければならなかった民です。魂が試されたときに、隷属や偽善よりもむしろ死を望み、人格を立派に守り、確固として揺らぐことなく立ってきた民です。』¹²

義のために迫害を受ける人々は、神の偉大な力によって支えられる

リバティーの監獄に拘束されていたとき、ジョセフ・スミスは聖徒たちに次のように書いている。「何か思いがけないことが起こったかのようにわたしたちが気落ちしていると思わないでください [1ペテロ4：12参照]。これらのことはすべてきつと起こると前から分かっていたことであり、またわたしたちには迫害者よりもすばらしい希望があると確信しているからです。ですから神は、重荷を負うわたしたちの肩幅を広げてくださっています。わたしたちは艱難^{かんなん}を誇りとしています。神がともにおられ、神は友であって、わたしたちの霊を救って



1838年から1839年にかけての冬、数千人の末日聖徒がミズーリ州の家を逃れることを余儀なくされ、イリノイ州まで200マイル〔約320キロ〕を旅した。

くださることを知っているからです。肉体を殺しても霊を傷つけることのできない者どもを気にしていません〔マタイ10：28参照〕。暴徒にも、この世にも、悪魔にも、その使者、離反者、そしてわたしたちの命を奪い取るために偽りを愛し、行い、誓う者にも、勇敢に立ち向かいます。命を守るために本心を隠したことは一度もなく、今後もそうするつもりはありません。……わたしたちは神の御心と、神が命じられたすべてのことを、思いと勢力と力を尽くして行おうとしてきました。そのことを知っています。……

……救い主は次のように言っておられます。『つまずきは必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわいである。』〔マタイ18：7参照〕またこう言っておられます。『わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。』〔マタイ5：11-12〕

親愛なる兄弟の皆さん、もしこの約束の成就を期待できる人がいるとするなら、それはわたしたちです。イエス・キリストの完全な福音を教えようとしてきたというだけの理由で、この世はわたしたちを憎

み、わたしたちについて真実でないあらゆる悪口を浴びせていることを、わたしたちは知っているからです。……

さて、心から愛する兄弟の皆さん。わたしたちが兄弟と言うとき、それはキリストに絶えず忠実である人々、男性と女性と子供たちを指します。わたしたちは主イエスの名によって勧告します。新しくかつ永遠の聖約を信じる信仰を強く持ち、敵を恐れてはなりません。……命ある限り踏みとどまってください。『自分の命を救おうとする者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを見いだす』からです〔マルコ8：35参照〕。¹³

同じくリバティーの監獄から、預言者と大管長会の顧問たちは教会の指導者に対して次のように記している。「兄弟の皆さん、恐れずに、主にあってその偉大な力によって強くなってください。人は何者なので、神の僕しもべは人を恐れ、人の子は何者なので、神の僕は人に震えおののくのでしょうか。わたしたちが受けている火のような試練を、何か考えもしないことが起こったかのように驚き怪しむのではなく、皆が同様の苦難を受けてきたことを思い起こしてください〔1ペテロ4：12－13参照〕。ですから、苦難を喜びとしてください。苦難によって皆さんは完全になるのであり、わたしたちの救いの君も苦難を通して完全になられたのです〔ヘブル2：10参照〕。心に慰めを得て、すべての聖徒にも心に慰めを得させ、大いに喜ばせてください。天においてわたしたちの受ける報いは大きいからです。わたしたち以前の預言者たちも、同じように迫害されたのです〔マタイ5：11－12参照〕。¹⁴

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii－xiiページを参照する。

- 369－371ページの話を読んでください。ジョセフ・スミスや聖徒たちが迫害に対応した方法について、どのようなことが印象に残りましたか。彼らが進んで迫害を堪え忍んだのはなぜだと思いますか。
- 371－373ページを読んでください。預言者ジョセフは、義人は度々迫害に直面すると教えています。それはなぜだと思いますか。今日の迫害はジョセフ・スミスの時代の迫害とどのような点で似ているでしょうか。どのような点で異なっているのでしょうか。

- 373ページで、ジョセフ・スミスは聖徒たちにとって助けとなる鍵^{かぎ}を紹介しています。あなたはどのような経験を通してこの鍵の持つ価値を学びましたか。信仰のゆえに迫害に直面している人に、あなたならほかにどのように助言しますか（例として、373-374ページ参照）。
- 374-376ページを読んでください。信仰と勇気をもって迫害に立ち向かうときに主が支えてくださると、ジョセフ・スミスは約束しています。神が「重荷を負うわたしたちの肩幅を広げてくださって」いるとはどういう意味だと思いませんか。どうすれば「艱難^{かんなん}を誇りと」し、「苦難を喜びと」することができるのでしょうか。苦難はわたしたちが完全になるのをどのように助けてくれると思いませんか。

関連聖句——マタイ5：43-44；ローマ8：35-39；2ニーファイ26：8；モーサヤ24：8-16；3ニーファイ6：13

注

1. ウィルフォード・ウッドラフ, *Journals*, 1833-1898年, 1839年5月3日付の記録, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. *History of the Church*, 第3巻, 329-330. "Extract, from the Private Journal of Joseph Smith Jr.," *Times and Seasons*, 1839年11月号, 8から
3. *History of the Church*, 第6巻, 210. 1844年2月8日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
4. *History of the Church*, 第2巻, 460. 1836年7月25日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスとそのほかの人々がジョン・ソートンとそのほかの人々にあてて書いた手紙から。 *Messenger and Advocate*, 1836年8月号, 358
5. *History of the Church*, 第3巻, 331. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。"Extract, from the Private Journal of Joseph Smith Jr.," *Times and Seasons*, 1839年11月号, 8-9から
6. *History of the Church*, 第5巻, 140-141. 原文(英語)においては, 段落は変更。1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
7. *History of the Church*, 第6巻, 498. 1844年6月18日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。 *History of the Church* の編さん者によって数名の目撃者の口頭報告が一つの説教にまとめられた
8. *History of the Church*, 第2巻, 437. 1836年4月, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがオリバー・カウドリにあてて書いた手紙から。 *Messenger and Advocate*, 1836年4月号, 289に掲載
9. *History of the Church*, 第3巻, 385. 1839年7月2日にアイオワ州セントローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第1巻, 84. "History of the Church" (原稿), book A-1, 41から, 教会記録保管課
11. ウィルフォード・ウッドラフ, 1839年7月7日にイリノイ州コマースでジョセフ・スミスが語った言葉の報告。 *Wilford Woodruff Journals*, 1833-1898年, 教会記録保管課
12. *History of the Church*, 第4巻, 337. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1841年4月7日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが行った報告から。 *Times and Seasons*, 1841年4月15日付, 384-385に掲載

13. *History of the Church*, 第3巻, 227-229, 232-233。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正、段落は変更。1838年12月16日、ミズーリ州リバティアー、リバティアーの監獄でジョセフ・スミスがミズーリ州コールドウェル郡の教会員にあてて書いた手紙から
14. 1839年1月16日、ミズーリ州リバティアー、リバティアーの監獄でジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちがヒーバー・C・キンボールとプリガム・ヤングにあてて書いた手紙、教会記録保管課



癒し、異言、預言、 靈の識別の靈的な賜物

「恐れずに、主にあつて、その偉大な力によって強くなりなさい。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1839年の初め、聖徒たちはイリノイ州クインシーに少しの間避難した後、約50マイル〔80キロ〕北にあるイリノイ州コマースの入植地に移動を始めた。ミズーリ州での監禁から逃れた預言者は、すでにミズーリ州を逃れて生活を立て直すための場所を必要としていた何千人もの人々が集まる場所として、コマースとその周辺に土地の購入を始めていた。1839年7月には、何百人もの聖徒がミシシッピ川の東側にあるコマースで、テントや荷車での生活を送っていた。また、川の反対側にあるアイオワ州モントローズで、使われなくなった兵舎で暮らしている者たちもいた。この新しい定住地で、聖徒たちは川の近くの沼地を開拓し、排水するために働いた。多くの教会員が蚊に刺され、マラリアやそのほかの重い病気にかかった。死亡した者もいれば、瀕死の状態の者もいた。ジョセフ・スミスと彼の妻エマは大勢の人々を自分たちの丸太造りの家に連れて来て看病し、預言者は自分のベッドを明け渡して外のテントで眠った。

非常に多くの人々が病気に苦しんでいたさなかの7月22日、聖徒たちはウィルフォード・ウッドラフ長老が「神の力が現された日」と呼んだ一日を経験した。¹ その朝、預言者は起きて主に祈り求めると、主の御霊に満たされ、自分の家や庭にいた病人、そして川辺にいた病人に祝福を授けた。それから預言者は川を渡ってモントローズにあるブリガム・ヤングの家を訪れ、ブリガムに癒しの祝福を授けた。その後、シドニー・リグドン、ブリガム・ヤング、およびほかの十二使徒たちとともに、アイオワ州側にいた聖徒たちの間で憐れみの働きを続けた。その日起きた忘れられない癒しの一つを、ウッドラフ長老は次のよう



1839年7月22日、ジョセフ・スミスはエライジャ・フォーダムの家に入ると、「エライジャ、ナザレ人イエスの御名によって命じます。立ち上がって、癒されなさい」と宣言した。するとエライジャは「死の眠り」から起きた。

に回想している。

「わたしたちは公共の広場を横切って〔エライジャ・〕フォーダム兄弟の家に入りました。フォーダム兄弟はそれまで1時間ほど生死の境をさまよっており、いつ最期を迎えてもおかしくない状態でした。わたしは神の力が預言者からあふれ出るのを感じました。家に入ると、ジョセフ兄弟はフォーダム兄弟に歩み寄り、右手を取りました。……フォーダム兄弟の目はうつろで、口も利けず、意識もありませんでした。

手を取った後、〔預言者〕はその瀕死の男性の顔を見詰めて言いました。『フォーダム兄弟、わたしがだれか分かりますか。』初めは何の反応もありませんでした。しかしわたしたちは皆、神の御霊の力が彼にとどまるのを見ました。

〔ジョセフ〕は再び言いました。『エライジャ、わたしがだれか分かりますか。』フォーダム兄弟が低いささやくような声で答えました。『はい。』それから預言者は『癒されるという信仰がありますか』と尋ねました。

今度は前よりも少しはっきりと返事が返ってきました。『もう手遅れだと思います。もう少し早く来ていただいていたら、癒されていたと思います。』彼は眠りから覚めたような顔をしていました。それは死の眠りでした。それからジョセフが言いました。『イエスがキリストであることを信じていますか。』『信じています、ジョセフ兄弟』と彼は答えました。

すると神の預言者は大きな声で、神会の威光をまとっているかのように言いました。『エライジャ、ナザレ人イエスの御名^{みな}によって命じます。立ち上がって、癒されなさい。』

預言者の言葉は人の言葉のようではなく、神の声のようでした。わたしには家が土台から揺れ動いたように思われました。エライジャ・フォーダムは死人の中からよみがえった人のようにベッドから起き上がりました。顔には血色が戻り、動きの一つ一つに生気が表れていました。フォーダム兄弟の両足は〔トウモロコシ粉の〕湿布が施されていきました。彼は湿布を足ではねのけて中身をまき散らすと、服を取りに行かせ、身に着けました。また牛乳に浸したパンを求め、食べました。それから帽子をかぶってわたしたちについて通りに出て、ほかの病人を訪れたのです。』²

極度に助けの必要な状況にあって、聖徒たちは預言者の手から癒しの賜物があふれるばかりに注がれるのを経験したのであった。

ジョセフ・スミスの教え

病人は信仰と神権の力を行使することにより、主の御心^{みこころ}に従って癒^いされる

「病人の癒しのしるしは何でしょうか。按手^{あんしゅ}こそ、ヤコブが示したしるしすなわち方法であり、昔の聖徒たちが主から命じられたとおりに行った習わしです。主から示された方法のほか、どのような方法によっても祝福を得ることはできません〔ヤコブの手紙5：14-15参照〕。』³

1839年7月、イリノイ州コマースに移ったばかりの聖徒たちの中には、病気の者が大勢いた。ジョセフ・スミスは次のように記録している。「兄弟たちの間にも、この地に住む人々の間にも、多くの病人が出始めました。ですからその週とその次の週は、病人のもとを訪れ、彼らに祝福を授けることに大半の時間を費やしました。十分な信仰があって癒された人々もいれば、そうでない人々もいました。……

28日、日曜日。いつものように集会が開かれました。……わたしは話をし、教会員一人一人に、自分の家を整え、皿の内側を清め、次の安息日に集まって聖餐^{せいさん}を受けるように勧告を与えました。儀式に従順であることによって、神とともに滅ぼす者に打ち勝ち、病人が癒されるようになるためです。今週はずっと、おもに病人の中で過ごしました。全般的に彼らは体力をつけてきており、健康を取り戻しつつあります。』⁴

「義人の多くは、肉体の弱さのゆえに病気や疫病などの犠牲となりますが、それでも神の王国に救われるでしょう。ですから、この人やあの人は病気や死の犠牲となったのだから、彼らは背いてきたのだ、と言うのは、不信心なことです。すべての肉なるものは死を受けるのであり、救い主は『裁いてはならない。自分が裁かれないうためである』と言っておられるからです〔マタイ7：1参照〕。』⁵

異言^{たまもの}の賜物は、人々に福音を教えるためにある

1834年の長老たちの大会で、預言者は話をした。「ジョセフ・スミスは次に異言の賜物について説明し、それは特にほかの国や言語の民に福音を宣べ伝えるために授けられるものであるが、教会を管理するために与えられるものではないと述べました。』⁶

「異言の賜物について言えるのは、昔の人々と同じように、この地でわたしたちもそれを受けてきたということです。しかし、これについて欺かれることのないように注意深くあってください。……注意深



「教会における聖霊の力による異言の賜物は、……神の僕が信者でない人々に教えを説くためのものです。」⁷

くなければ、サタンはきっと異言の賜物について皆さんを悩ますでしょう。どれほどサタンに注意してもしすぎることはなく、どれほど祈っても祈りすぎることはありません。すべてのことにおいて主が皆さんに知恵を授けてくださいますように。』⁷

「[1841年12月26日に開かれた集会で] わたしはコリント人への第一の手紙第13章と第14章の一部を読み、教会には異言の賜物が必要であることを述べました。……教会における聖霊の力による異言の賜物は、五旬節の日のときのように、神の僕が信者でない人々に教えを説くためのものです。」⁸

「五旬節の日のときのように、異言は、理解できない言語を話す人々の中で教えを説くために与えられました。特に教会の人々に対して異言が教えられる必要はありません。聖霊を受けている人は、神にかかわる事柄について、別の言語で語れますが、当然ながら自分自身の言語でも語れるからです。信仰はしるしによってではなく、神の言葉を聞くことによってもたらされるのです。」⁹

「異言についてあまり好奇心を抱かないでください。解釈する人がいなければ、異言で語ってはいけません。異言の最大の目的は外国人に語ることであり、自分の英知を示したいと強く切望する人には、外

国人に対して彼らの言語で語らせてください。神の賜物はすべてその適切な場において有益なものですが、神が意図されないところで使われるとき、祝福ではなく害悪となり、わなとなり、のろいとなります。」¹⁰

10

「偽りの異言の賜物を受けてきた兄弟姉妹もいます。彼らは不明瞭^{ふめいりょう}に、不自然な声で語り、体をゆがめます。……それに対して、神の御^み霊^{たま}には何ら不自然なことはありません。」¹¹

「語ることを理解せずに、あるいは解釈せずに、異言の賜物によって語ってはいけません。悪魔は異言で語ることができ、自分の業を行いに来るでしょう。敵はすべての階層の人を誘惑することができ、英語でもオランダ語でも語ることができます。自分で解釈するのでなければ、だれも異言で語ってはいけません。ただし管理する者の同意による場合はその限りではなく、そのときはその人や別の人が見分けたり解釈したりするでしょう。」¹²

「もし明らかにすべき事柄があるなら、皆さん自身の言語で語ってください。異言の賜物を使うことにふけりすぎてはいけません。そうでなければ悪魔が無^む垢^くで不用心な人々に対して有利な立場を得るでしょう。自分自身の慰^{なぐさ}めのために異言で語るのは差し支えありませんが、規則として次のことを述べておきます。すなわち、もし何かが異言の賜物によって教えられたとしても、それは教義として受け入れるべきものではありません。」¹³

教会の預言者として語るの一人だけだが、預言の霊によって すべての人がイエス・キリストについて証^{あかし}することができる

「預言者でなければ、だれもイエス・キリストの教導者ではありません。イエスについての証がなければ、だれもイエス・キリストの教導者となることはできません。そしてこの証は、すなわち預言の霊です〔黙示19：10参照〕。』¹⁴

「黙示者ヨハネは、イエスについての証はすなわち預言の霊であると言っています〔黙示19：10参照〕。もしイエスについての証を持っているなら、その人は預言の霊を受けていないでしょうか。そしてもし預言の霊を受けているなら、その人は預言者ではないでしょうか。もし預言者なら、啓示を受けないでしょうか。自ら啓示を受けない人は、罰の定めを受けなければなりません。イエスについての証は、すなわち預言の霊だからです。キリストは、『求めなさい、そうすれば

与えられるであろう』と言っておられます。もし何かを与えられたなら、それは啓示ではないでしょうか。もしイエスについての証あるいは神の霊を受けていないなら、その人は主すなわちキリストのものではありません。もし主のものでないなら、罰の定めを受けなければならないのです。』¹⁵

ノーブーを訪れたある人は、会話の中でジョセフ・スミスが次のように教えたことを記録している。「預言者ジョセフは〔次のように述べました〕。……イエスの教導者となるには、イエスについて証しなければならず、イエスについて証するには、預言の霊を受けなければなりません。ヨハネが述べているとおり、イエスについての証はすなわち預言の霊だからです。

イエスの教導者であると公言していながら、預言の霊を受けていないなら、その人は偽りの証人に違いありません。その職務を果たすうえで必要な賜物を持っていないからです。〔ジョセフ・スミス〕と今の時代の牧師の違いは、ジョセフが自分はイエスと救いの福音について証するうえで必要な預言の霊を受けていると主張していることです。牧師は、その霊、すなわち自分たちを主イエスのまことの証言者としてくれる唯一のものである預言の霊を否定し、それでもなお自分はまことの救いの教導者であると主張しているのです。』¹⁶

「信仰は、神の僕たちの証を通じて神の言葉を聞くことによってもたらされます。その証には、常に預言と啓示の霊が伴います。』¹⁷

霊の識別の賜物によって、忠実な人々は善い霊と悪い霊の影響力を 見分けることができる

回復された教会の初期の時代、教会員は、ほかの宗教団体の会員と同様に、時々悪霊すなわち偽りの霊からの影響力に従って行動しながら、自分たちは聖霊の影響力の下にあると信じていることがあった。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。「最近わたしたちの間で起きている数々の出来事から、人々に行動を促すもろもろの霊に関して、ぜひとも少しお話しする必要があります。

〔新約聖書にある〕使徒たちの書き物から明らかなように、当時多くの偽りの霊が存在して『世に出て来て』いました。そして偽りの霊を見破り、どの霊が神から出ているものであるかを示すには、神だけが授けることのおできになる英知が必要でした〔1ヨハネ4：1-4参照〕。このことに関して、この世は概してひどく無知な状態にありま

すが、それも当然です。『神の御^{みたま}霊によらなければ、だれも神にかかわる事柄を知ることがない』からです〔1コリント2：11参照〕。……

いつの時代にも、この件に関する英知が常に不足してきたように思われます。あらゆる種類の霊が、いつの時代にも、ほとんどすべての人々の中で現れてきました。……すべての人が独自の霊を信じ、それらに超自然的な力があることを信じ、それらは神から出ているものだと主張しています。だれがその不可解な出来事の謎を解くのでしょうか。『霊を……ためしなさい』とヨハネは言っていますが〔1ヨハネ4：1〕、だれがそれを行うのでしょうか。学者も、雄弁な者も、哲学者も、賢者も、聖職者も、皆、知識に欠けています。……末日聖徒の間にとっても頻繁に現れている偽りの霊の目に見えない不可解な行いを、明るみに引き出して詳しく説明できるのはだれでしょうか。わたしたちは次のように答えます。神権と、霊を治めている律法についての知識がなければ、だれにもできません。『神の御霊によらなければ、だれも神にかかわる事柄を知ることがない』ように、人間以上の英知を持ち、悪魔の策略によって起きた不可解な出来事を神権の仲立ちによって明らかにしなければ、だれも悪魔の霊と、悪魔の力と影響力を知ることはできないからです。……

この地獄のような影響力を明るみに引き出し、魂を滅ぼす極悪で恐ろしい本性のすべてを世の人々に明らかにするには、まず霊の識別が与えられなければなりません。神の御霊を受けていると思っていながら偽りの霊の影響下にあることほど、人の子らにとって大きな害悪はないからです。これまでに無数の人々がそのすさまじい力と破滅をもたらす影響力を感じてきました。……

すでに見たように、大きな問題は、霊の性質や霊を治めている律法、霊を知るためのしるしについて無知であるという点にあります。神にかかわる事柄を知るには神の御霊が求められ、その仲立ちによってのみ悪魔の霊の正体を暴けるのであれば、当然の結論として、だれかが神との交わり、すなわち神からの啓示を受けて、霊の働きを明らかにしないかぎり、人々はこれらの原則について永遠に無知な状態にとどまらなければなりません。もし神の御霊によらなければ一人の人にこれらの事柄が理解できないのであれば、一万人の人にも理解できないのであり、学者の知恵も、雄弁な者の舌も、力の強い者の力も及ばないからです。そしてついには次の結論に至るのです。わたしたちが啓示についてどのように考えようとも、啓示なしには、神にかかわる事

柄を、あるいは悪魔にかかわる事柄を何一つ知ることができず、理解することもできません。世の人々がこの原則をどれほど認めたがらなくても、この件に関する多種多様な信条や観念から、彼らがこの原則について何も理解していないことは明らかであり、神から知らされなければ、彼らが無知のままにいななければならないことも、同じくらいはっきりしています。……

先に述べたように、これらの事柄を理解するには霊の識別が与えられなければなりません。もし御霊の賜物がないなら、どのようにしてその賜物を得るのでしょうか。そして啓示なしに、どのようにしてこれらの賜物を得られるのでしょうか。『キリストは天に昇り、人々に賜物をお与えになった。そして主はある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を祝福師とし、ある人を牧者、教師として、お立てになった。』〔エペソ4：8，11参照〕それでは、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師はどのようにして選ばれたのでしょうか。預言（啓示）によって、また^{あんしゆ}按手によってです。神の指示と、神が定められた儀式によってです。神の定めによって、神の位に従って組織された神権の仲立ちによってです。昔の時代の使徒たちは、この神権の^{かぎ}鍵、すなわち神の王国の奥義の鍵を持っていました。したがって彼らは教会の統治、社会の福利、人の将来の行く末、および霊の作用と力と影響力に関して、すべての事柄を明らかにすることができました。霊たちが宗教的な装いで教会の人々を欺き、教会にとって不利な業を行い、真理が広がるのを妨げようとするとき、使徒たちは思いのままに霊たちを制御し、イエスの名によってそれらに立ち去るように命じ、それらの有害で不可解な出来事を暴くことができたのです。……

……わたしたちの救い主、使徒たち、そして教会員にさえも、この賜物が授けられていました。パウロは次のように述べています。『ある人には異言の賜物、またほかの人には異言の解釈、またほかの人には奇跡の働き、またほかの人には預言、またほかの人には霊の識別が与えられている。』〔1コリント12：10参照〕これらはすべて同じ神の御霊から出たものであり、神の賜物でした。……だれも正式な権能と神権と霊の識別がなければ、まことの霊と偽りの霊を見分けることはできません。』¹⁸

「偽りを言う霊が地に出ています。偽りの霊とまことの霊の、両方の霊の大いなる現れがあるでしょう。……すべての霊や示現やしるしが神から出ているのではありません。……霊を識別する賜物が管理長

老に与えられるでしょう。管理長老がこの賜物を受けられるように、彼のために祈ってください。』¹⁹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 379-381ページの話を読んでください。この話は、メルキゼデク神権者が病人に祝福を授ける備えをするうえでどのような助けとなるでしょうか。わたしたちが神権の祝福を必要とするとき、どのような助けとなるでしょうか。あの場面でフォードム兄弟がイエス・キリストを信じる信仰を言明することは、なぜ重要だったと思いますか。
- 382ページにある預言者ジョセフの教えを読んでください。病人の癒しいやにおける神権の力を理解するのに役立つ経験として、どのようなものがありますか。病人の癒しについての経験を分かち合う際、どのような原則に従うべきでしょうか。信仰を働かせ、神権の祝福を受けても癒されない人がいるのはなぜでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、異言たまものの賜物は「特にほかの国や言語の民に福音を宣べ伝えるために授けられるもの」と語っています（382-384ページ参照）。この賜物を通してどのように福音を世界中に広めることができたでしょうか。福音を宣べ伝えるために、あなたやあなたの知人はどのような形で異言の賜物を受けてきたでしょうか。
- 預言の霊について、預言者の教えを読んでください（384-385ページ）。教会員一人一人が預言の霊を受けられるという知識は、あなたにとってどのような意味がありますか。
- 霊の識別の賜物について、預言者の教えを読んでください（385-388ページ）。霊の識別の賜物とは何ですか。どうすれば悪の影響に欺かれないようにすることができるでしょうか。現在の預言者やそのほかの教会指導者は、わたしたちが悪の影響を見分けられるよう、どのように助けてくれるでしょうか。

関連聖句——1コリント12：1-31；14：1-6，22-28；ヤコブの手紙5：14-15；モロナイ10：8-17；教義と聖約46：1-33；50：1-36，40-44；52：14-19

注

1. ウィルフォード・ウッドラフ, *Journals*, 1833-1898年, 1839年7月22日付の記録, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シテイ
2. ウィルフォード・ウッドラフ "Leaves from My Journal," *Millennial Star*, 1881年10月17日付, 670。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正, 段落は変更
3. *History of the Church*, 第4巻, 555。1842年3月20日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
4. *History of the Church*, 第4巻, 3-5。原文(英語)においては, 段落は変更, 斜体は削除。1839年7月8日-10日, 28日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが書いた日記から
5. *History of the Church*, 第4巻, 11。1839年9月29日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスにより与えられた教えから。ジェームズ・マルホランドによる報告
6. *History of the Church*, 第2巻, 162。1834年9月8日, オハイオ州ニューポーターで開かれた長老たちの大会の議事録から。オリバー・カウドリによる報告
7. *History of the Church*, 第1巻, 369。1833年7月2日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちがミズーリ州の兄弟たちにあてて書いた手紙から
8. *History of the Church*, 第4巻, 485。1841年12月26日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
9. *History of the Church*, 第3巻, 379。1839年6月27日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第5巻, 31-32。 *Times and Seasons*, 1842年6月15日付, 825-826に掲載された論説 "Gift of the Holy Ghost" から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
11. *History of the Church*, 第4巻, 580。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。 *Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 747に掲載された論説 "Try the Spirits" から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
12. *History of the Church*, 第3巻, 392。1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
13. *History of the Church*, 第4巻, 607。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
14. *History of the Church*, 第3巻, 389。1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
15. ジェームズ・バージェスによる, ジョセフ・スミスの説教の抜粋集の中で引用。 James Burgess, *Journals*, 1841-1848年, 第2巻, 教会記録保管課
16. *History of the Church*, 第5巻, 407-408。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年1月ごろ, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスにより与えられた教えから。1843年3月24日, イリノイ州ノーブーで, *Boston Bee*の記者(氏名不詳)によって書かれた手紙の中での報告。 *Times and Seasons*, 1843年5月15日付, 200
17. *History of the Church*, 第3巻, 379。1839年6月27日, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
18. *History of the Church*, 第4巻, 571-575, 580。原文(英語)においては, 句読点および文法は現代の用法に修正, 段落は変更。 *Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 743-745, 747に掲載された論説 "Try the Spirits" から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
19. *History of the Church*, 第3巻, 391-392。原文(英語)においては, 段落は変更。1839年7月ごろ, イリノイ州コマースでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告



姦淫かんいんの場で捕らえられた女に哀れみを示されるイエス（ヨハネ8：1-11参照）。
「キリストは、御自分は罪人に悔い改めを呼びかけ、彼らを救うために来たと言われました」と、ジョセフ・スミスは宣言している。



ゆる 救しの方

「さあ、愛する兄弟、こちらに来てください。
戦いは終わったのです。初めに友であった者たちが、
ついに再び友となったのですから。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1839年の夏、預言者はミシシッピ川を挟んでイリノイ州側に聖徒たちが集まっていた地をノーブーと名付けた。この名はヘブライ語に由来するもので、「美しい地、または場所」を意味し、「安息という概念も含んで」いた。¹ こうして聖徒たちは預言者の指示の下で、コマースの村をノーブーという美しい町に変え始めたのである。まず自分たちの小屋やテントに替えて、開拓地でよく見られる丸太造りの家を建てた。その後、木造家屋や頑丈なれんが造りの家が幾つも現れ始めた。また大きな区画を美しくするために、果樹や街路樹、つる植物や低木が植えられた。美しいノーブーにおいて、聖徒たちはミズーリ州で経験したような迫害から離れて暮らすことのできる、平和な避け所を得たいと望んでいた。

このように町を建設していたころ、ジョセフ・スミスの人柄をうかがわせる一つの出来事が起きた。ジョセフは憐れみ深く、進んで人々を救し、彼らが過去の過ちあやまを乗り越えられるように手を差し伸べる人物だった。ダニエル・タイラーは次のように述べている。

「かつて〔ミズーリ州〕ファーウェストにおいて教会の重要な地位にあったある人物が、マラリア熱にかかり、悪寒おかんと高熱に襲われました。心身ともに弱っていたとき、教会に対して不満を持っていた者たちがその人に働きかけて悪感情を抱かせ、聖徒たちを離れて自分たちと行動を共にするよう説得しました。そして彼は、預言者に対して不利な証言をしたのでした。聖徒たちがコマースに移住を進めていたとき、病から快復していた彼は、ミズーリ州を離れてイリノイ州クインシーへ移住しました。そこで、薪作りの仕事をして、資金を蓄え始め

ました。それは、家族でノーブーへ行くためでもあり、もし赦しを受けて群れに戻るのを許されるなら、傷ついた神の人に贈り物を持って行くためでもありました。……自分にとって救いを得る場所はほかにどこにもなく、もしそれを拒否されたら、あらゆるものを失うことになると感じていたのです。彼は悲しみを覚え、頭をうなだれながらノーブーへ向けて出発しました。

〔彼が〕到着まであと少しの地点まで来たとき、主はジョセフ兄弟に彼がやって来ることをお告げになりました。預言者が窓の外に目をやると、彼がこちらへやって来るのが見えました。そしてその兄弟が門を開けるやいなや、預言者はいすから勢いよく立ち上がり、走って行って、庭で彼を迎えました。『おお、兄弟。あなたに会えてどんなにうれしいことでしょう。』預言者は彼の首に抱きつき、二人は子供のように泣きました。

高い地位から落ちていたこの人は、適切な償いをし、再び門をくぐって教会に入り、再び神権を受け、大切な使命を果たすために各地に赴き、聖徒とともにシオンに集合し、完全な信仰を持って世を去った、とだけ言えば十分でしょう。』²

大管長会で顧問として働いたジョージ・Q・キャノンは、ジョセフ・スミスが赦しの精神を持つ人だったことを示すさらなる証拠として、次のように述べている。「真理を断固として擁護し、固い信念をもって神の戒めに従う一方で、ジョセフはいつでも弱い者や過ちを犯した者に深い憐れみあわれを示しました。1835年の夏の間、ジョセフはカートランドやその周辺地域において、数々の評議会や集会に出席しました。さらに、大管長会に反対する発言を行った数名の会員を審理する一員としても選ばれていました。くじによって、訴えられた者を弁護することになると、あるいは起訴することになると、たとえ不当な扱いを受けているのが自分自身だったとしても、ジョセフは心からの思いやりと公正をもって務めを果たし、すべての人の愛を勝ち取ったのでした。』³

ジョセフ・スミスの教え

わたしたちは憐れみあわれの原則を實踐して、兄弟姉妹を赦さなければ
ならないゆる

「ある人がほかの人に対して罪を犯したとき、地上で起こり得る最も喜ばしい光景の一つは、その罪を赦すことです。そして次に、救い

主の崇高で完全な模範に倣^{なら}って、天の御父もまた〔その罪人を〕赦してくださるように御父に祈ってください。』⁴

「憐れみの原則を常に実践してください。兄弟が悔い改めたことを示し、赦しを求めてきたら、すぐに赦すようにしてください。そしてもし兄弟を、あるいは敵でさえも、その人が悔い改めたり赦しを求めたりする前に赦すならば、天の御父はわたしたちに対して同じように憐れみをかけてくださることでしょう。』⁵

「互いに忍耐し合いましょう。主もわたしたちにそうしてくださるからです。教会内にいる敵のために祈ってください。そして、教会の外にいる敵をのろわないでください。『報復はわたしのすることである。わたしが報復する』と主は言われるからです〔ローマ12：19参照〕。聖任を受けているすべての会員に、またすべての人に申し上げます。憐れみ深くあってください。そうすれば憐れみを見いだすでしょう。人を滅ぼすのではなく、その人の救いを助けるように努めてください。皆さんがよく知っているように、『罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改^{くいあらた}めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にある』からです〔ルカ15：7〕。』⁶

エライザ・R・スノーは、預言者の言葉を次のように記している。「たとえ〔聖徒たち〕の間に罪悪があろうとも、わたしたち聖徒は憐れみを持たなければなりません。預言者は、『自分は罪悪を白日の下にさらすために使われる者となってきたが、非常に多くの人々が悪魔のとがめを自分に招き、滅びに行こうとしているのは恐ろしいことであり、心が沈む』と述べました。そして深い同情の念を込めて、次のように述べました。『彼らは同じ死すべき人間であり、わたしたちがかつて愛した人々です。彼らに改心するよう勧めるべきではないでしょうか。わたしたちは〔まだ〕救い主が命じられたように7度^{たび}を70倍するまで彼らを赦しておらず〔マタイ18：21-22参照〕、あるいは、一度も赦していないかもしれません。悔い改めて改心する人の救いの日が来ています。』⁷

「イエス・キリストと聖なる天使たちがささいな事柄を採り上げて、わたしたちに異議を唱えられたなら、わたしたちはどうなるでしょうか。わたしたちは互いに憐れみを持ち、小さなことを大目に見なければなりません。』⁸

十二使徒定員会の会員であったウィラード・リチャーズは、次のように報告している。「ジョセフは、自分と天との間はすべてうまくい

っており、自分はだれに対しても敵意を抱いていないと述べました。そしてイエスの祈り、すなわち模範に従って、次のように祈りました。『父よ、わたしに対して過ちを犯す者をわたしが赦していますように、わたしの過ちをお赦してください。』〔マタイ6：12，14参照〕わたしはすべての人を進んで赦しているからです。もし人々の愛を獲得し、その愛を大切に育てたいなら、人々を、すなわち友はもちろん、敵でさえも愛さなければなりません。』⁹

ゆるすことにより、再び気持ちが一つになる

「十分に一致していないことを悲しく思います。一人が苦しめば全員でその苦しみを感じましょう。気持ちを一つにすることによって神の力を得るのです。キリストは、御自分は罪人に悔い改めを呼びかけ、彼らを救うために来たと言われました。キリストが罪人と交わられたため、自分たちだけを正しいとするユダヤ人は主を非難しました。しかし主は、すでに罪を悔い改めているという原則に基づいて、罪人を受け入れられました。……もし〔罪人が〕悔い改めるなら、わたしたちには彼らを受け入れる義務があります。そしてわたしたちは思いやりを込めて見守ることにより、彼らに影響力を及ぼして、あらゆる不義から彼らを聖め、また純粹にしなければなりません。……人々に罪を捨てさせるために、手を取り、優しく見守ること以上に良い方法はありません。』¹⁰

預言者ジョセフ・スミスは、教会指導者のグループにあてて次のように書いている。「さて、兄弟の皆さん、次のことを言わせてください。わたしには兄弟たちや世界中の人々の至らなさや愚かさ、弱さや悪事を、寛容と忍耐の限りを尽くして赦し、堪え忍ぶ性質があります。皆さんに対するわたしの信頼と愛は、衰えても弱くなってもいません。さて、もし皆さんがわたしたちの弱さや愚かさについて、わたしたちとともに少しばかり堪えるように求められ、責めを受けることになったとしても、感情を害さないでください。……皆さんとわたしが顔と顔を合わせて会うときには、わたしたちの間のすべての事柄が正しく理解され、完全な愛が広がるでしょう。わたしたちを結びつけている神聖な聖約が、何よりも重んじられることでしょう。わたしはそう期待しており、そのようになることをまったく疑っていません。』¹¹

大管長会の顧問および十二使徒との集会において、預言者ジョセフ・スミスは次のように述べている。「一時の衝動から厳しすぎる言

葉を発することがありましたが、もし皆さんの感情を傷つけていたら、兄弟の皆さん、どうぞ赦してください。わたしは皆さんを愛しており、主の前に、そしてすべての人の前に、あらゆる義にかなって心から皆さんを支持しています。兄弟の皆さん、わたしは嵐や暴風雨の中で、雷鳴と稲妻の中で、海上や陸上で、荒れ野の中で、また偽りの兄弟や暴徒の中で、あるいは神がその摂理によってわたしたちにお求めになるどんな場所においても、敵対するあらゆる激流をくい止める用意があります。そしてわたしは決意しています。高いものも深いものも、公国も力も、現在のもも将来のもも、そのほかのどんな被造物も、わたしを皆さんから引き離すことはありません〔ローマ8：38-39参照〕。

わたしは今、神の前で皆さんに聖約します。わたしは顔と顔を合わせて会い、確認するまで、皆さんのうちのだれかの名誉を傷つけるような報告に耳を傾けることも、それを信用することもせず、絶対に確実なものでないかぎり、天の下におけるどんな証言によっても皆さんを非難することはありません。また、皆さんの言葉に揺るぎない信頼を置きます。皆さんがうそ偽りのない人であると信じているからです。そして皆さんにも同じことを求めます。わたしが語る時、その言葉に同様の信頼を置いてください。わたしは自分の知らないことを知っていると言わないからです。』¹²

1835年の秋、預言者の弟ウィリアムは預言者の下した決断に異議を唱え、ひどく腹を立て、預言者を侮辱し、ほかの人々にも同様にしよう勧め始めた。預言者はこの行為を悲しみ、ウィリアムあてに次のような言葉を書き送った。「ウィリアム兄弟、謙遜けんそんになってくれるよう望んでいます。わたしはあなたを快く赦します。わたしの揺るぎなく変わらない性質は、あなたの知っているとおりにです。わたしは自分がだれに頼っているかを知っています。わたしは岩の上に立っており、洪水もわたしを倒すことはできません。いや、倒すことはありません。あなたの知っているように、わたしが教えている教義は真実であり、神はわたしを祝福してくれました。……あなたが間違いを犯すとき、わたしには戒める義務があります。わたしはいつでもそうしますし、あなたにも同じ特権があります。わたしは自分の生得権のゆえにあなたを戒め、あなたにもその特権を認めます。なぜならわたしには、謙遜けんそんになって、兄弟から、あるいは友から、叱責しっせきや教えを受ける義務があるからです。……

神が父の家を憐れんでくださいますように。わたしとあなたの間から敵意を取り除いてくださいますように。すべての祝福が回復され、過去がとこしえに忘れ去られますように。おお、神よ、わたしたち二人がへりくだって悔い改めるときに、あなたとあなたの力と守りのもとに導いてください。わたしたちが冠を受けて、父母とアルビン、ハイラム、ソフロニア、サミュエル、キャサリン、カーロス、ルーシー、聖徒たち、そしてすべての聖められた者との交わりを、安らかに、とこしえに享受できますように。これがあなたの兄の祈りです。』¹³

1836年1月1日、預言者は家族の中に生じたこの問題を解決するための努力について次のように述べている。「過ぎ去った1年を振り返るときに、感謝の念が心にあふれてきます。数々の祝福がわたしたちの頭^{こづべ}に冠として授けられてきたにもかかわらず、父の家族に問題が残されたままであることに心が痛んでいます。……今日、家族のあらゆる問題を調整し、穏便に処理し、解決するために、わたしは自分の方に足りないところのないようにしようと決意しています。今後の歳月を、自分に欠けているところが少なかりょうと多かりょうと、神の前で義のうちに過ごせるようにするためです。……

ウィリアム兄弟とハイラム兄弟、そしておじのジョン・スミスがわたしの家にやって来て、わたしたちは、父とマーティン・ハリス長老とともに部屋に入りました。それから父スミスの祈りによって話し合いが始まり、その後、父が非常に心打たれる話し方で、まさに父親の哀れみの情を込めて、思いを述べました。家族の中にある問題のために、父の心は深く傷ついていました。父が話している間に、神の御霊^{みたま}が大いなる力をもってわたしたちにとどまったため、わたしたちの心は和んできました。そしてウィリアム兄弟はへりくだって告白し、わたしをののしったことについて赦しを求めました。わたしも自分の至らなかった点についてウィリアム兄弟に赦しを求めました。

皆が互いに告白と赦しの精神を持ちました。わたしたちはこれから先、すべてのことにおいて義のうちに互いを高め、互いについて悪く言う声に耳を傾けず、まことの兄弟のように、柔和な態度で、不満の種を持ち寄って和解し、それによってわたしたちの幸福と、家族の幸福、要するに、すべての人の幸福と福利を推進するよう努めることを、神と聖なる天使たちと兄弟たちの目の前で、互いに聖約しました。それから妻と母と筆記者を部屋に招き入れて、わたしたちが交わした聖約を彼らの前で繰り返し述べました。わたしたちは感謝で胸がいっぱ



ここでジョセフ・スミスとともに描かれているウィリアム・W・フェルプスは、聖徒たちのもとに完全に迎え入れられた後、自分を快く救してくれた預言者について次のように書いている。「たたえよ、……主と語りし予言者を」（『賛美歌』16番）

いになり、涙を流しました。その後、わたしは話し合いを終えることを願い、祈りをもってそのようにしました。それはまことに歓喜の時であり、喜びの時でした。』¹⁴

悔い改めた人に寛容と忍耐と憐れみ^{あわ}を示すことによって、彼らを「神の大切な子供たちが受ける自由」に戻す手助けができる

1838年の末、かつて教会員として信頼の厚かったウィリアム・W・フェルプスは、預言者やそのほかの教会指導者に対して偽りの証言をする人々に加わっていた。ミズーリ州で預言者たちが監禁されたのは彼らの証言が決め手になっていた。1840年6月、フェルプス兄弟はジ

ヨセフ・スミスに^{ゆる}赦しを請う手紙を書き送った。預言者ジョセフは次のように返事をしている。「〔先月〕29日付けのあなたからの手紙に答えて筆を執りましたが、尋常でない感情があるのは確かです。しかし同時に、わたしは自分に与えられたこの特権を喜んでいきます。

あなたの手紙を読んだときの、わたしやリグドン長老やハイラム兄弟の気持ちを、あなたも幾らか理解できるのではないのでしょうか。あなたの確かな決意を知ったとき、心に優しさと哀れみがわいてきました。わたしはあなたの件に対して、エホバ（わたしはその^{しもべ}僕ですが）に認めていただける方法によって、また明らかにされている真理と義の原則に従って、行動したいと思っていることをお伝えしておきます。へりくだって悔い改めた人に対する天の御父の計らいを常に特徴づけてきたのは寛容と忍耐と憐れみです。そこでわたしはその手本^{なら}に倣い、同じ原則を大切にし、そうすることによって同胞の救い手となりたいと思います。

あなたの行動のためにわたしたちが大きな苦しみを受けたのは確かです。幾度となく楽しく語り合い、主から^{なぐさ}慰めの時を度々受けてきたあなたが背いたとき、すでに死すべき者が飲むのに十分だった^{さかすき}苦い杯が、実にあふれるばかりに満たされました。『敵であったならば、忍ぶことができたでしょう。』〔詩篇55：12-14参照〕。『あなたが離れて立っていた日、すなわち異邦人がその財宝を持ち去り、外国人がその門におし入り、〔ファーウエスト〕をくじ引きにした日、あなたも彼らのひとりのようでした。しかしあなたは自分の兄弟の日、すなわちその災の日をながめているべきではありませんでした。その悩みの日に誇るべきではありませんでした。』〔オバデア1：11-12参照〕

しかし、杯はすでに飲み干され、御父の御心は行われました。そしてわたしたちはなお生きており、そのことを主に感謝します。神の憐れみによって悪人の手から解放されたわたしたちは申し上げます。あなたには、敵の力から解放され、神の大切な子供^{けんぞん}たちが受ける自由に導かれ、いと高き者の聖徒に再び加わり、熱意と謙遜と偽りのない愛によって、わたしたちの神そしてあなたの神に対して、またイエス・キリストの教会に対して、自分を推挙する特権があります。

あなたの告白が真実であり、悔い改めが心からのものであることを信じて、わたしは右手を差し出してあなたを再び仲間^{ほうとう}に迎えられることをうれしく思い、帰って来た放蕩息子を喜びます。

あなたの手紙は先週の日曜日に聖徒たちに読み上げられました。彼

らの気持ちを表明するように求めたところ、W・W・フェルプスを会員として受け入れることが全会一致で決議されました。

『さあ、愛する兄弟、こちらに来てください。戦いは終わったのです。初めに友であった者たちが、ついに再び友となったのですから。』¹⁵

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 本章には、ジョセフ・スミスが人々を救^{ゆる}した話が幾つか載っています。391-392, 395-397, 397-399ページの話を読んでください。これらの物語は、だれかを救そうと努力している人にとってどのような助けとなるのでしょうか。
- 自分を不当に扱った人を救すとき、わたしたちの人生にどのような祝福がもたらされるのでしょうか。人を救するのが難しいことがあるのはなぜでしょうか。救す精神をもっとはぐくむために、どのようなことができるのでしょうか。
- 393ページには、人を救すことについて次のような簡潔ながら味わい深い言葉が載っています。「互いに忍耐し合ひましょう。主もわたしたちにそうしてくださるからです。」「憐れみ深くあってください。そうすれば憐れみを見いだすでしょう。」「人を滅ぼすのではなく、その人の救いを助けるように努めてください。」「わたしたちは互いに憐れみを持ち、小さなことを大目に見なければなりません。」それぞれの言葉から、あなたは何を得ることができますか。
- 394ページの第1段落にある、優しさが及ぼす影響について語った預言者ジョセフ・スミスの言葉を読んでください。この勧告はなぜ真実だと思えますか。あなたはこれらの原則を人生の中でどのように経験してきましたか。
- 395ページの第1段落を読んでください。この勧告に従うとき、どのような問題を避けることができるのでしょうか。この勧告に従うのが難しいことがあるのはなぜでしょうか。ほかの人についての否定的な話を信じそうになる誘惑に打ち勝つには、どうすればよいのでしょうか。
- 人を救そうと努力する中で、預言者は天の御父の「手本^{なら}に倣い」

(398ページ), 「救い主の崇高で完全な模範に倣って」(392-393ページ) 生きる自身の望みについて語っています。天の御父とイエス・キリストの模範に従おうとするとき, わたしたちはどのような特質をはぐくむよう努力する必要がありますでしょうか。

関連聖句——詩篇86:5; マタイ18:21-35; 1ニーファイ7:16-21; モーサヤ26:29-31; 教義と聖約64:9-11

注

1. *History of the Church*, 第4巻, 268。1841年1月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちあてに書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1841年1月15日付, 273-274に掲載
2. ダニエル・タイラー “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年8月15日付, 491。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。段落変更
3. ジョージ・Q・キャノン, *The Life of Joseph Smith, the Prophet* (1888年), 190-191
4. *History of the Church*, 第6巻, 245。1844年3月8日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスの指示の下で書かれた記事 “A Friendly Hint to Missouri” から。*Times and Seasons*, 1844年3月15日付, 473に掲載
5. *History of the Church*, 第3巻, 383。1839年7月2日, アイオワ州モントローズでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
6. *History of the Church*, 第2巻, 230, 脚注。“To the Saints Scattered Abroad.” *Messenger and Advocate*, 1835年6月号, 138から
7. *History of the Church*, 第5巻, 19-20。原文(英語)においては, 角括弧の言葉 “yet” (「まだ」) は当時の表記のまま, 段落は変更。1842年5月26日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
8. *History of the Church*, 第5巻, 23。1842年6月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
9. *History of the Church*, 第5巻, 498。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1843年7月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
10. *History of the Church*, 第5巻, 23-24。1842年6月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
11. 1834年3月30日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがエドワード・パートリッジとそのほかの人々あてに書いた手紙。Oliver Cowdery Letterbook, 34-35。ハンティントン図書館。カリフォルニア州サンマリノ。教会記録保管課が複写を所有, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ
12. *History of the Church*, 第2巻, 374。原文(英語)においては, 段落は変更。1836年1月16日, オハイオ州カートランドで開かれた大管長会と十二使徒会の評議会集会の議事録から。ウォーレン・バリッシュによる報告
13. *History of the Church*, 第2巻, 343。1835年12月18日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがウィリアム・スミスにあてて書いた手紙から
14. *History of the Church*, 第2巻, 352-354。原文(英語)においては, 段落は変更。1836年1月1日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
15. *History of the Church*, 第4巻, 162-164。原文(英語)においては, 第3段落にある2番目の角括弧の部分は当時の表記のまま, 句読点および大文字は現代の用法に修正, 段落は変更, 斜体は削除。1840年7月22日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から



死者の贖あがない

「大いなるエホバは……生者と死者がそれぞれに置かれている状況を御存じであり、……彼らが贖あがないを受けられるように十分な用意をしてくださっているのです。」

ジョセフ・スミスの生涯から

預言者ジョセフ・スミスはその務めに携わり始めて間もないころ、死者の救いの教義が明らかにされる備えとなる経験をした。1823年11月、ルーシー・マック・スミスとジョセフ・スミス・シニアの第1子であるアルビン・スミスが、突然重い病気にかかり、危篤きどくに陥った。アルビンは25歳のたくましく有能な青年であり、その骨身を惜しまない働きは家族の経済的な安定に大きく貢献していた。母親はアルビンについて「息子は並外れた善良さを備えた若者であり、その高潔さと寛大さをもって、生涯のあらゆる瞬間に周囲の人々に祝福をもたらした」と語っている。¹

死が迫っていることを知ったアルビンは、弟たちと妹たちを呼び寄せて、一人一人に言葉をかけた。ジョセフは間もなく18歳になろうとしており、まだ金版を受け取っていないかった。アルビンはジョセフにこう言った。「善良であって、記録を手に入れるためにできる限りのことをしてほしい。与えられる指示に忠実であり、すべての戒めを守りなさい。もう君と別れなければならないけれども、兄さんが君に示した手本を忘れずに、下の子たちに良い手本を示しなさい。」²

アルビンが世を去ったとき、家族はニューヨーク州パルマイラの長老派の牧師に葬儀の司式を依頼した。アルビンはその牧師の信徒ではなかったため、牧師は説教の中で、アルビンは救いを得ることができないと断言した。ジョセフの弟ウィリアム・スミスは、次のように回想している。「〔牧師は〕……〔アルビン〕は教会員でなかったので地獄に行つたと、とても強い調子で言いました。しかしアルビンは善良な人であり、父は牧師のその言葉を好ましく思いませんでした。」³



「神の王国が地上に確立され、昔の秩序が回復されている現在、主はわたしたちにこの義務と特権を明らかにし、わたしたちは死者のためにバプテスマを受けるように命じられています。」

アルビンの死後多くの歳月を経た1836年1月、ジョセフ・スミスは日の栄えの王国の示現を受け、その中で自分の父母だけでなく、アルビンもまたいつかその王国を受け継ぐことになるのを見た。ジョセフは「〔アルビン〕がどのようにしてその王国で受け継ぎを得たのか不思議に思った。〔アルビン〕は主が再びイスラエルを集める業を始められる前にこの世を去り、罪の赦しゆるのためのバプテスマを受けていなかったからである。」(教義と聖約137:6)すると主の声がジョセフに聞こえ、次のように告げた。

「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる。これから後、この福音を知らずに死ぬ者で、真心からそれを受け入れたであろう者も皆、その王国を受け継ぐ者となる。主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」(教義と聖約137:7-9)

1840年8月15日、預言者ジョセフ・スミスはノーブーで行われたある葬儀で教えを説き、死者の救いの教義を初めて公に教えた。その場にいたサイモン・ベーカーによると、預言者はまず、「イエス・キリストの福音が胸躍る大いなる喜びのおとずれをもたらした」ことを証した。そしてコリント人への第一の手紙第15章のほとんどを読み、こう説明した。「この使徒は、死者のためのバプテスマについて理解していた民に向かって話をしていました。それが彼らの中で行われていたからです。」それから預言者はこのように宣言した。「今や人はこの世を離れた友のために行動することができます。救いの計画は進んで神の律法の要求に従うすべての人を救うためにあるのです。」⁴

葬儀での説教から1か月後、預言者は重病を患い瀕死の状態にあった父親を訪れた。預言者が死者のためのバプテスマの教義について語ると、父スミスは愛する息子アルビンのことを思った。そしてアルビンのために「直ちに」業を行うように頼んだ。世を去る直前に、父スミスはアルビンを見たとはっきり述べた。⁵ 1840年の後半、ハイラムが兄アルビンのためにバプテスマの儀式を受け、スミス家の人々はそのことを大いに喜んだ。

ジョセフ・スミスの教え

**神は御自分のすべての子供たちを愛しておられ、すべての人を
その人が受けていた律法によって裁かれる**

「人類家族の救いに関する神の偉大な計画は、賢く^{そうめい}聡明な時代だと言われているこの時代に、ほとんど何も理解されていません。救いの計画について、全能者が〔求めておられること〕について、天に行くために必要な備えについて、死者の霊の状態や様子について、そして美德と悪徳に関する様々な観念に従って行動した義や悪の結果としてもたらされる、幸福や惨めな状態について、人の考えは様々であり、対立しています。……

……人類が互いに無慈悲に裁き、罪に定めている一方で、宇宙の偉大な親である御方は、全人類を父親としての思いやりと心遣いをもって見ておられます。神は人類を御自分の子供たちとして見ておられるのです。神は、人の子らに悪影響を及ぼす^{へんききょう}偏狭な思いを抱かれず、『悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして』くださいます〔マタイ5：45〕。神はその御手の中に裁きの指揮権を持っておられます。神は知恵ある立法者であって、人の偏狭な考えによってではなく、イギリスで行われた行いであろうと、アメリカ、スペイン、トルコ、あるいはインドで行われた行いであろうと、『善であろうと悪であろうと、肉体にあってなした行いに応じて』すべての人を裁かれます。また、神は『彼らが持っていないものに応じてではなく、持っているものに応じて』裁かれます。律法なしに生きた者は、律法なしに裁かれ、律法を持っている者は、その律法によって裁かれます。大いなるエホバの知恵と英知を疑うには及びません。エホバはすべての国民に、彼らが成し遂げた様々な功績、彼らが英知を得る手段、彼らを治めている律法、および正しい情報を得るために彼らに与えられている環境に応じて、また、人類家族に関する御自分の深遠な計画に従って、裁きを行い、^{あわ}憐れみをお与えになります。そして神の計画が明らかにされ、隠されていた未来が知られるとき、わたしたちは皆最終的に、全地の裁き主は公義を行われたと告白することになるでしょう〔創世18：25参照〕。』⁶

「神は御自身がお与えになった光をどのように用いたかに応じて人を裁かれます。』⁷

「人は自分が持っていないものに対してではなく、持っているもの

に対して責任を負うことになります。……その多少にかかわらず、人は自分が慈悲深い創造主から受けたすべての光と英知によって、公正な裁きを受けます。また、……人はその光と英知に従うように、またそれらを増し加えるように、そして与えられた範囲においてそうするように求められています。人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものだからです。』⁸

救い主イエス・キリストは、生者と死者のそれぞれに救^{ゆる}しと解放の機会を与えてくださる

「キリスト教諸国の民が死後どのような状態に置かれるかは、哲学者や聖職者があらゆる知恵と才能を駆使して取り組んできたテーマであって、一般に次のような考えが受け入れられています。すなわち、人の行く末は死の時点で確定され、永遠に幸福な状態か、永遠に惨めな状態かのどちらかになります。もし神を知らずに死ねば、永遠に罰の定めを受けなければならず、罰が軽減されることも、苦痛が和らげられることもなく、解放という心の奥底に隠された望みを持つこともできないままに、限りなく時が過ぎていくのです。この信条がどれほど伝統的に承認されてきたものであろうと、救い主の次の言葉から、それが聖文の証と矛盾していることが分かります。主は、すべての罪や神を汚す言葉は赦されるが、聖霊を汚す言葉は、この世でも、来るべき世でも赦されることがない、と言っておられます。これは、〔聖霊への〕^{ほつとく}冒瀆の罪は赦されないが、来るべき世で赦される罪があることをはっきりと示しています〔マタイ12：31-32；マルコ3：28-29参照〕。

パウロもまた、救い主について語った説明の中で、次のように述べています。『彼は獄に捕われている霊どものところの下って行き、^の宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは、……ノア〔の時代に〕神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。』（1ペテロ3：19, 20）ここには救い主が獄にいた霊たち、すなわちノアの時代から^{とら}囚われの身になっていた霊たちに教えを説かれたことが記録されています。主は彼らに何を教えられたのでしょうか。彼らはそこにとどまることになる、ということでしょうか。そうではありません。主御自身の宣言を聞きましょう。『主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ〔られた〕。』（ルカ4：18）イザヤもこ



霊界において、救い主は義人の霊を組織し、「^{くらやみ}暗闇の中にいる者たち……のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。」(教義と聖約138：30)

う述べています。『囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる。』(イザヤ42：7) このことから明らかなように、主は彼らに教えを説きに行かれただけでなく、彼らを解放する、つまり獄屋から連れ出しに行かれたのです。……

大いなるエホバは、救いの計画に関してこの地上に関連のあるすべての出来事を、地球が存在する前、すなわち喜びのために『明けの星〔が〕相共に歌〔う〕』前から〔ヨブ38：7〕、深く考えておられました。過去、現在、未来は、主にとっては一つの永遠の「現在」です。主はアダムの墮落や大昔の人々〔大洪水の前に生きていた人々〕の罪悪について、また人類家族がかかわるであろう罪悪の深さ、人々の弱さと強さ、力と誉れ、背教、罪、義と罪悪について御存じでした。人の墮落と、人の^{あがな}贖いについて理解しておられました。救いの計画を御存じであり、それを示されました。すべての国民の状況とその行く末を知っておられました。そしてすべてのことを御自分の思いのままに命じられました。主は生者と死者がそれぞれに置かれている状況を御存じであり、彼らの様々な状況に応じ、神の王国の律法に従って、この世

においてであろうと、来るべき世においてであろうと、彼らが贖いを受けられるように十分な用意をしてくださっているのです。』⁹

**神は生者にも死者にもあらゆる人に対して完全に公正であり、
深い憐れみ^{あわれ}をかけられる**

「神の正義と裁きと憐れみについて一部の人々が作り出している考えは、聡明な人にとってはあまりに愚かで検討に値しません。例えば、一般に伝統的な説教者たちの多くは、もし人が彼らの言う改心した状態になく、そのままこの世を去るならば、その人は何の希望もないまま永遠に地獄にとどまらなければならないと考えています。無限の歳月を苦痛のうちに過ごさなければならず、決して、決して、決して終わりがありません。にもかかわらず、この永遠の惨めな状態は、この上なくささいな不慮の出来事によって引き起こされることがしばしばあります。靴ひもが切れたり、儀式を執行する者の衣が破れたり、あるいは単にだれかが特殊な場所に住んでいたりすることが、間接的に、罰の定めを受ける原因となったり、救われない理由となったりするのです。

起こり得ないとは限らない事例について考えてみましょう。同じように邪悪で、宗教を軽んじてきた二人の人が、同時に病気になります。一人は幸運にも祈祷者の訪れを受け、死ぬ直前に改心します。もう一人は、3人の異なる祈祷者である、仕立屋と、靴屋と、ブリキ職人を呼びにやります。しかしブリキ職人はなべに柄を付けなければならず、仕立屋は急いでコートにボタン穴を作らなければならず、靴屋は客のブーツに継ぎを当てなければなりません。だれも行くことができない間に、その人は息を引き取り、地獄へ行きます。一人は高く上げられてアブラハムの懐に行き、神の前に座して、終わりのない永遠の幸福を得ます。一方で、もう一人は、善良さにおいて何ら変わらなかったにもかかわらず、だれかがブーツを修理したり、コートにボタン穴を作ったり、なべに柄を付けたりしなければならなかったために、永遠の罰の定めと、抜け出すことのできない惨めな状態と絶望に沈むのです。

エホバの計画はそのような不公平なものではなく、聖文の言葉もそのように〔空虚な〕ものではなく、人類家族のための救いの計画もそのような良識から外れたものではありません。そのようなことになるとすれば、神は怒って顔をしかめられ、天使たちは恥じて頭を隠し、すべての徳高く聡明な人々は後ずさりするでしょう。

人間の作る法律は人にそれぞれ応分の報いを与え、様々な罪科に従

ってすべての犯罪者を罰するかもしれませんが。しかし、主は人間以上にむごい仕打ちをなさることはありません。主は知恵ある立法者であられ、主の律法は人の法律よりも公平であり、主の法令は人の法令より公正であり、主の判断は人の判断より完全だからです。そして人が同胞を法律によって裁き、法律の罰則に従って刑罰を科すように、天の神は『肉体にあってなした行いに応じて』裁かれます〔アルマ5：15参照〕。異教徒は福音を信じなかったので罰の定めを受けるとするのは不合理なことであり、イエスを信じていないユダヤ人は皆罰の定めを受けるとするのも、同じように不条理なことです。『聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか』とあるからです〔ローマ10：14-15参照〕。したがって、ユダヤ人も異教徒も、様々な宗派の対立する信条を軽んじたことに対して責められることはなく、神から送られた証^{あかし}のほか、どのような証を拒んだことに対しても責められることはありません。遣わされなければ、説教者は宣べ伝えることができず、『遣わされた』説教者の言葉を聞か〔なければ〕、聞く者は信じることはできないのです。聞いていないことのために罰に定められることはなく、律法がないなら、律法なしに裁かれることになるでしょう。』¹⁰

福音なしに死んだ人々のためにバプテスマと確認を受けることは、わたしたちの義務であり特権である

「福音にかかわる祝福と、もろもろの要求に従わない場合の結果について語る時、先祖たちはどうなるのかという質問をよく受けます。先祖たちは聞いたこともない福音に従わなかったために皆罰の定めを受けるのでしょうか。もちろん違います。先祖たちは永遠の神権を通して、また大いなるエホバの賢明な計らいにより、わたしたちがこの地上で受けているのと同じ特権を受けるでしょう。永遠の神権は地上だけでなく天においても導きと恵みを施すからです。したがって、イザヤが述べた人々〔イザヤ24：21-22参照〕は神権者の訪れを受け、獄から出て来るでしょう。それは、ノアの時代に不従順であった人々が〔永遠のメルキゼデク神権を持っておられた〕救い主の訪れを受け、主によって、獄の中で福音を宣べ伝えてもらったのと同じ原則に基づいて行われるのです。そして神が定められたあらゆる〔要求〕を満たせるように、生きている友が死んだ友のためにバプテスマを受けまし

た。このようにして、『だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない』〔ヨハネ3：5〕という神の要求を満たしたのです。言うまでもなく、彼らは自分自身のためではなく、死者のためにバプテスマを受けました。……パウロはこの教義について次のように述べています。『そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。』（1コリント15：29）……

さて、神の偉大な目的が速やかに成し遂げられようとしており、預言者の書に語られている事柄が成就されつつあります。神の王国が地上に確立され、昔の秩序が回復されている現在、主はわたしたちにこの義務と特権を明らかにし、わたしたちは死者のためにバプテスマを受けるように命じられています。こうして、末日の栄光について語ったオバデヤの言葉が成就するのです。『こうして救う者たちはシオンの山に上って、エサウの残りの者を裁く。そして王国は主のものとなる。』（オバデヤ1：21参照）これらの事柄についての理解は、真実の聖文と一致しており、人に対して示された神の道が正しいことを表し、人類家族を対等な立場に置き、義と正義と真理のあらゆる原則と調和するものです。ペテロの言葉で話を結びましょう。『過ぎ去った時代には、あなたがたは、異邦人の好みにまかせて……きたが、もうそれで十分であろう。』『死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。』（1ペテロ4：3，6）¹¹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 死者の救いの教義がジョセフ・スミスとその家族にどのような影響を与えたかに注目しながら、401-403ページを読んでください。この教義は、あなたやあなたの家族にどのような影響を与えてきましたか。
- 404-407ページから、父なる神とイエス・キリストについての預言者ジョセフの教えを読んでください。これらの教えは、天の御父と救

い主に対するあなたの思いや気持ちにどのような影響を与えていますか。これらの教えは死者の救いとどのような関連があるのでしょうか。

- 404-405ページと407-408ページにある預言者の教えを読んでください。神はその子供たちをどのように裁かれるのでしょうか。
- ジョセフ・スミスは、死者のためのバプテスマは「義務と特権」であると言っています（409ページ）。この業はどのような点で義務なのでしょう。あなたはどのような経験を通してこの業は特権であると感じていますか。死者のための主の業を進めるために、あなたにはどのようなことができるのでしょうか。両親は子供たちがこの業に参加するのをどのように助けられるのでしょうか。
- 死者の救いの教義は、神の正義をどのように表しているのでしょうか。神の憐れみ^{あわ}をどのように示しているのでしょうか。本章を読み終えた今、あなたはこの教義を信仰の異なる人にどのように説明したいと思いますか。

関連聖句——イザヤ49：8-9；61：1-3；ヨハネ5：25；教義と聖約138：11-37

注

1. ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844年-1845年の原稿, book 4, 5-6, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. アルビン・スミス。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844年-1845年の原稿, book 4, 4で引用, 教会記録保管課
3. ウィリアム・スミス。E・C・ブリックスと J・W・ピーターソンによるインタビュー（1893年10月または11月）。*Zion's Ensign*（復元末日聖徒イエス・キリスト教会, 現在の Community of Christ 発行の定期刊行物）に掲載。*Deseret Evening News*, 1894年1月20日付, 2に転載
4. サイモン・ベーカー, 1840年8月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教の報告。Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1840年8月15日。*History of the Church*, 第4巻, 231も参照
5. ジョセフ・スミス・シニア。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1845年の原稿, 296, 301で引用, 教会記録保管課
6. *History of the Church*, 第4巻, 595-596。原文（英語）においては, 句読点は現代の用法に修正。*Times and Seasons*, 1842年4月15日付, 759に掲載された論説 “Baptism for the Dead” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. *History of the Church*, 第5巻, 401。1843年5月21日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
8. 1833年9月26日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがおじサイラス・スミスにあてて書いた手紙。ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1845年の原稿, 228-229, 教会記録保管課
9. *History of the Church*, 第4巻, 596-597。原文（英語）においては, 第1段落にある最初の角括弧の部分は当時の表記のまま, つづりおよび句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。*Times and Seasons*, 1842年4月15日付, 759-760に掲載された論説 “Baptism for the Dead” から。

- ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった。1918年10月にジョセフ・F・スミス大管長に与えられた啓示では、救い主は霊界におられたときに義人の霊のもとを訪れ、悪人の霊のもとに福音のメッセージを携えて行く使者たちを任じられたことが明らかにされている（教義と聖約 138：18-23, 28-32参照）
10. *History of the Church*, 第4巻, 597-598。
原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正、段落は変更。*Times and Seasons*, 1842年4月15日付, 760に掲載された論説“Baptism for the Dead”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
11. *History of the Church*, 第4巻, 598-599。
原文（英語）においては、第1段落にある最初の角括弧の部分は当時の表記のまま、つづりおよび句読点は現代の用法に修正、段落は変更。*Times and Seasons*, 1842年4月15日付, 760-761に掲載された論説“Baptism for the Dead”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった



最初に神殿が建てられた用地に再建されたノーブー神殿。
最初のノーブー神殿の建設が進められていたとき、預言者ジョセフ・スミスは
「わたしたちには何よりも神殿が必要です」と宣言した。



神殿の儀式と祝福を受ける

神殿は、神が「その民に主の宮の儀式と主の王国の栄光を明らかにし、救いの道を教えること」がおできになる場所である。

ジョセフ・スミスの生涯から

回復のかなり早い時期から、主は預言者ジョセフ・スミスに神殿を建てることの重要性を教えてこられた。預言者は何度も移住を強いられ、差し迫って必要な事柄に絶えず時間を費やし注意を向けなければならなかったが、それでも主の宮を建てる必要があることを決して忘れることがなかった。ミズーリ州インディペンデンスでは、神殿用地が奉献されていた。またオハイオ州カートランドでは、美しい神殿が完成し、奉献されていた。ミズーリ州ファーウェストでは神殿の隅石が据えられたが、放棄する結果となっていた。そして今、教会員はノーブーで自分たちの暮らしを立て直し始めていた。彼らの多くは十分な食糧も住居も職もない暮らしだったが、ジョセフ・スミスは聖徒たちの最も重要な仕事が、ここでもやはり神殿の建設であることを知っていた。

主の命令にこたえて、預言者と聖徒たちは可能なかぎり速やかに行動を起こし、主の宮の建設に取りかかった。しかし預言者は、建設には何年も要することを理解していた。また同時に、聖徒たちが神殿のすべての祝福を必要としていることも承知していた。そこで、1842年5月4日、神殿は完成していなかったが、ジョセフ・スミスは少数の忠実な兄弟たちにエンダウメントを執行した。

兄弟たちは、預言者の赤れんが造りの店の2階にある大きな部屋に集まった。そこは「状況の許すかぎり神殿の内部を模すよう整え」られていた。¹ 十二使徒定員会のフランクリン・D・リチャーズは、次のように書いている。「御霊が〔ジョセフ・スミスに〕この世での働きが終わりに近づいていることを告げ、ジョセフは神殿の完成を待たずに自分の地上での生涯が終わるかもしれないことを理解しました。そ

ここで数名の選ばれた人々を呼び集め、彼らに聖なるエンダウメントの儀式を授けました。ジョセフの心に蓄えられていた神聖な宝が、彼の死とともにこの世から消え去ることのないようにするためでした。]²

預言者の記録には次のように記されている。「店の2階で一日を過ごしました。……スプリングフィールドのジェームズ・アダムズ将軍、祝福師のハイラム・スミス、ニューエル・K・ホイットニービショップとジョージ・ミラービショップ、そしてブリガム・ヤング会長、ヒーバー・C・キンボール長老、ウィラード・リチャーズ長老とともに評議会を開き、彼らに神権の原則と位を教え、洗いと油注ぎとエンダウメントを行い、アロン神権に属する鍵からメルキゼデク神権の最も高い位に属する鍵^{かぎ}を授けました。また、日の老いたる者に関する位と、人が長子の教会のために用意されている祝福のすべてを手にし、上って行って永遠の世でエロヒムの前に住むことを可能にする、すべての計画と原則を示しました。この終わりの時代の中で初めて、古代の物事の秩序が再び地上に設けられたのは、この評議会においてでした。

わたしが、この評議会に伝えたことは霊的な事柄であり、それを受けることができるのは、霊的な思いを抱く者だけです。また、この人々に知らされた事柄はすべて、聖徒たちに受ける備えができ、またそれらを伝えるための適切な場所が用意されたらすぐに、終わりの時のすべての聖徒たちに、すなわち聖徒の中の最も弱い者にさえも知らされるでしょう。ですから聖徒たちはこれまでに神から建てるように命じられた、あるいはこれから命じられる、神殿とすべての家を建てるために絶えず努力しなければなりません。]³

大半の聖徒はノーブー神殿が完成した後、神殿のエンダウメントを受けられることになるが、ごく限られた人数の男女が、1842年5月の集会から数か月の間にこの祝福を受けた。その一人にマーシー・フィールディング・トンプソンがいた。マーシーがエンダウメントを受けたとき、預言者は彼女に次のように述べている。「これはあなたを暗闇^{くらやみ}から出して、驚くべき光の中に導くでしょう。]⁴

ジョセフ・スミスの教え

聖徒たちは神殿を建てるように神から命じられている

1833年1月、オハイオ州カートランドで、預言者は次のように書いている。「主は、カートランドにおいて、神の宮を建てるように命じ

られました。……これがわたしたちに対する主の言葉であり、わたしたちはそうしなければなりません。まことに、主の助けを受けながら、わたしたちは従います。従順であることを条件に、主は大いなる事柄を、まことに、主御自身の天からの訪れさえも約束してくださっているのです。わたしたちは主が授けようとしておられるこの大いなる榮譽を逃すことになりはしないか、主の前にとても心配です。主の前に恥じることはないように、謙遜さと大いなる信仰を得るよう努めています。』⁵

1840年9月、預言者と大管長会の顧問たちはノーブー神殿を建てる時が来たことを宣言した。「今やその時が来たと信じています。今こそこの地域に、神の聖い御心きよ み こころに従って儀式を受けることのできる祈りの家、秩序の家、神を礼拝する家を建てなくてはなりません〔教義と聖約88：119参照〕。これを成し遂げるには、相当な努力を払わなければならず、大きな財力が求められることでしょう。そして義にかなって業を速やかに進めなければならないため、聖徒たちはこのことの重要性を、それがもたらす影響という点から、心の中でよく考える必要があります。次に、それを実行するために必要とされる手段を講じてください。勇気の武具を身にまとい、最善を尽くす決意をし、あたかもすべての働きが自分だけにかかっているかのように強い関心ならを持ってください。そうするとき、聖徒は先祖の栄えある働きに倣い、自分たちと子孫の最後の世代に至るまで天の祝福を確実にもたらすことになるでしょう。』⁶

1841年1月、預言者と大管長会の顧問たちは次のように書いている。「主の神殿の建設がこの地〔ノーブー〕で進められています。聖徒たちはこの場所にやって来て、主の宮の秩序に従って、また聖なる神権の力によって、自分たちの先祖の神を礼拝することになるでしょう。神殿は、神権のすべての務めが正しく行われるように建設されます。この場所で至高者から教えが授けられて、遠い地まで伝えられることになります。ですから全力を注ぎ、……この時代の人々と後のすべての時代の人々にとってこの上なく大切な事柄について、昔の聖約の先祖や族長たちの行いに倣うように努めましょう。』⁷

ウィリアム・P・マッキンタイヤーの記録によると、1841年の初め、ジョセフ・スミスは次のように教えている。「ジョセフは、主が次のように言われたと述べました。死者のためのバプテスマを受けられるように、主の名のために宮を建てなければなりません。もしこれを行

わなければ、わたしたちは死者とともに拒まれ、この教会は受け入れられないであろう、と〔教義と聖約124：32参照〕。〕⁸

1842年4月、預言者は次のように語っている。「教会はその然るべき秩序に従って完全に組織されてはおらず、神殿が完成するまでそうなることはありません。神殿には神権の儀式を執行するための数々の場所が用意されます。〕⁹

1842年7月、預言者は次のように宣言している。「主は〔ノーブー〕神殿を建てるようにと告げられました。……わたしたちはほかの命令と同じように、その命令に従わなければなりません。これらの事柄に積極的にかかわろうとしない人は、ほかの戒めを破るのと同じように戒めに背く者であって、神の御心を行う者でも、神の律法を成就する者でもありません。〕¹⁰

1843年10月、預言者は聖徒たちに次のように勧告している。「神殿における業を速め、終わりの時のあらゆる業を進めるためにいっそう努力し、主の前をまじめに、義のうちに歩んでください。〕¹¹

1844年3月、預言者は十二使徒会およびノーブー神殿委員会とともに集まり、教会のわずかな資金をどのように配分するかを話し合った。この集会において、預言者は次のように述べている。「わたしたちには何よりも神殿が必要です。〕¹²

わたしたちは神殿で、永遠にかかわる事柄を学び、自分自身と先祖のために救いの儀式を受ける

「世の様々な時代に、神の民が……集められたのはどのような目的のためだったのでしょうか。……第一の目的は、主のために宮を建て、それによって、主がその民に主の宮の儀式と主の王国の栄光を明らかにし、救いの道を教えることがおできになるようにすることでした。なぜなら、特定の儀式と原則があって、それらを教え施すには、その目的のために建てた場所、すなわち宮の中で行わなければならないからです。

……創世の前に天において、人の救いのために神権によって定められた儀式は、変更されることがありません。すべての人は同じ原則に基づいて救われなければならないのです。

神が終わりの時に御自分の民を集められるのは、その目的のため、すなわち、民が儀式とエンダウメント、洗い、油注ぎなどに備えられるように、主のために宮を建てるためです。主の宮で行われる儀式の

一つが、死者のためのバプテスマです。この儀式はその目的のために主の宮の中に用意されたフォントで執行されなければならないと、神は創世の前に宣言されました。……

死者のためのバプテスマの教義は、新約聖書の中にはっきりと示されています。……イエスはユダヤ人に次のように言われました。『ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。』〔マタイ23：37〕主がそうされたのは、ユダヤ人が死者のためのバプテスマの儀式や神権のそのほかの儀式を受け、天から啓示を受け、神の王国にかかわる事柄において完全になるようにするためでした。しかしユダヤ人は集まろうとしませんでした。五旬節ごじゅんせつの日にはそれが実現して、弟子たちにそれらの祝福が注がれました。神は御自分の民を集めることによって、死者を救うと定めておられます。……

……民をこの場所に集めるのはなぜでしょうか。イエスがユダヤ人を集めることを望まれたのと同じ目的のためです。すなわち、聖徒たちのために神が用意しておられる、儀式と祝福と栄光を受けるためです。ここに集まっている方々とすべての聖徒たちにお尋ねします。皆さんは今この宮を建てて、神が皆さんのために用意しておられる儀式と祝福を受けたいと思いますか。それとも主のためにこの宮を建てることなく、神が通り過ぎてこれらの祝福を別の民にお授けになるのをよしとしますか。』¹³

「〔ノーブー〕神殿とバプテスマフォントの準備が整い次第、イスラエルの長老たちに洗いと油注ぎを授け、そして最後の、より感動的な儀式を行うつもりです。それらの儀式なしには、日の栄えの王位に就くことはできません。しかし、その目的のために準備された聖なる場所がなければなりません。神殿の基礎が据えられたときに一つの宣言がなされ、作業が完了するまで養いが与えられるのです。それは、人々がエンダウメントを受け、いと高き神のために王や祭司となることができるようにするためです。……しかし、その目的のために、また人々が死者のためにバプテスマを受けるために、特別に建てられた場所がなければなりません。……

主はこの件に関して律法を定めておられます。すなわち、死者の救いのための特別な場所がなければならないのです。場所が用意されること、そして死者を救いたいと望む人々がやって来て、また家族を連れ



アルバータ州カードストーン神殿。聖なる神殿において、
主は御自分の民に「主の王国の栄光」と「救いの道」を明らかにされる。

て来て、死者のためにバプテスマやそのほかの儀式を受けることによって自分たちの業を行えるようになることをわたしは確信しています。』¹⁴

「次のような質問をしばしば受けます。『それらの儀式をすべて受けなければ救われませんか。』わたしはこう答えます。『はい、完全な救いを受けることはできません。救い主は、「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。わたしはあなたがたのために、場所を用意しに行く」と言われました。』〔ヨハネ14：2参照〕ここにある『家』は、王国と訳されるべきでした。そして高く上げられて最も高い住まいに行く人は、日の栄えの律法とその律法のすべてに従わなければならないのです。』¹⁵

「神の神権のすべてを得るには、イエス・キリストがそれを得られたのと同じ方法で得なければなりません。そしてそれは、すべての戒めを守り、主の宮のすべての儀式に従う方法でした。……

神の相続人となり、イエス・キリストと共同の相続人になる人は皆、主の王国の儀式をすべて受けなければなりません。すべての儀式を受けようとしらない人は、その完全な栄光を受けることができないでしょう。』¹⁶

「未来の状態における神や天使たちと人との関係について、アダム

の時代から書き記されてきたすべてのものを読み、理解したとしても、ほとんど何も知ることができないでしょう。ほかの人の経験、すなわち彼らに与えられた啓示を読んでも、わたしたちは自分たちの状態や神とのほんとうの関係について、決して包括的な理解を得ることはできないのです。これらの事柄についての知識は、その目的のために定められた神の儀式を通して、経験することによってのみ得られるのです。5分間じっと天を見詰めるなら、そのことについて書き記されたすべてを読むことによって得られるよりも、もっと多くのことが分かるでしょう。……わたしは聖徒たちに断言します。真理は、……神の儀式という方法で、また祈りの答えとして与えられる神の啓示によって知ることができるのです。』¹⁷

「神の宮の秩序は、これまでも、これから先も、キリストが来られたその後でさえも変わりません。あの千年間が終わった後も変わらないでしょう。そしてわたしたちはついには神の日の栄えの王国に入り、とこしえにそれを受けるでしょう。』¹⁸

神殿は、神がその子供たちのために備えておられる最も大いなる 祝福を受ける、聖なる場所である

啓示によって預言者ジョセフ・スミスに与えられ、後に教義と聖約第109章に記録されたカートランド神殿の奉献の祈りの中で、預言者は次のように述べている。「さて、聖なる御父よ、何とぞ、……あなたの栄光があなたの民のうえにとどまり、またわたしたちが今あなたに奉献するこのあなたの宮のうえにもとどまって、これが聖なるものとして聖められ、聖別され、あなたの聖なる訪れが絶えずこの宮の中にありますように。主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が、あなたの力を感じ、またあなたがこれを聖められたことと、これがあなたの宮、あなたの聖さのある所であることを認める促しを感じますように。

聖なる御父よ、この宮で礼拝するすべての者が最良の書物から知恵の言葉を教わり、またあなたが言われたとおり、彼らが研究によって、また信仰によって学問を求めますように。また、彼らがあなたにあって成長し、聖霊の^{まこと}全きを受け、あなたの律法に従って組織され、すべての必要なものを得るために備えられますように。この宮が祈りの家、断食の家、信仰の家、栄光の家、また神の家、すなわちあなたの家と

なりますように。……

聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕^{しもべ}たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名^{みな}が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。彼らがこの場所から地の果てまで、真理にかなって、きわめて大いなる栄え^{みわざ}あるおとずれを携えて行き、それによって人々が、これがあなたの御業であることを知り、またあなたが終わりの時に関して、預言者たちの口を通して語られたことを成就^{じょうじゆ}するために御手^{みで}を伸べられたことを知ることができますように。

聖なる御父よ、何とぞ、このあなたの宮で礼拝して名と地位を立派に維持する民を、すべての世代にわたって、また永遠に確立してくださいように。彼らを攻めるために造られるいかなる武器も役に立ちませんように。彼らのために穴を掘る者が自らその穴の中に落ちますように。この宮であなたの御名を受けた民に対して、いかなる悪の結社も、立ち上がって打ち勝つ力を持つことはありませんように。』¹⁹

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 414ページの第2、第3段落を読んでください。神殿の業はどのようにしてわたしたちを「暗闇^{くらやみ}から出して、驚くべき光の中に導く」でしょうか。「霊的な思いを抱く」とはどういう意味だと思いますか。神殿で得られる光を受けるにはなぜ「霊的な思いを抱」いていなければならないのでしょうか。
- ノブーの聖徒たちが神殿を建設していたとき、預言者ジョセフ・スミスは彼らに「わたしたちには何よりも神殿が必要です」と語りました（416ページ）。413-416ページを読んで、この言葉が真実である理由を探してください。預言者のこの言葉は、あなたの人生にどのように当てはまるでしょうか。
- 神殿を建てるようにという命令について、ジョセフ・スミスの教えを研究してください（414-416ページ）。神殿と神殿の儀式なしに教会が「完全に組織され」ることがないのはなぜだと思いますか。今日わたしたちは「神殿における業を速め」るためにどのようなこ

とができるでしょうか。神殿の業の「重要性を……よく考える」必要があるのはなぜでしょうか。

- 神聖な神殿の儀式とそこから学ぶ事柄について、預言者の教えを読んでください（416–419ページ）。神殿の儀式の重要性を理解するうえで、あなたにとって特に助けとなるのはどの教えですか。
- 418ページの最後の1行から419ページにまたがる段落を読んでください。すでに神殿の儀式を受けている場合は、自分の経験を通じてどのように自分の「状態や神とのほんとうの関係」について学んできたかを深く考えてください。まだ一度も神殿に入っていないか、しばらく行っていない場合は、神殿に参入するためにどのような準備ができるかを考えてください。
- 神殿に参入するとき、どのような祝福を受けることができるでしょうか（例として、419–420ページ参照）。本章で学んだことから、どうすればあなたの神殿参入をさらに有意義なものとすることができるでしょうか。

関連聖句——詩篇24：3–5；イザヤ2：2–3；教義と聖約124：25–28, 39–41

注

1. ルーシャス・N・スコービル, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1884年2月15日付, 2
2. フランクリン・D・リチャーズ “A Tour of Historic Scenes,” *Contributor*, 1886年5月号, 301。原文（英語）においては、句読点および大文字は現代の用法に修正
3. *History of the Church*, 第5巻, 1–2。原文（英語）においては、つづりおよび文法は現代の用法に修正, 段落は変更。“History of the Church”（原稿, book C-1, 1328–1329から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
4. マーシー・フィールディング・トンプソン “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年7月1日付, 400
5. *History of the Church*, 第1巻, 316–317。1833年1月11日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスにあてて書いた手紙から。*History of the Church* では, この手紙は誤って1833年1月14日付とされている
6. *History of the Church*, 第4巻, 186。原文（英語）においては, 文法は現代の用法に修正。1840年9月, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 178–179に掲載
7. *History of the Church*, 第4巻, 269。1841年1月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1841年1月15日付, 274に掲載
8. ウィリアム・P・マッキンタイヤー, 1841年初めにイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教についての報告。William Patterson McIntire, *Notebook 1840–1845年*, 教会記録保管課
9. *History of the Church*, 第4巻, 603。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
10. *History of the Church*, 第5巻, 65。*Times and Seasons*, 1842年7月15日付, 857–858に掲載された論説 “The

- Government of God” から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
11. *History of the Church*, 第6巻, 52。1843年10月9日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告, *Times and Seasons*, 1843年9月15日付, 331-332に掲載。同日付の*Times and Seasons*は遅れて発行された
 12. *History of the Church*, 第6巻, 230。1844年3月4日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが書いた日記から
 13. *History of the Church*, 第5巻, 423-425, 427。原文(英語)においては, 段落は変更。1843年6月11日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 14. *History of the Church*, 第6巻, 319。1844年4月8日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 15. *History of the Church*, 第6巻, 184。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1844年1月21日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
 16. *History of the Church*, 第5巻, 424。原文(英語)においては, つづりは現代の用法に修正。1843年6月11日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 17. *History of the Church*, 第6巻, 50-51。原文(英語)においては, 段落は変更。1843年10月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告, *Times and Seasons*, 1843年9月15日付, 331に掲載。同日付の*Times and Seasons*は遅れて発行された
 18. *History of the Church*, 第2巻, 309。1835年11月12日にオハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教から。ウォーレン・バリッシュによる報告
 19. 教義と聖約109:10, 12-16, 22-26。1836年3月27日にオハイオ州カートランドの神殿の奉献に当たって, ジョセフ・スミスがささげた祈り



慈愛, キリストの純粹な愛

「愛は神の主要な特質の一つであり、神の息子となることを望む人々が示さなければならないものです。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1841年にジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主はイリノイ州ノーブーのステークは「シオンの隅石となるようにわたしが設けたものであり、宮殿のような優美さをもって磨き上げられるであろう」と告げられた（教義と聖約124：2）。預言者の指示の下に、ノーブーは商業、教育、芸術の中心として栄えた。多くの人が農場で働き、市内に1エーカー〔0.4ヘクタール〕の土地を得た者たちは、家庭菜園で果物や野菜を育てた。また、町には製材所、れんが工場、印刷所、製粉所、パン屋が建ち並び、大工や陶器職人、ブリキ職人、宝石職人、鍛冶屋、家具工らの店も現れた。聖徒たちはノーブーで演劇や舞踏会、音楽会を楽しむことができた。地域の至る所に開設された学校に何百人もの生徒が通い、大学を設置する計画も進んでいた。

ノーブーが急速に発展していく中で、数軒のれんが工場で製造されていた赤れんがが、ノーブーの建物に独特の外観を与えた。そのような建物の一つが、預言者の赤れんが造りの店であった。この店は、預言者と大管長会の事務所として、また預言者が家族を養うための商店を営む場所として建てられた。赤れんが造りの店で起こったある出来事には、預言者が人々から愛された理由である、その情け深い人柄が表れている。

イギリス人のジェームズ・リーチは、改宗者だった姉のアグネス・ナイチンゲールと、姉の夫ヘンリーとともにノーブーにやって来ていた。職を探したが見つからず、ジェームズとヘンリーは預言者に助けを求めることにした。ジェームズは次のように回想している。

「わたしたちは……〔預言者が〕小さな店で一人の婦人に商品を売っているのを見ました。ジョセフを間近で見る機会を得たのはそれが



再建したノーブーの赤れんが造りの店。
この建物は預言者ジョセフ・スミス的事务所として、また預言者が家族を養うための商店を
営む場所として用いられた。多くの教会の集会や社会活動がこの店で行われた。

初めてでした。並外れた人であるのを感じました。それまでに会ったどんな人とも異なっていました。わたしは心の中で言いました。この人はまことにいと高き神の預言者だ、と。

わたしは教会員ではなかったので、ヘンリーから仕事を頼んでほしなかったのですが、ヘンリーがそうしなかったのも、わたしから頼まなければなりません。『スミスさん、よろしければ、わたしたち二人にやらせていただける仕事はありませんか。食糧を少し手に入れたいです。』ジョセフははつらつとした表情でわたしたちを見ると、優しく言いました。『さて、どんなことができますか。』わたしたちは祖国を離れる前の職業を伝えました。

『溝を掘れますか』とジョセフは尋ねました。最善を尽くすと答えると、ジョセフは『それでいいでしょう』と言い、巻尺を手にとって言いました。『一緒に来てください。』

ジョセフはわたしたちを店から少し離れた所へ連れて行き、わたしに輪を持たせ、巻尺をリールから伸ばし切って、作業するための線を引きました。『では、この線に沿って、幅3フィート〔90センチ〕、深さ2.5フィート〔76センチ〕の溝を掘ってもらえますか。』

わたしたちが最善を尽くすと答えると、ジョセフは戻って行きました。それから仕事に取りかかり、作業を終えると、終わったことを告げに行きました。ジョセフはやって来て、溝を見て言いました。『もしわたしが自分でやっていたなら、これ以上うまくはできなかったでしょう。では、一緒に来てください。』

ジョセフはわたしたちを連れて店に戻ると、いちばん良いハムか豚肉1切れを自分で選ぶように言いました。わたしは少々照れて、ジョセフに選んでもらいたいと言いました。するとジョセフは、わたしたちのそれぞれに最も大きくて上質の肉2切れと小麦粉1袋ずつを選び、それで足りるだろうかと尋ねました。お礼に喜んでもっと仕事をすると言出すと、ジョセフはこう言いました。『もしあなたがたが満足しているのであれば、わたしも満足です。』

わたしたちは丁寧に礼を言うと、神の預言者の優しい心を喜びながら家に帰りました。』

ジェームズ・リーチはその年にバプテスマを受け、「〔預言者の〕気高い顔が神の御霊と力によって照らされるのを見る特権に度々あずかりました」と書き残している。¹

ジョセフ・スミスの教え

神の愛で満たされている人は、人に祝福を与えたいと望む

「愛は神の主要な特質の一つであり、神の息子となることを望む人々が示さなければならないものです。神の愛で満たされている人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、全世界を歩き回ります。」²

ルーシー・メザーブ・スミスは次のように記録している。「〔ジョセフ・スミス〕はこう言いました。『兄弟姉妹、互いに愛し合ってください。互いに愛し合い、敵に対して憐れみ深くあってください。』ジョセフはこれらの言葉を断固とした口調で繰り返し、大きな声でアーメンと言いました。」³

1839年7月、預言者は教会指導者のグループに向かって話している。「それからわたしは彼らに語って多くの教えを与え、……主の前をへりくだって歩みたいと望むすべての人にとって大切に価値のある多くのテーマについて話しました。特に、慈愛と知恵と同情心を持ち、あらゆる状況の下ですべてのことにおいて互いに愛し合うように教えました。」⁴

わたしたちには助けの必要な人々を愛し、心にかける特別な義務がある

「すべての聖徒には、自分の兄弟たちに惜しみなく与え、常に彼らを愛し、助ける義務があります。神の前に義とされるには、互いに愛し合わなければなりません。悪に打ち勝たなければなりません。苦しんでいる父のいない子供ややもめを訪れ、そして世の汚れに染まらずにいなければなりません。そのような徳は清らかな信心という大いなる泉から流れ出るものだからです〔ヤコブの手紙1：27参照〕。」⁵

「〔教会員は〕助けを必要としている人に気づいたらいつでも、相手がこの教会の人であろうと、あるいはほかの教会の人や、どの教会にも属していない人であろうと、飢えている人に食物を与え、裸でいる人に着せ、やもめに必要なものを与え、孤児の涙をぬぐい、苦しんでいる人を慰めなければなりません。」⁶

「富んでいる人は、慈愛を持ち、神が求められるときに神の求められる方法で、貧しい人に食物を与えなければ救われません。」⁷

「苦しんでいる人の状態に注意を払い、彼らの苦しみを和らげるよ

うに努めてください。皆さんのパンを飢えている人に与え、皆さんの服を裸でいる人に着せてください。皆さんの寛大さによって孤児の涙をぬぐい、悲嘆に暮れているやもめを元気づけてください。祈り、そばにいて、優しさを示すことにより、悩んでいる人の痛みを和らげ、彼らの必要を満たすために皆さんの寛大さを役立ててください。すべての人に対して、特に信仰の家族に対して善を行ってください。悪も罪もなく、責められるところのない神の息子となるためです。神が過去に与えられ、現在与えておられる、また将来与えられるすべての戒めを守ってください。そうすれば栄光の光の輪が皆さんの行く道を輝かし、貧しい人々は立ち上がって皆さんを祝福された者と言ひ、皆さんはすべての善良な人々から称賛と尊敬を受けるでしょう。皆さんの道は正しい者の道となり、輝きを増してついには真昼となるでしょう〔箴言4：18参照〕。〕⁸

「神の御心^{みこころ}にかなった義の原則を実践し、互いに対してふさわしい愛情を抱き、皆さんのために束縛されている人、悲しんでいる人、ひどく苦しんでいる人を思い起こすよう全力で注意を払うとき、聖なる御霊^{みたま}が……常に皆さんの頭に注がれるでしょう。また、兄弟たちが貧困の中でうめき、つらい試練と誘惑を受けているにもかかわらず、もし皆さんの中に自身の権力を増し加えることを願ひ、自分の富を求める人がいるなら、そのような人は聖なる御霊の執り成しによる恵みを受けることができません。御霊は言い表せないうめきをもって日夜わたしたちのために執り成しをしてくださるのです〔ローマ8：26参照〕。

そのような高慢が心の中に決して居座ることのないように、わたしたちは常に細心の注意を払うべきです。むしろ低い位の人々と交わり、最大限の寛容をもって弱い人々の弱さを担ってください。〕⁹

慈愛は寛容であり、憐れみ^{あわ}深く、親切である

エライザ・R・スノーは、預言者が行ったある説教を次のように報告している。「次に預言者は〔1コリントの〕第13章を読み始めました。『たといわたしが、人々の言葉や御使^{みつかい}たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鐺鉢^{にようばち}と同じである。』そして次のように述べました。隣人の徳については限界を設けずに見てください。しかし、独善に気をつけてください。自分自身の徳については控えめに評価し、自分がほかの人々よりも義^よにかなっていると考えてはいけません。もしイエスのように行ひ、同胞をアブラハムの

懐に連れて行きたいと思うなら、互いに対して心を広げなければなりません。わたしは教会の人々にも、また敵にも、寛容と辛抱と忍耐を示してきました。寛大な親が子供の欠点を忍耐するように、わたしたちは互いの失敗を忍耐し合わなければなりません。

……純真さ、徳、善良さを増し加えるとともに、人々に対して広い心を持ってください。寛容であって、人の過ちや誤りあやまを忍耐しなければなりません。人の魂は何と貴いものでしょうか。……

……罪人のつかの間の華やかな姿をうらやんではなりません。彼らは惨めな状態にあるからです。むしろできるかぎり彼らに憐れみを持ってください。彼らが悔い改めて神に立ち返らなければ、しばらくすると神は彼らを滅ぼされるからです。』¹⁰

「賢明な人は、思いやりが人を征服することを熟知しています。『柔らかい答は憤りをとどめ〔る〕』と賢人は言っています〔箴言15：1〕。自覚のないまま間違いを犯したかもしれない人々に優しく接することによって神の愛を示す末日聖徒は、大きな称賛を受けることでしょう。まことに、イエスは『敵のために祈れ』と言っておられるからです〔マタイ5：44参照〕。』¹¹

「わたしは皆さんの過ちについていつまでも引きずるようなことはしません。皆さんもわたしの過ちについてそうしないでください。慈愛すなわち愛は多くの罪を覆うものであり〔1ペテロ4：8参照〕、わたしは度々皆さんの中のあらゆる過ちを覆ってきました。しかし最も好ましいのは、まったく過ちを犯さないことです。柔和で、静かで、穏やかな精神をはぐくまなければなりません。』¹²

エライザ・R・スノーは、預言者が行った別の説教を次のように報告している。「人々が少しでも優しさと愛を示してくれるとき、それはわたしの心にどれほどの力を与えることでしょう。その反対の行いは、あらゆるとげとげしい感情をかき立ててひどく苦しめ、人の心を憂うつにする傾向があります。

世の中に愛情が薄れ、慈愛が欠けている様子が見られるのは、人々が神を敬うことについての原則を知らないことを示す一つの証拠です。神性の力と栄光は、慈愛の外套がいとうを広げるといふ寛大な原則に基づいて授けられるのです。神は罪を見過ごしにされません。しかし人が罪を犯したときには、情けのある扱いが必要です。……わたしたちは天の御父に近づけば近づくほど、滅びに向かっている人を思いやりをもって見るようになります。彼らを背負い、彼らの罪を背後に投げ捨

てたいと思うようになります。……

……『おお、もしわたしがジョセフ兄弟だったら、こうするのに』
 と言って、賢い男女がこれまで何度ジョセフ兄弟に指図しようとして
 きたことでしょうか。しかし、もしジョセフ兄弟の立場にいたとしたら、
 神の王国に入るよう人々に強いることはできないということを彼らは
 理解できたことでしょうか。むしろ寛容をもって接しなければならない
 のであって、そうすれば最終的に彼らを救うことになります。すべての
 聖徒を一致させて、御業を常に前進させる方法は、神がそのような
 人々に公正な罰を科されるまで、寛容の限りを尽くして待つことなの
 です。罪を許してはなりません。しかし、叱責と憐れみは一緒に歩ま
 なければならないのです。』¹³

簡単な奉仕と親切によって慈愛を示す

「わたしは皆さんの僕であり、聖霊の導きがあって初めて皆さんの
 役に立つ行いをすることができます。……わたしたちはただ皆さんの
 至らない僕として皆さんの前に出て、喜んで、力の限り皆さんに仕え
 たいと思っています。』¹⁴

エドウィン・ホールデンは次のように回想している。「1838年のこ
 とでした。ジョセフと数名の青年たちが、屋外で様々なゲーム、特に
 球技をしていました。やがて皆が飽きてきたことに気づいたジョセフ
 は彼らと呼び集めて言いました。『丸太小屋を造ろう。』そしてジョセ
 フと青年たちは、夫を亡くしたある女性のために丸太小屋を建て始め
 たのでした。これがジョセフのやり方で、いつでも人を助けるために
 できることを何でも行っていました。』¹⁵

預言者ジョセフ・スミスの母ルーシー・マック・スミスは、後にノ
 ープーと呼ばれたイリノイ州コマースに聖徒たちが入植を始めたころ
 のことについて、次のように述べている。「時がたつにつれて、この
 地に定住していた兄弟たちに苦難が影を落とし始めました。体に悪い
 気候も加わって、マラリア熱やその合併症の胆汁熱が人々を襲いまし
 た。全員が病に冒された家族もあり、そのような家族には、だれかに
 冷たい水を飲ませてあげられる人も、自分で飲める人もいないほどで
 した。ハイラムの家族もほとんどが発病していました。わたしの末の
 娘のルーシーも重症でした。実際のところ、ここの住民の中で健康な
 者はほんのわずかしかなかった。』

ジョセフとエマは病人を家に連れて来て、そこで世話をしていまし



「そしてジョセフと青年たちは、夫を亡くしたある女性のために丸太小屋を建て始めたのでした。これがジョセフのやり方で、いつでも人を助けるためにできることを何でも行っていました。」

た。だれかが発病するとすぐに運び込まれたため、やがて4部屋ある彼らの家は病人でいっぱいになりました。このため、家族の中でまだ自分で歩ける者たちを収容する場所として、庭にテントをはらなければなりません。この苦悩の時期を通じて、ジョセフとエマは全時間をささげ細心の注意を払って病人を世話しました。』¹⁶

預言者のいとこであるジョン・L・スミスは、同じ時期にあった次のような出来事を回想している。「預言者ジョセフといとこのハイラム（ジョセフの兄）が訪れてくれました。わたしたちは母を除いて皆、高熱と悪寒に苦しんでおり、父はほとんど一日中意識が混濁していました。ジョセフはわたしたちの極貧の状態を見ると、自分の靴を脱ぎ、父の足に履かせてくれました。はだだだったからです。そして自分は何も履かずに帰って行きました。ジョセフは父を自分の家に呼び寄せて父の命を救い、また、生活に役立つものをたくさん提供してくれました。おかげでわたしたちは回復しました。』¹⁷

エリザベス・アン・ホイットニーは次のように回想している。

「1840年の早春、わたしたちはコマースに行きました。ノーブーの北部地域は引き続きそう呼ばれていたのです。そしてハイラム・キンボールが所有する家を借りました。……この地で、家族全員がマラリアにかかり、悪寒と高熱に襲われ、かろうじて這^はって移動し、互いに世話をし合うのがやっとでした。この苦境のさなかに、9番目の子が生まれました。わたしたちのもとを訪れたジョセフは、わたしたちの状況が変わったのを見て取り、すぐに自分のところに来て一緒に暮らすように勧めてくれました。現在堪え忍んでいる気候と水と窮乏にこれ以上耐えられないと感じたわたしたちは、お言葉に甘えて、預言者ジョセフの庭に建てられた小屋に住むことにしました。間もなくわたしたちは健康を回復し、子供たちはいつもどおりの様子に戻りました。夫はジョセフが建てた店で働きました。そこには人々が実際に必要としていた品々がそろっていました。

ある日、家から庭に出たときのことです。ジョセフ・スミスがカートランドでわたしたちの家に住んでいたときにわたしに預言したことを、電気ショックを受けたように突然思い出しました。その預言とは、ジョセフに家がなかったときにわたしたちがジョセフとその家族に住まいを提供したのですが、そのときと同じように、将来わたしたちもジョセフの家に迎え入れられることになるだろう、というものでした。』¹⁸

モザイア・L・ハンコックは、若いころにノーブーで経験した次のような出来事を報告している。「この夏〔1841年〕、初めて預言者と一緒に野球をしました。順番にボールを打ったり追いかけたりしました。ゲームが終わると、預言者が言いました。『兄弟たち、馬を荷車につないでください。』わたしたちはそのようにして、皆で森に向かいました。わたしは前の支え棒に立って1頭立ての荷馬車を走らせ、ジョセフ兄弟と父は後ろの支え棒の上に乗りました〔支え棒は荷馬車の一部である〕。馬車は全部で39台あり、わたしたちは荷車がいっぱいになるまで木を集めました。荷車がいっぱいになると、ジョセフ兄弟が棒引きをしようと言いました。そしてジョセフ兄弟は、対戦に応じた相手をすべて、一人ずつ負かしていきました。

その後、預言者は助けを必要としている人々のところに荷馬車を遣わしました。また、必要とする聖徒たちには木を切ってあげるように指示しました。皆、喜んで預言者の言うとおりにしました。わたしたち自身も病気がちで、周りでたくさんの方が亡くなっていましたが、それでもほほえんで、皆を元気づけようとしました。』¹⁹



イリノイ州コマースで病気が蔓延まんえんしていたとき、ジョセフ・スミスとエマ・スミスは病人を家に連れて来て、そこで世話をした

1842年1月5日、預言者は後に管理ビショップとして働いたエドワード・ハンターにあてた手紙の中で次のように書いている。「〔赤れんが造りの店の〕品ぞろえはかなり充実しています。ある程度選択の範囲が限られた状況において、様々な人々が様々なときに様々な商品を買って行ったことを考えれば、とても充実しています。そのようにできていることをうれしく思います。多くの貧しい兄弟姉妹が、快適な暮らしに役立つ品々を手に入れられることを喜んでいることでしょう。

店は人であふれるばかりに混雑しており、わたしは一日中カウンターの後ろに立ち、あなたが見てきたどんな店員にも負けないくらい忙しく商品を買ってきました。少しの砂糖や糖蜜、レーズンなどがないために、いつものクリスマスや新年の食事をあきらめざるを得なかった人々の願いをかなえるためであり、また自分自身も喜びを得るためです。主がふさわしいと思われるときに高く上げてくださることを願いつつ、聖徒たちに仕え、すべての人の僕となることが、わたしはとても好きだからです。』²⁰

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 423-425ページと429-432ページの物語を読みながら、預言者ジョセフ・スミスに対する自分の気持ちについて考えてください。これらの物語はジョセフについてどのようなことを教えているのでしょうか。ジョセフの行いは周りの人にどのような影響を及ぼしたと思いますか。あなたは人生の中でこれまでどのような形で人の優しさに触れてきましたか。
- 426ページの最初の3段落を読んでください。神の愛で満たされている人はなぜ全人類に祝福を与えたいと思うのでしょうか。わたしたちの愛のこもった親切な行いは、すべての人に祝福をもたらすうえでどのように役立つのでしょうか。
- 助けを必要としている人々を心にかけることに関して、わたしたちにはどのような責任があるのでしょうか（例として、426-427ページ参照）。これらの責任は人々の物質的な必要にどのように関連しているのでしょうか。人々の霊的な必要にどのように関連しているのでしょうか。助けを必要としている人々を心にかけている人の例として、どのような出来事を目にしてきましたか。
- 427ページの下から始まる段落を読んでください。ほかの人々の徳をより正しく認められるようになるために、どのようなことができるのでしょうか。「独善に気をつけ、自分自身の徳については控えめに評価」すべきなのはなぜだと思いますか。
- 預言者ジョセフは、「世の中に愛情が薄れ」ていることを心配しています（428ページ）。その一方で、わたしたちは「互いに対して心を広げ」るべきであり、「人々に対して広い心を持」たなければならないと述べています（427-428ページ）。互いに対して心を広げるとはどういう意味だと思いますか。
- 428ページの第5段落を読んでください。家族と交わるとき、この教えをどのように応用することができるのでしょうか。

関連聖句——1コリント13：1-13；モーサヤ4：14-16，26-27；エテル12：33-34；モロナイ7：45-48；教義と聖約121：45-46

注

1. ジェームズ・リーチ “Recollections of the Prophet Joseph Smith.” *Juvenile Instructor*, 1892年3月1日付, 152-153。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正、段落は変更
2. *History of the Church*, 第4巻, 227。1840年12月15日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが十二使徒にあてて書いた手紙から。 *Times and Seasons*, 1841年1月1日付, 258に掲載。 *History of the Church*では、この手紙は誤って1840年10月19日付とされている
3. ルーシー・メザープ・スミス “Recollections of the Prophet Joseph Smith.” *Juvenile Instructor*, 1892年8月1日付, 471
4. *History of the Church*, 第3巻, 383。1839年7月2日, アイオワ州モントローズでジョセフ・スミスが書いた日記から
5. *History of the Church*, 第2巻, 229, 脚注。“To the Saints Scattered Abroad.” *Messenger and Advocate*, 1835年6月号, 137から
6. リチャード・サバリーの手紙に対する編集者の返答。 *Times and Seasons*, 1842年3月15日付, 732。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
7. *History of the Church*, 第4巻, 608。1842年5月1日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
8. “To the Saints of God.” *Times and Seasons*, 1842年10月15日付, 952に掲載された論説。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
9. *History of the Church*, 第3巻, 299。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。1839年3月20日, ミズーリ州リパティー, リパティーの監獄でジョセフ・スミスとそのほかの人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から
10. *History of the Church*, 第4巻, 606-607。原文（英語）においては、段落は変更。1842年4月28日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
11. *History of the Church*, 第6巻, 219。原文（英語）においては、段落は変更。1844年2月17日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスの指示の下に書かれた記事 “Pacific Innuendo” から。 *Times and Seasons*, 1844年2月15日付, 443に掲載。同日付の *Times and Seasons* は遅れて発行された
12. *History of the Church*, 第5巻, 517。1843年7月23日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
13. *History of the Church*, 第5巻, 24。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正、段落は変更。1842年6月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
14. *History of the Church*, 第5巻, 355。原文（英語）においては、段落は変更。1843年4月13日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
15. エドウィン・ホールデン “Recollections of the Prophet Joseph Smith.” *Juvenile Instructor*, 1892年3月1日付, 153。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正
16. ルーシー・マック・スミス “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book 17, 7, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
17. ジョン・ライマン・スミス, *Autobiography and Diaries*, 1846-1895年, 写真複写, 第1巻, 1839年9月の記録, 教会記録保管課
18. エリザベス・アン・ホイットニー “A Leaf from an Autobiography.” *Woman’s Exponent*, 1878年11月15日付, 91
19. モザイア・ライマン・ハンコック, *Autobiography*, タイプ原稿, 22, 教会記録保管課
20. *History of the Church*, 第4巻, 492。1842年1月5日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがエドワード・ハンターにあてて書いた手紙から



ウェントワース書簡

ウェントワース書簡は、預言者ジョセフ・スミスが「末日聖徒の起こりと発展、迫害、信仰」について記したもので、その中には信仰箇条として知られる声明も含まれている。

ジョセフ・スミスの生涯から

ジョセフ・スミスは教会の大管長であることに加えて、ノーブーでほかにも様々な責務を負っていた。1842年5月、ジョセフはノーブーの市長となり、それはノーブー地域裁判所の裁判長を務めることも意味していた。またジョセフは中将であり、ノーブー部隊の司令官であった。そして1842年2月、ジョセフは月に2回発行されていた教会機関紙『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons)の編集者の責任を引き受けた。『タイムズ・アンド・シーズンズ』は、教会の指導者が聖徒たちにメッセージを伝え、啓示や重要な説教を発表し、教会のニュースを紹介する手段となった。預言者の指示の下で発行に関する様々な事柄を担当するため、十二使徒定員会会員のジョン・テラーが任命された。

編集者になってから最初に発行された同紙の中で、預言者はこう記している。「[この定期刊行物には]わたしたちの周りで日々起きている重要な出来事、真理の急速な進展、この国やイギリス、ヨーロッパ大陸ほか世界の様々な地域にいる長老たちから日々届く数々の連絡、もろもろの国民の中に見られる騒動、十二使徒の手紙や教え、そして、いと高き御方から受ける啓示 [についての記事を掲載していくつもりである。]」¹

預言者が編集者を務めていた期間に、『タイムズ・アンド・シーズンズ』には数々の非常に重要な文書が掲載された。1842年3月には、アブラハム書の文書と二つの模写が掲載されており、5月には第3の模写が掲載されている。また3月に、預言者は後に『教会歴史』(History of the Church)となる「ジョセフ・スミスの歴史」(“History of



「ジョン・ウェントワース氏の要請により、わたしは自分が神の下で創設者となる栄誉を受けている末日聖徒の起こりと発展、迫害、信仰について、以下の概要を書き記しました。」

Joseph Smith”) の掲載を開始している。

1842年3月1日付けで発行された『タイムズ・アンド・シーズズ』に、預言者は現在ウェントワース書簡として知られている文書を掲載した。この文書を執筆したいきさつを、預言者は次のように説明している。『『シカゴ・デモクラット』(Chicago Democrat) の編集者であり経営者であるジョン・ウェントワース氏の要請により、わたしは自分が神の下で創設者となる榮譽を受けている末日聖徒の起こりと発展、迫害、信仰について、以下の概要を書き記しました。ウェントワース氏は、ニューハンプシャー州の歴史を執筆している友人の〔ジョージ〕バーストウ氏にこの文書を提供したいとのことです。バーストウ氏は正確な情報を得るために適切な手段を講じており、わたしがバーストウ氏の手を求めるのは、この内容のすべてを、飾ることなく、また偽ることなく公表することだけです。』²

結局、ジョージ・バーストウはその歴史書において1819年までの出来事だけを採り上げることにしたため、預言者の記述が掲載されることはなかった。³ しかし、ウェントワース書簡は末日聖徒にとって計り知れない価値を持つ文書である。この書簡は、ジョセフ・スミスが神から受けた聖なる召し、示現、および務めと教えについて証する、ジョセフが記したままの記録である。そこには教会の起こりと成長、聖徒たちが受けた迫害が詳しく記されている。また、大いなるエホバの手による守りの下で、教会が将来地上において収める成功についての預言の言葉も含まれている。さらに、金版についての描写やモルモン書の概略など、預言者のほかの教えには見ることのできない重要な内容も含まれている。そして意義深いことに、ジョセフ・スミス自身が最初の示現の話を発表したのはこれが初めてであった。

結びでは、教会の教義について13の宣言がなされており、それは現在信仰箇条と呼ばれている。このウェントワース書簡は、預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しについての力強い証である。

ジョセフ・スミスの教え

ジョセフ・スミスの祈りにこたえて、父なる神とイエス・キリストがジョセフに御自身を現された

「わたしは1805年12月23日、バーモント州ウィンザー郡シャロンの町で生まれました。〔わたしが〕10歳のとき、両親はニューヨーク州

パルマイラに移り、その地にわたしたちは4年ほど住み、それからマンチェスターの町に移りました。父は農夫で、わたしに農業の方法を教えてくださいました。14歳のころ、わたしは将来に備えることの大切さについて深く考えるようになりました。そこで救いの計画〔について〕調べてみたところ、宗教上の見解から大きな衝突が起きていることを知りました。ある教派のもとに行けばある計画を教えられ、別の教派のもとに行けば別の計画を教えられ、それぞれが完成に至るための最高善として独自の信条を挙げるのでした。すべてが正しいはずはなく、神がこのような大きな混乱を引き起こされるはずもないと考え、わたしはこの件についてもっと十分に調べることにしました。もし神が教会をお持ちなら、それが様々な教派に分かれることはなく、もし神がある教派に一つの方法で礼拝し一連の儀式を執行する^{しつこう}ように教えられたのなら、別の教派に正反対の原則を教えられることはないと感じていたのでした。

神の言葉を信じていたわたしは、ヤコブの次の宣言に対して確信を持っていました。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』〔ヤコブの手紙1：5〕そこでわたしは人目を避けて森の中の隠れた場所に行き、主に呼び求め始めました。熱烈に懇願していると、わたしの思いは自分の周囲にあるものから離れ、わたしは天の示現に包まれて、栄光に満ちた二人の御方を見ました。御二方は姿形がまったくよく似ていて、真昼の太陽にも増して輝く光に取り囲まれておられました。御二方はわたしに、すべての教派は誤った教義を信じており、神が御自分の教会と王国として認めているものはないと告げられました。そしてわたしは『それらのどれをも追い求めないように』はっきり命じられ、また同時に、将来いつか完全な福音がわたしに知らされるという約束を受けました。

モルモン書は、昔、金版に書き記された記録であり、神から遣わされた使者によってジョセフ・スミスに渡された

1823年9月21日の夜、わたしは神に祈り、聖文の貴い約束を信じる信仰を働かせようと努めていました。すると、突然室内に光が差し込みました。それは昼の光のようでしたが、その現れと輝きははるかに清らかで、栄光に満ちていました。実に、最初はあたかも家が焼き尽

くす火に満たされているかのように見えました。その現れは、全身にある種の衝撃をもたらしました。そして瞬時に、すでにわたしを包んでいた栄光よりもさらに大なる栄光に包まれた一人の御方がわたしの前に立たれました。この使者は、自分は神の天使であり、喜びに満ちたおとずれを伝えるために遣わされたと言われました。その喜びに満ちたおとずれとはすなわち、神が昔のイスラエルの民に交わされた聖約が間もなく成就すること、メシヤの再臨に備える業が速やかに始まること、そして福千年の統治に向けて民が備えられるように、完全な福音がすべての国民に力をもって宣べ伝えられる時が近づいているということです。そしてわたしは、この栄えある神権時代において神の目的の一部を実現するために、神の手に使われる者として自分が選ばれていることを告げられました。

また、わたしはこの国の先住民について告げられ、彼らがだれであり、どこからやって来たのかを教えられました。彼らの起源、発展、文明、法律、政体について、彼らの義と罪悪について、そして一つの民としての彼らから最終的に神の祝福が取り去られてしまったことについて簡単に知らされました。また、この大陸に住んでいた昔の預言者たちの記録を短くまとめたものが刻まれている幾つかの版が隠されている場所も告げられました。その天使はその夜3度現れ、同じ事柄を明らかにされました。それからわたしは神の天使たちの訪れを幾度も受け、終わりの時に起こる尊厳と栄光に満ちた出来事を明らかにされた後、1827年9月22日の朝、主の天使から記録を渡されました。

これらの記録は、金のように見える版に刻まれていました。また版はそれぞれ横6インチ〔約15センチ〕、縦8インチ〔約20センチ〕で、普通のブリキほどの厚みまではありませんでした。版にはエジプトの文字がいっばいに刻んであり、全体に3つの輪が通されていて、本のページのように1冊にとじられていました。全体で厚さは6インチ〔約15センチ〕近くあり、一部が封じられていました。封じられていない部分の文字は小さく、きれいに刻まれていました。また全体にわたって、その作りの古さを示す多くのしるしが見られ、彫刻の技術は見事でした。また記録とともに、昔の人々が『ウリムとトンミム』と呼んだ珍しい道具も見つけました。それは胸当てに付いている、弓形のもの端にはめられた二つの透明な石から成っていました。わたしはウリムとトンミムを介して、神の賜物と力によって記録を翻訳しました。

……この書物は……救い主が復活後にこのアメリカ大陸に御自身を



「1827年9月22日の朝、主の天使から記録を渡されました。」

現されたこと、またこの地に完全な福音を、そのあらゆる豊かさと力と祝福とともに確立されたことを、わたしたちに告げています。また、この地に使徒、預言者、牧者、教師、祝福師がいて、東の大陸の民に与えられていたのと同じ秩序、同じ神権、同じ儀式、賜物、力、祝福をこの地の民が授けられていたこと、そして民が自分たちの背きのゆえに絶たれたことを告げています。さらに、民の中にいた最後の預言者が、彼らの預言や歴史などを短くまとめたものを書き記して地中に隠すように命じられたこと、そして神の目的を成し遂げるために、それが終わりの時に出て来て聖書と一つになることを告げています。詳細については、モルモン書を参照してください。モルモン書はノーブーにおいて、または巡回長老から購入することができます。

この発見のニュースが知れ渡るやいなや、虚報や誤報、中傷が、風の翼に乗ったように四方に運ばれて行きました。暴徒や腹黒い人々によって、家が度々襲撃されました。わたしは幾度か銃撃されましたが、かろうじて逃れました。版をわたしから奪い取るために、あらゆる策略が用いられました。しかし神の力と祝福がわたしとともにあり、何人かがわたしの証^{あかし}を信じるようになりました。

教会に対する迫害は威を振るうかもしれないが、何ものも真理の進展を止めることはできない

1830年4月6日、ニューヨーク州セネカ郡フェイエットの町で、『末日聖徒イエス・キリスト教会』が初めて組織されました。啓示と預言の霊によって数名が召され、聖任されて、御霊^{みたま}から語るべき言葉を与えられるままに教えを説き始めました。彼らは弱い者であったにもかかわらず、神の力によって強くされました。そして多くの人が悔い改めに導かれ、水中に沈められ、按手^{あんしゅ}によって聖霊に満たされました。彼らは示現を見、預言をし、悪霊が追い出され、病人は按手によって癒^{いや}されました。そのときから、業は驚くほど急速に前進し、程なくニューヨーク州、ペンシルベニア州、オハイオ州、インディアナ州、イリノイ州、ミズーリ州で教会が組織されました。ミズーリ州では、ジャクソン郡にかなりの規模の入植地が築かれました。多くの人が教会に加わり、わたしたちは急速に増えていきました。広大な土地を購入し、農地は豊かな収穫をもたらし、家庭内や近隣の至る所に平和と幸福がありました。しかし、隣人たち（彼らの多くは最も卑しい人々であり、司直^{しちよく}の手を逃れるために文明社会を逃げ出して辺境の地へ来て

いました)と一緒に真夜中に浮かれ騒ぎ、安息日を破り、競馬やとばくに興じることはできませんでした。初めのうち、彼らはあざける程度でしたが、次第に迫害するようになり、ついには暴徒を組織してわたしたちの家を焼き、多くの同胞にタールを塗って羽根を付け、鞭で打ちました。そしてついに、法律と正義と人道に反して、聖徒たちをその住まいから追い出したのです。聖徒たちは家も住む所もなく、荒涼とした大平原をさまよわなければならず、子供たちは大平原に自分の血で足跡を残すほどでした。それは11月のことでした。天候の厳しい季節に、彼らを覆うものは大空のほかにも何もありませんでした。政府はこの成り行きに目をつぶっていたため、わたしたちはいかなる法律にも違反せず、また自分たちの土地の所有権利書を持っていたにもかかわらず、何の補償も受けることができませんでした。

大勢の病人がこのように残酷な仕打ちを受けて家を追われ、このあらゆる虐待を堪え忍び、住む所を探し求めなければなりません。その結果、非常に多くの人が安らかな暮らしを奪われ、必要な世話を受けることもできずに死んでいきました。多くの子供が孤児となり、多くの人が夫や妻を亡くしました。農地は暴徒に占領され、何千頭もの牛や羊、馬、豚が奪われ、家財道具や店の商品、印刷機や活字が壊され、奪われ、さもなければ台なしにされました。

聖徒たちの多くはクレイ郡に移り、1836年まで3年間にわたってその地に住みました。暴力を受けることはありませんでしたが、脅しを受けることはありました。そして1836年の夏、そうした脅しの言葉は、さらに深刻な形を取り始めました。市民集会が招集され、決議が採択され、いっそうの報復と破壊の脅威にさらされることとなり、事態は再び険悪な様相を帯びてきました。ジャクソン郡の当局が干渉しなかったという前例があるため、彼ら〔クレイ郡の当局〕は、自分たちはこの件に干渉しないつもりであると豪語しました。当局に訴えたわたしたちは、彼らの態度がまさにそのとおりであることを知ることになり、多くの財産を破壊され、失った後、再び家を追われました。

次にわたしたちはコールドウェル郡とデイビーズ郡に落ち着き、大きな入植地を幾つも築きました。住民がごく少数しかいない新しい郡に定住することによって、抑圧から逃れようと考えたのです。しかし平和に暮らすことを許してはもらえませんでした。1838年、わたしたちは再び暴徒の攻撃を受け、ボグズ知事によって撲滅令が発せられました。そして法律の後ろ盾を得て、組織化された無法者が地方全体

をうろつき回って、牛や羊、豚などを奪いました。民の多くが冷酷に殺害され、女性たちの貞節が奪われ、わたしたちは剣を突きつけられて、財産を放棄する署名をするように強いられました。残酷で神を敬わない略奪者たちから加えられるありとあらゆる侮辱を堪え忍んだ後、1万2,000人から1万5,000人の男女子供が、自分たちの家庭から、そして所有権利書を持つ土地から追われ、(厳冬の下で)家も友も住む所もないまま、流浪の民として地をさまよいました。そのように野蛮ではない人々が住む、より友好的な地方へ避難することを余儀なくされたのです。耐える以外に方法がなかった寒さと苦難のために、多くの者が病気になり、命を落としました。多くの妻がやもめとなり、多くの子供が孤児となり、極貧の状態に取り残されました。ミズーリ州の野蛮で残酷な不法行為によって引き起こされてきた不当な行為や扱い、殺害、流血、盗み、惨めな状態や災いは、ここで与えられている時間ではお伝えすることができません。

先に説明したような状況の中で、わたしたちは1839年にイリノイ州にたどり着き、温かく迎えてくれる人々と心地よい住まいを見い出しました。彼らは進んで法律と人道の原則に従う人々でした。わたしたちはハンコック郡で、『ノーブー』と呼ばれる町の建設に着手しています。この町には6,000から8,000の人々がおり、そのほかにも大勢が、郡内の周辺地域や、州内のほとんどすべての郡に住んでいます。わたしたちは市の憲章を持つことを認められており、軍隊の設立も認可されていて、現在では1,500名を数える部隊となっています。また、大学や、農業および製造業組合の設立も認められており、独自の法律を持ち、行政官がいて、ほかの自由で見識ある市民が享受しているあらゆる特権を与えられています。

迫害は真理の発展を止めることなく、ただ拍車をかけるだけとなって、真理はますます急速に広まっています。中傷と非難のただ中であって、この教会の長老たちは自らが支える大義に誇りを持ち、またわたしたちに罪がなく、自分たちの宗教は真理であるとの自覚を持って出て行き、合衆国のほとんどすべての州で福音を確立してきました。福音は町々を貫き、村々に広まり、それによって何千人もの聡明で、高潔で、愛国心に富んだ市民が、神の命令に従い、その神聖な真理によって統治されています。また、福音はイングランドやアイルランド、スコットランド、ウェールズにも広まっており、1840年には何人かの宣教師が同地に遣わされ、5,000人以上が真理の旗に加わりました。今

ではあらゆる地で多くの人々が加わっています。

わたしたちの宣教師は様々な国民のもとに出て行っており、ドイツやパレスチナ、ニューホランド〔オーストラリア〕、東インド、およびそのほかの場所で、真理の旗が掲げられています。いかなる汚れた者の手も、この業の発展を止めることはできません。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれません。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と進み行き、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達して、神の目的は成し遂げられるでしょう。こうして、大いなるエホバは、業は成ったと告げられることでしょう。

信仰箇条は、わたしたちの宗教の基本的な教義と原則を述べている

わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じます。

わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じます。

わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じます。

わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、(1) 主イエス・キリストを信じる信仰、(2) 悔い改め、(3) 罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、(4) 聖霊の賜物を授けるための按手であることを信じます。

わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならないと信じます。

わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じます。

わたしたちは、異言、預言、啓示、示現、癒し、異言の解釈などの賜物があることを信じます。

わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、聖書は神の言葉であると信じます。また、モルモン書も神の言葉であると信じます。

わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じます。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じます。

わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを

信じます。また、シオンがこの〔アメリカ〕大陸に築かれること、キリストが自ら地上を統治されること、そして地球は更新されて楽園の栄光を受けることを信じます。

わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認めます。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げません。

わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じます。

わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じます。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよいでしょう。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望みます。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいます。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものです。〔信仰箇条1：1-13参照〕

敬具

ジョセフ・スミス⁴

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスは、ジョン・ウェントワースとジョージ・バーストウの要請に応じてウェントワース書簡を書きました(437ページ)。これまでどのようなときに、教会の歴史や信条について尋ねられたことがありますか。本章を研究しながら、または内容について話し合いながら、将来そのような質問を受けたときにどう答えるかを考えてください。そのような質問への答え方について、ウェントワース書簡に見られるジョセフ・スミスの言葉からどのようなことが学べるでしょうか。
- 最初の示現について預言者が述べていることを読んでください(437-438ページ)。最初の示現について次にだれかに話すとき、最

初の示現やそれがあなたにとって持つ意味をどうすれば理解してもらえるでしょうか。

- モルモン書の出現について、預言者の説明を読んでください（439-441ページ）。モルモン書はあなたの人生にどのような影響を及ぼしてきましたか。わたしたちはどのような方法でモルモン書についての証^{あかし}を分かち合うことができるでしょうか。
- 441-444ページで、ジョセフ・スミスは教会の起源についてその歴史を簡単に説明し、次に教会の行く末について証しています。444ページの第1段落を研究するとき、どのようなことを感じますか。迫害によって教会の発展を止められないのはなぜだと思えますか。反対を受けたにもかかわらず前進を遂げた人々として、どのような例を挙げることができるでしょうか（聖典や教会歴史、自分の人生から例を挙げて、考えてください）。
- 信仰箇条を読んでください（444-445ページ）。信仰箇条はこれまであなたにとってどのような助けとなってきましたか。初等協会の子供たちが信仰箇条を暗記するように求められているのはなぜだと思えますか。信仰箇条を研究または暗記する時間を作ることを検討してください。

関連聖句——ジョセフ・スミス—歴史1：1-75

注

1. “To Subscribers” *Times and Seasons*, 1842年2月15日付, 696に掲載された論説。原文（英語）においては、大文字は現代の用法に修正。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
2. *History of the Church*, 第4巻, 535-536。イリノイ州ノーブーで、ジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 706に掲載。*History of the Church*および *Times and Seasons* では、バーストウ氏の姓が“Bastow”と誤ってつづられている
3. 書簡がジョン・ウェントワースやジョージ・バーストウによって公表されることはなかったが、同じ記述にいくらか加筆、修正されたものが、1844年に米国で出版されたI・ダニエル・ラップの“Latter Day Saints,” *He Pasa Ekklesia [The Whole Church]: An Original History of the Religious Denominations at Present Existing in the United States*, 404-410に掲載された
4. *History of the Church*, 第4巻, 536-541。原文（英語）においては、438ページの第1段落にある角括弧の言葉“about”（「について」）は当時の表記のまま、445ページの第8段落にある角括弧の部分は当時の表記のまま、つづりおよび句読点は現代の用法に修正。イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがジョン・ウェントワースとジョージ・バーストウの要請で書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1842年3月1日付, 706-710に掲載。預言者ジョセフ・スミスは、最初の示現について何度かの異なる機会に詳しく書き記したり、語ったりしており、ウェントワース書簡の中の記述はその一つである。公式の聖文としての記述は、高価な真珠の「ジョセフ・スミス—歴史」に掲載されている。また、高価な真珠の1981年版（英語版）に掲載するための準備として、信仰箇条に小さな変更が数多く加えられ

た。そのため、原文（英語）においては、現在の信仰箇条と本章に掲載されている文との間には、わずかな相違が数多く存在する



1842年3月17日、預言者ジョセフ・スミスはノープラー女性扶助協会を組織した。「女性たちがこのように組織されるまでは、教会は決して完全に組織されていませんでした」と預言者は宣言している。



扶助協会—— 神から与えられた女性の組織

「もし皆さんが与えられている特権にふさわしく生きるなら、
天使は皆さんの友とならずにいられないでしょう。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1842年の春、ノーブーの教会員はノーブー神殿の建設に忙しく従事していた。そのような会員の中に、サラ・グレインジャー・キンボールと、サラが裁縫師として雇ったマーガレット・A・クックがいた。ある日、二人は話し合い、神殿の建設作業に携わる人々を助けるために協力することにした。キンボール姉妹は自分が布地を用意し、クック姉妹に作業用のシャツを縫ってもらうことを提案した。そしてほかの姉妹たちにも参加を呼びかけ、慈善活動を進めるための女性の会を結成することにした。サラ・グレインジャー・キンボールは次のように回想している。「近所の姉妹たちが我が家の応接間に集まり、組織を作ることを決めました。エライザ・R・スノー姉妹を訪ね、規約と付則を書き上げてもらい、それを翌週木曜日の集会に先立って預言者ジョセフ・スミスに提出する係をわたしが担当することになりました。」

規約と付則の草案に目を通した預言者は、これほどすばらしいものは見たことがないと述べたが、続けて次のように語った。『「これは皆さんが望んでいるものではありません。姉妹たちに伝えてください。皆さんのささげ物は主に受け入れられており、主は皆さんに、記された規約以上に良いものを備えておられます。来週の木曜日の午後、わたしと数名の兄弟が出席して集会を開きますので、……全員集まってください。』¹

こうして、3月17日、預言者はジョン・テラー長老、ウィラード・リチャーズ長老とともに、赤れんが造りの店の2階の部屋で、様々な年齢層から成る20名の女性と集会を開いた。預言者はノーブー

女性扶助協会を正式に組織し、新しい組織の目的について出席者たちに教えた。姉妹たちはエマ・スミスを扶助協会会長に選び、エマによって2名の顧問が選ばれた。次に、預言者は12年前に与えられていた啓示を読み上げた。主が出版に向けて賛美歌を集める割り当てをエマに与え、エマを「選ばれた婦人」(教義と聖約25:3)と呼んでおられる啓示である。それからエマが立ち上がって話をした。エマはこの協会が持つ大きな可能性を次のように強調している。「わたしたちはすばらしいことを成し遂げるでしょう。……思いも及ばない出来事であいい、緊急を要する働きを求められるでしょう。」²

初代の中央扶助協会会長を務めたエマ・スミスは、人々に仕え、神の王国を築きたいという強い望みを常に抱いてきた。エマはかつて「わたしの手から何かを必要とするすべての人にとって祝福」³になりたいと宣言した。ニューヨーク州では、エマはレーマン人に福音を宣べ伝えるように召された4名の宣教師のために衣類を縫った。カートランドでは、ほかの女性たちと協力して、窮状きゆうじょうにあったミズーリ州の聖徒たちにシオンの陣営が届ける毛布や食糧、衣類を集めた。また、カートランド神殿の建設作業に携わる人々に食事を用意し、靴下やズボンや上着を作った。さらに、作業に携わった多くの人に宿を提供し、そのために自分とジョセフは床で眠らなければならなかった。ノーブーに移ってからしばらくは、自分の時間の大半をささげ、ミシシッピ川の岸辺に野営する大勢のマラリア患者の世話をした。こうしたことを行ったエマに代表されるように、当時多くの姉妹が奉仕を行っていた。ポリー・エンジェルによれば、女性たちが集まってカートランド神殿の内部を仕切るとばりを忙しく縫っているのを見て、預言者は次のように述べている。「姉妹の皆さん、……皆さんはいつも喜んで助けてくれます。姉妹たちはいつでも、先頭を切ってあらゆる善い行いをしています。」⁴

扶助協会の初期の時代から、教会の女性たちは絶えず善を推し進める大きな力となってきた。扶助協会を組織してから1週間後に開かれた集会で、預言者の母ルーシー・マック・スミスは姉妹たちに助言を与えており、その助言は、今日教会こんにちに属する何百万もの女性たちにも向けられている。「わたしたちは互いに慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。」⁵

ジョセフ・スミスの教え

神権の下に神権の規範に倣^{なら}って組織された扶助協会は、
教会にとって欠くことができない

サラ・グレインジャー・キンボールは、預言者ジョセフ・スミスが扶助協会を組織する直前に語った言葉を次のように回想している。「わたしは女性たちを神権の下に、神権の規範に倣って組織します。……女性たちがこのように組織されるまでは、教会は決して完全に組織されていませんでした。」⁶

1842年3月24日、預言者は次のように記録している。「今日、〔女性扶助協会の〕組織が完了しました。エマ・スミスが会長に就任し、エリザベス・アン・ホイットニーとサラ・M・クリーブランドが顧問になりました。エルビラ〔コールズ〕が会計係、そしてわたしたちのよく知る、才能あふれる詩人、エライザ・R・スノーが書記になりました。」⁷

エライザ・R・スノーは次のように報告している。「ジョセフ・スミス大管長は立ち上がると、女性扶助協会の組織について語りました。そして、この組織がいと高き御方のために受け入れられる方法で築き上げられるように、深い関心を寄せていると述べました。」⁸

エライザ・R・スノーはまた次のように報告している。「〔ジョセフ・スミス〕は姉妹たちに、神が御自分の民を導くために教会の長として置かれた忠実な人々のために……常に信仰と祈りを集中させ、彼らを信頼するように勧めました。またわたしたちは祈りをもって教会の長たちに力を与え、支えるべきこと、……もし教会の長を通じて与えられる全能者の勧告に耳を傾けるなら、扶助協会の人々は自分たちの中にいる女王たちに命じる力を持つことになる」と語りました。⁹

「扶助協会は、神が確立された秩序によって、すなわち指導者として任じられた人々を通して指示を受けます。わたしは今、神の名によって皆さんのために鍵^{かぎ}を回します。これから後、この扶助協会には喜びがあり、知識と英知が注がれるでしょう。扶助協会にとって明るい未来が今始まったのです。」¹⁰

**女性たちは扶助協会を通じて、助けの必要な人々に心に向け、
慈善を施すという女性本来の性質にかなった行いができるようになる**

「これは慈愛に満ちた組織であり、皆さんの備えている性質と一致しています。女性は生まれながらに慈愛と慈善の気持ちを抱いていま

す。皆さんは神が植え付けられた思いやりの精神に従って行動できる状況に置かれているのです。』¹¹

「『わたしが行くのを見たその業を、あなたがたも行いなさい』と、イエスは言われました〔2ニーファイ31：12参照〕。これこそ扶助協会の行動の基となる大いなる鍵の言葉です。』¹²

ウィラード・リチャーズは次のように報告している。「〔女性扶助協会の〕集会でジョセフ・スミス大管長が話をして、扶助協会の目的を説明しました。姉妹たちの協会は、貧しい人の必要に気を配り、慈愛を注ぐ対象を探し求め、必要なものを与えることによって、兄弟たちを善い行いへと駆り立てるでしょう。地域の人々の道徳を正し、徳を強めることによって、兄弟たちを助けるでしょう。』¹³

「わたしは要請を受けて女性扶助協会に出席しました。扶助協会の目的は、貧しい人、困窮している人、やもめや孤児を助けることであり、あらゆる慈善を行うことです。……扶助協会が発足した集会とその後の集会には、きわめて聡明で思いやりのある、博愛の精神を持った立派な婦人が大勢出席しました。その思いやりと博愛の精神から純粹な慈善の原則が自然に流れ出ていることを知っているわたしたちは、次のことを確信しています。すなわち、彼女たちは自分の持っている手段を用いて、急いで出て行って見知らぬ人を助けるでしょう。悲しむ人の傷ついた心に油とぶどう酒を注ぐでしょう。孤児の涙をぬぐい、やもめの心に喜びを与えるでしょう。

教会の女性たちは、常に慈善と優しさを行動に移すことで知られてきました。……容赦なく虐げられる人々によって無力な子供たちまでもがパンを奪い取られるという迫害のただ中であって、彼女たちはいつでも進んで疲れた旅人に扉を開き、自分たちのわずかな食糧を飢えている人と分け合い、略奪されてわずかしかない衣類を、さらに乏しく困窮している人と分け合ってきました。そして今、わたしたちはこれまでよりも友好的な地域で、そのように野蛮でない人々の中で暮らしており、これまで手にしたことのない数々の手段を得ています。ですから彼女たちが力を合わせることによって、苦しんでいる貧しい人、見知らぬ人、父のいない子供たちの状況が改善されるものと、わたしたちは確信しています。』¹⁴

扶助協会は、女性が聖きよさを実践し、互いに教え合うように励ます

「婦人たちの扶助協会は、貧しい人を助けるだけでなく、人を救う



「これは慈愛に満ちた組織で〔す〕。……皆さんは神が植え付けられた思いやりの精神に従って行動できる状況に置かれているのです。」

ために存在します。』¹⁵

「さて愛する姉妹の皆さん、……皆さんの役割を果たしてください。わたしたちも自分の役割を果たします。なぜならわたしたちは、主の口から出る一つ一つの言葉に従って生活し、すべてのことにおいて、直接天から与えられているとおりに、神の戒めを守りたいからです。神が皆さんの頭上に祝福を加え、あらゆる徳と清さと恵みの道に皆さんを導いてくださいますように。』¹⁶

「〔扶助〕協会はすばらしい働きをしてきました。その原則は、聖さを実践することです。神は皆さんを愛しておられます。皆さんがわたしのためにささげてくれる祈りには大いに力があります。ですからわたしのために絶えず神に祈ってください。』¹⁷

「皆さんは罪悪を抑え、模範によって、長老たちに優れた働きを促さなければなりません。』¹⁸

ウィラード・リチャーズは次のように報告している。「ジョセフ・スミス大管長は、教義と聖約の書からエマ・スミスへの啓示〔教義と聖約第25章〕を読み、エマが……すべての人に聖文を説き明かし、地域の女性たちを教えることになる」と述べました。またエマだけでなく、ほかの人々も同じ祝福を得るだろうと述べました。』¹⁹

エライザ・R・スノーは次のように報告している。「〔預言者ジョセフ・スミス〕はこの機会をとらえて、扶助協会の婦人たちに教えを与え、神の御心に従って行動する方法を明らかにしようとしました。……

もしこれらの原則に従って生活するなら、皆さんは日の栄えの王国においてどれほど偉大で栄光あふれる報いを受けることでしょうか。もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんの友とならずにはいられないでしょう。清くて罪のない女性は神のもとに行くことができます。罪のない状態以上に神に喜ばれるものがあるでしょうか。皆さんは罪のない者でなければならず、そうでなければ神の前に行くことはできません。もし神の前に行こうとするのであれば、神が清くあられるように、わたしたちも清くなければなりません。』²⁰

**扶助協会は、女性が救い主の模範に倣い、憐れみを示し、
争いを避けるよう奨励する**

「もし神から憐れみを受けたいなら、互いに憐れみを示し合ってください。……わたしたちは利己心の塊です。他人の過ちを糧にして生活していると、悪魔からおだて上げられて、自分が非常に義になれていると思込んでしまうことがあります。しかしわたしたちは、神を礼拝することによってのみ生きることができるのです。皆、自分で礼拝しなければならず、だれも人に代わって行うことはできません。救い主は何と優しくペテロを遇されたことでしょうか。主は言われました。『あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』〔ルカ22：32〕また別のときには、『わたしを愛するか』と尋ね、ペテロの返答を受けて言われました。『わたしの羊を養いなさい。』〔ヨハネ21：15-17〕姉妹たちは主を〔愛している〕なら、羊を滅ぼすのではなく、養ってください。……

扶助協会の姉妹の皆さん、皆さんの中に争いがあるといいでしょうか。わたしはそのようなことを許しておけません。悔い改めて、神の愛を得なければなりません。独善を取り除いてください。貧しい人を悔い改めに導く最善の手段すなわち原則は、彼らが必要としているものを与えることです。』²¹

エライザ・R・スノーは、預言者が次のように語ったことを報告している。「ふさわしさに欠ける人たちがわたしたちの中にいます。しかし徳高い人は尊大になってそれらの哀れむべき人たちを不必要に悲

しませたり、^{しいた}虐げたりしてはなりません。その人たちにも、今後は社会で最も善良な人々である扶助協会の人々から称賛を受けるような生活をするように勧めなければなりません。預言者はまた、扶助協会の会員に勧めたいことが二つあると言いました。それは舌に二倍の注意を払うことです。このことなしには、どんな組織も存在できません。……扶助協会の目的は、あまり善良でない人たちが改心して徳の道に戻り、善良な人の一人として数えられるようにすることです。……

……自らを省みてください。舌は制しにくい器官です。重要でない事柄については黙っててください。小さなうわさ話も世界中を火の海にします。』²²

「小ギツネはぶどう園を荒らします。——小さな悪事が教会にきわめて大きな害悪を及ぼすのです。もしあなたが悪い感情を持っていて、人々の間でそれを話し合うとしたら、争いに発展してしまう場合があります。』²³

「だれの人格も傷つけてはいけません。もし扶助協会の会員が不適切な振る舞いをしていれば、それらに対処してください。すべてをひそかに行って、すべての人の人格を敬ってください。』²⁴

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 450ページの最初にあるエマ・スミスの言葉を読んでください。扶助協会の姉妹たちがすばらしい事柄を成し遂げられるのはなぜだと思いますか。扶助協会の姉妹たちの働きを通じて、あなたやあなたの家族はどのような祝福を受けてきましたか。450ページの下にあるルーシー・マック・スミスの助言を読んでください。今日扶助協会の姉妹たちはこの助言にどのように従っているのでしょうか。
- 預言者ジョセフ・スミスは、扶助協会を「神権の下に神権の規範に倣って」組織しました（451ページ）。このことは、扶助協会と世界中のほかの奉仕団体との間にどのように一線を画しているのでしょうか（例として、451ページ参照）。ジョセフ・スミスが扶助協会を組織するまで、「教会は決して完全に組織されていなかった」のはなぜだと思いますか。

- 姉妹たちがジョセフ・スミスから受けた割り当てを、今日の扶助協会の姉妹たちが受けている責任と比較してください（例として、451-454ページ参照）。452ページの第1段落を読んでください。わたしたちがいつそ救い主に似た者となるために、奉仕の機会はどのように役立っているのでしょうか。
- 452ページの最後の段落を読んでください。人を救うとはどういう意味だと思いますか。扶助協会の会員は、物質的および霊的に、どのような方法でこの責任を果たしているのでしょうか。
- 452ページの第2段落、および453ページの第3段落を読んでください。扶助協会の姉妹たちは、神権者に優れた働きを促すためにどのようなことができるのでしょうか。神権者は、扶助協会の姉妹たちの働きを支えるためにどのようなことができるのでしょうか。
- 453ページの下から始まる段落を読んでください。この言葉から、それぞれの姉妹の責任と機会についてどのようなことが学べるでしょうか。
- 預言者は「他人の過ちを糧にして生活」することのないように警告しています（454ページ参照）。これはどういう意味だと思いますか。このような態度は、扶助協会の、あるいは定員会や教会のほかの集まりの働きをどのように妨げるのでしょうか。他人の過ちを糧にして生活するのでなく、主の羊を養うために、どのようなことができるのでしょうか。

関連聖句——箴言31：10-31；1コリント13：8；教義と聖約25：1-16；88：125

注

1. サラ・グレインジャー・キンボール “Auto-biography,” *Woman’s Exponent*, 1883年9月1日付, 51
2. エマ・スミス, Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 1842年3月17日付の記録, 12で引用, ウィラード・リチャーズによる報告, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
3. エマ・ヘイル・スミス, Blessing (1844年), タイプ原稿. 教会記録保管課
4. ボリー・エンジェルによる引用. エドワード・W・トゥリッジ, *The Women of Mormondom* (1877年), 76
5. ルーシー・マック・スミス, Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 1842年3月24日付の記録, 18-19で引用. エライザ・R・スノーによる報告, 教会記録保管課
6. サラ・グレインジャー・キンボール “Auto-biography,” *Woman’s Exponent*, 1883年9月1日付, 51で引用
7. *History of the Church*, 第4巻, 567. *Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 743に掲載された論説 “Ladies’ Relief Society” から. ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
8. *History of the Church*, 第4巻, 570. 1842年3月30日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から. エ

- ライザ・R・スノーによる報告
9. *History of the Church*, 第4巻, 604-605。原文（英語）においては、段落は変更。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 10. 1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告, Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 40, 教会記録保管課
 11. *History of the Church*, 第4巻, 605。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 12. *History of the Church*, 第5巻, 20。1842年5月26日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 13. 1842年3月17日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。ウィラード・リチャーズによる報告, Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 7, 教会記録保管課
 14. *History of the Church*, 第4巻, 567-568。 *Times and Seasons*, 1842年4月1日付, 743に掲載された論説“Ladies' Relief Society”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった
 15. *History of the Church*, 第5巻, 25。1842年6月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 16. 1842年, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスとそのほかの教会指導者がノーブー扶助協会にあてて書いた手紙。Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 88, 教会記録保管課
 17. *History of the Church*, 第5巻, 141。1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 18. *History of the Church*, 第4巻, 605。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 19. 1842年3月17日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。ウィラード・リチャーズによる報告。Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 8, 教会記録保管課
 20. *History of the Church*, 第4巻, 604-605。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 21. *History of the Church*, 第5巻, 24-25。原文（英語）においては、段落は変更。1842年6月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 22. *History of the Church*, 第5巻, 20。1842年5月26日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
 23. *History of the Church*, 第5巻, 140。1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
 24. 1842年3月17日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教。ウィラード・リチャーズによる報告。Relief Society, Minute Book 1842年3月-1844年3月, 10, 教会記録保管課



ハイラム・スミスは、弟のジョセフにとって常に力と支えの源であった。「ハイラム兄弟、あなたは何と忠実な心を持っていることでしょう」と、預言者は述べている。



忠実で正しい真の友を持つことは 何と喜ばしいことでしょう

「友情は『モルモン^の教え』の重要な基本原則の一つです。
……友情には幸せをもたらす力があり、それによって
人類家族を一つにしてくれます。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1842年8月、ミズーリ州から来た当局者たちは預言者ジョセフ・スミスの逮捕を繰り返し試みていた。預言者は、もし逮捕されてミズーリ州に連行されたら殺害されるであろうことを恐れて身を隠した。8月11日、預言者は数人の誠実な家族や友人に伝言を送り、ノーブーからさほど遠くない所にある、ミシシッピ川にある島で自分と会うように告げた。その夜、エマ・スミス、ハイラム・スミス、ニューエル・K・ホイットニー、そのほかの人々が川辺に集まり、小さなボートに乗り込むと、指定された待ち合わせ場所に向かった。預言者は喜びを表しながら、一人一人の手を取り、まことの友情から差し伸べられた助けと慰めなぐさに感謝した。後に預言者は家族や友人への感謝の思いを日記に細かく記しており、その一部は本章で採り上げられている。数週間後、預言者は聖徒たちにあてた手紙の結びとして、彼らに対する気持ちを次のように書いている。「いつものように、わたしはあなたがたの卑しい僕しもべであり、決して離れることのない友人です。」(教義と聖約128:25)

聖徒たちも預言者の気持ちにこたえ、ジョセフを自分たちの預言者であるだけでなく、友であると思っていた。ジョセフ・スミスの親しい友人であり秘書であったベンジャミン・F・ジョンソンは、次のように回想している。「預言者ジョセフ。友としての彼は、誠実で、寛容で、気高く誠実な人でした。……仲間としての彼は、社交面ですばらしい才能に恵まれた人でした。優しく、寛大で、笑うのが好きでした。……気晴らしに時々友人とレスリングに興じていました。それ以

上に好んだのが、相手と床に座って足を合わせ、棒を握って競う力比べでした。ただし好敵手に巡り合うことはありませんでした。冗談や判じ絵〔絵を使って語句を表現すること〕も好きで、対句で韻を踏んだりすることもよくありました。しかしそれよりも、自分の好きな歌を歌ってくれるようにリクエストすることの方が多くありました。……とても愛想がよく、時に愉快的な人でしたが、尊大になったり、行き過ぎた言動を取ったりすることは決してありませんでした。』¹

ジョセフ・スミスは、人付き合いが良く、優しい心の持ち主だった。ある青年はこう回想している。「それはジョセフの家での出来事でした。数人で柵に腰かけていると、家にいたジョセフが出て来て、わたしたちに話しかけました。程なくある人がやって来て、町から少し離れた所に住む貧しい兄弟が、前の晩に家を焼かれてしまったと告げました。だれもがその人への同情を口にしました。ジョセフはポケットに手を入れて、5ドルを取り出すと、こう言いました。『この兄弟を気の毒に思う気持ちを、わたしは5ドルで表します。皆さんはどのくらい気の毒に思っていますか。』』²

友に対して大きな愛を抱いていたゆえに、一部の友による裏切りはジョセフ・スミスにとって特に耐え難いものであったことだろう。ノーブーでは、信頼を寄せていた友人たちが預言者に背を向けた。しかし、多くの友は預言者の誠実さにこたえて、自分たちも最後まで彼に誠実だった。

そのような友の一人が、十二使徒定員会の会員であり、イリノイ州カーセージでジョセフとハイラム・スミス、ジョン・テラーとともに投獄された、ウィラード・リチャーズである。勾留こうりゅうされていたとき、兄弟たちは1階の監房から、より快適な2階の寝室に移るのを許された。その後、殉教する少し前に、寝室の隣にある鉄格子の付いた監房の方が安全だろうと看守が提案した。ジョセフは、医業を営んでいたために友人たちから「先生」と呼ばれていたリチャーズ長老に尋ねた。『もしわたしたちが監房に入るとしたら、一緒に行ってくれますか。』すると先生は言った。『ジョセフ兄弟、わたしはあなたに頼まれて一緒に川を渡ったのではありません。頼まれて一緒にカーセージに来たのでも、頼まれて一緒に監獄に入ったのでもありません。そのわたしが、今あなたを見捨てると思いますか。わたしがすることを申し上げます。もしあなたが反逆罪のために絞首刑を宣告されるなら、わたしが代わりに刑を受けましょう。そうすればあなたは釈放されま

す。』ジョセフは言った。『そんなことをしてはいけません。』しかし先生は言った。『わたしはそうします。』³

ジョセフ・スミスの教え

真の友は互いの悲しみを和らげ合い、逆境のときでも 誠実であり続ける

1842年8月11日、身を隠していた自分のもとを訪れてくれた家族や友人について、ジョセフ・スミスは次のように書いている。「清らかで聖なる友と会えるのは、何とすばらしく喜ばしいことでしょう。彼らは誠実で、正しく、真実であり、決して落胆することがありません。そのひびは健やかで、よろめくことがなく、主を待ち望みます。そして、敵の激しい怒りがわたしに注がれた日に必要なものを与えてくれました。……

11日火曜日の夜、セラヘムラとノーブーの間の沼地〔湿地〕の入口の島で、誠実で友情あふれる人々と会ったとき、何とうれしい気持ちを感じたことでしょう。その夜、愛するエマの手を取ったとき、言い尽くせない喜びと、歓喜で胸がいっぱいになりました。わたしの妻であり、実に若いころから連れ添い、最愛の人であるエマ。その時々にはわたしたちが経験するよう求められてきた数々の出来事、労苦と骨折、悲しみと苦しみ、そして喜びと慰めについて少し静かに考えたとき、様々な思いが込み上げてきました。それらはわたしたちの道の至る所に置かれて、わたしたちの祝福となってきました。おお、そのとき、様々な思いが混ざり合っ心にあふれ出てきたのです。そして再びエマがここにいるのです。……ひるむことなく、確固として、揺らぐことなく、変わることはない、愛するエマ。

次にわたしの手を取ったのは、優しい兄のハイラム兄弟でした。わたしは心の中で思いました。ハイラム兄弟、あなたは何と忠実な心を持っていることでしょう。おお、わたしを心にかけてきてくれたことへの報いとして、永遠のエホバが永遠の祝福を冠としてあなたの頭に授けてくださいますように。おお、わたしたちは何と多くの悲しみを共にしてきたことでしょう。そして再び、わたしたちは容赦なく虐げる者たちの手に落ちています。ハイラム、あなたの名は主の律法の書に記されるでしょう。後に来る人々が見て、あなたの行いに倣えるようにするためです。

わたしは心の中で言いました。ニューエル・K・ホイットニー兄弟もいます。わたしたちが一緒に歩んできた道の途中で、悲しみの光景

をどれほど多く目にしてきたことでしょうか。そのうえ、またも悲しみを共にするために、わたしたちは再会するのです。あなたは苦しんでいる人の子らが、まったく安心して信頼できる誠実な友です。永遠なる御方の祝福が、彼の頭にも冠として授けられますように。その心は何と温かいことでしょうか。ほとんどの人から追い出され、憎まれてきた者の幸いを、どれほど心配してくれていることでしょうか。ホイットニー兄弟、わたしの霊と心をあなたに結びつけているきずながどれほど強いものかを、あなたは気づいていません。……

あの神聖な夜のことについて、詳しく述べるつもりはありません。あの夜のことはとこしえに忘れないでしょう。しかし忠実な人々の名をここに記しておきたいと思えます。彼らは繁栄のときに出会った友であり、この逆境の中でもかつて以上に親しい友です。わたしが仕える神を愛し、わたしが広める真理を愛し、わたしがこの上なく温かな思いと、否定することのできない熱意をもって胸の内に慈しんでいる、徳高い、聖なる教義を愛する人々です。……

……もう一度〔友たちに〕会って、彼らのために精いっぱい働き、彼らに慰めを与えたいと思っています。わたしが生きている間は、彼らが友に困ることはないでしょう。わたしの心が彼らを愛し、わたしの手が彼らのために働くからです。わたしを愛し、わたしのために骨折って働いてくれる友に、絶えず忠実であり続けるからです。わたしが感謝の思いを持たないことがあるのでしょうか。決してありません。そのようなことを神はお許しになりません。』⁴

1842年8月23日、預言者は次のように続けている。「友である少数の忠実な人々の徳と、優れた特質と人格について考えていると、様々な思いがよみがえってきます。わたしは今、彼らのことを主の律法の書に記しています。この15年という長い歳月にわたって、危機に瀕したとき常にわたしの傍らに立ってしてくれた人々です。例えば、高齢の愛する兄弟、ジョセフ・ナイト・シニア。彼は、わたしが主の業を起こし、末日聖徒イエス・キリスト教会の基を据える業に着手して働いていたとき、必要なものを最初に与えてくれた一人でした。15年間、忠実で真実で、公正で模範的で、徳高く優しく、決して右にも左にもそれて行くことがありませんでした。見よ、彼は義にかなった人です。全能の神がこの老人の日を長くしてくださいますように。おお、神よ、もし御心であるならば、彼の震え、苦しみ、衰えている肉体が更新されて、絶えず活力が与えられますように。そして、シオンの子らは一

人でも残っているかぎり、ジョセフ・ナイト・シニアについてこう言うでしょう。この人はイスラエルの忠実な人物であった、と。したがって彼の名は決して忘れ去られることがないでしょう。……

……現在生きている少数の忠実な人々を思い起こす一方で、亡くなった忠実な友も大勢おり、わたしは彼らのことも思い起こします。彼らからたくさんのおいしい行い、すなわち父性愛や兄弟愛あふれる行いを受けてきました。そしてこれまでミズーリ州の人々に追い回されてきた中で経験した、多くの光景が思い起こされます。……

わたしは多くの人々を、死よりも強い愛をもって愛してきました。彼らに忠実であり続けてきました。そして神から息を止めるように求められるまで、彼らに忠実であり続けようと決意しています。]⁵

友情は憎しみや誤解を追い払い、人類家族を一つにする

「わたしは相手がどのような人であるかは気にしません。もしその人がわたしの友であり、真の友であるなら、わたしはその人の友であって、救いの福音を説き、良い助言を与え、困難から抜け出せるよう助けます。

友情は『モルモンの教え』の重要な基本原則の一つです。世界を大きく変革し、啓発し、戦争や争いを鎮め、人を友や兄弟とする〔ためのものです〕。……

……友情は、鉄に鉄を溶接する鍛冶屋の〔セオドア・〕ターリー兄弟のようです。友情には幸せをもたらす力があり、それによって人類家族を一つにしてくれます。]⁶

「知性のある人が誠意を感じる友情は、愛から生じるものであり、そのような愛は徳から生まれます。そして光がエホバの一部であるのと同じように、そのような徳は宗教の一部となります。ですからイエスはこうっておられるのです。『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。』〔ヨハネ15：13〕]⁷

預言者ジョセフ・スミスと数名の同僚がミズーリ州リバティエーの監獄に勾留こうりゅうされていた1839年の春、預言者は教会員あてにこう書いている。「昨晚、何通かの手紙を受け取りました。1通はエマから、1通はドン・C・スミス〔ジョセフの弟〕から、1通は〔エドワード・〕パートリッジビショップからで、どれも優しさなぐさと慰めの気持ちがかもったものでした。その内容にわたしたちはとても喜びました。長い間便りがなかったので、手紙を読んだとき、それはそよ風のようにわたしたちの心を活気づけてくれました。しかしその喜びは、貧しく、ひどい

傷を負わされた聖徒たちの苦しみのゆえに、悲しみの入り交じったものとなりました。わたしたちの心の堰^{せき}が切れて、目が涙の泉となったことは言うまでもありません。しかし、理由も原因もなく牢の壁に囲まれた経験のない人には、友の声がどれほど快いものであるかはほとんど分からないでしょう。どのような形でどのような人から示されたものであろうと一つの友情のしるしが、あらゆる思いやりの気持ちを呼び起こすのです。そしてそれは瞬時に過去のすべてのことをよみがえらせ、稲妻のように熱烈に現在を捕らえ、虎のように猛烈に未来をつかもうとします。思いを前へ後ろへ、一つのことから別のことへと転じさせて、ついにはあらゆる敵意や悪意、憎しみや、過去の意見の相違、誤解、不始末が、希望が持つ力により、勝利のうちに消されるのです。』⁸

神の聖徒は互いにとって真の友である

1835年8月、預言者はある教会員にあてて次のように書いている。「わたしたちは最初に真理を受け入れた教会のすべての家族と同様、あなたの家族のことを覚えています。あなたの失ったものや悲しみを忘れていません。わたしたちの最初のきずなは断たれておらず、わたしたちはあなたとともに、邪悪な仕打ちと善なる行い、悲しみと喜びを経験しています。わたしたちの和合一致は死よりも強く、決して分断されることがないと信じています。』⁹

預言者は、1836年1月にカートランドで出席した祝宴について次のように述べている。「ニューエル・K・ホイットニービショップのところで行われた豪華な祝宴に出席しました。この祝宴は、神の御子の位に従うものでした。救い主の教えに従い、足や目の不自由な人が招かれました〔ルカ14：12-13参照〕。……大勢の人が集まり、食事の前にシオンの歌を何曲か歌いました。将来、聖徒たちの頭に注がれるであろう喜びを前もって味わうことができ、わたしたちはうれしく思いました。聖徒たちはやがてシオンの山に集まり、いつまでも親しく交わり、天のすべての祝福を享受するでしょう。そしてそのときには、わたしたちを苦しめる者も、恐れさせる者もいないでしょう。』¹⁰

1839年、プレゼンディア・ハンティントン・ビューエル姉妹はリバティーの監獄^{こうりゆう}に勾留されていたジョセフ・スミスを訪れようとしたが、看守に追い返されてしまった。後に預言者はビューエル姉妹に次のように書いている。「おお、友と会うことは、わたしたちにとって何と大きな喜びでしょう。あなたと言葉を交わす特権を与えられてい



ノーブーの波止場に到着した多くの聖徒が、船から降りたときに預言者ジョセフ・スミスが出迎え、新しい生活の地に歓迎してくれたことを覚えている。

たとしたら、わたしは心に喜びを得ていたでしょう。しかしわたしたちは暴政に支配されています。……わたしが真の友であることを、〔ご主人と〕あなたに知ってほしいと思います。……5か月間牢の壁に囲まれてきた後に、以前からの友の顔を見ることがもたらす言いようのない喜びは、言葉では言い尽くせません。わたしの心はかつてなかったほどに感じやすくなっているようです。教会員の苦悩について考えるとき、絶えず心が痛みます。おお、彼らとともにいることができたなら。彼らに安らぎと慰めを与えるためなら、わたしは骨折りや苦難をいといません。もう一度、聖徒たちの中で声を上げるとい祝福を得たいのです。彼らを教えるために、心を神に注ぎ出すことでしょう。』¹¹

多くの教会員はこの世の財産をほとんど持たずにイリノイ州ノーブーに来ていた。預言者は彼らに対してこう教えている。「わたしたちの中にいる、苦しんでいる人を思いやる気持ちをはぐくまなければなりません。もし人々がその精神をはぐくむ場所、苦しんでいる人の胸に油とぶどう酒を注ぐ場所が地上にあるとするならば、それはこの地です。ここではその精神がはっきりと表れています。到着したときにはだれも知っている人がおらず、苦しんでいる人でも、進んで必要なものを与えてくれる兄弟や友を見いだすことができるのです。

もしこの世で苦しみを受けなければならないのであれば、周囲の至る所に兄弟や友を見いだせる場所にいられることは、最も大いなる祝福の一つであると思います。』¹²

預言者のいとこであるジョージ・A・スミスは、次のように回想している。「会話の終わりに、ジョセフは両腕でわたしを抱き締めてこう言いました。『ジョージ・A、わたしは自分の命と同じようにあなたを愛しています。』わたしは深く感動して、言葉が出てきませんでした。』¹³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 459ページの第1段落を読んでください。次に461-463ページを開き、ジョセフ・スミスがエマ・スミス、ハイラム・スミス、ニューエル・K・ホイットニー、ジョセフ・ナイト・シニアについて認めている特質に注目してください。困難な状況に置かれていたときに彼らの友情がジョセフにとって非常に大きな慰めとなったのはなぜだと思いますか。逆境に直面したとき、あなたは友人からどのように支えられてきましたか。また、試練を受けている人を支えるために、あなたはどのようなことができるでしょうか。
- 本章の逸話は、そのほとんどが困難な状況に置かれているときにまことの友情が発揮する価値について述べられています。しかし459ページの下から始まる段落では、ベンジャミン・F・ジョンソンが平和なときにジョセフ・スミスが見せていた親しみ深い態度について語っています。この記述から、どのようなことが学べるでしょうか。ともに笑ったり遊んだりする時間を取るとき、友情や家族関係にどのような益がもたらされるでしょうか。
- 463ページの第4段落を研究してください。ジョセフ・スミスが友情は「『モルモンの教え』の重要な基本原則の一つ」であると言っているのはなぜだと思いますか。人々が互いを友として見るうえで、回復された福音はどのような助けとなるでしょうか。すべての人に友情を持つことについて、歴代の大管長はどのような模範を示してきたでしょうか。
- 463ページの第5段落を読んでください。友情はどのような点で鉄に

鉄を溶接することと似ているでしょうか。

- 465ページの下から始まる段落と、その次の段落を読んでください。良いサマリヤ人のたとえに出てくる「油とぶどう酒」に触れている点に注目してください（ルカ10：34）。預言者の勧告に従うために、具体的にどのようなことができるでしょうか。良いサマリヤ人の模範に従うために、どのようなことができるでしょうか。

関連聖句——サムエル上18：1；箴言17：17；2ニーファイ1：30；モ一サヤ18：8-10；アルマ17：2；教義と聖約84：77；88：133

注

1. 1903年、ベンジャミン・F・ジョンソンがジョージ・F・ギブスにあてて書いた手紙、6-8。Benjamin Franklin Johnson, Papers, 1852年-1911年, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. アンドリュー・J・ワークマン "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年10月15日付, 641
3. *History of the Church*, 第6巻, 616。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。1844年6月27日, イリノイ州カーセージでウィラード・リチャーズが書いた日記から
4. *History of the Church*, 第5巻, 107-109。原文（英語）においては、つづり, 句読点, および大文字は現代の用法に修正。1842年8月16日, イリノイ州ノーブー近郊でジョセフ・スミスが書いた日記から
5. *History of the Church*, 第5巻, 124-125, 127。1842年8月23日, イリノイ州ノーブー近郊でジョセフ・スミスが書いた日記から。*History of the Church*では、この記録は誤って1842年8月22日付とされている
6. *History of the Church*, 第5巻, 517。原文（英語）においては、最初の角括弧の部分は、当時の表記のまま。1843年7月23日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
7. *History of the Church*, 第6巻, 73。1843年11月13日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスがジェームズ・アーリントン・ベネットにあてて書いた手紙から。*History of the Church* では、ジェームズ・ベネットの姓が "Bennett" と誤ってつづられている
8. *History of the Church*, 第3巻, 293。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正。1839年3月20日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で、ジョセフ・スミスとその他の人々がエドワード・パートリッジと教会にあてて書いた手紙から
9. 1835年8月31日, オハイオ州カートランドで、ジョセフ・スミスとその他の人々がヘゼカiah・ベックにあてて書いた手紙の中の、ジョセフ・スミスによる追伸。"The Book of John Whitmer," 80-81, Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。"The Book of John Whitmer" の複写を所有, 教会記録保管課
10. *History of the Church*, 第2巻, 362-363。1836年1月7日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
11. *History of the Church*, 第3巻, 285-286。原文（英語）においては、つづりは現代の用法に修正。1839年3月15日, ミズーリ州リバティー, リバティーの監獄で、ジョセフ・スミスがプレゼンディア・ハンティントン・ビューエルにあてて書いた手紙から。*History of the Church*では、ビューエル姉妹の姓 (Buell) が "Bull" と誤ってつづられている
12. *History of the Church*, 第5巻, 360-361。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正。1843年4月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
13. ジョージ・A・スミス。*History of the Church*, 第5巻, 391で引用。ジョージ・A・スミス "History of George Albert Smith by Himself," 1, George Albert Smith, Papers, 1834年-1875年, 教会記録保管課



再建されたノーブー神殿のバプテスマの部屋。このようなバプテスマフォントで、
聖徒たちは亡くなった人々のためにバプテスマの儀式を受ける。



シオンの山において救う者となる

「彼らはどのようにしてシオンの山において救う者となるのでしょうか。神殿を建て、バプテスマフォントを築き、亡くなったすべての先祖のために出て行ってあらゆる儀式を受け……ることによってです。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1840年代、ノーブーに住んでいた教会員が大いに関心を寄せていたことの一つは、亡くなった親族のために身代わりの業を行うことであった。1840年にこの神権時代における最初の身代わりのバプテスマが執り行われて以来、聖徒たちは先祖について系図に関する情報を探し求め、すでに世を去った愛する人たちの身代わりに多くの人がバプテスマの水に入っていた。

当初、死者のためのバプテスマはミシシッピ川や周辺の小川で執り行われていた。しかし聖徒たちがノーブー神殿の設計を行っていた1841年1月、主は次のように宣言された。「彼ら、すなわちわたしの聖徒たちが死者の代わりにバプテスマを受けるバプテスマフォントが地上にない……。すなわち、この儀式はわたしの家に属するものであり、あなたがたがわたしのために家を建てることのできないほど貧しいときを除いて、わたしはこれを受け入れることはあり得ない。」(教義と聖約124：29-30)

1841年10月3日、預言者は次のように発表し、それによって身代わりのバプテスマを川で執行することは中止された。「主の宮で儀式を受けられるようになるまで、死者のためのバプテスマは今後執行しません。……主がそのように言われるからです。」¹ そこで聖徒たちは直ちに、新たに掘られたノーブー神殿の地下に仮の木製バプテスマフォントを作り始めた。このフォントはウィスコンシン州産の松で作られ、12頭の木製の雄牛の背に載せられた。そして11月8日、「神殿が完成して、より丈夫なものがその代わりとなるまで」² 使用するものとして奉

献された。1841年11月21日、6人の十二使徒定員会会員が40人の死者のためにバプテスマを執行し、フォントを用いた最初の死者のためのバプテスマが行われた。

死者のためのバプテスマを実施し始めたころの経験を通じて、聖徒たちは主の教会において記録をつけることの重要性を学んだ。周辺の川における身代わりのバプテスマは、正しい神権の権能によって執り行われていたが、公式に記録されていなかった。その結果、それらのバプテスマは改めて執り行わなければならなかった。1842年8月31日に行った説教の中で、預言者は次のように説明している。「死者のためにバプテスマを受ける人は皆、一人の記録者に立ち会ってもらい、その人が見証者となって、記録し、自らの記録が真実かつ有効なものであることを証する^{あかし}ようにしなければなりません。……したがって今後は、死者のためのバプテスマを記録し、証明することに注意を払ってください。』³ 預言者はこの件について、その翌日に聖徒たちあてに書いた手紙と、また9月6日に書いた別の手紙の中で、さらに詳しく述べている。これら2通の手紙は、現在教義と聖約の第127章および第128章となっている。

第127章に、預言者は主から与えられた次の指示を記録している。「あなたがたのうちのだれでも、あなたがたの死者のためにバプテスマを受けるときは、記録者がいるようにしなさい。そして、彼があなたがたのバプテスマの見証者となり、その耳で聞くようにしなさい。それは、彼が実際に証できるようにするためである、と主は言う。また、あなたがたの記録するすべてのことについて、それが天でも記録されるためである〔る〕。……さらにまた、すべての記録を整理して、わたしの聖なる神殿の記録保管所に収め、それらが代々覚えられるようにしなさい……。」（教義と聖約127：6-7, 9）

聖徒たちがこの神聖な業を進めていくと、「死者の記録を大量に持っていて、彼らのために儀式を執行したいと願っている人々のいることがすぐに明らかに」なった、と十二使徒定員会の会員であったジョージ・A・スミス長老は回想している。「これは途方もなく大きな業の始まりにすぎず、無数の死者に福音のすべての儀式を執行するのは、まったく容易な仕事でないことが分かりました。十二使徒の中に、これほど多くの人々のためにもっと簡潔に執行する方法はないものかとジョセフに尋ねた人々がありました。するとジョセフはこう答えました。『主の律法は不変であり、わたしたちは示されていることに完全に従

って行わなければなりません。死者のためのこの大きな業を、短期間で行おうとする必要はありません。』⁴

ジョセフ・スミスの教え

死者のための救いの教義は、神の知恵と哀れみの深さを示している

「福音を聞く機会がなく、肉にある間に、靈感を受けた人から教えを授けられなかったすべての人は、最終的な裁きを受ける前に、後の世でその機会を得るに違いありません。』⁵

「神が死者を救われるということは、神が死者をよみがえらせられるということと同様、信じ難いことではありません。

霊にとって、神に近づくのに遅すぎるときなど決してありません。赦ゆるされない罪はこの世でも来るべき世でも赦されることはありませんが、そのような罪を犯していない人は皆、赦しをもたらず憐れみの及ぶ範囲にいます。死者の霊たちを解放する方法があって、それは神権の力と権能により、地上でつなぎ、また解くことによって行われます。これはすばらしい教義です。人類の救いの計画における神の哀れみと慈悲の心の深さが示されているからです。

この栄えある真理は、理解を広げ、苦難と困難と苦悩の下にある心を支えてくれるものに思われます。例として、二人の人がいたとしましょう。彼らは兄弟であり、同じように聡明で、学識そうめいがあり、徳高く立派な人だったとします。彼らは良心に恥じるどころなくまっすぐに歩んできましたが、自分のなすべき務めを、言い伝えという濁にごった川の中から、あるいは、人の知恵というインクの染みで汚れて判読が困難になった書物から見分ける必要があったのです。

一人は、執り成しをもたらず福音を一度も聞くことなく死んで埋葬されます。もう一人には救いのメッセージが伝えられ、彼はそれを聞いて受け入れるため、永遠の命を受け継ぐ者とされます。一人は栄光にあずかり、もう一人は希望のない滅びに引き渡されるのでしょうか。滅びから逃れる可能性はないのでしょうか。諸教派の人々は『ない』と答えます。……

この教義は、死者の救いのために儀式を用意することに、神の知恵と憐れみが込められていることを明らかにしています。死者は代理人によってバプテスマを受けることにより、その名が天に記録され、肉体にあってなした行いに応じて裁かれるのです。この教義は、聖文の

中で繰り返し述べられています。亡くなった親族のためにこの業を行わない聖徒は、自分自身の救いを危険にさらすことになります。』⁶

1840年12月、ジョセフ・スミスはイギリスで伝道していた十二使徒定員会の会員とそのほかの神権指導者あてに、こう記している。『死者のためのバプテスマ』の教義については、すでに皆さんも耳にしており、そのことに関して多少の疑問を抱いているのではないかと思います。この件について皆さんが知りたいと思っている事柄をこの手紙の中ですべてお伝えすることはできません。しかし、……それは古代の教会において間違いなく実施されていたと申し上げます。聖パウロは、この教義から復活の教義を立証しようとして、次のように述べています。『そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が^{まった}全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。』〔1コリント15：29〕

わたしはセイモア・ブランソン兄弟の葬儀で教えを説いた際に、この教義について初めて公に述べました。それ以来、この件について教会で広く教えてきました。聖徒たちには、亡くなった親族のためにバプテスマを受ける特権が与えられています。……このテーマについてこれ以上説明しなくても、この教えに一貫性と合理性があることは明白です。この教義は、キリストの福音が恐らく一部の人々が考えている以上に広い範囲に及ぶものであることを示しています。』⁷

死者のために神聖な儀式を執り行うことによって、わたしたちはシオンの山において救う者となる

「もしわたしたちが、神の御子の神権の権能によって、罪の^{ゆる}赦しのために御父と御子と聖霊の名によって人にバプテスマを施すことができるのであれば、福音すなわち完全な福音を聞くことなく亡くなった親族の代理人を務め、彼らのために身代わりとして罪の赦しのためにバプテスマを受けることも、同じようにわたしたちの特権です。』⁸

「聖書はこう述べています。『主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。』〔マラキ4：5-6〕

さて、こここの『向ける』という言葉は、『つなぐ』、すなわち結び固



「わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を尋ね求めることです。」

めると訳されるべきです。では、この重要な使命の目的は何でしょうか。あるいはどのようにして果たされるのでしょうか。鍵が渡され、エリヤの霊が来て、福音が確立され、神の聖徒たちが集められ、シオンが築き上げられ、聖徒たちが救う者としてシオンの山に登らなければなりません〔オバデヤ1：21参照〕。

しかし彼らはどのようにしてシオンの山において救う者となるのでしょうか。神殿を建て、バプテスマフォントを築き、亡くなったすべての先祖のために行ってあらゆる儀式を受け、バプテスマ、確認、洗い、油注ぎ、聖任と結び固めの力をその頭に受けることによってです。そして先祖が第一の復活に出て来て、ともに栄光の座に上げられるように、彼らを贖うのです。ここに先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖につなぐ鎖があり、これによってエリヤの使命が果たされるのです。……

地が打たれ、定められた滅びが世界に下る前に、聖徒たちは死者を救い、贖い、さらに生きている親族を集めて、彼らもまた救われるようにしなければなりません。そしてそのために聖徒たちに与えられている時間は、あまり多くはありません。

すべての聖徒たちに勧めます。力を尽くしてすべての生きている親族を〔神殿〕に集め、彼らが結び固められて救われるように、また、滅ぼす天使が出て行く日に準備を整えられるようにしてください。たとえすべての教会員が出て行って、死者を救い、子孫を結び固め、生きている友人を集めるために力の限りを尽くし、この世のこのために自分の時間を一切使わなかったとしても、夜が来てだれも働けなくなる前にこれらすべてを成し遂げるのは難しいでしょう。』⁹

「生者が行うバプテスマがあり、また福音を知らずに亡くなった死者のためのバプテスマがあります。……死者のためにバプテスマを受ける必要があるだけでなく、自分の救いのために受けてきたのと同じ儀式をすべて、彼らのために受けなければならないでしょう。……

……すべての国民がエンダウメントを受けるために時々やって来る場所がなければなりません。そしてそこが死者のためのバプテスマを行う場所になると、主は言っておられます。バプテスマを受けて王国に属しているすべての人は、すでに世を去った人々のためにバプテスマを受ける権利を持っています。そして彼らのために身代わりを務める友人たちがこちらで福音の律法に従うとすぐに、主はあちらで執行者に命じて彼らを解放してくださいます。人は自分自身の親族のために身代わりを務めることができます。こうして創世の前に定められた福音の儀式が代理人によって果たされているのであり、わたしたちは自分が深い友情を抱く人々のためにバプテスマを受けることができるのです。』¹⁰

「信仰にあって死ぬすべての人は、肉体にあっては死んでいるが霊にあっては生きている人々に教えを説くために霊の獄に行きます。それらの霊たちが〔獄にいる〕霊たちに教えを説くのは、彼らが霊においては神に従って生きるためです。そして、肉にある人々が彼らのために儀式を執行するのです。……これらの手段によって、彼らは幸せを得ます〔1ペテロ4：6参照〕。ですから、死者のためにバプテスマを受ける人々はシオンの山において救う者であり、自分自身のために受けるのと同じように、死者のために洗いと油注ぎを受けなければならないのです。』¹¹

神はわたしたちに死者を尋ね求めるという大きな責任を与えておられる

「死者に関して皆さんの目を開きましょう。神がその無限の知恵によって、わたしたちが死すべき状態でこの地上にいる間に、わたしたち

ちに明らかにするのをふさわしく、適切であるとされたことは何であろうと、抽象的に、この死すべき幕屋を通さずに知らされます。すなわち、まるで肉体を持たないかのように、直接霊に啓示が与えられるのです。そして、わたしたちの霊を救うこれらの啓示は、肉体にも救いを与えます。神は、肉体すなわち幕屋が永遠に分離することはないという観点から、わたしたちにそれを示されるのです。このような理由から、わたしたちは死者に関して責任を負っています。それは大きな責任です。肉にあって福音に従わなかったすべての霊は、霊にあって従うか、罰の定めを受けるかのどちらかだからです。そのことを思うと厳粛な気持ちになり、また恐ろしくなります。何か手立てはないのでしょうか。神の御子の教えに従う機会を得ずに亡くなった先祖や友人のために、備えられていることはないのでしょうか。彼らに救いはないのでしょうか。……

死者の救いに関して、どのような約束が与えられているのでしょうか。たとえ肉体が墓の中で朽ちていても救いを得られる人々とは、どのような人々でしょうか。神の戒めがわたしたちに教えを授けてくれるとき、それは永遠を見据えています。わたしたちは神から、あたかも永遠の中にいるかのように見られているからです。神は永遠のうちに住んでおられ、物事をわたしたちのように御覧にならないのです。

わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を捜し求めることです。使徒は、『わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない』と言っています〔ヘブル11：40参照〕。時満ちる神権時代、すなわち、人の救いのために創世の前にイエス・キリストから与えられた約束が果たされる神権時代には、子孫と死者を結び固める結び固めの力が、わたしたちの手の中になければなりません。

……わたしたちの先を行く人々も、後から来る人々も、わたしたちとともに救いを得る必要があります。ですから神は人に救いを得よう命じておられるのです。神が次のように言われたのはこのためです。『主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。』〔マラキ4：5-6〕¹²

預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちにあてた手紙の中で次のように記し、それらは後に教義と聖約128：15-18, 22, 24に記録された。「さて、わたしの親愛なる兄弟姉妹たち、わたしはあなたがたに断言

します。これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは、パウロが先祖について、わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。

さて、死者のためのバプテスマに関して、わたしはパウロのもう一つの言葉、すなわちコリント人への第一の手紙第十五章二十九節を引用しましょう。『もし死者が決してよみがえらなれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、何をするのだろうか。なぜ死者のためにバプテスマを受けるのか。』

さらにまた、この引用文に関連して、一人の預言者の言葉を引用しましょう。彼は神権の回復と、終わりの時に示される栄光と、また特に永遠の福音に属するすべての事項の中で最も栄光あるこの事柄、すなわち死者のためのバプテスマにその目を注いでいました。マラキは、その書の最後の章の第五節と六節で言っています。『見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は先祖の心を子孫に、子孫の心をその先祖に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもって地を打つことのないようにするためである。』

わたしはこれをもっと分かりやすく翻訳することもできましたが、このままでも十分に分かりやすく、わたしの目的にかないます。この場合、先祖と子孫の間にある事項について固いつながりがなければ、地はのろいをもって打たれるということを知るだけで十分です。さて、その事項とは何でしょうか。それは死者のためのバプテスマです。彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないのです。……

……心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出さなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。…

……したがって、わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう。また、主の聖なる神殿が完成するとき、わたしたちの死者の記録を載せた、そ

のまま受け入れるに値する書をそこにささげましょう。」¹³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスと初期の聖徒たちが死者のためのバプテスマの教義についてどのようにして理解を深めていったかに注意しながら、469-471ページを読んでください。死者の救いについて最初に知ったときに聖徒たちが感じたと思われる気持ちについて考えてください。死者のための儀式に初めて参加したとき、あなたはどのような気持ちを抱きましたか。
- 471ページの第3と第4段落を読んでください。死者のための救いの教義は、神の哀れみや憐れみをどのように示しているでしょうか。この教義はどのように「理解を広げ」、「心を支えてくれる」でしょうか。
- シオンの山において救う者となるとはどういう意味でしょうか（例として、472-474ページ参照）。亡くなった先祖はわたしたちなしに完全な者とされることがないのはなぜだと思いますか。わたしたちが彼らなしに完全な者とされることがないのはなぜだと思いますか。
- 「死者を尋ね求める」というわたしたちの大きな責任について、預言者ジョセフ・スミスの教えを幾つか読んでください（474-477ページ）。先祖について知ったことによって、どのようなことを経験しましたか。先祖について知ったことによって、家族への愛や神への信仰がどのように強められてきましたか。先祖のために神殿の儀式を執り行うことによって、彼らに対するあなたの気持ちにどのような影響を受けてきましたか。
- 子供たちが家族の受け継ぎに感謝の念を抱けるように、どのような助けができるでしょうか。子供たちが神殿や家族歴史の業に参加できるように、どのような助けができるでしょうか。

関連聖句——ローマ14：9；教義と聖約128：8-11

注

1. *History of the Church*, 第4巻, 426。1841年10月3日にイリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会の議事録から。*Times and Seasons*, 1841年10月15日付, 578に掲載
2. *History of the Church*, 第4巻, 446-447。“History of the Church” (原稿), book C-1, 補遺, 44から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
3. *History of the Church*, 第5巻, 141。1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
4. ジョージ・A・スミス, 1874年12月25日にユタ州セントジョージで行った説教。*St. George Stake, General Minutes*, 第4巻, 教会記録保管課
5. *History of the Church*, 第3巻, 29。*Elders' Journal*, 1838年7月号, 43に掲載された論説から。ジョセフ・スミスは同誌の編集者であった
6. *History of the Church*, 第4巻, 425-426。1841年10月3日にイリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会の議事録から。*Times and Seasons*, 1841年10月15日付, 577-578に掲載
7. *History of the Church*, 第4巻, 231。原文(英語)においては, 段落は変更。1840年12月15日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが十二使徒にあてて書いた手紙から。*History of the Church*では, この手紙は誤って1840年10月19日付とされている
8. *History of the Church*, 第4巻, 569。1842年3月27日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
9. *History of the Church*, 第6巻, 183-184。1844年1月21日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
10. *History of the Church*, 第6巻, 365-366。原文(英語)においては, 段落は変更。1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
11. ジョージ・ローブによる, ジョセフ・スミスの説教の抜粋集の中での引用(1845年ごろ)。George Laub, *Reminiscences and Journal*, 1845年1月-1857年4月, 21, 教会記録保管課
12. *History of the Church*, 第6巻, 312-313。原文(英語)においては, つづりは現代の用法に修正。1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告
13. 教義と聖約128:15-18, 22, 24。1842年9月6日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが聖徒たちにあてて書いた手紙



家族——この世と永遠における この上なくすばらしい結びつき

「この上なくすばらしい結びつきと幸福感が家中にみなぎって
いました。争いや不一致で平和が乱されることはなく、平安が
わたしたちを包んでいました。」(ルーシー・マック・スミス)

ジョセフ・スミスの生涯から

1843年の時点で、ノーブー神殿はまだ完成していなかったが、預言者はすでに死者のための救いの教義を発表し、忠実な聖徒の団に神殿のエンダウメントを執行していた。しかし、神殿の神聖な業の中で、ある重要な部分はまだ実施されていなかった。1843年5月16日、預言者はノーブーからイリノイ州レイマスまで旅をし、親しい友人であるベンジャミン・F・ジョンソンの家に滞在した。その夜、ジョセフはジョンソン兄弟姉妹と少数の親しい友人に、「結婚の新しくかつ永遠の聖約」について教えた。預言者は、この聖約が日の栄えの王国の最高の階級を得るために必要な「神権の位」であることを説明した（教義と聖約131：1-4参照）。また次のように教えている。男女は永遠の結婚の聖約に入らなければ、「死をもって、増し加えることができなくなります。復活した後に子供を持つことがないということです。」この聖約に入った後引き続き忠実な人は、「日の栄えの栄光において増し加え続け、子供を持つでしょう。」¹

それから2か月後の1843年7月12日、赤れんが造りの店の2階にある事務所で、預言者はウィリアム・クレイトンに永遠の結婚の教義についての啓示を書き取らせた（教義と聖約132章参照）。預言者はしばらく前からすでにこの教義について知っており、また教えていた。主はこの啓示の中で、もし夫婦が聖なる神権の力によって結び固められなければ、「彼らは増し加えられることがなく、永遠にわたって、昇栄することなく、救われた状態にあって、それぞれ独りのままでいるこ



パーリー・P・プラットは次のように宣言している。
「父母、夫婦、兄弟姉妹、息子娘の間に愛のある関係を築くことの大切さをわたしに
教えてくれたのはジョセフ・スミスでした。」

とになる」ことを宣言された（教義と聖約132：15-18参照）。昇栄を受けるためには、夫婦は神権の力によって結び固められ、その後、自分たちの聖約に忠実であり続けなければならないのである。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、わたしからこの力とこの神権の鍵^{かぎ}とを与えられた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊^{みたま}により彼らに結び固められ〔るならば〕……、わたしの僕^{しもべ}が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭^{こうべ}に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。

それで、彼らは神々となる。彼らには終わりが無いからである。それゆえ、彼らは続くので永遠から永遠に至り、すべてのものが彼らに従うので、彼らはすべてのものの上にあるであろう。それで、彼らは神々となる。彼らは一切の権威を持ち、天使たちが彼らに従うからである。まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはわたしの律法に従わなければ、この栄光に達することができない。」（教義と聖約132：19-21）

十二使徒定員会のパーリー・P・ブラット長老は、この教義を知ることによって家族への愛を深めている。「父母、夫婦、兄弟姉妹、息子娘の間に愛のある関係を築くことの大切さをわたしに教えてくれたのはジョセフ・スミスでした。最愛の妻とこの世においても永遠にわたっても固く結ばれることができるということ、また互いをいとおしく思う純粋な思いやりと愛情が、神聖な永遠の愛の泉からやって来るということを教えてくれたのもジョセフでした。また、わたしたちはこの愛情をはぐくみ、永遠にわたって育て、増し加えることができ、わたしたちの終わることのない結びつきによって、天の星や海辺の砂のように数多くの子孫がもたらされるということも、ジョセフから学びました。……わたしは以前から妻を愛していましたが、その理由は分かっていませんでした。しかし今では、この惨めな世界のはかないものを超越して、大海のように心を広げてくれる、清らかで力強い、高尚な思いをもって愛するようになりました。……要するに、今では霊と理解をもって愛することができるようになりました。』²

ジョセフ・スミスの教え

夫婦は、愛と優しさと愛情を示すことによって、互いに敬い合う

「結婚は、エデンの園において設けられた天の規定〔である〕。』³

「夫には、妻を愛し、いたわり、養い、妻と結び合っってその他のものと結び合わないという義務があります〔教義と聖約42：22参照〕。夫は妻を自分自身のように尊び、妻の気持ちに優しく注意を払わなければなりません。妻は夫の肉であり、骨であって、現世のことについても霊的なことについても夫の助け手となるように造られているからです。妻は夫が心置きなくあらゆる不平を語ることでできる相手であり、また（そのように造られているので）喜んで夫の重荷の一部を負い、優しい声で夫の気持ちを静め、勇気づけてくれます。

男性は家族の長という立場にありますが、……暴君として妻を支配してはなりません。また、妻がその立場を離れて夫である自分の権威を妨げるのではないかと恐れたり、警戒したりするあまり、妻を支配するようなことがあってはなりません。夫には、神の人となって（神の人とは知恵の人なのです）、いつでも聖文や啓示から、そして高い所から、家族を教化し、救うために必要な指示を受けられるように備えている義務があります。』⁴

扶助協会の姉妹たちの集会において、ジョセフ・スミスは次のように語っている。「夫をその行いのゆえにからかってはなりません。皆さんの汚れのなさ^{なぐさ}と優しさと愛の力に触れさせるようにしてください。それは石うすを首にかけるよりも力があります。すべての善良な人々の目に皆さんが大なる者として映るのは、柔和と愛と純粋さによるのであり、争いや口論、反対、反論ではないのです。……

……人が苦難によって打ちのめされるとき、また心配や問題を抱えて途方に暮れるとき、もし口論やつぶやきではなく、ほほえみに出会うことができるなら、もし優しさに出会うことができるなら、心が穏やかになり、気持ちが静まるでしょう。思いが絶望に向かっているときには、愛情と優しさのこもった慰め^{なぐさ}が必要なのです。……家庭にあって、夫に不機嫌な言葉や思いやりのない言葉を浴びせてはなりません。これからは、優しさと慈愛と愛で皆さんの行いを飾るようにしてください。』⁵

エライザ・R・スノーは次のように報告している。「〔預言者ジョセフ・スミス〕は姉妹たちに、自分たちが敬うべき者として神が定めて

おられる夫のために信仰を働かせ、祈り、夫を信頼するように勧めました。』⁶

子供は両親に感謝を表し、生涯にわたって大切にすることによって、 両親を敬う

1835年10月、預言者は重病であった父親のもとを数日間にわたって毎日訪れ、「ひどく心配しながら」世話をした。預言者の日記には次のように書かれている。「今日もまた、病状の思わしくない父の看護をした。朝、独りになって祈っていると、主は次のように言われた。『わたしの僕よ、あなたの父は生き長らえるであろう。』父の健康が快復するように、また父とともにいて助言を受ける祝福にあずかれるように、心の中でイエス・キリストの名によって神に祈りながら、一日父の看護をした。円熟し、豊かな経験に基づく両親の助言は最も有益であり、また両親との交わりは地上における最も大いなる祝福の一つであると思うからである。夜、デビッド・ホイットマー兄弟がやって来た。わたしたちはイエス・キリストの名によって熱烈に主に祈り、父に手を置き、病を叱責した。神はわたしたちの祈りを聞いてこたえてくださり、わたしたちは心に大きな喜びと満足を覚えた。年老いた父は立ち上がって服を着ると、大きな声で主をほめたたえた。』⁷

「わたしの母は幸いである。その心はいつも深い思いやりと博愛に満ちているからだ。老齢にもかかわらず、母は力を与えられ、家族の中であって慰めを受けるだろう。そして母は永遠の命を受けるだろう。また、わたしの父も幸いである。主の手がそのうえにあり、子供たちの苦難が過ぎ去るのを見るからである。その人生の果実が十分に熟するとき、父は自らが多くの実をつけて枝をたわませているオリーブの木のようなことを悟るだろう。父もまた、高い所に住まいを得るだろう。』⁸

「わたしは子供のころに経験した様々な出来事を思い起こしてきた。亡くなった父のことを考えてきた。……父は高潔な人物であり、高尚で、聖く、気高く、徳高い思いの持ち主だった。その心は、人間の心に広く見られるすべての卑しく品位に欠けた道徳の基準則を超越していた。わたしの知るかぎり、父は生涯にわたり卑しい行いをすることは決してなかった。そのような行為は卑劣であると言わざるを得ない。わたしは父を愛し、父についての記憶を大切にしている。その気高い行いについての記憶はわたしの心にしっかりと残っており、その優し



ジョセフ・スミスは、両親と子供たちが互いに愛し、尊敬し合う家族の中で育った。
この絵は、スミス家族が1816年にニューヨーク州バルマイラへ移住した際、
先に同地に行っていた父親と再会している様子を描いたものである。

い、親らしい言葉の数々は、わたしの心に刻まれている。

父の生涯について抱いている思いは、わたしにとって神聖なものである。それらは生まれてこのかた、わたしの心を貫いて行ったもの、自らの観察によって心に刻まれてきたものであり、心の中に大切にしまっている。父のなきがら、父が横たわっている場所、父の頭上を囲って造った墓は、わたしにとって神聖である。父についての記憶が永遠にとどまるように願っている。……わたしの愛する神が上から見下ろし、この地でわたしを敵から救い出して、シオンの山に立つことが

できるようわたしの手を取って導き、そこで父とともに永遠に冠を授けてくださるように願っている。

立派な親を与えてくださったことに対する神への感謝は、とても言葉では十分に表現できない。

わたしの母もまた、最も高潔で、最も優れた女性の一人である。神が母とわたしの生涯を延ばしてくださり、わたしたちが生きて互いの交わりを長く続けることができるように。」⁹

「両親がどれほどの心配りと、尽きることのない熱意をもってわたしたちを見守ろうと努めてきてくれたか、また病気のときには、揺りかごやベッドの傍らで、悲しく不安な時をどれほど過ごしてくれたかを考えると、わたしたちは年老いた彼らの気持ちをどれほど思いやるべきでしょうか。彼らの白髪を悲しみのうちに墓に葬るような言葉や行いがあるとしたら、それらを振り返るときに快い思いがわき上がることなどあるはずがありません。」¹⁰

兄弟姉妹の間の愛は、永続する美しいものとしてすることができる

若くして世を去った二人の兄弟について、預言者は次のように書いている。「わたしの長兄アルビン。アルビンが死んだときに若いわたしの胸に込み上げてきた激しい悲しみをよく覚えている。感じやすい心を引き裂かんばかりの悲しみだった。アルビンは父の子供の中で最年長で最も高潔な人であった。人の子らの中で最も高潔な者の一人だった。……その心には偽りがなかった。子供のときから汚れのない生活を送っていた。……最もまじめな人物の一人であり、死の間際には、主の天使が彼を訪れた。……

わたしの弟ドン・カーロス・スミス……もまた、高潔な少年だった。わたしはドン・カーロスのうちに何の過ちも見いださなかった。彼が生まれてから死ぬまで、不道德な行いも、宗教心のない卑しい性癖も、少しも見ることがなかった。気高く、温厚で、心優しく、徳高く、忠実で、まっすぐな子供だった。彼の魂が行く所に、わたしの魂も行けたらと思う。」¹¹

兄のハイラムにあてた手紙の中で、ジョセフ・スミスは次のように書いている。「心から愛するハイラム兄弟、わたしはあなたのことをとても心配してきました。そして、いつも祈りの中であなたを覚え、人々や悪霊の中にあってもあなたが守られ安全であるように神に願い求めています。……神があなたを守ってくださるように。」¹²

ハイラムについて、預言者は次のように書いている。「わたしは心の中で、すべての兄弟たちがわたしの愛する兄ハイラムのようであったならと祈っている。ハイラムは子羊の穏やかさとヨブの高潔さ、要するに、キリストの柔和さと謙遜^{けんそん}さを備えている。わたしは死よりも強い愛をもってハイラムを愛している。」¹³

子供を愛し、支え、祈る両親は、子供の人生に計り知れないほどの祝福をもたらす

1823年9月にクモラの丘を訪れた後、ジョセフ・スミスはその経験を家族に語り、その後も引き続き様々な経験を家族に話した。預言者の母親は次のように書いている。「毎晩、わたしたちは子供を集めました。かつて地上で暮らしたどんな家族にもない、特異な光景が展開されていたのではないかと思います。全員が輪になって座り、父親も母親も、息子たちも娘たちも、かたずを飲んで〔17〕歳の少年が語る宗教の教えに耳を傾けました。……

わたしたちは、何かわたしたちの思いを強めてくれるもの、過去に教えられてきたどんなことよりもはっきりとした理解を与えてくれるものを神が明るみに出そうとしておられると確信し、そのことを非常に喜びました。この上なくすばらしい結びつきと幸福感が家中にみなぎっていました。争いや不一致で平和が乱されることはなく、平安がわたしたちを包んでいました。」¹⁴

シオンの陣営の行軍が終わる少し前の1834年6月、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは、ほかの多くの人と同様コレラに悩まされていた。二人の母はそのときの経験について次のように語っている。「ハイラムとジョセフにとって、……健康でわたしたちと再会できたことへの喜びは、計り知れないほど大きなものでした。留守にしていた間に、二人は数々の危難を逃れていたからです。わたしの両側にそれぞれ腰を下ろすと、ジョセフがわたしの一方の手を取り、ハイラムがもう一方の手を取って、次のように語ってくれました。……

『病があつという間に襲いかかって来て、わたしたちは途端に窮地に陥りました。そこで互いに無言の合図を送るとわたしたちは小屋を離れました。人目につかない場所に入って行き、神がこの恐ろしい力から救い出してくださるように、ともに祈るためです。しかしじゃまが入らない地点まで行く前に、自分の足で立っていられなくなってし



「毎晩、わたしたちは子供を集めました」と、ルーシー・マック・スミスは回想している。
 「父親も母親も、息子たちも娘たちも、かたずを飲んで〔17〕歳の少年が語る
 宗教の教えに耳を傾けました。」

まいりました。家族から遠く離れたこの西部の荒れ野で、子供たちに祝福を授けることも、別れに当たって勧めの言葉を残すことも許されずに死ぬのではないかと、非常な恐怖を覚えました。ハイラムが叫びました。「ジョセフ、どうすればいいのだろう。この恐ろしいのろいによって、地の面から絶たれなければならないのだろうか。」〔ジョセフ〕は言いました。「ひざまずき、神に祈りましょう。神がけいれんやほかの苦痛を取り除き、健康を快復してくださって、家族のもとへ帰れるように。」そのようにしましたが、快復に向かうどころか、ますますひどくなっていきました。……

じきに、再びひざまずいて神に^{あわ}憐れみを請い求め、^{いや}癒されるという証^{あかし}をどちらかが得るまで立ち上がらないことにしました。……少しの間、順番に祈っていると、間もなくけいれんが治まり始めたのが分かりました。そして間もなく、ハイラムが勢いよく立ち上がって叫びました。「ジョセフ、戻ろう。わたしは示現を見て、その中で母さんがリンゴの木の下でひざまずき、わたしたちのために祈っているのを見た。母さんは今もまだ、肉にあってわたしたちに再会できるように、わたしたちの命を助けてくださるよう涙を流しながら神に願い求めてくれている。そして母さんの祈りとわたしたちの祈りが聞かれると、御霊^{みたま}が証してくださっている。」そのときから、わたしたちは癒され、喜びながら目的地を目指しました。』

ジョセフは言いました。『おお、お母さん。死の陰がわたしたちを取り巻いたとき、あなたの祈りは^{いくと}幾度、わたしたちを助ける仲立ちとなってきたことでしょう。』¹⁵

ルーシー・マック・スミスによる以下の記録には、息子たちに対する彼女の愛が示されている。1838年11月、預言者と兄のハイラムは捕らえられてミズーリ州ファーウェストからインディペンデンスに、その後リッチモンドに連行されて収監された。家族はジョセフとハイラムが殺害されるのではないかと恐れた。「息子たちが連行されるとの知らせを届けてくれた使者から、もしもう一度生きて息子たちに会いたいなら、彼らのところに行くようにと、言われました。息子たちは荷車に乗せられていて、すぐにも出発するだろうとのことでした。夫は病状が重かったため行くことができず、わたしとルーシー〔娘〕だけで出かけました。家族の中で健康なのはわたしたちだけだったからです。

荷車まで400ヤード（約360メートル）ほどの所まで来ると、周りを囲んでいる人々のためにそれ以上先に行けませんでした。そこでわたしは叫びました。『わたしは預言者の母です。最後に子供たちを一目見て、死ぬ前にもう一度話ができるように、この人波を抜けてあの荷車まで行けるように助けてくださる紳士はいらっしゃいませんか。』すると一人の人が進み出て、軍隊の中を通り抜ける道を作ってくれました。そして剣とマスカット銃と、拳銃と銃剣の中を、一步ごとに死の危機にさらされながら進んで行き、ついにたどり着きました。同行してくれたこの男性が、前部に座っていたハイラムに語りかけ、母親が来ていて、手を差し伸べてもらいたがっていると告げてくれました。

ハイラムは手を伸ばしましたが、姿を見ることは許されませんでした。荷車の覆いは非常に厚い布でできていて、前面は固く縛られ、側面は釘でしっかりと打ちつけられていたのです。……

それからその人はジョセフのいる荷車の後部にわたしたちを案内すると、ジョセフに言いました。『スミスさん、お母さんと妹さんが来ていて、あなたの手を取りたいと言っています。』ジョセフは荷車と側板に打ちつけられている覆いの間から手を押し出しました。わたしたちはその手をつかみましたが、ジョセフは何も言いませんでした。声を聞かずに去ることなどできませんでした。『おお、ジョセフ、哀れな母にもう一度言葉をかけておくれ。あなたの声を聞くまでは立ち去ることなどできない。』

『神の祝福がありますように、お母さん。』ジョセフがそう言うと、叫び声とともに荷車が勢よく走りだし、息子はわたしたちから引き離されました。ちょうドルシーがジョセフの手を握り締め、その手に妹からの最後の口づけをしようとしていたときでした。わたしたちは、彼らが銃殺刑を宣告されることを知っていたのです。

わたしたちは自分で立つこともできないほど力をなくしていましたが、無事に家に帰り着きました。……しばらくの間、家の中にはため息とうめき声のほか物音一つしませんでした。最後にジョセフとハイラムに会ったということ以外、はっきりしたことは何も分からなかったからです。しかし悲しみのただ中であって、わたしはこの世のあらゆる慰めを超えた安らぎを見だしました。神の御霊に満たされ、預言の賜物によって次の言葉を受けたのです。『子供たちについて心に慰めを得なさい。その髪の毛一筋も傷つけられることはないからです。』……わたしは言いました。『子供たち、もう泣いてはいけません。暴徒が二人を殺すことはありません。主が二人を敵の手から救い出すと、わたしに知らせてくださったからです。』このことは全員にとって大きな慰めとなり、以後、二人の命が奪われないかとひどく思い悩むことはありませんでした。』¹⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 永遠の結婚の教義について知ることがパーリー・P・プラットの人生にどのような祝福をもたらしたかについて、彼の説明を読んでください（481ページ）。この教義は、家族への気持ちや、家庭での互いに対する接し方にどのような影響を与えるのでしょうか。
- 夫と妻に与えたジョセフ・スミスの勧告を読んでください（482-483ページ）。勧告の幾つかがどのように男女双方に当てはまるかを考えてください。家族を導くために聖文を研究し、啓示を受けることが、父親と母親の双方にとって重要なのはなぜでしょうか。妻が「苦難によって打ちのめされ」ているのを見るとき、夫はどのようなことができるのでしょうか。夫婦は互いに「不機嫌な言葉や思いやりのない言葉」を避ける必要があるのはなぜでしょうか。
- 成人後も、預言者ジョセフは引き続き両親とともに過ごすことを楽しみ、助言を求め、敬いました（483-485ページ）。両親について述べた預言者の言葉で、特に印象に残ったものはどれですか。両親が子供に与えることのできる、いつまでも続く良い影響の例として、これまでにどのようなことを目にしてきましたか。もっと両親を敬うために自分にできることについて考えてください。
- 兄弟のアルビン、ドン・カーロス、ハイラムについて、預言者が語った言葉を読んでください（485-486ページ）。兄弟や姉妹の関係がそれほど永続し、強いものとなるのはなぜだと思いますか。両親は息子や娘が互いにとって良い友となるのをどのような方法で促すことができるのでしょうか。兄弟や姉妹は互いの友情をはぐくむためにどのようなことができるのでしょうか。
- 息子のジョセフが家族に教えを授けていたことについて語ったルーシー・マック・スミスの回想を読んでください（486ページ）。家族に対して「結びつきと幸福感」を感じた経験として、どのようなものがありますか。コレラから癒されたジョセフとハイラムの経験から、両親はどのようなことが学べるのでしょうか（486-488ページ参照）。

関連聖句——出エジプト20：12；1コリント11：11；エペソ6：1-4；モーサヤ4：14-15；モーセ3：18，21-24

注

1. *History of the Church*, 第5巻, 391。1843年5月16日にイリノイ州レイマスでジョセフ・スミスによって与えられた教えから。ウィリアム・クレイトンによる報告
2. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 297-298。原文 (英語) においては, 段落は変更
3. *History of the Church*, 第2巻, 320。1835年11月24日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
4. "On the Duty of Husband and Wife," *Elders' Journal*, 1838年8月号, 61に掲載された論説。原文 (英語) においては, 段落変更。ジョセフ・スミスは同誌の編集者であった
5. *History of the Church*, 第4巻, 605-607。原文 (英語) においては, つづりは現代の用法に修正, 段落は変更。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
6. *History of the Church*, 第4巻, 604。1842年4月28日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
7. *History of the Church*, 第2巻, 289。1835年10月8日および11日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
8. *History of the Church*, 第1巻, 466。原文 (英語) においては, 段落は変更。1833年12月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
9. *History of the Church*, 第5巻, 125-126。1842年8月23日, イリノイ州ノーブー近郊でジョセフ・スミスが書いた日記から。*History of the Church* では, この記録は誤って1842年8月22日付とされている
10. *History of the Church*, 第2巻, 342。1835年12月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスがウィリアム・スミスにあてて書いた手紙から
11. *History of the Church*, 第5巻, 126-127。1842年8月23日, イリノイ州ノーブー近郊でジョセフ・スミスが書いた日記から。*History of the Church* では, この記録は誤って1842年8月22日付とされている
12. 1831年3月3日, オハイオ州カートランドで, ジョセフ・スミスがハイラム・スミスにあてて書いた手紙。Joseph Smith, Collection, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
13. *History of the Church*, 第2巻, 338。1835年12月18日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
14. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844-1845年の原稿, 第4巻, 1, 教会記録保管課
15. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844-1845年の原稿, 第13巻, 12-14, 教会記録保管課
16. ルーシー・マック・スミス "The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet," 1844-1845年の原稿, 第16巻, 3-6, 教会記録保管課



ロレンゾ・スノーは次のように宣言している。「人々は〔預言者ジョセフ・スミス〕の話
を聞くのがとても好きでした。ジョセフには啓示があふれていたからです。
……主の約束のとおり、ジョセフが教えた原則を受け入れた人々は、
それらが真実であるという証^{あかし}を主から受けました。」



「彼は神の預言者でした」—— ジョセフ・スミスと同時代を生きただけの人々 による、ジョセフの預言者としての使命 についての証あかし

「わたしは自分がジョセフ・スミスを知っていたと思うと、
 ずっとハレルヤと叫んでいたい気持ちになります。」
 (ブリガム・ヤング)

ジョセフ・スミスの生涯から

ノブーにおいて、聖徒たちは預言者ジョセフ・スミスの話を聞くために度々集まった。ノブーには聖徒たち全員を収容できるほど大きな建物がなかったため、預言者は屋外で話すことが多かった。神殿のすぐ西側に数千人が集まることのできる森があり、預言者はよくそこで話をした。教会の指導者や話者のために持ち運びの可能な演壇が造られ、会衆は草の上や、丸太やれんがに腰を下ろした。またそのほかにも、建築中の神殿や個人の家など、預言者はノブーにおいて様々な場所で話をした。1843年の初めにノブーを訪れたある人は、「完成半ばの神殿の地階で」数々の集会が開かれ、「そこでよく預言者が教えを説いていた」と報告している。¹

屋外で語るとき、預言者はよく冒頭に、自分が話し終わるまで風や雨が静まるように祈ってくれるよう聖徒たちに求めた。1843年4月8日にノブーで開かれた大会において、預言者は説教を始めるに当たり次のように述べている。「皆さんにお願いしたいことが3つあります。まず、信仰あるすべての皆さんが信仰を働かせて、風を静めてくださるように主に祈ってください。この風の中で長時間話を続けると、健康をひどく害してしまうからです。次に、全員に声が届くよう、主がわたしの肺を強めてくださるように祈ってください。そして第3に、

わたしが真実を告げ知らせることができるよう、聖霊がわたしのうえにとどまってくださるように祈ってください。]²

預言者の務めの中で説教をすることは、教会員にとって非常に大切な意味があった。預言者は数千人に上る会衆に向かって話すこともあった。「預言者ジョセフに耳を傾ける人で、その説教に飽きる者は一人もいませんでした」と、パーリー・P・プラットは回想している。「預言者が語る間、会衆は寒さの中や日差しの中、雨や風の中で、ともに何時間も進んで熱心に耳を傾け、笑っていたかと思えば、次の瞬間には涙を流しているのです。]³ ノーブー時代に少年だったアルバ・J・アレクサンダーは、「預言者の話を聞くことは、どんな娯楽やゲームよりも興味深かった」と振り返っている。⁴

アマサ・ポッターは、ノーブーで預言者ジョセフ・スミスが大勢の聖徒に向かって力強い説教を行ったときのことを、次のように回想している。

「〔預言者〕が30分ほど話をしたところで、激しい風と嵐^{あらし}に見舞われました。砂ほこりがひどく、近くにいる人のほかは互いの姿も見えないほどで、その場を離れようとする人もいました。しかしジョセフは彼ら呼び止め、風雨が収まるよう全能の神に祈りをささげよう求めました。そうすればそのようになるだろうと言いました。するとまさに数分のうちに風と雨がやみ、夏の朝のように穏やかな天候になりました。嵐は二手に分かれて町の北側と南側に移動していき、遠くで木々や低木が風に揺れているのが見えました。ところがわたしたちのいる場所は1時間にわたって静かな状態が続き、その間に死者というすばらしいテーマについて、預言者の口から最も大なる説教の一つが語られたのです。]⁵

預言者ジョセフ・スミスが語るのを聞いた聖徒たちは、ジョセフの預言者としての使命について力強くいきいきとした証を述べている。そして彼らの多くが、預言者ジョセフが語った説教や預言者との経験についての思い出を記録している。ジョセフ・スミスがまことに神の預言者であったことを、後の世代の人々にも自分たちと同じように知ってほしいと願ったのだった。

ジョセフ・スミスについての^{あかし}証

ジョセフ・スミスは、完全な福音を回復するように主から召された預言者である。わたしたちは初期の聖徒たちと同じように、そのことを知ることができる

ブリガム・ヤング（第2代大管長）。「わたしは自分がジョセフ・スミスを知っていたと思うと、ずっとハレルヤと叫んでいたい気持ちになります。ジョセフは主がお立てになって聖任され、地上における神の王国を築き上げて維持する鍵と力をお授けになった預言者です。これらの鍵はこの民にゆだねられており、わたしたちはジョセフが始めた業を続ける力を受けています。』⁶

エライザ・R・スノー（中央扶助協会会長、1866-1887年）。「真理と義の大義において、同胞に益をもたらしすべてのことにおいて、ジョセフの誠実さは天の柱のように不動でした。ジョセフは神が自分を業に召しておられることを知っていました。地と地獄のあらゆる力が連合したとしても、ジョセフを思いとどまらせることも、その目的からわきにそらせることもできませんでした。神と兄弟たちの助けを受けて、ジョセフはかつて人が確立した中で最も大いなる業、すなわちすべての生者と、将来のすべての人々だけでなく、死者にも影響を及ぼす業の基を据えました。

彼は大胆にまた勇気を持って、この世の偽りの言い伝えや迷信、宗教、^{へんきょう}偏狭な考えや無知に立ち向かいました。そして天から明らかにされたすべての原則に忠実であり、兄弟たちに忠実であり、神に忠実であることを証明し、自らの血をもってその証を結び固めました。』⁷



バスシバ・W・スミス

バスシバ・W・スミス（中央扶助協会会長、1901-1910年）。「わたしはジョセフが自ら公言したとおりの人物、すなわち神のまことの預言者であったことを知っています。主はジョセフを通じて、永遠の福音と、わたしたちを日の栄えの王国に導いてくれるすべての教義とエンダウメントを回復されました。』⁸

ウィルフォード・ウッドラフ（第4代大管長）。「わたしは自分が目にしたジョセフ兄弟の姿や行いに特別な喜びを感じてきました。なぜなら彼は私に

わたって全能者の御霊^{みたま}とともに歩み、どんな人物にも見られないような偉大な精神を表していたからです。』⁹

ダニエル・D・マッカーサー（後にソルトレーク・シティーに向かう最初の手車隊の一隊を率いた初期の教会員）。「わたしの証は次のとおりです。ジョセフは生ける神のまことの預言者でした。その言葉を聞き、その行いを見るほどに、ジョセフが父なる神と御子イエス・キリストにまみえ、また神の聖なる天使たちに会ったという確信が強まっていきました。……もし自分がこの地上で何かを知っているとするなら、それはジョセフが預言者だったことを確かに知っていることだと、わたしは常に感じていました。』¹⁰

アレクサンダー・マクレー（ジョセフ・スミスとともにリバティーの監獄^{かんごく こうりゅう}に勾留された人物）。「預言者としての〔ジョセフ・スミス〕に対するわたしたちの信頼はとても大きく、『主はこのように言われる』とジョセフが言えば、わたしたちはそのとおりなのだ^と確信していました。そしてその言葉を試すほどに、信頼は深まっていきました。ジョセフの言葉が果たされないことは一度たりともなかったからです。』¹¹

ライマン・O・リトルフィールド（シオンの陣営の隊員）。「ジョセフは自分が主なる神から召されていた栄えある末日の業に全精力を注いでいました。』¹²



メアリー・アリス・
キャノン・ランバート

メアリー・アリス・キャノン・ランバート（1843年にノーブーに移住したイギリス人改宗者）。「初めてジョセフ・スミスを見たのは、1843年の春のことでした。ミシシッピ川を上って来たわたしたちの船がノーブーの船着場に着了たとき、数名の指導者の兄弟たちが、聖徒の一行を出迎えてくれました。その中に預言者ジョセフ・スミスがいたのです。わたしは一目で彼だと分かり、その瞬間、ジョセフが神の預言者であるという証を受けました。……ジョセフが

その人だと教えてもらったわけではありませんでした。それでもほかの人々から見分けることができ、わたしはまだ子供でしたが（わずか14歳でした）神の預言者を見たことが分かりました。』¹³

アンガス・M・キャノン（青少年時代をノーブーで過ごし、後にソ

ルトレーク・シティーでステーク会長となった教会員)。「ジョセフ兄弟について特に忘れられないのが、1844年の春、集まった聖徒たちに話をしたときの出来事です。神殿の南側、パーリー通りの近くの谷間にある、数本の大きなオークの木の下でのことでした。預言者は、神が御自分の教会を設立する際に、ただ一人の人物だけが教会に対して拘束力を持つ啓示を受ける権限を神から授かると定められたことについて話していました。……またこの同じときに、預言者が自分はペテロとヤコブとヨハネの働きの下でメルキゼデク神権を受けたと宣言するのを見ました。

ジョセフ・スミスの靈感に満ちた言葉がわたしの若い心にもたらした印象は、その後の人生を通じてひとときもわたしから離れませんでした。思いが暗闇の雲に覆われそうになったときには、ジョセフの証が鮮明に浮かび上がってきて、末日聖徒イエス・キリスト教会がまったく明らかな神の力と権能によって設立され、治められているということを、わたしに証言してくれました。』¹⁴

ハイラム・スミス (預言者の兄。教会の祝福師)。「過去に様々な預言者がいましたが、ジョセフはすべての預言者の霊と力を受けています。』¹⁵

ジョセフ・スミスは、キリストのような性質を伸ばすことにおいて、わたしたちが倣うことのできる模範であった



パーリー・P・プラット

パーリー・P・プラット (十二使徒定員会会員, 1835-1857年)。「ジョセフ・スミス大管長は背が高く、体格がよく、強く、活動的でした。肌は白く、髪は明るい色で、目は青く、ひげはとても薄く、独特な表情をたたえていました。……その顔つきはいつも穏やかで、話しやすく、知性と善意に満ちあふれていました。同時に物事に関心を持っていることもうかがわせ、無意識にほほえみを浮かべているようであり、朗

らかでしたが、感情を抑えたり苦みばした表情を装ったりすることはまったくありませんでした。静かで絶えず物事を見通すようなまなざしには何かがあり、まるで人の心の奥底を見通し、永遠を見詰め、天を貫き、あらゆる世界について理解しているのではないかと思われる

ほどでした。また、気品のある大胆さと自立心を備えた人物でした。その態度は人々を和ませ、親しみがあ^{しつせき}り、その叱責はライオンのようにすさまじく、その慈悲の心は大洋のように限りなく、その英知はあらゆる領域に及んでいました。』¹⁶

ジョン・ニーダム（初期のイギリス人改宗者）。「ジョセフ・スミスは偉大な人物であり、原則に従う人で、素直な人です。聖人ぶって暗い顔を見せるような人物ではなく、まったくその逆です。ジョセフがそのように素直で率直で明るい人物であるためにつまづく人もいますが、わたしはそんな彼によりいっそうの愛着を感じます。』¹⁷

エメリン・B・ウェルズ（中央扶助協会会長、1910-1921年）。「わたしは……ジョセフ・スミスがこの時代における最も偉大な人物であり、最も偉大な預言者であったことを証します。救い主の時代以降最も偉大な人物であったと言ってもよいでしょう。その威厳ある姿はすばらしいものでした。きっと皆さんはジョセフのことを、実際よりもずっと背が高く、大きく感じたことでしょう。立ち上がって歩くときにそう感じさせる人に、出会ったことがあると思います。預言者ジョセフがそうでした。わたしの知っている彼の肖像画で、その存在から漂う美しさと風格を余すところなく伝えているものを見たことはありません。』¹⁸

メアリー・アリス・キャノン・ランバート。「聖徒たちがジョセフに抱いていた愛は、言葉に尽くせないものでした。ジョセフのためなら、彼らは進んで自分の命を捨てたことでしょう。ジョセフが話すと聞けば、あらゆる仕事をわきに置いてその言葉に耳を傾けたでしょう。ジョセフはありふれた人物ではありませんでした。聖徒たちも罪人たちも同じように彼の力と影響力を感じ、また認めました。ジョセフに会って、その人柄と影響力に胸を打たれない人はいませんでした。』¹⁹



ジョン・M・バーンハイゼル

ジョン・M・バーンハイゼル（1843年から1844年にかけて、ノーブーのジョセフとエマの家に数か月間寄宿した医師）。「ジョセフ・スミスは生まれながらに強い精神力を持った人物であり、活力にあふれ、決意を貫き通し、大いなる洞察力と、人の持つ性質について深い知識を備えた人です。穏やかに判断し、視野が広く、正義を愛することにおいて傑出しています。優しく、進んで人に力を貸し、寛大で慈悲の心に富

み、社交的で明るく、物事について冷静に思い巡らす思慮深い人物です。正直で、率直で、何ものをも恐れぬ自立心があり、うわべだけの振る舞いをする事のない点においてはだれにも劣りません。……宗教の教師として、また一人の人間として、ジョセフ・スミスはこの民から大いに愛されています。』²⁰

ジェシー・N・スミス（ジョセフ・スミスのいとこ）。「〔預言者は〕かつて会った人の中で群を抜いて最も神に近い人物〔でした〕。……生来偽りを言ったり欺いたりすることができず、最高の優しさと高潔さを備えていました。一緒にいると、わたしはすべてを見通されているのではないかと感じました。わたしはジョセフが自ら公言していたおりの人物であったことを知っています。』²¹



ウィリアム・クレイトン

ウィリアム・クレイトン（ジョセフ・スミスの書記として働いたイギリス人改宗者）。「ジョセフと一緒にいればいるほど、彼に対する愛が深まります。ジョセフについて知れば知るほど、彼に対する信頼が深まります。』²²

ジョセフ・F・スミス（第6代大管長）。「ジョセフはこの上なく高潔で、純粋な人間性に満ちあふれていました。その現れとして、よくボール遊びや、兄弟たちとのレスリングなど、無邪気な遊びを楽しみました。ジョセフは、肩をいかせ、しかめ面をして、笑うようなことや楽しいことから無縁であるかのような印象の人物ではありませんでした。おお、ジョセフの心は喜びと楽しみと愛にあふれ、偉大で善良な人に見られるそのほかのあらゆる高潔な属性にあふれていました。それと同時に素朴で汚れがなく、最も低い状態にまで身を落とすことができました。そしてまた、神の恵みによって、全能者の目的を理解する力を受けていました。預言者ジョセフ・スミスとはそのような人物でした。』²³

福音を回復した預言者として、ジョセフ・スミスは神の救いの計画をはっきりと力強く教えた

ブリガム・ヤング。「ジョセフ・スミス兄弟の輝かしい卓越した特質は、天の事柄を限りある者たちの理解力に合わせて教えることができるという点でした。民に教えを説くとき——神にかかわる事柄、神

の御心^{みこころ}、救いの計画、エホバの目的、主やすべての天の存在とわたしたちとの関係を明らかにするとき、ジョセフ兄弟はすべての男女子供の能力に合わせて、明確に示された道のようにはっきりと教えました。このことはきっと、その教えを聞いたすべての人に、彼が神の権能と力を持っていることを確信させたことでしょう。だれもジョセフ兄弟のように教えることができず、だれもイエス・キリストの啓示によらなければ、神にかかわる事柄を明らかにすることはできないからです。]²⁴

ハワード・コーレイ（ジョセフ・スミスの書記）。「ジョセフ・スミスによって明らかにされた福音を研究してきたわたしは、人の救いと昇栄についてのこのような制度を、神の御霊の助けを受けずに明らかにすることができるだろうかと考えました。『できない』というのがわたしの結論です。ノーブーで、わたしは幾度も腰を下してジョセフ・スミスの説教に耳を傾け、言葉に言い表せないほどの雄弁さ、表現力に、完全に心を奪われてきました。あのように語る人をほかに見たことがありません。』²⁵



ジョセフ・L・ロビンソン

ジョセフ・L・ロビンソン（ノーブーにおいてビショッププリックで顧問を務めた）。「わたしたちはずっと以前からジョセフ・スミスが神のまことの謙遜な預言者^{けんそん}であると信じ、また確かに知っていましたが、今でははっきりと彼の姿が見え、彼の声が聞こえます。その声は天の激しい雷鳴のようであり、それでいて言葉は柔和で、有益で、人を大いに教化します。その言葉と教えには、かつてどんな人にも見たことのない力と威厳が備わっています。それは、ジョセフが力ある預言者であり、神の聖なる人だからです。ジョセフは確かに神の王国にかかわる事柄について教えを受けていました。あふれるばかりに聖霊に満たされていました。そして聖霊は常にジョセフの伴侶^{はんりよ}となっておられました。』²⁶

オーソン・スペンサー（1841年に教会に加わったバプテスト派の牧師）。「教義に関して、スミス氏は聖文にしっかりと準拠しています。わたしの知るかぎり、旧約聖書や新約聖書の真理を一つでも否定したり軽視したりしたことはなく、いつでも見事に説明し、擁護します。神の油注がれた者として、教会の人々を教え、完全な者とするために、彼は十分な教えを受けた学者のように、欠けている事柄を整えて、古

いものと新しいものをもたらす方法を知っていなければなりません。スミス氏はこの職務と使徒の務めを尊んで大いなるものとしているように思われます。彼が語ると、昔の預言者たちに突如として命が宿り、彼らの啓示の持つ美しさと力がすべての聞き手を引きつけて、人々に胸の躍るような関心を抱かせるのです。』²⁷

ジョナ・R・ボール（ノーブーに住んでいた教会員）。「集会に行き、神殿の床で預言者が教えを説くのを聞きました。数千人の聴衆がいました。間違いは一つもありません。予測がつかず、それでいて議論の余地のない方法で預言者は聖文を明らかにします。ペテロの第二の手紙の第1章を採り上げました。その章について、預言者は「真昼の」太陽のようにはっきりと説明しました。』²⁸

ウィリアム・クレイトン。「わたしたちはジョセフ・スミス・ジュニアと語る特権を与えられており、彼との交わりを喜んでいます。……ジョセフは……判断力に優れ、英知を豊かに備えています。その話に耳を傾ける者は英知を受け、それによって思いが広がり、心に喜びが生じます。非常に気さくであり、貧しい聖徒に対しても喜んで教えを授けてくれます。わたしは皆さんと話すのとまったく同じように、気楽にジョセフと言葉を交わすことができます。喜んで教えを授けてくれることにに関して、ジョセフは次のように言います。『わたしは価なしに受けているのですから、価なしに与えましょう。』どんな質問にも進んで答え、質問すると喜んでくれます。彼は聖文に非常に精通しているようです。どのようなテーマを扱っているときにも、そのテーマについてわたしがかつて経験したことのないような光と美しさが明らかにされます。もしジョセフと数日話をするためにわざわざイギリスからやって来ていたとしても、わたしはその苦難が十分に報われたと思ったことでしょう。』²⁹



マーシー・フィールディング・トンプソン

マーシー・フィールディング・トンプソン（イギリス人改宗者。夫のロバート・B・トンプソンはジョセフ・スミスの書記として働いた）。「わたしは……深遠で、難しい質問に対して預言者がはっきりと見事に説明するのを聞いてきました。預言者にとってはすべての事柄が簡単に理解できることのようなのでした。したがって、かつてわたしが耳にしたどんな説明よりも分かりやすく語ることができたのでした。』³⁰

初期の聖徒たちのように、わたしたちはジョセフ・スミスの言葉を心に留め、彼が教えた原則に従って生活することができる



エメリン・B・ウェルズ

エメリン・B・ウェルズ。「わたしは預言者ジョセフ・スミスの内に、聖徒たちに喜びと慰めをもたらし偉大な霊の力があるのを認めていました。……変貌していると思われるほどに神の力が預言者のうえにとどまったことが何度もありました。その表情は穏やかで、くつろいでいるときには子供のような様子でした。そして彼のことを深く敬愛している民に対して語るとき、預言者の顔は筆舌に尽くし難いほど輝いていました。また別のときには、預言者の立ち振る舞いから発散される大きな力が、その声以上に（声もわたしにとってはこの上なく雄弁でした）、わたしたちの立っている場所を揺り動かし、聞く者の心の奥底を貫くのではないと思われるほどでした。彼らは預言者を守るためなら進んで自分たちの命を捨てたことでしょう。わたしはいつも、この最後の神権時代に神から選ばれた預言者のあらゆる言葉にうっとりときき入っていました。』³¹



ロレンゾ・スノー

ロレンゾ・スノー（第5代大管長）。「初めて預言者ジョセフを見たのは、青少年のころ〔17歳ごろ〕のことでした。預言者は少数の会衆に話をしていました。自分が受けた天使の訪れについて語っていました。……人々はジョセフの話聞くのがとても好きでした。ジョセフには啓示があふれていたからです。……主の約束のとおり、ジョセフが教えた原則を受け入れた人々は、それらが真実であるという証^{あかし}を主から受けました。』³²

エドワード・スティーブンソン（七十人会員、1844-1897年）。「わたしが初めて預言者を目にしたのは、1834年、〔ミシガン州〕ポントティアックでのことでした。そのとき感動を受けたために、今こうして、預言者の多くの友人たちに当時の様子について話せることを大きな喜

びとしています。神のまことの預言者であるジョセフを愛する気持ちは、わたしの心に深く刻まれ、以来、60年近くが過ぎてきましたが、その気持ちはいつもわたしとともにありました。その同じ年、すなわち1834年に、預言者は幾度も大勢の会衆を前にして、御父と御子の訪れと、御二方と言葉を交わしたことについて非常に力強く証しました。そこで現されたような力を、わたしはかつて感じたことはありませんでした。』³³

メアリー・アン・スターンズ・ウィンターズ（パーリー・P・ブラット長老の継娘）。「預言者が神殿の近くの森の中でインディアンに教えを説いていたとき、わたしは預言者のすぐ傍らかたわに立っていました。聖なる御霊みたまがその顔に光を投げかけ、ついには光の輪のように彼の周りで輝き、預言者の言葉はそれを聞くすべての者の心を貫きました。……

わたしはカーセージから運ばれてマンションハウスに安置されていたジョセフ兄弟とハイラム兄弟の遺体を見ました。また二人が着ていた、彼らの命の血の色を残している衣服を見ました。わたしは彼らが神の人であり、忠実で真実な預言者と祝福師であったことを知っています。わたしたちが来るべき世きたで二人に会うにふさわしい者となることができますように。』³⁴

ウィルフォード・ウッドラフ。1837年4月6日の説教についての報告。「ジョセフ・スミス・ジュニア大管長は立ち上がり、神の力と霊と面影をまとうと、3時間にわたって会衆に話しました。預言者は自分の思いと気持ちを友人たちに打ち明けました。そしてイスラエルの長老たちに、非常に重要な多くの事柄を示しました。おお、それらの事柄がわたしたちの心に鉄の筆をもって書き記されてとこしえに残り、生活の中でそれらを実践することができますように〔ヨブ19：23-24参照〕。預言者ジョセフの心と口から出て来た、光と原則と徳の泉。その心はエノクの心と同じく、永遠のように膨れ広がっていました。そのように力強く示された証拠は、聞く者の思いから不信仰と疑念のかけらをことごとく取り除くことでしょう。そのような言葉や感情、原則、霊は、暗闇からわき出ることはあり得ないからです。ジョセフ・スミス・ジュニアは、イスラエルを救い出すために立てられた神の預言者です。それは、今わたしの心が内に燃えているのが確かであるように間違いのないことです。』³⁵

ブリガム・ヤング。「初めて預言者ジョセフに会って以来、わたしは王国についてジョセフが語る言葉ひとことを一言も聞き漏らしたことはありません。

ません。そしてこれこそ、今日わたしが手にしている知識の鍵^{かぎ}です。すなわち、ジョセフの言葉に耳を傾け、必要なときに思い起こせるように御子イエスの御名^{みな}によって御父に求めながら、それらを心に留め、蓄えたのです。神にかかわる事柄を大切に蓄えたのであり、これが今日わたしの手にしている鍵です。わたしはジョセフと神の御霊から学びたいと切に願っていました。』³⁶

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 495-497ページから預言者ジョセフ・スミスについての証^{あかし}を読んでもください。これらの証について印象に残ったことは何ですか。ジョセフ・スミスについて、あなた自身の証の基となっているものはどのようなことですか。あなたはどのようにしてこの証を得ましたか。その証を日記に書くか、家族と分かち合うとよいでしょう。
- 497-499ページには、ジョセフ・スミスの容姿や人柄や性質を述べた言葉が載っています。これらの言葉によって、ジョセフ・スミスに対するあなたの気持ちはどのように変わりましたか。これらの特質の幾つかをはぐくむ方法について考えてください。
- 預言者ジョセフが福音を教え、聖文を説明した方法についての証を研究してください(499-501ページ)。これらの証は、わたしたちが福音を研究し、教える際にどのような助けとなるのでしょうか。
- この章の最後の項(502-504ページ)を読んでもください。本書を研究するに当たって、ウィルフォード・ウッドラフやブリガム・ヤングの模範^{なら}にどのように倣うことができるのでしょうか。生ける預言者の教えを研究する際にはどうでしょうか。真理が「わたしたちの心に鉄の筆をもって書き記され」るようにするとはどういう意味だと思えますか。

関連聖句——2ニーファイ3：6-19；教義と聖約24：1-9；124：1

注

1. *History of the Church*, 第5巻, 408で引用。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正。1843年3月24日, イリノイ州ノーブーで, *Boston Bee*の記者(氏名不詳)によって書かれた手紙から。*Times and Seasons*, 1843年5月15日付, 200
2. *History of the Church*, 第5巻, 399。1843年4月8日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
3. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編(1938年), 46
4. アルバ・J・アレクサンダー “Joseph Smith, the Prophet,” *Young Woman’s Journal*, 1906年12月号, 541
5. アマサ・ポッター “A Reminiscence of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1894年2月15日付, 132
6. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1855年10月31日付, 268
7. エライザ・R・スノー “Anniversary Tribute to the Memory of President Joseph Smith,” *Woman’s Exponent*, 1874年1月1日付, 117。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正
8. バスシバ・W・スミス “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年6月1日付, 344
9. ウィリアム・フォード・ウッドラフ, *Deseret News*, 1858年1月20日付, 363。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正
10. ダニエル・D・マッカーサー “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年2月15日付, 129
11. アレクサンダー・マクレー。 *History of the Church*, 第3巻, 258で引用。1854年11月1日, ユタ州ソルトレーク・シティーで, アレクサンダー・マクレーが *Deseret News*の編集者にあてて書いた手紙から。 *Deseret News*, 1854年11月9日付, 1に掲載。原文(英語)においては, 句読点および文法は現代の用法に修正
12. ライマン・O・リトルフィールド, *Reminiscences of Latter-day Saints* (1888年), 35
13. メアリー・アリス・キャノン・ランバート “Joseph Smith, the Prophet,” *Young Woman’s Journal*, 1905年12月号, 554
14. アンガス・M・キャノン “Joseph Smith, the Prophet,” *Young Woman’s Journal*, 1906年12月号, 546。原文(英語)においては, つづりおよび文法は現代の用法に修正
15. ハイラム・スミス, *History of the Church*, 第6巻, 346で引用。1844年4月28日, イリノイ州ノーブーでハイラム・スミスが行った説教から
16. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編(1938年), 45-46。原文(英語)においては, 段落は変更
17. 1843年7月7日, イリノイ州ノーブーで, ジョン・ニーダムが両親にあてて書いた手紙。 *Millennial Star*, 1843年10月号, 89に掲載
18. エメリン・B・ウェルズ “The Prophet Joseph,” *Young Woman’s Journal*, 1912年8月号, 437-438。原文(英語)においては, 段落は変更
19. メアリー・アリス・キャノン・ランバート “Joseph Smith, the Prophet,” *Young Woman’s Journal*, 1905年12月号, 554
20. ジョン・M・バーンハイゼル。 *History of the Church*, 第6巻, 468で引用。原文(英語)においては, 段落は変更。1844年6月14日, イリノイ州ノーブーで, ジョン・M・バーンハイゼルがトーマス・フォードにあてて書いた手紙から
21. ジェシー・N・スミス “Recollections of the Prophet Joseph Smith,” *Juvenile Instructor*, 1892年1月1日付, 23-24。原文(英語)においては, 段落は変更
22. 1842年3月30日, イリノイ州ノーブーで, ウィリアム・クレイトンがウィリアム・ハードマンにあてて書いた手紙。 *Millennial Star*, 1842年8月1日付, 76に掲載
23. ジョセフ・F・スミス “Joseph, the Prophet,” *Salt Lake Herald Church and Farm Supplement*, 1895年1月12日付, 211。原文(英語)においては, つづりおよび句読点は現代の用法に修正
24. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1860年11月28日付, 305。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正
25. 1889年8月2日, コロラド州サンフォードで, ハワード・コーレイがマーサ・ジェーン・ルイスにあてて書いた手紙, 3-4, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
26. ジョセフ・P・リバー・ロビンソン, *Autobiography and Journals*, 1883-92, フォルダー 1, 22, 教会記録保管課
27. 1842年11月17日, イリノイ州ノーブーで, オーソン・スペンサーが書いたあて先不明の手紙。 *Times and Seasons*, 1843年1月2日付, 56-57に掲載。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正

28. 1843年5月19日, イリノイ州ノーブーで, ジョナ・R・ボールがハービー・ハワードにあてて書いた手紙。Jonah Randolph Ball, Letters 1842-1843, to Harvey Howard, マサチューセッツ州シュツベリー, 教会記録保管課
29. 1840年12月10日, イリノイ州ノーブーで, ウィリアム・クレイトンがイギリス・マンチェスターの教会員にあてて書いた手紙, 教会記録保管課
30. マーシー・フィールディング・トンプソン "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年7月1日付, 399。原文(英語)においては, 段落は変更
31. エメリン・B・ウェルズ "Joseph Smith, the Prophet," *Young Woman's Journal*, 1905年12月号, 556。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更
32. ロレンゾ・スノー, *Deseret Weekly*, 1889年4月13日付, 487
33. エドワード・ステイーブンソン, *Reminiscences of Joseph, the Prophet, and the Coming Forth of the Book of Mormon* (1893年), 4。原文(英語)においては, 段落は変更
34. メアリー・アン・スターンズ・ウィンターズ "Joseph Smith, the Prophet," *Young Woman's Journal*, 1905年12月号, 558。原文(英語)においては, 段落は変更
35. ウィルフォード・ウッドラフ, 1837年4月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教の報告。Wilford Woodruff, *Journals*, 1833-1898年, 教会記録保管課
36. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1877年6月6日付, 274。原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正



万物の回復—— 時満ちる神権時代

「今は確かに時満ちる神権時代です。天であれ地であれ、キリスト・イエスにあるすべてのものが主にあって集められる時であり、……万物が回復される時です。」

ジョセフ・スミスの生涯から

預言者ジョセフ・スミスはノーブー神殿に愛着を抱き、完成した神殿を目にすることを切望していた。ノーブーに住んでいたマーサ・コーレイは、ある説教の中で手を神殿に向けて伸ばし、沈んだ声で次のように述べた預言者を目にしている。「もし神の御心により、わたしが生き長らえて、土台から最上部の石まで完成した神殿を見ることができれば、わたしは言うでしょう。『おお、主よ、これで十分です。主よ、あなたの僕を安らかに行かせてください』と。」¹

後に大管長会の顧問となったジョージ・Q・キャノンは、次のように回想している。「亡くなる前、預言者ジョセフは〔ノーブー〕神殿の完成を目にしたという強い望みを表明していました。ジョセフの時代に教会にいた皆さんの大半がよく御存じのとおりです。預言者はよくこう言っていました。『仕事を急ぎましょう、兄弟たち。神殿を完成させましょう。主は皆さんのために大いなるエンダウメントを用意しておられます。わたしは兄弟たちがエンダウメントを受け、神権のすべてを受けることを切に望んでいます。』ジョセフは聖徒たちに作業を進めるよう促すとともに、建物を完成させることの重要性を絶えず説いていました。その建物の中ですべての人に、特に聖なる神権の定員会に、命と救いの儀式が執行されるようにするためでした。『そのとき、王国が確立されるでしょう。そうすればわたしは自分がどうなろうと構いません。』預言者はそう言っていました。」²



預言者ジョセフ・スミスは完成したノーブー神殿を見たいと切望し、よく次のように言っていた。「仕事を急ぎましょう、兄弟たち。神殿を完成させましょう。主は皆さんのために大いなるエンダウメントを用意しておられます。」

ノーブー神殿の設計では、カートランド神殿よりも大きく、さらに美しい建物を建築することが求められていた。ミシシッピ川を見渡す急勾配の丘の上に建つノーブー神殿は、完成すればイリノイ州で最も壮大な建造物の一つとなるはずだった。建築にはノーブーの近くの採石場から切り出された石灰石と、ウィスコンシン州の松林で伐採され、川に浮かべて運ばれた木材が使用された。完成時には、奥行き128フィート〔約39メートル〕、幅88フィート〔約27メートル〕、尖塔の頂の高さは165フィート〔約50メートル〕となる予定だった。外部の装飾として、月と太陽と星を描いた複雑な彫刻が施された石がはめ込まれ、多くの窓からさし込む日の光が内部を照らした。

ジョセフ・スミスは完成したノーブー神殿を見ることなく世を去った。しかしジョセフの死後、ブリガム・ヤングの指示の下に、何千人もの聖徒たちが神殿で神聖な儀式を受けた。聖徒たちがノーブーを追われた後、彼らの美しい神殿は破壊された。1848年には火災によって内部が完全に焼き尽くされ、1850年には竜巻によって壁の一部が倒壊し、残っていた壁も非常に弱くなったため、全体が取り壊された。それから約150年後、その同じ場所で、新しいノーブー神殿の建設が始まった。再建された神殿は2002年6月27日に奉獻され、全世界に100以上存在する神殿の一つとなった。これらの神殿はその一つ一つが、この最後の神権時代に、生者と死者を含めた神の子供たちに対する神の完全な祝福が回復されたことの象徴となっている。

預言者ジョセフ・スミスは、これらの大いなる祝福を地上に回復し、時満ちる神権時代の長として立つよう神から召されていた。預言者が務めを果たした期間に、歴史を通じて最も大いなる神権時代の基を据えるために必要なすべてのものが回復された。神権がその不可欠な数々の鍵とともに回復され、モルモン書が翻訳され、教会が組織され、そしてエンダウメントと結婚の結び固めの儀式と聖約を含む、教義と儀式と聖約が明らかにされた。主は、「終わりの時代のために、また天にあるものと地にあるもののすべてを一つに集める時満ちる時代のために、わたしの王国の鍵と福音の神権時代とを」ジョセフ・スミスにゆだねた、と宣言しておられる（教義と聖約27：13）。

ジョセフ・スミスの教え

この最後の神権時代に、以前の神権時代のすべての権能と儀式と知識が回復された

「人々が真理に背を向け、神権が取り去られているとき、神はいつでも天の諸事の秩序に従って新しい神権時代を開かれます。」³

1842年9月6日、預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちにあてて次のように記し、それは後に教義と聖約128：18として記録された。「今や訪れようとしている時満ちる神権時代の到来に当たって、アダムかきの時代から現在に至るまでの、神権時代と鍵と力と栄光のすべての、ことごとくの、完全な和合と結合が起こり、示されることが必要…です。またこれだけではなく、世の初めからまだ一度も示されておらず、知恵のある者や賢い者から隠されてきた数々の事柄も、この時満ちる神権時代には、みどりごや乳飲み子に示されることでしょう。」⁴

「まことに、今は終わりの時であり、いつまでも聖徒たちの記憶に残される時代となります。今、天の神はその僕たちと民に、御自分の王国のかつての秩序を回復し始めておられます。完全な福音、もろもろの神権時代の中でも完全な神権時代、すなわち時満ちる時代を完成するために、万事がともに働いています。これまでにあったこと、また昔の預言者や賢人たちが目にすることを望みながらかなうことなく世を去っていった、それらの事柄を、神が御自分の教会において明らかにし、整え始めておられます。また創世の前から隠されてきたことが明らかにされ始め、主の栄光すなわち日の栄えの栄光と、神と小羊の祭司たちと王たちの王国が、シオンの山にとこしえに戻って来るときに地を備えさせるために、エホバが御自分の定められたときにその僕たちに知らせると約束しておられることが、明らかにされ始めています。」⁵

「時満ちる神権時代には、以前のすべての神権時代において明らかにされてきた事柄と、かつて明らかにされたことのない事柄も明るみに出されるでしょう。神は預言者エリヤとその他の僕たちを遣わし、キリストみむねにあつて万物を回復されるでしょう。」⁶

「『御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さいだったのである。それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあ

るものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。』〔エペソ1：9-10〕

さて、最後の神権時代の仕上げとして神が定めておられる計画では、以前の神権時代に厳密に従ってその神権時代に関するすべてのことが行われます。

さらに、神が定めておられる計画では、すべての神権時代がその目的を達して、一つに集められるまで、永遠に完全な状態とはなりません。また何であろうと、それらの神権時代が一つに集められて同じ完全と永遠の栄光に達するには、あらゆることがキリスト・イエスにあって行われなければなりません。……

……最後の神権時代には、もろもろの神権時代に全能者の指示と命令の下で神権によって求められたすべての儀式と務めが登場することになります。したがって、過去の時代に神権の権能の下で存在したすべてのものが再び存在することになり、すべての聖なる預言者たちの口を通して語られた回復が実現するのです。』⁷

ジョセフ・スミスは時満ちる神権時代の鍵かぎを持っている

「わたしは……最後の王国の鍵を持っています。それはメルキゼデク神権の結び固めの力の下で、世の初めからすべての聖なる預言者たちの口を通して語られてきたすべてのことが満ちる神権時代です。』⁸

「世に住む人々を教え導く召しを受ける人は皆、世界が存在する前に天上の大会議においてその目的のために聖任を受けました。わたしはその大会議において、まさにこの職に聖任されたと思います。わたしが望んでいるのは、わたしが神の僕であり、またこの民が神の民であるという証あかしをしっかりと持つことです。昔の預言者たちは、終わりの時に天の神は一つの王国を建てられ、それは決して滅ぼされることも、ほかの民に渡されることもないと宣言しました。……

わたしはダニエルが主の言葉によって述べた王国を建てるために使われる者の一人となるつもりであり、全世界に大変革を起こす一つの基を据えるつもりです。』⁹

「わたしの前には王国の計画のすべてがあり、それを受けている人はほかにいません。』¹⁰

ルーシー・マック・スミスは、1832年にジョセフ・スミスがオハイオ州カートランドで教えを説くのを聞き、預言者が次のように語ったのを記憶している。「わたしはこの最後の神権時代の鍵を持っており、

この世においても永遠にわたってもとこしえに持ち続けるでしょう。ですから心安らかにしてください。万事がうまくいくからです。』¹¹

**この最後の神権時代は非常に重要であり、聖徒たちは完全な、
無私の献身が求められている**

1840年9月、ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちは、教会員に向かって次のように宣言した。「この終わりの時における主の業は、非常に重要であって、死すべき者の理解をほとんど超えています。その栄光は筆舌に尽くし難く、その壮大さはあらゆるものをしのいでいます。これこそ、世の創造以来今日に至るまでのすべての世代を通じて、預言者や義人たちが胸を高鳴らせてきたテーマです。今は確かに時満ちる神権時代です。天であれ地上であれ、キリスト・イエスにあるすべてのものが主であって集められる時であり、世の初めからすべての聖なる預言者たちによって語られてきたように、万物が回復される時です。先祖に与えられた数々の約束が栄光のうちに成就し、いと高き者の大いなる、輝かしい、崇高な力が現されるでしょう。……

……わたしたちは目標に向かって前進し、完全で栄光に満ちた王国を築き上げ、神権を確立するために力を合わせたいと思います。終わりの時に成し遂げるべき業は非常に重要であって、預言者が述べた栄光と威光を帯びてその業が転がり進むように、聖徒たちは精力と技術と才能と能力を用いることを求められるでしょう〔ダニエル2：34－35、44－45参照〕。したがって、そのような重要で壮大な業を成し遂げるために、聖徒たちは専心することを求められるでしょう。

最後の神権時代の栄光をもたらすために、聖典の中で語られている集合の業が必要となるでしょう。……

わたしたちが召されている業すなわち神の目的を推し進め、この最後の神権時代において主とともに働きたいと思っている、愛する兄弟の皆さん。わたしたちはこの地の至る所と、また海の島々にいる聖徒たちが心から協力する必要があると感じています。聖徒たちは勧告に聞き従い、教会と、王国の確立に注意を向け、利己的な考え方や低俗で卑しいものをことごとく捨て、真理の大義にあって大胆に立ち、規範と計画を授けられている者たちを力のかぎり支援する必要があります。……

そういうわけで、愛する兄弟の皆さん、ここに天使長たちにふさわしい、携わるべき業があります。これまでに成し遂げられてきた事柄

がかすんで見えるような業です。過去の時代の王、預言者、義人たちが目にするのを願い、期待し、熱心に望んできた業です。しかし彼らはそれを目にすることなく世を去って行きました。エホバの力強い働きを実現するために助けの手を差し伸べる人々は幸いです。』¹²

「シオンを築き上げることは、あらゆる時代の神の民が関心を寄せてきた大義であり、預言者、祭司、王たちが、特別な喜びをもって語ってきたテーマです。彼らはわたしたちが生きている時代を、喜びの期待を込めて待ち望み、すばらしい喜びあふれる期待に胸をはずませながら、このわたしたちの時代について歌い、書き記し、預言しました。しかし彼らはそれを目にすることなく世を去って行きました。わたしたちは、末日の栄光をもたらすために神から選ばれ、祝福された民です。末日の栄光を目にし、それに加わり、前進させるという務めを任されているのです。それは『時満ちる神権時代であり、そのときに神は天にあるすべてのものと地にあるすべてのものを一つに集められ』ます〔エペソ1：10参照〕。また、神の聖徒たちがあらゆる国民、部族、国語の民、民族から一つに集められ、ユダヤ人が一つに集められ、また預言者たちが語ってきたように、悪人たちも滅ぼされるために一つに集められます。また神の御霊が神の民とともにとどまり、残りの国民から取り去られ、天にあるものも地にあるものも、すべてがキリストにあって一つとなるでしょう。

これらの偉大な目的を達するために、天の神権者たちと地上の神権者たちは一つになるでしょう。わたしたちが神の王国を前進させるために、一つの共通の大義においてこのように結束するとき、天の神権者たちは単なる傍観者に終始することはありません。また、神の御霊が注がれて、わたしたちのただ中にとどまるでしょう。いと高き者の祝福がわたしたちの幕屋に向けられ、わたしたちの名は後の時代に語り継がれるでしょう。子供たちは立ち上がってわたしたちを祝福された者と言ひ、まだ生まれていない世代の人々は、わたしたちが業の基を据えるに当たって乗り越えてきた出来事、堪えてきた窮乏、示してきたたゆまぬ熱意、そして克服してきた圧倒されるばかりの困難について、特別な喜びを込めて語るでしょう。その業とはすなわち、彼らが成し遂げるであろう栄光と祝福をもたらしてきた業であり、神と天使たちが幾多の世代にわたって喜びを込めて思いをはせてきた業、昔の族長たちや預言者たちの心を燃え立たせた業、暗闇の力を滅ぼし、地球を更新し、神の栄光と人類家族の救いを回復する業です。』¹³



ユタ州プロボにある宣教師訓練センターの専任宣教師たち。ジョセフ・スミスは、最後の神権時代には「聖徒たちは勧告に聞き従い、……真理の大義にあって大胆に立〔つ〕……必要があります」と宣言している。

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 507-509ページを読んでください。主の業を成し遂げるうえで神殿がそれほど大切なのはなぜでしょうか。
- 昔の預言者や賢人たちがわたしたちの時代を待ち望んだのはなぜだと思いますか（例として、510-511ページ参照）。時満ちる神権時代に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることの特権について、深く考えてください。
- 511ページの第5段落を研究してください。この言葉について考えるとき、教会における自分の召しについてどのような思いや気持ちを抱きますか。

- 511ページの第6から第8段落を読んでください。これらの言葉は、預言者ジョセフ・スミスの使命についてあなたが持っている証をどのように強めてくれるでしょうか。
- 預言者ジョセフ・スミスは、「この終わりの時における主の業は、非常に重要であ[る]」(512ページ)と語りました。最後の神権時代に主の業を成し遂げるために、貢献するというわたしたちの責任について考えながら、512-513ページを研究してください。この業を成し遂げるには「力を合わせ」なければならず、「利己的な考え方……をことごとく捨て」なければなりません。それはなぜでしょうか。主の業に貢献するために、どのように「精力と技術と才能と能力」を用いることができるかを考えてください。

関連聖句——教義と聖約27：12-13；90：2-3；112：30-32；124：40-41

注

1. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイによる、イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教に関する報告の中での引用。Martha Jane Knowlton Coray, Notebook. 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティ。この説教の日付は、コーレイ姉妹のノートでは1840年7月19日とされているが、説教が行われたのはもっと後のことであったと思われる。
2. ジョージ・Q・キャンロン, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1869年12月14日付, 2
3. *History of the Church*, 第6巻, 478-479。1844年6月16日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
4. 教義と聖約128：18。1842年9月6日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスが聖徒たちにあてて書いた手紙
5. *History of the Church*, 第4巻, 492-493。1842年1月6日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが書いた日記から
6. *History of the Church*, 第4巻, 426。1841年10月3日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会の議事録から。*Times and Seasons*, 1841年10月15日付, 578に掲載
7. *History of the Church*, 第4巻, 208, 210-211。1840年10月5日, イリノイ州ノーブーで開かれた教会の大会で読まれた, ジョセフ・スミスによって用意され
- た説教から
8. *History of the Church*, 第6巻, 78。原文(英語)においては, つづりは現代の用法に修正。1843年11月13日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジェームズ・アーリントン・ベネットにあてて書いた手紙から。*History of the Church* では, ジェームズ・ベネットの姓が“Bennett”と誤ってつづられている
9. *History of the Church*, 第6巻, 364-365。1844年5月12日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
10. *History of the Church*, 第5巻, 139。1842年8月29日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィリアム・クレイトンによる報告
11. ルーシー・マック・スミスによる, 1832年の初めにオハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが行った説教に関する報告の中での引用。Lucy Mack Smith “The History of Lucy Smith, Mother of the Prophet,” 1844-1845年の原稿, book13, 5, 教会記録保管課
12. *History of the Church*, 第4巻, 185-187。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1840年9月, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスと大管長会の顧問たちが聖徒たちにあてて書いた手紙から。*Times and Seasons*, 1840年10月号, 178-179に掲載
13. *History of the Church*, 第4巻, 609-610。

原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正、段落は変更。*Times and Seasons*, 1842年5月2日付, 776に掲載された論説“The Temple”から。ジョセフ・スミスは同紙の編集者であった



預言者としての使命に対する ジョセフ・スミスの思い

「わたしはすべての人に善を行うほか何も望んでいません。」

ジョセフ・スミスの生涯から

預言者ジョセフ・スミスの務めの当初から、ジョセフは度々命の危険にさらされてきた。主は何度もジョセフを敵から救い出してこられたが、預言者は地上での使命を終えたら、自分が死ぬであろうことを理解していた。1842年、ノーブーでのある葬儀において、預言者は次のように述べている。「ジョセフ兄弟は死ぬはずがないと思っている人がいますが、それは間違いです。ある事柄を成し遂げるために生き延びることを約束されたことが何度かあったのは確かです。しかしそれらを成し遂げた今、命が続くという約束はありません。ほかの人々と同じように、死を免れ^{まぬが}ないのです。』¹

預言者は、自分とノーブーに住むすべての聖徒がますます危険の度を増す状況にあることを十分に承知していた。ノーブーが発展するにつれて、地域の住民の中に聖徒たちが政治的および経済的な力を増していくことに不安を抱く人々が出始めていた。その上、暴徒が再び彼らを悩ますようになっていた。またミズーリ州から来た当局者たちが預言者の逮捕を繰り返し試みており、教会から背教した者たちもますます敵意を募らせて預言者を抹殺しようとしていたことから、預言者は特に危険な状況にあった。1842年8月6日、預言者は教会員がやむを得ずノーブーを離れなければならない時が来ることを、次のように宣言した。

「わたしは次のように預言しました。聖徒たちは引き続き多くの苦難に遭い、そしてロッキー山脈に追われるでしょう。多くの人が背教するほか、迫害者によって殺される人や、厳しい気候や病気のために命を落とす人もいるでしょう。それでも皆さんの中には生き長らえて、行って入植地や町を築くために力を尽くし、聖徒たちがロッキー山脈



ジョセフ・スミスは時間を割いて、自分が個々の聖徒を心にかけていることを示した。マーガレット・マッキンタイヤー・バージェスは、預言者を「愛にあふれた、子供たちの友」と呼んでおり、自分と兄がぬかるみにはまって動けなくなったときに預言者が助けてくれたことを覚えている。

のただ中であって力強い民になるのを見る人たちがいるでしょう。]²

預言者が生涯における最後の数年間に残した説教や文書には、その言葉に切迫感がにじみ出ている。自分の時間が短いことを知った預言者は神から明らかにされてきた事柄を聖徒たちに教えるために熱心に働き、これらの真理を受け入れる備えをするように促した。また聖徒たちを心から愛していることを伝え、彼らのために進んで自分の命を捨てるとさえ言明している。「わたしは最大の益と善をもたらすことのできる方法で犠牲としてささげられる用意ができています。]³

幾多の迫害を堪え忍び、発展を続ける教会から様々な要求を絶えず突きつけられていたにもかかわらず、預言者は個々の教会員を心にかけていることを示す時間を取っていた。これは驚くべきことである。後に多くの聖徒たちが、預言者ジョセフが示してくれた愛と優しさを思い起こしている。

アロエット・L・ヘイルは次のように回想している。「預言者は……よくマンション〔ハウス〕から出て来てわたしたち男の子とボール遊びをしました。彼の息子のジョセフはわたしと同じくらいの年齢でした。〔預言者〕ジョセフはいつもルールを守り、打つ番が来るまでは守備についていました。体格に非常に恵まれていたので、その打球はとても遠くまで飛び、わたしたちはボールを追いかけて行く少年に向かって、『夕食を持って行きなよ』と叫ぶのでした。それを聞いて預言者はよく笑っていました。ジョセフはいつも温厚で、愉快な人でした。]⁴

マーガレット・マッキンタイヤー・バージェスは、ノーブーでの預言者との思い出を次のように語っている。「兄と一緒に学校に向かう途中でジョセフのれんが造りの店として知られる建物の近くを通ったときのことでした。前日に雨が降ったため、地面がとてもぬかっていました。その道は特にそうでした。兄のウォレスとわたしは二人ともぬかるみにはまって抜け出せなくなり、子供でしたから、もちろん泣きだしました。ずっとそこにいなければならないと思ったのです。ところが顔を上げると、愛にあふれた、子供たちの友である預言者ジョセフがやって来るのが見えました。預言者はすぐにわたしたちをもっと高い、乾いた所に運んでくれました。それからかがんで、わたしたちの重くなった小さな靴から泥を取り除き、ポケットからハンカチを取り出して、涙をふいてくれました。そして優しい励ましの言葉をかけてくれました。わたしたちは預言者に送られて、喜びながら学校に向かいました。わたしがあの偉大で善良で高潔な神の人を愛したことに、何の不思議があるでしょうか。]⁵

ジョセフ・スミスの教え

**預言者たちは神が自分に明らかにされたことを教え、
わたしたちは預言者たちの言葉を理解し、心に留めるように努める**

「わたしの心に大波のように押し寄せてくる数々の示現を、神の聖徒たちにどのようにして理解させればよいかを知りたいと、わたしは一日中考えています。それはわたしにとって飲食に勝ることです。おお、皆さんの考えたこともない事柄を皆さんに伝えることができれば、どんなにうれしいでしょう。しかし貧しさ^{わづら}と世の煩い^{わづら}によってそれが阻まれています。……

全能の神にホサナ、ホサナ、ホサナ。まさに今、光がわたしたちの上に注がれ始めています。わたしには自分を表現する言葉が見つかりません。わたしは無学ですが、だれにも劣らない善意を持っています。おお、わたしに天使長の言葉が与えられて、一度でも友である皆さんに自分の気持ちを伝えられたらよいのですが。しかしこの世にいる間、それは決してかなわないでしょう。』⁶

「この時代の人々に何かを理解させるのはとても難しいことです。それはくさびの代わりにトウモロコシパンを、木づちの代わりにカボチャを手にしてツガの木の節を割るようなものです。聖徒たちでさえも、容易に理解しません。

神にかかわる事柄を受け入れる心の準備をさせようと、わたしはこれまで何年も聖徒たちに働きかけてきました。しかし、よく目にしているように、ある人々は神の業のためにあらゆる苦しみを受けた後、何か自分たちの言い伝えと相いれない事柄に出会うと、たちまちガラスのように砕け散ってしまいます。少しの間も火に耐えることができません。どれだけの人が日の栄えの律法に従い、すべてを乗り越えて、昇栄を受けられるのか、わたしには言えません。召される者は多いが、選ばれる者は少ないからです〔教義と聖約121：40参照〕。』⁷

「わたしはほかの人々と違って、その日の務めに四六時中没頭しており、このような〔葬儀の〕機会で何を話すかについては、すべてを生ける神に頼らなければなりません。……

もしわたしが靈感と啓示と身体的な力を受けて、過去にわたしが考えてきた事柄を伝えるとしたら、この会衆の中にいる人は皆家に帰ると、何かが分かるまで、宗教についていつまでも黙りこくっていることでしょう。

皆さんは自分のあらゆることがそんなにも不確かなのに、どうして神にかかわる事柄を理解しているとそんなに確信しているのでしょうか

か。そこで、わたしに分け与えることのできるすべての知識と英知を、喜んで皆さんに授けましょう。』⁸

「主の言葉をもっと多く語らないので、わたしを墮落した預言者だと言う人がいます。なぜ語らないのでしょうか。わたしたちは受け入れることができるでしょうか。いいえ。それができる人はこの部屋の中に一人もいません。』⁹

「わたしは聖霊によって自分に明らかにされる事項を、その時々皆さんに明らかにするつもりです。現在わたしに対して企てられている偽りはすべて悪魔から出ているものです。神の王国に敵対するために、悪魔とその僕たちの影響力が用いられることでしょう。神の僕たちは永遠の命の原則のほかは何も教えません。皆さんはその行いによって彼らを見分けるでしょう。善良な人は善いことと聖なる原則を、邪悪な人は悪いことを語るでしょう。わたしは主の名によって、すべてのそのような誤った原則を非難し、偽りを言う者を叱責し、またすべての皆さんに、自分がだれに従っているかに気をつけるようにと警告します。わたしが授けてきたすべての徳と教えを心に留めるように勧めます。……

次のことについて考えてください。皆さんの信仰に徳や愛を加えてください。主の名によって申します。もしこれらが皆さんの内にあるなら、皆さんは豊かに実を結ぶでしょう〔2ペテロ1：5-8参照〕。わたしは証します。わたしのほかに、天と地と地獄にあるものを明らかにする力を持つ者はいません。……皆さんがすべてのものを受け継ぐことができるように、わたしは皆さん全員を神に推薦します。神が祝福を加えてくださいますように。』¹⁰

預言者は人の弱さを持っているが、神の民を教え導くように 神から召されている

1835年11月6日の預言者の日記には、次のように書かれている。「今朝わたしは、東部から来たある人に紹介されて会いました。彼はわたしの名前を聞くと、わたしのことをただの人間じゃないかと言いました。その言い方からすると、主が御心を明らかにするのにふさわしいと思われる人は、何か人並み外れた存在であるに違いないと考えていたことが分かります。その人は、聖ヤコブの言葉を忘れていたようです。すなわち、〔エリヤは〕わたしたちと同じように感情に動かされる人でしたが、神から力を受け、祈りが聞かれると天が閉じて3年6か月の間雨が降らず、そして再び祈りが聞かれると天から雨が降り、地

がその実をみのらせたのです〔ヤコブの手紙5：17-18参照〕。まさに、今の時代の人々はこのように知識不足で無知なので、人が創造主と〔交わり〕を持つことなど信じ難いと考えています。〕¹¹

「かつて、わたしがこの壇上から何か間違ったことを教えたことがあったでしょうか。かつて、わたしが混乱に陥ったことがあるでしょうか。わたしは、この世を去り、姿が見られなくなる前に、イスラエルが勝利することを望んでいます。わたしは自分が完全であると言ったことは一度もありません。しかし、わたしが教えてきた啓示には、まったく誤りがありません。そうであるのに、わたしは無益なもののように投げ出されなければならないのでしょうか。〕¹²

「わたしは間違いを犯しますが、訴えられているような間違いは犯していません。わたしの犯す間違いは、ほかの人と同様、人間的な弱さによるものです。過ちなしに生きる人はいません。もしイエスがここにおられたとしたら、主は皆さんの目に過ちのない御方であったと思いますか。主に敵対する者たちはあらゆる悪口を主に浴びせました。彼らは皆主に罪悪を見いだそうとしました。〕¹³

1842年10月29日の預言者の日記には、次のように書かれている。「わたしが……〔イリノイ州ノーブーの〕店に行くと、多くの兄弟姉妹が集まっていた。今朝ニューヨーク近郊から到着した人々だった。……わたしは彼らに、自分がただの人であって、完全であることを期待してはいけなと言った。もしわたしに完全であることを期待するなら、わたしも彼らに同じことを期待し、もしわたしの弱さや兄弟たちの弱さを我慢してくれるなら、わたしも同じように彼らの弱さを我慢しようと言った。〕¹⁴

預言者は妨害を受けても、神から与えられた使命を果たす

「この場に同席できる特権をうれしく思い、また感謝します。敵はわたしをミズーリ州に連行して殺害しようと躍起になっていますが、主が彼らの道をふさいでくださり、彼らはいまだその目的を達することができずにいます。神はわたしを彼らの手から逃れられるようにしてくださっています。わたしは善の戦いに従事してきました。……

わたしは敵に勝利を得るでしょう。すでに国内において勝利を収め始めており、国外においても勝利するでしょう。わたしに敵対する者は皆、必ず自分の罪悪の重さをその頭上に感じるでしょう。〕¹⁵

「わたしは大胆に、忠実に、また権能を持つ者として語ります。……わたしは自分の言っていることを承知しています。自分の使命と務め

を理解しています。全能の神が盾となってくださいます。もし神がわたしの友であられるなら、人に何ができるでしょうか。わたしの時が来るまで、わたしが犠牲とされることはありません。その時が来れば、わたしは潔くささげ物となりましょう。……わたしを敵から守ってくださっている神に感謝します。わたしには真理を擁護するとき以外に敵はいません。すべての人に善を行うほかに何の望みもありません。わたしはすべての人のために祈ります。』¹⁶

「もしわたしが実際にこの業を始めておらず、また神から召されていないなかったとしたら、わたしは身を引くでしょう。しかし退却することはできません。わたしは真理に対して何の疑いも抱いていません。』¹⁷

「わたしは荒削りな石です。主の手に取られるまで、わたしからは金づちの音ものみの音もしませんでした。わたしが望んでいるのは天の知識と知恵だけです。』¹⁸

「今朝、わたしは預言し、証言します。地と地獄のあらゆる力が連合しても、この未熟者を倒すことも征服することもできません。わたしは永遠の神から約束を受けているからです。もしわたしが罪を犯したとすれば、表面的にはそのとおりです。けれども、わたしが神にかかわる事柄に深く思いを寄せてきたことは間違いありません。』¹⁹

「人々がやって来て、ほかの、人の土台の上に建てる時、彼らは神からの権能なしに、自分たちの責任においてそうしているのです。そして洪水が押し寄せ、風が吹くとき、その土台は砂であることが分かり、建物全体が崩れてちりとなるでしょう。

わたしは、ほかの、人の土台の上に建てたでしょうか。わたしはキリスト教世界が持っていたすべての真理と、さらにそれらとは別の啓示を受けてきました。神はわたしに勝利を得させてくださるでしょう。』²⁰

預言者は自分の仕える人々を愛しており、彼らを正しく導くことを望んでいる。たとえ正しく導くために彼らを叱責することを求められるとしてもそうである

「人がその友のために命を捨てること、これよりも大きな愛はありません〔ヨハネ15：13参照〕。何百人、何千人という兄弟たちが、わたしのために進んで命を犠牲にしてくれることを知っています。

わたしには非常に大きな重荷がのしかかっています。迫害者たちは休みを与えてくれません。職務を果たし、気苦勞の絶えない中で、心は熱しているが肉体は弱いことを実感します。わたしは、この神権時

代にこの大いなる業と王国の基を据え、明らかにされた神の御心^{みこころ}を、散らされたイスラエルに証^{あかし}するために天の御父に召された者であるとはいえ、昔の預言者たちと同様、ほかの人々と同じようにひたむきな感情を抱く人間です。……

わたしは教会の中に何の過ちも見いだすことができません。ですから天に昇ろうと、地獄に落ちようと、あるいはほかの場所に行こうと、聖徒たちとともに復活させてください。そしてもし地獄に行くなら、わたしたちは悪霊たちを追い出してそこを天としましょう。この民のいる所には、すばらしい交わりがあるのです。』²¹

「わたしが聖徒たちと親しく接し、陽気で朗らかであるからといって、現在起きている事柄に気づいていないと思わないでください。教会においてはどんな罪悪も容認されることがなく、わたしのいる所でそのようなことは許されません。自分が教会を導いている間は正しく導こうと決意しているからです。』²²

「もしわたしが幸運にも神について理解しており、御霊^{みたま}が結び固めてくださるように諸原則を皆さんに説明し、皆さんの心に届けるべき人物であるとするならば、すべての男女がこれからは黙って座り、手を口に当て、二度と神の人や神の僕^{しもべ}たちに逆らって手や声を上げたり、何かを言ったりすることのないようにしてください。……もしわたしが皆さん



「これらの言葉を、富んでいる人と貧しい人、束縛されている人と自由な人、大いなる人と小さな人、すべての人に向けて話します……わたしはすべての人を、特にこれらの兄弟姉妹を愛してい[ま]す。」

を神の知識に導いているのであれば、わたしに向けられている迫害はすべてやむはずです。そのとき皆さんは、わたしが神の僕であることを知るでしょう。わたしは権威を持つ者として語るからです。……

……わたしは永遠の命の諸原則を味わうことができます。皆さんもそうです。それらはイエス・キリストの啓示によって、わたしに与えられます。わたしがこれらの永遠の命の言葉を、与えられたままに語る時、皆さんはそれらを味わい、そして信じると、わたしは知っています。皆さんは蜜は甘いと言います。わたしもそうです。わたしはまた、永遠の命の霊も味わうことができます。それが良いものであることを知っています。そしてわたしが聖なる御霊の靈感によって与えられたこれらのことを語る時、きっと皆さんはそれらを甘いものとして受け入れ、いっそうの喜びを得ることでしょう。……

これらの言葉を、富んでいる人と貧しい人、束縛されている人と自由な人、大いなる人と小さな人、すべての人に向けて話します。わたしはだれにも敵意を抱いていません。皆さん全員を愛しています。しかし皆さんの行いの一部を嫌悪しています。わたしは皆さんの親友です。もし人がその目標に到達できないとしたら、それはその人自身の責任です。もしわたしがだれかを叱責し、その人がわたしに敵意を抱くとしたら、その人は愚かです。わたしはすべての人を、特にこれらの兄弟姉妹を愛しているからです。

……皆さんはわたしのことを知りません。またわたしの心を理解しませんでした。だれもわたしが経験してきたことを知りません。わたしはそれを話せません。話そうとすることもないでしょう。わたしの経験してきたことを信じなくても、わたしはだれもとがめません。もし自分が経験していなかったなら、わたし自身も信じていなかったでしょう。この世に生まれて以来、わたしはだれも傷つけたことはありません。わたしの声はいつも平和を求めています。

わたしは自分の業がすべて終わるまで身を横たえることができせん。悪事を考えることも、同胞を傷つけるようなことも決してしません。わたしが天使長のラッパによって呼び寄せられ、はかりにかけられるとき、皆さんはわたしを知るでしょう。これで終わります。神が皆さんの全員を祝福してくださいませように。』²³

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質

間について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 517ページから、ジョセフ・スミスがノーブーで受けた迫害について読んでください。次に519ページを開き、ジョセフがノーブーで子供たちを助け、彼らと遊んだ話を読んでください。ジョセフがそのように陽気で思いやりのある態度を保ち続けられたのはなぜだと思いますか。試練のときも変わらず幸せで愛にあふれた者であるために、どのようなことができるでしょうか。
- 聖徒たちは預言者ジョセフが教えたいと思っていた事柄のすべてを受け入れる用意ができていませんでした（520-521ページ参照）。それに対するジョセフの落胆に注意しながら、520ページの第3、第4段落を読んでください。わたしたちがさらなる真理を受け入れるのを妨げるものとして、どのようなことが考えられますか。「神にかかわる事柄を受け入れる心の準備を」するために、どのようなことができるでしょうか。
- 521ページの下から始まる段落と、続く二つの段落を読んでください。教会指導者の人間的な欠点のために指導者に従うのを拒む人に、どのような助言ができるでしょうか。522ページの第3段落を読んで、この言葉がすべての人との関係にどのように当てはまるかを考えてください。
- ジョセフ・スミスは、神が自分を守り、この世の使命を成し遂げられるようにしてくださるという信仰を表しています（522-523ページ）。家庭での責任や教会での召しを果たすうえで、あなたはこれまで神からどのような助けを受けてきましたか。
- 525ページの最初の二つの段落を読んでください。あなたはこれまでどのようなときに真理のすばらしさを実感してきましたか。預言者やほかの教会指導者から自分たちの悪い行いをたしなめられたときでも、彼らの言葉を喜びとするにはどうすればよいでしょうか。
- 本章全体に素早く目を通し、あなたにとって特に役立つ言葉を一つか二つ見つけてください。なぜその言葉を選びましたか。本章の内容は、預言者ジョセフ・スミスに対するあなたの証にどのような影響を及ぼしましたか。

関連聖句——ダニエル2：44-45；2テモテ4：6-8；モルモン書ヤコブ1：17-19；モーサヤ2：9-11；モルモン9：31

注

1. *History of the Church*, 第4巻, 587. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正。1842年4月9日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
2. *History of the Church*, 第5巻, 85. “History of the Church” (原稿), book D-1, 1362から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
3. *History of the Church*, 第5巻, 159. 1842年9月8日, イリノイ州ノーブーで, ジョセフ・スミスがジェームズ・アーリントン・ベネットにあてて書いた手紙から。*History of the Church*では, ジェームズ・ベネットの姓が“Bennett”と誤ってつづられている
4. アロエット・L・ヘイル “First Book or Journal of the Life and Travels of Aroet L. Hale.” 23–24. Aroet Lucius Hale, *Reminiscences* (1882ごろ), 教会記録保管課
5. マーガレット・マッキンタイヤー・バージェス “Recollections of the Prophet Joseph Smith.” *Juvenile Instructor*, 1892年1月15日付, 66–67
6. *History of the Church*, 第5巻, 362. 原文(英語)においては, つづりおよび句読点は現代の用法に修正, 段落は変更。1843年4月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告
7. *History of the Church*, 第6巻, 184–185. 1844年1月21日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
8. *History of the Church*, 第5巻, 529–530. 原文(英語)においては, つづりおよび句読点は現代の用法に修正。1843年8月13日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
9. *History of the Church*, 第4巻, 478. 1841年12月19日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
10. *History of the Church*, 第6巻, 366–367. 1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
11. *History of the Church*, 第2巻, 302. 1835年11月6日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスが書いた日記から
12. *History of the Church*, 第6巻, 366. 1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
13. *History of the Church*, 第5巻, 140. 1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告
14. *History of the Church*, 第5巻, 181. 原文(英語)においては, 段落は変更。1842年10月29日, イリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが書いた日記から
15. *History of the Church*, 第5巻, 139–140. 1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
16. *History of the Church*, 第5巻, 257, 259. 原文(英語)においては, 段落は変更。1843年1月22日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
17. *History of the Church*, 第5巻, 336. 1843年4月6日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告
18. *History of the Church*, 第5巻, 423. 1843年6月11日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフとウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
19. *History of the Church*, 第5巻, 554. 原文(英語)においては, 段落は変更。1843年8月27日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズとウィリアム・クレイトンによる報告
20. *History of the Church*, 第6巻, 479. 1844年6月16日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
21. *History of the Church*, 第5巻, 516–517. 1843年7月23日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
22. *History of the Church*, 第5巻, 411. 1843年5月27日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフによる報告
23. *History of the Church*, 第6巻, 304–305, 312, 317. 原文(英語)においては, 段落は変更。1844年4月7日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィルフォード・ウッドラフ, ウィラード・リチャーズ, トーマス・ブロック, ウィリアム・クレイトンによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照



1844年6月27日の午後、暴徒がイリノイ州カーセージの監獄を襲い、
預言者ジョセフ・スミスとハイラム・スミスを殺害した。



殉教——預言者、自らの血をもって 証を結び固める

「彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として生涯を終えた。」

ジョセフ・スミスの生涯から

1843年から1844年にかけての冬と春、ジョセフ・スミスと教会を滅ぼそうとする敵の活動はますます激しくなり、ノーブーは非常に緊張した状態にあった。現世での務めが間もなく終わることを知っていた預言者は、十二使徒定員会の会員たちを頻繁に集めて指導し、教会を治めるために必要な神権の鍵を彼らに授けた。これらの準備は、1844年3月、使徒たちとそのほか数名の親しい仲間との集会において最終的な局面を迎えることになる。この特別な評議会で、預言者は自分の死後の教会を治める責任を十二使徒にゆだね、そのために必要なすべての儀式と権能と鍵を彼らに授けたことを説明した。「わたしはこの教会を導くという重荷と責任を、わたしの肩から皆さんの肩に移します」と預言者は宣言した。「さあ、力を合わせ、雄々しく担ってください。主はわたしにしばしの休みを与えられるからです。」¹

1844年6月10日、ノーブー市長であるジョセフ・スミスとノーブー市議会は、『ノーブーエクスポジター』(Nauvoo Expositor)の発行停止と、その印刷に使用された印刷機の破壊を命じた。『ノーブーエクスポジター』とは、預言者やほかの聖徒たちを中傷し、ノーブー憲章の無効を訴える、反モルモンの新聞だった。市会議員たちはこの出版物が暴徒の活動につながるのを恐れた。しかし市長と市議会が取った措置に対して、イリノイ州当局は、何の根拠もなく、騒乱罪の容疑で預言者と兄のハイラム、およびそのほかのノーブー市会議員を告発した。イリノイ州知事のトーマス・フォードは、彼らに郡庁所在地であるイリノイ州カーセージで裁判を受けるように命じ、また彼らの保護を約束した。

ジョセフは、もしカーセージに赴いたら、脅しをかけている暴徒たちによって自分の命が大きな危機にさらされることを知っていた。

暴徒が求めているのは自分たちだけであると考えたジョセフとハイラムは、命を守るために西部へ逃れる決意をした。6月23日、二人はミシシッピ川を渡ったが、同日、ノーブーからやって来た兄弟たちが預言者を探し出し、もし預言者がカーセージの当局に出頭しなければ、軍隊が市に侵攻して来るだろうと告げた。預言者は政府役人と暴徒の両方をなだめることができればと願い、出頭することに同意した。6月24日、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは家族に別れを告げると、ほかのノーブー市会議員たちとともに馬でカーセージに向かい、翌日、カーセージにある郡当局に任意出頭した。兄弟たちは当初の容疑に関して保釈金を払って保釈されたが、その後、イリノイ州に対する反逆罪の容疑で不当に逮捕され、審理を待つためにカーセージの監獄に勾留された。当時十二使徒の中で伝道に赴いていなかったジョン・テラー長老とウィラード・リチャーズ長老が、志願して二人に加わった。

1844年6月27日の午後、兄弟たちの小さな一団は、悲嘆に暮れて監獄の中に無言で座っていた。するとその中の一人が、美しいテナーの声の持ち主であるテラー長老に歌を歌うように頼んだ。すぐに長老の声が響いた。「悩める旅人、われの前過ぎて われの断わり得ぬ助けを求む。」² テラー長老は次のように回想している。その賛美歌は「そのときのわたしたちの気持ちをとともよく表していました。皆、意気消沈し、元気がなく、重苦しい気分だったのです。」³

午後5時を少し過ぎたとき、大勢の襲撃者の一団が監獄を襲い、中にいる者たちに向かって発砲した。そしてわずか数分のうちに、その邪悪な企みは成し遂げられた。最初にハイラム・スミスが撃たれた。ほとんど即死だった。リチャーズ長老は、奇跡的にも浅い傷を一つ負っただけだった。テラー長老は重傷を負ったが、生き延びて、後に第3代大管長となった。窓に駆け寄った預言者ジョセフは、撃たれて命を落とした。回復の預言者と兄ハイラムは、自らの血をもってその証を結び固めたのだった。

ジョセフ・スミスの教え

ジョセフ・スミスが地上での使命を終えるまで、
神はジョセフ・スミスを守られた

1842年8月、ジョセフ・スミスは次のように語っている。「今、わた

しはこう感じています。全能の主は今日までわたしを守ってくださいました。そして、わたしがこの世における使命を完全に成し遂げるまで、聖徒たちの一致した信仰と祈りにこたえて、引き続き守ってくださることでしょう。それまでに、地と地獄のあらゆる力も決して打ち勝つことのできない、終わりの時における完全な神権時代がしっかりと確立されるでしょう。』⁴

1843年10月、預言者は次のように語っている。「わたしは全世界に向かって挑戦します。神の業を滅ぼしてみてください。そして預言します。わたしが働きをなし終えて、死ぬ用意ができるまで、彼らがわたしを殺す力を持つことは決してないでしょう。』⁵

1844年5月、預言者はこう述べた。「わたしの使命が果たされるまで、神はわたしを必ず守ってくださるでしょう。』⁶

1844年6月、預言者は次のように語った。「わたしは自分の命には関心がありません。この民のために犠牲としてささげられる用意ができています。敵に何ができるでしょう。肉体を殺すだけであり、彼らの力はそこまです。友の皆さん、揺らぐことなく立ち、決してひるまなひでください。自分の命を救おうとしてはいけません。真理のために死ぬことを恐れる人は、永遠の命を失うからです。最後まで耐え続けてください。そうすれば復活して神々のようになり、日の栄えの王国と公国において永遠の主権をもって統治することになるでしょう。』⁷

1844年6月27日の早い時刻に、カーセージの監獄で、ジョセフ・スミスはエマ・スミスあてに短い手紙を書き、その中で次のように述べている。「わたしは自分が正しく、最善を尽くしてきたことを知っており、運命にすべてをゆだねています。子供たちとすべての友人に、わたしの愛を伝えてください。……反逆罪に関しては、わたしは何も犯しておらず、彼らはそのようなことを何一つ立証できません。ですからその件でわたしたちに何らかの危害が及ぶのを恐れる必要はありません。神があなたがたすべてを祝福してくださいますように。アーメン。』⁸

世を去る前に、ジョセフ・スミスは主が彼に結び固めておられたすべての神権の鍵と力を十二使徒に授けた

第4代大管長のウィルフォード・ウッドラフは、次のように回想している。「〔ジョセフ・スミス〕は生涯の最後の冬、およそ3か月から4か月を十二使徒定員会とともに過ごし、教えを施しました。単に数時間で福音の儀式を教えたのではなく、何日も、何週間も、何か月間

も費やして、十二使徒とほかの数名に神の王国にかかわる事柄を教えました。』⁹

ウィルフォード・ウッドラフは、1844年3月にジョセフ・スミスが使徒たちと開いた集会について次のように述べている。「わたしは〔ジョセフ・スミス〕が世を去る前に語った最後の話を覚えています。……ジョセフは3時間ほど立ち続けていました。部屋は焼き尽くす火のようなもので満たされ、彼の顔は琥珀のように澄んでいました。ジョセフは神の力に包まれていました。彼はわたしたちの義務について語りました。この神の大いなる業のすべてについて語り、そしてこう言いました。『わたしは、神がかつて地の面に住む人に授けられた、命と救いのすべての鍵^{かぎ}、すべての力、すべての原則を、頭上に結び固められています。これらの原則とこの神権と力は、天の神が地上に確立し始められたこの大いなる最後の神権時代に属するものです。』そして十二使徒に言いました。『今わたしは、主がわたしの頭上に結び固められたすべての鍵^{かぎ}、すべての力、すべての原則を皆さんの頭上に結び固めました。』また、続けて言いました。『わたしはこれほど長く、現在に至るまで生き長らえ、この民の中で、大いなる贖いの業と働きに携わってきました。生きている間にこの神殿が建てられるのを見たいと願ってきました。しかし、生きてその完成した姿を見ることはないでしょう。しかし皆さんは見るでしょう。きっと見るでしょう。』……

このように述べた後に、ジョセフは言いました。『皆さんに申し上げます。この王国の重荷は今や皆さんの肩に置かれています。皆さんは全世界において王国を担わなければなりません。そうしなければ罰の定めを受けるでしょう。』¹⁰

十二使徒定員会の会員たちは、次のように記している。「わたしたち〔十二使徒〕は、……〔1844年〕3月の後半にノーブー市で開かれた評議会に出席しました。……

この評議会において、ジョセフ・スミスは幾分意気消沈しているように思われました。そして、思い切ったように自分の思いを打ち明けました。……『兄弟の皆さん、主はわたしたちが携わっている業を早く進めるように命じておられます。……何か重大なことが起ころうとしています。敵がわたしの命を奪うのかもしれない。そうなったら、わたしが持っている鍵と力は皆さんに授けられていなければ地上から失われてしまいます。しかしそれらを皆さんの頭上に置くことさえできたら、神が許されるままに、わたしは残忍な者たちの手にかかって



ウィルフォード・ウッドラフは次のように回想している。預言者ジョセフ・スミスは「生涯の最後の冬、およそ3か月から4か月を十二使徒定員会とともに過ごし、教えを施しました。……何日も、何週間も、何か月間も費やし……ました。」

犠牲となりましょう。わたしは、自分の業が終わり、この時満ちる神権時代に神の王国を築くための基が据えられたことを知り、喜びと満足を感じてこの世を去ることができます。

今から後、皆さんが自分たちの後継者を任命するまで、この教会を導く責任は皆さん、すなわち十二使徒の肩に置かれなければなりません。敵は皆さん全員を一度に殺すことはできません。もし皆さんの中でだれかが殺されることがあれば、ほかの人に手を置いて定員会を満たすことができます。こうしてこの力とこれらの鍵を、地上に存続させることができるのです。』……

このときのジョセフの気持ちや言葉を、わたしたちは決して忘れません。このように語った後に、ジョセフは室内を歩きながら言いました。『肩から重荷を移したので、コルクのように軽く感じます。自由になったと感じます。こうして解放されたことを神に感謝します。』¹¹

十二使徒定員会の会員であったパーリー・P・プラットは、次のように書いている。「この偉大で善良な人物は、世を去る前に、導きを受けて何度も十二使徒を集め、神の王国と定めと統治に関するすべてのことを教えました。ジョセフは度々、自分は基礎を築いているが、建物を完成させるのは十二使徒であると述べました。彼はこう言いました。『なぜか分かりませんが、何かの理由で、自分の準備を速やかに行い、神権のすべての儀式と、鍵と、聖約と、エンダウメントと、結び固めの儀式を十二使徒に授け、聖所〔神殿〕とその中でのエンダウメントにかかわるすべてのことについて、彼らに規範を示すように強く促されています。』

このことを終えたとき、ジョセフは非常に喜んで、こう言いました。『主は重荷を皆さんの肩に置き、わたしにしばしの休みを与えようとしておられます。』そしてこう続けました。『もし彼らがわたしを殺しても、神の王国は前進します。わたしは天の啓示と、天から示された規範に従って王国を築き上げるためのすべての事柄を皆さんにゆだねることにより、今や自分に与えられた業を終えたからです。』¹²

第2代大管長のブリガム・ヤングは、次のように教えている。「ジョセフは連れ去られる前に、自らが持っていた使徒職に属するすべての鍵と力をわたしたちの頭上に授けました。この世においても来るべき世においても、どんな人も集団も、ジョセフと十二使徒の間に割って入ることはできません。ジョセフは何度、十二使徒にこう言ったことでしょう。『わたしは基を据えました。皆さんはその上に建てなければなりません。王国は皆さんの肩に置かれているのです。』¹³

**預言者ジョセフ・スミスと兄ハイラムは、福音の証^{あかし}のために
偉大な者として生き、偉大な者として死んだ**

教義と聖約135：1-6に記録されているように、ジョン・テラーは十二使徒定員会の会員として働いていたときに次のように記している。「この書と『モルモン書』の証^{あかし}を確実なものとするために、わたしたちは、預言者ジョセフ・スミスと祝福師ハイラム・スミスの殉教^{じゅんきょう}を発表する。彼らは、千八百四十四年六月二十七日午後五時ご

ろ、カーセージの監獄において、百五十名から二百名の、顔を黒く塗り武装した暴徒により銃撃された。ハイラムが最初に撃たれ、『わたしは死ぬ』と叫んで静かに倒れた。ジョセフは窓から飛び降りたが、その途中で撃たれ、『おお、わたしの神、主よ』と叫んで死んだ。彼ら二人は死んだ後も残酷に銃撃され、両者とも四個の弾丸を受けた。

そのときにその部屋にいたのは、十二使徒の二人、ジョン・テラーとウィラード・リチャーズだけであった。前者は四個の弾丸を受けてむごたらしく負傷したが、後に快復した。後者は、神の摂理により、その服に一つの弾丸も受けることなく逃れた。

主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた^た他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。二十年という短期間のうちに、彼は、彼自身が神の賜物と力によって翻訳して、両大陸で出版する仲立ちとなった『モルモン書』を出し、その書に載っている完全な永遠の福音を地の四方に送り出し、人の子らのために『教義と聖約』という本書を構成する数々の啓示と戒め、およびそのほか多くの知恵ある文書と指示を出し、何千人もの末日聖徒を集め、一つの偉大な都市を建設し、^{くつがえ}覆されることのあり得ない誉れと名声を残した。彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血をもって自分の使命と業を証明したのである。彼の兄ハイラムも同様であった。彼らは生前に分かたれることはなく、また死後も離れることはなかった。

暗殺の二、三日前、ジョセフは、法律の見せかけの要求に応じて自分の身を引き渡すためにカーセージへ向かったとき、次のように言った。『わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。わたしは罪のないまま死に、やがて「彼は冷酷に殺害された」と言われるだろう。』同じ朝、ハイラムは出かける用意を終えた後——ほふり場へと言うべきであろうか、そうである、そのとおりであった——彼は『モルモン書』のエテル書第12章の終わりに近い次の句を読み、そのページを折り返した。

『そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈った。そこで主はわたしに言われた。「たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとっては問題ではない。あ

あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の弱さを認めたので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。」さて、わたし……は、キリストの裁きの座の前で会うときまで、異邦人とわたしの愛する同胞はらから別れを告げる。その裁きの座の前で、すべての人は、わたしの衣があなたがたの血で汚れていないことを知るであろう。』〔エテル12：36-38〕その遺言者たちは今や死に、彼らの遺言は効力を持つ。

ハイラム・スミスは、千八百四十四年二月で四十四歳であり、ジョセフ・スミスは、千八百四十三年十二月で三十八歳であった。今後、彼らの名は殉教者の中に加えられる。そして、あらゆる国の読者が、荒れた世を救うために『モルモン書』と当教会の『教義と聖約』という本書が十九世紀の最も貴い血を犠牲にしてもたらされたことを思い起こし、また、もし神の栄光のために火が生木を損なうことがあり得るとすれば、腐ったぶどう園を清めるために枯れ木を焼き払うのはどれほど容易であるか思い起こすであろう。彼らは栄光のために生き、栄光のために死んだ。そして、栄光が彼らの永遠の報いである。彼らの名は、代々にわたって子孫に伝えられ、きよ聖められた者にとって宝石のように見なされるであろう。』¹⁴

ジョセフ・スミスは地上での使命を果たし、自らの血をもって証を結び固めた^{あかし}

ブリガム・ヤングは、次のように宣言している。「敵はわたしたちの預言者を殺す力、すなわち肉体を殺す力を持っていました。しかし預言者は、生涯のうちに成し遂げたいと心に描いていたことをすべて成し遂げなかったのでしょうか。成し遂げました。わたしはそれを確かに知っています。』¹⁵



ブリガム・ヤング

ブリガム・ヤングはまた、次のように教えている。「世を去る日まで、ジョセフ・スミスを敵の手から救い出してこられたのはどなたでしょうか。それは神でした。ジョセフは何度も死の瀬戸際まで追い詰められ、だれが見ても救われる見込みのないところまで行きました。ミズーリ州の監獄にいたとき、だれも彼が敵の手から逃れるとは思っていませんでした。しかしわたしは

アブラハムの信仰を持っていました。そして、兄弟たちに告げました。主なる神が生きておられるように確かに、ジョセフは敵の手から逃れるだろう、と。ジョセフは自分が40歳まで生きることはないと預言していました。わたしたちは皆、その預言が間違いであって、彼がいつまでもわたしたちとともにいるように望んでいました。自分たちの信仰がその預言を覆すだろうと思^{くつがえ}っていましたが、それは間違いでした。ジョセフは、最後は教えに殉じて倒れました。わたしは次のように言いました。『これでよいのです。今やその証には完全な効力があります。ジョセフは自らの血をもって証を結び固めたのです。』¹⁶

ウィルフォード・ウッドラフは、次のように証している。「わたしはかつて、ジョセフの死と、その命の奪われ方について、ある気持ちを抱いていました。もし……ジョセフが望んでいたら、彼はロッキー山脈への道を導いていただろう、と感じていたのです。しかしその後、それが計画に基づいたものであったことを完全に受け入れるようになりました。この神権時代の長として、ジョセフは自らの血をもって証を結び固め、この神権時代の鍵^{かぎ}を持って霊界に行き、『獄にいる霊たち』に福音を宣べ伝えるために現在行われている伝道を開始するよう求められていたのです。』¹⁷

第6代大管長のジョセフ・F・スミスは、次のように教えている。「[ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの]殉教^{じゆんきやう}はわたしたちに何を教えているのでしょうか。遺言が効力を生じるために、『遺言には、遺言者の死の証明が必要である』という偉大な教えです（ヘブル9：16）。さらに、殉教者たちの血は確かに教会の種である、ということです。これらの徳高く義^のにかなった人々の証が邪悪で不義な世を責める証拠となるように、主はその犠牲を許されました。また彼らは、贖^{あがな}い主が語っておられるすばらしい愛の模範でした。『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。』（ヨハネ15：13）この驚くべき愛を、彼らは聖徒たちと世に示しました。カーセージに旅立つ前に、二人は自分たちが死ぬことを悟り、そのことを表明していたのです。……彼らの勇氣、信仰、民への愛には限界がなく、彼らは持っていたすべてのものを民のためにささげました。そのような献身と愛は、聖なる御霊の親しい交わりを受けた人々にとって、この善良で真実な者たちが確かに権能を与えられた主の僕^{しもべ}であることに一切の疑いの余地を残さないものとなりました。

この殉教は、主の民に常に靈感を与えるものとなってきました。一

人一人に、試練の際の助けを与え、義のうちに道を進み、真理を知り、それに従って生活する勇気を与えてきました。神がその僕であるジョセフ・スミスを通して明らかにされた偉大な真理を知った末日聖徒は、この殉教をいつまでも神聖な記憶としてとどめることでしょ。』¹⁸



ジョージ・アルバート・スミス

第8代大管長のジョージ・アルバート・スミスは、次のように宣言している。「ジョセフ・スミスはその使命を果たしました。そして死と向き合う時が来たとき、こう言いました。『わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。もし彼らがわたしの命を奪うならば、わたしは罪の

ないまま死に、わたしの血は報復を求めて地から叫ぶだろう。そして、やがて「彼は冷酷に殺害された」と言われるだろう。』〔教義と聖約135：4参照〕ジョセフ・スミスは、天の御父の楽しい法廷に立ち、肉体にあってなした行いについて責任を問われることを心配していませんでした。また、民を欺き不当に扱っているという、人々の自分への非難に応じることを恐れていませんでした。また自分の生涯における使命の結果と、御業の最終的な勝利についても心配していませんでした。ジョセフはその業が神の始められたものであると知っており、その業のために命をささげたのでした。』¹⁹

第15代大管長のゴードン・B・ヒンクレーは、次のように証している。「〔ジョセフ・スミス〕は自分が導く大義と、神から授かった召しに対してきわめて深い確信を持っていたので、それらを自分の命よりも尊いものと考えていました。来るべき死を予見した彼は、自分を暴徒の手に無防備なままで渡すであろう人々に身をゆだねました。ジョセフ・スミスは、自らの命の血をもって自分の証を結び固めたのでした。』²⁰

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- ジョセフ・スミスとハイラム・スミスが殺害される少し前に、ジョン・テラー長老は「悩める旅人」を歌いました（530ページ）。この賛美歌（『賛美歌』15番）の歌詞を読むか、歌い、預言者ジョセフ・スミスの生涯にどのように関連しているかを考えてください。当時の状況でこれがふさわしい賛美歌だったのはなぜでしょうか。
- ジョセフ・スミスが神権の鍵^{かぎ}を十二使徒に授けたことを証する言葉を読んでください（531–534ページ）。使徒たちはこれらの経験^{あかし}を証することが大切だと感じたのはなぜだと思いますか。大管長の職の継承について、あなたはどのような証を持っていますか。
- ジョセフとハイラムの殉教^{じゅんきょう}について、ジョン・テラーの記録を研究してください（534–536ページ）。ジョセフ・スミスは「ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた」という主張を、あなたはどのように弁護しますか。カーセージの監獄に向かう前に、ハイラムはエテル12：36–38を読み、そのページを折り返しました。この聖句はどのようにジョセフとハイラムの状況に置き換えることができたでしょうか。イエス・キリストの証のためにジョセフとハイラムがささげた犠牲について考えるとき、あなたはどのような気持を抱きますか。
- 536–538ページにある、末日の預言者たちの証を読んでください。彼らの証に、あなたはどのような感謝の言葉と証を加えることができますか。

関連聖句——へブル9：16–17；教義と聖約5：21–22；98：13–14；112：30–33；136：37–40

注

1. 1844年3月の集会について報告した、十二使徒会の宣言（日付のない原稿）の中での引用。Brigham Young, Office Files 1832–78. 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
2. 「悩める旅人」『賛美歌』15番
3. ジョン・テラー, *History of the Church*, 第7巻, 101で引用。ジョン・テラー “The Martyrdom of Joseph Smith.” 歴史家事務所, *History of the Church*, 1840年代–1880年ごろ, 47から, 教会記録保管課
4. *History of the Church*, 第5巻, 139–140. 1842年8月31日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。エライザ・R・スノーによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
5. *History of the Church*, 第6巻, 58. 1843年10月15日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ウィラード・リチャーズによる報告。本書561ページにある付録, 第3項も参照
6. *History of the Church*, 第6巻, 365. 1844年5月12日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。ト

- ーマス・ブロックによる報告
7. *History of the Church*, 第6巻, 500。1844年6月18日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。*History of the Church* の編さん者によって数名の目撃者の口頭による報告が一つの説教にまとめられた
 8. 1844年6月27日, イリノイ州カーセージ, カーセージの監獄で, ジョセフ・スミスがエマ・スミスにあてて書いた手紙。Community of Christ Archives, ミズーリ州インディペンデンス。複写所有, 教会記録保管課
 6. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News: Semi-Weekly*, 1869年12月21日付, 2
 10. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret Semi-Weekly News*, 1892年3月15日付, 2。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正
 11. 1844年3月の集会について報告した, 十二使徒会の宣言(日付のない原稿)。Brigham Young, Office Files 1832-1878年, 教会記録保管課
 12. パーリー・P・ブラット “Proclamation to The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints,” *Millennial Star*, 1845年3月号, 151
 13. プリガム・ヤング, *History of the Church*, 第7巻, 230で引用。原文(英語)においては, 段落は変更。1844年8月7日にイリノイ州ノーブーでプリガム・ヤングが行った説教から
 14. 教義と聖約135:1-6
 15. プリガム・ヤング, *Deseret News*, 1853年4月30日付, 46。原文(英語)においては, 斜体は削除
 16. プリガム・ヤング, 1852年8月1日にユタ州ソルトレーク・シティーで行った説教。歴史家事務所, Reports of Speeches, 1845-1885年ごろ, 教会記録保管課
 17. ウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News*, 1883年3月28日付, 146
 18. ジョセフ・F・スミス “The Martyrdom,” *Juvenile Instructor*, 1916年6月号, 381。原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更
 19. ジョージ・アルバート・スミス, Conference Report, 1904年4月, 64。原文(英語)においては, つづりは現代の用法に修正
 20. ゴードン・B・ヒンクレー 「確信——宗教の真髄」『聖徒の道』1982年4月号, 9参照



「たたえよ主の召したまいし」—— 預言者ジョセフ・スミスについての 末日の預言者たちの証^{あかし}

「預言者ジョセフ・スミスは……この世で最後となる福音の神権時代を開くために、神御自身の声により、神によって召されました。」(ジョセフ・F・スミス)

ジョセフ・スミスの生涯から

預言者ジョセフ・スミスと兄ハイラムの死後、合衆国内で伝道の旅をしていた十二使徒定員会の会員は、可能なかぎり急いでノーブーへ戻って来た。十二使徒定員会会員は1844年8月8日に聖徒たちの集会を召集した。集会の中で、十二使徒定員会会長のブリガム・ヤングが話した。彼が話している間、多くの聖徒たちが見ている中で驚くべき出来事が起きた。ヤング会長の声と姿が不思議なほどジョセフ・スミスに似ていたのだ。ジョージ・Q・キャノンはそのときのことを次のように回想している。「もしジョセフが死者の中からよみがえり、彼らが聞いている前で語ったとしても、その場にいた多くの人にあれほど大きな衝撃は与えなかったでしょう。それはジョセフの声そのものでした。そして、ジョセフの声が聞こえてきただけでなく、ほかならぬジョセフ自身が皆の前に立っているのを見ているかのようでした。あの日、あの会衆の前で起きた出来事よりも不可思議で奇跡的な出来事を聞いたことはありません。主はこの後、民を導く者としてだれをお選びになったのか、疑う余地のない証を民に与えてくださったのです。」¹

その集会を終えるに当たって、聖徒たちは十二使徒が民を管理することに賛意を表明した。それから3年余りが過ぎた1847年12月に再び大管長会が組織され、ブリガム・ヤングが教会の大管長として支持された。

ブリガム・ヤングの時代以降、教会を管理した大管長は皆、預言者



ブリガム・ヤングはこのように宣言した。「地の基が置かれるはるか以前に開かれた永遠の会議において、〔ジョセフ・スミス〕は、この世界の最後の神権時代に神の言葉を人々にもたら〔す〕人となるよう定められました。」

ジョセフ・スミスの驚くべき使命について証^{あかし}してきた。ジョセフ・スミスは末日の偉大な預言者、聖見者となるよう天上の会議で選ばれた。彼の使命は非常に重要であったため、旧約聖書のエジプトへ売られたヨセフやそのほかの古代の預言者たちが彼のことを預言していた。エジプトへ売られたヨセフ自身も聖見者であり、彼もまたジョセフ・スミスについて、詳しく預言していた。

『主なるわたしの神は、一人の聖見者を立てられる。それは、わたしの腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。』……その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。」(2ニーファイ3:6, 15。2ニーファイ3:6-22も参照)²

1834年12月、ジョセフ・スミス・シニアは預言者ジョセフに祝福を与え、彼が昔のヨセフが預言した聖見者であることを告げた。「わたしはあなたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブの祝福をあなたに祝福します。そしてヤコブの子孫であるあなたの父ジョセフの祝福をもあなたに祝福します。見なさい、ヤコブは末日における自分の子孫を心にかけていました。……彼はその子孫がどこから来て主の御言葉^{みことば}をもたらすかを知ろうとして熱心に探し求めました。主の御言葉によって、彼らは教化され真の群れに連れ戻されるのです。そして、わたしの息子よ、彼の目はあなたを見ました。彼の心は喜び、彼の魂は満たされました。そして彼はこう言いました。『わたしの子孫の中から、異邦人とともに散らされた者の中から選り抜きの聖見者が起こる。……彼の心は偉大な知恵を熟慮し、彼の英知は神にかかわる深い事柄を囲み込んで、理解する。そして、彼の口は公正な律法を語る。』……あなたはこの世から永遠にわたり、この職すなわちこの教会を管理する鍵^{かぎ}を持つでしょう。』³

末日に選ばれた聖見者ジョセフ・スミスを通して、福音の教義と救いの儀式が明らかにされ、イエス・キリストの真実の教会が再び地上に確立された。古代と現代の預言者たちが証に証を加えて宣言している。すなわちジョセフ・スミスは神に使われる者であり、神は彼を通じて「永遠から永遠にわたる人類家族全体のために」⁴ 完全な福音を回復されたのであると。

末日の預言者たちの証^{あかし}

ジョセフ・スミスは預言者の召しに予任されていた



ブリガム・ヤング大管長

ブリガム・ヤング大管長——「地の基が置かれるはるか以前に開かれた永遠の会議において、〔ジョセフ・スミス〕は、この世界の最後の神権時代に神の言葉を人々にもたらし、神の御子の神権のすべての^{かぎ}鍵と力を受ける人となるよう定められました。主は彼のうえに、彼の父親のうえに、彼の父親の父親のうえに、そしてアブラハムに至るまで、彼の先祖に目を注がれました。そしてアブラハムからさらにさかのぼって洪水の時代、洪水の時代からエノク、エノクからアダムに目を注いでこられました。主はこの家系を見守り、この家系の血統が始祖からこの人の誕生まで継承されるのを見守ってこられました。〔ジョセフ・スミス〕はこの最後の神権時代を管理するよう永遠に予任されていたのです。』⁵

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長——「ジョセフ・スミスは末日の主の業の頭^{かしら}として立つよう選ばれました。そして、その業は永遠の御父の先見の明により、永遠の世界において、ジョセフが生まれる前から彼に任じられていました。ジョセフは主の来臨の道を備えるためにエライアスの霊とともに来ました。もちろん^{あがな}贖い主を例外として、アダム以来のどの預言者も、彼よりも大いなる使命を与えられることはありませんでした。』⁶



エズラ・タフト・
ベンソン大管長

エズラ・タフト・ベンソン大管長——「預言者の地上での使命の重要性について理解するには、それを永遠の光に照らして見る必要があります。ジョセフは、アブラハムが説明した『高潔で偉大な者たち』の中にいました。

『さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在する前に組織された英知たちを見せてくださった。そして、これらすべての中には、高潔で偉大な者たちが多くいた。神

がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。「わたしはこれらの者を、治める者としよう。」神は霊であったこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。「アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなたは生まれる前に選ばれたのである。』（アブラハム3：22-23）

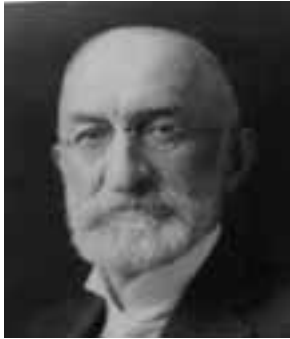
ジョセフ・スミスもそうでした。彼もそこにいました。高潔で偉大な者たちとともに会議の中にいました。誉れと榮譽ほまにおいて卓越した位置にいたジョセフが、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」〔モーセ1：39〕業、すなわち御父のすべての子供たちを救うという主の偉大な業の計画と実施たづみに携わったことは、疑うべくもありません。ジョセフの使命は、地上に来るすべての人に対して影響を与えます。これまで地上に生きたすべての人、これから生まれてくる無数の人々にその業の影響が及ぶのです。……

預言者ジョセフ・スミスは単に「高潔で偉大な者たちの一人」であっただけでなく、彼は、過去においても、そして今日も、天からこの地上こんちの重要な事柄に目を配っているのです。なぜなら主の目にあっては……預言者ジョセフが重大な役割を果たしている偉大な永遠の計画はすべて、神の永遠の神権と権能を通して行われる一つの事柄だからです。』⁷

ジョセフ・スミスの最初の示現は、個人あかしの証の根幹をなす

ジョセフ・F・スミス大管長——「神の御子が墓より復活して高きに昇られて以来、世に起こった最も大いなる出来事は、御父と御子が少年ジョセフ・スミスを訪れて、人の王国ではなく、決して絶えることも滅ぼされることもない〔神〕の王国の基を置くための道を備えられたことです。」

わたしはこの真理を受け入れてから、ジョセフ・スミスが明らかにし、宣言したほかのすべての真理を容易に受け入れられるようになりました。……ジョセフ・スミスは決して誤った教義を教えたことはありませんでした。実行するように命じられた教義はすべて実行しました。誤りを主張したことはなく、欺かれていたこともありませんでした。実際にその目で見、耳で聞き、そして命じられたことを行っただけです。したがって、ジョセフ・スミスが果たした業については、ジョセフ・スミスでなく神に責任があります。人ではなく、神がその業に対して責任を持たれるのです。』⁸



ヒーバー・J・グラント大管長

それは救いをもたらす神の力です。神の指示の下で確立されたイエス・キリスト教会です。世のいかなる不信心な者たちも末日聖徒イエス・キリスト教会に関連した基本的な事実を変えることはできません。』⁹



ハワード・W・ハンター大管長

これが真実でなければ、モルモニズムは滅びるでしょう。もしこれが真実であれば、もちろんわたしは真実であると証しますが、これはすべての歴史を通じて最も偉大な出来事の一つということになるのです。』¹⁰

デビッド・O・マッケイ大管長——「御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、これがこの教会の基となっています。このことこそ、教会の力と持続性の鍵なのです。わたしはこれがまさしく真実であることを証します。この啓示一つで神とその神聖な属性に関するどのような科学的追及にも答えることができます。これがどのような意味を持つか分かるでしょうか。この啓示により、神がどのような御方か、という問いに答えが与えられ、神とその子供たちの関係も明らかになってきます。また人に権能を授けられたことから、神が人にどのような関心を抱いておられるかが分かるのです。この業の将来は保障されています。これらの真理をはじめ、そ

ヒーバー・J・グラント大管長——「ジョセフ・スミスは確かに神と会い、神と言葉を交わし、神御自身がイエス・キリストを少年ジョセフ・スミスに紹介されました。イエス・キリストは、ジョセフ・スミスが神の手に使われる者になり、いわゆるモルモニズムと呼ばれるイエス・キリストの真の福音を地上に再び築く、と彼に確かに告げられました。これらのことが作り話だということは決してありません。モルモニズムは作り話ではない

ハワード・W・ハンター大管長——「わたしはこの教会の会員であることに感謝しています。そしてこの教会が神の教会であるというわたしの証は、森の中でひざまずき天の御方の訪問を受けた少年の簡潔な物語に基づいています。ただ一人の神ではなく、二人の別個の御方である御父と御子が、神会を構成する御方として再び地上に御姿を現されたのです。わたしの信仰と証は、この簡潔な話に基づいています。もしこの

の他の崇高な真理が、栄えある最初の示現によって明らかにされました。』¹¹

エズラ・タフト・ベンソン大管長——「預言者ジョセフ・スミスの最初の示現は教会にとってよりどころとなる教義です。敵はそのことを知っていて、御父と御子の訪れを公表するやいなや、ジョセフ・スミスの^{しん}信憑性^{びょう}に対して攻撃を仕掛けてくるようになりました。……したがってあなたがたは、最初の示現が真実であることについて常に証をしなければなりません。ジョセフ・スミスは確かに御父と御子にまみえました。御二方はジョセフが言っているような形でジョセフに語りかけられました。それは、主の復活以来最も栄光に満ちた出来事です。指導者の中で神とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたとの証を明確に宣言できない人は、真の指導者、真の羊飼いになることができません。この真理を受け入れなければ、……つまりこの偉大な啓示についての証を受けなければ、わたしたちが指導する人々の信仰を鼓舞することはできません。』¹²



ジョージ・アルバート・スミス大管長

ジョージ・アルバート・スミス大管長——

「その少年預言者がパルマイラの森の中で御父と御子にまみえ、御二方が確かに人の形をしておられるのを見たとき、そして、御二方が自分の言葉を聞き、それにこたえることがおできになることを知ったとき、世の新しい時代が幕を開け、人の子の信仰の土台が据えられたのです。人々は今や天の御父に祈るときに、天と地につながりがあって、御父が自分の祈りに耳を傾け、それにこたえることがおできになるということを知ったうえで、祈ることができるのです。』¹³

預言者ジョセフ・スミスは神と天使から教えを受けた



ジョン・テラー大管長

ジョン・テラー大管長——「ジョセフ・スミスとはどのような人物でしょうか。モルモン書は、彼がエジプトに売られたヨセフの子孫であると告げています。すなわち彼は地上で業を行うためにアブラハムのように選ばれたのです。神はこの少年を選ばれました。ジョセフは世の学問は修めていませんでしたが、わたしの生涯で出会った人の中で最も深い理解と知性を持つ

人物でした。わたしは何十万マイルを旅し、方々の大陸に行き、ありとあらゆる階級の、様々な信条の人々に会ってきました。それでも、彼のように高度な知性を持つ人に会ったことはありません。彼はどこからそのような知性を得たのでしょうか。書物からではありません。その時代の理論や哲学からでもありません。彼はその知性を、永遠の福音という仲立ちを通して神の啓示によって得たのです。』¹⁴



ウィルフォード・ウッドラフ大管長

ウィルフォード・ウッドラフ大管長——
「この教会を組織するに当たって神の預言者に示された力と同じ力が、これまでの神権時代で人の子らに示されたとは、わたしの知るかぎりどこにも記されていません。その力が示されたのは、御父と御子が預言者ジョセフの祈りにこたえてともに御姿を現された時でした。そのとき御父はこう言われました。『これはわたしの愛する子である。彼を見なさい。彼に聞きなさい。』これは神が御自分の業に関して与えられた重要な啓示でした。世のいかなる神権時代にも同じような方法で示されたことはありません。そのため、神の預言者は教会を組織するに当たって天使から教えを受けました。天使がジョセフの教師であり、指導者でした。ジョセフが行ったすべての事柄と、始めから、すなわちあの日から殉教の日に至るまでジョセフ・スミスが成し遂げたすべての事柄は、イエス・キリストの啓示によるものだったのです。』¹⁵



ロレンゾ・スノー大管長

ロレンゾ・スノー大管長——「神がこの業を確立するために選ばれたジョセフ・スミスは、貧しく、無学であり、有力なキリスト教教派のいずれにも属していませんでした。彼は一介の少年でしたが、正直で、高潔でした。……ジョセフはモーセのように、自分はそのような役割を果たすことなどできない、不適格であると感じました。宗教改革者として立つことなど、だれもがごめんこうむりたい責任です。長い歴史を通じて人々が受け入れてきた信念や信条と闘わなければならないのです。人々が容認し、従ってきた神学と闘うことなどできるのでしょうか。しかし神は彼を召されました。すべての国々の貧しく心の正直な

人々を、霊的な束縛とこの世的な束縛から解放するために神は彼を召されたのです。そして神は彼にこう約束されました。だれであれ彼のメッセージを受け入れて従う人は、そしてだれであれ罪の赦しのため^{ゆる}にバプテスマを受ける人は、正直な動機からそれを行うならば、神の現れを受け、聖霊を受け、昔の使徒が教えた福音とその福音によって約束されている祝福を受けるであろうと。そしてこのメッセージとこの約束は、神から権能を受けた使者である長老たちによってどこのだれに^の宣べ伝えられようとも有効なのです。あの無学で、洗練されておらず、純粹で、素朴で、正直な少年ジョセフ・スミスがそう述べたのです。]¹⁶



ハロルド・B・リー大管長

ハロルド・B・リー大管長——「ジョセフ・スミスというこの若者は、当時の神学教育を受けたわけではありませんし、高等教育を受けたわけでもありません。……しかし、彼は御霊の教えとささやきに従う心を持っていたのです。ジョセフ・スミスの力だけで、この教会を確立することはできなかったでしょう。彼一人の力で、主の業を起こしたり、モルモン書を世に出したりすることはできなかったでしょう。人々は

預言者ジョセフ・スミス^を、ただの人間にすぎないとしてあざけるかもしれませぬ。世の人々は、この教会の起源に疑念を抱くかもしれませぬ。しかし、ここにモルモン書自体が、不朽の金字塔として、しっかりとそびえているのです。人間としてのジョセフにはこの業を行う力はなかったこと^{くら}でしょう。しかし、全能の神の力に駆り立てられていたジョセフは、暗闇^{やみ}から神の王国をもたらすという奇跡の業を成し遂げる力を持ち、イエス・キリストの回復された福音の中で、実際にそれを達成したのです。]¹⁷



デビッド・O・マッケイ大管長

デビッド・O・マッケイ大管長——「ジョセフ・スミスは偉大な人物であったばかりでなく、靈感あふれる主の僕でもあったと申し上げたいのです。……実際、ジョセフ・スミスの偉大さは神から靈感を受けたことにあります。……

ユダヤ人はイエスの知恵に驚いて尋ねました。『この人は学問をしたこともないのに、どうして律法の知識をもっているのだ

ろう』〔ヨハネ7：15〕わたしたちはジョセフ・スミスについても、同じことを尋ねるかもしれません。しかし、教会を組織してから殉教するまでの14年という短い年月の間に〔ジョセフ・スミスが〕成し遂げた偉業について考えるとき、そして回復された福音がイエスと使徒たちによって設立された原始教会の福音と完全に一致していることについて思いをはせるとき、また原則と儀式についてジョセフが鋭い見識を持っていたことに気づき、キリストの靈感によって設立され、キリストの名を冠した教会の類まれな計画と力を目の当たりにするとき、『この人は、この知恵をどこで習ってきたのか』という質問の答えを次の感動的な詩の中に見いだすことができます。

たたえよ、主の召したまいし
主と語りし予言者を
末の時を始めたる
業を世、皆崇めよ^{あが}』¹⁸

ハワード・W・ハンター大管長——「わたしたちは、エホバだけでなく天から遣わされたほかの偉大な人々とも親しく語った〔ジョセフ・スミス〕の能力をほめたたえます。多くの天の御使いが訪れ、鍵を渡し、末日に立てられた、この『えり抜き^{みづか}の聖見者^{かき}』に教えを与えました。……わたしたちは、何百ページにも上る聖文を授かり、翻訳したジョセフ・スミスの勤勉さと能力もほめたたえます。彼は啓示のパイプ役となりました。これまでの人類史上、ほかのだれよりも多くの、驚異的な量の啓示がジョセフを通して与えられたと考えられています。』¹⁹

預言者ジョセフ・スミスは、最後の神権時代を開き、 完全な福音を回復するよう召された



スペンサー・W・
キンボール大管長

スペンサー・W・キンボール大管長——
「今日、わたしは世の人々に証します。今から1世紀半以上前に、鉄の天井が砕かれ、天が再び開かれて以来、啓示は続いています。

一人の人間が心からの願いを込めて神の導きを祈ったときに、新しい時代が始まりました。人目につかない静かな場所を選び、ひざまずき、心を低くし、声に出して願いを告げました。すると、真昼の太陽よりも

明るい光が世界を照らしました。天と地を隔てる幕はもはや再び閉じることはありません。

……比類ない信仰を持つ少年ジョセフ・スミスが、その呪縛^{じゆばく}を解き、『鉄の天』を砕き、天と地の間の交わりを再開したのです。天は地に口づけし、光が闇を散らしました。そして神が再び人に語って、『しもべである預言者にその隠れた事を』再び示されたのです（アモス3：7）。新しい預言者がこの地に誕生し、神は彼を通して王国を築かれました。そしてその王国は、もはや滅びず、別の民の手に渡ることもなく、永遠に立つのです。

この王国が永遠に続くこと、そしてこの王国を世にもたらした啓示の存在は、まったくの真実です。もはや太陽は決して沈みません。人類全体が完全にふさわしさを失い、人と創り主との交わりが失われることは二度とないでしょう。神はもはや地上の神の子供たちから御姿^{すがた}を隠されることもないでしょう。啓示は続くのです。』²⁰



ゴードン・B・ヒンクレー大管長

ゴードン・B・ヒンクレー大管長——

「ジョセフの生涯は奇跡の物語です。彼は貧困の中に生まれ、逆境の中で育ちました。ここかしこに追い立てられ、虚偽の非難を受け、不当に投獄され、そして38歳で殺害されました。しかしジョセフ・スミスは死去するまでの20年という短い間に、ほかの人が一生かかっても成し遂げられないことを果たしたのです。ジョセフが翻訳し出版したモルモン書は多くの言語で翻訳され、

無数の人々に神の言葉として受け入れられています。また、ジョセフが受けた啓示や著した書物も、この無数の人々の聖典となっています。それらの書物のページ数を合計すると、ほぼ新約聖書の2倍に相当し、それがただ一人の人によってわずか数年で世に出されたのです。

またこれと同時期にジョセフ・スミスは教会を設立し、その教会は……攻撃と難関を乗り越えてきました。1830年に300人であった教会員は、現在は世界中〔に〕います。このすばらしい組織を、ジョセフ・スミスが生きていた時代の産物と言い張る懐疑論者もいます。しかしはっきりと申し上げますが、この組織は現代同様、過去においても、特殊で無類の優れた組織でした。この教会は当時の産物ではなく、神からの啓示によって設立されたのです。……

ジョセフ・スミスは死に至るまでの20年間に、福音を世界中の国々に伝えるための業を開始しました。彼の思い切った決断は、驚くべきものです。教会の揺籃期に、しかも厳しい逆境の中で、召しを受けた人々は家や家族を後に残し、海を渡り、イエス・キリストの福音の回復を宣言するために出かけて行ったのです。ジョセフ・スミスの思いとビジョンは全世界を視野に入れたものでした。

毎年2回行われる総大会の時期に、会員たちは、南北中央アメリカ、イギリス諸島、アフリカ、ヨーロッパ諸国、太平洋諸島、また歴史豊かなアジア諸国に集います。これらの人々は、神の預言者ジョセフ・スミスが抱いていたビジョンの結実です。ジョセフ・スミスはまさに、今の時代と、さらにこれから主の業が全地に広がるすばらしい時代を見た偉大な聖見者でした。]²¹



ジョセフ・F・スミス大管長

ジョセフ・F・スミス大管長——「預言者ジョセフ・スミスがほかに何をしたとしても、あるいは彼がほかの何者であったとしても、わたしたちはこの事実を忘れてはなりません。つまり、ジョセフ・スミスは当時地上に生きていた何億の人々から選ばれた唯一の人であったということ、つまり彼はこの世で最後となる福音の神権時代を開くために、神御自身の声により、神によって召されたということを忘れてはなりません。これは記憶にとどめるべき重大なことです。ジョセフは神から召されました。世に福音をもたらすために、人の子らに聖なる神権を回復するために、世に末日聖徒イエス・キリスト教会を組織するために、そして生ける者のみならず死者をも救う福音のすべての儀式を回復するために、彼は、神御自身により召されたのです。……

……ほかにも預言者はいました。中には偉大な預言者たちもいました。天使たちに教え導かれた預言者、神の指を見た預言者、大小様々な啓示を受けた預言者がいました。けれども、御父と救い主が同時に直接御姿を現され、御自身について宣言されるという状況がどこにあるのでしょうか。そのような場面にだれが遭遇するのでしょうか。そのような人がどこにいますでしょうか。歴史に残されているかぎり、預言者ジョセフ・スミス以外にはいないのです。しかも、そのとき彼はまだ少年でした。彼はまだ一介の少年にすぎなかったのです。さらに、殉

きょう
教したのは実にまだ38歳のときでした。

……預言者ジョセフ・スミスは……御父と御子と親しく交わり、天使たちと話し、彼らの訪れを受けました。神の御子御自身を除いてどのような人物にも授けられなかった祝福と賜物たまものと力かぎの鍵を授けられました。この地上に生きた人の中で、預言者ジョセフ・スミスがカートランド神殿で受けた福音の鍵と神権時代の鍵をすべて授けられた人はいません。そのときジョセフは神の御子、モーセ、エライアス、エリヤの訪れを受けました。天が開かれて、力と権能の鍵ふよを賦与されました。これによって預言者は、神の知識、力、栄光が広く、深く、地球を満たすように、神の業の基を据えることができました。』²²

ジョセフ・スミスの業はかつて地上に生きた人、今生きている人、これから生まれてくる人を祝福する

ジョセフ・F・スミス大管長——「ジョセフ・スミスが携たずさわっていた業はこの世だけにかかわるものでなく、来たきたべき世とすでに過ぎ去った世ともかかわりがあります。言い換えれば、かつて地上に住んだ人々、現在生きている人々、わたしたちの後に来る人々にかかわりがあります。また人が死すべき肉体をまとっている間だけに関するものではなく、永遠から永遠にわたって全人類の家族に関係があるのです。それゆえに、先に申し上げたように、ジョセフ・スミスは敬われ、その名が尊ばれるのです。主がジョセフ・スミスを通して地上に回復してくださった知識に対して心の底から神に感謝する人々が大勢います。ですから、彼らはジョセフをほめたたえ、ジョセフの価値あかしについて証するのです。そしてこれは一つの村、州、国だけでなく、これまで福音が宣べ伝えられてきたすべての国民、部族、国語の民、民族に及ぶのです。』²³



ジョセフ・フィールディング・スミス大管長

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長——「わたしは、聖霊を通して与えられる啓示によって、イエスがキリストであることを知っています。さらに同じようにして、ジョセフ・スミスが昔も今も永遠に神の預言者であることを知っています。

わたしはジョセフ・スミスの神聖な名前を敬い尊びます。ジョセフ・スミスは、わたしの祖父であり祝福師であった兄ハイラム・スミスとともに、カーセージの監獄で

血をもってその証を結び固めました。ですから、少なくともわたしは主の御手に使われる者となって全地の隅々に知らせたいのです。主は再びわたしたちが救いを得られるようにするために、この時代に力強い聖見者を立て、地上に主の王国を再び確立してくださったということ。

わたしは自分の証と感謝の気持ちを込めて、教義と聖約から靈感された言葉を引用してこの話を終わりたいと思います。『主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。』（教義と聖約135：3）²⁴

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、1994年6月26日、イリノイ州カーセージにおいて、預言者ジョセフ・スミスの^{じゆんきやう}殉教150年を記念して次のように述べた。——「カーセージで殉教したジョセフによって始められた栄えある業は、驚異的ではばらしい発展を遂げています。……パルマイラの少年が預言者に召されて始まったこの不思議な業は、預言者ジョセフが祈ったとおり、『暗黒の荒れ野から出て来て、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいもの』となったのです（教義と聖約109：73）。

今晚わたしたちは敬虔な^{けいけん}思いでここに立ち、バーモントの青い丘に始まり、ここカーセージの監獄で終わったジョセフの生涯とその奇跡に思いをはせています。その生涯は長くはありませんでしたが、その結んだ実は理解を超えるほどです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な大義は、その働きの半ばで命を失った何千もの人々にとって、命以上に大切なものでした。ジョセフ・スミスが神の預言者であることを証するために、これまで何十万人の人々が世界中に出て行きました。高潔で徳高い無数の男性が神聖な権能を受け、ジョセフを通して回復された聖なる神権^{がいと}を外套のように身にまとっています。モルモン書は主イエス・キリストのもう一つの証として世界中に広められています。

遠い昔、別の場所で語られた真理のごとく、『殉教者の死が教会の種となった』のです。今晚わたしたちが集っているまさにこの場所で、150年前のあの蒸し暑い日に結び固められた証は、今や世界中の人々の信仰を養っています。]²⁵

研究とレッスンのための提案

この章を研究する際、またはレッスンの準備をする際に、以下の質問について深く考える。そのほかの提案については、vii-xiiページを参照する。

- 541ページにある経験を読んでください。ブリガム・ヤングがジョセフ・スミスの後を継いで教会の指導者になるという証^{あかし}を受けたとき、人々はどのように感じたと思いますか。主が今日の教会の大管長を召しておられることの証を得るには、どうすればよいでしょうか。
- エジプトに売られたヨセフなどの昔の預言者はジョセフ・スミスとその使命について預言しました(543ページ)。本章にあるように、末日の預言者たちはジョセフ・スミスの重要性について絶えず強調しています。ジョセフ・スミスが地上での務めを果たす前の時代と、後の時代の両方で、これほどの注目を集めているのはなぜだと思いますか。
- 544-545ページにあるジョセフ・スミスの予任に関する証を調べてください。「永遠の光に照ら〔す〕」ことによって、地上におけるジョセフ・スミスの使命について、新たに何が理解できるでしょうか。
- 545-547ページにある最初の示現に関する証を読んでください。最初の示現が「神の御子が墓より復活して高きに昇られて以来、世に起こった最も大いなる出来事」であるのはなぜでしょうか。最初の示現が「この教会の基」であり「教会の力と持続性の鍵^{かぎ}」と言えるのはなぜでしょうか。あなたは最初の示現の証を得るためにどのようなことが助けになりましたか。
- ジョセフ・F・スミス大管長はこう宣言しました。「ジョセフ・スミスが果たした業については、ジョセフ・スミスでなく神に責任があります。」(545ページ) ジョセフ・スミスの使命について、これが重要なポイントとなるのはなぜだと思いますか。
- ジョン・テラー大管長はジョセフ・スミスについて「彼のように高度な知性を持つ人に会ったことはありません」と述べました(548ページ)。しかし、テラー大管長もほかの大管長たちも、ジョセフ・スミスは学校教育を受ける機会にほとんど恵まれていなかったと述べています。そのような預言者ジョセフがそれほどまでに高い知性を持つようになったのはなぜでしょうか。(例として547-

550ページ参照) 霊的な知識を得ようと努力するときに、ジョセフ・スミスの模範にどのように従うことができるでしょうか。

- 主がジョセフ・スミスを通して回復された真理と儀式に注目しながら、550-554ページを読んでください。回復された福音について知らなかったとしたら、あなたの人生はどのように違っていたでしょうか。あなたはなぜ、ジョセフ・スミスとその使命に感謝していますか。

関連聖句——2ニーファイ3：6-19；27：6-26；3ニーファイ21：9-11；教義と聖約1：17；5：9-10；21：1-6

注

1. ジョージ・Q・キャノン “Joseph Smith, the Prophet.” *Juvenile Instructor*, 1870年10月29日付, 174-175
2. 古代のヨセフの預言に関するもう一つの説明はジョセフ・スミス訳聖書, 創世50：24-36に記されている
3. ジョセフ・スミス・シニア, 1834年12月9日, オハイオ州カートランドでジョセフ・スミスに授けられた祝福, Patriarchal Blessings 1833-2005, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
4. ジョセフ・F・スミス, *Deseret News*, 1883年3月7日付, 98. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正
5. ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1859年10月26日付, 266
6. ジョセフ・フィールディング・スミス “The Historical Background of the Prophet Joseph Smith.” *Improvement Era*, 1941年12月号, 717
7. エズラ・タフト・ベンソン “Joseph Smith—Man of Destiny.” 1967年12月3日にユタ州ローガンで行った説教, 3-4. *Annual Joseph Smith Memorial Sermons* (日付なし). 原文(英語)においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正, 段落は変更
8. ジョセフ・F・スミス, *Deseret Evening News*, 1917年7月14日付, 9. 原文(英語)においては, 句読点は現代の用法に修正, 段落は変更
9. ヒーパー・J・グラント “Some Things We Must Believe.” *Improvement Era*, 1938年9月号, 519
10. ハワード・W・ハンター “Joseph—The Seer.” 1960年12月15日, ユタ州ローガンで行った説教. *Annual Joseph Smith Memorial Sermons* (1966年), 第2巻, 197-198. 原文(英語)においては, つづり, 句読点, 大文字, 文法は現代の用法に修正
11. デビッド・O・マッケイ “Joseph Smith—Prophet, Seer, and Revelator.” *Improvement Era*, 1942年1月号, 54
12. エズラ・タフト・ベンソン, 1984年5月20日, ユタ州ソルトレーク・シティーで行った説教, 2. Ezra Taft Benson, *Addresses 1943-1989年*, 教会記録保管課
13. ジョージ・アルバート・スミス, *Conference Report*, 1917年4月, 37
14. ジョン・テラー, *Deseret News*, 1880年6月2日付, 275
15. ウィルフォード・ウッドラフ, *Millennial Star*, 1890年4月28日付, 258. 原文(英語)においては, 大文字は現代の用法に修正
16. ロレンゾ・スノー, *Deseret News*, 1870年4月13日付, 115-116
17. ハロルド・B・リー, *Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 372
18. デビッド・O・マッケイ “The Prophet Joseph Smith—On Doctrine and Organization.” 1944年12月10日, ユタ州ローガンで行った説教. *Annual Joseph Smith Memorial Sermons* (1966年) 第1巻, 9, 14. 原文(英語)においては, 句読点および大文字は現代の用法に修正
19. ハワード・W・ハンター “The Temple of Nauvoo.” *Ensign*, 1994年9月号, 63. 原文(英語)においては, 段落は変更
20. スペンサー・W・キンボール, *Conference Report*, 1977年4月, 114-115. *Ensign*, 1977年5月号, 77

21. ゴードン・B・ヒンクレー “Joseph Smith Jr.—Prophet of God, Mighty Servant,” *Ensign*, 2005年12月号, 4-6
22. ジョセフ・F・スミス “Joseph, the Prophet,” *Salt Lake Herald Church and Farm Supplement*, 1895年1月12日付, 210-211。原文（英文）の大文字は現代の用法に修正
23. ジョセフ・F・スミス, *Deseret News*, 1883年3月7日付, 98。原文（英語）においては、句読点は現代の用法に修正
24. ジョセフ・フィールディング・スミス “The First Prophet of the Last Dispensation,” *Ensign*, 1971年8月号, 7
25. ゴードン・B・ヒンクレー “Joseph, the Seer,” *Ensign*, 1994年9月号, 71。原文（英語）においては、段落は変



付録——本書で引用されている資料

預言者ジョセフ・スミスの教えは、『教会歴史』(*History of the Church*)を含む様々な資料から引用されている。以下は、これらの資料について理解するために役立つ情報として用意されたものである。

預言者の教えが記されている資料

本書に掲載されている預言者ジョセフ・スミスの教えは、以下に示す様々な種類の資料から引用したものである。

説教。本書には預言者ジョセフ・スミスが行った説教からの引用が数多く掲載されている。これらの説教は、後の大管長たちの説教を記録する際に用いられた方法とは大きく異なる方法で記録されていた。ジョセフ・スミスの跡を継いだ大管長たちは、教会員に向けた自分たちの説教を筆記者に速記で書き取らせた。テープレコーダーや映像フィルムといった電子記録機器が利用できるようになってからは、これらの機器を用いて教会指導者の語った言葉が正確に記録された。

しかしジョセフ・スミスの時代に、速記は普及していなかった。したがって、ジョセフが語った説教は通常、筆記者、教会指導者、そのほかの教会員によって、おおまかな内容が手書きで記録されていた。ジョセフ・スミスが聴衆に話すときには前もって原稿が準備されていたのではなくその場で語られたものがほとんどであり、話を聞いた人々の書き留めたメモがそうした説教の唯一の記録となっている。ジョセフの説教を長々と記録したものも幾つか存在するが、大半は預言者が語った教えの要約である。残念ながら、ジョセフ・スミスが行った説教の多くは、その記録が存在しない。預言者が語ったことが分かっている250以上の説教のうち、筆記者やほかの人々が記録した報告やメモによって内容が伝えられているのはわずか50程度である。

記事。本書に載っている預言者の教えの一部は、ジョセフ・スミスが教会の定期刊行物に掲載することを目的とした記事から引用されている。それらの刊行物には、『イブニング・アンド・モーニング・スター』(*Evening and Morning Star*)、『末日聖徒のメッセンジャー・アンド・アドボケイト』(*Latter Day Saints' Messenger and*

Advocate), 『エルダーズジャーナル』 (Elders' Journal), 『タイムズ・アンド・シーズンズ』 (Times and Seasons) などがある。¹ ジョセフ・スミスは、一部の記事は、掲載することを目的として執筆または口述した。また、ジョセフはしばしば筆記者や大管長会の一員、あるいはほかの信頼できる人物に指示を与えて、採り上げたいと考えた特定の事柄について記事を書かせた。後に、その文書を彼自身の考えを表しているものとして承認し、自分の名前で公表した。例として、本書には1842年に『タイムズ・アンド・シーズンズ』に掲載された幾つかの論説からの引用がある。この年、ジョセフ・スミスは2月から10月までの8か月間にわたって同紙の編集者を務め、「編集者」の署名を付した記事を頻繁に掲載した。記事の多くはほかの人々が執筆を手伝っているが、預言者はそれらを承認し、自分の名前で発表している。

手紙。本書ではジョセフ・スミスによって書かれた、または口述された、数々の手紙から引用されている。また、ジョセフの指示の下でほかの人々が一部または全部を書いた手紙を、ジョセフ・スミスが承認し、署名したのも引用されている。

日記。預言者の日記はその教えを伝える貴重な情報源となっている。預言者の日記は相当な量に及ぶが、実際に彼自身が書き記すことは少なかった。代わりに、預言者は筆記者に自分の監督の下で日記を書くよう指示を与え、自らは召しに伴う数々の差し迫った責任に集中できるようにしていた。² 殉教の直前に、ジョセフは次のように述べている。「わたしには過去3年間に自分が行ったことをすべて記した記録があります。数名の善良で忠実で有能な書記を常に雇うようにしてきたからです。彼らはあらゆる所に同行し、詳しくわたしの記録をつけ、わたしが何を行い、どこに行き、何を語ったかを書き留めています。」² これらの筆記者は、日記を三人称で記録することもあれば、あたかもジョセフ・スミス自身が書き記しているかのように一人称で記録することもあった。

ほかの人々の記憶。本書では、預言者が語るのを聞き、後にその言葉を日記やほかの文書に記した人々の回想からも引用されている。預言者の死後、教会の指導者と歴史家は多大な努力を払ってそのような文書を集めて保存し、また、以前に書き記されていなかった預言者についての回想を記録した。それらの資料は、記録した本人が実際にその言葉を聞いている場合にのみ採り上げられている。

聖文。本書には、後に聖文として教義と聖約や高価な真珠に収録さ

れたジョセフ・スミスの教えや文書からの引用がある。聖文に含められたそのような文書としては、教義上のテーマについて預言者が語った教え、記録した示現、およびしたためた手紙やほかの書き物がある。本書では、本書で述べられている教義を理解するのに役立つ場合に、これらの聖文に含められた教えや文書が引用されている。

『教会歴史』(History of the Church)

本書に掲載されている預言者ジョセフ・スミスの説教や文書の多くは、本書では『教会歴史』(History of the Church) と呼ばれる『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史』(History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saint) から引用したものである。³ 『教会歴史』の第6巻までに、教会の起こりからジョセフ・スミスの^{じゆんきやう}殉教までの、末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史が紹介されている。この歴史は、おもにジョセフ・スミスの生涯と務めに関連した出来事や経験を述べたものであり、預言者の生涯と教えや初期の教会の発展の歴史について、最も重要な情報源の一つである。

新聞などで流布していた偽りの情報に対抗するために、1838年の春、ジョセフ・スミスは最終的に『教会歴史』となった歴史記録の原稿の準備に着手した。預言者は自らの歴史を完成することに大きな関心を寄せていた。1843年、預言者はこう語っている。「歴史の編さんは何よりも気になっていることの一つです。それは非常に困難な作業となっています。」⁴

『教会歴史』は、預言者の回想、日記などの個人的な記録に基づいており、預言者の日々の行動や教会の歴史における重要な出来事を紹介している。また預言者の説教の報告、預言者が受けた啓示を筆記した文書、教会の定期刊行物の記事、大会の議事録、およびそのほかの文書も収録されている。

ジョセフ・スミスは世を去るまで、歴史の原稿の準備と見直しに携わり続けた。しかし、大半については、自分の監督の下で作業に当たるようほかの人々に指示を与えていた。その理由として、預言者はその生涯にわたって、自分の考えを書き留めるよりも語ったり口述したりするのを好んだことや、自分の務めを果たすよう絶えず要求されていたことが挙げられる。1839年7月5日付けの預言者の記録にはこう記されている。「わたしは歴史を口述していました。口述と言ったのは、自分でペンを持つことはめったにないからです。」⁵

1844年6月の時点で、歴史は1838年8月5日まで書き記されていた。預言者は世を去る直前にカーセージの監獄で、当時彼の正筆記者であったウィラード・リチャーズ長老に、歴史の編さん計画を継続する責任をゆだねている。⁶ リチャーズ長老をはじめとして預言者の身近にいた人々は、リチャーズ長老が世を去る1854年まで、指示されたとおりに歴史を書き続けた。その後、歴史の編さん作業は、おもにジョージ・A・スミス長老によって行われるか、彼の指示の下で行われた。ジョージ・A・スミス長老は預言者のいとこであり、親しい友人であった。1839年に使徒に聖任され、1854年に教会歴史家となっている。ほかにも教会歴史家事務所 で働いた多くの人が編さんを手伝った。

『教会歴史』の編さん者の重要な作業の一つは、歴史に収める原文資料を編集し、原稿を準備することだった。その作業の中で、彼らは『教会歴史』に収録されるほとんどの原文資料に、編集上の細かな修正を行う必要があった。つづりの誤りを訂正し、句読点、大文字、文法を統一した。さらに、上記以外の変更を加えることもあった。これらの変更は、以下の3種類に分類することができる。

1. 記録を結合する。ジョセフ・スミスの説教の多くは、その場にいた複数の人によって記録されていた。このため『教会歴史』の編さん者は同じ説教について二つ以上の記録を結合して一つの説教とした例もある。
2. 記録を三人称から一人称に変更する。預言者の教えや行動について、多くの記録が三人称で記されていた。これらの記録はおもに預言者の筆記者によって書かれたものだが、中には預言者を知るほかの人々を書いたものや、新聞の記事から採られたものもあった。『教会歴史』の編さんに当たって、編さん者はあたかも預言者が記しているかのように一人称で歴史を書き記した。そのため、三人称で書かれた幾つかの記録を一人称に変更する必要があった。
3. 語句を追加または変更する。預言者の説教を書き留めたメモの多くは、短く、不完全で、断片的なものだった。このような場合、教会歴史家は入手できた記録に基づいて、また預言者に関する自分たちの記憶や経験も参考にしながら、預言者の説教を再構築した。この作業の中で、欠けている箇所を補い、意味を明確にするために、時々語句の追加や変更を行う必要があった。

『教会歴史』の編さんおよび執筆はすべて、使徒による監督と検閲を受けている。歴史の原稿は、ブリガム・ヤング大管長を含む大管長

会と十二使徒定員会の会員に向けて読み上げられた。彼らの中には、預言者と親しく接し、本人の説教を聞いていた人々もいた。この指導者たちによって、その原稿を該当する期間の教会の歴史として出版することが承認された。

1856年8月、ジョセフ・スミスの殉教までの歴史が完成した。この歴史は、19世紀に「ジョセフ・スミスの歴史」(“History of Joseph Smith”)として教会の定期刊行物に連載されている。⁷ 後に、この歴史は七十人会長会の会員であるB・H・ロバーツ長老によって編集され、1902年から1912年までの間に全6巻として出版された。そして『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史』と名付けられた。

歴史を編さんした人々は、その記録が正確なものであることを証言している。ジョージ・A・スミス長老は次のように述べている。「預言者の表現方法にできるかぎり近い形式を取って様々な概念を伝えるために、細心の注意が払われてきました。わたしの知るかぎり趣旨が変えられた箇所は一つもありません。なぜならわたしは預言者の説教のほとんどを自分の耳で聞いており、彼とこの上なく親しい間柄にあり、その教えを非常に鮮明に覚えており、彼の行動指針と真意を十分によく知っていたからです。」⁸

ジョージ・A・スミス長老とウィルフォード・ウッドラフ長老は、こう宣言している。「今や『ジョセフ・スミスの歴史』が世の人々の前にあります。詳細な点においてこれ以上に正確な歴史がかつて公表されたことはなく、わたしたちはそのことに満足しています。この歴史をきわめて正確なものとするために、作業に携わった歴史家と事務担当者は可能なかぎり努力しました。彼らはこの歴史に記録されているほぼすべての出来事を自ら見聞きした証人であり、出来事のほとんどは、それが起こったときに報告されたものです。また直接見聞きしていない箇所については、その場にいた人々との接触を図りました。さらに、預言者ジョセフの死後、『歴史』はブリガム・ヤング大管長の厳しい精査の下で改訂され、ヤング大管長により承認されました。

よって、わたしたちはここに、これらの言葉を手にする全世界の人々に証します。『ジョセフ・スミスの歴史』は真実であり、かつて書き記された歴史書の中で最も確かな記録の一つです。」⁹

本書では、預言者ジョセフ・スミスの説教や文書は、『教会歴史』に当時の説教や文書が収録されているかぎり、『教会歴史』から引用されている。『教会歴史』から引用している場合、章末の注には預言

者の説教を記録した人物の名前を含む、説教や文書についての情報が記載されている。また『教会歴史』の編さん者がジョセフ・スミスに関する自分たちの記憶や経験を参考にして当初の報告に語句の変更や追加を行っている場合も、注にその旨が明記されている。そのような追加や変更は、引用文の意味に影響が及ぶときにのみ注記されている。編集上の小さな変更は注記されていない。

高価な真珠に含められている「ジョセフ・スミス—歴史」と題された書は、『教会歴史』第1巻の最初の5つの章からの抜粋である。

注

- 『イブニング・アンド・モーニング・スター』は、1832年から1833年までミズーリ州インディペンデンスで、また1833年から1834年までオハイオ州カートランドで発行された。『末日聖徒のメッセンジャー・アンド・アドボケート』は、1834年から1837年までカートランドで発行された。『エルダーズジャーナル』は、1837年にカートランドで、1838年にミズーリ州ファーウェストで発行された。『タイムズ・アンド・シーズズ』は、1839年から1846年までイリノイ州ノーブーで発行された
- History of the Church*, 第6巻, 409。1844年5月26日にイリノイ州ノーブーでジョセフ・スミスが行った説教から。トーマス・ブロックによる報告
- 『教会歴史』(History of the Church)は、『教会歴史記録』(Documentary History of the Church)と呼ばれてきた
- History of the Church*, 第6巻, 66。“History of the Church”(原稿), book E-1, 1768から, 教会記録保管課, 末日聖徒イエス・キリスト教会, ユタ州ソルトレーク・シティー
- History of the Church*, 第4巻, 1。“History of the Church”(原稿), book C-1, 963から, 教会記録保管課
- 1856年4月21日, ユタ州ソルトレーク・シティーでジョージ・A・スミスがウィルフォード・ウッドラフにあてて書いた手紙を参照。Historical Record Book (1843年–1874年), 219, 教会記録保管課
- 「ジョセフ・スミスの歴史」は、1842年3月15日から1846年2月15日まで『タイムズ・アンド・シーズズ』に連載され、引き続き『デゼレトニュース』(Deseret News)に1851年11月15日から1858年1月20日まで連載された。また1842年6月から1845年5月, および1852年4月15日から1863年5月2日まで『ミレニアルスター』(Millennial Star)に転載されている
- 1856年4月21日, ユタ州ソルトレーク・シティーで, ジョージ・A・スミスがウィルフォード・ウッドラフにあてて書いた手紙。Historical Record Book, 1843–1874年, 218, 教会記録保管課
- ジョージ・A・スミスとウィルフォード・ウッドラフ, *Deseret News*, 1858年1月20日付, 363。原文(英語)においては, 段落は変更



絵画・写真リスト

- 表紙——「ジョセフ兄弟」デビッド・リンズレー画，©1998 David Lindsley
- viページ——「ジョセフ・スミス」アルビン・ギッティンズ画，©1959 IRI
- xxiiページ——「熟考を重ねた後に」アル・ラウンズ画，©1989 Al Rounds 複写は禁じられています
- 4ページ——写真／ジョージ・エドワード・アンダーソン。教会歴史美術博物館の厚意により掲載
- 6ページ——「エマ・ヘイル・スミス」リー・グリーン・リチャーズ画，©1941 IRI
- 21ページ——写真／Daughters of Utah Pioneers の厚意により掲載
- 26ページ——「ジョセフ・スミスの最初の示現」グレッグ・K・オルセン画，©1988 Greg K. Olsen
- 30ページ——「聖書に知恵を求めるジョセフ・スミス」デール・キルボーン画，©1975 IRI
- 36ページ——「最初の示現」グレン・S・ホプキンソン画，©1994 Glen S. Hopkinson 複写は禁じられています
- 41ページ——写真／スティーブ・バンダーソン，©2005 Steve Bunderson
- 46ページ——「カートランド神殿に御姿を現された主」デル・パーソン画，©2001 IRI
- 50ページ——「なぜ泣いているのか」サイモン・デュレイ画，©2006 Simon Dewey, Altus Fine Arts
- 54ページ——「キリストと子供たち」ハリ・アンダーソン画，©1975 IRI
- 58ページ——「金版を受け取るジョセフ・スミス」ケネス・ライリー画，©1968 IRI
- 70ページ——「ゲツセマネのキリスト」ハリ・アンダーソン画，©IRI
- 74ページ——「放蕩息子」クラーク・ケリー・プライス画，©1989 IRI
- 78ページ——「アロン神権の回復」デル・パーソン画，©1984 IRI
- 84ページ——「イエスにバプテスマを施すヨハネ」ハリ・アンダーソン画，©IRI
- 88ページ——「ジョセフ・スミス・シニアのバプテスマ」ロバート・T・バレット画，©2007 Robert T. Barrett
- 93ページ——「モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ」ミネルバ・タイカート画。ブリガム・ヤング大学美術館の厚意により掲載
- 96ページ——写真／デレク・イズラエルセン，©2002 Derek Israelsen
- 102ページ——「メルキゼデク神権の回復」ケネス・ライリー画，©1965 IRI
- 106ページ——「子孫を祝福するアダム」クラーク・ケリー・プライス画，©1997 Clark Kelley Price
- 122ページ——「マムレの平野でのアブラハム」ハリ・アンダーソン画，©1976 IRI
- 126ページ——「ジョセフ・スミス，オリバー・カウドリ，デビッド・ホイットマーに金版を見せる天使」ウィリアム・モーン画，©1988 William Maughan
- 136ページ——「最初の実り」ジェフリー・ハイン画，©2005 Jeffrey Hein
- 140ページ——「1830年，イエス・キリストの教会が組織される」ジョセフ・ブリッキー画，©Joseph Brickey 複写は禁じられています

- 148ページ——「ノーブーで教えを説くジョセフ」サム・ローラー画，©2001 Sam Lawlor
- 158ページ——「ニューエル・K・ホイットニーの店でのジョセフ・スミス」ポール・マン画，©1986 Paul Mann
- 167ページ——「カイザリヤでのパウロ」ステッチャー画，Providence Lithograph Collection 版權所有
- 172ページ——「父親の贈り物」リズ・レモン・スウィンドル画，©1998 Liz Lemon Swindle, Foundation Arts 複写は禁じられています
- 177ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 182ページ——シオンの町の図面。教会歴史美術博物館の厚意により掲載
- 187ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 192ページ——「啓示を受けるジョセフ・スミス」ダン・ルイス画，©2007 Dan Lewis
- 201ページ——「教えを説いてあざけりを受けるノア」ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 206ページ——「モーセに御姿を現される主」ウィルソン・オンゲ画，©2002 IRI
- 222ページ——写真，©Photospin
- 228ページ——「暴徒に襲われる預言者ジョセフ」サム・ローラー画，©2001 Sam Lawlor
- 234ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 238ページ——「リバティーの監獄を訪れる家族」ジョセフ・ブリッキー画，©1996 Joseph Brickley 複写は禁じられています
- 257ページ——「怒りもなく」ナンシー・グレイザー・コーラー画，©1984 Nancy Glazier-Koehler
- 262ページ——「知恵の言葉が明らかにされる」ケネス・A・コーベット画，©2005 Kenneth A. Corbett 複写は禁じられています
- 267ページ——写真／デビッド・ストーカー，©2005 David Stoker
- 272ページ——「整地に着手するハイラム・スミス」ジョセフ・ブリッキー画，©1999 Joseph Brickley
- 277ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 282ページ——写真／ステーブ・バンドerson，©2000 Steve Bunderson
- 288ページ——「荷車を沼地から引き上げるのを助けるジョセフ」クラーク・ケリー・ブライス画，©1994 IRI
- 292ページ——「預言者の生徒」ポール・マン画，©1998 Paul Mann
- 298ページ——「種まき」コーラー画，Providence Lithograph Collection 版權所有
- 302ページ——写真，©Dynamic Graphics, Inc
- 306ページ——「カートランド神殿に現れるエリヤ」ダン・ルイス画，©2007 Dan Lewis
- 312ページ——写真／デレク・イズラエルセン，©2001 Derek Israelsen
- 322ページ——「キリストを裏切るユダ」テッド・ヘニンジャー画，©1976 IRI
- 328ページ——「イギリス・チャトバーンでのヒーバー・C・キンボールとジョセフ・ファールディング」ポール・マン画，©1987 Paul Mann
- 340ページ——「偏見から尊敬へ」ジェフリー・ハイン画，©2007 Jeffrey Hein
- 343ページ——「山上の垂訓」ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 350ページ——「リッチモンドの監獄で看守を叱責するジョセフ・スミス」サム・ローラー画，©2007 Sam Lawlor
- 355ページ——「宝を地に隠す」コーラー画，Providence Lithograph Collection 版權所有
- 358ページ——「リバティーの監獄でのジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画，©1990 Greg K. Olsen

- 365ページ——「ピラトの前に立たれるキリスト」ミヒヤエル・フォン・ムンカーチ画
- 370ページ——「心を一つにし——氷上を渡るエマ」リズ・レモン・スウィンドル画，©1998 Liz Lemon Swindle, Foundation Arts 複写は禁じられています
- 375ページ——「ミズーリを立ち去る」C・C・A・クリステンセン画，ブリガム・ヤング大学美術館の厚意により掲載
- 380ページ——「エライジャ・フォードを癒す」ジェフリー・ハイン画，©2007 Jeffrey Hein
- 390ページ——「姦淫の場で捕えられた女」ハリ－・アンダーソン画，©Seventh-day Adventist Church 複写は禁じられています
- 397ページ——「ジョセフ・スミスとウィリアム・W・フェルプス」ロバート・アンダーソン・マッケイ画，©1997 Robert Anderson McKay
- 402ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 406ページ——「霊界で教えを説かれるキリスト」ロバート・T・バレット画，©1985 Robert T. Barrett
- 424ページ——写真／ドン・ソープ，©1986 IRI
- 430ページ——「寡婦のために小さな家を建てる」アダム・エイブラム画，©2001 Adam Abram
- 432ページ——「エマ・スミス，選ばれた婦人」セオドア・ゴーカー画，©1996 IRI
- 436ページ——「執筆中のジョセフ・スミス」デール・キルボーン画，©1981 Dale Kilbourn 複写は禁じられています
- 440ページ——「版の管理をゆだねられるジョセフ・スミス」ゲ－リー・E・スミス画，©Gary E. Smith
- 448ページ——「さあ，喜びましょう」ウォルター・レーン画，©2005 IRI 教会歴史美術博物館の厚意により掲載
- 453ページ——写真／ロバート・ケーシー，©2007 Robert Casey
- 458ページ——「川辺に立つジョセフ・スミスと兄ハイラム」セオドア・ゴーカー画，©1996 IRI
- 465ページ——「アイオワの娘」ジョセフ・ブリッキー画，©Joseph Brickey 複写は禁じられています
- 473ページ——写真／マーク・キャンノン，©1989 IRI
- 480ページ——写真／ステーブ・バンドーソン，©1999 Steve Bunderson
- 484ページ——「子供たちの出迎えを受けるジョセフ・スミス・シニア」ポール・マン画，©2001 Paul Mann
- 487ページ——「クモラの丘での経験を家族に語る若きジョセフ・スミス」ロバート・T・バレット画，©1987 Robert T. Barrett
- 492ページ——「1834年，ミシガン州ポンティアック支部で聖徒たちに語るジョセフ・スミス」ロバート・T・バレット画，©1986 Robert T. Barrett
- 508ページ——「ノーブー神殿でのジョセフ・スミス」ゲ－リー・E・スミス画，©1975 Gary E. Smith
- 518ページ——「ジョセフが涙でぬれた頬をふいてくれました」クラーク・ケリー・ブライス画，©1996 IRI
- 524ページ——「1840年，ノーブーでのジョセフ」セオドア・ゴーカー画，©1996 IRI
- 528ページ——「カーセージの監獄を襲う暴徒」ウィリアム・モーン画，©1986 IRI
- 533ページ——「ジョセフ・スミスの十二使徒との最後の集会」ロバート・T・バレット画，©2004 Robert T. Barrett
- 542ページ——「ノーブーで教えを説くジョセフ・スミス」ポール・マン画，©1994 Paul Mann



索引

あ 愛

__がもたらす平和, 344
 __は心に力を与える, 428-429
 家族が持つ__, 482-489
 神の特質, 39, 330-331, 426
 寛容と憐れみ, 427-429
 指導者が持つ__, 287
 宣教師が持つ__, 330-331
 全人類に対する__, 426
 貧しい人や助けの必要な人に対する__,
 426-427, 451-452, 464
 「貧しい人や助けの必要な人」「友情」
 の項も参照
 アイオワ (ミズーリ州), 379
 証
 __を述べる機会を求める, 333-336
 最初の示現に関する__は欠かせない,
 545-547
 ジョセフ・スミスは血をもって__を結
 び固めた, 537-538
 信仰は__を聞くことによってもたらさ
 れる, 385
 証, イエスの
 __は預言の霊である, 195, 384-385
 聖霊を通して, 97-98
 日の栄えの王国に必要, 220-223
 贖い
 __をすべての人に教える, 152-154
 子供は__によって贖われる, 94-95,
 176-178
 死者は__によって贖われる, 405-407, 471
 昇栄は__によって可能となる, 52-53,
 220-222, 444
 すべての聖徒は__に依存している,
 48-49
 復活は__によって可能となる, 49-52
 「イエス・キリスト」「復活」の項も参照
 贖い, 死者の。「死者の救い」の項を参照
 赤れんが造りの店
 __でエンダウメントが執行された, xxi,
 22, 413-414
 __で教義と聖約第132章が書き取られ
 た, 479-481

__で扶助協会が組織された, 449-450
 ジョセフ・スミスの事務所と店が__の
 中にあった, 423-425, 432, 519
 悪人の受ける苦しみ, 91, 223-224
 悪魔。「サタン」の項を参照
 悪霊。「霊, 邪悪な」の項を参照
 アダム
 アダム・オンダイ・アーマンにおける
 __, 105-106
 神から儀式を受けた, 107-108
 神にかたどって創造された, 40
 ジョセフ・スミスは__を見た, 103
 人類家族の父, 104-105, 107
 大会議が開かれるであろう, 104
 天使長ミカエル, 103-104, 107
 メルキゼデク神権を最初に授かった,
 104-105, 107-108
 アダム, 墮落, 406, 444
 アダム・オンダイ・アーマン, 105-106
 アダムズ, ジェームズ, 179-180, 414
 新しくかつ永遠の聖約の結婚, xxi, 221,
 479-481。「結婚, 永遠の」の項も参照
 アブラハム, 49, 94-95, 121-122,
 128-129, 230-231
 アブラハムの書, xviii, xx, 12, 435
 アベル, 48, 94, 107
 アメリカ
 イエス・キリストは__に教会を設立さ
 れた, 139, 441
 シオンは__に建設される, 188-190, 445
 アロン神権
 __の回復, xv, 7-8, 78-80, 85, 89
 __の職を尊んで大いなるものとする,
 110-111
 エライアスの霊, 85-86
 外形上の儀式の執行, 109
 神が__を持つ者を召される, 110
 誓詞は伴わない, 109
 定員会が設立された, 13
 パプテスマのヨハネは__を持っていた,
 84-85
 憐れみ
 神の__, 39, 71, 75-76, 404
 死者の贖いにおける__, 407-408, 471-472

全人類への__ , 427-429
 他者を救すことにおける__ , 392-399
 扶助協会の姉妹が示した__ , 454-455
 「救し」の項も参照
 按手
 聖霊の賜物を授けるため , 95-97
 病人を癒すため , 382
 アントン , チャールズ , xv
い
 言い伝え , 偽りの , 264-265
 イエス・キリスト
 アダム・オンダイ・アーマンにおける__ , 105-106
 新しい聖約の仲保者 , 221
 __と神会 , 41-42
 __と共同の相続人 , 52-53, 65-66, 152-154, 221-222, 264-265, 403, 418
 __の証 , 97-98, 195, 384-385
 __の贖い , 48-53, 94-95, 220-222, 405-407, 445
 __の英知 , 53
 __の再臨 , 104, 251-256
 __のバプテスマ , 81-85, 94
 __の描写 , 47
 __の復活 , 49-52
 __の御名によるバプテスマ , 91-94
 __はアメリカ大陸に教会を設立された , 139, 441
 __は王国を御父にささげられる , 108
 __は教会のかしらである , 139-141
 __は子供を贖われた , 94-95, 176-178
 __は神権の鍵をベテロ , ヤコブ , ヨハネに授けられた , 104
 __はすべての下に身を落とされた , 366
 __は前世において選ばれた , 209
 __は全知であられる , 406-407
 __はたとえで教えられた , 295-296
 __は福千年の間統治される , 256-258
 __はメルキゼデク神権を持っておられる , 83, 139, 209, 408
 __を信じる信仰 , 48-49, 154, 444
 偉大な大祭司 , 105
 カートランド神殿における__ , xix, 13, 47, 308, 553
 完全な人生の模範 , 53-54, 168, 352-354
 犠牲は__を指し示す , 48-49
 教義と聖約に記録されている__の示現 , 76, 45-47, 217-219
 骨肉の体 , 41-42
 最初の示現 , xiv, 5, 31-32, 38, 438
 死者の救い , 405-407, 471-472
 試しにあって__はわたしたちを支えてくださる , 230, 364-366

地球は__のものとなる , 258
 敵は__を滅ぼそうとした , 201-202, 321, 522
 救しの模範 , 392-394
 「贖い」「再臨」「復活」の項も参照
 異言の賜物 , 382-384
 石切り場でジョセフ・スミスは働いた , 273
 イスラエルの家。「イスラエルの回復」の項も参照
 イスラエルの回復 , 50, 61, 144, 184, 186-189, 251, 308, 333, 403, 439, 444-445
 一致
 __がもたらす祝福 , 278
 カートランド神殿の建設における__ , 273
 神の目的は__によって果たされる , 274-275
 管理をする定員会における__ , 141
 教会員同士の__ , 143-144, 274-278
 従順がもたらす__ , 275-277
 神会の御三方の__ , 42
 無私の心が__をもたらす ,
 友情が__をもたらす , 463-464
 救しが__をもたらす , 393-396
 偽りの言い伝え , 264-265
 偽りの霊の識別 , 385-388。「霊 , 邪悪な」の項も参照
 犬 , ジョセフ・スミスの , 18, 242, 245
 祈り
 __を通して知識を得る , 266-268
 親は子供のために祈る , 486-488
 神に対する知識が__のときに助けとなる , 40-41
 神は聞いて , 啓示を与えてくださる , 40-41, 128-133, 197-198
 ジョセフ・スミスの__は最初の示現につながった , xiv, 5, 31-32, 125, 438
 ジョセフ・スミスの力強い__ , 127, 131
 ジョセフ・スミスの両親は__について教えた , 37
 信仰をもって簡潔に祈る , 131-132
 すべてのことについて祈る , 130-131
 徳高くあることと__ , 131
 戒め。「従順」の項も参照
 『戒めの書』 , xviii, 11-12, 194。「教義と聖約」の項も参照
 癒し
 按手による__ , 382
 癒される受ける信仰 , 379-382
 __の霊的な賜物 , 117-118, 120, 382, 441, 445
 エライジャ・フォードムの__ , 379-381
 義人がすべて癒されるわけではない , 382
 ジョセフ・スミス・シニアの__ , 483

ジョセフ・スミスの__、240, 486-488
 イリノイ州。「クインシー (イリノイ州)」「ノーブー (イリノイ州)」「レイマス (イリノイ州)」の項を参照
 イングランドへの伝道, 14, 327-329
 印刷, モルモン書の, xvi, 8, 135
 インディアン。「レーマン人」の項を参照
 インディペンデンス (ミズーリ州)
 『戒めの書』は__で出版された
 シオンの中心の場所, xvii, 11, 184, 239
 ジョセフ・スミスは__で監禁された, 17, 249-251
 神殿の建てられる場所, xvii, 11, 184, 413
 「ジャクソン郡 (ミズーリ州)」の項も参照

う

ウィリアムズ, フレデリック・G, xvii, 25, 263, 271
 ウェントワース書簡, xx, 437-445
 ウェントワース, ジョン, 437
 訴え, ジョセフ・スミスに対する, 14-15, 239-240
 ウッドラフ, ウィルフォード, xii, 283, 379-381
 海に網を下ろすたとえ, 302-303
 ウリムとトンミム
 三人の証人は__を見せられた, 125-127
 ジョセフ・スミスは__を取り上げられた, 7, 71
 地球は__になる, 258
 翻訳の際に__を使った, 7, 60, 62, 71, 116, 439-441

え

永遠の命。「救い」「日の栄えの王国」を参照
 永遠の結婚。「結婚, 永遠の」を参照
 栄光の王国, 219-224。「日の栄えの王国」の項も参照
 栄光の段階, 三つの, 219-224
 英知
 イエス・キリストの__, 53
 __の永遠性, 209-211
 __は創造されたものではない, 209-211
 __を受ける, 132, 268, 333
 神の__は完全である, 39
 復活の際, __はよみがえる, 266
 「知識」の項も参照
 エジプトのパピルス, xviii, 12
 エノク, 94
 エライアス
 __の霊, 85-86
 __の霊がジョセフ・スミスに明らかにされた, 85-86, 544

__はカートランド神殿に現れた, xix, 13-14, 103, 308, 553
 __は先立って行く者, 313, 544
 バプテスマのヨハネは__の霊を持っていた, 85-86
 エリヤ
 __の信仰, 131
 __の人間としての弱さ, 521-522
 __の霊, 力, 召し, 311-312
 __はカートランド神殿に現れた, xix, 13-14, 103, 306-310, 553
 __は神権の鍵をペテロ, ヤコブ, ヨハネに授けた, 104
 __は再臨の備えをする, 313
 __は先祖の心を子孫に向けさせた, 472-477
 __は結び固めの鍵をジョセフ・スミスに回復した, xix, 13-14, 308-313, 510
 マラキは__の訪れを預言した, 308-309
 エルサレム
 __は再臨の前に再び建てられる, 188-189, 252
 オーソン・ハイドの__における使命, 329, 333
 「新エルサレム」の項も参照
 エンダウメント。「神殿のエンダウメント」の項を参照

お

王国, 栄光の, 219-224。「日の栄えの王国」の項も参照
 王国, 神の, 80-85。「末日聖徒イエス・キリスト教会」の項も参照
 雄々しい人, 352-356
 治める, 正しい原則を教えることにより, 283-284。「教会の指導者」の項も参照
 教え, ジョセフ・スミスの, 283-284, 293-294, 333-336, 493-494, 499-504, 520-521
 夫, 482-483。「結婚, 永遠の」の項も参照
 オハイオ州。「カートランド (オハイオ州)」「ハイラム (オハイオ州)」「ペーンズビル (オハイオ州)」の項を参照
 親
 __は子供のために祈る, 486-488
 __は子供を愛し, 世話をする, 241-246, 486-489
 __は亡くなった子供を永遠の世において得る, 94-95, 176-178
 子供は__を敬うべき, 483-485
 ジョセフ・スミスは__を敬った, 483-485
 終わりまで堪え忍ぶ, 230-235, 355-356, 531
 御父, 天の。「父なる神」の項を参照

か

カーセージの監獄

__におけるウィラード・リチャーズの
友情, 460-461

__の写真と絵, 23, 528

ジョセフ・スミスは__で殉教した, xxi,
23-24, 530, 534-538

ジョセフ・スミスは__の中で証した, 336

カーター, ジョアンナ, 242, 247

カートランド (オハイオ州)

__で受けた啓示, 12, 193-194

__における教会本部, 11, 184, 239

__における財政問題, 315

__における背教, 315-317

__への聖徒の集合, xvii, 11, 159-160

シドニー・リグドンは__で改宗した, 9, 150

ジョセフ・スミスの__への到着, xvii,
11, 158-160, 171

ステーク, __において組織された,
12-13

聖徒は__を去った, xix, 15, 339

「カートランド神殿」「ハイラム (オハ
イオ州)」の項も参照

カートランド神殿

イエス・キリストが__に現れられた,
xix, 13, 47, 308, 553

__の建設, xvii-xix, 12, 271-273,
281, 293, 413, 414-415, 450

__の写真, 13

__の奉獻, xviii-xix, 13, 199, 307-
308, 419-420

ジョセフ・スミスは__の示現を見た, 271

聖徒は__を残して去ることを余儀なく
された, xix, 15, 339

モーセ, エライアス, エリヤが__に現れ
た, xix, 13-14, 103, 308-310, 553

ガウス, ジェシー, xvii, 25

回復, 完全な福音の, 509-513。「時満ち
る時代の神権時代」「末日聖徒イエ
ス・キリスト教会」の項も参照

カイン, 108

カウドリ, オリバー

__のバプテスマ, xv, 7-8, 79-80,
89-90

__のレーマン人への伝道, 150

__はアロン神権を受けた, xv, 7-8,
78-80

__は偽りの啓示を信じた, 196-197

__は教会の創設会員の一人, 137

__はコールズビルの聖徒にバプテスマ
を施した, 149

__はサミュエル・スミスにバプテスマ
を施した, 90

__は三人の証人の一人, xvi, 125-127

__は長老に聖任された, 138

__はメルキゼデク神権を受けた, xv, 8, 101

__はモルモン書の翻訳の際の筆者,
xv, 7-8, 79, 115-116

カートランド神殿での示現, xix, 13-
14, 46-47, 306-310

救い主の示現, 46-47

鍵。「神権の鍵」の項を参照

家族

永遠にわたる__の結び固め, 311-312

親に対する子供の愛, 483-485

きょうだい同士の愛, 461, 485-486

子供に対する親の愛, 486-489

ジョセフ・スミスが__にあてて書いた
手紙, 240-246

夫婦の愛, 482-483

「結婚, 永遠の」の項も参照

家族歴史, 472-477。「死者の救い」の項
も参照

合衆国大統領。「大統領, 合衆国の」の項
を参照

合衆国連邦議会, xx

ガブリエル, 103-104。「ノア」の項も参照

神々, 昇栄した人々がなる, 52, 221-
222, 481, 531

からし種のたとえ, 105-106, 142-143,
301

ガラティン (ミズーリ州), xix, 18, 371

カルバー, アロン, 149

感謝

逆境にもかかわらず, 232-233

ジョセフ・スミスが表した__, 233,
246, 288, 459, 461-463, 483-485

寛容, 他者に対する, 427-429

き

議会, 合衆国, xx

儀式

アダムは__を受けた, 107-108

__は永遠に変わらない, 107-108

神殿のみで行われる__, 416-419

どの神権時代の聖徒も__を受ける,
92-94

「結婚, 永遠の」「死者の救い」「死者の
ためのバプテスマ」「神殿のエンダウ
メント」「バプテスマ」の項も参照

犠牲

古代の聖徒の__, 48-49, 107-108

救い主の__, 48-49

義の冠, 164-168, 355-356

逆境。「試練」の項を参照

教育, ジョセフ・スミスの受けた, 2-3,
28, 261-263, 547-550

教会の指導者

- __の愛, 287, 523-525
 __の謙遜さ, 285-287
 __は正しい原則を教える, 284-285
 __はわたしたちを惑わすことはない, 324
 __を批判することは背教につながる, 318-320
 __を支持する, 199-200, 318-320, 324, 520-521
 シオンの陣営におけるジョセフ・スミスの指導力, 16, 281-283, 287-290
 御霊からの知恵, 285-287
 教会の組織, xvi, 8-9, 90, 137-140, 441
 教会の大管長
 神は__に御心を明らかにされる, 196-199, 253-254
 __はわたしたちに対する神の代理人, 198
 __を拒むものに対する裁き, 200-203
 大神権の大管長, xvii
 「預言者」の項も参照
 教会の名称, xvi, 8
 教会の召しを尊んで大いなるものとする, 110-111
 『教会歴史』
 __の編さんと出版, 560-563
 『タイムズ・アンド・シーズンズ』に掲載された, 435-437
 教義と聖約
 __の価値, 194
 __の啓示を裏切らない, 66, 373
 __の研究, 64-66
 __の出版, 12, 194
 __の初版, xviii
 __のはしがき, 193-194
 ジョセフ・スミス訳と__, 208, 217-219
 バン種のとえは__について説明する, 301-303
 『『戒めの書』』『聖文』の項も参照
 きょうだいの愛, 461, 485-486。「家族」の項も参照
 共同の相続人, イエス・キリストと, 52-53, 65-66, 152-154, 221-222, 264-265, 403, 419
 キリストのような特質を伸ばす, 53-54, 352-354
 記録を付ける, 死者のバプテスマの, 470
 金版
 __がジョセフ・スミスから取り上げられた, 7, 71
 __の描写, 60-62, 439-441
 証人が__を見た, xvi, 125-127
 ジョセフ・スミスは__を受け取った, xiv-xv, 6-7, 58-60, 439-440
 暴徒が__を盗もうとした, xv, 7, 59

モルモン書は__に書かれていた, 6, 57-62, 115, 439-441
 「モルモン書」「モルモン書の翻訳」「モロナイ」の項も参照

キンボール, サラ・グレインジャー, 449
 キンボール, ヒーパー・C, 14, 327-329, 414
 く

杭 (制限), 264-265

悔い改め

贖いは__を可能にする, 48-49
 神は悔い改める人を赦される, 75-76, 397-398, 428-429
 教会員は__を求められる, 154
 __によって神に似た者となる, 72-74
 __を引き延ばしてはならない, 73-74
 ジョセフ・スミスの__, 69-71, 116-117
 すべての罪を悔い改める, 72-74
 すべての人に__を教える, 153-154
 クインシー (イリノイ州), xx, 18, 369-371, 379

クック, マーガレット・A, 449

グッドソン, ジョン, 327

苦難。「試練」の項を参照

クモラ, 3, 103

グランディン, エグバート・B, xvi, 8, 135

クリーブランド, サラ・M, 451

グリーンビル (インディアナ州), 240

クリスマスに受けた啓示, 249

クレイ郡 (ミズーリ州), 15-16, 281, 339, 442

クレイトン, ウィリアム, 479

グロアード, ベンジャミン・F, 329

け

啓示

偽りの__に気をつける, 196-197
 神はすべて求める者に__をお与えになる, 40-41, 128-133, 197
 教会の大管長は__を受ける, 196-199, 253-254
 教会は__によって導かれる, 195-196
 __に必要な従順, 132
 __による最初の勧め, 132-133
 __は救いに必要, 195
 __を通して聖霊を受ける, 132-133
 ジョセフ・スミスの__, 193, 249-250, 263
 すべての__を受け入れる, 264-265
 霊は__を受ける, 475

系図。「死者の救い」の項を参照

結婚

ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの__, 1
 ジョセフ・スミスとエマ・スミスの__, xv, 6-7, 59

結婚、永遠の

夫と妻は互いに愛し合う, 482-483
 __の新しくかつ永遠の聖約, xxi, 221,
 479-481
 ジョセフ・スミスは教義と聖約第132章
 に記録した, xxi, 21-22, 479-481
 ジョセフ・スミスは__を教えた, 479-481
 日の栄えの王国の最高の階級に求めら
 れる__, 221, 479-481

「家族」の項も参照

結婚、多妻, xii, 22

謙遜

__に人に接する, 344
 __に福音を教える, 331-332
 悔い改めるために必要, 69-76, 398
 指導者は__であるべき, 285-287
 ジョセフ・スミスは__であった, 7, 69-71
 聖徒は__であるべき, 320

こ

高価な真珠, xviii, xx, 12, 64-66, 208,
 444-447。「聖文」の項も参照
 公正, 神の完全な, 404-405, 407-408,
 471-472

幸福

義は__になるために必要, 213
 肉体は__になるために必要, 211-213
 コールズ, エルピラ, 451
 コールズビル (ニューヨーク州)
 コールズビル支部の会員のミズーリへ
 の移住, 184
 __でバプテスマのためにダムを造った, 149
 __に支部が設立された, 9
 ジョセフ・スミスは__で説教をした, 149
 メルキゼデク神権が__の近くで回復さ
 れた, xv, 101

コールドウェル郡 (ミズーリ州)

聖徒が迫害を受け__から追われる, xix,
 17, 349-351, 359-362, 369-371,
 442-443

聖徒による__への入植, 16-17, 339, 442
 「ファーウェスト (ミズーリ州)」の項も参照

子供

永遠にわたって__を持つ人, 479-481
 __のときに死ぬ者は永遠の命を得る,
 94-95, 176-178
 __のときに死ぬ者は子供の状態で復活
 する, 176-178
 __はいエス・キリストにより贖われて
 いる, 94-95
 ジョセフ・スミスとエマ・スミスの__
 18-19, 171-173
 ジョセフ・スミスの__に対する愛,
 240-246, 429, 431, 518-519

バプテスマは必要ない, 94-95
 両親は__を愛すべきである, 240-246,
 486-489

両親を敬う, 483-485

子供時代, ジョセフ・スミスの, xiv, 2-
 4, 27-28, 37

コマース (イリノイ州)

__への移住, xx, 18, 323, 379, 391
 聖徒は__で病気になった, 379-382,
 429-431

「ノーブー (イリノイ州)」の項も参照

小麦と毒麦のたとえ, 299-301

小屋, ジョセフ・スミスが建てた, 429

コルネリオ, 97, 110

コレラ

シオンの陣営における__, 289-290
 ジョセフ・スミスとハイラム・スミス
 は__から癒された, 486-488

コロンビア (ミズーリ州), xix, 18, 371

さ

最後の神権時代。「時満ちる時代の神権時
代」の項を参照

最初の示現

__の証は欠くことができない, 545-547
 __の後の迫害, 33-34
 __を通じて得られる神の知識, 5, 38
 真理の探究から__に導かれた, 3-5,
 28-31, 438

天の御父とイエス・キリストが御姿を
 現された, xiv, 5, 31-32, 38, 438

最も大いなる出来事, 545-547

才能を伸ばす, 354-355

再臨

小麦と毒麦のたとえ, 298-300
 最後の神権時代は__への備え, 510
 裁き, 聖徒は逃れられない, 253
 従順は__への備え, 254-256
 __に関する啓示, 249-250
 __の時期, 253-254
 __のしるし, 251-253
 __に先立つ苦難, 249-253
 __の前にエリヤが訪れる, 313
 __の前にエルサレムが再建される,
 188-189, 252
 __の前に会議が開かれる, 104
 __の前に虹が取り去られる, 252
 __への備え, 254-256
 人の子のしるし, 252-253

サスケハナ川, xv, 7-8, 89, 101

サタン

神の知恵は__より偉大である, 62-63
 __には肉体がない, 211-213
 __の王国の滅亡, 234, 257

__は異言で語る, 384
 __は教会の発展を止めることはできない, 142-143, 301, 363-364
 __はジョセフ・スミスを滅ぼそうとした, 31-32
 __は聖徒を迫害する, 15, 152, 371-373
 __はだます, 72
 __は鳩のしるしをもって来ることができない, 81
 __を識別する, 386
 前世における__, 209
 知識がなければ, わたしたちは__のようになる, 265-266
 背教は__に導く, 320-324
 わたしたちが許さない限り, __には何の力もない, 213-214
 「地獄」の項も参照
 三人の証人, xvi, 125-127, 301-303

し

死

義人は死後栄光のうちに出て来る, 174-175
 子供は復活後に成長する, 176-178
 __に関するジョセフ・スミスの経験, 171-173, 175
 __に直面するときに神を信頼する, 178-180
 __の後で愛する者たちに会う, 174-176
 すべての人は__への備えをすべきである, 176
 葬儀でのジョセフ・スミスの話, 174-180
 「殉教」の項も参照
 慈愛。「愛」の項を参照
 シオン
 アメリカ大陸における, 188-190, 445
 __に対する会員の責任, 143-144, 150, 186-188
 __は贖われる, 185-186
 __を建設する, 183-188, 512-513
 ミズーリ州ジャクソン郡における, xvii, 11, 15-16, 150, 183-186, 239
 「シオンの山において救う者」の項も参照
 シオンの陣営
 __における指導者の訓練, 16, 283, 287-290
 __の解散, xviii, 283
 __の行軍, xviii, 16, 281-283, 287-290
 __の中でのジョセフとハイラムの癒し, 486-488
 __はミズーリ州の聖徒へ必要な物資を届けた, xviii, 450
 シオンの山において救う者, 409, 472-474。「死者の救い」「死者のためのバプテスマ」の項も参照

地獄

__に投げ落とされる者, 223-224
 __の罰の定め, 91, 223-224
 __は教会や聖徒に打ち勝つことはない, 139, 153, 317, 363-366, 531
 亡くなった子供は__に行かない, 94-95
 「サタン」の項も参照
 支持する, 教会の指導者を, 199-200, 318-320, 324, 520-521
 死者の救い
 アルビン・スミスの死と__, 401-403
 イエス・キリストは__を可能にした, 405-407
 イエス・キリストは霊たちを組織された, 405-406, 408-409, 474
 エリヤの使命と__, 472-477
 義務, 408-409, 471-472, 475-477
 シオンの山において救う者, 409, 472-474
 __における神の公正, 404-405, 407-408, 471-472
 ジョセフ・スミスは__について発表した, xx, 20, 403, 472
 長い時間を必要とする, 470-471
 結び固めの力と__, 310-312
 わたしたちの死者なしには, わたしたちも完全な者とされない, 476-477
 「死者のためのバプテスマ」「結び固めの力」の項も参照
 死者のためのバプテスマ
 固いつながり, 476-477
 __について発表する, xx, 20, 403, 472
 __の義務と特権, 408-409, 471-472
 __の記録を付ける, 470
 __のために作られた木製のフォント, xx, 21, 469-470
 __は最初川で行われた, 20-21, 469
 __は神殿で行われた, 417-418, 474
 __は結び固めの鍵によって可能になる, 310
 長い時間がかかる, 470
 「死者の救い」の項も参照
 七十人定員会, xviii, 12, 16, 141, 283
 叱責, 預言者による, 526-525
 使徒, 十二使徒定員会
 __によるイングランドへの伝道, 14, 327-329
 __の一致, 141
 __の集会, 殉教後における, 541
 __の責任, 141
 __の組織, xviii, 12, 16, 283
 ジョセフ・スミスの死後における教会の管理, 541
 ジョセフ・スミスは__に神権の鍵を与えた, xxi, 22, 141, 529, 532-535

指導者。「教会の指導者」の項を参照

使命

ジョセフ・スミスは地上の__を果した、536-538

ジョセフ・スミスの__感、520-525

預言者は__を果たす、522-523

ジャクソン郡 (ミズーリ州)

シオンに指定される、xvii, 11, 183-185, 239

シオンの陣営は__へ行軍した、xviii, 15-16, 281-283, 287-290

聖徒が__に移住した、15, 184, 441

聖徒が迫害を受け__を追われた、xviii, 15, 184-186, 281-283, 339, 442

宣教師が__で教えた、150

「インディペンデンス (ミズーリ州)」

の項も参照

シャロン (バーモント州)、xiv, 2, 437

自由、礼拝の、344-346, 445

集合

__は最後の神権時代に必要、513

神殿建設のための__、416-417

ミズーリ州ジャクソン郡への__、11, 183-186

「イスラエルの回復」「ジャクソン郡 (ミズーリ州)」の項も参照

従順

イエス・キリストの__の模範、168

戒めへの__、161-163

キリストのような特質と__352-354

啓示と__、132-133

再臨と__、254-256

__の欠如は背教を招く、318-320

__は一致を得させる、275-277

__は神に対する理解を得させる、162-163

__は義の冠を得させる、164-168, 355-356

__は昇栄を得させる、163-164, 210-211

__は知識の宝を得させる、263

__は日の栄えの安息を得させる、163-164

__を通してイエス・キリストと共同の相続人となる、52-53

ジョセフ・スミスの規則、161

ジョセフ・スミスは__を学んだ、62-63, 69-71

試練における__、232-233

聖文と__、66

選択の自由と__213-214

知識と__263, 266

パウロの__の模範、165-166

霊的な賜物と__、118

十二使徒。「使徒、十二使徒定員会」の項を参照

十部族、188, 444-445

什分の一、ノーブー神殿のための、274-275
祝福師

教会の__、xviii

伝道者とは__である、139

手術、ジョセフ・スミスの、xiv, 2

殉教、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの、xxi, 23-24, 460, 530, 534-538

昇栄。「救い」「日の栄えの王国」の項を参照

正直、268, 331-332, 353, 445

証人。「三人の証人」「八人の証人」の項を参照

女性。「妻」「扶助協会」の項を参照

ジョセフ・スミス中將、xx

ジョセフ・スミス訳聖書

エマ・スミスは__の原稿を携えて行った、369

教義と聖約と__、208, 217-219

__のための働き、xvi, xviii, 12, 207-208, 250

__の必要性、207-208

__は救いの計画について教えている、207-208

パン種のたとえについて、301-303

「聖文」の項も参照

しるし、再臨の、251-253

しるし、人の子の、252-253

試練

再臨の前の__、249-253

__によって試みられる、230-231

__のときに神が支えてくださる、231-232, 352, 361, 364-367, 375-376

__のときに神を信頼する、234-235

__のときに感謝する、232-234

__のときに元気を出す、352

__のときに従順になる、232-233

__のときに信仰と勇気を持つ、178-179, 230-231, 235, 352, 371, 373-376

__のときに聖霊が慰めてくださる、97, 366-367

__のときの友情、461-463

__は東の間にすぎない、363

__はわたしたちの益となる、231-232, 366

聖徒は__を逃れられない、252-253

「迫害」の項も参照

新エルサレム、188-190。「エルサレム」の項も参照

神会

__には御三方がおられる、41-42

__は一致しておられる、42

父なる神が__を管理しておられる、42

神権。「アロン神権」「律法に基づく管理者」「メルキゼデク神権」の項を参照

神権定員会の設立, 13

神権の鍵

アダムは最初に__を授かった, 104, 107

最後の神権時代にすべての__が回復された, 414, 510

ジョセフ・スミスは使徒にすべての__を与えた, xxi, 22, 141, 529, 531-534

ジョセフ・スミスは__を持っている, 103, 511-512, 537, 543-544, 553

__はカートランド神殿で回復された, xix, 13-14, 103, 308-313, 473, 553

__は古代の神権者によって回復された, 78-80, 101-106

メルキゼデク神権は__を持っている, 108-109

信仰

イエス・キリストを信じる__, 48-49, 154, 444

癒される__, 382

教会員となる__, 154

__と祈り, 131-132

__と霊的な賜物, 118

__は神の御言葉を聞くことから得られる, 385

__をもって試練に耐える, 178-179, 230-231, 235, 352, 371, 373-376

日の栄えの王国を受け継ぐ__, 211, 220-222, 355-356

信仰箇条, 437, 444-446

信仰の自由, 344-346

親切の偉大な力, 428

神託, 生ける, 198-199。「教会の大管長」

「預言者」の項も参照

神殿

ジョセフ・スミスは__に焦点を当てた, 413

__において受ける神の偉大な祝福, 419-420

__において行われる死者のためのバプテスマ, 417-418, 474

__において授けられるエンダウメント, 414-419, 474, 507-509

__においてメルキゼデク神権の完全を受ける, 414-419

__の儀式は救いに必要, 416-419

__を建設するために民を集めることが必要, 416-417

聖徒は__を建設するよう命じられた, 415-416

「神殿のエンダウメント」の項も参照

神殿のエンダウメント

神の前に行く備え, 414, 416-419

ジョセフ・スミスは__を執行した, xxi, 22, 413-414

神殿における__, 414-419, 474, 507-509

__はわたしたちを光の中に導く, 414

すべての聖徒は__を受けることができる, 414

ブリガム・ヤングは__を執行した, 22, 414, 509

神殿の建設, 設計

インディペンデンス (ミズーリ州), __ 予定地, 11, 184, 413

ファーウェスト (ミズーリ州), __ 予定地, 16, 339, 413

「カートランド神殿」「ノーブー神殿」の項も参照

真理

儀式を通じて__を学ぶ, 419

ジョセフ・スミスは__を教えた, 284

__の知識を得る, 266-268

すべての__を受け入れる, 264-265

種まきのたとえと__, 296-298

迫害は__を留めることはできない, 142, 444

福音はすべての__を包含する, 264-265

真理の旗, 142, 444

す

救い

__とは敵に打ち勝つこと, 212

__について学ぶことは大きな仕事, 268

__には啓示が必要, 195

__には従順が必要, 163-164, 210-211

__には試練における忠実さが必要, 230-231

__には神殿の儀式が必要, 416-419

__には選択の自由が必要, 213-214

__には知識が必要, 211-213, 265-266

__には肉体が必要, 211-213

__にはバプテスマが必要, 91-92, 220-222

「救いの計画」「日の栄えの王国」の項も参照

救いの計画

英知の永遠性, 209-211

神の業と栄光, 208

__には選択の自由が必要, 213-214

__には肉体が必要, 211-213

__の目的, 208-214

__は神権を通じて示された, 108

__は生者と死者を救う, 403-409, 471-472

前世で__が示された, 209

「救い」の項も参照

救う者, シオンの山において, 409, 472-474

- ステークにおけるシオンの建設, 186-188。「シオン」の項も参照
 ストール, ジョサイア, 6
 スナイダー, ジョン, 327
 スノー, エライザ・R, 449, 451
 スミス, アグネス, 178
 スミス, アレクサンダー, 19, 173, 242
 スミス, アルビン(ジョセフ・スミスの兄), 2, 4, 173, 178, 401-403, 485
 スミス, アルビン(ジョセフ・スミスの息子), 18, 69, 171
 スミス, アサエル, 45
 スミス, ウィリアム, 37, 74, 395-396
 スミス, エフライム, 2, 173
 スミス, エマ
 カートランドに移り住んだ, 11, 159-160, 171
 金版と__, 59
 最初の子供の死, 18, 69, 171
 ジョセフからの手紙, 179, 240-246, 333-334, 351, 360, 531
 ジョセフ・スミス訳と__, 369
 ジョセフは__の赦しを請うた, 116
 ジョセフへの手紙, 18
 __に関するジョセフの日記, 461
 __の結婚, xv, 6-7, 59
 __の子供, 18-19, 171-173
 __のパプテスマ, 149
 __の奉仕, 273, 379, 429-432, 450
 __はクインシーでジョセフに会った, 371
 __はジョセフがタールを塗られ, 羽根を付けられたのを見た, 229
 __はノーブー付近にいるジョセフに会いに行った, 459
 __は扶助協会の会長であった, xxi, 450-451, 453-454
 __は翻訳の筆記者であった, 115
 __はミシシッピ川を歩いて渡った, 369-370
 __はリバティの監獄に閉じ込められているジョセフに会いに行った, 360
 双子を養子にしたことと, 息子の死, 18, 25, 159, 171, 227-229
 スミス, サディアス, 19, 159, 171
 スミス, サミュエル, 79, 90, 137
 スミス, ジュリア・マードック, 19, 25, 171, 173, 240-242, 249
 スミス, ジョージ・A, 235, 332, 466, 561-563
 スミス, ジョセフ, 生涯の概観(年代順)
 __の先祖, 1-2
 祖父が__について預言した, 45
 __の両親, 37
 __の誕生, xiv, 2, 437
 __の子供時代, xiv, 2-4, 27-28, 37
 足の手術, xiv, 2
 バルマイラに移り住んだ, xiv, 2, 27, 437-438
 __の最初の示現, xiv, 3-5, 28-34, 38, 438
 モロナイが__を訪れた, xiv, 5-6, 57-59, 103, 207, 309, 439
 マンチェスターに移り住んだ, xv
 ハーモニーでの働き, 6, 59
 __の結婚, xv, 6-7, 59
 __は金版を受けた, xv, 6-7, 58-60, 439-440
 モルモン書の翻訳, xv-xvi, 7-8, 59, 79, 115-117, 135, 150
 116ページの原稿が失われた, xv, 7, 62-63, 69-71
 __はアロン神権を受けた, xv, 7-8, 78-80, 85, 89
 __のパプテスマ, xv, 7-8, 79-80, 89-90
 メルキゼデク神権を受けた, xv, 8, 80, 101-103, 497
 三人の証人と__, xvi, 125-127
 モルモン書の印刷, xvi, 8, 135
 教会の組織, xvi, 8, 137-140, 441
 ジョセフ・スミス訳と__, xvi, xviii, 12, 207-208, 250
 フェイエットに移り住んだ, xvi, 9, 159, 196
 カートランドに到着した, xvii, 11, 159-160, 171
 カートランドにおける啓示, 12-13, 193-194
 ジャクソン郡におけるシオン, xvii, 11, 183-185, 239
 カートランドにおける迫害, 15, 227-229, 239-240, 315-317, 323, 339
 預言者の塾, xvii, 118, 130, 261-263
 知恵の言葉を受けた, 263
 シオンの陣営を導いた, xviii, 16, 281-283, 287-290, 486-488
 エジプトのパピルスの翻訳, xviii, 12
 カートランド神殿の奉獻, xviii-xix, 12-13, 199, 307-308, 419-420
 イングランドへの宣教師の派遣, xix, 14, 327-329
 ファーウェストに移り住んだ, xix, 15-16, 339
 __は『教会歴史』を書き始めた, xix
 民兵がファーウェストへ来た, 339-341
 __はファーウェストで捕らえられた, 17, 335-336, 349-352, 488-489
 __はインディペンデンスで監禁された, 17, 349-351

- __はリッチモンドで監禁された, 17, 351
 __はリバティーの監獄で監禁された,
 xix, 17-18, 359-366, 369
 __はミズーリ州から逃れた, xix, 18, 371
 __はクインシーに到着した, xx, 18,
 369-371
 コマースの建設, xx, 18, 323, 379, 391
 コマースにおける癒しの祝福, 379-382
 __はワシントンDCを訪れた, xx, 97, 100
 __は死者のためのバプテスマについて
 発表した, xx, 20, 403, 472
 ノーブー神殿の建設, xx, 20-22,
 274-275, 278, 413-416
 __はノーブー部隊の司令官であった, xx, 435
 __の赤レンガ造りの店, 423-425, 432
 『タイムズ・アンド・シーズンズ』の編
 集者, xx, 435-437, 559, 563
 ウェントワース書簡を書いた, xx,
 437-445
 扶助協会の組織, xxi, 449-451
 __はエンダウメントを執行した, xxi,
 22, 413-414, 509
 ノーブーの市長, xxi, 20, 435
 ノーブーにおける迫害, 22-24, 459,
 517-519, 522-523, 529-531
 合衆国大統領, 候補者, xxi, 20
 使徒に鍵を与えた, xxi, 22, 141, 529,
 531-534
 『ノーブーエクスポジター』の破壊, 529
 西部へ逃れる, 530
 カーセージの監獄への監禁, 22, 336,
 460, 530
 __の殉教, xxi, 23-24, 460-461, 530,
 534-538
 __の埋葬, xxi
 スミス, ジョセフ, 全般
 啓示を受ける過程, 193, 249-250, 263
 __に明らかにされたエライアスの霊,
 85-86, 544
 __に対する訴訟, 15, 239-240
 __の教え, 284-285, 293-294, 333-
 336, 493-494, 499-504, 520-521
 __の外見, 27, 497-499
 __の家族の死, 18-19, 25, 69, 171-
 173, 175, 227-229
 __の教育, 2-3, 27-28, 261-263,
 547-550
 __の子供たち, 18-19, 171-173
 __の説教, 20, 493-494, 558
 __の地上での使命, 536-538
 __の伝道活動, 14, 90, 149-150, 239,
 333-336
 __の人間としての弱さ, 521-522
 __の予任, 511, 543-545
 __は神権の鍵を持った, 103, 509,
 511-512, 537, 543-544, 553
 聖見者, 160, 250, 535, 543, 550
 聖文に対する愛, 3-5, 28-31, 183,
 293-294
 スミス, ジョセフ3世, 18, 173, 242, 249
 スミス, ジョセフ・シニア
 家族の中での救し, 396
 教会の祝福師, xviii
 ジョセフ・スミスへの祝福, 173, 543
 __に対するジョセフ・スミスの愛,
 483-485
 __の癒し, 483
 __の家族, xiv, 2, 24, 27
 __の結婚, 1
 __の死, 173
 __は死ぬ前にアルビン・スミスを見た, 403
 __の職業, 2
 __の信仰上の習慣, 3-4, 37
 __のバプテスマ, 88, 90
 パルマイラに移り住んだ, 2
 スミス, ジョセフ・マードック, 18, 25,
 171, 227-229
 スミス, ジョン・L, 430
 スミス, デビッド, 19, 173
 スミス, ドン・カーロス (ジョセフ・ス
 ミスの弟), 2, 173, 178, 485
 スミス, ドン・カーロス (ジョセフ・ス
 ミスの息子), 19, 173
 スミス, ネイサン (博士), 2
 スミス, ハイラム
 アルビン・スミスのための身代わりの
 バプテスマ, 403
 子供の死, 179
 コマースにおける病, 429-430
 ジョセフ・スミスの__に対する賛辞,
 461, 485-486
 __の家族, 2
 __の殉教, xxi, 23-24, 460-461, 530,
 534-538
 __のバプテスマ, 90
 __の埋葬, xxi
 __はエンダウメントを受けた, 414
 __はカートランド神殿建設のために働
 いた, 271-273
 __は教会の設立者, 137
 __はコレラから癒された, 486-488
 __はノーブー付近にいるジョセフに会
 いに行った, 459
 西部へ逃れる, 530
 リッチモンドにおける監禁, 17, 351
 リバティーの監獄における__, 359-361
 スミス, フレデリック, 19, 173, 242-
 243, 245

スミス, ルイーザ, 18, 159, 171
 スミス, ルーシー, 429, 488-489
 スミス, ルーシー・マック
 最初の示現と__, 32
 三人の証人と__, 127
 __が書いた歴史, 35
 __に対するジョセフ・スミスの愛,
 483-485
 __の家族, xiv, 2, 24, 27
 __の結婚, 1
 __の宗教上の習慣, 3-4, 37
 扶助協会への助言, 450
 息子たちとの別れ, 488-489
 息子たちへの祈り, 486-488

せ

聖見者, ジョセフ・スミス, 160, 250,
 535, 543, 550
 聖餐, 73, 138-139, 382
 誓詞と聖約, 神権の, 109
 聖書
 ジョセフ・スミスは__を愛した, 183,
 293-294
 __の啓示を裏切らない, 66, 373
 __の中の不明瞭な箇所, 207-208
 __を読むことの大切さ, 64-66
 「ジョセフ・スミス訳聖書」「聖文」の
 項も参照
 聖なる森, 4

聖文

ジョセフ・スミスの__に関する教え,
 293-294
 ジョセフ・スミスの__への愛, 3-5,
 28-31, 183, 293-294
 __に従う, 66
 __を研究する, 64-66
 末日の__の価値
 「教義と聖約」「高価な真珠」「ジョセ
 フ・スミス訳聖書」「聖書」「モルモ
 ン書」の項も参照

聖霊

啓示者, 132-133
 神会の御一方, 41-42
 鳩のしるし, 81
 霊の御方, 41-42
 聖霊の賜物
 按手による__, 95-97
 教会員になるために__が必要, 154
 教会が組織されたときに__を得た, 90
 考慮すべきことはすべて__の中に含まれる, 97
 聖霊と__の違い, 97
 __とバプテスマ, 90, 95-97
 __はイエス・キリストについて証する,
 97-98

__は逆境のときに慰めを与える, 97,
 366-367
 __はすべてのことを理解する, 132
 __は常に善へと導く, 98, 132-133
 __に導かれて福音を教える, 332-333
 __による霊的な賜物, 97-98, 118-
 123, 383-384
 __を通して得る啓示, 132-133
 __を通して得る知恵, 285-287
 __を通して得る知識, 132, 268
 背教により__が失われる, 320-324
 日の栄えの王国を受け継ぐために__が
 必要, 220-222
 奉仕によって__を得る, 427

世界に広がる教会, 105-106, 137, 142-
 143, 155-156, 301-303, 327-329,
 363-364, 444

説教, ジョセフ・スミスの, 20, 493-
 494, 558

前世

イエス・キリストは__で選ばれた, 209
 サタンは__で逆らった, 209
 ジョセフ・スミスは__で聖任された,
 511, 543-545
 __で定められた律法, 164
 __で救いの計画が示された, 209
 __で開かれた天上の会議, 164, 209,
 511, 543-545
 __で召しに任命される, 511

先祖, ジョセフ・スミスの, 1-2, 544
 選択の自由

神に従うために__を用いる, 213-214
 すべての人に__が与えられる, 346
 人が許さなければ, サタンには力がない,
 213-214

そ

葬儀での説教, ジョセフ・スミスによる,
 174-180

訴訟事件, ジョセフ・スミスの, 15,
 239-240

備える, 再臨に, 254-256

た

タールと羽根, ジョセフ・スミスへの迫
 害, 227-229

大管長会

__の責任, 140-141
 __の組織, xvii, 12
 「教会の大管長」の項も参照
 大神権の大管長, xvii
 大統領, 合衆国の
 ジョセフ・スミスは__候補者となった,
 xxi, 20

ジョセフ・スミスは__を訪れた, xx,
 97, 100
 タイトルページ, モルモン書の, 60-62,
 115, 135-36
 『タイムズ・アンド・シーズンズ』, xx,
 435-437, 559, 563
 タイラー, ダニエル, 323
 たとえ
 イエスは__で教えられた, 295-296
 海に網を下す__, 302-303
 王の息子の婚宴の__, 165
 からし種の__, 105-106, 143, 301
 小麦と毒麦の__, 298-300
 種まきの__, 296-298
 タラントの__, 354
 パン種の__, 301-303
 ぶどうの木と枝の__, 163
 マタイ13章の__, 295-303
 多妻結婚, xii, 22
 助けの必要な人。「貧しい人や助けの必要
 人」の項を参照
 戦い, 再臨前の, 249-253
 戦い, 天での。「前世」の項を参照
 タナー, ジョン, 273
 種まきのたとえ, 296-298
 タヒチにおいて福音が教えられた, 329
 賜物, 霊的な。「霊的な賜物」の項を参照
 誕生, ジョセフ・スミスの, xiv, 2,
 437-438

ち

知恵の言葉, 263
 地球
 __はウリムとトンミムである, 258
 __は日の栄えの冠を受ける, 258
 知識
 学問と祈りが__に導く, 266-268
 神の__は偉大である, 265-266
 神は__を注がれる, 363
 ジョセフ・スミスは__を愛した, 261-
 263
 少しずつ, 268
 聖霊は__を得るために必要, 132, 268
 __は救いに必要, 211-213, 265-266
 __を得る, 132, 261-268, 333, 363, 419
 福音の儀式が__に導く, 419
 「英知」の項も参照
 地図, 3, 10
 父親。「親」の項を参照
 父なる神
 英知は__によって創造されていない,
 209-211
 悔い改めを通じて__に近づく, 72-73
 骨肉の体, 41-42

最初の示現, xiv, 5, 31-32, 38, 438
 死者の救いに表れている__の哀れみ,
 404-405, 407-408, 471-472
 ジョセフ・スミスの__への信仰, 37-38
 全人類の父, 39, 404
 創造の前に霊を組織された, 104
 __が定められた律法, 163-164, 210
 __に祈り啓示を受ける, 40-41, 128-
 133, 197-198
 __の愛, 39, 330-331, 426
 __の憐れみ, 39, 71, 75-76, 404
 __の公正さ, 404-405, 407-408,
 471-472
 __の性質, 39-41
 __の知識と力, 265-266
 __の御心に飲み込まれる, 75
 __の業と栄光, 208
 __は永遠のうちに住んでおられる, 475
 __は昇栄した御方である, 40
 __は試練のときに支えてくださる,
 178-180, 231-232, 352, 361,
 364-366, 375-376
 __は神会を管理しておられる, 41-42
 __は神権を通じて目的を明らかにされ
 る, 108-109
 __は聖文を通して語られる, 66
 常に義を行われる, 178-179
 罪の赦し, 75-76, 397-399, 428-429
 友, 243
 「神会」の項も参照

腸チフス, ジョセフ・スミスは感染した,
 xiv, 2
 長老に, ジョセフ・スミスは聖任された, 138
 長老の塾, 293-294

つ

月の栄えの王国, 222-223
 妻, 482-483。「結婚, 永遠の」の項も参
 照
 罪。「悔い改め」「サタン」「赦されない罪」
 「赦し」の項を参照

て

定員会, 七十人の。「七十人定員会」の項
 を参照
 定員会, 十二使徒の。「使徒, 十二使徒定
 員会」の項を参照
 定員会, 神権定員会の組織, 13
 デイビーズ郡 (ミズーリ州), 442
 テーラー, ジョン
 カーセージの監獄における__, 24, 460,
 530, 534-535
 扶助協会の組織における__, 449
 『タイムズ・アンド・シーズンズ』と__, 435

テラー、レオノラ・キャノン、178
 手紙
 ジョセフ・スミスからエマ・スミスへの__、179、240-246、333-334、351、360、531
 リバティーの監獄からのジョセフ・スミスの__、xix、156、230、241-243、245、360-366、374-376、463-466
 天使長。「アダム」の項を参照
 天上の会議、164、209、511、543-545。
 「前世」の項も参照
 伝道
 証をする機会、333-336
 イングランドへの__、14、327-329
 悔い改めを教える、153-154
 謙遜に教える、331-332
 小麦と毒麦のたとえ、298-300
 ジョセフ・スミスの__14、90、149-150、239、333-336
 世界に広がる教会、106、137、142-143、155-156、301-303、329、363-364、444
 種まきのたとえ、296-298
 __には愛が必要、330-331
 __のための異言の賜物、382-384
 __を行うための資格、330-331
 バプテスマのために準備したダムが破壊される、149
 御霊によって教える、332-333
 最も大切な義務、330-331
 福音は世に光をもたらす、151-153
 レーマン人への__、xvii、9、150、450
 天の御父。「父なる神」の項を参照
 と
 ドイツでのオーソン・ハイドの伝道、329
 時満ちる時代。「時満ちる時代の神権時代」の項を参照
 時満ちる時代の神権時代
 完全な福音が回復される、509-513
 ジョセフ・スミスは__の鍵を持つ、103、509、511-512、537、543-544、553
 すべての聖徒は__に貢献する、512-514
 すべての物事が一つに集められる、105
 __において集合が必要、513
 __は再臨の備えをする、510
 毒麦と小麦のたとえ、298-300
 毒を盛られた、ジョセフ・スミスは、240
 トンプソン、マーシー・フィールディング、360、414
 な
 ナイチンゲール、アグネスとヘンリー、423-425
 ナイト、ジョセフ・シニア、115-116、149、462-463

ナイト、ジョセフ・ジュニア、149
 ナイト、ポリー、149、184
 南北戦争、249-250
 に
 ニーフエイの版、63
 肉体
 幸福になるために必要、211-213
 邪悪な霊には__がない、211-213
 父なる神とイエス・キリストは__をお持ちである、41-42
 虹、252
 偽預言者、200-203
 日記、ジョセフ・スミスの、459、461-463
 ニューエル・K・ホイットニーの店
 ジョセフ・スミスが__に移り住んだ、249
 ジョセフ・スミスが__に到着した、158-160
 __におけるジョセフ・スミスの翻訳、250
 __における預言者の塾、261
 「ホイットニー、ニューエル・K」の項も参照
 ニューヨーク市、xv、239、241、333-334
 ニューヨーク州。「コルズビル（ニューヨーク州）」「フェイエット（ニューヨーク州）」「ニューヨーク市」「バルマイラ（ニューヨーク州）」「マンチェスター（ニューヨーク州）」の項を参照
 の
 ノア、93-94、104、200、252、311、405、408
 ノープー（イリノイ州）
 ジョセフ・スミスが名づけた、xx、18、391
 __における文化・文明の発達、20、423、435、443-444
 __の建設、xx、18、379、391、423-425、429-432、443-444
 __の市長、xxi、20、435
 聖徒が__を離れるという預言、517-519
 「コマース（イリノイ州）」「ノープー神殿」の項も参照
 『ノープーエクスポジター』、529
 ノープー市長、xxi、20、435
 ノープー女性扶助協会、449-451。「扶助協会」の項も参照
 ノープー神殿
 新しい__の建設、509
 最初の__の破壊、509
 __において行われたエンダウメント、xxi、22、413-414、509
 __において行われた死者のためのバプテスマ、xx、21、469-470
 __の建設、xx、20-22、274-275、279、413-416、507-509

__の写真と絵, 21, 412, 468, 508
 __を建設するために什分の一が用いられた, 274-275
 ノープー部隊, xx, 435

は

バーストウ, ジョージ, 437
 バージェス, マーガレット・マッキンタイヤー, 519
 ハーモニー (ペンシルベニア州)
 アロン神権が__の近くで回復した, xv, 7-8, 78-80, 89
 ジョセフ・スミスとエマ・スミスは__に住んだ, xv-xvi, 6-7, 9, 59, 159
 ジョセフ・スミスは__で翻訳をした, xv, 7, 59, 71, 79, 115-116
 ジョセフとエマの息子が__で亡くなった, 171
 メルキゼデク神権が__の近くで回復した, xv, 7-8, 101
 バーモント州。「シャロン (バーモント州)」の項を参照
 バーンズ, ロレンゾ・D, 175
 背教
 イエス・キリストの死後の__, 27
 カートランドにおける__, 315-317
 サタンは人を__へと導く, 321, 324
 指導者に従うことにより__を避けられる, 324
 __の結果, 320-324
 __へと導く行動と態度, 318-320
 ハイド, オーソン, 327-333
 ハイラム (オハイオ州)
 ジョセフ・スミスは__に住んだ, 207, 217, 227, 249
 __で開かれた大会, 193
 __における救い主の示現, 45-47
 「カートランド (オハイオ州)」の項も参照
 パウロ, 33-34, 165-166
 迫害
 カートランドでのジョセフ・スミスに対する__, 15, 227-229, 239-240, 315-317, 323, 339
 カートランドの聖徒に対する__, xix, 15, 339
 教会は__に勝利する, 142-143, 301-302, 363-364, 444
 コールドウェル郡の聖徒に対する__, xix, 17-18, 349-351, 359-362, 369-371, 442-443
 最初の示現の後のジョセフ・スミスに対する__, 33-34
 サタンは聖徒を__する, 15, 152-153, 371-373

ジャクソン郡の聖徒に対する__, xviii, 15, 184-186, 281-283, 339, 442
 聖徒は常に__に直面する, 230-231, 371-373
 ノープーでのジョセフ・スミスに対する__, 22-24, 459, 517-519, 522-223, 529-531
 背教が教会の__を招いた, 320-324
 __の時における感謝, 232-234
 __の時における信仰と勇気, 230-231, 235, 352, 371, 373-376
 __の時に神が支えてくださる, 231-232, 352, 361, 364-367, 375-376
 __の時に万事がともに働いて益となる, 231-232, 366
 モルモン書が__の原因となった, 183, 373
 預言者は__を受ける, 522-523
 「試練」の項も参照
 はしがき, 教義と聖約の, 193-194
 八人の証人, xvi
 罰の定め。「地獄」の項を参照
 鳩のしるし, 81
 母親。「親」の項を参照
 パピルス, エジプトの, xviii, 12
 バプテスマ
 イエス・キリストの__81-85, 94
 イエス・キリストの御名による__, 91-94
 教会員になるために__を受ける, 154
 古代の聖徒は__を受けた, 92-94
 子供には__は必要ない, 94-95
 昇栄するために__を受ける, 91-92, 220-222
 ジョセフ・スミスとオリバー・カウダリの__, xv, 7-8, 79-80, 89-90
 ジョセフ・スミス・シニアの__88, 90
 ハイラム・スミスとサミュエル・スミスの__, 90
 __と聖霊の賜物, 90, 95-97
 __のためのダムが壊された, 149
 水に沈める__91, 95, 444
 バプテスマ, 死者のための。「死者の救い」
 「死者のためのバプテスマ」の項を参照
 バプテスマのヨハネ
 エライアスの霊, 85-86
 __はアロン神権を授けた, 7-8, 78-80, 85, 89
 __はアロン神権を持っていた, 84-85
 __はジョセフ・スミスにバプテスマを指示した, 89
 __は救い主にバプテスマを施した, 81-85, 94
 __は救い主のために道を備えた, 81

__は鳩のしるしを見た, 81
 __は最も偉大な預言者の一人, 81-82
 __は律法に基づく管理者であった,
 80-85
 ハリス, プリザーブド, 62
 ハリス, マーティン
 三人の証人の一人, xvi, 125-127
 農場を担保にした, 8, 135
 ニューヨーク市に行った, xv
 116ページを紛失した, xv, 7, 62-63,
 69-71
 翻訳の筆者, xv, 7, 59
 バルマイラ (ニューヨーク州)
 ジョセフ・スミスは__に住んだ, xiv,
 2-6, 27-28, 57-59, 437-438
 __におけるモルモン書の印刷, xvi, 8, 135
 __の地図, 3
 版, 金の。「金版」の項を参照
 版, リーハイのものとニーファイのもの, 63
 ハンクス・ノールトン・F, 329
 ハンコック, モザイヤ・L, 431
 パン種のたとえ, 301-303
 パン・ビューレン, マーティン, xx, 97, 100
 伴侶。「結婚, 永遠の」を参照

ひ

ビーターソン, ザイバ, 150
 筆者, モルモン書の翻訳における
 エマ・スミス, 115
 オリバー・カウドリ, xv, 7-8, 79, 116
 マーティン・ハリス, xv, 7, 59

日の栄えの王国
 永遠の結婚は__に必要, 221, 479-481
 神の律法は__に備える, 163-164
 義にかなった女性が__で受ける報い, 454
 子供は__に救われる, 94-95
 昇栄した人々は神々になる, 52, 221-
 222, 481, 531
 神殿は__に備える, 418-419
 バブテスマは__に必要, 220-222
 __で子供を持つ人, 479-481
 __を受け継ぐために忠実に堪え忍ぶ,
 231, 324, 355-356, 531
 __を受け継ぐ人, 154, 211, 220-222
 福音を聞く機会がなかった人, 403
 ビューエル, プレゼンディア・ハンティ
 ントン, 464-465
 病気の癒し。「癒し」の項を参照

ふ

ファーウェスト (ミズーリ州)
 ジョセフ・スミスは__で士官たちに会
 う, 339-341
 ジョセフ・スミスは__に到着する, 16,
 335-336, 349-351, 488-489

聖徒が迫害に遭い__から追われる, xix,
 16-17, 349-351, 359-362, 369-
 371, 442-443
 聖徒が__に移住する, 16, 339, 442-443
 __におけるジョセフ・スミス, xix,
 15-17, 339
 __に神殿が建てられるはずである, 16,
 339, 413
 フィールドディング, ジョセフ, 327
 フィラデルフィア (ペンシルベニア州),
 150, 239
 フェイエット (ニューヨーク州)
 教会は__において組織された, xvi,
 8-9, 137-138, 441
 最初の大会が__で開かれた, 138-139
 ジョセフ・スミスが__で翻訳をした,
 xvi, 8, 116
 ジョセフ・スミスが__に移り住んだ,
 xvi, 9, 159, 196
 __における三人の証人, xvi, 125-127
 __に支部が組織された, 9
 フェルプス, ウィリアム・W, 194, 307,
 397-399
 フォードム, エライジャ, 379-381
 フォレット, キング, 174

福音
 完全な__が回復された, 509-513
 すべての人に宣べ伝える, 151-153
 __はすべての真理を含む, 264-265

福千年, 356-258

扶助協会
 憐れみ, 姉妹が示す, 454-455
 エマ・スミスは__の会長, xxi, 450-
 451, 453-454
 鍵, ジョセフ・スミスが回した, 451
 慈善組織, 451-452
 神権指導者, 支持する, 451
 天使は__の友, 454
 人を救う, 452-453
 __における教え, 452-454
 __の組織, xxi, 449-451

復活
 愛する人と__のときに会う, 174-176
 イエス・キリストが__を可能にされた,
 49-51
 イエス・キリストの__, 49-51
 失ったものは__のときに元どおりにさ
 れる, 51
 英知は__のときにわたしたちとともに
 よみがえる, 266
 義人は__のときに栄光のうちによみが
 える, 174-175
 亡くなった子供は__のときによみがえ
 る, 94-95, 176-178

「贖い」の項も参照
 ぶどうの木と枝のたとえ, 163
 ブラット, アディソン, 329
 ブラット, パーリー・P, 150, 193, 351, 481
 ブランソン, セイモア, 472
 紛失した原稿, モルモン書, xv, 7,
 62-63, 69-71

へ

ヘイル, アイザックとエリザベス, 6-7,
 59
 ヘイル, エマ。「スミス, エマ」の項を参
 照
 平和, すべての人とともに, 339-346
 平和をつくり出す人, 341-344
 ページ, ハイラム, 196-197
 ペーンズビル (オハイオ州), 240
 ベテロ, ヤコブ, ヨハネ
 __は神権の鍵を授かった, 105
 __はメルキゼデク神権を回復した, xv,
 8, 80, 101-103, 497
 ベフニン, アイザック, 323-324
 ヘブライ語, ジョセフ・スミスは研究し
 た, 293

ほ

ホイットニー, エリザベス・アン, 160,
 334, 430, 451
 ホイットニー, ニューエル・K
 ジョセフは__の家に住んだ, 160, 249
 __に関する日記, 459, 461-462
 __の家で祝宴が催された, 464
 __はエンタウメントを受けた, 414
 __はジョセフ・スミスに祝福を与えた, 240
 __はジョセフとともに住んだ, 431
 __はジョセフとともに旅をした, 240,
 333-334
 __はジョセフに会った, 159-160
 「ニューエル・K・ホイットニーの店」
 の項も参照
 ホイットマー, デビッド, 16, 116,
 125-127, 137, 323, 483
 ホイットマー, ピーター・シニア, xvi, 8,
 116, 137
 ホイットマー, ピーター・ジュニア, 137,
 150
 ホイットロック, ハービー, 75
 奉獻, カートランド神殿の, xviii-xix,
 14, 199, 307-308, 419-420
 奉仕。「愛」「貧しい人や助けの必要な人」
 「友情」の項を参照
 ボールドウィン, カレブ, 361
 ホーン, メアリー・イザベラ, 178
 撲滅令, xix, 349, 442

星の栄えの王国, 223-224
 ボッグズ, リルバーン・W, xix, 349,
 361, 363, 442
 ホッジ, エイブラハム・C, 235
 ポンティアック (ミシガン州), 118, 239,
 334, 502-503
 翻訳, 聖書の。「ジョセフ・スミス訳聖書」
 の項を参照
 翻訳の賜物, 115-116
 翻訳, モルモン書の。「モルモン書の翻訳」
 の項を参照

ま

マークス, エフライム, 178
 マードック, ジョセフ。「スミス, ジョセ
 フ・マードック」の項を参照
 マードック, ジョン, 171
 マードック, ジュリア (母親), 171
 マードック, ジュリア (娘)。「スミス,
 ジュリア・マードック」の項を参照
 埋葬, ジョセフ・スミスとハイラム・ス
 ミス, xxi
 マクレー, アレクサンダー, 359, 361
 貧しい人や助けの必要な人
 扶助協会は__の世話をする, 451-452
 __の世話をする義務, 426-427, 464
 __を世話する人に聖霊が注がれる, 427
 「愛」の項も参照
 末日。「再臨」の項を参照
 末日聖徒イエス・キリスト教会
 イエス・キリストは__の頭であられる,
 139-141
 神が__を導いてくださる, 161
 啓示が__を導く, 195-196
 世界中で発展する__106, 137, 142-143,
 155-156, 301-303, 329, 363-364, 444
 大管長会と十二使徒が__を導く, 141
 背教が__への迫害につながる, 320-324
 __に加入するように求められている,
 154
 __に対する会員の責任, 143-144,
 512-515
 __には神殿が必要である, 416
 __の前進を止めることはできない,
 142-144, 301-303, 363-364, 444
 __の組織, xvi, 8-9, 90, 138-141, 441
 __の中的一致, 144, 274-278
 __の名称, xvi, 8
 __は悪から清められる, 72
 __への迫害, 372-373
 マラキ, 308-309
 マラリア, 379, 450
 丸太小屋を造る, 429
 マンションハウス, 18

マンチェスター (ニューヨーク州), xv, 9, 60, 69

み

ミカエル, 天使長。「アダム」の項を参照
 ミシガン州, 118, 239, 334, 502-503
 ミシシッピ川, xx, 18, 369, 379, 391, 459, 469, 509, 530
 ミズーリ川, 363
 ミズーリ州。「ジャクソン郡 (ミズーリ州)」
 「ファーウェスト (ミズーリ州)」の
 項を参照。「インディペンデンス (ミ
 ズーリ州)」 「ガラティン (ミズーリ
 州)」 「クレイ郡 (ミズーリ州)」 「コ
 ルドウェル郡 (ミズーリ州)」 「コ
 ロンビア (ミズーリ州)」 「デイビー
 ズ郡 (ミズーリ州)」 「リッチモンド
 (ミズーリ州)」の項を参照

水に沈めるバプテスマ, 91, 95, 444
 御霊。「啓示」「聖霊の賜物」の項を参照
 ミッチェル, サミュエル・L, xv
 見張りを叱責するジョセフ・スミス, 351-352
 ミラー, ジョージ, 414
 民兵たちがジョセフ・スミスに会った,
 339-341

む

結び固めの力

エリヤが__を回復した, xix, 13-14,
 308-313, 472-477, 510
 家族は__を通して結び固められる,
 311-312
 __の定義, 310-312
 __を通して死者が救われた, 471-477
 「エリヤ」「結婚, 永遠の」「死者の救い」
 の項も参照

め

メジャー (ジョセフ・スミスの犬), 18,
 242, 245
 召しを尊んで大いなるものとする, 110-111
 メルキゼデク神権
 アダム, 最初に授けられた, 104-108
 イエス・キリストは__を持っておられ
 る, 83, 139, 209, 408
 永遠の__, 104-105
 神は__を通じて目的を明らかにされる,
 108-109
 神殿における完全な__, 414-419
 扶助協会は__の下に組織される, 451
 __の回復, xv, 8, 80, 101-103, 497
 __の職を尊んで大いなるものとする,
 110-111
 __の誓詞と聖約, 109
 __の力は無窮の命の力, 108

__の定員会が組織された, 13
 __は神の王国の鍵を持つ, 108-109
 __は完成へと導く, 109
 __は地球の創造の前に備えられた,
 108-109
 __を通してもたらされる啓示, 109,
 140-141, 197
 __を持つ者は神から召されなければな
 らない, 110
 __を持つ者は義にかなっていなければ
 ならない, 107-108
 最も高い権能, 108-109
 預言者は__を持つ, 109
 霊の識別に必要な__, 385-388

も

モーセ

カートランド神殿における__, xix,
 13-14, 103, 308, 553
 主は__に現れられた, 121, 208
 __に与えられた律法, 81, 94, 196-197,
 256-257, 265
 __のバプテスマ, 94
 __はイスラエルを神のもとに導こうと
 した, 105
 __はペテロ, ヤコブ, ヨハネに鍵を回
 復した, 104

モーセの書, xviii, 12, 208

モーリー, アイザック, 171

モルモン。「末日聖徒イエス・キリスト教
 会」の項を参照

モルモン書

失われた116ページ, xv, 7, 62-63,
 69-71
 からし種のたとえと__, 143, 301
 金版, __が書かれた, 6, 57-62, 115,
 439-441
 パン種のたとえと__, 301-303
 マーティン・ハリスは__のために農場
 を担保にした, 8, 135
 __についてのジョセフ・スミスの証,
 60-64
 __の印刷, xvi, 8, 135
 __の啓示を裏切らない, 66, 373
 __の証人, xvi, 125-127, 301-303
 __のタイトルページ, 60-62, 115,
 135-136
 __のために迫害を受ける, 183, 373
 __の内容, 64, 440-441
 __を読むことの大切さ, 64-66
 最も正確な書物, 64
 モロナイがジョセフ・スミスに__を渡
 した, xiv-xv, 5-7, 57-60, 103,
 207, 309, 439-440

モロナイが__の鍵を持つ, 57
 リーハイの版とニーファイの版, 63
 わたしたちの宗教にとって必要, 196
 「ウリムとトンミム」「金版」「モルモン書」の翻訳「モロナイ」の項も参照

モルモン書の翻訳
 神の力による__, 60-63, 115, 150
 ジョセフ・スミスは__の賜物を持っていた, 115-116
 ジョセフ・ナイト・シニアの援助, 115
 ピーター・ホイットマー・シニアの家における__, xvi, 8, 116
 筆記者を務めたエマ・スミス, 115
 筆記者を務めたオリバー・カウドリ, xv, 7-8, 79, 116
 筆記者を務めたマーティン・ハリス, xv, 7, 59
 __に使われたウリムとトンミム, 7, 60, 62, 71, 116, 439
 __の間ジョセフ・スミスは孤独感を覚えた, 125
 __の過程, xv-xvi, 7-8, 60, 115-116, 135
 __を通して, バプテスマについて祈るよう導かれた, 79-80

モロナイ
 __は金版を証人に見せた, xvi, 125-127, 301-303
 __はジョセフ・スミスを訪れ, 金版を与えた, xiv-xv, 5-7, 57-60, 103, 207, 309, 439-440
 __は聖書の言葉を引用した, 207, 309
 __はモルモン書の鍵を持つ, 57
 「モルモン書」の項も参照

モントローズ (アイオワ州), 379

や

約束の聖なる御霊, 220

ヤング, プリガム
 生ける神託について教えた, 198-199
 癒しの日における__, 379
 イリノイ州へ聖徒を導いた, 18, 369
 イングランドへの伝道, 318-319, 329
 教会の大管長, 541
 シオンの陣営における__, 283
 ジョセフ・スミスの示現, 98
 ジョセフ・スミスのように見えた, 541
 ジョセフ・スミスを支持した, 317
 __はエンダウメントを受けた, 22, 414
 __はエンダウメントを執行した, 22, 414, 509
 __と『教会歴史』, 561-563
 __はカートランド神殿建設のために働いた, 273

ゆ

勇気をもって試練と迫害に耐える, 230-231, 235, 352, 371, 373-376

友情
 ウィラード・リチャーズの__, 460-461
 逆境における__, 461-463
 教会員は__を示す, 464-466
 ジョセフ・スミスは__の模範, 459-463, 466
 __は人類家族を一つにする, 463-464
 「愛」の項も参照

ユダ, 321
 指輪を使ってジョセフ・スミスが教えた, 210

赦されない罪, 76, 471

赦し
 イエス・キリストの__392-394
 ジョセフ・スミスとウィリアム・スミスが互いを赦しあう, 395-397
 ジョセフ・スミスはウィリアム・W・フェルプスを赦した, 397-399
 ジョセフ・スミスは背教した会員を赦した, 391-392
 すべての人を赦す, 392-399
 父なる神の__, 75-76, 397-399, 428-429
 人の弱さを赦す, 393-397
 __は一致をもたらす, 393-397
 「憐れみ」の項も参照

よ

預言者
 神はすべてのことを__に明らかにされる, 196-199, 253-254

偽__, 200-203
 メルキゼデク神権を__は持つ, 109
 __に対する拒絶が招く結果, 200-203
 __には教える義務がある, 520-521
 __には叱責する義務がある, 523-525
 __の愛と奉仕, 287, 523-525
 __の使命, 神から与えられる, 522-523
 __は人としての弱さを持つ, 521-522
 __は預言の霊を持つ, 384-385
 __を支持する, 199-200, 318-320, 324, 520-521
 「教会の大管長」の項も参照

預言者の塾, xvii, 118, 130, 261-263
 『預言者の母, ルーシー・スミスの歴史』35
 預言の霊, 195, 384-385
 予任, ジョセフ・スミスの, 511, 543-545

ら

ライマン, アマサ, 351
 ラッセル, アイザック, 327

り

リーチ, ジェームズ, 423-425
 リーハイの版, 63
 リグドン, シドニー
 癒しの日における__, 379-381
 オハイオ州ハイラムにおける__, 227
 カートランド神殿における__, 271, 307
 教義と聖約第76章の示現, 45-47, 217-219
 大管長会の一員としての, xvii, 25, 263
 ミズーリ州における__, xvii, 183-184, 351
 __の改宗, 9, 150
 リチャーズ, ウィラード, 23, 327, 414, 449, 460, 530, 535
 リッチモンド (ミズーリ州), 17, 241-242, 335, 351, 488-389
 律法に基づく管理者, 80-85
 律法。「従順」の項を参照
 リバティーの監獄
 ジョセフ・スミスが__を去った, xix, 18, 371
 ジョセフ・スミスは__において家族へ手紙を書いた, 241-243, 245, 360
 ジョセフ・スミスは__において聖徒へ手紙を書いた, xix, 156, 230, 360-366, 374-376, 463-465
 ジョセフ・スミスは__に勾留された, xix, 17-18, 359-366, 369
 ジョセフ・スミスの信仰は__において試された, 230-231
 ジョセフ・スミスの__に対する感情, 231-232, 366-367
 __の描写, 359-360
 良心の自由, 344-346, 445

る

ルシフェル。「サタン」の項を参照

れ

霊

神は__を組織された, 104
 __の永遠性, 209-211
 __の識別, 385-388
 __の成長, 210
 __は啓示を受ける, 475

霊, エライアスの。「エライアス」の項を参照

霊, エリヤの。「エリヤ」の項を参照

霊, 邪悪な

知識は__に勝る力を与える, 266

__の識別, 385-388

__は教会に反対して戦う, 372-373

__は肉体を持たない, 211-213

霊, 預言の, 195, 384-385

霊的な賜物

異言の__, 382-384

癒しの__, 379-382

ジョセフ・スミスは__を持っていた, 115

信仰と従順は__を得るために必要, 118

聖霊の賜物は__を得るために必要,

97-98, 118-122, 383-384

末日聖徒一人一人が__を持っている, 117

預言の__, 195, 384-385

__は教会において必要, 117-118, 120, 441, 445

__は静かに受ける, 119-123

霊の識別の__, 385-388

霊の獄, 405-406, 408, 474

霊の識別, 385-388

礼拝の自由, 344-346, 445

レイマス (イリノイ州), 479

レーマン人

イスラエルの家の者である__, 61

__への伝道, xvii, 9, 150, 450

レビ神権。「アロン神権」の項を参照

ろ

ロジャーズ, ノア, 329

ロッキー山脈

ジョージ・A・スミスの上ののしかかる, 235

__に関するジョセフ・スミスの預言, 517

ロビンソン, ジョージ・W, 351

わ

ワイト, ライマン, 289, 351, 361

ワシントンD.C., xx, 97, 239

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

